

# アドベンチスト・ホーム

エレン・G・ホワイト  
福音社編集部訳

福 音 社

The  
A D V E N T I S T  
H O M E

Counsels to Seventh-day Adventist  
Families As Set Forth in the Writings  
of  
ELLEN G. WHITE

JAPAN PUBLISHING HOUSE  
1966 Kamikawai-machi, Hodogaya-ku  
Yokohama, Japan

## まえがき

アドベンチスト・ホームは、セブンスデー・アドベンチスト教会の標準とならわしが生活にあらわされ、教えられみとこるです。そこは、また、キリスト教徒である父親や母親が、行って自分たちの家庭のものをキリスト教徒にするようにという任命をキリストから受けたところです。そして、セブンスデー・アドベンチストの両親は、この任命を十分に果たすために、参考になるものをできるだけ多く集めようとしています。

エレン・ジー・ホワイトは、非常にたいせつな勧告を両親にあてて書きました。ホワイト夫人は、家庭の各方面の問題を扱い、今日、多くの両親たちが思いなやんでいる点について、よい勧告を与えました。ホワイト夫人は、なくなる数年前に、「クリスチャンの両親」のために、「母親が子供たちに及ぼす影響」という本を出版したいと願っていました。本書は、ホワイト夫人のそのような

期待に答えるために、編さんされました。

「アドベンチスト・ホーム」は、忙しい両親たちに、家庭の理想的状態がどんなものであるかを示した手びきであるといえましょう。種々の問題に対する解答と、天の神からの知恵のことばが、ここに秘められています。

本書の編さんにあたって、七十年間に著わされたホワイト夫人の著書からの抜粋、特に教会の諸雑誌にのせられた数多くの記事の抜粋が集められました。既刊の著書、パンフレットとして出版された特別のあかし、そして、ホワイト夫人の遺稿のなかからも、数多くの抜粋が用いられました。それぞれの資料の出所は、各章の最後にしるしておきました。異なった時に書かれた異なった資料をまとめて、すじの通った項目に従って配列しますと、ときには、思想の流れや表現が順調にいかないのはやむを得ないことです。それは、編者たちが、資料を選択して、配列し、見出しをつけるということしかしなかったために起こりました。

本書はエレン・ジー・ホワイト著書刊行会本部で編さんされました。わたしの書き物は、「神の民のために、主から与えられた教え」であると、ホワイト夫人は言われました。それで、本書のような書物が編さんされて出版される時には、著書刊行委員に特別に残されたホワイト夫人の指

示に従って行なわれました。

この世界の歴史のなかで、本書が今日ほど熱烈に要求されている時代はありません。また、両親や子供たちが、今日ほどその当面する諸問題について正しい解答を望んでいる時代也没有。家庭が今日ほどの大きな危機にひんしている時ありません。

社会の状態は、その家庭の状態の反映に過ぎません。そして、家庭が変化するとき、社会もまた変わっていくのです。このような時にあたりまして、本刊行会が、このような重要な使命を帯びた「アドベンチスト・ホーム」を世に送り出すことができますことは、大きな喜びであります。

エレン・ジー・ホワイト

著書刊行委員会

# 目次

## 第一部 美しい家庭

第一章 家庭のふんいき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第二章 真の家庭をつくる基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第三章 家庭のかたであるエデンの園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

## 第二部 社会の光

第四章 家庭の広範な影響力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

第五章 力強いクリスチャンのあかし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

## 第三部 生涯の伴侶の選択

第六章 重大な決定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

第七章 真の愛と感情的な愛・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

第八章 一般に行なわれている求愛の習慣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

第九章	禁じられている結婚・・・・・	67
第一〇章	忠告が必要な時・・・・・	57
第四部	成功および不成功の原因	
第一章	早婚、性急な結婚・・・・・	77
第二章	性格上の調和・・・・・	81
第三章	家事教育・・・・・	85
第四章	真の悔い改めが必須条件である・・・・・	92
策五部	結婚の祭壇から	
第一章	厳粛な約束・・・・・	99
第二章	成功ある幸福な協力・・・・・	106
第三章	相互の責任・・・・・	116
第八章	結婚の義務と特権・・・・・	124
第六部	新家庭	
第九章	家はどこにあるべきか・・・・・	135

第二〇章	家族と都会	140
第二一章	いなかの利点	147
第二二章	家の建築と家具の備え付け	155
第七部 神の遺産		
第二三章	祝福である子供	167
第二四章	家族の大きさ	170
第二五章	困窮している子供のめんどろをみる	176
第二六章	子供への親の遺産	182
第八部 成功する家族		
第二七章	神聖な関係	189
第二八章	子供の最初の学校	194
第二九章	他人に委譲できぬ仕事	201
第三〇章	家族の交わり	205
第三一章	神による保証	210



第三二章	心の庭を先に占領する	216
第三三章	天の指導の約束	220

第九部 父親、ハウス・バンド（帯金）

第三四章	父親の地位と責任	229
第三五章	重荷を分け合う	235
第三六章	子供の手	239
第三七章	いてはならない種類の夫	244

第一〇部 母——家庭の女王

第三八章	母親の地位と責任	253
第三九章	母親の感化	263
第四〇章	母親の仕事についての誤った考え	268
第四一章	不完全な母親の型	273
第四二章	母親の健康と外観	277
第四三章	妊娠中の影響	282

第四四章	幼い子供の養育・・・・・・・・・・	288
第四五章	子供を訓練する母親の第一の義務・・・・・・・・	293
第四六章	継母・・・・・・・・・・	300
第四七章	母親へのキリストの励まし・・・・・・・・	304
第一部 子供たちに――幼い協同者たち		
第四八章	子供に対する天の評価・・・・・・・・	311
第四九章	母親の助け手・・・・・・・・	315
第五〇章	両親の受けるべき尊敬・・・・・・・・	326
第五一章	子供たちへの勧告・・・・・・・・	331
第一二部 家庭生活の規準		
第五二章	家庭管理・・・・・・・・	341
第五三章	一致協力・・・・・・・・	349
第五四章	家庭の宗教・・・・・・・・	355
第五五章	道德の標準・・・・・・・・	366

第五十六章 離 婚 ・ ・ ・ ・ ・

第五十七章 信仰を持たない伴侶に対する態度 ・ ・ ・ ・ ・

第五十八章 牧師の家庭 ・ ・ ・ ・ ・

第五十九章 年老いた両親 ・ ・ ・ ・ ・

第一三部 金銭の使用法

第六十章 神 の 家 宰 ・ ・ ・ ・ ・

第六十一章 一家の経済的原則 ・ ・ ・ ・ ・

第六十二章 実行すべき経済 ・ ・ ・ ・ ・

第六十三章 金銭の入手法と使用法を子供に教える ・ ・ ・ ・ ・

第六十四章 実業における誠実さ ・ ・ ・ ・ ・

第六十五章 将来に備える ・ ・ ・ ・ ・

第一四部 心の道を守る

第六十六章 見張らねばならない門 ・ ・ ・ ・ ・

第六十七章 心を誘惑する光景や音 ・ ・ ・ ・ ・

第六八章	読書とその影響	466
------	---------	-----

第一五部 家族の生活を明るくする美德

第六九章	礼儀と親切	479
------	-------	-----

第七〇章	快活さ	490
------	-----	-----

第七一章	話し方	495
------	-----	-----

第七二章	親切なもてなし	509
------	---------	-----

第一六部 家庭とその社会的関係

第七三章	私たちの社会的必要	521
------	-----------	-----

第七四章	安全な交際と危険な交際	525
------	-------------	-----

第七五章	社交的な問題における親の指導	533
------	----------------	-----

第七六章	休日と記念日	540
------	--------	-----

第七七章	クリスマス	547
------	-------	-----

第七八章	家族は伝道の核心である	556
------	-------------	-----

第一七部 休養とレクリエーション

第七九章	レクリエーションは大切なものである・	567
第八〇章	私たちは何をして遊んだらよいか・	573
第八一章	永続的な満足を与えるレクリエーション・	582
第八二章	クリスチャンは自己のレクリエーションをどのように選ぶか・	589
第八三章	快樂の魅力・	600
第八四章	レクリエーションに関する少年の考え方の指導・	606

第一八部 あなたは報いられるであろう

第八五章	現世及び来世における報い・	615
第八六章	エデンの園における生活・	622
第八七章	新天新地の描写・	630

各章のあとにある索引の略号は、それぞれ次の著書の略号です。すでに邦訳されているものは邦訳の題名を使っております。

AA.....The Acts of the Apostles  
ACR..... Australasian Union Conference Record  
BE..... Bible Echo  
CD.....Counsels on Diet and Foods  
CL.....Country Living  
CS.....Counsels on Stewardship  
CT.....Counsels to Teachers, Parents, and Students  
CTB..... Christian Temperance and Bible Hygiene  
Ev..... Evangelism  
EW.....Early Writings  
FE..... Fundamentals of Christian Education  
GC.....The Great Controversy  
GCB..... General Conference Bulletin  
GIL.....Good Health  
GW..... Gospel Workers  
HR.....Health Reformer  
HS.....Historical Sketches of S.D.A. Foreign Mission  
L.....Letter  
MM..... Medical Ministry  
MSS.....Manuscript  
NL..... Notebook Leaflets  
PHJ..... Pacific Health Journal  
PK.....Prophets and Kings  
PP.....Patriarchs and: Prophets  
PR.....Pamphlet. Recreation  
RH.....Review and Herald  
S..... Signs of the Times  
SA.....Solemn Appeal  
ST.....Special Testimonies  
IT..... Testimonies, vol. I (2T etc., for vols. 2-9)  
UL.....Uncoupled Letter  
UM..... Undated Manuscript  
WM..... Welfare Ministry  
YI..... The Youth's Instructor

第一部 美しい家庭





## 第一章

# 家庭のふんいき

家庭はあらゆる活動の中心である

社会は家庭から成り、各家長が作りあげるものである。「命

の泉」は心の中にわき出るのであって、また社会、教会、国家の中心は家庭である（箴言四ノ二三）。

社会の幸福と教会の成功、国家の繁栄は家庭の感化に左右される。 1

将来の社会が向上するか後退するかは、わたしたちの周囲に成長する青年の行儀や道徳で決まる。

青年は受けた教育通りの影響を、また彼らの品性が幼いときから道徳的な習慣を持ち、自制し節制するように形造られていれば、その通りの影響を社会に与える。彼らが教育されずに放任されるなら、そしてその結果わがままになり、食欲や感情を制することができなくなるならば、彼らは将来の社会を形成する場合も同じような影響を与えるのである。彼らがいま交際する友人、いま形成する習慣、いま選ぶとる主義は、将来の社会状態を示すものである。 2

天国の最も美しい型

家庭を、家庭ということばが意味するとおりのものにしなければならぬ。

家庭は地上にある小さな天国、愛情をつとめて押さえるところではなく、育てるところでなければならぬ。

らない。わたしたちの幸福は、お互いに対するこの愛と同情と真の礼儀を育てることにかかっている。 3

天国の最も美しい型は、主のみたまが支配しておられる家庭である。神のみこころが完全に行なわれていれば、夫と妻は互いに尊敬し合い、愛と信頼を深める。 4

**家庭のふんいきの重要性** 父親と母親の心を包んでいるふんいきは、家庭全体にゆきわたり、家庭のすべての部門において感じとられる。 5

家庭のふんいきはほとんど両親が作り出すものである。だから父親と母親が不和であれば、子供たちも同じような気持ちを持つ。やさしい心づかいを示して、家庭のふんいきを楽しいものにしよう。気持ちが互いに離ればなれになり、聖書的なクリスチャンらしくふるまっていなかったなら悔い改めなければならない。恩恵期にあなたが持つ品性は、キリストの再臨のときにあなたが持つ品性と同じものであるからである。天の聖徒になりたいと望むなら、まず地上で聖徒にならない。ならない。あなたが生きていたとき持っていた欠点は、死やよみがえりによつて変わることはない。あなたは家庭や社会で表わしたとおりの性質をもつて墓から出てくるのである。イエスは再臨のときに人の品性をお変えにはならない。品性の改変はいまなされなければならない。わたしたちの毎日の生活は、わたしたちの運命を決定しているのである。 6

**清いふんいきを作る**

どのクリスチャン家庭にも規則がなければならない。そして両親はお互い

に對することば使いや態度において、彼らが子供に期待しているようなひととなりの生きた、尊い模範とならなければならぬ。いつも清潔なことばを語り、クリスチャンらしく礼儀正しくふるまうべきである。青年や子供に自分を尊重し、神と原則に忠実であるように教えよう。神の律法を尊び、それに服従することを教えよう。これらの原則は彼らの生活を支配し、彼らが他人と交わるときに実行される。彼らは清純なふんいき、すなわち、弱い魂を励まして聖潔と天国への道に導くふんいきを作り出す。すべての教訓が品性を高め、高潔にするものとなるようにしよう。そうするとき、天のふみにしるされる記録は、あなたがさばきのときに恥じないものとなる。

このような訓練を受けた子供は……責任ある立場につく準備ができてゐる。また彼らは教えと模範を通して、たえず他人に正しいことをさせるのを助ける。道徳的感受性の鈍っていない者は正しい原則を理解する。そういう人は自己の生来の才能を正しく評価して、からだと精神と道徳の力を最善に利用する。このような魂は誘惑に対しても堅固に防備されている。彼らはたやすくすことのできない城壁に囲まれている。7

神はわたしたちの家族が天の家族の象徴となることを望んでおられる。両親も子供もこのことを日々おぼえて、互いに神の家族の一員としての關係を保たねばならない。そうするとき彼らの生活は、神を愛し神のいましめを守る家族がどんなであるかという実物教訓を世に示すような特徴をもつたものとなる。キリストがあがめられ、キリストの平和と恵みと愛は高価な香水のように家族の中に浸透する。8

父親と母親に重大な責任が負わされている。子供をしつけるときは強固であると同時にやさしく

なければならぬ。また、天使がひきつけられて平和と美しいふんいきを与えるような、きちんとした、正しい家庭をつくるために熱心に努力しなければならぬ。 9

### 家庭を明るく楽しくする

救い主の特性を心にたいせつに覚えることによって、自分と子供らのために家庭を明るく幸福なところにしなければならぬということを決して忘れてはならない。キリストを家庭にお連れすれば、善と悪をわきまえることができるようになる。また、子供がまたまの実を結ぶ義の木となるように彼らを助けることができる。 10

悩みが生ずることがあるが、それは人類が当然受けるものである。たとえ、どんなに暗い日があっても忍耐と感謝と愛によって心に光を持っていなさい。 11

家庭は、質素であっても、いつも明るいことばが語られ、親切な行為が行なわれるところ、いつも礼儀正しさと愛が見られるところとなることができる。 12

家庭の規則を強制的に守らせずに、知恵と愛をもって守らせなければならない。子供は愛の規則によるこんで従う。子供をほめることができる場合にはいつもほめよう、彼らの生活をできるだけ楽しいものにしよう。……愛情を示して心の土をやわらかにほぐし、真理の種のために準備をしておこう。神がこの世に雨や雲だけでなく、美しい晴れやかな日光をも与えて、種を発芽させ花をお咲かせになることを覚えよう。子供はこごとやこらしめばかりでなく、励ましやほめことばや、やさしいことばのこころよい日光をも必要としていることを記憶しよう。 13

家庭内に争いがあつてはならない。「しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温

順であり、あわれみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りが無い。義の実は、平和を造り出す人々たちによって、平和のうちにまかれるものである」(ヤコブ三ノ一七、一八)。わたしたちが家庭に必要としているものはやさしさと平和である。 14

**家族を結びつけるやさしいきずな** 家族のきずなは、地上における何ものよりも親密で最もやさしく、神聖なものである。それは人類の祝福となるために計画された。賢明に事を運び、神をおそれ、責任を十分に考慮して結婚の誓いがなされるならばそれは祝福である。 15

どの家庭も愛の宿るところでなければならぬ。神の使いが止まって、両親や子供の心をやわらげ従順にする力をもって働くところではなければならぬ。 16

わたしたちの家庭をベテル(神の家)にし、わたしたちの心を神の宮としなければならぬ。心に神の愛が保たれているところはどこでも平和と光と喜びがある。愛をもって神のみことばを家族の前にひろげ、「神は何と仰せになつてゐるか」と尋ねなさい。 17

**キリストの臨在によってクリスチャン家庭となる** 愛と同情と思いやりで美化された家庭は、天使が好んで訪問するところであり、神があがめられるところである。注意深く守られたクリスチャン家庭で幼年時代や青年時代に受けた影響は、世の腐敗を防ぐ最も確かな保障である。このようなふんいきを持つ家庭の中で、子供は地上の両親と天の父を愛することを学ぶ。 18

青年たちが世の腐敗した影響を受けることのないように、幼い時から彼らと世との間に堅固なへ

だての壁を設ける必要がある。 19

すべてのクリスチャン家庭は世にクリスチャンの感化の力と優越性を示さなければならぬ。：両親は彼らの家庭が道徳的な悪に汚されることのないよう、それを守る責任があることを認めなければならぬ。 20

家庭は主に聖なるものとならなければならない。：：両親も子供も神と協力するように自己を訓練すべきである。彼らは自分の習慣や行為を神の計画に調和させるべきである。 21

家族関係にはきよめる力がなければならぬ。神の計画に従って築かれ動かされている家庭は、クリスチャン品性を形造るすばらしい助けである。：：両親も子供も、人間の愛を純潔高貴に保つことができる唯一ひとりのお方である神に、共に愛の奉仕をささげるべきである。 22

クリスチャンの家庭で第一になされるべきことは、家庭にみたまが臨在しておられるように、また家族のものがみなおのの十字架を負ってイエスのお導きになる道に従うことができるように気をつけることである。 23

- 1、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三三ページ
- 2、PHJ・一八九〇年六月
- 3、3T・五三九ページ
- 4、S・一九一一年六月二〇日
- 5、MSS・四九・一八九八年
- 6、L・一八〇・一八九一年
- 7、ST・シリーズB一六・四、五ページ
- 8、RH・一八九六年一月一七日
- 9、MSS・一四・一九〇五年
- 10、L・二九・一九〇二年
- 11、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三六二ページ
- 12、RH・一九〇一年七月九日

## 第1部 美しい家庭

13、 C T ・ 一 四 ページ  
14、 M S S ・ 九 ・ 一 八 九 三 年  
15、 ミ ニ ス ト リー ・ オ ブ ・ ヒー リ ン グ ・ 三 二 九 ページ  
16、 L ・ 二 五 ・ 一 九 〇 四 年  
17、 L ・ 二 四 A ・ 一 八 九 六 年  
18、 M S S ・ 一 二 六 ・ 一 九 〇 三 年

23	22	21	20	19
、	、	、	、	、
M	M	L	R	C
S	S	・	H	T
S	S	九	・	・
・	・	・	一	一
一	一	一	九	一
七	六	九	〇	九
・	・	〇	〇	ペ
一	一	四	年	ー
八	八	年	一	ジ
九	九		〇	
一	一		月	
年	年		九	
			日	

## 第二章

# 真の家庭をつくる基礎

世界で最大の魅力のあるところ

両親には子供の将来の幸福と利益を注意深く守る重要な責任があるが、同時に家庭をできるだけ魅力的にすることも彼らのつとめである。このことは地所や金銭を得ることよりもはるかに重大である。家庭に太陽の光がかかることがあってはならない。子供が

幼いころの家庭を天国に次ぐ平和な幸福な場所として思い出すことができるように、家庭のふんいきがいつもいきいきと彼らの心に保たれていなければならない。その代わりに彼らは成人したとき、両親の慰めと祝福となるように努力しなければならない。 1

家庭は子供にとって世界中で最も魅力的な場所であり、母親の存在は最大の魅力であるべきである。子供は敏感な愛の性質を持っている。たやすく喜ばせることもでき、不快にさせることもできる。母親は愛のこもったことばと行為とやさしいしつけをもって子供を自分の心に結びつけることができる。 2

清潔、せいとん、秩序

清潔とせいとんと秩序は、家庭を正しく治める上に不可欠なものである

が、母親がそれだけを自分の生涯の最も重要なつとめと考えてそれに没頭し、子供のからだの発育



や知的道徳的な訓練を怠るとき、彼女は悲しむべき誤りを犯すことになる。 3

貧しくとも、身のまわりや家の中をだらしく不潔にしておく必要はないということを信者たちに教えなければならない。清潔の意味やその重要性について全然認識のない者にはその方面の助けを与えなければならない。すなわち、いと高き聖なる神を代表しなければならない者は魂を純潔にきよく保たなければならないこと、また、真理が生活に変化をもたらし、魂をきよめ、趣味を高尚にした証拠を天使が認めることができるように、彼らの衣服や家庭のあらゆるものにその純潔さが及ばなければならないことを教えなければならない。真理を受け入れてからことば使いや態度や衣服や環境に変化の認められない人は、自分自身のために生きているのであって、キリストのために生きているのではない。彼らはイエス・キリストにあってあらたに造り変えられ、きよきと聖潔に至らなかったのである。……

わたしたちは不必要な装飾や虚飾に警戒しなければならないと同時に、自分の外観に対して全然無関心、不注意であつてはならない。わたしたちの身のまわりや家の中はさっぱりとして魅力的でなければならない。青年に、批判を受けない、神と真理をあがめるような身なりをすることの重要性を教えるべきである。 4

清潔にすることを怠れば病気を招く。病気は原因なしには起こらない。完全に衛生的だと考えられていた都市や村に激しい熱病が流行して、健康をそこねた人や死人が出た。多くの場合、これらの流行病の犠牲になった人自身の家の中に破滅の原因があつて、それが空中に致命的な毒を放散し、家族の者や近所の人々がそれを吸っていたのであつた。怠慢と不注意が健康に与える影響について

一般に無知であるのを見て驚かされる。 5

### 幸福な家庭には秩序が必要である

神はそれがだれであつても、だらしかなかったり怠慢であつたり、不徹底であることをよろこばれない。こういう欠点は重大な悪である。夫がせいとんを好み、子供がよくしつけられ家庭が規則正しくあることを愛する人であれば、そうした欠点は妻に対する彼の愛情を失わせる。妻や母親は、せいとんを愛し、威厳を持ち、家の中を要領よく処理しなければ、家庭を快的に幸福にすることはできない。だからこういう面において足りない点のある人は、さつそく自分を訓練して、最も欠けているものを養い育てなければならぬ。 6

### 油断のない心と熱心が一つにならなければならない

自己を全く主にささげるとき、わたしたちは家庭生活の単純で平凡な仕事の重要性を理解し、神のみこころにかなうようにそれをするようになる。わたしたちは油断なく人の子が来られるのを見守っていなければならない。わたしたちはまた勤勉でなければならない。待つことと同様に働くことが要求されている。この二つのことが一つとなっていなければならない。それはクリスチャンの品性に均衡を与え、それを十分に発達させ、つり合いのとれたものにする。他のことはすべておろそかにして、めい想や聖書研究や祈りに没頭すべきだと感じてはならない。しかしまた、個人的に神を敬うことを怠って忙しく働くこともよくない。待つことと油断なく注意することと働くことが一つにとけ合っていないなければならない。「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え(よ)」(ローマ二二ノ一一)。 7

**労力をはぶく設備を備える**

多くの家庭では主婦や母親は知識を得るために本を読む時間もなく、夫の相手をする暇もなく、育ちゆく子供の心に触れる時間もない。また尊い救い主を近しい愛する友とするときも場所もない。そしてしだいに、単に家庭の仕事に酷使される人間となり、力も時間も興味も、使えばなくなってしまうものに奪われる。自分が家庭の中でまるで他人のようになった姿に気づくときはもう遅すぎる。愛する者をさらに高い生活へと感化するように与えられていた尊い機会は利用されずに永久に過ぎ去っていく。

家庭を築く者は、もつと賢明な計画の下に生活しようと決心すべきである。楽しい家庭をつくることを第三の目標とし、楽しく働き、健康を増進し、生活をらくにする手段を必ず講じなさい。8

**最もつまらない仕事も神のみわざである**

食器洗いや食卓の準備や、病人の看護や料理や洗濯のような、しなければならぬ仕事はどれもきわめて重要である。……わたしたちの前にあるつまらない仕事はだれかがしなければならぬ仕事であるから、それをする人は、自分は必要な尊い仕事をしている、たといつまらない仕事であっても、それをすることは、預言者のももにつかわされたガブリエルと同様に神の仕事をしていることであると思うべきである。どの人もそれぞれの地位にあつてそれぞれの立場で働いている。家庭で、なすべき単純な生活のつとめをする主婦は、天にいらみ使いと同样に忠実と服従と愛を表わすことができ、またそうすべきである。なすべきすべての仕事は神のみこころになつて行なわれるとき、その仕事は尊いものとなる。9

5、4、3、2、1、  
C R S ミ R  
T H ・ ス ニ H  
B ・ ト リ ・ ー  
・ 一 八 七 一 八  
一 〇 〇 五 年 八 六  
五 、 二 年 月 年  
一 〇 六 一 二 月  
ペ ー 〇 日 二 日  
ジ

9、8、7、6、  
3 ペ ミ 7 2  
T ー ニ ス R T  
・ ジ ス ト ・ ー ・ 二  
七 ジ ト リ 一 八 九 九  
九 ー ジ ー 八 一 八  
、 八 〇 一 年 九 九  
ペ ー ジ オ ブ ・ ヒ ー リ ン グ ・ 三 三 九 、 三 四 〇

### 第三章

## 家庭のかたであるエデンの園

神が人類最初の家庭を準備された

わたしたちの始祖のエデンの家庭は神が御自ら彼らのために準備されたものであった。神は人が望み得るあらゆるものをそこに備えられてから、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り」（創世記一ノ二六）と仰せになった。∴∴

主はすべての生きものの中で、この最後の、そしてもっとも高貴な人間に満足された。そして彼が完全な世界に住む完全な住人となるよう意図された。だが人が孤独で暮らすことは神の目的ではなかった。神は「人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」と仰せになった。<sup>1</sup>

神御自らアダムに伴侶（はんりょ）を与えられた。神は彼に「ふさわしい助け手」彼に相応した助け手、愛情と同情とともに分かち得る者をお与えになった。エバはアダムのおばら骨から創造された。この事実は、女が男を支配すべきでなく、また劣った者として男の足下にふみにじられるべきでもなく同等の者として男の愛と保護を受くべきであることを意味していた。アダム的一部分、骨の骨、肉の肉であるエバは彼の「第二の自身」であって、この関係に見られるべき密接な結びつきと

深い愛情を表わしている。「自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもない。…おのれを育て養うのが常である。」「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」「2

**神が最初の結婚を司式された** 最初の結婚の挙式をされたのは神であつた。このようにこの制度の制定者は宇宙の創造者である。「すべての人は結婚を重んずべきである。」「この制度は人に与えられた最初のたまもの一つで、人間の墮落後アダムがパラダイスの門の外に持ち出した二つの制度の一つである。この制度に関する神の原則を認めてそれを守るとき、結婚は祝福となる。それは人類の純潔と幸福を保護し、その社会的な必要を満たし、身体的、精神的、道徳的性質を向上させる。 3

アダムの手助け手としてエバを与えられたおかたが結婚の祝いの席上で最初の奇跡を行なわれた。友人や親族が喜び合っていた祝いの場所で、キリストは公の伝道を開始されたのである。こうしてキリストは婚姻を是認し、御自ら制定された制度として認められた。…:

また、キリストはご自身とご自分があがなわれた人間との結合の象徴として結婚を尊ばれた。すなわちキリストご自身が新郎で、花嫁は教会である。キリストは教会について、ご自分が選ばれたものとして、「わが愛する者よ、あなたはことごとく美しく、少しの傷もない」と仰せになつてい

る。 4

**すべての必要が満たされた**

アダムは、人の心の望み得るすべてのものに囲まれ、あらゆる必要

を満たされていた。輝かしいエデンの園には罪のかげや衰えのきざしは少しもなかった。神の使いはこの清らかな夫婦と自由に、やさしく話し合った。楽しい小鳥たちは彼らの造り主に向かって自由な、喜びに満ちあふれた賛美の歌をうたった。おだやかな動物たちはアダムとエバのまわりで楽しく無邪気にたわむれ、彼らのいうことに従順に従った。アダムは完全な人間で、創造主の最も高貴な作品であった。5

造り主と彼らの間にはひとすじの影もさしていなかった。彼らは神を彼らの恵み深い父として知っていた。彼らの意志はすべてのことにおいて神のみことと一致していた。神のご品性はアダムの品性の中に反映していた。神の栄光は自然のあらゆる事物に表わされていた。6

**人の幸福のために労働が課せられた**

神は美を愛するお方である。このことについて神はわたしたちに、まちがう余地のない証拠をそのみ手のわざの中にお与えになった。神は人類の始祖のためにエデンに美しい園を設けられた。使用のため、また観賞用に、あらゆる種類の堂々たる大木が地から生じさせられた。まれに美しい、さまざまな色彩と形をもった草花も造られ、それがあたりにかぐわしい香りを放っていた。……人が神の造られたもののめんどろを見る仕事の中に幸福を見いだすこと、彼の必要が園の木の果実で満たされることが神のご計画であった。7

アダムに園の手入れをする仕事を与えられた。造り主は、仕事があればアダムは幸福になれるということを知っておられた。園の美しさはアダムを喜ばせたが、それだけでは十分ではなかった。アダムは、からだのすばらしい器官を働かせる労働をしなければならなかった。何もしないこ

とに幸福があるならば、人は清らかな状態のない、罪のまま何の仕事も与えられなかったであろう。だが人を創造されたおかたは、彼の幸福のためには何がよいかを知っておられ、彼を造られるとさつそく定まった仕事をお与えになった。将来の栄光の約束と、人は日々のパンのためにほねおって働かなければならないというご命令とは、どちらも同じみくらから出たものであった。8

### 神はクリスチャンの家庭を通してあがめられたもう

家庭で神を第一にし、子供に神をおそれる

ことが知恵のはじまりであることを教える父母は、秩序正しいりっぱにしつけられた家族、すなわち神にさからわずに神を愛し神に従う家族を世に示すことによって、天使と人の前に神をあがめている。彼らの家庭ではキリストは見知らぬお方ではない。キリストのみ名はその家庭の名前である。

そのみ名は尊まれあがめられる。天使たちは、神が最高の地位に君臨し、子供が宗教や聖書や造り主をあがめるよう教育されている家庭をよろこぶ。こういう家族が、「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊び」との約束をわがものとするこののできる家族である。こういう家庭から父親が毎日の働きに出ていくとき、彼は神と語ったことによつてやわらげられ従順にされた心をもつて出ていく。9

キリストの臨在だけが男女を幸福にすることができる。キリストは生活の平凡な水をすべて天のぶどう汁にお変えになることができる。そのとき家庭は幸福なエデンとなり、家族は天の家族の美しい象徴となる。



5、4、3、2、1、  
S・ミ同 P Y  
・ニスト・二 P I  
一ストリ・ペー・一  
八七四・オブ・八  
年六月一・ヒ一五  
一・リ年八月  
日・ン一〇日  
グ・三  
・二  
三  
二  
九  
ペ  
ー  
ジ

10、9、8、7、6、  
M 5 Y H Y  
S T I R I  
S・四・一・一・一  
四二九〇八八  
三・四〇二年七  
・一・二・月  
九・二・二  
〇・七・日  
年



第二部  
社会  
の  
光



## 第四章

# 家庭の広範な影響力

クリスチャンの家庭は実物教訓である 家庭の伝道はその家族だけにとどまらない。クリスチャンの家庭は生活の真の原則がすぐれていることを実証する実物教訓でなければならない。そういう実証は社会を益する力となる。∴青年がこういう家庭から出ていくとき、彼らは学んだ教訓を他に伝え、一段と高荷な生活原則が他の家庭に紹介され、進歩向上に導く感化が社会に及ぼされるのである。<sup>1</sup>

家族の者がみな礼儀正しく親切なクリスチャンである家庭は、広く有益な影響を及ぼす。ほかの家族もこうした家庭が得た結果を認め、示された模範にならって今度は自分の家庭をサタンの影響から守るようになる。神の天使たちは神のみこころが支配している家庭をたびたび訪れる。神の恵みの力のもとで、このような家庭は、疲れ果てた巡礼者にとって力を回復する所となる。警戒し見守ることによって、自己が主張されないように押さえられる。正しい習慣が形造られ、他人の権利が注意深く認められる。愛によって働く信仰、魂をきよめる信仰が家庭全体を指導し支配する。神のみことばに主張されている兄弟愛の原則は、このような家庭のきよめられたふんいきのもとでい

っそう広く認められ服従される。 2

### 秩序正しい家庭の影響

周囲の人々が神を信じていない所で、一つの家庭が神のおきてを守りイエスの代表者として立つことは、決して小さなことではない。わたしたちはすべての人に知られ、すべての人に読まれる生きた手紙であるように要求されている。これは恐るべき責任を意味する。 3

一つの秩序正しい、よくしつけられた家族は、与えることのできるすべての説教よりもはるかに多くのことをキリスト教のために語る。こういう家族は、両親が神の指示に従うことに成功したと、また彼らの子供たちが教会で神に仕えることを立証している。彼らの影響はしだいに広まっていく。それは、彼らが与えると同時にまた分け与えるために受けるからである。子供は家庭で受けた訓練を他人に伝えるから、父親や母親は彼らがよい助け手であることを見いだす。彼らの住む近所の人々は彼らのために助けられる。何となれば、彼らはそこで現在および永遠のために豊かにされるからである。家族全体が主の奉仕に参加している。そして彼らの敬虔な模範を通して他の人々が励まされ、神のひつじ、美しいひつじの群れを扱うのに神に対して忠実となり真実となる。 4

世に示すことのできるキリスト教の力の最も偉大なあかしは、秩序正しいりっぱにしつけられた家庭である。これはは実際に心に働くキリスト教の力の生きたあかしであるから、他のどんなものよりもいちばんよく真理を推薦する。 5

家庭の宗教をためすいちばんよい試験は、家庭の感化によって形成される品性の型である。行動はどんな敬虔なことよりも大きく語る。 6

この世におけるわたしたちの務めは……自分の子供や家族の者が他の家族により影響を与え、そのことによってわたしたち自身聖職につかなくとも教育的な力になることができるには、彼らにどんな道徳的品性を備えるよう教えることができるかを見ることである。秩序正しい、よくしつけられた家庭は、神の御目には「精金よりも、オフルのこがねよりも」尊い。7

**すばらしい可能性が与えられている** この世でのわたしたちの時は短く、しかもこの世は一度しか通ることができない。この世にある間、最も高い人生を送るべきである。わたしたちが召されている働きは富や社会的地位や偉大な能力を必要としない。それは親切な自己犠牲の精神と不変の決意を要するものである。もしびはどんなに小さくても、つねに燃えてさえいれば、他の多くのともしびに火を点ずるものとなる。わたしたちの感化を及ぼす範囲も狭く、その力も小さく、与えられる機会が少なく、学識がなくても自分の家庭に与えられた機会を忠実に利用するならば驚くほどの働きができる。もしその心と家庭を開いて神の生活方式を受け入れるならば、わたしたちは生命を与える力への水路となるであろう。わたしたちの家庭から人々をいやす川が流れ出て、荒れはてた不毛の地に生命と美と収穫をもたらすのである。8

神をおそれる両親は、三斗の粉に入れたパン種のように、自分の家庭以外の人々にも感化をおよぼす。9

家庭で忠実に働きがなされるとき、家族の者は同じ種類の働きをすることを教えられる。神に対する忠実な精神はパン種のようなもので、それが教会に表わされるとき他の人々に影響を及ぼし、

いたるところでキリスト教を推薦する。キリストの兵卒の心をこめた働きは永遠にまで至る。ではわが教会に伝道の精神がこんなにも欠けているのはなぜであろうか。それは家庭で神がうやまわれていないからである。<sup>10</sup>

# 秩序のない家庭の影響

秩序のない家庭の影響は広くゆきわたっていて、社会全体にとって大きな不幸となつてゐる。それは家族や社会や国家に影響を与える悪の流れを増している。<sup>11</sup>

どんな人も社会に何の影響も与えずに生活することはできない。家族の一員が他の者に自分の影響や気分を感じさせずに自分自身の中に閉じこもることはできない。顔の表情そのものが、よいにせよ悪いにせよ、ある影響を与える。他人に対する彼の気分やことばや行動や態度には誤解の余地がない。もし彼が利己的な生活をしていれば、彼は自分の心を毒を含んだふんい気で包んでいるのである。反対に、の彼がキリストに対する愛に満たされているならば、彼は他人に礼儀正しく親切で、人の気持ちをやさしく思いやり、交わる人々に愛の行為を通して、やさしい、感謝にあふれた、楽しい気分を伝える。彼がイエスのために生き、日々イエスの足もとで教えを受け、イエスの光と平和をいただいていることが表わされる。彼は「あなたの助けは、わたしを大いなる者とされた」と主に言うことができる。<sup>12</sup>

1、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三二六ページ  
2、L・二七二・一九〇三年

3、4 T・一〇六ページ  
4、R H・一八九九年六月六日



8、7、6、5、  
ミ M P 4  
ニ S P T  
ス S・三  
スト・五〇  
リー・七四  
・二九ペ  
・一・一  
オブ・八  
・九ジ  
・五  
・一  
・リ  
・ン  
・グ  
・三  
・二  
・八  
・ペ  
・一  
・ジ

1211109、  
Y P R S  
I P H・一  
・・・八  
一五・一八  
八九七・八九  
三年九・四年  
六月一・月  
二二ジ二  
日一九日

## 第五章

# 力強いクリスチャンのあかし

最良の宣教師はクリスチャンホームから出る

主にとって最良の宣教師はクリスチャンホームで、

すなわち神がおそれられ、神が愛され、神が礼拝されている家庭、忠実が第二の天性となっている家庭、家の務めをゆきあたりばったりの不注意な無関心さとする事が許されない家庭、神との静かな交わりが日常の務めを果たす上に不可欠なものとみなされている家庭で外国での働きのために最もよく準備される。 1

家庭の務めを行なうとき、正しい精神で行なうならばそれはわたしたちに最も永続的で徹底的な方法でクリストのために働く力を与える経験を提供してくれることを認めて、それを行なわねばならない。十字架をよるこんで背負い、自分の気分に合わないどんな仕事でもおろそかにせず、毎日の務めを忠実に果たすことによって、活気のあるクリスチャンはどれほど多くの伝道をする事ができることであろう。 2

クリストのための働きはまず家庭から、家族から始めなければならない。……これ以上たいせつな伝道地法はかにかない。

家庭伝道は不面目にも多くの人によっておろそかにされている。いまはこの誤った状態を正すた

めに神の力と救いが提示されるべきときである。3

青年に課せられた最高の義務は家庭の中にある。すなわち真の関心と愛をもって父や母や、兄弟や姉妹を祝福することである。彼らは家庭で他人のめんどろを見たり他人のために働くことによって自制と克己の精神を示すことができる。……姉は弟たちに大きな影響を与えることができる。彼女が正しければ弟たちの品性をも決定することができる。彼女の祈り、彼女のやさしさ、彼女の愛情は家庭において多くの働きをすることができる。4

キリストを受け入れた者は、キリストの恵みが彼らに何をしたかを家庭で示すべきである。「彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ一ノ一二)。キリストをほんとうに信ずる者には意識的な權威が充滿していて、それが家庭全体にわたって感じられる。それは家庭の全員の品性の完成にとって有益である。5

### 未信者が反ばくできない論証

秩序正しいクリスチャンホームは、キリスト教の現実性を支持する力強い論証 未信者が反ばくする余地のない論証である。だれでも、その家庭にある力が働いて、子供たちに影響を及ぼしていること、またアブラハムの神が彼らとともにおられることを認めることができる。クリスチャンであると公言する家庭が正しい宗教的特性をそなえていたなら彼らは有益な影響を力強く及ぼすはずである。彼らはたしかに「世の光」となるはずである。6

### 子供は聖書の原則についての知識を伝える

正しく教育された子供たち、役に立つことをよろこ

び、父母を助けることをよろこぶ子供たちは、交わるすべての者に聖書の諸原則と正しい思想の知識を伝える。 7

わたしたちの家庭が正しい状態にあれば、子供たちは無為に時を過ごしたり、周囲の困っている人々を助けよという神のご命令に対して無関心のまま成長することは許されないであろう。彼らは主の選民として、彼らのいる所において働くにふさわしいものとされる。こういう家庭から光が輝き出て無知な人々を照らし、彼らを知識の源に導く。神と神の真理にとって力となる影響が及ぼされる。 8

他の方法でもどうしても近づけない親でも、その子供たちを通して近づくことができる場合がある。 9

# 明るい家庭は近所の光である

もつと明るい両親やもつと明るいクリスチャンが必要である。わたしたちは自分の中に閉じこもりすぎている。子供たちやしいたげられている人や失望している人に親切な励ましのことばや明るいほほえみを与えずにいることが多い。

両親がたよ、あなたがたは光を掲げる者、光を与える者となる責任が負わされている。あなたがたは家庭の光となって、子供が歩かなければならない道すじを照らさなければならぬ。そうするとき、その光は周囲の人々をも照らすようになる。 10

すべてのクリスチャンホームから清い光が照りいでるべきである。愛は行為に表わされるべきである。それは家庭のすべての交わりの中に流れ出、思いやり深い親切の中に、やさしい無我の礼儀

正しさの中に示されなければならない。これらの原則が実践されている家庭、まことの神が礼拝され、真実の愛に支配されている家庭がある。こういう家庭からは朝夕、祈りがこうばしいかおりのように神のみ前にのぼり、神の恵みと祝福が朝の露のように祈りをささげる者の上に降る。11

**家族が一致している結果** クリスチャンのなすべき第一の働きは家族が一致していることである。それから近所の人々や遠くに住む人々のために働かなければならない。光を受けた人はそれをはつきり輝かさなければならぬ。彼らの語ることはキリストの愛のかおりをもつて命に至らしめるものでなければならない。12

家族のものが一致していればいるほど、父親や母親やむすこやむすめが家庭の外で及ぼす感化はもつと励ましを与え助けを与えるものとなる。13

**知性のある人より善良な人が必要である** 家族と教会の幸福は、家庭が及ぼす影響によって左右される。永遠の利益は地上の務めを正しく果たすかどうかにかかっている。この世はすばらしい知性の持ち主よりも家庭の祝福となる善良な人を必要としている。14

**扉を閉じさせるような誤りを避けよ** 家庭において宗教が表わされていれば、その影響は教会やその家庭の周囲に感じられる。しかしクリスチャンであると公言する人の中には、近所の人々自分自身の家庭内の問題について話す者がいる。彼らは自分に同情をひきつけるようにそれらの苦しみにつ

いて話す。わたしたちの苦情の大部分は、わたしたちが信仰的な生活をしていないために、あるいはわたしたちの品性の欠点のために起こることが多いのであるから、他人の耳に自分の問題を注ぎこむことは大きなまちがいである。個人的な苦情を人に話しに行く人は、祈りをささげ、強情なところを神に従わせ、岩なるキリストの上に落ちて砕かれ、イエスが彼らを尊いことに用いる器とすることができるよう自己に死ぬために家にとどまっているほうがよい。15

ただ一度礼儀を欠いただけでも、ほんの一瞬短気を起こしただけでも、あるいはたったひとことあらあらしい思いやりのないことばを吐いただけでも、あなたの評判は傷つけられる。またあなたが決して近づくことのできないよう人々に心の扉を閉じさせる。16

# 家庭内の宗教は家庭外にまで輝く

家庭をほんとうの家庭に、すなわち天の家庭の象徴にするために努力するとき、それはさらに広い範囲における働きをするようわたしたちを準備する。互いにやさしい思いやりを示し合うことによって与えられた教育は、真の宗教の原則を教える必要のある心にどう近づけばよいかを理解させる。教会は主の家族すべてを、特に青年たちを注意深く保護するため、修練された霊的力をできるだけ多く必要としている。家庭で実践された真理は、家庭外での無私の働きの中に表わされる。家庭で宗教を実行するものは、どこへ行っても明るく輝く光となる。17

## 第2部 社会の光

1、 M S S ・ 一四〇・一八九七年  
2、 S ・ 一八九八年九月一日  
3、 6 T ・ 四二九、四三〇ページ  
4、 3 T ・ 八、八一ページ  
5、 M S S ・ 一四〇・一八九七年  
6、 P P ・ 一四四ページ  
7、 L ・ 二八・一八九〇ページ  
8、 6 T ・ 四三〇ページ  
9、 4 T ・ 七〇ページ

17	16	15	14	13	12	11	10
S	5	S	4	L	M	P	R
・	T	・	T	・	S	・	H
一	三	一	五	一	・	一	・
八	五	八	二	八	一	四	一
九	五	九	二	九	・	四	九
八	ペ	二	ペ	・	一	ペ	〇
年	ー	年	ー	一	・	ー	一
九	ジ	一	ジ	九	一	ジ	年
月		月		〇	〇		一
一		一		三	一		月
日		四		年	年		二
		日					九





## 第三部

## 生涯の伴侶の選択



## 第六章

# 重大な決定

幸福な結婚か不幸な結婚か

結婚をしようと考えている人は、結婚後不幸でみじめな気持ちを感じ

わいたくないと思うならば、いまその問題について熱心に、真剣に考えなければならない。この一歩を無分別にふみ出したとき、それは若い男女の有用性を破壊する最も有効な手段の一つとなる。

人生は重荷となりのろいとなる。女性の幸福と有用性を破壊し、その生涯を悲惨なものにすることにかけて、夫ほど効果的にそれをやれる者は他にない。また男性の希望や抱負をくじき、力をまひさせ、その感化力や成功の見通しを台なしにすることにおいて彼の妻の百分の一ほどのことができる人はだれもない。多くの男女のこの世における失敗や成功や将来の希望は、結婚のときから始まる。<sup>1</sup>

青年たちに彼らの危険を、特に不幸な結婚の危険を認めさせ、それを感じさせることができたかどうかによっていことであろう。<sup>2</sup>

結婚は、この世においても来世においても、あなたの一生に影響を及ぼすものである。誠実なクリスチャンなら、神が自分の道を是認なさることがわからなければ、この方面へ自分の計画を進め

ない。彼は自分でえらぼうとしないで、神がえらんでくださるべきだと感じる。キリストはご自分の好きなようになさらなかったのだから、わたしたちも自分の好きなようにしてはならない。自分の愛していない人と結婚すべきだとわたしがつていっているように受けとられたくはない。そうすることとは罪である。しかし、空想や感情的性質のおもむくままに破滅に至るようなことがあつてはならない。神は全心全霊、最高の愛情を要求される。 3

**せいては事を仕損じる** 結婚に対する正しい考えを持っている人は、ごく少ない。多くの人は結婚すれば完全な幸福に到達することができると考えているようである。しかし、もし彼らが断ち切るこのできない、またあえてそうする勇気のない結婚のちぎりという鎖でしばられている男女の心の痛みの四分の一でも理解することができれば、わたしがこの一文をつづつていえることに對して驚くようなことはないであろう。結婚は大部分の人にとって最も堪えがたいくびきである。結婚していても、その結婚がつり合っていない人が幾千人といる。天のふみは、結婚というおおいの下にかくされた悲しみや悪や争いの記録でいっぱいである。わたしは結婚適令期にある青年男女に、いそがずにゆつくり配偶者を選ぶように警告するのはこのためである。結婚生活の道は美しく幸福にあふれているように見えるかもしれないが、幾千という人々が失望させられたようにあなたも失望させられるかもしれないのである。 4

結婚をしようと考えている人は、自分たちが築こうとしている家庭の性質と感化がどんなものになるかをよく考慮すべきである。親になると神聖な責任が負わされるのであつて、現在の世界にお

ける子供の幸福ときたるべき国における幸福とは大いにその双肩にかかっている。幼い子供が受ける肉体上、精神上的の性質は大部分、両親によって決定される。家庭の性質が社会の状態を左右し、各家庭の感化力が社会を向上させ、あるいは墮落させるのである。5

### 選択の重要な要因

クリスチャン青年は、友だちをつくったり伴侶を選択したりするとき十分に注意を払わなければならない。純金だとばかり思っていたものが卑金属であることがわかるかもしれないから、注意なさい。世俗的な交わりは、神への奉仕を妨げる。事業において、あるいは結婚において、決して品性を高めたり向上させたりすることのできないようは相手との不幸な結合のために多くの魂が滅んでゆく。6

自分の一生の運命を共にしようとする相手のあらゆる情操を吟味し、あらゆる品性のあらわれに注意しなければならない。あなたがとうとうとしている一步は、あなたの生涯の中で最も重要な一步であるから、性急にふみ出してはならない。愛することはよいが、盲目的に愛してはならない。

自分の結婚生活は幸福となるか、それとも不調和で不幸となりはしないかを注意深く吟味なさい。この結合はわたしを天へ向けるであろうか、神に対するわたしの愛を増すであろうか、この世において自分の役立つ範囲がもっと大きくなるだろうかと問うてみなければならない。このように反省してみてもそこに不利な点がなかったら、神をおそれる思いをもって前進なさい。7

たいていの男女は、結婚関係にはいるにあたって、お互いに愛し合っているかどうかということだけが、解決すべき唯一の問題であるかのように考えている。しかし、結婚関係にはそれよりも

つと大きな責任が負わされていることを認めなければならぬ。彼らは自分の子孫が肉体的健康と知的、道徳的能力とを持つことができるかどうかということを考慮してみなければならぬ。ところが、高い動機と軽々しく見すごしてはならない気高い考慮、すなわち社会は自分たちに要求するところがあるということ、また家庭の感化力は社会を向上させもすれば墮落させもするということを考えて行動する人は少ない。8

生涯の配偶者には、親のためにも子供のためにも肉体、知能および霊的な幸福が最もよく保証できるような人を選ぶべきである。すなわち親子共に他人を祝福し、創造主の栄えとなり得る者でなければならぬ。9

### 未来の妻に求めるべき特質

青年は、人生の重荷を共に負うに適した人、その感化が自分を向上させ、洗練し、その愛が自分を幸福にするような人を伴侶として求めるべきである。

「賢い妻は主から賜わるものである。」「その夫の心は彼女を信頼して……彼女は生きながらえている間、その夫のために良いことをして、悪いことをしない。」「彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつくしみの教がある。彼女は家のことをよくかえりみ、怠りのかてを食べることをしない。その子らは立ち上がって彼女を祝し、その夫もまた彼女をほめたたえて言う、『りっぱに事をなし遂げる女は多いけれども、あなたはすべてのにまさっている』と。」「このような「妻を得る者は、良き物を得る、かつ主から恵みを与えられる」(箴言一九ノ一四、三一ノ一一、一二、一六、一九、

次にあげるとは考えなければならない問題である。あなたが結婚しようとしている女性は、あなたの家庭に幸福をもたらすであろうか。彼女は経済家であろうか。それとも結婚してから、虚栄心を満足させたり外見を飾るために、自分の収入だけでなく、あなたの収入まで使い果たすであろうか。この方面における彼女の信念は正しいであろうか。彼女は信頼できる何ものかを持っているであろうか。……わたしは、愛情と結婚の問題で心がいつぱいになっている男性がそうした問題は無意味であるで一蹴(しゅ)う)してしまうことを知っている。しかしこうしたことは将来の生活に関係のあるものであるから、前もってよく考えておくべきである。……

妻を選ぶときはその女性の品性をよく調べなさい。彼女は忍耐強く、勤勉であろうか。それともあなたの父や母が頼りになる強いむすこをいちばん必要としているときに、彼らのめんどろを見ないような人であろうか。彼女は何事も自分の思い通りにし、自分のたのしみに合わせるために夫を父母とのまじわりからひき離し、父や母は愛情深い娘を得ないで、むすこまで失うことはないであろうか。11

#### 未来の夫に求むべき性質

結婚に着手する前に、女性はみな自分が運命を共にしようとしている相手の男性が価値のある人間であるかどうかを吟味してみなければならない。彼のこれまでの経歴はどうであろうか。彼の生活は純潔であろうか。彼の表現する愛は高貴な種類の愛であろうか。それとも単なる感情的な愛情ではないであろうか。彼はあなたを幸福にするような品性の傾向を持っているであろうか。あなたは彼の愛情に平安とよろこびを見いだすことができるであろうか。彼は

あなたの個性を保つことをみとめるであろうか。それともあなたの判断と良心は、夫たる彼の支配下に服さなければならぬであろうか。……あなたは救い主の要求を最高のものとして尊重することが出来るであろうか。肉体と魂、思想と目的を純潔に保つことが出来るであろうか。こうした質問は、結婚関係にはいるすべての女性の幸福と重大な関係がある。――

平和で幸福な結婚を望み、将来の不幸と悲しみを免れたいと思う女性は、愛情をささげる前に、自分の愛人には母親があるかどうか、そしてその母親の品性はどうか、彼は母親に対する義務を果たしているか、母親の願いや幸福に関心を持っているか、もし彼が自分の母親を尊敬しないようなら、妻に対しても尊敬と愛情、親切といったわりを示さないのではなからうか、新婚の気分がすぎ去ってからもちをたしを変わらず愛するだろうか、わたしのまちがいを忍んでくれるだろうか、それとも批判的で横暴で独裁的ではないであろうか、というようなことを考えてみる必要がある。真の愛情は多くの過失をみのがす。愛は過失をみつけない。――

**純潔で男らしい特質をもつ人だけを受け入れよ**

若い婦人は、純潔で男らしい性質を持ち、勤勉で大望に燃え、正直で神を愛しおそれる人だけを配偶者として受け入れるべきである。――

敬虔でない人や怠惰を好む人や神聖なものをあざける人を避けなさい。冒瀆的なことばを使う人や、酒を一杯でも飲む習慣のある人との交際を避けなさい。神に対する自分の義務を全然認めない男性の申し込みに耳をかはしてはならない。あなたがいちばん好感を感じている友人であっても、その人が神を愛しおそれない人であり、真の義の原則について何も知らない人であるということをお



あなたが知っているなら、魂をきよめる力を持つきよい真理は、その人との交際を断つ勇気をあなたに与える。わたしたちは友人の欠点や無知に対して寛大でなければならぬが、彼らの罪に対してはそうであってはならない。15

**あやまちを犯しやすく正しにくい** 自分中心に、また衝動的な気持ちで計画された結婚は、一般により結果を見ずに、みじめな失敗に終わる。当事者たちは互いにあざむかれたことを見いだし、夢中でしたその結婚を、解消できるものならよこんでいたいと思う。この点であやまちを犯すことは非常にやさしいが、いったん犯してからそれを正すことはむずかしい。16

**無分別な婚約は解消した方がよい** もし縁組するつもり相手の品性を十分に理解しないうちに婚約にまで進んだとしても、その婚約のために結婚の誓約を承諾し、愛することも尊敬することもできない相手と一しょにならなければならないと考える必要はない。条件付きの婚約を結ぶことはよほど慎重でなければならない。しかし多くの人たちのように、あとになって別れるよりは、結婚する前に婚約を破棄するほうがはるかに、はるかによいことである。17

「しかし私は約束してしまったのです。今からでも取り消すべきでしょうか」とあなたは言うであろう。もし聖書に反した約束をしたのだったらどんなことがあっても、即刻取り消し、そのように軽率な約束をするほど夢中になったことを、神の前にへりくだった心で悔い改めなさい。そんな約束を守って創造主の栄えをけがすよりは、神をおそれる思いをもって約束を取り消すほうがはるか

によい。18

結婚による結合に向かつての歩みには、慎み深さと質素と、誠実と、神をよろこばせ神の栄えをあらわそうとする熱心な目的とが目だっていなければならない。結婚はこの世と来世とにおける両方の生活を左右する。真実なクリスチャンは、神が承認なさることのできないような計画をたてない。19

1、	R H・一八八六年二月二日	11、	L・二三・一八八六年
2、	4 T・六二二ページ	12、	5 T・三六二ページ
3、	R H・一八八八年九月二五日	13、	F E・一〇五ページ
4、	R H・一八八六年二月二日	14、	ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三一ページ
5、	ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三〇ページ	15、	L・五一・一八九四年
6、	F E・五〇〇ページ	16、	L・二三・一八八六ページ
7、	同・一〇四、一〇五ページ	17、	F E・一〇五ページ
8、	青年への使命・四六三ページ	18、	5 T・三六五ページ
9、	ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三〇ページ	19、	青年への使命・四三七ページ
10、	同・三三一ページ		

## 第七章

### 真の愛と感情的な愛

愛はイエスから与えられるとうとい賜物　　愛はわたしたちがイエスから受ける尊いたまものである。純潔な、清い愛情は感情ではなく、一つの節操である。真の愛に基づいて行動する者は不合理でも盲目でもない。 1

真実で誠実な、献身的で純粋な愛はほんとうに少ないものである。こういう尊いものはめったにない。情欲が愛と呼ばれている。 2

真の愛は高い聖なる原則であって、衝動的にめざめたり、きびしい試みに会えばたちまち消滅してしまうような愛とは全然異なった性質のものである。 3

愛は天が成長させる植物であるが、それは育てられ、養われなければならない。愛情深い心、誠実さのあふれたやさしいことばは幸福な家族をつくり、その影響下にあるすべての人々により感化を及ぼす。 4

真の愛情対感情的な愛

愛は不合理でも盲目的でもない。それは純潔で聖潔である。しかし肉の

心の情欲は全然別物である。純粋な愛はすべての計画に神を入れ、神のみたまと完全な調和の中にあるが、情欲は強情で、せっかちで、不合理で、どんな抑制も問題にせず、自らえらんだ相手を偶像とする。

真の愛を持っている人の態度には神の恩恵があらわれる。慎み、単純、誠実、徳性、信仰といったものが、結婚という結合に向かっての一步一步の歩みにその特徴としてみられる。このように制御されている人は、祈禱会や教会の集会に対する関心を捨ててまで、お互いの交際に没頭するようなことをしない。神の恵みによって与えられた機会や特権をおろそかにするために、真理に対する熱意を失うというようなことはない。5

欲望の満足以外によい土台を持たぬ愛は、不合理で盲目的で抑制することができない。名誉や真理やあらゆる高貴な心の能力は情欲に屈従させられる。この熱情のくさりに縛られた人は、理性や良心の声に耳を貸さないことがあまりにも多い。説得しても頼んでも彼にその愚かな行為を認めさせることはできない。6

真の愛とは決して強い、激しい、性急な情欲ではない。反対に、それは静かで深味のある性質のものである。それは外面的なものを見ずに本質だけに引かれる。それは賢明でよく識別し、その愛情は真実なものであり永続的である。7

情欲や衝動から引き上げられた愛は、精神的なものとなり、ことばや行為に表わされる。クリスチャンはきよめられたやさしさと、短気な、怒りっぽい性質のない愛を持たなければならない。粗野で乱暴な態度は、クリストの恵みによってやわらげられなければならない。8

感傷はライ病のように避けなければならない

空想や恋愛感傷病はライ病のように警戒しなければなら

ばならない。今日世の青年男女の非常に多くが道徳心に欠けているから、大いに注意する必要がある。……たといほかに望ましい特性がなくとも、道徳的な品性を守った人は、真に道徳的価値を持つた人であるといってさしつかえない。9

かなり長い間信仰を持っていると公言している人で、どの点から見ても、神を信じ敏感な良心を持つているといえない人がいる。彼らは内容がなく浅薄である。話題も低俗である。求愛や結婚が彼らの心を占めているので、もっと高い高貴な思いが心からしめ出されている。10

若い者たちは求愛や結婚熱に浮かされている。恋愛感傷病が一般にひろまっている。青年たちをこの誤った影響から守る気転と警戒が必要である。11

むすめたちは自己を犠牲にすることや自制することを教えられていない。彼女たちは甘やかされ、ごうまん心が助長されている。いつも思いのままにふるまうことを許されているので、彼女たちはがんこでわがままになり、あなたは、彼女たちを救うすべも知らずに途方に暮れている。サタンは彼女たちを大胆で慎みがなく女らしさがなかったために、信者でない人々の笑い草になるようにし向けている。青年たちもかつてにするままに放任されている。十三、四才になったかならないのに、はや自分と同年輩の女の子のそばにおり、家まで送って言い寄ったりする。両親は子供を溺愛（できあい）し誤った愛情のとりことなっているために、何事も早いこの時代の早熟な子供を抑制するために、今までのやり方を変えて断固とした処置をとる勇気がない。12

ロマンチックな恋愛病にかかっている少女への勧め

あなたは、この墮落した時代にゆきわたっている、特に女性が陥りやすい悲しむべきあやまちに陥っている。あなたは異性に好意を持ちすぎる。あなたは男性と交わることを好んでいる。彼らに対するあなたの関心は彼らを得意がらせている。あなたは「あらゆる悪から遠ざかりなさい」(テサロニケ第一・五ノ一二)という使徒の勧めに一致しない、度を越えた親しさを助長して許している。……

ロマンチックな計画を考えることをおやめなさい。あなたは宗教とロマンチックな恋愛感傷病とをいっしょにしているが、それはあなたを高めずにかえって低くしている。この事で悪影響を受けているのはあなたひとりだけではない。他の人もあなたの手本や感化を受けて傷つけられている。

……夢を追ったりロマンチックな城を築くことによってあなたの有用性が失われている。あなたは空想の世界に住み、空想的な殉教者、空想的なクリスチャンであった。

現代の青年たちの宗教経験にこの低俗な感傷が多くまじっている。姉妹よ、神はあなたが変化することを望んでおられる。わたしは、あなたがご自分の愛情を高めるようにお勧めしたい。あなたを買いとられたあがない主のために、あなたの霊的、身体的な力をささげて奉仕なさい。すべてのわがが神にあつてなされるようにあなたの思いや感情をきよめなさい。

13

ある学生への注意

あなたはいま学生であるから、霊的な事についてもつぱら考えなさい。

あなたの生活から感傷主義を除きなさい。怠りなく自分を指導し、自己を抑制なさい。あなたはいま品性を形成する時期にある。神がお定めになった務めを果たすために準備しているあなたの最も

高く聖なる興味とあなたの有用性を少しでも減じるものを、ささいなこと、重要視する必要のないものと考えてはならない。 14

**賢明でない求愛と結婚の結果**

一歩進むごとに数えきれない困難に当面することは明らかである。これは、年配の者も青年も共にいだいている悪である。賢明でない、清められていない求愛と結婚は、口論、争い、不和、情欲を、なんの拘束もなくほしいままにし、夫と妻の不貞、自分かつての過度の欲望を制することを好まず、そして、永遠の事がらに対する無関心などの結果を招かざるを得ない。……

聖書を信じるクリスチャンと称する者の多数は、神の律法の神聖さを愛していない。かれらは、そのかつてきままな行動によって、もっと広い範囲を好んでいることを示している。かれらは、自分たちの利己的な欲望をほしいままにするのを制限されることを望まない。 15

**愛情を守れ**

使徒は、心の腰の帯を締めなさいといっている。だから心を自由に活動させずに抑

制しなければならぬ。固く決心して努力をすれば、自分の思いを守りそれを抑制することができ。正しいことを考えなさい。そうすれば正しい行ないをするようになる。そうするにはあなたの愛情を守って、それが外に注ぎ出てよくない対象に結びつくことのないようにしなければならない。イエスはご自分の生命であなただけを買われた。あなたはイエスのものである。したがってすべてのことにおいて、あなたの頭脳の力と心の愛情をどのように使うべきかについて相談しなければならぬ。いの方はイエスである。 16

## アドベンチスト・ホ - ム

8、7、6、5、4、3、2、1、  
 5 2 S R 4 P 2 ミ  
 T T ・ H T P T ニ  
 ・ ・ 一 ・ ・ 一 ス  
 三 一 九 一 五 一 三 ト  
 三 三 〇 八 四 七 八 リ  
 五 ペ ペ 三 八 八 ペ 一 ー  
 ペ ー ー 年 八 ペ ー オ  
 ー ジ ジ 七 月 九 月 二 日  
 ジ ジ 月 一 日 二 五 日  
 ・ ヒ  
 ・ リ  
 ・ ン  
 ・ グ  
 ・ 三  
 ・ 三  
 ・ 一  
 ・ ペ  
 ・ ー  
 ・ ジ

16、15、14、13、12、11、10、9、  
 Y M L 同 2 5 4 同  
 I S ・ 二 ・ T ・ T ・ 一  
 ・ S ・ 三 四 ・ 六 五 二  
 一 一 一 八 〇 ペ 八 三  
 八 八 一 八 〇 ペ 九 ペ  
 六 年 一 八 二 ペ ー ジ  
 年 四 月 二 一 日  
 日



## 第八章

### 一般に行なわれている求愛の習慣

求愛と結婚に対する誤った考え

求愛についての種々の誤った考えは、誤った結婚観に基づいている。それは衝動や盲目的な情欲に動かされてなされ、軽薄な気分で続けられている。当事者たちはつつましさについてのいましめをしばしば犯し、神のおきてを破らないまでも不謹慎の罪を犯している。結婚制度を制定された神の高貴な高遠な目的が理解されていないため、心の最も純潔な愛と品性の最も高潔な特性が育てられていない。

天使に見られたり天の記録のふみに書かれたくないと思うようなことばや行為はいっさい語ったり行なったりすべきでない。神の栄光を表わすことをひたすら求めなければならない。キリストのでしにふさわしい純潔な清い愛だけを、この世的なものよりもっと天の性質をもった愛だけを心に持たなければならない。求愛においてこれ以外のものはすべて人をひくくし墮落させる。結婚も、それが聖書の高い原則に従ったものでなければ、きよい聖なる神の御目に神聖で高貴なものとはみなされない。<sup>1</sup>

青年は概して一時的な感情にあまりたよりすぎる。愛人の表面的な魅力にたちまち負けてしまっ

て、すぐにそのとりことなるようなことがあつてはならない。この時代に行なわれる求愛は、主よ  
りも魂の敵が大いに力を入れている欺瞞（ぎまん）と偽善の計画である。ここにこそ常識が必要  
なのであるが、しかし実際にはこの問題にあまり常識が働かされていない。 2

**夜ふかし** 夜分遅くまで起きている習慣がよく見うけられるが、両方ともクリスチャンであつて  
も、こうしたことを神はおよろこびにならない。夜ふかしは健康をそこない、頭をぼんやりさせて  
翌日の仕事に支障をきたらせ、人々にも悪い印象を与える。兄弟よ、わたしはあなたがこうした求  
愛の仕方をいとうほど自尊心を持たれることを望む。神の栄光を表わすことにだけ目をそそいでい  
たら、あなたは慎重な注意をもつて行動するはずである。恋愛病というセンチメンタリズムに侵さ  
れて、クリスチャンであるあなたに対して神が持つておられる高い要求を認めることができないほ  
ど盲目になることもないはずである。 3

サタンの使いは、夜の時間の大部分を求愛に使っている人々を見守っている。もし彼らの目が開  
かれたなら、彼らは天使が彼らの言行動作を記録しているのを見るであろう。健康の法則と礼節の  
おきてが犯されている。結婚前に過ごす求愛の時間の幾分かを結婚生活で楽しむ方がはるかによい  
ことである。だが概して結婚は、求愛時代に示されたすべての愛情の終局となっている。

この墮落した時代に、夜ふかしで時間を浪費することが当事者たちを破滅に導いていることが非  
常に多い。男女が恥ずべきことをするときサタンはよろこぶが、神のみ栄えはけがされる。誉れの  
よききこえはこの衝動にかられて犠牲にされる。こういう人々の結婚は神の承認のもとにあげるこ

とはできない。彼らは情欲に駆られて結婚するが、その珍しさがなくなると、ようやく自分たちがどんなことをしたかを認め始める。4

サタンは人の性格のどの点を扱ってよいかを知っていて、その悪知恵を駆使して、人々を陥し入れ滅ぼすための種々のおとし穴を作る。彼は人の一步一步のあゆみを注意深く見守って、さまざまの暗示を与える。人は神のみことばの忠告に従うよりもサタンの暗示に従うことが多い。この精巧にあまれた危険な網は、若い人や軽率な人をかからせるために巧みに用意されている。それは光のおおいで偽装されている場合が多い。そしてそれにかかったものは、いろいろの悲しみで自分を刺し通す。その結果、私たちはいたるところに生涯をすっかり台無しにした人々を見るのである。5

**心をもてあそぶ** 人の心をもてあそぶことは、きよい神の御目には大きな罪である。それにもかかわらずある人々は、若い女性に特別な好意を示し、相手の愛情をさそい出しておきながら、その人のそばを離れると、自分の語ったことばや、そのことばが与えた影響を忘れて新しい人にひきつけられ、前の女性に語ったと同じことばを語り、同じ関心を示す。

このような性質は結婚生活にも表われる。結婚生活は必ずしも移り気な人の心を堅実にし、迷い気のない心をしつかりした原則に忠実な心に変えない。こういう人はひとりの人を愛し続けることにあきる。そして汚れた思いが不潔な行為となって表われる。だからサタンに欺かれて正しい道からそれることのないように、心の腰に帯をしめ、自分の行動に注意することは青年にとって非常に大切なことなのである。6

## 求愛における欺瞞的な行動

相手の両親が知らないのに女性と交際してその友情を得ることは、彼女に対してもまたその親に対してもりっぱなクリスチャン行為とはいえない。彼は、秘密な交際と会合によつて、彼女の心を動かすことができるかもしれないが、しかしそうすることによつて神の子のだれもが持つべき魂の高貴と誠実をあらわすことを怠っている。自分たちの目的を達成するために、彼らは率直に公明に聖書に従つて行動することをしないで、自分たちを愛し、自分たちのために忠実な保護者になろうとしている者たちに対して不真実になる。このような影響の下にむすばれた結婚は、神のみことばにのつたものではない。娘を義務からひき離し、親に従い親をうやまえとのほつきりした絶対的な神の命令について彼女の考えを混乱させるような男は、結婚の義務に忠実な人ではない。

「あなたは盗んではならない」といういましめは、神の指によつて石の板に書かれたのである。だが愛情をひそかに盗むことがなんと多く行なわれ、また許されていることであろう。欺瞞的な求愛が続けられ、秘密の交際が保たれ、ついに、こうしたことがどんな結果に発展するかを知らぬ未経験な者の愛情が、ある程度親から離れ、彼女の愛を受ける資格のないことをその行動がすでにあきらかに示している人に向けられる。聖書はあらゆる種類の不誠実を罪とみなしている。……

求婚や結婚が内密のうちに行なわれることは、非常に多くの不幸の原因であつて、その全貌は神だけがご存じである。この岩にぶつかつて、幾千の魂が難破したのである。クリスチャンを名の人々で、その生活には誠実さがあらわれ、他の事ならどんなことにも理性的にみえる人たちが、この問題では恐るべき過失を犯している。彼らは理屈では変えることのできない決定的な意志を示す。

彼らは人間的な感情と動機に心が迷わされているので、聖書をさぐり神との密接な関係を保とうという気持ちがない。7

**最初の墮落の一步をさけよ** おきての一つが破られると、ほとんど確実に墮落がそれに続く。女性の慎しさという障壁がひとたび破れ去られると、どんなにいやしむべき放縦もさほどひどい罪に感じられなくなる。今日の世の中に、恐るべき女の悪影響の結果がなんと多く見られることである。「遊女」の誘惑のために幾千という人々が獄屋に閉じ込められ、おおぜいの人々が自らの生命を絶ち、あるいは他人の生命を奪っている。「その足は死に下り、その歩みは陰府（よみ）の道におもむく」という靈感のみことは確かに真実を物語っている。

禁じられた危険な場所から人々を守るために、人生の道の両側の至るところに警告の火がともされている。それにもかかわらず、おおぜいの人々は理性の指示にさからい、神のおきてを無視し、光にそむいて致命的な道を選んでいる。

健康な肉体、強健な知性、健全な道徳を維持したいと思うものは、「若い時の情欲」を避けなければならぬ。わたしたちの中にあえてそのごうまんな頭をもたげる悪を、断固とした熱心な努力で制する者は、悪を行なうすべての者に憎まれ敵意をいだかれるかもしれないが、神から重んじられ、賞賛される。8

**悪い種をまく者は、悪い実を刈り取る** あなたがたは、放縦な生活を送って自分の魂を危険にお

とし入れてはならない。友だちをえらぶことに不注意であつてはならない。 9

若い友よ、放蕩に費やしたわずかな時間があなたの全生涯を苦しいものにする実を結ぶ。誘惑に身をゆだねて軽率に過ごした一時間は、あなたの生涯を全然誤った方向に導くかもしれない。若い時代は一度しかこない。だから、有益に過ごさなければならぬ。一度通り過ぎれば、引き返して自分の誤ちを正すことはできない。神につながることをせずに自らを誘惑の道に置く者は必ず倒れる。神はすべての青年を試みておられる。多くの者はおのれの不注意と敬虔の足りなさを、自分よりもつと経験を つんだクリスチャンと名のつている人々の誤った模範のせいにしていいわけをしている。そういう模範を示されても、だれもそのことで正しい行動をやめるべきではない。最後の報告の日に、このような理由をあげていいわけをすることはできない。 一〇

1、M S S・四〇・一八八五年  
2、F E・一〇五ページ  
3、3 T・四四、四五ページ  
4、R H・一八八八年九月二五日  
5、F E・一〇三、一〇四ページ

6、R H・一八八四年一月四日  
7、F E・一〇一、一〇三ページ  
8、S・一九〇三年七月一日  
9、青年への使命・一六〇ページ  
10、4 T・六二二、六二三ページ

## 第九章

### 禁じられている結婚

#### クリスチャンと未信者の結婚

クリスチャンと未信者との結婚に関する神のことばの教えに対して、驚くべき無関心さがクリスチャンの世界に見られる。神を愛し神を恐れると称している多くのものが、無限の知恵を持ちたもう神の忠告に従うよりも、自分自身の心の好みに従うことを選んでいる。この世と来世におけるふたりの幸福と平安に重大な影響をもつ問題に理性や判断力や神に対する畏敬（いけい）の念が忘れられて、盲目的な衝動やかたくなな決心が支配することが許されている。

ほかのことでは常識的で良心的な男女でも、この問題では忠告に耳をおおっている。彼らは友人や身内のものや神のしもべの訴えやなだめに全然耳をかさない。注意や警告のことばは余計なおせっかいにしか思われず、親切に忠告する忠実な友人は敵のような取り扱いを受ける。これはみな、サタンが望んでいる通りのことである。サタンは魂をまどわし、魂はその魔力に魅いられて迷う。理性は自制力を失って欲望が支配するようになる。汚れた情欲が力をふるい、犠牲者が自分で悲惨な捕われの生活に落ち込んだことに気づくころは、もはや遅すぎるのである。これは想像で描いた

絵ではなくて、事実を申し上げているのである。神は、はっきり禁じておられる結婚は承認されない。  
1

### 神の命令は明白である

主は古代のイスラエルに、偶像を拜む周囲の民と結婚してはならないとお命じになった。「また彼らと婚姻してはならない。あなたの娘を彼のむすこに与えてはならない。かれの娘をあなたのむすこにめとってはならない」と。そしてその理由を与えておられる。このよ  
うな結婚から生じる結果を予見された全知の神は、「それは彼らがあなたのむすこを惑わしてわたしに従わせず、ほかの神々に仕えさせ、そのため主はあなたがたにむかつて怒りを発し、すみやかにあなたがたを滅ぼされることとなるからである。」「あなたはあなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた」と宣言しておられる。...

新約にも、クリスチャンと未信者の結婚を禁じる同様のことがある。使徒パウロは、コリント人への第一の手紙の中に「妻は夫が生きている間は、その夫につながれている。夫が死ねば、望む人と結婚してもさしつかえないが、それは主にある者に限る」と言っている。また第二の手紙にもふたたび、「不信者と、つり合わなくびきを共にするな。義と不義となんの係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信仰となんの関係があるか。神の宮と偶像となんの一致があるか。わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている。『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わた



しは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであらう。』だから、『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受け入れよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであらう。全能の主が、こう言われる。』と書いてある。2

神ののろいは、いまの時代になされた時機を得ない不適当な縁組の上にくだる。もしこうした問題について、聖書の中に与えられている光がばくぜんとしたあやふやなものであるなら、今日の多くの青年たちがお互いの愛情の問題についてたどりつつある道について言いわけもできるであらう。しかし聖書の要求は中途はんばな命令ではない。そこには思いとことばと行為の完全な純潔が要求されている。神のことばは足もとを照らす光で、だれも義務の道から迷うに及ばないことを、わたしは神に感謝するものである。青年は聖書を相談相手としてその助言に留意することを務めとしなければならぬ。悲しむべきまちがいは、いつも、聖書の戒めから離れる時に起こる。3

### 神は信者と未信者の結婚を禁じておられる

神の民は、禁じられているところに足を踏み入れるような危険を冒してはならない。信者と未信者の結婚は神に禁じられている。しかし改心していない心が自分の欲望に従うことが多く、神がお認めにならない結婚が結ばれている。そのためにこの世に希望もなく神もなく暮らしている男女が多い。高貴な希望を打ちひしがれ、彼らは環境という鎖でサタンの綱につながれている。情欲や衝動に支配された者は、この世の生活で苦い実を刈り取るばかりでなく、彼らのとった道は、彼ら自身の魂を滅ぼす結果となるかもしれないのである。4

真理を公言するものが、未信者と結婚することによって、神のみこころをふみつける。彼らは神の寵愛を失い、自分自身悔い改めることを困難にしている。未信者は道徳的なりっぱな品性の持ち主であるかもしれないが、彼または彼女が、神の要求に応ぜず、これほどの偉大な救いを軽んじたという一事だけでも、その結婚を實現させてはならぬ十分な理由なのである。その未信者の品性は、イエスが「あなたに足りないことが一つある」と言われたあの若い青年と同じであるかもしれない。その事こそ必要なものである。5

**ソロモンの例** 貧しい無名な者でも、神がその生涯を地上で役立つものとし、天のほまれにしたいと望んでおられる人々がいる。しかしサタンは神のご計画をくつがえすために執ように働いて、彼らが生命の道からそれるような品性の持ち主と結婚させて、破滅にひきずり込む。勝利してこのわなからのがれ出るものはほとんどない。6

サタンは服従にともなう結果をよく知っていた。それでソロモンの治世の初期 王の知恵と善行と正義による輝かしい時代 に、原則に対する王の忠実さをひそかにおかして彼を神から引き離す影響力を導入することに努めた。敵の努力が功を奏したことは聖書の記録を通して知ることができる。「ソロモン王はエジプトの王パロと縁を結び、パロの娘をめとってダビデの町に連れてきて、自分の家と、主の宮と、エルサレムの周囲の城壁を建て終るまでそこにおらせた。」

異教の国と同盟を結び、偶像を拝む王女と結婚してその同盟を固めたことによって、ソロモンは、神がその民の純粋性を維持するために備えられた賢明な道を無分別にも無視してしまった。エジプ

ト人である妻が悔い改めるかもしれないという希望は、罪に対する貧弱な言いわけでしかなかった。他の国々から離れていよとの明白な命令を犯したことによって王は、自己の力を肉の腕に結びつけてしまったのである。

神はあわれみ深い慈悲から、しばらくの間この恐るべき過失を支配された。ソロモンの妻は悔い改めた。王は、自分の無分別のために活動を開始した悪を阻止するために、賢明な方法を講じて多くの成果をあげることができたはずであった。だがソロモンは彼の力と栄光の源であられる神を見失いはじめていた。生まれつきの性向が理性を支配した。自信が強まるにつれて、王は、神の目的を自分のやり方で実現しようとした。……

クリスチャンだと称する多くの人々も、ソロモンと同じように、自分の感化はあやまつている側の人にとって有益であるから未婚者と結婚してもさしつかえないと考えている。しかし彼自身がわなに陥って負け、きよい信仰を捨て、主義を犠牲にし、神から離れ去る場合が非常に多い。彼らは一歩あやまつたために次からつぎへとふみあやまり、ついに自分をしばっているくさを断ち切ろうとしても断ち切れない所にまでいくのである。7

「宗教に対して好意を持っているから」という口実      その未婚者は宗教に対して好意を持っていて、クリスチャンでないという一事を除けば配偶者としてこれ以上望むものがないという言いわけがときどきなされる。信者の理性は、未婚者と生涯のちぎりを結ぶことは正しいことでない暗示するが、十人中九人まで自分の気持ちに負けてしまう。結婚の誓いが結ばれたその瞬間から霊的な

退歩が始まる。宗教への熱情がうすれ、要塞がつつぎ陥れられ、ついにふたりは共に並んでサタンのやみの旗の下に立つ。結婚の祝いにおいてすら世的な精神が良心や信仰や真理に勝利する。新家庭で祈りの時は尊ばれない。花婿も花嫁もイエスを退けてお互いを選んだのである。8

### 信者に変化がもたらされる

新しい関係においてははじめのうちは未信者は何の反対も示さないかもしれないが、聖書の真理に関する話題をとりあげてそれに注意し考慮するように促すと、たちまち感情をかきたてられ、「あなたはわたしがこういう人間であることを知って結婚した。うるさくしないでほしい。今後あなたの変わった考えについて話すことをやめてほしい」と言う。もし信者であるほうが信仰に特別な熱意を示すなら、それはクリスチャン経験に関心を持たぬ側の者に不親切に見えるであろう。

信者であるほうは、この新しい関係で自分の選んだ配偶者にある程度譲歩しなければならないと考える。社交的、世俗的な楽しみが愛されている。はじめのうちはそれをすることをいやがる気持ち強いが、しだいに真理に対する興味がうすれて、疑いと不信が信仰にとつてかわる。かつてしつかりした良心的な信者であり献身的なキリストの従者であった彼が、今のような疑い深い、動揺する人になり得るとはだれも予想しなかったであろう。おろかな結婚のためになんという変化がもたらされたことであろう！ 9

世的な縁組をすることは危険である。サタンは多くの青年男女が結婚した瞬間、彼らの宗教経験と有用さの歴史が閉じられることをよく知っている。彼らはキリストから失われる。彼らは、しば

らくの間は、クリスチャン生活を送るように努力するかもしれない。しかし反対の方向からの根強い影響力にひかれないうに努力するのが精一ぱいである。かつては自分のよろこびと望みについて語ることを特権と感じていたのに、一生の運命を共にする相手がそうしたことに興味を示さないことがわかると、まもなくそれらのことは話題にのぼらなくなる。こうしてとうとい真理に対する信仰は心の中から消えうせ、サタンは知らないまに彼らのまわりに懷疑という網を張りめぐらすのである。  
10

**天のよろこびを犠牲にする** 「ふたりの者がもし約束しなかったなら、一緒に歩くだろうか。」「もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。」「だが、なんと奇妙な光景であろう！これほど密接なつながりを持つ二人の中の一人が信仰に熱心で、一人は冷淡で不注意であり、一人が永遠の生命への道を求めているのに、他の一人は死に至る広い道にいるとは！

幾百という人が、未信者と結婚したためにキリストと天を犠牲にした。あわれな人間を配偶者を選ぶほど、キリストの愛と交わりは彼らにとって無価値なのであるうか。彼らは、尊い救い主になんの愛をも持たぬ人のために天のたのしみをよるこんで犠牲にするほど、天を軽く評価しているの  
11  
であろうか。

未信者と結婚することはサタンの側につくことである。あなたは神のみ霊を悲しませ、神の守護を失う。永遠の生命をうる戦いをするのに、このような恐るべきハンディキャップをつけることが

できるであろうか。 12

「神を信じない夫は、わたしの思いをイエスから遠ざけてしまわないだろうか。彼は神を愛するよりも快樂を愛している。彼は自分がたのしんでいるものをたのしむようにわたしを仕向けはしないだろうか」と自問しなさい。永遠の生命への道はけわしく、困難である。あなたの進歩を遅らせる余分な重荷を負わないようにしなければならない。 13

**かげの消えぬ家庭** 心は人間の愛を切に求めるが、しかしこの愛はイエスの愛に代わるほど強く純潔でとうといものではない。妻は、生活の苦勞や責任や悲しみに応ずる知恵と力と恵みを、救い主の中にだけみいだすことができる。救い主を自分の力またみちびきとしなければならぬ。この地上の友に自分を与える前にまずキリストに自分をささげるべきで、このことを妨げるような関係を持つてはならない。眞の幸福をみいだす者は、自分の所有するもの、自分のなすことの全部に天の祝福がなければならぬ。多くの人々の心と家庭が不幸に満たされるのは、神への不従順からである。姉妹よ、いつも陰におおわれているような家庭を持ちたくなければ、神の敵と結ばれてはいない。 14

**クリスチャンの理由** 宗教上の主義の堅実さがためされる困難な立場におかれたとき、すべてのクリスチャンはどうしななければならないだろうか。彼は模範に値する堅実さで率直にこう言わねばならない。「わたしは良心的なクリスチャンです。わたしは七日めを聖書の安息日と信じています。」

わたしたちの信仰や主義は全然反対の方向を向いています。わたしたちは一緒では幸福になれません。なぜなら、もしわたしが神のみこころをもつと完全に知ろうとすれば、わたしはますますこの世と違ったものになり、キリストのみかたちに同化するようになるでしょう。もしあなたが、これ以上キリストのうるわしさ、真理の美しさを認めないならば、あなたはわたしの愛せない世俗を愛し、わたしはあなたが愛せない神のものを愛します。霊的なものは霊でさとります。霊的認識力がなければ、あなたは神がわたしに対して持つておられるご要求を認めることも、わたしがつかえる主に対するわたしの義務を認めることもできません。そうするとあなたは、わたしが宗教的な義務のためにあなたを無視すると思うでしょう。あなたは幸福ではなく、わたしが神にささげる愛に対してしつとを感じるでしょう。わたしもまた、宗教的な信念で孤独になるでしょう。あなたの考えが変わり、あなたの心が神のご要求に応じ、あなたがわたしの救い主を愛することを学んだとき、あらためて交際しましょう。」

こうして信者は、キリストのために良心に従って、犠牲を払う。永遠の生命を、危険にさらすことができないほど高く評価していることを示す。彼は、イエスより世を選ぶ人、キリストの十字架から自分を引き離す人と結婚するより、独身でいた方がよいと感じる。 15

**安全な結婚** キリストのうちにあるときはじめて、結婚は安全である。人間の最も親密な愛のきずなは、神の愛から受けるべきであり、キリストが支配なさるところにのみ、深い真の、無我の愛がありうるのである。 16

一方が結婚後改心した場合　まだ信仰を持たないうちに結婚し、その後信仰にはいった人は、宗教的信仰についてどんなに大きな相違があろうとも相手に対していつそう忠実でなければならぬ義務がある。しかしたとえ試練や迫害を招こうとも、神の要求をこの世のあらゆる関係よりも上に置かなければならない。愛と柔和の精神を持つときに、この忠誠によって未信者の伴侶を神にみちびく感化を及ぼすことができる。

17

1、5 T・三六五、三六六ページ  
 2、同・三六三、三六四ページ  
 3、F E・一〇二、一〇三ページ  
 4、同・五〇〇、五〇一ページ  
 5、4 T・五〇五ページ  
 6、5 T・一二四ページ  
 7、F E・四九八、五〇〇ページ  
 8、4 T・五〇五ページ  
 9、同・五〇五、五〇六ページ

10、同・五〇四、五〇五ページ  
 11、同・五〇七ページ  
 12、5 T・三六四ページ  
 13、同・三六三ページ  
 14、同・三六二、三六三ページ  
 15、4 T・五〇六、五〇七ページ  
 16、ミストリー・オブ・ヒーリング・三三〇ページ  
 17、P P・一七五ページ



## 第一〇章

### 忠告が必要な時

聖書から忠告を得よ 神によって制定された結婚の制度は、神聖な儀式であって決して利己的な精神で行なうべきではない。結婚を考慮しているものは、その重要性についてまじめに、祈りをこめて考え神のみこころに一致した道を進んでいるかどうかを知るために、神の忠告を研究しなければならぬ。この点について神のみことばを通して与えられているご命令を注意深く考えるべきである。天は、聖書に与えられているいましめに一致したいという熱心な希望から結ばれた結婚をよるこびをもって見守る。 1

冷静な理性と落ち着いた判断を持つて考慮しなければならない問題があるとすれば、それは結婚問題である。聖書を助言者にしようとするならば、それはふたりの人間が一生のきずなをむすばないうちでなければならない。しかしこの問題について感情を道案内にすべきであるという気持ち一般にはやっていて、多くの場合、恋愛病的な感情に支配され、ついに破滅におちいる。青年たちが、他の問題にくらべて知恵が足りず、人に耳をかたむけようとしなないのはこの点である。結婚の問題は、青年たちの上に一種の魔力を持っているようにみえる。彼らはおのれを神にまかせようと

しない。彼らの感覚はしばらく、あたかも自分の計画がだれかにじゃまされるのを恐れるかのように秘密のうちに行動する。 2

多くの人は危険な港の中を走っている。彼らは水先案内人が必要なのに、その大きな必要な助けを受けることをあざけり、自分で自分の舟をあやつる力があると思い、信仰と幸福の難破をきたすようなかくれた岩にいまにもぶつかりそうになっていることに気がつかない。……神のみことばを忠実に研究する者とならなければ、現世と来世のために自分の幸福も他人の幸福もそこなうような重大なまちがいを起こす。 3

**正しい決定に祈りが必要である**      結婚を考える前に一日二回祈る習慣のあつた人は、結婚への歩みが予期される時には一日四回祈らなければならない。結婚は、この世においても来世においてもあなたがたの一生に影響を及ぼすものです。……

いまの時代の大多数の結婚とその様式は、末の世のしるしの一つとなっている。男も女もここで強情で神を問題にしていない。宗教は、この厳肅で重大な事ごとに宗教の果たすべき立場はないかのようにそれはうち捨てられている。 4

**夢中になって忠告を聞かぬとき**      両人が知り合いになる。彼らは互いに夢中になり、いつさいの関心はそのことに奪われる。理性は盲目になり、判断力は放棄される。彼らはどんな忠告やどんな抑制にも従おうとせず、どんな結果になろうと気にせず自分たちのやり方を押し通そうとする。

彼らののぼせ方は、一応行きつくところまで行かなくてはやまない流行病や伝染病のようなもので、それをとどめることのできるものは何もないようにみえる。もし当の兩人が結婚したら、結果は一生の不幸以外にないということをもとめている人々が彼らのまわりにいるであろう。しかしどんなに頼んでも、どんなにすすめてもむだであろう。おそらくこういう結婚によって、神への奉仕において神から祝福されるはずの人の有用さがそこなわれ、だめになってしまふであろう。しかし理性も説得もかえりみられない。経験のある人たちの言うことも効果が無い。それは彼らの欲望から出た決心をかえる力がない。彼らは祈禱会に出ることやまた宗教に関係のあるどんなことにも興味を失う。彼らは互いに全く夢中になってしまつて、人生の義務など大した問題ではないかのように、かえりみない。5

**青年は経験のある年長者の知恵が必要である**

結婚によって多くの不幸がもたらされているのに、青年はなぜかしこくならないのであろう。彼らはなぜ年長のもつと経験のある人々の忠告はいらないといつまでも感じるのであろう。仕事のことになる人々は非常に慎重である。何か重要な事業を始める前には、彼らはまず自分自身をそのために準備し、その計画が失敗しないように、その問題に時間をかけ、金銭を費やし、注意深く十分に研究する。

子孫や将来の生活に影響を及ぼす結婚関係にはいる前に、これ以上に注意を働かすことがどんなにたいせつなことであらう。だが注意する代わりに、たわむれや軽薄な精神や、衝動や欲情から結婚をしたり、盲目的に、冷静な判断もなく行なうことが多い。これを説明できるただ一つのは、

サタンがこの世に不幸と破滅があることを好み、魂を陥れるために網を張っているということである。彼はこれらの無分別な人々がこの世における喜びと、きたるべき世における家庭を失うのを喜ぶ。  
6

**両親の分別ある判断を尊重すべきである**

子供たちは、親の忠告や意見を無視して、自分自身の気持ちや望みだけを考慮すべきであろうか。親の希望や勧告などは全然考えてみようともせず、親の円熟した意見には見向きもしようとしない人がいる。利己主義のために彼らの心は、子としての愛情に全く扉をとざしている。この点について、若い人々の考えを目ざめさせなければならぬ。おきての第五条は、約束の付加されている唯一のいましめであるがそれは軽くみられ、愛人の要求によつて積極的に無視さえされている。母親の愛を軽んじ、父親の守りはずかしめることは、多くの青年たちについて記録されている罪である。

この問題に関連して最大のまちがいの一つは、若い者や経験のない者が自分たちの愛情をじゃまされたくない、自分たちの恋愛経験に口を出してもらいたくないという考えである。あらゆる立場から考えるべき問題があるとすれば、それはこの点である。他人の経験の助け、またこの問題を両方の立場から冷静に深く考慮することが絶対的に必要である。この問題は大多数の人があまりにも軽くとり扱っている問題である。若い人々がたよ、神と、神をおそれる両親を助言者となさい。この問題について祈りなさい。  
7

敬虔な両親に打ち明けよ      さいわいに神をおそれる両親を持っていたら、彼らの助言を求めなさい。自分の望みや計画を両親に打ち明け、彼らが人生の経験から教えられたことを学びなさい。∞

もし子供が両親ともつと親しければ、もし彼らが両親を信頼し、自分の喜びや悲しみを打ち明けるなら、彼らは将来数々の悲しみを味わわずにすむであろう。どの道が正しいかわからずに迷っているとき、自分の考えるままを両親に打ち明けてその忠告を求めなければならない。子供の危険を示すのに、敬虔な親ほどふさわしい者が他にあるであろうか。子供の独特な気質を親ほど理解できるものがあるであろうか。クリスチャンである子供は、神をおそれる親の愛と同意をあらゆる地上の祝福以上に高く評価する。両親は子供に同情し神が彼らを守り導きたもうように彼らのために、また彼らと共に祈ることができる。彼らは何よりもまず、裏切ることなき友人であり、相談相手である神を子供に示す。9

両親は青年の愛情を指導せねばならない      父親と母親は、青年が彼らに適した配偶者に結ばれる

よう彼らの愛情を指導する責任があることを感じなければならない。両親は神の恵みの助けによって、自分のことばと模範を通して、子供が清く純潔であり、善と真実にひかれるよう、幼い時から彼らの品性を形造ることを自分の義務と感じなければならない。類は友をよぶ。類は友を理解する。真理と純潔と善に対する愛を幼い時から魂に植えつけなければならない。そうするとき、青年はこれらの特性をそなえた人々との交わりを求めるであろう。10

## イサクの模範

親たるものは、子供の将来の幸福に対する責任を決して忘れてはならない。イサクが父親の判断にまかせたのは、服従の生活を愛するように彼を訓練した教育の結果である。11

イサクは神から高い栄誉を受けて、世の祝福となるべき約束を継ぐ者とされた。しかし四十才になった時、彼は神をおそれる老練なしもべに彼の妻の選択を依頼しようとする父親の意見に服従した。その結婚の結果、聖書に書かれている通り、やさしく美しい幸福な家庭が与えられた。「イサクはリベカを天幕につれて行き、リベカをめぐって妻とし、彼女を愛した。こうしてイサクは母の死後、慰めを得た。」12

## 賢明な親は思いやりがある

「親はむすこや娘の考えや気持ちを無視して配偶者を選ぶべきですか」とあなたは尋ねるが、わたしはあなたがすべき質問を試みよう。むすこや娘は、そうした一歩が子供に幾分なりとも愛情を持つ親の幸福に実際的な影響を与えるときに、親に最初に相談せずに配偶者を選んでよいであろうか。子供は両親の忠告や説得にもかかわらず、あくまでも自分の道を進んでよいであろうか。わたしはいいえとはつきり答える。決して結婚しないとしてもいけない。

第五のいましめはそうした行動を禁じている。「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。」これは約束を含むいましめである。これに従うものに主は必ずその約束を成就される。賢明な親は、子供の意志を尊重せずに彼らのために配偶者を選ぶようなことは決してない。13

### 第3部 生涯の伴侶の選択

7、	6、	5、	4、	3、	2、	1、
F E ・ 一〇四ページ	同 ・ 一八八六年二月二日	R H ・ 一八八八年九月二五日	青年への使命・四六二ページ	同 ・ 一〇〇ページ	F E ・ 一〇三ページ	L ・ 一七・一八九六年

13、	12、	11、	10、	9、	8、
5 T ・ 一〇八ページ	同 ・ 一七五ページ	同 ・ 一七五、一七六ページ	P P ・ 一七六ページ	F E ・ 一〇五、一〇六ページ	青年への使命・四三七ページ





## 第四部

## 成功および不成功の原因



## 第一章

# 早婚、性急な結婚

**子供心の愛情の危険** 早婚を奨励してはならない。結婚のような重要で影響するところの大きな関係には十分な準備もなくまた知能、体力が十分に發育もしないのに急いではいるべきではない。1 少年少女たちは、未熟な愛と未發達の判断力のまま、とうとい氣高い感情もなく、結婚関係にはいり、ただ少年少女らしい情熱にひかれて、結婚の誓約をかわす。……1

子供時代にむすばれた愛情が、不幸な結婚生活あるいは不面目な離婚に終わる場合がよくある。親の同意なしに、年若い時に愛情にむすばれることによって幸福になることはめつたにない。十分な年令と経験に達し、独立しても、りっぱで安全な時期に達するまで、年若い時の愛情は抑制しなければならぬ。抑制されなければ、彼らは不幸な生活をつづける危険がある。まだ十代を出ない若者は、自分と同じように相手が一生の伴侶として適当かどうかの判断に欠けている。判断力がもつと發達すると、彼らは自分たちが一生お互いにしばられていて、しかもお互いに相手を幸福にしようという考えなどないことに氣がつくであろう。すると彼らは、何とかしてよくやって行こうとしないで、互いに非難し合い、その破綻(たん)は大きくなり、ついには互いに冷淡と無視の状態

がつづく。彼らにとって、家庭ということばにはなんの神聖さもない。家庭のふんい気そのものが愛情のないことばと、きびしい非難によって毒されているのである。2

早婚は、今日みられる多くの悪を生み出している。あまりに年若くて結婚することは、肉体の健康も知力も増進しない。この問題についてはあまりに理性が働かされていない。多くの青年たちは一時の感情にかられて行動する。彼らに幸福か不幸、あるいは祝福かわざわいかのどちらかをもらすこの一歩が、一時の感情にかられてあまりにせっかちにふみ出される。クリスチャンとしての立場からの理性や教えに耳をかたむけようとしらない人が多い。3

サタンは、経験のない青年たちを結婚の縁組に急がせようと、いつも忙しく立ちまわっている。

しかしわたしたちはいま行なわれている結婚をなるべく誇りにしない方がよい。4

性急な結婚の結果、神の民であると公言する人々の間にすら別居や離婚があり、教会は非常に混乱している。5

イサクの道と、今日の青年たち、ことにクリスチャンと称する青年が歩んでいる道との間には、なんとという相違があることであろう。若い人たちの中には、愛情をそぐことは自分たちだけが考えればよいことで、神にも両親にも干渉されるべき問題ではないと思っている人が少なくない。一人前の男女にならないうちから、彼らは親の助けなしに自分だけで選択する能力があると考えている。結婚して数年もすればその誤りははっきり現われるが、その時にはもうその有害な結果を防ぐにはおそすぎる。せっかちな選択をさせたところの知恵と自制心の欠乏が、同様にまた不幸を悪化させ結婚関係はついに耐えがたいくびきとなる。こうして多くの人たちは人生の幸福と、来世の望

みをだいなしにしてしまう。 6

**将来の神の働き人が陥れられる**

青年たちの中には、真理を受け入れてからしばらくの間順調に進みながら、おろかな愛情や不幸な結婚という網をサタンに張りめぐらされた者がある。サタンは清い道から彼を誘い出すのにこれが一番成功を収める方法であることを知っている。 7

わたしは今日の青年たちが彼らの大きな危険をほんとうに自覚していないことを示された。神がご自分のみわざの種々の部門において使いたいと思っておられる青年がおおぜいいるが、サタンが間にはいつて、彼らを自分の網の中に引き入れて迷わせるので、彼らは神から遠ざかり、神のみわざにたずさわる能力を失う。サタンは抜け目のない、ねばり強い働き人である。彼は油断している者をどのように陥れるべきかをよく心得ている。サタンの誘惑から逃げる者はほとんどないということとは驚くべき事実である。青年たちは自分の危険を認めていないから、サタンの計略に対して少しも警戒することをしていない。サタンは、彼らが神の知恵や、神が警告し、いましめ、忠告するようにおつかわしになった人々の知恵を求めずにお互い同志で愛情を結び合うようにさせる。彼らは自分に自信があるので束縛されることにがまんができない。 8

**十代の青年への勧め**

少女たちへの愛についてのあなたの考えは子供っぽい。そのためにあなたをりっぱだと考える人はだれもない。あなたはそういうことに頭を使うことによって勉強への意欲を失っている。あなたは清くない交際をするようになり、あなたの習慣も他の人々の習慣も墮落

する。これがわたしに告げられたあなたの状態である。あなたがあくまでも自分のやり方を変えな  
いならば、あなたの心は真理と義に調和しないから、あなたを指導し感化し、あるいは抑制しよう  
とする者はだれでも、あなたの強い反抗に出会うのである。 9

**年令の相違** 結婚をする人は世間的な財産がなくても、健康というもつと大きな祝福を持つべき  
である。たいていの場合、年令に大差があつてはならない。この法則をおろそかにすると若い方の  
健康をひどくそこなうことがあり、また、その子供は肉体と知能に欠けることが多い。また若い者  
が養育や友情を必要とするとき、老年の親からそれを受けることができないし、愛と指導が最も必  
要であるときに、父や母が死んでいて、それが得られないことがある。 10

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三〇ページ | 6、P P・一七五ページ              |
| 2、青年への使命・四五四、四五五ページ      | 7、S T・一四、一五ページ            |
| 3、同・四五五、四五六ページ           | 8、同・一〇五、一〇六ページ            |
| 4、2 T・二五二ページ             | 9、M S S・一五A・一八九六年         |
| 5、R H・一八八八年九月二五日         | 10、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三〇ページ |

第二二章

性格上の調和

性格的に合う 家族の者が結婚してそれぞれの幸福な家族を構成するための準備となるクリスチヤン的な礼儀、すなわち行儀正しさや服従や互いに尊重し合う精神が多く、家庭に欠けている。忍耐や親切や、思いやりある礼儀やクリスチヤン的な同情と愛のかわりに、鋭いことばや意見の衝突や批判的な圧制的な精神がある。1

結婚する二人が結婚前にお互いの習慣や性格を知り合う機会に恵まれないことがよくある。したがって生涯のちぎりを結ぶとき、日常生活に関する限り、彼らは事実上他人なのである。ふたりが性格的に合わないということを知ったときは、もはや手遅れであるという場合が多い。彼らはこういう結婚をした結果一生みじめな生活をしなければならない。妻や子供が夫や父親の怠惰や無能、または悪い習慣のために苦しめられることがしばしばである。2

つりあわない結婚の結果として、今日世には不幸と罪が満ちている。多くの場合、まだ数か月もたたないうちに、夫と妻は自分たちの性格がお互いに融合しないものであることに気がつく。その結果、天来の愛と調和だけがあるべき家庭の中に、不和がみなぎる。

つまらないことを言い争って、にがにがしい精神をいただくようになる。人の前で争い口論することによって家庭の中に言いようのない不幸が持ち込まれ、愛のきずなによって結ばれているべき兩人を引きはなしてしまう。こうして賢くない結婚によって幾千の人々が魂も肉体も犠牲にし、破滅の道をたどっている。 3

### 分裂した家庭に見られる絶えない不和

結婚生活の幸福と繁栄は夫婦の一致にかかっている。

肉の心が、キリストの心に同化した魂とどうして調和することができよう。一人は自らの心の衝動のままに考え行動して肉の種をまき、他は自我を押え、生まれつきの性格に勝利し、自分がそのしもべであると公言している主に服従した生活をしようとする努力して霊の種をまく。このように、ふたりの趣味や好みや目的にはしじゅう違いがあるのである。信者であるほうが固く主義に立ち、まだ悔い改めていないほうを導かないかぎり、失望して、天と何の連なりをも持たぬあわれな配偶者のために自分の宗教上の主義を捨ててしまうのが常である。 4

### つり合わないために結婚が破れる

多くの結婚が不幸しかもたらさないにもかかわらず、青年た

ちはそのことを考えている。それはサタンが彼らを導き、彼らが自制力や家族を養う能力もないのに、幸福になるためには結婚しなければならぬと信じ込ませるからである。不愉快な言い争いや不和を避けるために積極的に相手の性格に合わせるように努力しないものは結婚すべきでない。だが結婚は終わりの時代の誘惑のわなの一つである。幾千という人々がこのために、この世と来世の



破滅におちいった。5

**盲目的な愛の結果** 盲目的な愛という伝染病にかかった人の機能はすべておかされる。こういう人は分別のない者のように見え、その行為は見る人に嫌悪の情をもよおさせる。……多くの人は早婚という形でこの病の危険期にはいる。だが結婚の珍しさが過ぎ、魅惑的な恋愛の力が消え去ると、一方または両方が自分のほんとうの状態に目ざめる。彼らはつり合わない結婚をしたこと、しかも一生涯結ばれてしまったことを発見する。最も厳粛な誓いによって結ばれた二人は、重い心で自分たちが送らねばならないみじめな生活を見やる。彼らはその状態をそれ以上悪化させぬよう努力すべきであるが、たいていの者はそうしない。彼らは結婚の誓いを破るか、また自分がすすんで背負ったくびきを更に苦しいものにするかどちらかである。そのくびきがあまりにも苦しいために自殺する臆病者も少なくない。6

これ以後は、争いのもととなるすべての事がらを避け、結婚の誓約を破らぬようにするにはどうすべきかということをも夫と妻の生涯の研究題目としなければならぬ。7

**他人の経験は警告である** A氏はサタンがあやつり大成功を収める性質を持っている。このことは青年たちにとって、結婚に関する一つの教訓でなければならない。A氏の妻は配偶者を選ぶ時に理性と判断力に従わずに、感情と衝動に従った。彼らの結婚は真の愛情の実であったであろうか。そうではなかった。それは衝動的、盲目的な、清められていない情欲の結果であった。どちらも結

婚生活の責任を負うのに適していなかった。新しい生活に対する珍しさがなくなり、お互いによく知り合うようになったとき、彼らの愛情はいっそう強いものになったであろうか。彼らの愛情はさらに深くなり、お互いの生活がとけ合って美しく調和したであろうか。事実はその正反対であった。彼らの品性の最も悪い欠点はくりかえされているうちに根強いものとなり、彼らの結婚生活は幸福なものとならずに、いよいよ困難がまし加わった。 8

わたしは長年、不幸な結婚をしたいろいろな人から手紙をいただいてきた。わたしに打ち明けたいとわしい事実は全く心を痛ませるものである。こういう不幸な人々にどんな忠告を与えればよいのか、どうすれば彼らの運命をもっとたえやすいものにできるかを決めることはやさしいことではない。しかし彼らの悲しい経験は他人への警告となるべきである。 9

- |                          |                |
|--------------------------|----------------|
| 1、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三一ページ | 9、同・一二三ページ     |
| 1、R H・一八八六年二月二日          | 6、同・一〇〇、一〇一ページ |
| 2、P P・一八九ページ             | 7、同・一二二ページ     |
| 3、青年への使命・四五五、四五六ページ      | 8、同・一二一、一二二ページ |
| 4、4 T・五〇七、五〇八ページ         | 9、同・三六六ページ     |
| 5、5 T・一二二、一二三ページ         |                |

第一三章

家事教育

結婚のための準備は教育の大切な部分である

結婚するふたりが、家庭生活の実際のとめに関

する知識を得るまで、どんな理由があっても結婚してはならない。妻はやがて与えられる子供を正しく教育できるように、心や態度の修養ができていなければならない。1

学校を優等で卒業し、教育があるといわれている多くの婦人が、實際生活のつとめについてはずかしいほど無知である。彼女たちは家庭を正しく治めるに必要な資格に欠けており、したがって家庭の幸福になくてならぬ資格にも欠けている。彼女たちは向上した女性の地位とか権利について論ずることができるかもしれないが、彼女ら自身は女性の真の地位よりはるか下のところにいる。

エバの娘たちはみな、家事の知識を十分に得、家庭のすべての方面の仕事の訓練を受ける権利がある。若い女性はだれでも、妻や母親の地位につくように召された時、自分の国を治める女王のように、家庭を治めることができるように教育されるべきである。彼女は子供を指導教育し、召使をさしずし、必要ならば自分の手で働いて家庭の欠乏を助けるだけの能力がなければならない。人体の機能や衛生の原則、食事や衣服、労働やレクリエーション、その他家庭の幸福に密接な関係を持

つ無数の事がらを理解することは彼女の権利である。子供が病気になったとき、彼女の尊い宝を見知らぬ看護婦や医者の手にかかえずに自分でみとることができるよう、病気の最良の取り扱い方を知る権利がある。

有用な仕事のことは何も知らないことが真の紳士や貴婦人のたいせつな特徴であるという考えは、人間を創造された神の意図に反する考えである。怠惰は罪である。日常のつとめについて無知であることはおろかであった結果である。それは悔いを後年に残すこととなる。2

若い婦人は料理その他の家事はいやしい仕事と考え、結婚をして家庭をもつ女性の多数がこの妻や母にゆだねられている義務を少しも知らないのである。3

若い人々が彼らの家庭に生まれてくる子供の育て方を知らない限り結婚してはならないという法則であるべきである。彼らは神がお与えになった家庭をどのように管理すべきかを知らなければならぬ。神が彼らのからだの中にお設けになった法則を理解しないかぎり、彼らは神と彼ら自身に対する義務を理解することはできない。4

#### 家事の訓練が大学の課程に含まれるべきである

わが教団の大学で学ぶ男女が、家庭生活で受けるべき教育については特に注意を払う必要がある。私たちの大学で学んでいる学生に、怠け心を捨てさせて指定された仕事をするように教え込むことは、品性形成の働きにおいて非常にたいせつなことである。彼らは日常生活のつとめに慣れる必要がある。家庭の仕事を、できるだけ音をたてたり混乱を起こしたりしないで徹底的にじょうずにするように教えなければならない。どんなことも

上品にきちんとしなければならぬ。台所や家の中のその他の場所を気持ちよく、清潔にしておかなければならぬ。本は適当な時間まで片づけておかねばならぬ。また家事をおろそかにするほど余分に勉強をしてはならない。家族の幸福が左右されるところの家事をおろそかにしてまで書物の勉強に心を奪われてはならない。

これらのつとめを行なうとき、不注意やなげやりやだらしなさといった習慣に打ち勝たねばならない。なぜなら、そうした習慣を矯正しなければ、それが生活のすべての面に表われて、その人の生活の有用性をそこなうからである。5

#### 家庭づくりの知識は不可欠である

生徒の時間を消費している学科の中には、有用さや幸福という点においてはあまり必要のないものが多い。すべての青少年たちにとって、ぜひとも必要なのは、日々の義務について完全な知識を持つことである。やむを得なければ、若い女性が、フランス語や代数やあるいはピアノでさえ、知らないですますことはできる。しかしおいしいパンを作ったり、からだにきちんとあつた衣服を作ったり、その他家事に関するいろいろな務めをりっぱに果たすことを学ぶことだけは、どうしても欠くことができない。

家族全体の健康と幸福にとって、料理をする者の技術と知恵ほどたいせつなものはない。調理のまちがった不衛生な食物は、大人の有用さと子供の發育を妨げ、だいなしにしてしまうことすらある。しかし身体が必要に應じしかも食欲をそるおいしい食物を用意して、人生の正しい方向に貢献することができる。さもないとまちがった方向に行ってしまう。このように人生の幸福は、

多くの点において日常の務めを忠実に果たすことにかかっている。6

### 衛生の原則に注意を払う

食事、運動、育児、病人の治療その他これに類した多くのことに応用

されている衛生学の原則には、普通以上に多くの注意を払わなければならない。7

衛生学の研究において、熱心な教師であるならば、あらゆる機会を利用して、個人の習慣にも周囲のすべての環境にも、完全な清潔が必要であることを示すであろう。∴健康的な寝室、すみずみまで清潔な台所、衛生的な食物がていさいよく整えられた食卓などは、家族の幸福と心ある来客の尊敬を確保する上に、どんなに高価な家具類を客間にならべたてよりかはるかに価値がある。千八百年前天来の教師イエスが「命は食物にまさり、からだは着物にまさっている」(ルカ一二ノ二三)と仰せになったみことばは、当時に劣らず今日もなお必要な教訓である。8

### 勤労の習慣を身につけるように勧められた若い女性

あなたには、安心して結婚生活にはいるた

めに、厳しく訓練し、断固として抑制しなければならない性格上のくせがある。この性格上の欠点に勝利しなければ、あなたは幸福な妻にはなれないから結婚について考えぬ方がよい。あなたは家事を組織的にするよう自分を訓練することを怠り、勤勉な習慣を身につける必要を認めなかった。有用な働きをたのしむ習慣は、一度形成されたならいつまでも失われることはない。この習慣を身につけたとき、あなたは人生のどんな立場におかれてもよい準備ができ、妻の地位につくにふさわしい者となったのである。あなたは活動を愛するようになるであろう。あなたが労働をたのしむよ

うになれば、その仕事のことを考えるので、夢にふける時間はなくなるであろう。

有益な労働の知識はあなたのいらいらした、不満な心にエネルギーと能率を与え、尊敬を感じさせるよろしきを得た、つつましかな威厳をあなたにそえる。9

**若い女性のための実際的な教育の価値**　むすこに将来の生計のための教育をほどこす必要がある

と考えている多くの人は、むすめが独立し自活できる教育を受けるか受けないかは、むすめ自身の自由であると考えているようである。むすめは、毎日のパンを得るために実際に利用できるようなことは学校でほとんど学ばない。また家庭でも台所や家庭生活の技術をおそわないから、成人しても何の役にも立たず、ただ両親の重荷になるだけである。……

自分自身のめんどろを見ることを教えられた女性は、他人のめんどろも見ることが出来る。彼女は決して家庭や社会の重荷にならない。不幸に見舞われても、彼女にどこかに働き場が、正当な生計を得て養わねばならない人々を助けることができる働き場が与えられる。女性は、必要があれば生活費が得られるような技術を身につけなければならない。りっぱな仕事はいろいろあるが、何よりもまずすべての女性は、家事の責任を処理することを学び、料理人、家政婦、裁縫師でなければならない。裕福であっても貧しくとも、一家の主婦が知らなければならぬことはすべて理解していなければならない。そうであれば、たとえ逆境にあっても、どんな危急にも直面できる準備ができてゐる。彼女はある意味で環境に支配されない人となる。10

家事の知識はすべての女性にとって計りしれない価値がある。妻や母親が無能なために幸福を破

壊されている家庭が数限りなくある。わたしたちの娘たちが、絵やししゅうや音楽や、あるいは「立方根」や作文法をならうことよりも自分の衣服を裁断してそれを縫ったり、修繕したり、食事を健康的においしく作る方法を学ぶほうがはるかに重要である。女の子が九才か十才になったら、その年ごろにふさわしい何かきまった家庭の仕事をさせ、そのやり方に対して責任をもたせるべきである。ある父親が、娘たちをどうするかと尋ねられたとき、「娘たちが時間をじょうずに使い、妻や母親になり、家庭のかしらになり、社会の有用な一員になれるように、娘たちのりっぱな母親をよく見習うようにさせるつもりです」と答えたが賢明な父親である。――

**夫になる人は勤勉で節約する人でなければならない**

むかし、花婿は結婚の約束が批准される前

に、ある一定の金額、あるいはその時の事情に応じて同額に値する他のものを、妻の父親に収めねばならない習慣があつた。これは結婚関係に対する保障と見なされた。父親たちは、家族を養う準備もできていない人に、自分の娘の幸福をまかせることは安全でないと考えていた。彼らが事業をうまく処理して土地や家畜を手に入れる力がなく、節約する心がなければ、彼らの生活は役に立たないものになるとおそれられた。だが妻のために支払うものが何もない人のために一つの方法が設けられていた。彼らは、要求された結納金に従って定められた一定の期間、愛する人の父親のために働くことを許されていた。花婿となる人が忠実に奉仕し、その他の点においてもりっぱであることを立証したとき、彼は娘を妻にすることができた。そしてたいていの場合父親は、受付取った結納金を結婚のとき娘に与えた。……



この古代の習慣は、ラバンがしたように、ときには悪用されることがあったにしても、よい結果をもたらした。花婿が花嫁を得るために働くことを要求されたとき、性急な結婚は防ぐことができた。家族を養う彼の能力ばかりでなく、彼の愛情の深さをためす機会もあったわけである。今日これと反対のコースがたどられているために多くの悪が生じている。 12

男はだれでも、経済的能力がないことは許されない。親切で、氣立てがやさしく、寛大でよい人であり、クリスチャンであるが、自分の仕事をうまく処理する能力がないといえる人がおおぜいいる。金銭に関する限り彼はただの子供である。彼は独立の原則を理解し実行するよう親に教えられて成長しなかったのである。 13

- |    |                        |     |                |
|----|------------------------|-----|----------------|
| 1、 | P H J・一八九〇年五月          | 8、  | 同・二五四ページ       |
| 2、 | F E・七五ページ              | 9、  | 3 T・三三六ページ     |
| 3、 | ミニストリー・オブ・ヒーリング・二七九ページ | 10、 | H R・一八七七年二月    |
| 4、 | M S S・一九・二八八七年         | 11、 | F E・七四ページ      |
| 5、 | 6 T・一六九、一七〇ページ         | 12、 | P P・一八八、一八九ページ |
| 6、 | 教育・二七二、二七三ページ          | 13、 | L・一二三・一九〇〇年    |
| 7、 | 同・二五一ページ               |     |                |

第一章

## 真の悔い改めが必須条件である

宗教は家庭の幸福を確保する

家庭の宗教はすばらしい力である。妻に対する夫の態度、また夫に対する妻の態度で、家庭生活を天の家庭にはいる準備とすることができる。1

キリストの愛に満たされた心は互いに遠く離れることはできない。宗教は愛である。だからクリスチャンの家庭は愛が支配し、愛が思いやりある親切なことばや行為やつつましい礼儀正しさとなつて表わされる所である。2

家庭に宗教が必要である。結婚生活をしばしば不幸に陥れる悲しむべき悪から家庭を守ることのできるものは宗教だけである。深い、真実な、無我の愛はキリストが支配されるところにしかない。こういう愛があるとき、一つの魂がもう一つの魂と結合し、ふたりの生活は互いにとけ合つて調和するようになる。神の天使はこういう家庭の客になる。天使の番によつて結婚の室は神聖なものとされる。低級な欲望は消えうせ、心は神へ向けられ、愛情は神にのぼっていく。3

キリストがとどまつておられるすべての家庭では、互いにやさしい関心と愛があらわされる。それは、愛撫するときだけに表わされる断続的な愛でなく、深い不変の愛である。4

キリスト教は支配力とならなければならない

キリスト教は結婚関係を支配する力を持つべきである。だがこの関係に導く動機がクリスチャンの原則に一致しない場合があまりにも多い。サタンは神の民を自分の部下と結婚させることによって彼らに対する自分の権力を拡大しようとたえずねらっている。そしてそれを実現するために彼は人々の心に不潔な欲望をよびさまそうと努力する。しかし主は、神の民が神への愛を持たない人と結婚してはならないことをみことばの中ではつきり注意しておられる。5

ある新婚夫婦への忠告

結婚、すなわち一生の結合は、キリストとキリストの教会との結合の象徴である。キリストがご自分の教会に対して示される精神は、夫と妻が互いに示し合わなければならない精神である。もし彼らが神を最高に愛するならば、彼らは主にあつて互いに愛し合い、いつも相手を礼儀正しく扱い、共に進んでいくであろう。お互いに自己を否定し自己を犠牲にすることによってふたりは、お互いに相手の祝福となる。

あなたがたはふたりとも改心する必要がある。あなたがたのどちらも神への服従について正しい概念を持っていない。「わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである」というみことばを学びなさい。わたしはあなたがたおふたりが神のまことの子供、神が責任をおゆだねになれるしもべとなることを心から希望している。そうなたときにあなたがたに平和と確信と信仰が与えられる。実際、あなたがたふたりとも幸福な堅実なクリスチャンになることができるのである。善を選び悪をしりぞけるにはどうすればよいかを知る

ことができるように鋭い識別力をやしないなさい。神のみことばを学びなさい。主イエスはあなたがたが救われることを望んでおられる。兄弟よ、イエスはあなたの生涯を有用なものとするために、あなたをすばらしい方法でお守りになった。だからできるだけ多くのよいわざを行ないなさい。

神の子になりたいというひたすらな望みを持たないかぎり、あなたがたはどうしたらお互いに助け合えるかということをはつきり知ることにはできない。相手を幸福にするために、自分の望みや目的を捨てていつも互いにやさしい思いやりを持ちなさい。あなたがたは、一日自分について知ることができるであろう。日一日と、自分の品性の弱い点を強くしていく方法を学ぶことができるであろう。あなたがたはイエスの意志に自分の意志を従わせるから、主イエスはあなたの光、力、喜びの冠となられる。...

あなたがたは心のうちに神の恵みが必要である。安易な、怠惰な生活を望んではならない。神のみわざと蘭係を持つ者はみな利己主義を絶えず警戒しなければならぬ。あなたがたのランプをととのえ、それをいつも燃やし続けなさい。そうすれば乱暴なことばを吐いたり行動をとったりすることはないのである。互いに相手をよろこばせようと努めれば、あなたがたはふたりとも幸福になるであろう。魂の扉を地上に対して閉じ、天に向けてあけなさい。

男も女もキリストを自分の個人的な救い主として認めるとき、高い標準に達することができる。神にすべてをゆだね、目をさまして祈りなさい。永遠の命を得るために努力しているという自覚は、あなたがたふたりを力づけ慰めるであろう。あなたがたはことばにおいて思いにおいて行ないにおいて世の光とならなければならない。主にあって自分を訓練しなさい。なぜなら主は、あなたがた

が自己を訓練せずには正しく果たすことのできない責任をゆだねておられるからである。あなたが  
たはイエスを信じることによって自分の魂を救うだけでなく、ことばと模範を通して他人の魂をも  
救うように努力しなければならぬ。キリストを模範としなさい。勝利する力をお与えになるかた  
としてキリストをかかげなさい。利己主義の根をことごとく抜き去りなさい。あなたがたは神の子  
であるから神を高めなさい。あなたがたのあがない主をあがめなさい。そうすれば彼はあなたがた  
をみ国に住ませてくださるであらう。 6

1、L・五七・一九〇二年  
2、5 T・三三五ページ  
3、同・三六二ページ

4、R H・一八八六年二月二日  
5、P P・五六三ページ  
6、L・五七・一九〇二年



## 第五部

## 結婚の祭壇から





## 第一五章

### 厳粛な約束

夫と妻に対する神の目的

神は男から女を造られた。それは女が男の伴侶となり助け手となり、

彼と一体となって彼を慰め、励まし、祝福し、その代わりに男が女の力強い助け手となるためであった。きよい目的、すなわち夫は女性の心の純粋な愛情を得るため、妻は夫の品性をやわらげ向上させて完全なものとするために結婚関係にはいる者は、彼らに対する神の目的を成就している。

キリストはこの制度を破壊するためでなく、本来の高さときよらかさに回復するために来られた。キリストは神の道德的なみかたちを人間の中に回復するために来られ、そして結婚関係を是認することから彼の働きを開始された。<sup>1</sup>

アダムの助け手としてエバを与えられたお方が結婚の祝いの席上で最初の奇跡を行なわれた。友人や親族が喜び合っていた祝いの場所で、キリストは公の伝道を開始されたのである。こうしてキリストは婚姻を是認し、御自ら制定された制度として認められた。キリストは男女が清い結婚によって結ばれ、天の家族の一員として認められるような、りっぱな家庭を育てあげるようにお定めになった。<sup>2</sup>

イエスは幸福な結婚を望まれる

キリストから発散する天来の愛は人間の愛情をこわすことは決してなく、かえってそれを包含する。人間の愛はそれによって洗練され、きよめられ、高められ、高潔にされる。人間の愛情は天の性質と結合し、天に向かって成長するように訓練されなければ決して尊い実を結ぶことはできない。イエスは幸福な結婚、幸福な炉辺を見ることを望まれる。3  
結婚は、人類にゆだねられた神の他のよい賜物と同様に罪によって悪用されてきた。しかしその本来の清らかさと美しさを回復するのが福音の目的である。...

キリストの恵みだけが、そしてそれだけがこの制度を神が意図しておられたもの、すなわち人類を祝福し高めるための力にすることができると。そうになったとき、地上の家族はその愛と平和と一致によって天の家族を代表することができると。

この神聖な関係についての天の理想に対して、社会は悲しむべき状態を示している。だが愛と喜びを期待したところに苦しみと失望を発見した人々にすら、キリストの福音は慰めを与えている。4

喜ばしい祝い

聖書は、イエスも彼のでしたちもこの結婚のいわい(カナの)に招かれたことを

記録している。キリストはクリスチャンが結婚式に招待されたとき、そうした喜ばしいいわいに出席するべきでないと彼らがいうのを認めておられない。キリストは結婚の祝いに出席することによって、私たちが神のおきてを守ることを喜ぶ人々と共によるこぶのを望んでおられることを教えられた。キリストは、人類の無邪気な楽しみが天の法則に従って行なわれたとき、それを妨げるようなことはなさらなかった。キリストが臨席なさった集まりにキリストのでしたちが出席することは

正しいことである。この祝いに出席されたのちも、キリストは多くの式に出席し、そのご臨席と教えを通して結婚を認めたもうた。5

虚飾、ぜいたく、浮かれ騒ぎは結婚式にふさわしくない 結婚式が虚飾、ぜいたく、放縱の場と

なっている。だが結婚する当人たちが宗教上の信仰と行為において一致しており、すべてのことが堅実で、式も虚飾やぜいたくを抜きにして行なわれるとき、今日の結婚式は神のみこころをいためることはない。6

結婚するふたりが互いにこの上もなく似つかわしい人々であつても、大げさな見せびらかしをする理由は全然ない。7

結婚の儀式で浮かれ騒ぎやはしぎや、何かの見せびらかしが見られるたびに、わたしにはそうしたものが式に全然ふさわしくないものに思われた。実際、これは神が定められた制度であつて、最も厳粛な思いをもつて考えなければならないものである。地上で家族関係が結ばれたとき、その家族は将来どんなものになるかを示さなければならない。すなわち、天の家族になることを実際に示さなければならないのである。どんな場合でも神の栄光を第一にしなければならない。8

ホワイト夫人の家で持たれた結婚式 火曜日の午前十一時ごろ、わたしの家の広い食堂が結婚式

のために準備された。B兄弟が司式をしたが、式は順調に行なわれた。わたしは結婚式の終わりに祈禱をするように……依頼された。主はわたしに特別な自由を与えられた。わたしの心は神のみた

まによってやわらげられ、静められた。この式で軽々しい冗談やおろかなことばは全然聞かれなかった。式に関するすべてが厳粛で神聖であった。すべてが高尚な性質を備え非常に印象的であった。主はこの結婚式を承認された。そしていま、このふたりは失われたものを捜し出して救うために心を一つにして伝道地で働くことにした。彼らがけんそんに神と共にあゆみ、神の約束に全的に頼るなら、神は彼らの働きを祝福されるであらう。9

## 二つの生命を融合する

救霊の働きにおいてお互いの関心と同情と愛と働きを一つにするためにあなたの前に立ったふたりにとって、これは彼らの生涯における重要なときである。結婚の関係において非常に重大な一歩がとられる。このときに二つの生命が一つに融合されるのである。…：夫と妻が神のみわざにおいて互いに一つとなり、完全さときよらかさをもって働きを前進させることは、神のみどころになうことである。彼らはそれを行うことができるのである。

このような一致が見られる家庭には神の祝福が太陽の光のように与えられる。なぜなら、夫と妻がイエス・キリストのもとにあつてきよいきずなに結ばれ、キリストに支配され、キリストのたまの導きを受けることは神のみどころが定めたもうたことであるからである。…：

神は家庭が地上で最も幸福なところであり、天の家庭の象徴そのものであることを望んでおられる。家庭における結婚の責任を負い、自らの関心をイエス・キリストに結びつけ、イエスのみ腕と約束に頼りながら、夫と妻は神の使いが推賞する結婚において幸福をわかち合うことができる。

結婚は彼らの有用性を減少せず、それを強化する。彼らは結婚生活を、魂をキリストに導く伝

道の一つにすることが出来る。わたしは夫と三十六年間つれそい、主が行けと仰せになったところにはどこへも行っている。だから、自分が語っていることについてはよく知っている。神が結婚の関係を推奨しておられることをわたしたちは知っている。であるから結婚は厳粛な儀式である。  
……

今わたしは兄弟のこの手を取ることが出来る。……そして、私たちは彼の妻であるあなたの手を取り、あなたがたが一つとなつて神の働きを前進させるように強く勧めたい。わたしは、神をあなたがたの相談相手とし、一つにとけ合いなさい、とけ合いなさいといいたい。  
10

**新婚夫婦への忠告** 愛する兄弟姉妹よ、あなたは生涯にわたる契約を結ばれた。結婚生活におけるあなたがたの教育は始まった。結婚生活の最初の年は経験の年であり、ちょうど子供が学校で学科を学ぶように夫と妻が互いの性格の異なつたところを学ぶ年である。この結婚生活の最初の年に、あなたがたの将来の幸福を傷つける章のないように注意なさい。……

兄弟よ、いまやあなたの妻の時間と力と幸福はあなたのそれと結びついている。あなたが彼女に与える影響はいのちからいのちに至らせるかおりとなり得るし、死から死に至らせるかおりともなり得る。妻の生涯を傷つけることのないように注意なさい。

姉妹よ、あなたはいま、結婚生活の責任について最初の実際的な教えを学ばねばならない。これらの教えを毎日忠実に学びなさい。……利己主義に負けないように絶えず警戒なさい。

一生の結合におけるあなたがたの愛情は、相手の幸福を増大するものでなければならぬ。どち

らも相手の幸福のために奉仕しなければならぬ。これが神があなたに対して持つておられる  
みこころである。お互いに融合して一体とならなければならぬが、自分の個性を相手の中に没し  
去つてはならない。神はあなたがたの個性の所有者であられる。あなたがたは神に、何が正しいか、  
何が悪いのか、自分が創造された目的を最もよく実現するにはどうしたらよいか、と尋ねなければな  
らない。 11

# 天の証人の前で誓約する

神は結婚関係にはいる当事者の間に完全な愛と調和があるべきことを  
お定めになった。花婿も花嫁も神がお定めになったように、宇宙の前でお互いに愛し合うことを誓  
約しなければならぬ。…妻は夫を尊敬しなければならぬ。夫は妻を愛し、たいせつにしなけ  
ればならぬ。 12

男も女も結婚生活の初めにおいて、神に自らをあらたにささげなければならない。 13

結婚の生活に対しては、はがねのように真実でなければならない。思いやことばや行為において  
神を恐れ、神のいましめに従う人としてのあなたの記録を汚さないことを決心しなさい。 14

- 1、M S S・一六・一八九九年
- 2、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三二九ページ
- 3、B E・一八九九年九月四日
- 4、R H・一九〇八年二月一日
- 5、M S S・一六・一八九九年
- 6、R H・一八八八年九月二五日
- 7、4 T・五一五ページ
- 8、M S S・一七〇・一九〇五年
- 9、同・二三・一八九四年
- 10、同・一七〇・一九〇五年

第 5 部 結婚の祭壇から

1211  
、  
B 7  
E T  
・  
一 四  
八 五  
九 ペ  
九 ー  
年 ジ  
九  
月  
四  
日

1413  
、  
L M  
・ S  
二 S  
三 ・  
一 七  
・ 〇  
一 ・  
九 一  
〇 九  
三 〇  
年 三  
年

## 第一六章

# 成功ある幸福な協力

真の結合は一生涯の経験である。結婚関係を正しく理解するには一生かかる。結婚する人は、この世では決して卒業することのない学校にはいるのである。1

いかに注意深く、賢明に結婚が進められても、結婚式が行なわれたときに完全に一致している夫婦はほとんどない。結婚によるふたりの真の結合はその後においてできるものである。2

新婚の夫婦が生活の困難や心配事にであうと、往々にして結婚について以前想像していたロマンスが消えうせる。夫も妻も結婚前の交際ではわからなかった相互の性質を知るようになる。これが彼らの経験のうちで最大の危機であり、その後の全生涯の幸福と有用さはこの時に正しい態度をとるか否かによつてきまるのである。お互いに今まで予期しなかった弱点や欠陥が見えてくるが、愛によつて結び合つた心は以前には気づかなかつた長所も発見する。だれでもみな欠陥よりも長所を発見しようと努力なさい。自分の態度や自分の周囲のふんい気が、自分に対する相手の態度を決定する場合が多い。3



愛は試験されなければならない

愛は水晶のように透明で純粹で美しくあっても、まだ試験されていないために底の浅いものであることがある。キリストをすべてのことにおいて第一にし最上にし最高になさい。キリストを絶えず見上げなさい。そうすれば、彼に対するあなたの愛は試験やこころみにあうに従って強まり深まっていく。彼に対するあなたの愛が増していくにしたがって、お互いに対する愛も強まり深まっていく。 4

困難や困惑や失望に遭遇しても、その結婚が誤りであつたとか、失望であつたとかいうような気持ちや夫も妻も抱いてはならない。互いに相手に対してできるだけ最善のものとなるように決心なさい。最初のころの心づくしを継続し、人生の戦いを戦ううえにあらゆる面で互いに励まし合い、相互の幸福を増進するように研究なさい。相互の愛と忍耐が必要である。そうするならば結婚は愛の終局ではなく、出発点そのものようになる。真の友情のあたたかさ、心と心を結ぶ愛は天国における喜びをこの世において味わわせるものである。 5

どの人も忍耐することによって忍耐力を養わなければならない。親切で忍耐強くあることによってほんとうの愛をいつも心にあたたかく保つことができる。またそうあることによって天に是認められるよい特質がのばされる。 6

敵は引き離そうとしている

サタンは、仲たがいでもあればそれを利用しようといつも待ちかまえている。そして夫または妻の好ましくない、遺伝的な欠陥に働きかけて、神の前で厳粛な誓約をたててお互いの利害を一つに結びつけたふたりを、何とかして引き離そうと努力する。彼らは結婚

の誓約の中で一つになることを約束した。妻は夫を愛し彼に従うことを、夫は妻を愛し彼女をたいせつにすることを約束した。神のおきてが守られれば争いの悪魔は家庭の外に押しとどめられ、お互いに対する関心が薄れるようなことはなく、愛情の疎隔もあり得ない。7

### がんこな夫婦への勧め

夫にしても妻にしても相手を支配することを主張してはならない。主はこの問題の指針となる原則を定めておかれた。夫はキリストが教会をたいせつになさるように妻をたいせつにしなければならない。妻は夫を愛し尊敬しなければならない。どちらも親切な心を育て、相手を悲しませたり傷つけたりしないことを決心しなければならない。...

お互いに相手を自分の思い通りにしようとしてはならない。無理じいをしながら相手の愛情を保つことはできない。わがままな精神を表わすときに家庭の平和と幸福は破壊される。あなたがたの結婚生活が争いの生活になることのないようになさい。争えばあなたがた両方が不幸になるだけである。ことばをやさしくし、態度を穏やかにし、自分の欲望を押えなさい。ことばは善、または悪のために強い力を持っているから、話すことばによく注意なさい。声は決して鋭くしてはならない。あなたがたの結婚生活にキリストのような香りを持ち込みなさい。8

### 言動に愛を表現せよ

愛を表現することは弱さを表わすことであると思っている人が大ぜいいて、相手をよせつけぬような冷淡さを装う。こうした精神は同情の気持ちかわきでるのをとめてしまふ。人に親しむ気持ちや寛大な気持ちを押えているとそれは枯死し、心は孤独で冷たくなる。わたした

ちはこの過失に陥らないよう警戒しなければならない。表現しなければ愛は長くつづかない。あなたと結ばれた人の心が、親切と同情に欠乏して餓死することがないようにすべきである。…:

お互いに愛を強制することなく、かえって愛を与えるべきである。自分の中にある最高の品性を養育し、互いに相手の長所をすみやかに認めるようにしたい。真価を認められているという意識は驚くほどの刺激となり、満足感を与える。同情と尊敬の念は卓越しようと努力する気持ちを強め、愛は一段と高い標準に達しようとする気持ちを鼓舞しながら、愛自体も大きくなっていく。9

この世の中に多くのかたくなな男女がいるのは、ほんとうの愛情が弱さで見なされ、その芽をつみとられたり押えつけられたりしたからである。このたぐいの人たちのよい性質は子供時代にゆめられ、委縮させられているから、神の光が彼らの冷たさやかたくなな利己主義をとかし去らなければ、彼らの幸福は永遠に埋もれてしまう。イエスが地上におられた時に持つておられたやさしい心と、天使たちが罪深い人間に対して持つていきよらかな同情を持ちたければ、わたしたちは単純そのものである子供時代の同情心を養わなければならない。そうするときわたしたちは洗練され、高められ、天の原則によって導かれるようになる。10

あまりにも多くの心配事や重荷が家庭の中に持ち込まれ、自然の単純さと平和と幸福の尊ばれることがあまりにも少ない。家庭の外の社会で言われていることをあまり気にかけずに、家族の者にもっと思いやり深い配慮を示さなければならぬ。表面的な、見せかけの、世的な礼儀正しさをなくして、やさしさと愛情と明るさとクリスチャン的な礼儀正しさが家族の間にもっとなければならぬ。多くの人は家庭を魅力のある、よろこびの所とするにはどうすればよいか、その方法を学ば

必要がある。感謝の心とやさしい表情は富やぜいたくよりもっと価値があり、質素なもので満足する心は、愛があれば家庭を幸福にする。 11

### こまかい心づかいに価値がある

神は生活の普通の事からを通してわたしたちを試みためされる。心の中の思いは小さな事がらに表われる。人生の幸福の総計をつくりあげているものは、こまかい心づかいや生活における数限りない小さなできごとやちよつとした礼儀正しさである。また人生の不幸の総計を作りあげているものは、親切な愛情のこもった励ましのことばを言わずにいることや、ささいなことに礼儀を欠くことである。わたしたちが周囲の人々の利益と幸福のために自己を犠牲にしたことが天の記録の大部分を構成していることが最後に知られる。同時にまた、他人の利益と幸福を考えずに自分のためだけに心を労する人はわたしたちの天の父上の目にとまることも明らかにされる。 12

### 愛情を表現しなかった夫

愛のある家庭、愛がことばや表情や行為に表わされる家庭は、天使が訪れ、栄光の光でそこをあがめることをよるこぶ所である。そこではありふれた家庭の義務に魅力がある。こういう環境にあれば、あなたの妻にとって家庭生活のどんな義務も不愉快なものでなくなる。彼女はそれらの義務を明るいい心で果たし、周囲の人々にとって太陽のような存在となり、心の中で主に賛美の歌をうたうであろう。いま、あなたの妻はあなたから愛情を受けていないように感じている。あなたは彼女にそう感じさせる原因を与えた。あなたは家長として負わされている必

要な責任を果たしているが、欠けているものが一つある。あなたはやさしい思いやりを示すようにさせる愛の尊い力に非常に欠けている。愛が表情や態度に見られ、声の調子にあらわれなければならない。13

### 失望させる自己中心の妻

結婚によって結び合わされた者の道徳的品性は、相互の交わりによって高くもされ低くもされる。墮落させる働きは、低い、見せかけの、利己的でわがままな性質によってなされるが、この働きは結婚式ののちまもなく始まる。若い人が妻を選ぶとき賢明であれば、彼は彼のそばに立って生活の重荷と責任を力のゆるす限り共に背負い、彼を高め、洗練し、その愛情で彼を幸福にする妻を持つことができる。しかし妻の性質が気まぐれで、うぬぼれが強く、横暴で批判的であり、自分のわがままな気分から生ずる動機や感情で夫をとがめたり、あるいは夫の愛情を認めてそれに感謝する洞察力と善意ある判断に欠け、自分の思い通りに満足させてくれないために、夫の愛情が足りないとか自分を忘れているとか言えば、彼女は彼女が悲しんでいる状態を実際に招くことになる。彼女がその非難を全部実現させるのである。14

### よき伴侶である妻また母親の性質

妻であり、母である人は単なる家事にあくせくせず、主人のよき伴侶となり、成長する子供の頭脳の成長におくれぬように読書に時間を取り、物事に精通していなければならない。愛する者たちをより高い生活へと導くために現在与えられている機会を賢明に利用しなさい。愛する救い主を日々、自分の伴侶とし、親しい友とするために時間を取りなさい。

また時間をさいて聖書を学び、子供と共に野外に出て、神のみわざの美を通して神について学ぶようになさい。

婦人はつねに快活で元氣よくしていなさい。限りのない裁縫に全時間を費やさず、夜は、一日の働きを終えて皆が再び共になって、家族一同が楽しく交わる時間となさい。こうして多くの男は、クラブハウスや酒場よりも自分の家庭のまじわりを選ぶようになり、青年の多くが町をうるつき、あるいは町角の店に行かなくなるであろう。多くの娘たちもつまらぬ悪友から救われるのである。そして家庭の感化は親にとっても、子供にとっても神が計画なさったように一生の祝福となるのである。

15

結婚生活は必ずしもロマンスではない。それには現実の困難や退屈な仕事がある。妻は自分をめんどろを見てもらわなければならない人形だと思つてはならない。自分を一個の女性、空想的なものでなく実際の重荷を肩に負い、自己のこと以外に考えねばならぬことがあることをさとり、理解のある、思いやりのある生活をすべきである。現実の生活には影もあり、悲しみもある。どの人の心にも必ず悩みは来る。サタンはひとりひとりの信仰をぐらつかせ、勇氣と希望を失わせようとたえず努力している。

16

**不幸な夫婦への勧め** あなたがたの結婚生活は、感謝の気持ちをもつて思い返す楽しいときはほとんどない荒野にも似た生活であつた。あなたがたは、そういう生活を送らなくてもよかったのである。

たぎぎをくべなければ火が燃え続けないと同じように愛情も行動によって外に表わされなければ続かない。C兄弟よ、あなたは親切な行為でやさしさを表わし、情愛の深いことばとやさしい心づかいによってあなたの妻に愛を示す機会を得ようとすることは自分の威厳にかかわることだと感じている。あなたはよく気分が変わり、環境に影響される。……仕事に関する心配や悩みや困難は仕事が終わったときそこに残しておきなさい。同情とやさしさと愛をもって明るい表情で家族のもとに帰ってきなさい。それは妻のために薬や医者に金をかけるよりもよいことである。それはからだに健康を与え、魂に力を与える。あなたがたの生活はたいへんみじめなものであったが、それについてはあなたがた両方に責任がある。神はあなたがたの不幸をよるこんではおられない。あなたがたは自分を押えることができなかったために、この不幸を招いたのである。

あなたは感情のままに動いている。C兄弟よ、あなたは愛情を表現し、愛をこめてやさしく話すことはこけんにかかわると思っている。そうしたやさしいことばはすべて軟弱のしるしであり、必要なものであると考えている。だがその代わりに、あなたはいらいらしたことば、不和、争い、非難のことばを口に出す。……

あなたは満足の精神に欠けている。あなたは自分の困難について考えこむ。遠い将来の想像上の欠乏と貧困が目前にあると思っている。あなたはそのために困り悩み、苦しんでいる。頭はのぼせ、心はゆううつに閉ざされている。神に対する愛を持たず、やさしい天の父があなたにお与えになった祝福を感謝する心もない。あなたは生活の不愉快な面だけを見ている。世的なおろかさがあつい黒雲のようにあなたを閉じ込めている。平和と幸福を自分のものにできるのに、あなたが不幸な思

いをしていゐるのをサタンは喜んでゐる。 17

**相互の愛と忍耐が報いられる** あなたとあなたの夫は互いに愛し合い忍耐し合わなければ、地上のどんな力もあなたがたをクリスチャンの調和ある状態に保つことはできない。結婚関係におけるあなたがたの交わりは、親密で愛情深く、きよらかで高貴で、あなたがたの生活に靈的力を吹き込むものでなければならぬ。それは、あなたがたが神のみことばが要求しているとおりのものであるためである。主の望んでおられるような状態に達したとき、あなたがたは地上に天国を見いだし、生活の中に神がおられることを発見するであろう。 18

「愛する兄弟姉妹よ、神が愛であられること、神の恵みによつてあなたがたが結婚の誓約において誓つたように互いに相手を幸福にすることに成功できることをおぼえていただきたい。」 19

キリストを助け手とするならば、男も女も自分のために定められた神の理想に達することができる。愛による信頼によつてキリストに自分をささげた人のためにキリストの恵みは人間の知恵ではできないことを完成するのである。神の摂理は天から与えられたきずなによつて心と心を結ぶことができる。愛とは単になめらかなおせじの交換ではない。天の織機は地上の織機よりは細いが、しっかりとした縦糸と横糸を織り合わせる。その結果、薄い布でなく、もちのよいどんな試験にも耐える織物となる。心は切れることがない黄金の愛のきずなによつて心に結びつけられる。 20



## 第5部 結婚の祭壇から

11、	7 T・四五ページ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
-----	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## 第十七章

## 相互の責任

どちらも個人的責任がある

人生の利害を一つにしたふたりには、はっきりした個性と個人的な責任があるものである。どちらにもそれぞれの仕事があるが、女性は荷を負う動物のように、仕事の量で価値づけられてはならない。妻は、賢明な夫の妻としてまた友として家庭にうるおいを与えなければならぬ。彼女は一步ごとに、「これは真の女性の標準であるうか。」「家庭でのわたしの影響をどうしたらキリストのようなものにすることができるであろうか」と自問しなければならない。夫は、妻の働きを感謝していることを彼女に知らさなければならぬ。1

妻は夫を尊敬しなければならない。夫は妻を愛したいせつにしなければならない。結婚の誓約が彼らをついに結びつけたように、キリストに対する彼らの信仰は、彼らをキリストにあって一つにすべきである。結婚関係にはいった者たちが共にイエスに学ぶことに努力し神の霊にますます満たされていくのを見ること以上に神にとってよるこばしいことがあるであろうか。2

いまあなたがたは、結婚前にはなかった果たすべき責任がある。「だから、…あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。」「愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛

して下さった。「次の勧告を注意深く研究なさい。「妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい。キリストが教会のかしらであ……られるように、夫は妻のかしらである。そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように妻を愛しなさい。」 3

### エバに対する神の注意

エバは今後自分の運命となる悲しみと苦痛について聞かされた。そして主は「あなたは夫を慕い、彼はあなたを治めるであろう」と仰せになった。創造のとき、神はエバをアダムと同等の者にお造りになったのであった。彼らが神に服従していたなら、神の大いなる愛の律法に一致していたなら、彼らはいつまでも互いに調和を保つことができたはずであった。だが罪が不一致をもたらしたため、いまや彼らは一方が相手に従う以外一致を保ち、調和を維持することができなくなった。最初に罪を犯したのはエバであった。彼女は天の指示にそむいて夫のそばを離れ、誘惑に陥ってしまった。アダムが罪を犯したのは彼女の誘惑によつてであった。このため彼女はいま夫の支配の下におかれたのである。墮落した人間が神の律法に定められている諸原則を忘れずにいたなら、この宣告は罪の結果下されたものとはいえ、彼らにとって祝福となるはずであった。だがこうして与えられた支配権を男が悪用したために、女の運命は大へん苦しいものとされ、生活が重荷となることが非常に多かった。

エデンの園において、エバは夫のそばにいてこの上なく幸福であった。だが現代の落ち着きのないエバたちのように、彼女もまた、神が定めたもうた以上の高い境地にはいれるという希望に得意

になった。本来の地位より高いところへのぼろうとして、彼女ははるか下のほうに落ちてしまった。神のご計画に従って生活の義務をよるこんでしようとしないうちはみな、同じような結果を得る。4

**妻は服従し、夫は愛する** 「妻は自分の意志を持つてはならないのか」という質問をよく受ける。

聖書は「妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい」といって、夫が家族のかしらであることをはっきり述べている。もしこの命令がここで終わっていたなら、妻の地位はあまりうらやましいものではない。いろいろの場合においてそれはつらい苦しい地位であり、結婚は少ないほうがよいことになる。多くの夫は「妻よ、服従しなさい」というところだとまるが、この命令の最後をみると、「それが、主にある者にふさわしいことである」とある。

神は妻が、神の栄えと神に対する恐れのをいつももっていることを求めておられる。ご自分の命という無限の価によつて彼女を自分の子供として買いとられた主イエス・キリストにだけ全的服従をささげるべきである。神は妻に良心をお与えになった。彼女はその良心を犯せば罰を受ける。彼女はキリストに買われたものであるから、自分の個性を夫の個性の中に没入することはできない。何事も夫の命令通りにすればサタンのなわめから買いもとされたからだを精神を傷つけることを知っていないながら、盲目的な愛でそうしななければならぬと想像することはまちがいである。妻にとつて夫より上位に立つたがおられる。それは彼女のあがない主であつて、夫に対する彼女の服従は、神が命じておられるように、「主にある者にふさわし」くなされるべきである。

夫たちが、女は家庭で意見や意志を持つてはならないと絶対的服従を主張するとき、彼らは妻を

聖書に反する地位にしている。彼らは聖書をこういうように解釈することによって結婚制度の計画にそむいている。彼らは独裁的に支配したために聖書をこのように解釈するが、彼らにはそんな特権はない。そのつぎにこうしるされている。「夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。」夫は妻につらく当たる理由があるであろうか。妻に誤りがあり欠点がたくさんあったにしても、つらくあたることによってなおすことはできない。5

**妻は夫がキリストに服従する時だけ彼に服従する**

多くの夫たちは主に従っていないために、妻に対する彼らの関係は、教会との関係における主イエスを正しく表わしていない。彼らは、妻はすべてのことにおいて自分に服従しなければならないと主張する。しかし夫がキリストに服従しないのに家長としての支配権を持つということは神のご計画ではない。夫は教会との関係におけるキリストを代表することができるように、彼自身キリストの支配の下にいないなければならない。夫が粗野で乱暴で、高慢で利己主義で、か酷で威張った人であるなら、彼は主人または夫という言葉が真に意味する人物ではないから、夫が妻のかしらであり、妻はすべてのことにおいて服従しなければならないなどとは一言もいわせてはならない。……

夫はエペソ人への手紙に示されている象徴、すなわちキリストが教会と持つておられる関係によつて何が意味されているかを理解し、その模範を研究しなければならない。夫は家族の中では救い主のような存在でなければならぬ。彼は高貴な、神に与えられた人となりを用意して立ち、妻と子供を向上させるためにたえず努力するであろうか。周囲にきよらかな、やさしいふんい気をも

し出すであろうか。彼は権威を強く主張すると同様の熱心さでイエスの愛を養い育て、それを家庭の不变の原則とするであろうか。…

夫であり父親である人はすべて、キリストのことはを理解するためにそれを研究しなければならない。妻は夫に従うべきであるということだけを考える一方的な態度でなく、キリストの十字架の光に照らして、家族の中における自分の地位を研究しなければならない。「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自分をささげられたように、妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためである」。

キリストはわたしたちをきよめ、聖霊の力によってすべての罪と汚れからわたしたちを守るためにご自分をささげ、十字架の上に死なれたのである。6

#### 相互の忍耐が必要である

わたしたちは神のみたまを持たなければならない。さもなければ家庭に調和を保つことはできない。妻がキリストの精神を持っているなら、ことば使いに注意し、心を抑制し、従順である。しかしそのために自分を奴隷と感ずることはなく、夫の友であると感じる。

もし夫が神のしもべであれば、彼は妻に対していばつたり、独裁的であつたり、か酷であつたりすることはない。家庭は、神のみたまがそこに住みたもうとき天の象徴となるから、家庭の愛情をたいせつに育てるためにいくら心をくばってもくばりすぎることではない。…一方が誤ちを犯しても他方がキリストのような忍耐を示し冷淡にはなれたりしない。7

夫も妻も専横的な態度で相手に接してはならない。しいて自分の思い通りに相手を服従させよう

としてはならない。そうするとき、相互間の愛を保つことはできない。親切、忍耐、しんぼう、思慮、礼儀をもちなさい。結婚の誓いに約束したように神の恵みによってお互いに相手を幸福にすることができる。8

互いに親切にゆずり合わねばならない

結婚生活において男も女もしつけない、手に負えない

子供のような態度をとることがある。夫は自分の思い通りにしようとし、妻もまた自分の好むようにしようとしてどちらも譲ろうとしない。こういう状態は最大の不幸を招くだけである。夫も妻もものごとのやり方や考え方をよるこんで相手方に譲ろうとする態度がなければならぬ。どちらも自分の思い通りにすることを主張しつづける間は、幸福になる可能性は全くない。9

男も女もキリストに学び、彼の柔和とけんそんを学ばないかぎり、彼らは子供がよく表わす衝動的な、無分別な精神を表わす。強情な、抑制されない意志がその人を支配しようとする。こういう人はパウロの次のことばを研究する必要がある。「わたしたちが幼な子であつた時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また幼な子らしく考えていた。しかし、おとなになつた今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。」10

家庭問題を調整する

夫と妻が彼らの幾つかの義務について、たとい正しい公平な解決を得よう

と努力しても、心を神にゆだねないならば、家庭の問題を調整することはむずかしい。夫と妻は、家庭生活の利害を二分しながらどうしてやさしくしっかり相手の心をつかんでいることができるで

あろうか。彼らは彼らの家庭造りに関係のあるすべてのことに利害が一致しなければならない。そして妻は、クリスチャンであれば、夫は家長として立つべきであるから、夫の友として彼と利害を共にするのである。 11

**不和な家庭への勧め** あなたの精神は誤っている。あなたはある意見を主張するとき、その問題を正しく判断せず、自分の考えを主張すればどんな影響があるかを考えない。また妻が違った考えを持っていることを知りながら、独断的な態度で自分の考えを祈りや会話の中に織り込んでいる。あなたは妻の気持ちを尊重せず、意見の異なる問題を紳士らしく避けることをせずに反対の点についてこと細かに語り、周囲の人々にかまわずに自分の意見をがんこに主張する。あなたは他人があなたと違った見方でものごとを見る権利はないと感じている。クリスチャンの木にはこういう実はならない。 12

兄弟姉妹よ、イエスを受け入れるために心の戸を開きなさい。イエスを心の宮の中に招き入れなさい。どの結婚生活にもはいり込む障害に勝利するために互いに助け合いなさい。敵の悪魔に打ち勝つには激しく戦わねばならない。そして、もしこの戦いにおいて神に助けていただくことを期待するならば、あなたがたの両方が一つとなつて勝利することを決意しなければならぬ。誤ったことばを發することのないよう唇を閉じなければならぬ。いよいよとなればひざまずいて、「主よ、わたしの魂の敵をしかってください」と叫ばなければならぬ。 13



心にキリストを住ませる時に一致がある

神のみこころが行なわれているなら、夫と妻は互い

に尊敬し合い、愛と信頼を養い育てる。家庭の平和と一致をそこなうものはどんなものでもきびしく押え、愛と親切をはぐくまなければならない。やさしさ、忍耐、愛の精神を表わす人は、同様の精神が自分に示されることを知るであろう。神のみたまが支配しているところでは、結婚関係が不適合であるという話はおきない。栄光の希望であられるキリストがほんとうに心の中に形づくられているなら、家庭には一致と愛がある。妻の心に住むキリストは、夫の心に住むキリストと協調する。夫も妻も、キリストが自分を愛する者のために備えに行かれた家に行くために心を合わせて努力する。

14

1、M S S・一七・一八九一年  
2、同・三六・一八九九年  
3、7 T・四六ページ  
4、P P・五八、五九ページ  
5、L・一八・一八九一ページ  
6、M S S・一七・一八九一年  
7、L・一八二八九一年

8、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三四ページ  
9、M S S・三一・一九一一年  
10、L・五五・一九〇二年  
11、M S S・三一・一九一一年  
12、2 T・四一八ページ  
13、L・一〇五・一八九三年  
14、S・一八九二年一月一日

## 第一八章

# 結婚の義務と特権

イエスは独身を強制されなかった。結婚関係を、神のきよいいましめによって保護された神の聖なる制度の一つと見なす者は、理性の命令に従う。1

イエスはどんな階級の人にも独身を強制されなかった。イエスは結婚の神聖な関係をなくすためではなく、それを高め、本来の神聖さに回復するためにこられた。キリストは、きよらかな、無私の愛が支配する家族関係をよろこびをもってごらんになる。2

**結婚は正当で神聖なものである**。食い、飲み、めとり、とつぎすることそれ自体には罪はない。ノアの時代に結婚することは正当なことであった。この正当なことが正しく扱われ、限度を越して罪を犯さなければ、それはいまでも正当なことである。しかしノアの時代の人々は神のみこころをうかがい、神の指導と忠告を求めずに結婚した。...

人生のすべての関係は一時的のものであるという事実は、わたしたちのすべてのことばや行ないを改めさせる力とならなければならない。ノアの時代の結婚が神の前に罪とされたのは、正しく用いた場合それ自体何の罪もなかった愛情が、無節操で限度を越えていたからであった。今日の世界

には結婚について、また結婚関係そのものについて心を奪われて、自らの魂を失っている者がおおいに多い。3

結婚関係は神聖なものである。しかしこの退廃した時代において、それはあらゆる種類の悪徳を網羅している。洪水前の結婚はその行なわれた方法のために罪とみなされた。それと同様に今日もそれは悪用されて、いまや終わりの時代のしるしの一つとなっている。

結婚の神聖な性質と要求とが理解されているとき、この時代においてもこれは天に是認される。そういう結婚は当事者たちを幸福にし、神に栄光をもたらす。4

**結婚関係の特権** クリスマスチャンであると自称する人々は、……結婚関係に伴うあらゆる特権の結果について正しく考えるべきである。またきよめられた原則がすべての行為の基礎となるべきである。5

多くの場合、両親が……彼らの結婚の特権を悪用し、それにおぼれることによって、動物的な欲望を強めている。6

**度を過ぎずことを避ける義務** 正当と認められていることをやり過ぎるとき、それはいむべき罪となる。7

多くの親は結婚生活において得るべき知識を得ていない。彼らは、サタンに利用されて心と生活を彼に支配されることのないように警戒していない。彼らは神が結婚生活を抑制し、少しでも度を

過ごすことのないよう要求しておられることを認めていない。欲望を押えることを宗教的な義務と感じている者はほとんどない。彼らは自分の選んだ人と結婚によって一つに結ばれた、だから結婚は低い欲望に耽溺（たんでき）してもよいと論じる。信仰があると公言する男女でさえ、彼らの情欲のたずなをゆるめ、たいせつなエネルギーを消耗して生命力を弱め、からだ全体の力を弱めることについて神に報告を求められることを少しも考えていない。8

#### 自己否定と節制を標語にせよ

わたしは、造り主に完全な奉仕をささげることができるよう

に精神および肉体の組織を最上の状態に維持することが神への義務であることをすべての人に理解させることができたらどんなにいいかと思う。クリスチャンである妻は、夫の動物的な情欲を興奮させるようなことばを語ったり、態度をとったりすることを避けなければならない。多くの人はこの方面に浪費する力を全然持っていない。彼らは若いときから、動物的な欲望を満足させて頭脳を弱め、身体を衰弱させてきた。自己否定と節制が彼らの結婚生活の標準とならなければならない。9

わたしたちは、人類の益となり神に完全な奉仕をささげることができるよう、精神を純潔にからだを健康に保つべき厳粛な責任を神に負っている。使徒は次のような警告のことばを発している。

「あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情に従わせることを（するな）。」彼はさらに「すべて競技する者は何ごとにも節制する」と告げて、わたしたちを激励している。彼はクリスチャンであると自称している者すべてにそのからだを「生きた、聖なる供え物としてささげなさい」とすすめている。彼は、「自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしない

と、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかもしれない」とも言っている。10

自分の妻を欲望を満足させる道具にするような愛情は純粋な愛ではない。彼を耽溺させるのは動物的な情欲である。使徒が「キリストが教会を愛して、そのためにご自分をささげられた。……教会をきよめて聖なるものとするためであり……清くて傷のない……ためである」と定義したような愛を示す人は、何と少ないことであろう。しかしこれは神がきよいと認められる、結婚関係における愛の特質である。愛は純潔できよい原則である。だが情欲は抑制する余地を与えず、また理性に命令されたり支配されたりすることをうけがわれない。情欲は結果に対して盲目的であり、原因から結果を推し測ることをしない。11

**サタンが自制力を弱めようとするのはなぜか**      サタンは結婚生活にはいった人々の純潔の標準をさげさせ、彼らの自制力を弱めようと努力する。それは、低い欲望が優勢な間は道德的な力が弱まるから、彼らの霊的な成長を気づかう必要がないということを知っているからである。彼はまた、この両親から生まれる子供にサタン自身のしるしを押し出すことのできる最上の方法はこれ以外にないこと、そして、その子供の品性を両親の品性よりもはるかにたやすく形造ることができるといことを知っているからである。12

**度を過ごす結果**      男女の方々よ、あなたがたはいつの日か、情欲がなんであるか、またそれを満足させた結果がどんなものであるかを知ることがある。結婚以外の関係に見られると同様のいいやしい情欲が結婚関係に見られる。13

低い情欲のたずなをゆるめるとき、どんな結果になるであろうか。∴神の使いが君臨すべき寝室は汚れた行為によって汚される。また恥ずべき情欲主義が支配するために、からだが汚される。いまわしい行為はいまわしい病氣へとみちびく。神が祝福としてお与えになったものが、のろいに変えられる。 14

度を過ぎた性交は、礼拝を愛する心を効果的に失わせる。それは組織に与えるべき栄養を脳から奪い、非常に精力を消耗させる。女の人はいずれも、夫がこうして自己を破滅させるのを助けてはならない。もし彼女が啓発されており、夫に対して真の愛情をもっていたなら、そういうことは決してしないであろう。

動物的な情欲におぼれればおぼれるほど、その情欲は強くなり、それにふけりたい欲求が激しくつづいていく。神を恐れる男女は、彼らの責任に目ざめなければならない。クリスチャンと自称する多くの者は、この方面において節制していないために、神経や脳が麻痺して苦しんでいる。 15

夫は思いやり深くなければならない。夫たちは慎重で、注意深く、堅固で、忠実で、同情深くなければならぬ。彼らは愛と同情を示さなければならない。キリストのことばを実行するならば、彼らの愛情は、自らのからだを破滅させ、妻のからだをも衰弱させ病気にするような、低い、地上的な、情欲的なものとはならない。彼らは、妻はすべてのことにおいて夫に服従しなければならない。夫が、すべてのクリスチャンが持たねばならぬ高貴な品性と純潔な心と高貴な精神を持っていれば、それは結婚関係に

表われる。キリストの心を持っていれば、からだを滅ぼすようなことをせず、やさしい愛情に満ちあふれ、キリストにあつて最高の標準に到達しようと努力する。 16

### 疑惑を感じる時

夫の奴隷となつて身をまかせ、しんぼう強く彼の墮落した情欲に仕える妻を真に愛する者はだれもない。妻が受け身になつて夫のいいなりになるとき、夫はかつて彼女の中に認めた価値をみなくなる。夫は妻がすべての高尚なものから低い標準にひきずりおろされるのを見て、まもなく自分に対すると同じようにほかの人のいうままになつて墮落するのではないかと疑う。彼は妻の節操と純潔を疑い、彼女にあき、自分のいやしい情欲を刺激しそれを強める新しい対象を求めるようになる。神のおきては尊ばれない。こういう人は動物よりも悪い。彼らは人間の形をとつた悪魔である。彼らはきよめられた真の愛の高貴な、人を高潔にする原則を知らない。

妻もまた夫をしつとし、機会さえあれば、自分に対すると同じようにたやすく他の女に言いよるのではないかと疑う。彼女は夫が良心に、または神に対するおそれに支配されていないのを見る。これらのきよいとりではすべて汚れた欲望によつてこぼたれ、夫の中にある神に似たものは、すべて低い動物的な情欲の奴隷に変えられる。 17

### 不合理な要求に関する問題

いま解決しなければならぬ問題は、妻が、夫を支配しているものが低い欲望以外の何ものでもないことを知り、また、夫の要求に応じるならば、せっかく、神がきよく尊く、神への生ける供え物としてたもつために彼女にお与えになつたからだをそこねることを

理性と分別によつてよく知つていながら、それに盲目的に従うべきであるかどうかということである。

妻の健康と生命を犠牲にしてまで夫の動物的な欲望を満足させる愛情は、純潔な、きよらかな愛情ではない。もし彼女がほんとうの愛と知恵を持っていたら、興味深い靈的な事について話し合うことによつて夫の気持ちを、肉体的な欲望を満足させることから高尚な靈的な問題へそらせるであらう。夫のきげんをそこねるかもしれないが、つつしみ深く、愛情をこめて、過度の性交をゆるして自分のからだをいやしめることはできないと強く言うことも必要であるかもしれない。妻は親切な態度で、神が自分のすべてに対して第一の、そして最高の権利を持つておられること、神の大いなる日に申し開きをしなければならないから、この権利を無視することはできないということ、を彼に思い出させなければならない。……

女性が彼女の愛情を高め、洗練された女らしい威厳をきよく、尊く保つならば、彼女はその分別のある感化力によつて夫をきよめるために大いに役立ち、そのことによつて彼女の高貴な使命を果たすことができる。そうすることによつて彼女は夫と自分を救い、二重の働きをすることができる。この問題は非常に微妙で処理しにくく、道徳的な勇氣と堅固さとともに、知恵と忍耐が必要である。祈りの中に力と恵みを見いだすことができる。心を支配する原則は真実な愛でなければならない。行動の正しい基礎となり得るものは、神に対する愛と夫に対する愛だけである。……

妻が心もからだも夫の支配にまかせ、すべてのことにおいて夫の意志通りにし、自分の良心と威厳と本性までを犠牲にするとき、彼女は夫を高めるために持っている善のための大きな感化力を働



かせる機会を失う。彼女は夫の激しい性質をやわらげることができた。また彼女はそのきよめる力を夫を洗練しきよめるように働かせ、お互いに世にある欲のために滅びることを免れるために夫に彼の欲望を抑制するためにもっと熱心に努力させ、もっと霊的になるように導くことができた。その感化は、恵みによって新たにされていない心が自然に求める低い、感覚的な耽溺から高い、高貴な主題に心を導くために大きな働きをすることができる。夫の愛がだいたいにおいて動物的な欲望を土台としており、それが彼の行動を支配していることを知っていながら、夫をよるこぼせるために彼の標準にまでさがらなければならないと感じる妻は神を怒らせる。なぜなら彼女は夫をきよめる感化を彼に与えないからである。もし彼女が、一言の抗議もいわずに夫の動物的な欲望に従わねばならないと感じるなら彼女は神と夫に対する自分の義務を理解していない。

18

わたしたちのからだは買われた財産である 体内には低い欲望があつて、それがからだを通して活動する。「肉」「肉体的な」また「肉体的欲望」という言葉は、低い墮落した性質を総括している。肉体はそれ自体神のみところにさからつて行動することはできない。わたしたちは、情と欲と共に自分の肉を十字架につけなければならない。ではどうすればよいか。からだに苦痛を加えるべきであろうか。加えてはならない。だが罪の誘惑にとどめをさしなさい。墮落した思いを追い払いなさい。すべての思いをイエス・キリストの中にとりこしなさい。すべての動物的な欲望を、魂のより高い力に屈服させなさい。神に対する愛が最高に支配していなければならない。キリストは分裂していない王座にすわりたまわねばならない。わたしたちのからだは、キリストに買い取られた財

産であると考えねばならない。からだの各部分は義の器とならなければならない。19

1、S A・一三九ページ  
2、M S S・一二六・一九〇三年  
3、R H・一八八八年九月二五日  
4、2 T・二五二ページ  
5、同・三八〇ページ  
6、同・三九一ページ  
7、4 T・五〇五ページ  
8、2 T・四七二ページ  
9、同・四七七、四七八ページ  
10、同・三八一ページ

11、同・四七三ページ  
12、C T B・一三〇ページ  
13、2 T・四七三ページ  
14、M S S・一八八八年  
15、2 T・四七七ページ  
16、M S S・一七・一八九一ページ  
17、2 T・四七四、四七五ページ  
18、同・四七五、四七七ページ  
19、M S S・一・一八八八年

第六部  
新  
家  
庭



## 第十九章

### 家はどこにあるべきか

場所の選択において指針となる原則

わたしたちが家を選ぶにあたって、まず第一にわたしたち自身およびわたしたちの家族をとりまく道德的および宗教的な影響を考慮することを神は望んでおられる。<sup>1</sup>

霊的向上に最も適した交際をえらび、手のとどく限りあらゆる助けを利用しなければならない。サタンは私たちが天に向かって前進するのができるだけ困難にしようとして、多くの妨害物をおく。多くの人は境遇を自分の思い通りにすることができないから、つらい立場におかれるかもしれない。しかしわたしたちは、クリスチャン品性を築くのに不利な感化の下に自分から身をおいてはならない。もし、やむを得ずそうしなければならぬ場合には、キリストの恵みによって、墮落することのないように、これまでに倍して気をつけ、祈らねばならない。<sup>2</sup>

福音は事の真価をはかることを教え、最も大きな価値があるもの、すなわち永続性のあるもののために、最大の努力をするように教えている。この教訓は家庭を選ぶ責任がある人に必要で、その最高の目標からそれてはならない。……

家庭の位置選定にあたってはこの目的に従って選ぶべきである。財産に対する欲望、流行の、また社会の風習によって動かされてはならない。最も単純で純潔で健康的で実際に価値があるものを重んじなさい。……

人工的事物のみが見え、目にはいるもの、耳にきくものがしばしば悪念をいだかせ、そうぞうしさと混乱が疲労と不安を与えるような場所に住まないで神のみわさをながめることができる場所に行きなさい。自然界の美と静けさと平安の中に精神の安定を見いだし、緑の野、森、丘に目を休ませ、都市の塵埃（じんあい）や煤煙（ばいえん）でくもっていない青空をながめ、気持ちを爽快にする天の空気を呼吸しなさい。3

### 型である最初の家

わたしたちの祖先の住居は、彼らの子孫が全地にひろがる時の住居の型となるはずであった。神ご自身のみ手で飾られたその住居は、決して豪華な宮殿ではなかった。人は誇りから、広壮な、お金のかかった大邸宅に住むことをよろこび、自分の手のわざを得意がるが、神はアダムを園の中に住ませた。この園が彼の住家であった。青空が屋根であり、美しい花が咲いている、生きた緑のもうせんが床だった。葉のおい茂ったりっぱな木の枝が天蓋（がい）を形作っていた。その壁は偉大な芸術家であられる神のみ手のわざになる壮麗な飾りでかざられていた。このきよい夫婦の環境には、各時代のための教訓があった。それは真の幸福は誇りとぜいたくにふけることなく、神のみわざを通して神と交わることにあるということである。人が人工的なものに注意を払うことを少なくし、もっと単純さを養い育てるならば、彼らは彼らが創造された時の神の

目的にもっと近づかずである。誇りや野望は満足を知ることではない。しかしほんとうに賢い人は、すべての人のとどくところに神がお置きになった喜びの源泉の中に本質的な、向上させる快樂を発見するであろう。4

#### 神がみ子のために選ばれた地上の家

イエスは今まで人類の間でなされた働きの中で一番大きい働きをするためにこの世界にこられた。イエスは神の大使として、人生の最大の結果を得る生活法をお教えになるためにおいでになった。神である父がそのみ子のために選ばれた環境とはどんなものであつたらうか。ガリラヤの丘の上の人里離れたところにある家、正直で尊い労働によってさえられた家庭、単純な生活、困難と苦勞をともなった日々のたたかい、克己、経済、忍耐、喜びにあふれた奉仕、母のそばでの聖書研究の時間、緑の谷間の静かな暁やたそがれ、清い自然界の感化、創造と摂理の研究、神との心のまじわり これらがイエスの若い時代の環境であり、機会であつた。5

#### 約束の地の郊外の家

荒野で始められた訓練は、約束の地においても正しい習慣を形成するに適した環境のもとに継続された。都市に密集せず、各家庭は自分の土地を所有し、すべての人が自然の正しい生活による健康的な祝福を受けることができた。6

#### 環境がヨハネの品性に与えた効果

キリストの先駆者であつたバプテスマのヨハネは、幼少時代

の訓練を両親から受けた。彼は生涯の大部分を荒野ですごした。……ヨハネは自分から都会生活の快樂やぜいたくを捨てて、荒野のきびしい訓練を選んだ。荒野での彼の環境は自己否定と簡単な習慣に適していた。彼はここで世の中の騒ぎにわずらわされずに自然界や神の啓示や摂理の教えを学ぶことができた。……彼には幼い時から彼の使命が示されていた。そして彼はその聖なる任命を受け入れた。彼にとって荒野の孤独は、疑惑と不信と不潔な行為がほとんど全般的にゆきわたっている社会からのありがたいのがれ場であった。彼は自分自身の力で誘惑に耐えられるとは信じていなかったから、罪のもつ非常な罪深さに対する意識を失うことのないように、それとたえず接触することを避けた。7

**他の勇士たちもいなかの家庭で育った**      各時代の最も善良で高尚な人々の多くもこれと同じであった。アブラハム、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ダビデ、エリシャの歴史を読んでみなさい。またそれ以後の、高い責任のある地位をりっぱに果たし、その感化が社会の向上に非常に役だった人々の生涯を研究してみなさい。

こうした人々の中で何人がいなかの家庭で育ったであろうか。彼らはぜいたくを知らなかった。また青年期を娯楽に費やさず、多くは貧困と苦難と戦わねばならなかった。幼いころから働くことを覚え、野外の活発な生活は全身の機能に元氣と弾力性を与えた。彼らは持っている物で生きていかなければならないため、困難と戦い、障害物をのり越えることと勇氣と忍耐を学んだ。また独立独歩の教訓と自製の教訓を学んだ。悪友とまじわる機会がきわめて少なく、自然の楽しみと健全な



友情とに満足し、その嗜好（しこう）は単純で、節制の習慣を形成した。主義にもとづいて行動し、純潔、強健で真実な人間に成長した。そして、終生の働きに召されたとき、心身の力と軽快な精神、計画し実行する能力と、悪に抵抗する不拔の精神を打ち込んだため、世界を益する決定的な力となつたのである。 8

- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1、P P・一六九ページ                 | 5、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三七、三三八ページ |
| 2、青年への使命・四二二ページ              | 6、同・二五六ページ                   |
| 3、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三六、三三九ページ | 7、8 T・二二二ページ                 |
| 4、P P・四九、五〇ページ               | 8、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三八ページ     |

## 第二〇章

# 家族と都会

**都会生活の危険**　都市生活は虚偽で不自然である。金銭を獲得しようという強い欲望や不断の興奮、快樂の追求、みえ、奢侈(しゃし)、ぜいたく、こうしたすべてのことが人生の眞の目的から大ぜいの人の心をそらせてしまう。そして、数知れぬ罪惡への門を開き、青年男女の上にほとんど抵抗しがたい力を持っている。都市の子供や青年をおそう最も狡猾(こうかつ)で危険な誘惑は快樂を愛することである。祭日が多く、競技や競馬が幾万の人を集め、連続した興奮と快樂は人生のまじめな仕事から人の心を奪ってしまう。もっと良いことのためにたくわえねばならない金銭が娛樂のために消費されていく。 1

**健康の立場から考えよ**　都市の保健上の環境はしばしば健康に危険であり、たえず疾病に接触しやすいということ、汚染した空氣、不潔な水や不潔な食物が多いこと、それに密集した、暗い非衛生な家屋等は、数多い都市の害の一部にすぎない。

人口が都市に密集し、狭い土地や長屋に雑居することは神のみこころではなかった。最初、人間

の先祖を美しいけしき、楽しい音響のする場所に住まわせられたのであって、今日もわたしたちがそういう環境を楽しむことをお望みになっている。神の最初の計画に調和すればするほど、わたしたちは肉体と知能と霊の健康を獲得しやすい。2

**罪惡の温床** 都会は誘惑に満ちている。わたしたちは若い者たちをできるだけこの害毒から遠ざけるように自分の仕事を計画しなければならない。3

子供や青年たちを注意深く保護しなければならない。都会に見られる罪惡の温床から彼らを遠ざけなければならない。4

**騒動と混乱** 神の民がたえずわついている混乱した都会に住みつくことは神のみこころではない。あわただしさや騒音はからだの全組織を弱めるから、子供たちがそうしたものから免れるようにしなければならない。5

**労働問題** 独占企業の活動や労働組合やストライキによって都市の生活状態は刻々、困難になっている。恐ろしい災難が迫っており、多数の家庭が都市から離れねばなくなる。6

**切迫している破滅** 大都会が一掃される時が迫っている。すべての人々に到来しつつある刑罰を警告しなければならない。7

いまほとんど偶像礼拝に陥ってしまった幾千という都会の破滅が迫っていることを神の民が感じることができたらどんなによいことであろう。 8

### 世的な利益と金銭獲得への愛着

親が子供たちを正しい環境におくように注意しない場合が多い。彼らは家を選ぶときに、道徳的な社会的なふんい気よりも、世的な利益について多く考えるために、子供たちは敬神の念を育て、正しい品性を形成するに不利な交わりを結ぶ。...

子供をモロクの神にささげたカナン人を非難する両親がたよ、あなたがたは何をしているのだろうか。あなたがたはマンモンの神に非常に高価なものをささげている。そしてあなたがたの子供たちが愛されない好ましくない品性の持ち主に成長し、明らかな不敬の念、不信仰の傾向を示すと、あなたがたは自分が信じているといった信仰が彼らを救うことができなかったことでその信仰を非難する。あなたがたは自分のまいた種すなわち世に対する利己的な愛と、恵みの富を軽くみなした結果を刈り取っているのである。あなたがたは家族の者を誘惑の場所に移した。あなたがたの栄光であり守護である神の契約の箱をあなたがたはたいせつなものともみなさなかった。だから主はあなたがたの子供を誘惑から救い出すために奇跡をなさらなかった。 9

### 都会は真の利益を与えない

都会に住まいながら身体的に精神的に靈的に向上する家族は百のうち一つとしてない。信仰、希望、愛、幸福は、町から離れて、野や山や樹木のある所で得るほうがはるかに得やすい。あなたがたの子供を都会の光景や騒音から、電車や汽車のひびきや騒音から連

れ出しなさい。そうすれば子供たちの精神はもっと健康的なものになるであろう。そのほうが彼らの心に神のことばの真理をうえつけることが容易であることがわかるであろう。 10

郊外から都会地域に移転することに対する勧告

都会のほうがもっと望ましい所であり有利な場所であると考えて、いなかの家から都会に移転する親が多い。だが移転したために彼らは子供たちを多くの大きな誘惑にさらしているのである。少年たちはすることがないために町でいろいろのことを覚え、一步一步墮落に陥り、ついに善で純潔で聖なるものすべてに対して興味を失ってしまう。両親が家族と共に、身体的精神的な力にもっと適したいなかにとどまっていたほうがどんなによかったことであろう。青年たちに土を耕して働くことを教えなさい。快い疲労による邪気のない睡眠をとらせなさい。

親の怠慢のために、都会に住む青年たちは自らの習慣を墮落させて神の前に魂を汚している。これはいつも、彼らが何もすることがないからである。施療院や監獄や絞首台は、両親が責任をおるそかにした悲しむべき物語を語っている。 11

あなたの手にゆだねられた尊い魂を危険に陥れたくないならば、世的な考慮をいっさい犠牲にしたほうがよい。子供たちは誘惑の攻撃を受けるのであるから、それに対抗することを教えなければならぬが、あなた自身またあなたの家族が自分を自由に広い心から神にゆだねることをはばむすべての影響力を断ち、すべての習慣を捨て、すべてのきずなを断ち切るのはあなたの責任である。混雑した都会よりも、あなたの子供たちができるだけ誘惑から守られる町から離れた場所を探しな

さい。そしてそこで彼らを有用な人物に育て訓練しなさい。預言者エゼキエルは次のようにソドムを滅亡に導いた原因をあげている。「高ぶり、食物に飽き、安泰に暮っていたが、彼らは、乏しい者と貧しい者を助けなかった。」ソドムの運命をのがれたいと思う者はみな、あの罪惡の町に神の刑罰を招いた行ないを避けなければならない。 12

ロトがソドムに行ったとき、わが身を不義から守り、自分にならう者とするように家族の者を治める気持ちは十分に持っていた。だが彼は大失敗をした。墮落した周囲の感化は彼自身の信仰に影響を与えた。また子供たちがソドムの住民と結婚したために、彼の関心はある程度彼らの関心に結びついた。その結果はわたしたちに示されている。多くの人々はいまも同じような誤ちを犯している。 13

あなたの家庭をソドムとゴモラからできるだけ離れたところを選び、あるいはつくるために研究しなさい。たといそうしたために富裕になれなくとも、できればあなたの家庭を静かないなかにつくりなさい。いちばんよい影響のある所に住みなさい。 14

わたしは教会の人々に、家族を住まわせる家を求めて都会にむらがらぬよう警告することを主に命じられた。父親と母親がたに、あなたがたの子供たちを自分の屋敷の中で育てるようにと告げることを主に命じられた。 15

今は都会から移転すべき時である  
あなたは家族を都会から連れ出ささいというのがわたしの  
メッセージである。 16

神が道をお開きになるままに家族の者が都会から転出すべき時がきた。子供たちをいなかにつれていったほうがよい。親は、経済的な事情の許すかぎりよい場所を手に入れなければならない。家そのものは小さくともよいが耕すことのできる土地がそれについているほうがよい。17

地上の住民に圧倒的な災いがくだらない前に、主は真のイスラエル人にその事件のために準備するよう訴えておられる。神は両親に対して次のような警告の叫びをあげておられる。「あなたがたの子供たちを自分の家に集めなさい。できるだけ早く大都会から去りなさい。」18

**神はその民を助けられる** 両親は、耕作のための土地がついている小さな家をいなかで手に入れることができる。その土地に果樹を植えたり、それを耕して、血管を流れている血液にとって非常にわるい動物の肉のかわりになるやさいや小さなくだものを得ることができる。こういうところにいれば、子供たちは都会生活の墮落した感化に囲まれることはない。神はその民たちがそうした家を市外にみつけるのを助けてくださるであろう。19

1、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三六、三三七 ページ	7、E V・二九ページ
2、同・三三七ページ	8、R H・一九〇三年九月一〇日
3、C L・三〇ページ	9、5 T・三二〇ページ
4、同・二二ページ	10、C L・一三ページ
5、同・三〇ページ	11、R H・一八八一年九月一三日
6、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三七ページ	12、5 T・二三二、二三三ページ
	13、P P・一六八ページ

16、	15、	14、	6、
同・三〇ページ	C・L・S・五七・一三ページ	M・S・五七・一八九七ページ	ミニストリー・オブ・ヒーリング・三三七ページ

19、	18、	17、	13、
M・M・三一〇ページ	6・T・一九五ページ	同・二四ページ	P・P・一六八ページ



## 第二章

### いなかの利点

一片の土地と居心地のよい家

事情さえ許せばいつでも子供たちのためにいなかにも家をもつこと

は、両親の義務である。 1

一片の土地と居心地のよい家を持つ父親と母親は王であり女王である。 2

都会を離れていなかに移るように命じられたとき、それを不自由なことと思つてはならない。いなかには、それをとらえる者に豊かな祝福が待ちもっている。 3

経済的な安全に役立つ

主は神の民に、家族を都会から自分自身の食糧をつくることのできるい

なかに連れていくようくり返し指示された。それは、将来売り買いがきわめて困難な問題となるからである。いまわたしたちは与えられた指示に留意しはじめるべきである。都会を離れて、家屋のたてこんでいない、敵の干渉を受けない田園地方に行きなさい。よ（この問題についてのもっと具体的な勧告に関しては「田園生活」を読みたい）。

**都会生活者に対する勧告** 心を悩ます心配事を捨てて、青年の道德的品性を墮落させる強い影響のないいなかののがれ場を見つけることはあなたにとってよいことである。たしかに、いなかに行っても困ることや心悩ます心配ごとが全くなくなるといふことはないであろうが、そこで多くの悪を避け、あなたの子供たちの心を打ち負かそうとする誘惑の洪水に対して戸を閉ざすことができる。子供たちは仕事と変化が必要である。家庭の単調さは彼らを不快にしいらだたせている。そのために彼らは町の悪い少年たちと交わる習慣をつけ、道ばたでいろいろのことを覚えたのである。……いなかに住むことは彼らにとってたいへん有益なことである。活発な戸外生活は精神と身体の健康を促進する。彼らはその中からたのしみと有益な仕事の両方を見いだすことのできる耕作のできる庭園を持つべきである。植木や花の栽培は趣味を高め、判断力を向上させるのを助ける。一方神の有益な美しい創造物に関する知識は、創造主、すべてのものの主であられる神を示して心を洗練し高める感化を持っている。 5

**田園生活者に豊かな祝福が保証されている** 集める勇氣と意志と忍耐力を持っている人のために、土の奥深いところに祝福がかくされている。……おおぜいの農夫たちが自分の所有地からそれ相当の報酬を得ていたのは、彼らが自ら手がけた仕事をいやしい職業であるかのように扱うからである。彼らはその仕事の中に彼ら自身と家族の者にとって祝福があることを認めない。 6

**心をいきいきさせ、品性を洗練する労働**

心ある働き人は土を耕してみても思いがけない宝が目

前にあらわれるのに気がつく。農業や園芸においては、そこに含まれている法則に注意を払うことなしには、だれも成功することはできない。それぞれの種類の植物について、その特殊な必要を研究しなければならぬ。種類の相違によって、それぞれ異なった土壌と栽培が必要であり、おののを支配している法則にしたがうことが成功の条件である。移植に必要な注意、すなわち毛根を密着させたり置きちがえたりしないことや、苗の保護、剪定(せんてい)や灌水(かんすい)、夜は霜を昼は太陽を防ぎ、雑草、病気、害虫を防ぎ、整枝、排列に気をつけるなど、すべてこうしたことは品性の発達についてたいせつな教訓を教えるばかりでなく、また働きそのものが発達の手段でもある。注意深さ、忍耐力、こまかいことに対する注意、法則に従う観念などを養う上にこのような働きは非常にたいせつな訓練となる。生命の神秘や美しい自然との絶えざる接触は、神の創造されたこれらの美しいものに奉仕することによって生ずる心のやさしさとともに、心をいきいきとさせ、品性を洗練して高める上に役立つ。7

### 神が教え指導される

エデンの園でアダムとエバに園のめんどろを見る方法をお教えになった神は、今日の人々にも教えてくださる。すきを手にし、種をまき植える者のために知識がある。土の中には宝がかくされている。そして主は都会にむらがつて、ほんのわずかなものを得る機会を待っている幾千という人々が土を耕すようになることを望んでおられる。∴家族をいなかにつれて行く者は、彼らを誘惑の少ないところにおいているのである。神を愛し、おそれる両親といっしょにいる子供たちは、あらゆる面において、知恵の源泉であられる偉大な教師について学べるよりよい

状態にある。彼らは天の王国にはいる資格を得るはるかにより機会を持っている。 8

### イスラエル人の土地に関する神の計画

アダムとエバは神への不従順によってエデンを失い、全地は罪のためにのろわれた。だが、もし神の民が神の教えに従うなら、その土地は豊饒（ほうじょう）と美を回復するのであった。神はみずから土地の耕作についての教えを彼らにお与えになった。だから、彼らは回復のために神と協力しなければならなかった。こうして神の支配下にあつて、全地が霊的真理の実物教訓となるのであった。神の自然の法則に従うことによって地がその宝をうみ出すように、神の道德律に従うことによって民の心は神のご品性を反映できるのであった。 9

### 日常生活から教訓を見いだす

神はわたしたちのまわりを美しい自然の風景でかこんで、わたしたちの心をひきつけておられる。神はわたしたちが自然の美しさと神のご品性をむすびつけて考えるように計画された。自然という書物をまじめに研究してみると、自然こそは、神の限りない愛と力について瞑想（めいそう）する上に豊かな源であることがわかる。 10

キリストは、単に安息日ばかりでなく、普通の労働の日にも、教訓を結びつけられた。∴畑にあぜを作つて種をまき、耕しては収穫を刈り取るということから、キリストの恵みがどのように人の心の中で働くかを学ぶように、主はお教えになる。こうして、どんな職業に従事し、どんな社会にしようとも、そこで神の真理を学ぶようにイエスは望まれる。そうするとき、日常の雑事に心を奪われて、神を忘れることはない。自然は常に、わたしたちの創造主であり、あがない主であるイ

エスを思い起こさせる。神の思いは、黄金の糸のように、わたしたちのすべての家庭の仕事や職業の中に一貫して見られるようになる。そして、わたしたちは、神の笑顔の栄光が、ふたたび自然界の上に輝くのを見る。わたしたちは、天の真理を学び続けて、主の純潔なお姿へと成長し続けることであろう。

11

### 自然と人類を支配する同じ法則

大教師イエスは、聴衆を自然の事物に接触させて、あらゆる被造物の中に語られている声をきかせ、そうして彼らがなごやかな気持ちになって素直な心をもったときに、目の前にながめている自然の風物から霊的な教えを解きあかされた。∴キリストの教訓の中には、一人びとりの心に興味を起こさせ、一人びとりの感情に訴える何ものがあつた。このようにして、日々の仕事は、高い理想の失われた単なる骨折りのくりかえしとならないで、たえず目に見えない霊的なものを心に思い出すことによって、明るくそして向上したものとなった。

わたしたちもこのように教えなくてはならない。自然の中に神の愛と知恵のあらわれを見、鳥や花や木にむすびつけて神を思い、目に見えるすべてのものが、目に見えないものの解説者となり、日々の生活のできごとを通して神の教えを知ることを、子供たちに教えなければならぬ。

このようにして、あらゆる被造物とあらゆる生活経験から教訓を学ぶとき、自然の事物と生活のできごとを支配している同じ法則によつて、わたしたちもまた支配されなければならないということ、しかもそれらの法則は、わたしたちの幸福のために与えられているのであつて、この法則に従う時のみ、わたしたちは真の幸福と成功を見いだすことができるということを示さなければならぬ。

らない。  
12

### 農業における実際の教訓を与える

成長の過程の変化の中には、ほとんど数えつくすことのできないほど多くの教訓が含まれているが、その中の最もとうとい幾つかの教訓が、種の生長についての救い主のたとえ話の中に含まれている。それは年をとった者にとっても若い者にも教訓を与えている。……

種の発芽は、霊的な生命の始まりをあらわし、植物の生長は、品性の向上にたとえられる。親と教師が、こうした教訓を教えるには、実際のな面から教えないといけない。子供たちに、自分で土を耕させ、種をまかせるがよい。子供たちが働いているときに、心という畑には、善悪の種がまかれること、そして植物の種をまくために畑を準備しなければならないように、真理の種のために心を準備しなければならぬことなどについて、親や教師は説明することができる。種をまかない土地からすぐにも収穫があるように期待する人はだれもない。土地を準備し、種をまき、作物を育てるには、勤勉な忍耐強い努力が必要である。霊的な種まきもその通りである。  
13

### 悪い習慣を雑草とみなす

できることなら家は都会を離れたところに、子供たちが耕すことのできる土地のあるところにあるほうがよい。子供たちにそれぞれ幾らかの土地をあてがうとよい。そして庭を作る方法や種まきのために土地を準備する方法を教えるとき、また雑草をいつも全部抜きとっておくことがどんなにたいせつであるかを教えるときに、見苦しい有害な習慣を生活から除く

ことがどんなにたいせつなことであるかを教えなさい。子供たちに、庭の雑草の力を弱めるように悪い習慣の力を弱めることを教えなさい。こういう教訓を教えこむには時間がかかるが、それは大きく報われる。<sup>14</sup>

家庭の環境は信仰を示す

両親は彼らの環境を、彼らが告白する信仰に相応したものにする義務を神に対して負っている。そうするとき彼らは子供たちに正しい教訓を与えることができ、子供たちも地上の家を天の家に関係づけることを学ぶようになる。地上の家族はできるかぎり天の家族の型とならなければならない。そうなる時に、ひくい卑しいことに耽溺(たんでき)させようとする誘惑の力は大いに弱められる。子供たちに、彼らがこの世では見習生にすぎないこと、イエスがご自分を愛しご自分のいましめを守る者のために備えておられる住家の住民となるために教育されていることを教えねばならない。これは両親が果たさねばならぬ最高の義務である。<sup>15</sup>

両親がたよ、いなかの家を手に入れなさい

神がわが教会の人々に話す力を与えていてくださるかぎり、わたしは親であるかたがたに都会を離れて、土を耕し、自然という書物から純潔と単純さを学ぶことのできるいなかに家を持つことを訴え続ける。自然界という書物は主の無言の説教者であつて、霊的真理を教えるためにわたしたちに与えられているものである。それはわたしたちに神の愛を語り、偉大な芸術家の知恵を物語っている。

わたしは美しい花が好きである。花はエデンの園を思わせる。それはわたしたちが忠実であれば

まもなくはいれる、幸福な園を示している。主はわたしの心を、草花と樹木のある健康を与える土地にみちびいておられる。16

1、CL・一二ページ  
2、FE・三二七ページ  
3、CL・一四ページ  
4、同・九、一〇ページ  
5、4T・一三六ページ  
6、FE・三二六、三二七ページ  
7、教育・一三四ページ  
8、FE・三二六ページ

9、キリストの実物教訓・二六七ページ  
10、MYP・三六七ページ  
11、キリストの実物教訓・八、九ページ  
12、教育・一二三、一二四ページ  
13、教育・一二五、一二七、一三三ページ  
14、CT・一二四ページ  
15、CTB・一四四ページ  
16、L・四七・一九〇三年



## 家の建築と家具の備え付け

採光、換気、排水をよくする

公の建物であつても個人の住居であつても、家を建てる場合、よい換気と十分な日光が得られるように注意しなければならない。ところが教会や学校の建物には、この点がうまくいってないのが多い。換気を無視することが眠気や倦怠(けんたい)の大きな原因であり、多くの説教の効果をなくし、教師の働きをほねのおれる効果のないものにするのである。

住居用の建物はすべてできるかぎり排水の良い、高い所に建てなければならない。そうすれば土地は乾燥し、湿気や毒気から生ずる病気の危険が防止される。この問題があまり軽視されている場合が多く、低い土地や排水の悪い場所の湿気やマラリヤのため、つねに不健康で恐ろしい病気にかかり、多くの人が死ぬのである。

家の建築にあたって完全な換気とよく日光があたるかどうかをしらべて着手することが特に重要である。各室に空気が十分に通り、日光がよくはい入るようにすべきである。寝室は、昼夜空気がよく流通するように設計しなければならない。日々窓を解放して空気と日光を入れることのできないへやは寝室に使用するには適しない。たいていの国では、寝室は寒い日や雨の日にはよく暖め、乾

燥できるように暖房のくふうが必要である。

客間はたえず使用する他のへや同様に注意し、他の寝室と同じように空気と日光がよくはいり、常時使用せぬへやにたまりがちな湿気をとるためなんらかの暖房のくふうが必要である。日が当たらないへやに眠る者や、よく乾燥せず、空気にさらしてない寢床に休む者は、自分の健康を危険にさらし、その生命を左右されることがしばしば起こる。…:

老人の世話をする者は老人には特に暖かい気持ちのよいへやが必要であることを記憶しなければならぬ。年が進むにつれて精力は衰え、非衛生的な影響に抵抗する活力が少なくなるものであるから、老人には十分な日光と新鮮な清い空気を与える必要がさらに大きいわけである。1

#### 低地を避けよ

もし家庭を健康と幸福が宿る所としたければ低い土地から生ずる毒気や霧がとどかぬ所に家を建て、生命を与える天来の力が自由にはいつて来るようにしなければならぬ。厚地のカーテンを掛けるのをやめ、窓やおおいを開放し、どんなに美しい草でもそれが窓を陰にしたり、日光が内部にさし込めないほど家のそばに木を持ってきたりしてはならない。日光は織物や敷物の色をあせさせ、額を変色させるかもしれないが、しかし子供のほおには健康な色を与える。2

#### 家を囲む庭

家から適当に離れたところに樹木や灌木が点在している美しい庭は、家族に楽しい影響を与え、よく手入れがしてあれば、健康に害を与えることはない。しかし日陰の多い樹木や灌木が周囲に密生している家は、空気の流通が悪く、太陽の光もさし込まないから健康的でない。こ

ういう家には湿気がこもる。雨季にはそれが特にはなはだしい。3

### 自然の美が家庭に与える影響

神は美しいものを愛される。天地を美でおおい、ご自分が創造されたもので神の子が楽しむのを、父の喜びをもって見守っておられる。神は自然の事物の美によってわたしたちの家を囲むように望んでおられる。

どんなに貧しくても、いなかに住んでいれば、ほとんどだれもが家の周囲にいくらかの芝をもったり、数本の木や花の咲く灌木や、かおりの高い草花を植えることができる。それがどんな人工的な装飾よりもはるかに家族を幸福にするであろう。それは家庭生活に温和な、高尚な感化をもたらす、自然を愛する愛を強め、家族の者を互いに親しませ、神に近づかせる。4

家具は簡素でなければならない わたしたちの不自然な習慣は多くの祝福と楽しみを奪い、最も有益な生活を送るのに適さぬものとする。念の入った高価な家具は単に金銭の浪費であるばかりでなく、それより千倍も尊いものを失わせる。すなわち家庭に心配と労働とめんどろな重荷を負わせる。……

飾り気がなく単純なもので、使用に耐え、たやすく清潔にすることができ、高い金を使わずに、代わりの品が買えるもので家庭の設備をしなさい。もし愛と満足さえあれば、非常に簡素な家でも趣味を働かせることによって魅力的な感じのいいものになることができる。5

幸福は空虚な見せびらかしの中には見いだされない。きちんとした家庭が単純にいとなまれてい

ればいるほどその家庭は幸福である。 6

**競争心を避けよ** 多くの人にとって人生は失望と疲労でしかない。それは、彼らが慣習の要求するすべてのことをしようとして必要以上に働くためである。彼らの心は、誇りと慣習から生じる欲望を満たそうとするためにいつも心配で悩まされている。...

明らかに有害でないにしても、必ずしも必要でないものに浪費された費用や心使いや労力が、もっと価値のある目的のために用いられたなら、神のみわざを進展させるために役立ったことである。人々はいわゆる生活のぜいたく品を渴望し、それを得るために健康と力と金銭を犠牲にする。同じ階級に属する人々の間に、衣服や家庭にだれがいちばん経費をかけるかといううなげかわしい競争意識が見られる。「家庭」という美しいことばが、「四つの壁に囲まれた高雅な家具と装飾で満たされたところ」という意味にゆがめられ、その中に住む者たちは、生活の各方面の慣習の要求を満たすためにたえず無理しているのである。 7

体面をつくらうために無理をするあまり、家庭生活が幸福にいつていない人がおおぜいいる。こういう人々は、彼らに対して、また彼らが経済的によくなったことに対して全然むとんちやくな友人らに見せびらかしてその称賛を得ようと大金を使い、休みなく働いている。家庭の設備にどうしても必要だと考えられて高価な道具がつぎつぎふやされていくが、それは目を楽しませ、誇りと欲望を満足はさせても、家族の幸福を少しも増さない。それでいてこれらの諸道具を手に入れるために多大の努力と忍耐が払われ、主の奉仕にささげるべき貴重な時間がそのために消費されている。

真の重要性をもたぬものが神の恵みよりも重要視されている。そして多くの者は楽しみのために物質を集めながら、幸福をたのしむ力を失っている。彼らは持ち物が期待していた満足を与えてくれないことを見いだす。この果てしない労力、訪問客や新来の人々を感嘆させるために家を飾りたてようとすることの絶えまない心使いは、そのためについやされた時間と費用をつぐなうことは決してない。それは負うに苦しい束縛のくびきを首につけていることである。8

## 二つの訪問の比較

ある家庭では物事がされすぎている。気持ちよく暮らすには整頓することにも必要であるが、それがゆきすぎて、生活が単調な骨折り仕事の連続となり、家庭に住む人々が不幸になるようであってはならない。わたしたちが尊敬しているあるかたがたの家庭では、家具や家財の配置がきちようめんで固苦しいが、それは乱雑と同様不愉快である。家庭全体を犠牲にする肩の張る礼儀作法は、人が真の家庭に見いだすことを期待する休息を発見することをはばむ。

親しい友人を短時間訪問しているときに、ほうきやぞうきんがひっきりなしに使われているのを見るのは愉快なことではない。あなたが友人たちと社交的な談話で楽しむつもりでいる時間を、彼らが室内を片づけたり、かくれた小さなごみやくもの巣を探し出すために隅々をのぞき込むことについてやせば、たとい、彼らがあなたがいることに対して敬意を表わしてそうしているのであっても、あなたは、自分がいっしょにいることよりも、清潔にしていなければならないというゆきすぎた考え方のほうが彼らにとっては重要なのだということをさとられて心を傷つけられる。

わたしたちがこの夏（一八七六年）訪問した家庭はそういう家庭とは全く対照的であった。わた

したちはここで数時間過ごしたが、その間、 unnecessary 仕事やほかのときにしてもよいようなことは少しもされずに、楽しく有益に過ごすことができ、心にもからだにもよい休息となった。その家庭はぜいたくな家具こそなかったが、居心地のよさでは模範的な家庭であった。どのへやも明るくて、換気がよく行なわれていた。これは最も高価な装飾に比較しても真に価値のあるものである。居間は退屈を感じさせるようなきちょうめんさでとのえられていず、家具は変化があつて感じがよかった。

いすはほとんどゆりいすか安楽いすであつた。それはどれも同じ形のものではなかったが、家族の者にそれぞれ適したすわり心地のよいものだった。低い、クッションつきのゆりいす、後のよりかかりがまつすぐの高いいす、巾の広いゆつたりした安楽いす、こじんまりした、小さないすなどがあつた。また気持ちのよい長いすもあつた。どのいすも、わたしの上にすわつてゆつくりなさつてくださいます、とてもいつているように思えた。書物や雑誌がいっぱいにひろげられている机も幾つかあつた。すべてが小ぎれいで美しく、置き違えてはいけなから何にもさわらぬようにとても警告しているようなきちょうめんな配置の仕方はしていなかった。

この居心地のよい家の持ち主は、家にぜいたくな設備をほどこしたり装飾をほどこすことのできる状態にあるかたがたであつたが、賢明にも見せびらかすことよりも居心地のよさを選んだ。ふだんに使つて惜しいと思うようなものは何もなく、じゅうたんの色をあせさせたり、家具を変色させぬために、カーテンや日おいをいつもおろしていることはなかった。神が与えたもうた太陽の光と空気が、花の香りと共に自由に流れ込んでいた。家族のかたがたはもちろんその家にふさわしいか

たがただった。彼らはみな明るくて愛想がよく、わたしたちを居心地よくするために必要なことをすべてしてくれた。だが余分なめんどろをにかけているのではないかという心配を抱かせるほど気にくばりすぎて、わたしたちに重苦しく感じさせることはなかった。わたしたちはここそ休息の場であると感じた。それは家庭ということばのもつすべての意味での家庭であつた。9

### 装飾に用いられる原則

固苦しいきちょうめんさが多くの家庭の不愉快な特徴であることを前に指摘したが、これは自然の偉大な計画に合致していない。神は野の花を、きちんと仕切られた整然とした花床に生長するようにはなさらず、緑の草原に宝石のように散らされた。花は変化に富んだ形と色で地上を美しくよそおっている。森の木々も規則正しく整然としてはいない。森や丘や谷間や野原や川など自然界のいろいろの場所を歩きまわり、樹木や灌木や花が自然という園の中で寄り集まつて美しい絵を描いているその形や色の無限の変化と美しさを楽しむことは、心と目のよい保養になる。子供も青年も老人もみな同じように自然の中に休息と満足を見いだすことができる。

この変化の法則をある程度家庭にとり入れることができる。家の中の色を適当に調和させ、家具もだいたい統一させるほうがよいが、へやの中のすべてのものを同じ型のデザイン、同じ材料、同じ布地にすることは必ずしもよい趣味とはいえない。反対に、調和のとれた変化があるほうが見た目には快い。

だがその家が粗末であつても優雅であつても設備がぜいたくであつても、その反対であつても、その中に住む人々の精神が神のみこころに調和していなければ、そこには幸福はない。満足の精神

がその家庭を支配していなければならない。10

家の中に実際に住んでいる人が最もよい場所を、日の最もよく当たる美しいへやといちばんよい家具を毎日使用すべきである。このことは、その家に住む人と、わたしたちをほんとうに思ってくれる友人たち、わたしたちが益を与え、またわたしたちに益を与えてくれるような友人たちにとって家庭を魅力のある所にする。11

### 子供たちの安楽と幸福を考慮せよ

子供たちを家庭で満足させ幸福にするにはぜいたくな環境や高価な家具は不要で、両親が彼らにやさしい愛と注意深い心づかいを示す必要がある。12

四方の壁と高価な家具やビロードのじゅうたんや、優雅な鏡やりっぱな絵があつても、同情と愛がなければ「家庭」をつくることはできない。家庭という神聖なことは家庭生活のよろこびが知られていないきらびやかな邸宅のものではない。...

事実そういう家庭では子供たちの安楽と幸福は考えられていない。母親は体面をつくり、社交界の慣習に従うために全時間をささげて子供たちをかえりみない。子供たちの心は訓練されないから、彼らは悪い習慣を身につけ、いらいらし、不満を持つようになる。自分の家庭に不快と拘束以外何の楽しみも見いだすことができないために、彼らは機会があればすぐに家族から離れてしまふ。彼らは家庭の感化や炉辺のやさしい忠告にひきとめられることがないから、何のちゅうちょもなく広い世界へ出ていく。13

わたしは多くの母親が次のようにいうのを聞くが子供たちに向かつてそういうことのないように



したいものである。「客間にはあなたのいる場所はありません。ダマスコしゅすのカバーがかけある長いすにすわってはいけません。その長いすにすわってほしくありません。」子供たちが他のへやに行くと、「ここで音をたてないでほしい」といわれる。そこで台所に行くと、今度は料理している者が「ここでじゃまをしないでほしい。騒々しいからここを出てください。あなたがたはじゃまをしてうるさい」という。子供たちはどこへ行って教育を受けるであろうか。街頭である。14

### ぜいたくより親切と愛情が尊い

あまりにも多くの心配事や重荷が家庭の中に持ちこまれ、自然の単純さと平和と幸福の尊ばれることがあまりにも少ない。家庭の外の社会で言われていることをあまり気かけずに、家族の者にもっと思いやり深い配慮を示さなければならぬ。表面的な、見せかけの、世的な礼儀正しさをなくして、やさしさと愛情と明るさとクリスチャン的な礼儀正しさが家族の間にもっとなければならぬ。多くの人は家庭を魅力のある、よろこびの所とするにはどうすればよいか、その方法を学ぶ必要がある。感謝の心とやさしい表情は富やぜいたくよりももっと価値があり、質素なもので満足する心は、愛があれば家庭を幸福にする。

わたしたちのあがない主イエスは、地上を王の威厳をもつてあゆまれたが、心は柔和でけんそんであった。イエスは快活さ、希望、勇気を持っておられたので、どの家庭にあつても光と祝福となられた。神が宝石よりも尊んでおられる柔和な、おだやかな精神が尊まれずに、家を美化するため入手に困難なものが望まれたり、それを手に入れるための努力が払われている。こういうことがもっと少なかったならどんなによいことであろう。簡素、柔和、真の愛情といった徳はどんな貧し

い家庭をも天国にする。平和と満足を失うよりは、あらゆる不便を快活にしのだほうがよい。

15

164

1、	ミニストリー・オブ・ヒーリング・二四九	二五一
2、	同・二五〇ページ	
3、	CTB・一〇七ページ	
4、	ミニストリー・オブ・ヒーリング・三四〇ページ	
5、	同・三三九、三四〇ページ	
6、	同・一八七七年八月二三日	
7、	同・一八七七年八月二三日	
8、	同・一八八四年一〇月二日	
9、	同・一八七七年八月二三日	
10、	同・一八七七年八月二三日	
11、	同・一八八四年一〇月二日	
12、	同・一八八四年一〇月二日	
13、	同・一八八四年一〇月二日	
14、	MS・四三A・一八九四年	
15、	4T・六二一、六二二ページ	

第七部  
神  
の  
遺  
産



## 第二十三章

# 祝福である子供

神は家族を持つよう計画された。アダムの手としてエバを与えられたお方が……婚姻を是認し、御自ら制定された制度としてそれを認められた。キリストは男女が清い結婚によって結ばれ、天の家族の一員として認められるような、りっぱな家族を育てあげるようにお定めになった。1

子供たちは、神の嗣業であるから、こうした神の財産の取り扱い方の責任を神の前で問われるのである。……そのように、愛と信仰と祈りによって、親たちは家族の者のために働き、ついには、喜びつつ神のところへきて、「見よ、わたしと、主のわたしに賜わった子たち」と言うことができるようにしよう（イザヤ書八ノ一八）。2

子供のない家庭はわびしい所である。こういう家庭の住人は、心が利己的になり、自分の安樂のみを愛し、自分の希望や都合だけを考える危険がある。彼らは自分に同情を集めるが、他の人にそれを与えることがほとんどない。3

子供のない夫婦への勧告

環境に応じていろいろの形で表われる利己主義とあなたがたの悪い性

質は死滅しなければならない。あなたがたに子供があつて、その子供たちのめんどろを見たり教育したり彼らの模範とならなければならぬために、自分のことを考えるひまがなかったのであつたら、それはあなたがたにとって利益であつたことであらう。…あなたがたのように家族がふたりしかなく、忍耐と寛容と真の愛を働かせなければならぬ子供がいなければ、あなたがたは利己主義が支配し、自己中心となり、注目と配慮と関心を要求しながら他人にそれを与える義務を感じなくなるようなことがないようにたえず警戒する必要がある。4

ほとんど自分のことしか考えないために、肉体的に精神的に道徳的に病氣の人がおおぜいいる。こういう人々は、健康的で活気に満ちた青年や、たえず気分のかわる、じつとしていることのできない元氣にあふれた子供たちによつて活氣のない状態からぬけ出ることができ。5

#### 子供を育てることによつて高貴な性質がのばされる

わたしはごく幼い時から苦しむようになったので、どの子供に対してもやさしい関心を持っている。わたしはたくさんの子供を引きとつてめんどろを見たが、子供たちの単純さと交わることは自分によつて大きな祝福であることをいつも感じていた。…

子供たちを扱うにあたつて必要な同情と忍耐と愛はどの家庭にとつても祝福である。それはもつと快活さと落ち着きの必要な人々の性質の傾向をやわらげ静める。子供のいる家庭はそのことによつて楽しくされ洗練される。主に対する恐れのうちに育つた子供は幸福である。6

わたしたちに頼っている子供たちに対する愛情や心づかいは、わたしたちの性質からあらあら

いものを除き、わたしたちをやさしい同情深い者にする。それはわたしたちの品性の中にある高貴な要素をも発達させる。7

**子供がエノクに与えた影響** 長子が生まれてからエノクは高い経験に到達した。彼は神とのさらに高い関係に導き入れられた。彼は神の子としての自分の義務と責任をいっそう深く認識した。父親に対する子供の愛情、父親の保護に対する子供の単純な信頼を見たとき、また長子に対して深い、切々とした愛情を自分で感じたとき、彼はひとり子という賜物の中に与えられた人類への神のすばらしい愛と、また天の父に対して神の子らが持つことのできる信頼について尊い教訓を学んだ。∞

**尊い遺産** 子供は尊い遺産として両親にあずけられたものである。神はいつかそれを要求される。わたしたちは子供の教育にもっと多くの時間と心づかいと祈りをささげなければならない。子供たちは正しい教育をもっと必要としている。……

あなたのむすこやむすめたちが神の家族の若い一員であることを記憶されたい。神は天のために育て訓練し教育するよう彼らをあなたにゆだねたもうたのである。あなたはその神聖な義務をどのようにに果たしたか神にその報告をしなければならぬのである。9

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| 1、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三二九ページ | 6、L・三二九・一九〇四年    |
| 2、キリストの実物教訓・一七五ページ       | 7、2 T・六四七ページ     |
| 3、2 T・六四七ページ             | 8、P P・八四ページ      |
| 4、同・二三〇、二三一ページ           | 9、R H・一八八二年六月一三日 |
| 5、同・六四七ページ               |                  |

## 第二十四章

# 家族の大きさ

母親と子供と社会に対する悲しむべき誤り

大きな家族に十分なことをしてやれるかどうかを考慮せずに、養育や指導を全部親から受けなければならぬ幼い子供たちを家の中に満たす両親がいる。……これは母親にだけでなく、子供にとっても社会にとっても悲しむべき誤りである。……

両親は子供たちの将来の利益をいつも念頭におかねばならない。生活の必需品をまかなうために骨の折れる仕事に全時間を費やさなければならぬようであってはならない。1

両親は家族をふやす前に、この世に子供を生み出すことは神をあがめることかどうかを考えてみなければならぬ。彼らは結婚の当初から、また結婚生活の一年一年を通じて神の栄えを表わすよう努力しなければならない。2

母親の健康がたいせつである

両親に負わされた責任を考慮して、家族の中に子供をふやすことが最善であるかどうかを注意深く考えなければならない。母親は子供たちのめんどろを見るだけの力を十分に持っているであろうか。また父親は、子供を教育しその品性を正しく形造る種々の便宜



を与えることができるであろうか。子供の運命が考慮されることはきわめて少ない。欲望を満足させることだけが考えられ、妻や母親は重荷を負わされるために元気が衰え、靈的力が麻痺させられる。健康をそこなわれ、打ちひしがれた気持ちをもって、彼女は当然しなければならぬようにめんどろを見ることのできない小さな群れに自分がとり囲まれていることを発見する。子供たちは受けるべき教育を受けずにそのままに成長して、神のみ名をけがし、彼ら自身の悪い性質を他人に伝える。こうしてサタンが彼の意のままに動かす一群の人々ができあがるのである。 3

**他のことがらをも考慮すべきである**

神は、両親が理性のある者として行動し、子供たちをひとりびとり正しく教育し、母親が天使とのまじわりのために幼い者を訓練するのにその知的能力を働かせる力と時間を持つことのできるような生活をするように望んでおられる。母親は子供たちが家族と社会にとって祝福となるように自分の責任を雄々しく果たし、神に対する愛と恐れをもってその仕事をする勇気を持つべきである。

夫であり父親である者は、妻であり自分の子供たちの母親である者が無理をしいられ、そのために失望で圧倒されることのないようにすべての事について十分考慮しなければならない。彼は自分の子供たちの母親がおおぜいの小さい子供たちのめんどろを十分に見ることのできぬような状態におかれ、そのために子供たちが適切な訓練を受けずに成長することのないように気をつけなければならない。 4

両親は、子供たちを教育しそのめんどろを十分に見ることができると確信できないかぎり家族を

ふやしてはならない。毎年母親の腕に赤ん坊を抱かせることは、彼女に対して大きな悪を行なっていることである。それは社交的な楽しみを減じ、または全くなくすることが多く、家庭の不幸を増す。それは両親が子供たちに与えることを義務と覚悟を感じるべき心づかいと教育と幸福を子供たちから奪うことである。 5

**大きな家族を持つ両親への勸告** あなたがたが解決しなければならぬ問題は、「わたしは暗黒の力の影響を強化し、その兵士をふやすためにおおぜいの子供たちを育てているのか、それともキリストのために子供たちを育てているのか」ということである。

あなたがたが子供たちを治め、彼らの品性を神のご要求にあうように形造るのでなければ、あなたがたの欠点の多い教育を受けて苦しむ子供が少なければ少ないほど親であるあなたがたにとって、また社会にとってよいのである。良心的で賢く、主に対する恐れをもって家庭を治め、子供たちの品性を義の標準に達するように形成する賢明で思慮深い母親によって赤ん坊の時から子供たちが訓練されしつけられるのでなければ、家族をふやすことは罪である。神はあなたがたに理性をお与えになった。そしてあなたがたにそれを働かせることを要求しておられる。 6

父親や母親がたよ、子供たちをどのように主のために教育するかその知識がないということがわかっていゝなら、なぜあなたがたは教訓を学ばないのか。なぜこの世に子供を生んでサタンの兵力を増すのか。神はこうしたことによるこんでおられるであろうか。おおぜいの家族があなたがたの財政に非常な負担となっているのを見、母親の手にたくさんの子供がまかされ、次の子供が生まれ

るまでの間にどの母親もしなければならぬことを彼女がひまがないためにすることができないのを見ながら、なぜあなたがたは必ずこうなることを考えないのか。どの子供も母親の生命力を吸収するのであるから父親と母親がこの問題について理性を働かさなければ、両親または正しく訓練されるべき子供たちにどんな機会が与えられるというのであろう。主は両親がこの問題を未来の永遠の事物の光に照らして考えるよう訴えておられる。7

#### 経済的な考慮

両親は、自分の子供たちのためにどんな準備をしてやれるかを冷静に考えてみなければならぬ。彼らは、他人に重荷を負わせるために子供をこの世に生む権利はない。彼らは他人の重荷にならないように、家族を扶養できる仕事を持っているであろうか。もし持っていないならば、彼らは子供たちをこの世に生んで彼らを適当に世話せず食べ物や衣服を十分に与えず苦しませて罪を犯すことになる。8

仕事をする能力に大きな欠陥のある人や世の中で折り合いよくやっていく資格のない人がだいたいいにおいて家の中を子供でいっぱいにする。一方、財産をつくる能力のある人は一般に十分養育できただけの子供しか持たない。自分自身のめんどろさえ見ることのできない人は子供を持つべきでない。9

#### どのように教会に悩みがもたらされるか

独身の時にかろうじて生活していた人が、扶養する力がないことを知りながら家族をつくろうとする。だがそれより悪いことは、彼らが家庭を管理する

ことができないことである。彼らの家族の行動全体には、だらしのない、だらけた習慣が目立っている。彼らは自制力がなく感情的で、怒りっぽく、気むずかしい。こういう人々がこの使命を受け入れると、自分たちはもつと余裕のある兄弟から援助を受けるべきであると感じる。そしてその期待が報いられないと、教会について不平を言い、信仰を実践しないとって兄弟たちを非難する。この場合だれが世話すべきであろうか。これらの貧しい大家族のめんどろを見るために、神のみわざを弱化し、各地の金庫を資金難におとし入れてよいであろうか。よくない。この場合両親が世話すべきである。概してそうであるが彼らは、安息日を受け入れてからは、受け入れぬ前よりも大きな欠乏に苦しむことはない。

10

**伝道事業がどのように妨げられるか** 遠い外国に宣教師を送る場合、節約することを知っている

人、大きな家族を持たぬ人、時の短いこと、完成せねばならぬ大いなる仕事を認めて、彼らの手と家庭を子供たちでいっぱいにせず、唯一の重大な仕事から心をそらせるすべてのことからできるだけ自分を自由にする人を選ぶべきである。妻は、敬虔な人でそうする自由があるなら、夫のそばに立つことによって、彼と同程度の働きをすることができる。神はご自身の栄えのために用いるよう女性に才能をお与えになり、多くのむすこむすめを主に導かせたもうている。だが有能な働き人になれるはずの多くの者が、彼らの幼い子供たちを養育しなければならなかったために本国にとどめられている。

わたしたちは宣教師ということばの完全な意味での宣教師を望んでいる。利己的な考えをさしお

いて神のみわざを第一にする人、神のみさかえを表わすことを専一に働きながら、神に命じられればどこにでも行き、真理の知識をひろめるためにどんな資格でも働く準備のできている人を望んでいる。夫を助けることのできる、神を愛し神を恐れる妻をもった人が伝道地に必要とされている。家族を持つ人がおおぜい伝道のために出て行くが、彼らは仕事に自分を全的に打ち込むことができない。彼らの心は二分されている。妻や子供が彼を伝道の働きから引き離す。このため、彼らは本国の近くにいなければならぬと考えることがなければ行けたはずの伝道地に行かぬことが多い。11

1、R H・一八九〇年六月二四日  
2、2 T・三八 ページ  
3、R H・一八九二年一〇月二五日  
4、同・一八九〇年六月二四日  
5、S A・一一〇、一一一 ページ  
6、5 T・三二三、三二四 ページ

7、L・一〇七・一八九八年  
8、2 T・三八 ページ  
9、S A・一〇三 ページ  
10、I T・二七三 ページ  
11、R H・一八八五年一月八日

## 第二十五章

## 困窮している子供のめんどろをみる

孤児 神の永遠の約束を信じて、信仰をもつてこの世を去った多くの父親たちは、主がかえりみたもうことを全的に信じて愛する者たちを残していった。主は親を失ったこれらの子供たちをどのようににささえられるであろうか。主は奇跡を行なうて天からマナを降らせることはなさらない。また彼らに食物を運ぶからすをつかわすこともなさらない。だが人の心に奇跡を行ない、魂から利己的な思いを除いて寛大なこころの源を開かれる。主は親を失って困っている者たちを主ののであると自称する人々のやさしいあわれみにゆだねて、彼らの愛をこころみられる。

神に対する愛を持つ人々は、彼らの心と家庭を開放して、この子供たちを、受け入れるべきである。……

注意深い指導と心をやわらげるクリスチャン家庭の感化を失ったこれらの子供や青年たちのめんどろを見て主のために働く人々の前には、広い有用な伝道の分野が横たわっている。この子供や青年たちの多くは性格上の欠点をうけついでいる。そして、それをそのまま成長させておくなら、彼らは悪徳と犯罪に至らせる友人たちと交わるようになるであろう。この見込みのない子供たちが神

の子供になることができるように、彼らを正しい品性を形成するに適したよい状態におかねばならない。 1

### 教会の責任

父親や母親を失った子供たちが教会の腕の中におかれている。そしてキリストはでしたちにこう仰せになる。「この困窮している子供たちを引きとって、わたしのために育ててください。そうすればあなたにその報酬を与えましょう。わたしはこのことに關して多くの利己的な精神が示されるのを見ました。家庭を必要としている子供たちを自分の家族の中に引き取ることによって自分に何か利益があるという特別な証拠がなければ、ある人たちは背を向けて、いやだと言います。彼らはその子供たちが救われるか滅びるかを知らず、また意に介していないように見えます。

彼らはそれは自分に関係のないことだと考えます。彼らはカインといっしょに『わたしが弟の番人でしょうか』といいます。彼らは孤児のために不便をしたり犠牲を払う気持ちがなく、冷淡に世の人々の腕の中にその子供たちを押しつけます。世の人々は、時には自称クリスチャンよりもよることでそういう子供たちを引き取ります。神の日に天が救う機会を与えた人々は審問されます。だが彼らは辞退することを望み、そこから利益を得ることができないならよいわざをしようとはしませんでした。わたしは善をなす機会を拒んだ者たちが、イエスに「これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」といわれるのを示された。イザヤ書五八章(五一節)を読んでいただきたい。 2

## 子供のない夫婦への勧め

自分の子供を持たないある人々は、他人の子供を愛し彼らのめんどろを見るように自分を教育しなければならない。こういう人々は外国の伝道地に行くように召されることはないかもしれないが、現在住んでいる地域の働きに召されることがある。愛玩(あいがん)動物に心をひかれ、口のきけない動物に愛情を惜しげもなく注ぐかわりに、地獄を避けて天国を獲得しなければならぬ人間のために自分のタレントを使用すべきである。彼らは品性を神のかたちに似せて形造ることのできる幼い子供たちに注意を向けなければならない。あなたがたの周囲にいる家庭を持たない幼い者たちの上に愛情をかけなさい。人類家族の一員に心を閉ざそうとせず、主の薫陶と訓戒とによつて、この家庭のない幼い者たちを、幾人育てることができかためしてみるとよい。働きたいと思う人ひとりびとりのために十分に仕事がある。この方面にクリスチャン的な努力を払うとき、教会は信者がふえ、靈的に豊かになるであらう。家庭のない子供や父親のない子供を救う働きはみんなの仕事である。3

子供のない人で、神が金銭の家つかさにされた人々が、愛と配慮と愛情とこの世の物質の助けを必要としている子供たちに対して心を開き、彼らのめんどろを見るなら、彼らは現在よりもはるかに幸福になれるはずである。父親のあわれみ深い配慮や母親のやさしい愛を受けていない若い者たちが、この終末時代の墮落した影響にさらされているかぎり、だれかが彼らの中のある者のために父母の役割を果たす義務がある。こういう子供たちに愛と慈愛と同情を与えることを学びなさい。天に父を持っていると言う人々、その父に守っていただき、彼らのために準備してくださった家に最後に連れていったくことを望んでいる人々はみな残らず、友のない人々の友となり、孤児



のための父親となり、やもめの助けとなり、人類に益を与えることによって、この世で実際に何かの役に立つ者となる厳粛な義務を感じるべきである。4

牧師の妻は養子をもらうべきか

牧師の妻が幼い子供を養子にもらってよいかという質問がなされた。わたしは次のように答える。もし彼女が家庭の外で伝道の働きをする意向がなく、それに適していないならば、また孤児を引き取ってそのめんどろを見る義務があると感じるならば、彼女はよい働きをすることができであろう。しかし子供を選ぶ場合、安息日を遵守していた両親に残された子供たちの中からまず選ぶべきである。神は家庭のない者たちに積極的に自分の家庭を解放する男女を祝福される。だが、もし牧師の妻が他の人々を教育する働きにおいて何かの役割を果たすことができる人なら、クリスチャンの働き人として神に自分の力をささげるべきである。彼女は夫のほんとうの助け手となり、彼の仕事を手伝い、自分の知性を向上させ、この使命の宣伝を助けなければならぬ。キリストの恵みによって威厳を備えたけんそんな、献身した婦人たちが助けを必要としている人々を訪問し、失望した魂に光を照らす道が開かれている。彼女たちは失望している人たちとともに祈り、キリストを示すことによって彼らに希望を与えることができる。こういう女性、たえず心をくばり注意を払わなければならない無力なひとりの幼な子のために時間と力をついやさないほうがよい。彼女たちは子供のめんどろを見ることによって、自らすすんで自分を拘束してはならない。5

孤児や友のない人のために家庭を解放する

家庭のない人のために力の及ぶ限り家庭を作つてあ

げなさい。この働きを促進させるために、どの人もみな、いつでも何かの役に立つことができるように準備していなければならない。主はペテロに、「わたしの小羊を養いなさい」と仰せになった。この命令はわたしたちにも与えられたものである。孤児のために家庭を開放することによって、わたしたちはこの命令の実現を助けている。イエスがあなたがたに失望されることのないようにしなければならぬ。

この子供たちを香り高いささげものとして神にささげなさい。彼らに祝福を与えてくださるよう主に祈つてから、キリストのさしずに従つて彼らを形造りなさい。わが教会の人々は、この神聖な任務を受け入れるであらうか。6

### 神の民の試験

わたしは幾年も前に、神の民が家庭のない人たちのために家庭を作つてやること

において試みられること、また真理を信じたために家庭を失う者がおおぜいいることを示された。信者たちは反対と迫害に会つて家庭を失つた。家庭を持たない人々のために戸を広く開放することが、それを持つている人々の義務であつた。わたしは、神が、神の民であると自称する人々を、この問題について特に試験されることを示された。キリストはわたしたちのために貧しくなられた。それは彼の貧しさを通して私たちが豊かになることができるためであつた。彼は犠牲を払われた。それはよりよい国、天国を捜し求めるこの世の旅人や寄留者のために家を備えるためであつた。7

## 第7部 神の遺産

4、3、2、1、  
2 M 2 6  
T S T T  
・ S ・  
三三三二  
二三八一  
九八・二  
ページ一  
ジ八  
五年二  
ページ

7、6、5、  
2 同 6  
T ・ T  
・ 二  
二八二  
七、四  
二八四  
ページ  
ページ  
ジ

## 第二十六章

### 子供への親の遺産

**遺伝の法則** 親のからだとあたまの状態は子孫に永久に伝わる。この問題に対して正しい考慮が払われていない。親の習慣が肉体の法則に反する場合、彼らが自分に与えた害は将来の子孫の中に再び現われてくる。……

だれでもからだと頭脳を訓練し、徳性を養うことによってキリストの共労者になることができる。非常に多くのことが両親にかかっている。祝福かのろいか、そのどちらかになる子供を世の中に送り出すことは彼らの役目である。 1

両親の目標が高潔で、知的、霊的な能力が高く、体力の発育がよければ、子供に与える生命もそれだけりっぱなものである。また、親は彼らが持っている最高のものを育成することによって社会を形成し、将来の時代を進歩させる影響を及ぼすのである。 2

**多くの親は嘆かわしいほど無知である** 神のかたちにかたどって造られた子供のからだと魂という神の財産を預っている人々は、幾千という人々の肉体と道德の健康を破壊しているこの時代の官

能的な放縦に対抗して防壁を築かねばならない。多くの犯罪の真因が追求されたなら、この問題に對して関心のない父親や母親の無知がそれであることが知られるであろう。この嘆かわしい無知のために健康と生命が犠牲にされている。両親がたよ、もしあなたがたが子供たちに、神が与えることをあなたがたの義務とされた教育を、戒めと模範を通して与えることをしないならば、あなたがたはその結果について神に答えなければならぬ。これらの結果はあなたがたの子供だけでとどまらずに、幾代にも及ぶのである。野に生長することをゆるされたたった一本のあざみから、たくさんのおあざみが生じるように、あなたがたの怠慢から生じたさまざまの罪は、その影響の範囲内にはいつてくるすべてのものをそこなうために活動する。3

**不節制の悪は遺伝する**      ぜいたくな生活と飲酒は血液をけがし、欲望をあまりあらゆる種類の病気を生む。だがその悪はそれだけでとどまらない。両親は種々の病気を遺産として子供たちに残す。不節制な人はだれでも必ず、自分の性向と悪い傾向を子供に伝える。彼は自分の熱し、けがれた血液を通して子供たちに病気を伝える。放とうや病気や白痴が悲しみの遺産として父からむすこへと代々伝えられる。それはこの世に苦悩と悲しみをもたらす。それは人類の墮落のくり返しに外ならない。……

それにもかかわらず、今日の男女は過食や飲酒にふけて不節制をし、そのことについて何の考慮も配慮も払わない。そしてそのことによって次代の者に、病気や弱められた知性や墮落した品性を遺産として残す。4

二倍の理解と忍耐をする理由がある

父親や母親は子供を通して自分の品性を研究することができる。彼らはむすこや娘の中に再現された自分の欠点を見て、はずかしい教訓をたびたび読むことができる。子供たちの中の遺伝的な悪の傾向を押え、それを矯正しようとするときに、両親は二倍の忍耐と根気と愛をもってそれをしなければならない。5

子供が親からうけついで悪い性質を表わすとき、親は再現された自分の欠点をどなったりするだろうか。いや決してしない。親は自分自身によく注意して、粗野であったり乱暴であったりすることのないように用心しなければならない。それはそうした欠点子供たちの中に再び見られることのないためである。6

強情な子供を扱うとき、キリストのやさしさと柔和を表わしなさい。子供たちがその強情な性質を父親が母親から遺伝としてうけついでいることをいつも覚えていなさい。あなたがた自身の品性の傾向を受けている子供たちに対して忍耐しなさい。7

親は子供たちに伝えられた悪の傾向を変えてくださるキリストの力に全的に信頼しなければならぬ。8

父親や母親がたよ、忍耐しなさい。あなたがたの過去における怠慢があなたがたの仕事を困難なものにすることが多い。しかしあなたがたが神に信頼するならば、神は力を与えてくださるであろう。子供たちをかしこく、やさしく扱いなさい。9

5、4、3、2、1、  
R 4 M ミ M  
H T S ニ S  
・ ・ S ス S  
一 三 ・ ト リ ・ 三  
八 〇 、 八 ・ 一  
八 三 一 八 オ 八  
一 一 九 プ ・ 九  
年 ペ 年 ヒ 七  
八 ー ジ ー  
月 ー  
三 ジ 年  
〇  
日

9、8、7、6、  
同 同 M S  
・ ・ S ・  
八 七 S 一  
〇 九 S 九  
・ 一 四 〇  
一 九 二 一  
九 〇 一 年  
一 年 八 月  
年 八 二  
年 五  
年 日





# 第八部

## 成功する家族



## 第二十七章

# 神聖な関係

**家族関係の神聖さ**      どの家族も周囲から独立した神聖な関係がある。そしてこれは維持しなければならぬものである。ほかのどんな人もこの神聖な関係に割り込む権利はない。夫も妻も互いに相手のすべてでなければならぬ。妻は他人に言いながら夫にかくしておく秘密を持つてはならない。夫もまた、ほかの人に打ちあけておきながら妻にかくしておく秘密があつてはならない。妻の心は夫の欠点の墓でなければならず、夫の心も妻の欠点の墓でなければならぬ。夫も妻も相手の感情を傷つけるような冗談を言つてはならない。冗談にでも、あるいはそれ以外の態度にでも、相手に対する不平を他人に言つてはならない。このおろかな、全く害のないように見える冗談でも、いつも言つていれば、最後にはそのために互いに苦しんだり、仲が悪くなつたりすることがあるからである。わたしはどの家族も神聖なかこいで囲まれていなければならないことを示された。1

家庭を神聖な場所、天の象徴、私たち自身を映し出す鏡であると考えなければならない。私たちは友人や知人を持つてもよいが、彼らは家庭生活に干渉してはならない。安心感と休息と信頼感を与える強い所有意識が感じられなければならない。2

舌と耳と目がきよめられなければならない

家庭を構成している人々はみな、神に舌と耳と目と

からだの各部をきよめてくださるように祈らなければならない。悪と接触したとき、その悪に打ち負かされる必要はない。キリストは、人の品性が善の香りを放つことができるようにしてくださった。...

家庭の中でキリストのみさかえを汚し、キリストのご品性を誤って伝える者が非常に多い。忍耐と根気と許しと真の愛を表わさない者がきわめて多い。多くの人は好ききらいがあつて、キリストのみこころとわざと品性をあらわすよりも自分の強情な性格をあらわしてもよいと感じている。イエスのご生涯は親切と愛であふれている。私たちはイエスの聖なるご性質に似るように成長しているであろうか。 3

### 一致と愛と平和

父親や母親は、彼らが愛し服従していると公言している神に、その恵みによつ

て互いに争うことなく、自分たちが子供たちに表わしてほしいと望むような精神を生活にも気分にもあらわすことを厳粛に約束しなければならない。 4

親は彼らの家庭に不和の精神がはいりこまぬように注意しなければならない。なぜなら、それはサタンが自分の印象を品性に刻みつけるための道具の一つであるからである。親がキリストの生涯を支配した諸原則を教え込むことによって家庭の中に一致を保つように努力すれば、争いはなくなり、一致と愛がそこにあるであろう。親も子供も聖霊の賜物を受けるであろう。 5

夫も妻も意見の相違によつて生活を不幸にしなくとも、他にしなければならぬ仕事がたくさん

あることを覚えていなければならない。小さな事に意見を衝突させる人は、家庭にサタンを招いている。ささいなことについて争う精神は子供に伝染する。悪の勢力は、親をも子供をも神に不忠実な者にするように働いている。6

結婚生活に試練が起こっても、夫と妻は彼らの魂を神の愛のうちに保たねばならない。父親は自分の子供の母親を、あらゆる親切とやさしさと同情を受けるべき者とみなさなければならない。7

**家族の一致の秘訣（ひけつ）** 家庭や教会内の不和や分裂の原因は、キリストから離れることにある。キリストに近づくことは、互いに近づき合うことである。教会と家庭が真に一致する秘訣は、

折衝の仕方や運営の方法とか、困難を開きしようとする超人間的な努力にはなく、これらのことも大いにしなければならないが、キリストとの結合にある。

大きな円があつて、そのふちからたくさんの線が中心に向かって集中している図を想像されたい。これらの線は中心に近づけば近づくほど互いに接近し合っている。

クリスチャン生活はこのようなものである。キリストに近づけば近づくほど、私たちは互いに近くなる。神の民が一致して協力的な行動をとるとき、神があがめられる。8

**互いに助け合わねばならない** 家族という会社は神聖な、社交的な社会であつて、どのメンバー

も何かの役目を果たし、互いに助け合わねばならない。家庭の仕事は、よく調整された機械の部分のようになめらかに行なわれなければならない。9

家族の者はみな、家庭の秩序と規則正しさと居心地のよさを増すために自分に与えられた役割を果たす責任があることを認めなければならない。互いにさからい合いながら働いてはならない。だれでもみな、一致して互いに励まし合うというよいわざを行なわなければならない。彼らは温和、寛大、忍耐の心を働かさなければならない。低い、落ちついた声で話し、混乱をさけなさい。母親の重荷を軽くするために最善を尽くしなさい。……

家族のメンバーはひとりひとり、彼らが他の者と協力してするように期待されている役目を理解しなければならない。六才以上の子供はみな、彼らが生活の重荷を分担するように要求されていることを知らなければならない。10

**適切な決心** わたしのすべての行為に道徳的な力が加わるように、家庭で、またどこにいても、恵みのうちに成長しなければならない。わたしは家庭での自分の精神と行動とことばに注意しなければならぬ。わたしは自分を正しい原則のうちに訓練し教育するための個人的な教養の時間を持たなければならない。わたしは他人の模範とならなければならない。神のみことばを昼も夜も瞑想し、それを生活に実行しなければならない。神のみことばであるみたまの剣は、わたしが安全に使用できる唯一の剣である。11

1、M S S・一・一八五五年  
2、L・一七・一八九五年  
3、M S S・一八・一八九一年

4、同・三八・一八九五年  
5、同・五三・一九一二年  
6、L・一三三・一九〇四年

9、8、7、  
M 同 同  
S ・ ・  
S 四 一  
・ 九 九  
一 ・ 八  
二 一 ・  
九 九 一  
・ 〇 九  
一 四 〇  
九 年 一  
〇 年  
三 年

1110、  
M 2  
S T  
S ・ 六  
・ 九 九  
一 三 九  
・ 一 七  
八 〇  
九 〇  
一 ペ  
ペ ー  
ー ジ  
ジ

## 第二十八章

### 子供の最初の学校

**教育に関する神の最初の計画** エデンに設けられた教育の制度は、家族を中心とするものであった。アダムは「神の子」(ルカ三ノ三八)であった。神の子らは、父なる神から教えを受けた。彼らの学校は、真の意味において、家庭学校であった。

墮落後の人類の状態に適應するように神の定めたもうた教育の計画においては、キリストが、天父の代表者すなわち神と人をつなぐ輪の役目をはたしておられる。キリストは人類の大教師である。彼はさらに男女を、ご自身の代表者として任命したもうた。家庭は学校であり、両親は教師であった。

家長時代には、こういう家庭を中心とする教育が一般に行なわれていた。このように設けられた学校のために神は品性の發達に最もふさわしい環境をお与えになった。神の導きのもとにある人々は創世の時に神が定めたもうた人生の計画をまだ実行していた。

神から離れ去った人々は、自分たちのために都市を建設し、そこに集中した。そして世人が誇りとしまた彼らの災いとなっている現代の都会の、あのはなやかさと享樂と罪惡の中におこり栄えた。



しかし、神が定めたもうた生活の原則を固く守っている人々は、野や山に住んで、土地を耕し家畜を養った。労働と研究と瞑想の時間をもった自由な独立した生活の中にあつて、彼らは、神について学び、神のみ業と道を子どもたちに教えた。

これが、イスラエルの中に実行するようにと神の望みたもうた教育の方法であつた。 1

日常生活においては、家庭は学校でありまた教会であつて、両親は世俗のことと宗教的な面との教師であつた。 2

**家庭は学校である** 賢明な主は、家庭があらゆる教育機関の中で最高のものとなることを定められた。子供の教育は家庭で始めなければならない。家庭は子供の最初の学校である。子供はここで両親を教師として、生涯を通じて彼を導く教訓、すなわち尊敬、服従、敬神、自制の教訓を学ぶ。家庭の教育的な感化力は、善にとつても悪にとつても決定的な力である。それは多くの面で無言であり漸進的なものであるが、正しい方面に行使された場合は、真理と義にとつての遠大な力となる。子供がここで正しく教育されなければ、サタンは自分の選んだ機関を通して子供を教育する。だから家庭の学校は非常に重要である。 3

家庭を、あなたの子供たちを教会と社会と家庭における義務を果たすために準備する養成学校とみなさなければならない。 4

**家庭教育は最も重要なものである**

今日家庭教育と青年教育がおろそかにされていることはほと

んど世界的であつて、なげき悲しむべき事実である。5

家庭を建設する人やこれを保護する人に委託された働き場ほど重要なものはない。人間に委託された働きの中で父母の働きほど影響の大きいものはない。

今日の青年や子供によつて社会の将来は決定し、また、これらの青年や子供がどういう人になるかは家庭によつてきまる。正しい家庭教育が欠けていることは、人類のわざわざいである疾病、悲惨、犯罪の大きな原因になっている。家庭生活が純潔で真実であり、その中に育つ子供が人生の責任を負い、危険にあつたときに準備ができていれば、この社会はどんなに大きく変化することだろう。6

そのほかのすべてのことは第二にしなければならぬ

この世に生まれた子供たちはみなひとり

ひとりイエス・キリストの財産であつて、いましめと模範によつて、神を愛し神に服従するように教育されなければならない。しかし大多数の親は、子供を物心のつくころからキリストを知りキリストを愛するように教育し訓練することをしないで、神から与えられた仕事をおろそかにした。親は骨身を惜しまぬ努力によつて、率直な理解の早い頭脳を見守り、主の薫陶といましめによつて子供たちを教育するという神に定められた絶対的な義務に対して、家庭のすべてのことを二義的なものとしなければならない。7

親は業務上の心配事や、世的な習慣や慣習や流行に支配されて、子供の幼児時代をおろそかにしたり、子供が成長するに従つて適切な教育を与えぬようなことがあつてはならない。8

今日世の中に悪がこんなにもはびこっている大きな理由の一つは、親が最も重要なこと、すなわ

ち子供たちに主の道を忍耐深くやさしく教える務めに自分をどのように適応させるかということよりも、ほかの事がらに心を奪われているからである。もし幕を引くことができるなら、わたしたちは道をふみ誤った多くの子供たちがこの怠慢のためにより感化を受けつけなくなったことを知るであらう。両親がたよ、あなたがたはこういう経験に堪えられるであらうか。主に全的に服従し信頼することがどんなことであるかを子供たちに理解させるに必要な時間を彼らのためにさくことができないほど他の仕事を重要視してはならない。……

あなたがたはこの努力の報いとして何を刈り取るであらうか。あなたがたは、子供たちがあなたがたのそばに立ち、あなたがたが提案する仕事を積極的に受け入れて協力するのを見るであらう。あなたがたは自分の働きが楽にされたことを発見するであらう。9

#### 家庭、学校における神の教育者

親は、アブラハムがそうであったように、特別な意味で自分は子供たちに主の道を教える神の代理者であると考えねばならない。彼らは、家族の者に教えることができるように、何が主の道であるかを知るために聖書を熱心に研究しなければならない。ミ力は「主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか」といつている(ミカ書六ノ八)。親は教える者となるために、まず学ぶ者となり、神のことばからたえず光を集め、いましめと模範によってこの尊い光を子供の教育の中に織り込まねばならない。<sup>10</sup>

神がわたしにお与えになった光から、わたしは夫と妻が家庭の牧師、医師、看護婦、教師となり

子供たちを神と自分とに結びつけ、どんな形においてもからだの中の神の働きを妨げる習慣を避けるように彼らを訓練し、からだのすべての部分をたいせつにすることを教えねばならないことを知った。<sup>11</sup>

母親は子供の教育という仕事において、いつも目立っていなければならない。父親にも重要でたいせつな義務が負わされているが、母親はほとんどいつも、特に子供の幼児時代にはいつも子供と交わっているから、彼らの特別な教師となり、友人とならなければならない。母親は子供たちの中に清潔整頓の習慣を植えつけ、正しい習慣と趣味とを養うように細心の注意を払って指導しなければならぬ。彼女は子供たちが勤勉で独立心があり、他人を助ける者となるように、またいつも神の前にいるように生活し行動し働くように訓練しなければならない。<sup>12</sup>

姉たちは幼いきょうだいに強い影響を及ぼすことができる。年下の者は、幾度もことばでくり返される注意よりも、年上の者の模範を見て、模倣(もほう)の法則に導かれることのほうが多い。長女は、母親の骨の折れる数多い重荷を負うことによって母親を助けることは、クリスチャンとして自分に負わされた責任であると感じなければならない。<sup>13</sup>

親は家庭で多くの時間を過ごさなければならない。彼らはいましめと模範を通して子供たちに神を愛し恐れることを教えなければならない。子供たちに賢明で社交的で愛情深くあること、勤勉、節約、克己の習慣を養うことを教えなければならない。親は家庭で子供たちに愛と同情と励ましを与えることによって、世の誘惑からのがれる安全で、いつも自由に行ける隠れ家を彼らのために備えることができる。<sup>14</sup>

教会小学校のための準備

子供が教会小学校に入る準備をするのは家庭学校においてである。親はこのことをいつも覚えて、家庭における教師としての彼らの高い、清い使命を果たすことができるように、自分のすべての力を神にささげなければならぬ。家庭における勤勉で忠実な教育は、子供たちが学校生活のために受けることのできる最善の準備である。 15

神の命令は至上でなければならない

わたしたちは親と子の両方を指導する聖書の規則を持っていく。それは高い清い規準で、そこから踏みはずれるようなことがあってはならない。神の命令は至上でなければならない。家庭の父親や母親は心をさぐりたもう神の前でみことばをひろげて、まごころから「神は何と仰せになっているか」と尋ねなければならない。 16

子供たちに真理が真理であるゆえに愛すること、彼らが真理によつてきよめられ、それによつてさらに高い働きに従事し、また王族の一員、天の王の子となる資格があるかどうかをまもなく決定する偉大なさばきの日に立つにふさわしい者にされるゆえに愛することを教えなさい。 17

きたるべき戦いのために準備せよ

サタンは彼の軍勢を戦闘のために配列している。わたしたちは、目前に迫っている恐るべき戦いのために個人的に準備ができていであろうか。この大いなる危機のために子供たちを準備しているであろうか。敵の戦略の要点と戦闘の方法を理解するために自分自身と家族の者を準備しているであろうか。わたしたちの子供は主義や義務に対して堅固で動じない者となるために、物事を決定する習慣を養っているであろうか。どの人も時のしるしを理解

し、戦いの時に神がわたしたちののがれ場、防御となつてくださるようにならなければならない。18

1、	教育・四一、四二ページ	10、	C T B ・一四五ページ
2、	同・五〇ページ	11、	M S S ・一〇〇・一九〇二年
3、	C T ・一〇七ページ	12、	P H J ・一八九〇年一月
4、	S ・一八九四年九月一日	13、	3 T ・三三七ページ
5、	R H ・一八八一年八月三〇日	14、	F E ・六五五ページ
6、	M S S トリー・オブ・ヒーリング・三二四ページ	15、	C T ・一五〇ページ
7、	M S S ・一八九六年	16、	R H ・一八九一年九月一日
8、	S ・一八九四年九月一日	17、	S ・一八九四年九月一日
9、	M S S ・五三・一九一二年	18、	R H ・一八八九年四月二三日

## 第二十九章

# 他人に委譲できぬ仕事

他人が負うことのできない親の責任

両親がたよ、あなたがたは、他人があなたがたに代わって負うことのできない責任を負っている。あなたがたは生きている限り神の道を守る責任を神に対して負っている。……神のことはを指針とする人、子供たちが品性を形成するのにどれだけ親に依存しているかを認める人は、子供たちが見ならつて安全な模範を示す。 1

父親と母親は子供の健康と体格と品性の発達に対して責任がある。この働きを他人にまかせてはならない。子供の親となるとき、主と協力して彼らを健全な原則にもとづいて教育することはあなたがたの責任となる。 2

多くの親は、子供に対する神から与えられた責任を捨てて、他人がそれを負ってくれることをよろこんでいるが、まことに嘆かわしいことである。彼らは、他人が自分の子供のために働いて、その問題に関するすべての重荷から彼らを解放してくれることをよろこんでいる。 3

現在子供の不従順を悲しんでいる多くの人は、自分を責める以外にない。こういう人は聖書を見て、親として保護者として神が彼らに定めておられることを知るべきである。彼らは長い間おそ

かにした責任をとりあげなければならない。へりくだって、子供の教育についての神の指示に従わなかったことを神の前に悔い改めなければならない。彼らは自分自身の行動を変えて、聖書を自分の案内者、相談者として、厳密に注意深くそれに従わなければならない。4

**教会だけがこの責任を負うことはできない** 青年や子供たちが彼らの心をキリストにささげたらどんなによいことであろう。もし彼らが心をささげたなら、人を義に導くのにどんなにたくさんの兵士をつることができるであろう。だが親はこの働きを教会だけにまかせてはならない。5

**牧師だけでもできない** あなたがたは牧師に大きな責任をになわせ、あなたがたの子供の魂に対する責任まで負わせているが、あなたがたは親として、教育者として、自分の責任を自覚していない。……あなたがたのむすこや娘は、あなたがたの手本といいかげんな訓戒のために墮落している。家庭教育がしっかりしていないにもかかわらずあなたがたは牧師に、あなたがたの毎日の働きを打ち消して子供たちの心と生活に徳と敬虔を教え込むというすばらしい業績を完成してもらおうと思っている。牧師が魂を矯正し救うために、忠実な、愛情のこもった訓告と忍耐強い訓練と、熱心な祈りによって、教会のために最善を尽くしながらも成功しないと、父親や母親は、彼ら自身の怠慢の結果であるかもしれないのに、子供たちが改心しないことに対して牧師を非難する。責任は親に負わされている。彼らは神が彼らにまかされた仕事をとり上げて、それを忠実に行なうであろうか。彼らは自分自身高い標準に到達し、子供たちと一緒にその高さにまで引き上げるために前に向かっ



て、上に向かって進み、へりくだった、忍耐強い、確固とした態度で努力するであろうか。6

多くの父親や母親は、彼らの責任を他人の手にまかせているのではないであろうか。彼らの多くは、牧師が責任をもって彼らの子供が改心し、神の印が彼らに押されていることを見とどけるべきだと考えていないであろうか。7

#### 安息日学校もできない

子供たちを助けて、彼らに彼らが将来の生活に持つていくことのできる知識を獲得させることは親の特権である。だがどんな理由からか、多くの親は子供たちに宗教教育をほどこすことをいとう。彼らは、子供に神に対する彼らの責任についての知識を与えねばならないにもかかわらず、子供たちが安息日学校でそれを断片的に学んでくるままに任せている。こういう親は、神が彼らに、子供たちを教育し、訓練し、しつけるように望んでおられることを理解し、子供が現世および来世の生活のために品性を形成しているという事実をいつも念頭におく必要がある。8

子供をその進むべき道に進めるように訓練するあなたの仕事を安息日学校の教師にしてもらおうと望んではならない。安息日学校は大きな祝福である。それはあなたの仕事を助けてくれるであろうが、あなたの代わりになることはできない。神はすべての父親と母親に、子供をイエスのもとに連れて行き、どのように祈り、どのように神のことばを信じるかを教える責任をお与えになった。

子供を教育するにあたって、聖書の重要な真理を教えずにおいて、あなたがおるそかにした働きを安息日学校や牧師が補ってくれると考えるてはならない。聖書は毎日開いて熱心に研究することが

できないほど神聖で崇高なものではない。神のことばの真理を生活上の小さなことと考えられてい  
る事がらと接触させなければならぬ。神のことばが正しく留意されたなら、それは日常生活を明  
るくし服従する正しい動機と正しい品性を形成する原則を与える。 9

1、 L・三五六・一九〇七年  
2、 M S S・一二六・一八九七年  
3、 R H・一八九二年一〇月二五日  
4、 M S S・五七・一八九七年  
5、 S・一八九六年八月一三日

6、 5 T・四九四、四九五ページ  
7、 R H・一八九五年五月二一日  
8、 同・一八九九年六月六日  
9、 M S S・五・一八九六年

## 第三〇章

# 家族の交わり

親は子供を親しく知らなければならない

子供を理解し、子供をほんとうによく知っていない親

がある。親と子供の間に大きなみぞがあることがよくある。親がもっと完全に子供の感情を理解し、彼らの心の中にあるものを引き出すなら、それは子供たちに有益な影響を与えるであろう。1

父親と母親は完全に一致して働かなければならない。彼らは子供の友だちにならなければならない。2

親は子供たちを正しい道に導くために、彼らの愛情と信頼をかち得る最良の、そして最も成功を収める方法を研究しなければならない。彼らは家庭に愛の光を反映しなければならない。3

**奨励と称賛**

幼い子供は人と交わることを好み、ひとりで楽しむことはまれである。彼らは同情

とやさしさを慕い、自分が楽しいことは母親も喜ぶものと思う。彼らの小さい喜びや悲しみをいちいち母に訴えるのは自然である。母親にとってさ細な問題でも子供には非常に重大である事がらを、冷淡に取り扱って子供の敏感な心を傷つけてはならない。母親の同情と同意は尊いものである。同

意しているという目つきや奨励、称賛のことばは子供の心にとっては、日光のようで、その日一日を楽しくさせることがよくある。 4

**親は子供の信頼できる友でなければならない**

親は子供たちに両親を信頼し、彼らの心の悲しみ

や、毎日の小さな悩みや困難を打ち明けるように奨励しなければならない。 5

子供たちをやさしく指導して彼らをあなたがたの心に結びつけなさい。それは子供たちにとって危険な時である。彼らをあなたがたから引き離す影響が彼らの周囲に投げかけられている。あなたがたはそうした影響を打ち消さなければならない。彼らにあなたがたを信頼できる友と見なすように教えなさい。あなたがたの耳に彼らの困難やよろこびをささやくようにさせなさい。 6

子供たちがもつと親と親しければ、多くの悪から救われるであろう。親は子供たちの中に、親に対して解放的で率直な性質を育て、困難があつたら親のところいき、どの道を選んでよいかわからないときは自分の考えている通りに親に話して、意見を求めるように奨励すべきである。彼らの危険を認めてそれを指摘するのに、敬虔な親ほど適した人があるであろうか。親以上に自分の子供の特有の気質をよく理解できる者があるであろうか。幼い時から子供の心の変化を見守り、彼の生まれつきの性質を熟知している母親が、子供に忠告を与えるのに最も適した人である。子供の品性のどの特質を押え、抑制するかを、父親に助けられた母親以上によく告げることのできる人があるであろうか。 7

「時間がない」

「時間がない。わたしには子供の教育にさく時間がない。社交的なたのしみや家庭的なたのしみをたのしむ時間がない」と父親はいう。それなら、あなたは家族を持つ責任を取るべきではなかったのである。当然家族に与えるべき時間を与えないことによって、あなたは、彼らがあなただの手から受けるべき教育を奪っているのである。あなたに子供があるなら、あなたには、母親と協力して、彼らの品性を形成する働きがある。8

「子供たちと一緒にいる時間がない」ということは多くの母親の叫びである。それならキリストのために、衣服にかける時間を減らしなさい。あなたがそうしたいなら衣服に飾りをつけることをおろそかにしてよい。訪問したり訪問を受けたりすることをおろそかにしてもよい。数限りなくいろいろの料理を作ることも怠ってよい。だが子供を決して、決しておろそかにしてはならない。麦にくらべてもみがらは何であろう。あなたとあなたの子供たちの最高の利益の間にさまたげとなるものがはいつてくるのを許してはならない。9

母親は多くの思いわずらいに悩まされ、小さい子供を忍耐強く教え、愛と同情をよせる暇がないように思うが、もし同情と友情を求める子供の気持ちを満足させるものが、両親または家庭に見いだされなければ、子供は精神上、品性上危険な場所にそれを求めるものであることを記憶しておくべきである。10

子供とともに働き、ともに遊ぶ

余暇の時間を幾らか子供に与えなさい。働きにおいて遊びにおいて彼らと共に交わり、彼らの信頼を獲得しなさい。彼らの友情を育てなさい。11

親は夕方の時間を家族の者に与えるがよい。心配事や悩みは、その日の仕事と共に放棄なさい。12

**打ち解けない、さしずがましい両親への勧告** 親や教師は、子供たちや学生たちともしっかりと親しく

交わるかわりに、命令やさしずをしすぎる危険がある。彼らはよそよそしすぎる態度をとり、冷たい理解のない態度で権威をふるうことが多いので、子供たちや学生の心を引きつけることができない。子供たちを自分のまわりに集めて彼らを愛していることを示し、彼らのすべての努力に、彼らの運動にすら興味を示すなら、また時には子供になつて彼らの中にはいるなら、子供たちを幸福にし、彼らの愛情と信頼を勝ち得ることができる。子供たちは親や教師の権威をむしろ愛し尊敬するようになる。13

**家庭の競争相手である悪友** サタンと彼の軍勢は子供たちの心をそらせようとして非常に強力な

努力を払っているから、子供たちを公平にクリスチャンらしいやさしさと愛をもって扱わなければならない。こうすることによってあなたは子供に対して強い影響を及ぼすことができる。彼らもまた、あなたに無限の信頼をおくことができるようになる。子供たちの周囲を家庭の魅力、あなたとの交わりの魅力で包みなさい。あなたがそうするならば、子供たちは未熟な友人と交わることをそれほど求めなくなる。……今日の世の中の悪のために、また子供たちを制御しなければならぬために、親は子供たちを自分の心に結びつけ、彼らを幸福にしたいと望んでいることを示す二倍の心づかいをしなければならない。14

親は子供をよく知らなければならぬ

冷淡やうち解けない気分のために両親と子供の間にへだ

たりを生じさせてはならない。両親は子供と親しみ、その趣味や性質を理解しようと努力し、子供の気持ちになって子供の心の中にある考えを引き出すべきである。

両親がたよ、あなたが子供を愛し、子供を幸福にするために全力を尽くしていることを子供に知らせなさい。そうするならば、必要な束縛も子供の柔軟な頭には非常に大きい効果をもたらす。「彼らのみ使たちは天にあって、天にいますわたしの父のみ顔をいつも仰いでいる」ことを覚えて、やさしさとあわれみをもって子供を取り扱いなさい(マタイ一八ノ一〇)。天使が神より与えられた働きを自分の子供にしてほしいと思うならば、自分のなすべきことを果たし、天使と協力しなさい。

真の家庭における賢明で愛情のある指導のもとに育った子供は快楽や友人を求めてさまよい出る気持ちを持たない。罪悪も子供の心をひかず、家庭にみなぎる精神がその品性を形成し、子供が家庭を出て、社会にたつとき、誘惑にたいして強い防御となる習慣と原則を築くのである。 15

- 1、1 T・三九六ページ
- 2、M S S・四五・一九一二年
- 3、R H・一八八一年八月三〇日
- 4、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三五八ページ
- 5、1 T・三九一ページ
- 6、同・三八七ページ、
- 7、同・三九二ページ
- 8、F E・六五、六六ページ
- 9、S・一九〇一年四月三日
- 10、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三五九ページ
- 11、C T・一二四ページ
- 12、C T B・六五ページ
- 13、3 T・一三四、一三五ページ
- 14、1 T・三八七、三八八ページ
- 15、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三六二、三六三ページ

## 第三一章

## 愛による保証

愛の奉仕の力 愛の働きは、天来のものであるから、ふしぎな能力をもっている。「憤りをとどめ」る柔和な答え、「寛容であり……情深い」愛、「多くの罪をおお」う愛 こうしたことにについて、教訓を学ぶとき、私たちの人生には、いかに大きないやしの力が賜物としてあたえられることであろう。そのとき、人生はいかに変化し、地上には、いかに天国のふんいきが感じられるようになることであろう。

このようなどうとい教えは、小さい子供たちにも理解されるようにわかりやすく教えられる。子供の心は素直で、すぐに感化される。年長の私たちが「幼な子のように」になり、救い主の単純さと柔和とやさしい愛について学ぶとき、小さい子供たちの心にふれ、愛によるいやしの奉仕を彼らに教えることは、そんなにむずかしいことではないということを知るであろう。1

世的な見地からいえば、金が力であるが、クリスチャンの見地からいえば、愛が力である。この原則には知のおよび霊的な力が含まれている。純粹な愛には善を行なう特別な能力がある。それは善以外に何もすることができない。それは不和と不幸を未然にふせぎ、真の幸福をもたらす。富は



墮落させ滅亡させる力となることが多い。腕力は傷つけることがよくある。だが真実と善は純粹な愛の特性である。2

**愛は栄養を与えねば枯死する植物である**

家庭は最も純粹な高貴な愛情の中心でなければならぬ。平和、一致、愛情、幸福といった尊いものが、家族をつくり上げているひとりびとりの者の心の中にとどまるように、毎日忍耐強く育てなければならぬ。愛の植物は、注意深く栄養を与えなければ枯死してしまう。魂の中によい原則の植物を繁茂させたければ、それをたいせつに育てなければならぬ。サタンが心の中に植えつける羨望(せんぼう)、しつと、邪推、悪口、短気、偏見、利己主義、貪欲、虚栄は抜き去らなければならない。こういう悪いものを魂の中にとどめておくと、それは実を結んで、多くの人を汚す。愛の尊い実を枯死させ、魂を汚す有毒な植物を育てて魂を汚す者が非常に多い。3

**自分の子供時代を思い出すこと**

自分の子供時代を忘れ、子供たちがまだ幼いということのを忘れて、彼らをただきびしく取り扱ってはならない。子供に完全であることを期待したり、いちどきにおとなのようにふるまわせようとしてはならない。そういうことをすれば、あなたは彼らに近づく扉を閉ざし、彼らに有害な影響への扉を開かせ、あなたの気づく前に他人に彼らの幼い心を汚させることになる。……

親は、自分が子供だったころどんなに同情と愛を求めたか、とがめだてされたり、いらいらとこ

ごとを言われたとき、どんなにみじめな思いをしたかを忘れてはならない。親はもう一度幼いころの気持ちにかえり、子供の必要を理解するために、子供の気持ちにならなければならない。4

子供たちはやさしいことば、励ましのことばを必要としている。親切な、愛情深いことばを語ることは母親にとってはたいへんやさしいことである。それは子供の心に太陽のような光を送り、彼らに苦しみを忘れさせる。5

両親がたよ、あなたがたの子供に愛を与えなさい。子供の赤ん坊時代にも、幼児時代にも、青年時代にも愛を与えなさい。彼らに怒った顔を見せずに、いつも輝いた表情を保ちなさい。6

子供を明るく環境におく 幼い子供が苦しんでいるとき、その苦しみを注意深く軽減してやらなければならぬ。赤ん坊から成人までの間の子供たちは、がいて彼らが受けなければならないだ

けの心づかいを受けていない。子供たちを導いて、彼らに、自分は家族の一員であると思わせる母親が必要である。母親は子供たちと一緒に彼らの希望や悩みについて話すがよい。親は、他人に子供を見てもらう先に、彼らが子供のめんどろを見なければならぬことを覚えていなければならない。子供たちを明るく環境の中に、母親の指導の下におかなければならない。7

子供たちを助けて、彼らに勝利を得させなさい。……彼らを愛のふんい気で囲みなさい。こうすることによって、あなたは彼らの強情な性質を押えることができる。8

子供が食物よりも愛を必要としている時

おおぜいの母親が、衣服にししゅうをしたり、子供の

小さな服に不必要な飾りをつける時間をつくるために、子供を非常におろそかにしている。子供が疲れて、ほんとうに母親にめんどろを見てもらわなければならない時に、母親は彼を放っておいたり、何か食べる物を与えたりする。子供は食べる物を必要としていなかった。そればかりでなく、食べ物は彼にとって明らかに有害であった。彼らが必要としていたものは、母親のやさしい抱擁である。どの母親も、子供にこうしたちょっとした愛撫(ぶ)を与える時間を持たねばならない。それは赤ん坊時代や幼児時代の子供にはなくてはならぬものである。母親はこういうことを通して、子供の心と幸福を、自分のそれと結びつけることができるのである。子供にとっての母親の存在はわたしたちにとっての神の存在のようなものである。9

**正当な要求はかなえてやるべきである** あなたは、あなたが子供を愛していること、彼らの利益のために努力していること、彼らの幸福があなたにとってたいせつなものであること、彼らの益となることだけをしようにしていることを子供たちにいつも印象づけなければならない。子供の要求を、無理をせずにかねてやることができれば、そうすべきである。10

子供たちを治めるときに、衝動で行動をしてはならない。権威と愛情が融合していなければならない。よいもの、愛すべきものはみなたいせつに育て、彼らにキリストを示すことによって、さらに高いよいものを求めさせなさい。彼らに有害なものを拒む一方、あなたが彼らを愛しており、彼らを幸福にしたいと思っていることを理解させなさい。彼らが愛すべき性質を持っていないならば、それだけいっそう努力して彼らへの愛を示さなければならぬ。あなたが彼らを幸福にしたいと思

っていることを子供たちが確信するとき、愛はあらゆる障壁をこぼつ。救い主はこの原則を用いて人を扱われた。これを教会の中にもとり入れなければならぬ。 11

### 愛は表現しなければならない

家族の者たちが互いに愛情を表現しない家庭が多い。感傷は不必要であるが、清潔できよらかな、そして品位のある態度で愛情とやさしさを表わす必要がある。多くの人はきびしい心だけを養つて、ことばや行動に品性の悪い面を表わす。どんな時にも夫と妻や、親と子や、兄弟姉妹の間にやさしい愛情を育てなければならぬ。軽率なことばはすべて押えなければならぬ。互いに愛情のない表情をすることさえあつてはならぬ。快活であること、やさしく話すことは、家族ひとりびとりの義務である。 12

やさしさや愛情深さや愛を育てて、ちよつとした親切の中に、ことばの中に、思いやり深い配慮の中にそれを表わさなければならぬ。 13

子供に父母を尊敬させる最良の方法は、父親が母親にやさしい心づかいを示し、母親が父親に尊敬と敬意を示すのを見る機会を与えることである。子供は父親と母親の間にある愛情を見ることによつて、おきての第五条に従い、「子たる者よ、主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことである」という訓戒に服従するように導かれるのである。 14

イエスの愛が親の中に反映されなければならない。母親が子供の信頼を獲得し、彼女を愛し彼女に服従することを教えたとき、彼女はクリスチャン生活の最初の教訓を教えることになる。子供は

両親を愛し信頼し彼らに服従するように、救い主を愛し信頼し彼に服従しなければならない。親が注意深い配慮と正しい訓練を通して子供に示す愛は、かすかではあるが、忠実な神の民に対するイエスの愛を反映している。15

1、教育・一三七ページ  
2、4 T・一三八ページ  
3、S・一九一一年六月二〇日  
4、1 T・三八七、三八八ページ  
5、R H・一九〇一年七月九日  
6、M S S・一二九・一八九八年  
7、同・一二七・一八九八年  
8、同・一一四・一九〇三年

9、同・四三・一九〇〇年  
10、4 T・一四〇ページ  
11、M S S・四・一八九三年  
12、S・一八九二年一月一日  
13、Y I・一八八六年四月二一日  
14、R H・一八九二年一月一日  
15、S・一九一一年四月四日

## 第三二章

## 心の庭を先に占領する

庭師としての親　主は親に厳肅で神聖な仕事をおゆだねになった。彼らは心の土を注意深く耕さなければならぬ。彼らはこうして神の共労者となることができる。主は彼らが子供たちの心の庭を見張り、それを注意深く手入れするように望んでおられる。彼らはよい種をまき、目ざわりな雑草をみな抜き取らなければならない。品性上の欠点や性質の欠陥は、そのまま放置しておけば品性の美しさを傷つけるから、それを一つ残らず切り取る必要がある。1

両親がたよ、あなたがたが働くように召されている第一の伝道地は、あなたがた自身の家庭である。あなたがたは家庭の庭にあるたいせつな植物に細心の注意を払わなければならない。神の前に申し開きをしなくてはならない魂として彼らを見守る仕事がある。あなたがたにゆだねられている。あなたがたの仕事について、その性質、その立場、その結果について注意深く考えなさい。2

あなたがたは戸口の前に世話をしなければならぬ小さな土地を持つている。神はあなたがたに任せになったこの仕事に対して、あなたがたに責任を負わせておられる。3

### 庭園の手入れ

幼い者たちに生まれつきの傾向のままに行動することを許す風潮が世間一般にゆきわたっている。だから子供が小さい時にわがままであっても、親は、しばらくすればよくなる、十六才から十八才になれば自分で物事を判断して悪い習慣を捨て、最後には有用な男女になると言う。何という誤りであろう。親は幾年もの間敵に心の庭に種をまくことをゆるし、誤った原則が成長するのを黙認する。だからそのあとでその土地のために幾ら努力を払っても徒労に終わる場合が多いのである。……

ある親たちは、子供たちが悪い習慣を形造るのを放任しておいた。そのしるしはその子供たちの生涯を通じて見られることであろう。この罪は親にある。この子供たちは自分はクリスチャンであるというかもしれないが、心の中に恵みの特別な働きが行なわれず、生活に徹底的な改革が行なわれていないために、彼らのすべての経験の中に古い習慣が見られる。彼らは親が形造ることを許した品性をあらわす。4

将来善が支配して悪がその影響力を失うと考えて、子供たちが善と悪を見さかいなく知ることを許してはならない。悪は善よりも早く増加する。彼らが学んだ悪は長い年月を経たあとで忘れ去られるかもしれないが、だれがこんな冒険をあえて冒すであろう。時は短い。子供たちの心に清潔でよい種をまくほうが、あとになって雑草を引きぬくよりははるかにやさしい。幼い者の心にきざまれた印象を消すことはむずかしい。だから彼らの柔軟な機能を正しい方向に向けるためには、これらの印象を正しい種類のものにするのが非常にたいせつである。5

## 種まきと除草

神の恵みの雨に備えて、子供の心の土を、その生涯の最初の数年の間に注意深く準備しなければならない。それから細心の注意を払いながら真理の種をまき、忠実に手入れをしなければならぬ。神の名によってなされるすべての努力に報いたもう神は、まかれた種の中に生命を吹き入れてくださる。そして初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができるのである。

親があまり怠慢なために、サタンが子供たちの心の中に自分の種をまき、恥と悲しみの収穫が生じることがよくある。親が家庭で自分の周囲に子供たちを集めないために、今日の世界は真の善に欠乏している。親は子供たちが、不注意で向こうみずな友人たちと交際するのをひきとめなかった。だから子供たちは、世の中に出ていって死の種をまくのである。6

訓戒というたいせつな仕事、すなわち無価値で有害な草を抜き取る仕事は非常に重要な仕事である。なぜなら放任しておけば、これらの雑草はおい茂って道徳的原則と真理というたいせつな植物を枯死させてしまうからである。7

畑を耕さないでくと、有害な雑草が必ず群らがって出てくる。しかもそれを根絶することは非常にむずかしい。だからたいせつな植物が生長できる前に土がならされ、雑草が抜かれなければならない。これらのたいせつな植物が生長できる前に、まず種が注意深くまかれなければならない。母親たちは、尊い種をまくことを怠りながら尊い実の収穫を期待するなら、彼女たちはいばらやとげを刈り取るから、失望するであろう。サタンは、芽を出して自分の悪い品性と同じ実を多く生じる種をまこうとしていつも見張っている。8

わたしたちは子供に関してはいいつも警戒をしていなければならない。サタンは子供が生まれた時



から種々の手段を通して彼らの気質や意志に働きかけ始める。彼らの安全は、親の知恵と油断のない注意にかかっている。親は神に対する愛と恐れをもって、心の庭を先に占領し、正しい精神、正しい習慣、神に対する愛と恐れのよい種をまかねばならない。9

### 生まれながらの美を示す

親や教師はイエスがいつでも与えようとしておられる知恵を熱心に求めなければならない。それは、彼らが人間の心の成長の最も興味深い、印象を受けやすい時期を扱っているからである。彼らは子供たちがその生涯の各段階において、庭の植物や花のようにじよじよに、それぞれの時期にふさわしい生まれながらの美を表わすように彼らの生来の傾向を育てることを目標としなければならない。10

1、M S S・一三八・一八九八年  
2、S・一八八六年七月一日  
3、R H・一八九一年九月一日  
4、1 T・四〇三ページ  
5、C T B・一三八、一三九ページ

6、M S S・四九・一九〇一年  
7、R H・一八八五年四月一日  
8、M S S・四三・一九〇〇年  
9、同・七・一八九九年  
10、6 T・二〇四、二〇五ページ

## 第三三章

## 天の指導の約束

天に友があるという自覚が与える喜び      あわれみ深いあなたのあがない主は、あなたを愛と同情をもつて見守り、いつでもあなたの祈りを聞き、あなたが必要としている助けを与えようとして待機しておられる。主は母親ひとりひとりの心の重荷を知っておられ、あらゆる危急の場合における彼女たちの最善の友であられる。主の永遠のみ腕は、神を恐れる信仰厚い母親をささえる。主は地上におられたとき、多くの悩みごとや困難を持ち、貧しさと戦った母親を持たれたから、心配や悩みを持つクリスチャンの母親をひとりびとり理解しておられる。悪霊につかれた娘を持った女の心配を取り去るために長い旅をされた救い主は、母親の祈りを聞き、彼女の子供を祝福される。

埋葬するために運ばれていたやもめのひとりむすこを彼女に返されたおかたは、今でも子を失った母親の悲しみに心を動かされる。ラザロの墓で同情の涙を流し、マルタとマリヤに埋葬された兄を返されたおかた、マグダラのマリヤを許されたおかた、十字架上の苦しみの中で母親を覚えておられたおかた、泣いていた女たちに現われて、彼女たちを救い主の復活の最初のよろこばしい音ずれを伝えるご自分の使者とされたおかた      このおかたは今も女性の最良の友であられ、生活のあ

らゆる関係において、いつでも彼女を助けようとしておられる。1

クリスチャンの母親の仕事に匹敵できる仕事はほかにない。クリスチャンの母親は、主の薫陶と訓戒によって子供を育てることがどんなことであるかという自覚をもって仕事に着手する。彼女は、自分の重荷が重過ぎて負い切れないと感じることがたびある。そういうとき祈りを通して同情深い救い主にその重荷のすべてをゆだねる特権がどんなに尊く思われることであろう。彼女は重荷を主の足元において、主の臨在の中に、いちばん苦しい時に彼女をささえ、彼女によるこびと希望と勇気と知恵とを与える力を見いだすことができる。種々の困難に遭遇して、こうした友人を持っているという自覚は、悩み疲れた母親にとって非常に大きな喜びである。母親たちがもつとたびたびキリストのもとに行き、もつと全的にキリストに信頼するなら、彼女たちの重荷はもつと軽いものとなるであろう。彼女たちはまた魂の休息を見いだすであろう。2

天の神はあなたの祈りを聞かれる アダムの墮落した性質がいつも支配しようとするから天来の

助けがなければ、あなたは子供たちをあなたが育てねばならぬように育てることはできない。真理の諸原則が魂の中に根をおろして生活から栄養を摂取できるように心を準備しなければならない。3

親は、子供を教育するにあたって神の指示に従うとき天から助けが与えられると考えてよい。親は教えるときに自分も学ぶから、多くの恩恵を受ける。子供たちは主の道を守ることによって得た知識を通して勝利に到達する。彼らは生まれつきの遺伝的な悪の傾向に打ち勝つ力を与えられる。4

両親がたよ、あなたがたは衰えを知らぬ力で子供たちのために働いておられるであろうか。天の

神はあなたがたの心配や、あなたがたの熱心な働きや、あなたがたのゆるみのない注意に目を止められる。神はあなたがたの祈りを聞かれる。あなたがたの子供を主のために忍耐強く、やさしく訓練しなさい。……全天があなたがたの働きに関心を持っている……神はあなたがたと協力してくださり、あなたがたの努力を成功をもって報いてくださる。 5

あなたが救いの真理を明らかにし、子供たちにキリストを個人的な救い主としてさし示すとき、天使たちはあなたのそばにいる。主はベツレヘムの赤子のとうとい物語に子供たちの興味を向ける力を父親と母親にお与えになる。まことにこのおかたこそ世の望みなのである。 6

**求めなさい、そして受けなさい** 親は、彼らの重要な働きを行なうときに、天来の助けを求め、

それを受けなければならぬ。たとい親の品性や習癖や習慣が劣った型で形成されたものであっても、たとい子供時代や青年時代に教えられた教訓のために彼らの品性が悪い方面に発達していても、失望する必要はない。心を改変する神の力は遺傳的後天的な傾向を変えることができる。なぜならイエスの宗教は向上させる宗教だからである。「新たに生まれる」ということは改変すること、キリスト・イエスにあつて生まれ変わることを意味する。 7

神のことばの教訓を子供たちに教えよう。あなたが求めれば、主は答えてくださる。神は、「わたしはここにいます。何をしてほしいのか」と仰せになる。どの人にもその人に与えられた任務を果たす力が与えられるように、天と地が結合している。主はこの子供たちを愛しておられる。主は子供たちが彼らの高貴な任務を理解するように育てられることを望んでおられる。 8

聖霊が指導して下さい

母親は神の道と神のみこころに服従する真の経験を自ら持つことができるように、聖霊に導いていただく必要を感じるべきである。そう感じるようになったとき、彼女はキリストの恵みを通して、賢明でおだやかな、愛情のある教師となることができるのである。9

キリストは聖霊に支配された親が、家庭の教師となる力と恵みを受けることができるように準備をされた。家庭におけるこの教師としつけは、品性を造り上げ形造る影響力を与える。10

天の力が人間の努力と結合する

人間の側の努力がなければ、天の努力はむだとなる。親が信頼

をもって神に頼り、彼らに負わされた神聖な責任に目ざめて子供たちを正しく訓練しようと努力するとき、神は力をもって働かれる。神は、注意深く祈りをこめて子供を教育し、自分自身と子供たちの救いの達成のために努力する親に協力される。神は彼らのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせてくださる。それは神のよしとされるところである。11

人間の努力だけが子供たちに天国にふさわしい品性を完成させるのではない。天の助けによって偉大な聖なる働きが成し遂げられるのである。12

あなたがたが神の力によって親としての責任をとりあげ子供たちを神の望みたもう者にするために努力の手を決してゆるめず、自分の責任の地位を離れないと固く決心するとき、神は満足をもってあなたがたをごらんになる。神はあなたがたが最善を尽くしていることを承知しておられるから、あなたがたの力を強めてくださる。神は母親や父親のできない部分をしてくださる。神は賢明な、忍耐強い神を恐れる母親の正しい努力に協力してくださる。両親がたよ。神は家庭の中でするよう

にあなたがたにお任せになった仕事をしようとは仰せにならない。あなたがたは、この世の中で子供たちを取り囲む危険から彼らを救い出してほしいと思うなら、手をこまぬいて怠惰なしもべとなつてはならない。 13

# 困難に襲われたときイエスにすがりなさい

両親がたよ、あなたがたの道すじを照らしている天の光を集めなさい。キリストが光の中にあられるように、光の中を歩みなさい。子供を救い、清潔の街道におけるあなたの位置を維持する仕事に着手するとき、怒りをそえられるような困難が襲ってくる。しかし手を離してはならない。イエスにすがりなさい。イエスは「わたしの保護にたよつて、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」と仰せになる。将来種々の困難が起こる。あなたがたはさまざまな障害に出会うであろう。イエスをたえず見なさい。危急に直面した場合、「わたしはいま何をしたらいいでしょう」と主に尋ねなさい。 14

戦いが困難であればあるほど、天の父なる神から助けを受ける彼ら（親）の必要は増大する。そうして得られる勝利もそれだけいっそう顕著なものとなる。 15

# 信仰をもって働きなさい

キリストの数多くの恵みの忠実な家令として親は定められた仕事を忍耐強く愛情をこめてしなければならぬ。忠実であることが彼らに期待されている。すべてのことを信仰によって行なわなければならぬ。彼らは、神が彼らの子供たちに恵みを与えてくださるよう絶えず祈らなければならない。仕事にあきたり、忍耐力を失ったり、いらいらしてはならぬ

い。神と子供たちのそば近くに付いていなければならない。親が忍耐と愛をもって働き、子供たちを純潔とけんその高い標準に到達させるために熱心に努力するならば必ず成功する。16

1、S・一八八六年九月九日  
2、同・一八七七年九月一日  
3、R・一八八九年一月二五日  
4、同・一八八九年六月六日  
5、同・一九〇一年一月二九日  
6、各時代の希望・第二巻・三二三ページ  
7、R・一八八七年四月一日  
8、M・一八八九年

9、C・一八八八年  
10、M・一八八九年九月二五日  
11、S・一八八九年九月二五日  
12、R・一八八九年七月一日  
13、同・一八八八年七月一日  
14、M・一八八八年七月一日  
15、R・一八八八年八月三〇日  
16、M・一八八八年





第九部  
父親、  
ハウス・  
バンド（  
帯金）



## 第三四章

# 父親の地位と責任

**夫の定義** 家庭は神が設けたもうた制度である。神は父親と母親と子供からなる家族が、一つの会社としてこの世に存在するように計画された。 1

家庭を幸福にする仕事は母親ひとりに負わされているのではない。父親にも果たすべき重要な役割がある。父親は家庭の宝の帯金である。彼は強い、真実な、献身的な愛情によって、家族の者を、母親と子供たちを、和合の最も強いきずなで一つに結びつける。 2

「ハウス・バンド」(帯金)という彼の名称は夫のほんとうの定義である。∴∴自己の責任を認識している父親は、あってもごく少数であることをわたしは示された。 3

**家庭という会社のかしら** 夫であり、父である者は家庭の長である。妻は愛と同情を彼に求め、子供の教育の助けを求めるが、それは正当なことである。子供は母親のものであると同時に父のものであり、子供の幸福に関して父も同じく関心をもっている。子供は父に支持と指導を仰ぐ。父は人生に関する正しい観念と家庭を包むべき感化と交わりに関して正しい考えを持たなければならな

いが、しかし何よりもまず、神の愛と神を恐れる気持ちとみことばの教えによって支配されていないければならない。それは子供の足を正しい道に導きうるためである。...

父親は家庭を幸福にするために自分の分を果たさねばならない。どんなに苦勞があり、仕事の困難があつても、そのために家庭を暗くしてはならない。微笑と感じのいいことばを語りながら家にはいるべきである。 4

#### 立法家であり祭司である

父親は家族の中心である。彼は立法家である。彼は、力、誠実、正直、忍耐、勇氣、勤勉、實際的な有用性といった強い徳を彼のりっぱな態度によつて示さなければならぬ。父親はある意味で、朝夕神の祭壇にいけにえをささげる家族の祭司である。妻や子供にも、ささげものを共にささげ、賛美の歌に加わるように奨励しなければならない。家庭の祭司である父親は、朝夕、その日を通じて彼自身と子供たちが犯した罪を神に告白しなければならない。彼が知るようになった罪や、神だけが見ておられる、かくされた罪は告白されなければならない。この行動の規則を、父親がいる場合には父親が、父親が不在の時には母親が熱心に守るとき、それは家族に祝福をもたらす。 5

父親は家庭で、立法家であられる神を代表する。彼は神の同勞者で、神の恵み深い計画を実現し、子供たちの中に正しい原則を植えつける。彼は子供たちが、地上の親だけでなく天の父にも服従することを容易にするもので彼らの心を前もつて占領しているから、子供たちが純潔で高貴な品性を形造ることを可能にする。 6

父親は彼の神聖な責任を裏切ってはならない。彼はどんな点においても親としての権利を捨ててはならない。7

**神と共にあゆむ** 父親は……彼の生きた信仰によって子供たちを神のみくらに結びつける。彼は自力に頼まず、無力な魂をイエスにゆだね、至高者の力をしっかりと捕える。兄弟よ、家庭で、家族の中で朝晩祈りなさい。密室で熱心に祈りなさい。毎日の仕事に従事しているときも魂を神に向けて祈りなさい。エノクはこうして神と共に歩いた。魂の無言の、ひたすらな祈りは、きよい香のようにならぬ座にのぼり、聖所でさげられたものであるかのように神に受け入れられる。このように神を求める者にとって、キリストはいつもそばにおられる必要なときの助けである。悩みの日も彼らは強い。8

**経験の円熟が要求される** 父親は、衝動だけで動かされる子供のようであってはならない。彼は神聖なきずなで家族と結ばれている。9

家庭における父親の感化がどんなものであるかは、唯一のまことの神と神にわかされたイエス・キリストについての彼の知識によって決まる。パウロは「わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった」と言っている。父親は大きくなりすぎたしつけのない少年としてではなくて、りっぱな品性と抑制された感情を持つ人として立たなければならない。彼

は正しい道德教育を受けなければならない。家庭における彼の行動は神のことばの純粋な原則に導かれ、抑制されたものでなければならぬ。そうであるとき、彼はキリスト・イエスにある完全な人に成長する。 10

**意志を神にゆだねよ** 夫であり父親である人に、わたしは、あなたの魂を必ず純潔できよらかなふんいきで包みなさいと申し上げたい。：：あなたは毎日キリストに学ばなければならない。家庭で暴君的な精神を決して示してはならない。こういう精神を示す人は、サタンの代理者と共同して働いているのである。あなたの意志を神の意志に従わせなさい。あなたの妻の生活を楽しい、幸福なものとするために全力を尽くしなさい。神のことばをあなたの相談相手となさい。神のことばの教えを家庭で実践しなさい。そうすれば教会の中でもそれを実践し、仕事場にもみことばを持っていくようになるであろう。天の原則はあなたのすべての取り引きを高める。神の使いはあなたに協力し、あなたが世にキリストをあらわすのを助ける。 11

**短気な夫にふさわしい祈り** 仕事に関する心配で家庭生活を暗くしてはならない。小さな問題が起こって、それがあなたの思っている通りに起こらなかったとき、忍耐、がまん、親切、愛をあらわさなければ、あなたはご自分と一つにするためにご自分の命をお与えになったほどあなたを愛されたキリストを友人に選んでいなかったことを表わす。

日常生活においてあなたは突発的な驚きや、失望や誘惑に直面する。聖書は何と言っているであ

ろうか。神にすっかり頼って、「悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げるであろう。」「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ」とある。いつも、どこにいてもイエスを見上げ、神のみこころを行なうにはどうすればよいかを知ることができるように、真心からの無言の祈りをささげなさい。そうするとき、敵が洪水のように侵入してくるとき、主のみたまは敵にさからってあなたのために旗をかがけてくださるであろう。あなたがまさに負けようとするとき、忍耐と自制を失おうとするとき、無情で、非難がましくなるうとするとき、欠点を捜してそれを責めようとするとき、そのときこそ、天に向かって次のように祈るべきである。「神よ、誘惑に抵抗し、わたしの心からすべてのうらみや怒りや悪口を除き去るのを助けてください。あなたの柔和、あなたのけんそん、あなたの忍耐、あなたの愛を与えてください。わたしのあがない主を汚し、わたしの妻、わたしの子供たち、同信の兄弟姉妹のことばや動機を曲解するままに放置しないでください。親切で、あわれみ深く、やさしく、寛大であるように助けてください。家庭でほんとうのハウス・バンド（帯金）となり、人にキリストを表わす者であるようにお助けください。」 12

# けんそんに権威を行使せよ

夫が家族のかしらとしての自分の地位をいつも口にすることは彼がrippana人物でない証拠である。彼が自分に権威があるということを主張するために聖句を引用するのを聞いても、それは彼への尊敬の念を増しはしない。彼が妻に、彼の子供たちの母親に、自分の計画が絶対に正しいものであるかのように服従を要求しても、それは彼を前よりもrippanaにはしない。主は妻のかしらである夫が、彼女の保護者となることをお定めになった。彼は教会のかしら、

宗教的な団体の救い主であられるキリストのように、家族の者を一つに結ぶ家庭の帯金である。神を愛すると主張する夫たちはみな、彼の地位に関して神が要求しておられることを注意深く研究しなければならぬ。キリストの権威は知恵と親切とやさしさのうちに行使される。夫も教会の偉大なかしらをまねて彼の権威を行使しなければならない。 13

- |    |                        |     |                |
|----|------------------------|-----|----------------|
| 1、 | M S S・三六・一八九九年         | 8、  | 4 T・六一六ページ     |
| 2、 | S・一八七七年九月一三日           | 9、  | 1 T・五四七ページ     |
| 3、 | 1 T・五四七ページ             | 10、 | M S S・三六・一八九九年 |
| 4、 | ミニストリー・オブ・ヒーリング・三六一ページ | 11、 | L・二七二・一九〇三年    |
| 5、 | 2 T・七〇一ページ             | 12、 | 同・一〇五・一八九三年    |
| 6、 | S・一八九四年九月一〇日           | 13、 | 同・一八八・一八九一年    |
| 7、 | L・九・一九〇四年              |     |                |



## 第三五章

### 重荷を分け合う

父親の義務は譲渡できない

子供に対する父親の義務を母親にゆずることはできない。母親は、彼女の義務を果たすなら、それだけで十分な重荷を負っているのである。父親と母親が協力して働いてはじめて、神が彼らの手におゆだねになった仕事を完成することができる。1

父親は、永遠の生命のために子供を教育する仕事において彼が果たさねばならない役割を回避してはならない。彼はその責任の一部を負うべきである。父親にも母親にも義務がある。子供たちの中に愛と尊敬の特質が育つのを見たいと望むなら、親は互いにそれを示し合わなければならない。2

父親は朗らかな表情と親切な言葉で、子供の世話をする母親を力づけさせなければならぬ。3

妻の前には戦いがあるが、その戦いにおいて彼女を助けるように努めなさい。ことば使いに注意し、洗練された態度、礼儀正しさ、おだやかさを養いなさい。そうすることによってあなたは報われるであろう。4

やさしい奉仕は母親の重荷を軽くする

父親がどんな職業を持ち、その仕事についてどんな心配

事があっても、彼は、毎日訪問者や他人にあいさつするときと同じほえみの表情と感じのよい口調を家庭に持ち帰らなければならない。妻に、彼女が夫の大きな愛に頼ることができる。夫の腕がすべての苦労や心配を通して彼女を力づける、彼の感化が彼女をささえるということを感じさせなさい。そうするとき、彼女の重荷は半減するであろう。子供は母親のものであると同様に父親のものではないであろうか。5

妻は、夫の責任を負って彼を助けるよりももっと重要だと考える重荷を自分に集めるかもしれない。夫もまた同様である。やさしい奉仕は価値のあるものである。夫が家庭の夫というよりも下宿人のように、自分の好むときに家を出入りすることができると感じる傾向がある。6

家事は神聖で重要なものであるが、退屈な単調さがそれにとまなうことが多い。いろいろの変化や楽しい休息がなければ、際限のない心配事や思いわずらいのために気持ちがいらいらさせられる。夫であり父親である人は、それを与えようと思えば、というより、それが必要であり、そうすることが好ましいと考えるならば、それを妻に与えることができる場合が多い。人生のめだたない歩みにおける母親の生活は、絶えまない自己犠牲の生活である。もし夫が彼女の立場の困難さを理解し、彼女を助けなければ、それはいつそうつらいものとなる。7

#### 弱い妻に思いやりを示す

夫は家庭に大きな関心を示さなければならぬ。弱い妻の感情に対しては特にやさしくなければならぬ。彼は多くの病いを閉め出すことができる。親切で、ほがらかな励ましのことは、たいがいの医薬よりも効果がある。こういうことは消沈した、失望した心

に勇気を与える。親切な行為や励ましのことばによって家庭の中に持ちこまれた幸福や太陽の光は、払われた努力を十倍に報いる。夫は、子供の教育の重荷の大部分は母親にかかっていること、母親が子供の精神の形成に大いに関係があることを記憶しなければならない。このことは彼にやさしい気持ちを持たせるべきである。彼は注意深く母親の重荷を軽くしなければならない。彼は妻に、彼の広い愛情に頼り、力と平和と、疲れた者の最後のいこいである天に心を向けるようにすすめなければならぬ。彼はひたいをくもらせて家に帰ってきてはならない。彼の存在とともに太陽を家庭にもってこなければならぬ。そして妻に、神を見上げ信じるようにすすめなければならぬ。夫と妻は、ともに神に約束を果たしてくださるよう求める、家族に豊かな祝福をもたらすことができる。8

「ゆっくり歩いて行き」

夫であり、父である多くの人は忠実な牧者の注意深さから有益な教訓

を学ぶことができる。ヤコブは急いで困難な旅をするようにすすめられたとき、次のように答えた。

「子供たちは、かよわく、また乳を飲ませている羊や牛をわたしが世話しています。もし一日でも歩かせ過ぎたら群れはみな死んでしまいます。」「わたしはわたしの前にいる家畜と子供たちの歩みに合わせて、ゆっくり歩いて行き」（創世記三三ノ一三、一四）。

夫であり、父である人は苦勞の多い生涯の道程において、共にゆく同伴者が耐えられるように「ゆっくり歩いて行く」べきである。財産や権力を得ようとして社会の人々が殺到している中で、自分と共に歩むように召された者を慰め、ささえるために歩みをとどめることを学びなさい。……

夫は同情と不変の愛情をもってその妻を助けるべきである。もし妻を家庭の太陽のように、はつ

らつとうれしそうにしておきたければ、夫は妻が重荷を負うのを助けなさい。夫の親切と愛にみちた礼儀は彼女にとって尊い励ましとなり、夫が与えた幸福は、夫自身の心にも喜びと平安をもたらす。……

もし、母親が受けるべき保護を母親が受けず、慰安が奪われ、過労、心配、ゆううつのため体力を使い果たすならば、その子供は遺伝として受けるはずの生命力を持たず、頭脳の敏感さもなく、快活な性質を失う。それよりも母親の生活を明るく幸福にし、欠乏やひどい労働やゆううつな思いわずらいから守り、生まれてくる子供が一生、自分の元気な力で戦いぬくことができるように、良い身体を遺伝するようにしたほうがはるかによい。9

1、F E・六九ページ  
2、S・一八八九年七月二二日  
3、同・一八七七年九月一三日  
4、2 T・八四ページ  
5、C T B・七〇ページ

6、M S S・八〇、一八九八年  
7、S・一八七七年一月二六日  
8、1 T・三〇六、三〇七ページ  
9、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三四五、三四六ページ

## 第三十六章

### 子供の友

子供と一緒に過ごす 一般の父親は、子供を自分にひきつけ、結びつける絶好の機会をむだにしている。彼は仕事から家に帰ってきたときに、子供たちとしばらく過ごすことが楽しい変化であることを知らねばならない。 1

父親たちは、子供たちと交わり、彼らの幼い問題を理解し、愛という強いきずなで彼らの心を自分に結びつけ、彼らが父親の忠告を尊いとみなすような感化をその成長しつつある心にうちたてるために見せかけの威厳を捨て、余暇の時間における自分の軽いたのしみを幾らか犠牲にしなければならない。 2

男の子に特別な関心を示せ 男の子を持つ父親は、むすこたちと親しく交わり、自分の豊富な経験の利益を彼らに与え、彼らの心を自分に結びつけるような率直さとやさしさをもって彼らと話さなければならぬ。彼は自分が彼らの最善の利益、最高の幸福をいつも考えていることを示さなければならぬ。 3

むすこを数人持つてゐる父親は、どんな職業についていても、彼の保護のもとに置かれた魂を決しておろそかにすることがあつてはならない。彼はこの世に子供たちを送り出し、汚れた交際、悪い交際から彼らを守る責任を神に対して負つた。たえず動き回る子供を母親の世話にまかせきつてはならない。それでは母親の負担が重すぎてしまう。父親は母と子の最高の利益となるように物事をとり決めなければならない。子供の教育において自分を抑制して賢く事を処理することが母親にとって非常にむずかしいかもしれない。もしそうであれば、父親は自分の魂にもっと多くの重荷を負わせなければならない。彼は子供を救うために最も決定的な努力を払うべきである。 4

#### 子供を役に立つ者となるように訓練せよ

家庭のかしらとして父親は、子供が有用な者となり義務を実行する者となるには、どのように教育すべきであるかを理解しなければならない。これは他のどの仕事にもまさる父親の特別な仕事である。子供の生涯の最初の数年間、性格の形成は、主として母親にまかされている。だが母親は、その仕事をしているときに、父親の協力を得ていることをいつも感じていなければならない。父親が家族の役に立つことのできない職業についているならば、子供のために少しばかりの時間をさくことを妨げないような職業を捜すべきである。子供をおろそかにするなら、彼は神が彼におゆだねになった任務に対して不忠実となる。

父親は、世の誘惑よりも強力な影響を子供に及ぼすことができる。彼は彼の小さな家族のメンバーの必要と危険を理解し、そのことによって彼らの悪い点をおさえ、正しい点をのばすことができるように、彼らの性格と品性を研究しなければならない。 5

父親の仕事の性質がどんなものであっても、それは彼に、主の道を守るように子供を教え訓練する仕事をおろそかにすることを許すほど重要ではない。6

**いろいろの性格を知れ** 父親は自然界と子供の必要を研究するいとまのないほど仕事にまたは本の研究に没頭してはならない。彼は、子供たちがそれぞれの性格に合った有益な労働で忙しく過ごせるように、その方法を考え出すのを助けるべきである。7

父親たちよ、子供たちといっしょにできるだけ多くの時間を過ごしなさい。神のみことばに一致するように彼らを訓練するにはどうすればよいかを知るために、彼らの異なった性格を知るように努めなさい。失望のことばを決して口にしてはならない。家庭の中にかげを持ち込んではいならない。子供たちに親切で愛情深くありなさい。しかしばかげた甘やかし方をしてはならない。だれでもしなければならぬように、子供たちに彼らの小さな失望をこらえさせなさい。お互いに対するつまらない不満をあなたにいいつけるのを助長してはならない。互いにがまんし合い、信頼と尊敬を持ち合うように努めることを教えなさい。8

**仕事や運動において子供たちと交われ** 父親がたよ。……權威に愛情をまぜ合わせ、厳格な制限には親切と同情を共に用いなさい。あいた時間を子供のためにさき、子供と親しみ、仕事や運動を共にして信頼を得なさい。子供との間に友情を育て、特にむすこと友だちになりなさい。こうすればあなたは子供をよくする強い力となるのである。9

自然界からの教訓を教えなさい

父親は母親の重荷を軽くしなければならない。……子供たちに

美しい花や、その葉の中に神のみわざと愛を見ることが出来る高い樹木を示しなさい。これらのものすべてを造られた神が、美と善を愛しておられることを教えなければならない。キリストは私たちに野のゆりと空の鳥をさして、神がどのように彼らを守っておられるかを示し、それを、鳥や花よりも重要な人間を神がお守りになる証拠として示された。自分をみせびらかせるためにどんなに多くの時間をかけても、わたしたちの外観は野の最も素朴な花の優美さに比較できないことを子供たちに教えなさい。こうすることによって、彼らの心は人為的なものから自然のものに向けられるであろう。彼らは、神が彼らのためのしみのためにそうしたものをすべてお造りになったこと、また神が心の最善のもの、最もきよい愛情をささげるように望んでおられることを学ぶであろう。10

父親は子供たちを庭に連れて行き、開いているつばみや咲いているいろの花の色を示すことができる。神の愛がすべての木や花や草の葉にしるされている自然界の偉大な書物を彼らの前に開いて、こうした媒介物を通して創造主に関する重要な教訓を彼らに与えることができる。神がそれほど樹木や花を心にかけておられるならご自分のかたちにかたどって造った生きものをそれ以上に心にかけて下さるということを、彼らの心に印象づけることができる。子供たちが人工的な装飾によつてでなく、品性の美しさ、彼らの心を幸福とよるこびでおどらせる親切と愛情の魅力で美しくなることを神が望んでおられることを、幼いときから理解するように指導することができる。11



## 第9部 父親、ハウス・バンド（帯金）

6、5、4、3、2、1、  
 S・R・M・C・S・S  
 ・H・S・T・・  
 一・一・一・一・一・一  
 八・八・七・二・八・八  
 九・八・九・八・七・七  
 四・八・一・ペ・年・年  
 年・一・一・ー・一・一  
 九・年・九・ジ・二・二  
 月・八・〇・　・月・月  
 一・三・一・　・六・六  
 〇・〇・年・　・日・日  
 日

11、10、9、8、7、  
 S・C・ミ・M・C  
 ・T・ニ・S・T・  
 一・B・スト・S・一  
 八・七・トリ・・六・二  
 七・七・ー・・〇・七  
 年・一・オ・一・一・  
 一・二・ブ・九・二・  
 二・月・ヒ・〇・八・  
 月・六・ー・三・ペ  
 日　　ジ　　年　　ー  
 　　　　リ　　三  
 　　　　ン　　六  
 　　　　グ　　一  
 　　　　・　　ペ  
 　　　　三　　ー  
 　　　　六　　ペ  
 　　　　一　　ー  
 　　　　ペ　　ジ  
 　　　　ー　　ジ  
 　　　　ジ

## 第三十七章

## いてはならない種類の夫

妻に二倍の重荷を負ってもらうことを期待する夫

たいがいの家庭にはいろいろの年令の子供が

いるが、その子供たちの中には、母親の注意と賢明なしつけだけでなく、父親のもっときびしい、だが愛情深い影響を必要としている者がある。この問題の真の重要性について考える父親はきわめて少ない。彼らは自分の義務をおろそかにして、非常な重荷を母親に背負わせておきながら、自分の判断にしたがって母親の行動を批判したり非難したりしてもよいと思っている。この重い責任感と非難のもとに、あわれな妻また母親は、そうした状態のもとででき得る最善のことをしたにもかかわらず、無意識に、または無知からしたことについて罪悪感と良心のかしやくを感じることもよくある。疲れた彼女の努力を感謝し称賛し彼女の心をよるこばすべきときに、夫は自分の責任をおろそかにしながら、障害が多いにもかかわらず、彼女に自分の義務を満足のいくように果たすことを期待するために、彼女は悲しみと非難のなかをあゆまされる。 1

多くの夫は、一般に際限のない家事にあけくれている妻たちが耐えしのんでいる心労や心配を十分に理解せず、それに感謝していない。彼らはひたいを曇らせ、太陽をもたずに家に帰る。食事が

時間通りにできないと、家政婦、子守兼料理人兼女中の役をする疲れ切った妻が非難のことばを受ける。この横暴な夫は、母親が家族の食事の準備を急ぐことができるように、彼女の疲れた腕からうるさい子供をとるかもしれないが、子供が父親の腕の中で落ち着かずにむずかると、彼は子守になって子供をしずめなだめる義務があるとはめったに感じない。彼は母親が子供のむずかるのを幾時間がまんじりしたかということを考えずに、「お母さん、あなたの子供を連れていきなさい」と気短くよぶ。子供は母親のものであると同時に、彼のものではないであろうか。子供を育てるという仕事で彼の分を忍耐強く負うという当然の義務が彼にあるのではないであろうか。2

**独裁的で支配的な夫への勧告のことば**

あなたは、自分は夫であり父親であるから絶対的な権限を持っていると思わなければ、あなたの生活はもっと幸福であろう。あなたの行動は、あなたが夫という自分の地位を正しく理解していないことを示している。あなたは神経質で独裁的で、判断力が不足していることをあらわすことが多い。だからそういうときにあなたが自分のやり方をどのように考えていようと、妻や子供にはそれが首尾一貫しているように見えない。あなたは一度ある立場をとると、そこから退こうとしない。たいていの場合、あなたは正しい道を進んでいない。そしてそれを認めなければならぬのに、どうしても自分の計画を実行しようとする。あなたに必要なものは、もっと多くの愛と忍耐であり、自分の思う通りにしようとする気持ちをことばや行為に表わすのを少なくすることである。今のやり方ではあなたは家庭の帯金であるよりも、他人をおさえつけ悩ませる万力のようなものである。……

あなたは、他人に自分の考えを細かい点に至るまで実行させようとすることによって、そうした点で譲歩するよりもっと大きな害を与えていることが多い。あなたの考えが正しい場合でもそうであるが、多くの点であなたの考えは誤っているのである。それはあなたの変な考え方によって無理なものとなっている。だからあなたはまちがったことを、強い不合理な態度で強制しているのである。<sup>3</sup>

あなたは家族を治めることについて変わった考えを持っている。あなたは独立的な、独裁的な権力を行使して、周囲の人々に意志の自由を与えない。あなたは自分が家族のかしらとして資格があり、あなたの頭脳が、職工が手の中で機械を動かすように、家族の人々を動かす能力があると感じている。あなたは命令をし、権威があるようにふるまう。それは天の神を怒らせ、あわれみ深い天使たちを悲しませる。あなたは、家族の中で自分だけが自治制をしくことができるかのような態度をとる。あなたの妻があなたの考えにあえて反対したり、あなたの決定に疑問を持つとあなたは怒る。<sup>4</sup>

**気短でぐちっばい夫**      夫たちよ、妻に彼女たちの霊的生活のための時間を与えなさい。……多くの夫はいらいらする性質を助長させて、子供のようなおとなになる。彼らは、幼少時代の生活のこの部分を捨てない。彼らはこの性質をいつまでもたいせつにして、ぐちっばい不平によって、生活全体をきゅうくつな、い縮したものにしている。しかも彼ら自身の生活だけでなく、他人の生活をもそうしている。彼らはその手がすべての人に逆らい、すべての人の手は彼に逆らったイシマエル

の精神を持ち歩く。5

利己的で氣むずかしい夫

B兄弟は家庭に太陽の光をもたらすような気質の持ち主ではない。ここに、彼が働きを始めるよい場所がある。彼は光線ではなくて雲である。彼は家族の者に、特に他のだれよりも彼の愛とやさしい尊敬を受けるべき者に対して、是認のことは言えないほど利己的である。彼は氣むずかしく、尊大で、独裁的である。彼のことはしばしば鋭く、相手を傷つける。彼は気持ちをやわらげ、自分の落ち度を認め、彼の誤った行為を告白することによってその傷をいやそうとしない。……

B兄弟はもっとやさしくならなければならない。彼は優雅さ、礼儀正しさを身につけなければならない。すべての点において同等である妻に対して、非常にやさしく、おだやかでなければならない。彼女の心にかげを落とすようなことばを語ってはならない。彼は家庭で改革の働きを始めなければならない。彼は愛情をつちかい、粗野で、あらあらしく、無情で狭量な精神に打ち勝たなければならない。6

氣むずかしく、利己的で、おうへいな夫や父は自分が不幸であるばかりでなく、いつしよに住む家族の者をみなゆううつにする。そのために妻は元気を失い、病身になり、子供はかれの好ましくない気持ちを受けついでそこなわれる。こうして自らの結果を刈りとるに至る。7

自己本意で偏狭な夫

あなたは妻や子供たちに多く期待しすぎる。あなたはとがめだてをしすぎ

る。もしあなたがあなた自身朗らかな、幸福な性質をやしない、彼らに親切にやさしく話すなら、あなたは家庭の中に暗雲や悲しみや不幸の代わりに太陽を持つてくるであろう。あなたは自分の考えを重んじすぎる。あなたは極端な立場を取り、妻の判断が家族の中で当然重要視されるべきであるのに、そうされることをよろこばなかった。あなたは妻を尊敬するように自分を教育しなかったし、子供たちにも彼女の判断を尊重するように教育しなかった。あなたは妻を同等の者とみなさずに統治と支配のたずなを自分の手にとって、それを固くひきしぼっている。あなたには愛情深い、同情深い性質がない。もし勝利者になりたいなら、また家族に神の祝福が与えられることを望むなら、こういう性質を養わなければならない。 8

**クリスチャンの礼儀を無視する人** あなたは、親切でやさしく、同情深くすることは弱いことであり、妻にやさしく、おだやかに、愛情をこめて話すことはこけんにかかわると思っている。真の男らしさがどんなものであるかについてあなたはまちがっている。親切な行為を実行しない傾向は、あなたの品性の弱さと欠陥の表われである。あなたが弱さとみなしているものを、神はすべてのクリスチャンが実行すべきクリスチャンの礼儀とみなされる。なぜならキリストが表わされた精神はこの精神であるからである。 9

**夫は愛情を受けるに値する者でなければならない** 夫が暴君的で、きびしく、妻の行為に対して批判的であれば、妻の尊敬と愛情を保つことはできない。結婚関係は妻にとって不愉快なものとな

る。夫は愛されるようにしないから、妻は彼を愛さない。夫は注意深く、ていねいで、誠実で、忠実で、同情深くなければならない。彼は愛と同情をあらわさなければならぬ。……夫がすべてのクリスチャンが持たなければならぬ高貴な品性、純潔な心、高い精神を持つなら、それは結婚関係に表わされる。……彼は妻を健康で元気な状態に保つように努める。家庭に平和なふんい気を造り出すために慰めのことばを語るように努める。

10

1、S・一八七七年一月六日  
2、S・一八七七年一月六日  
3、M S S・一九〇一年  
4、2 T・二五三ページ  
5、L・一〇七・一八九八年

6、4 T・三六、三七ページ  
7、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三四六ページ  
8、4 T・二五五ページ  
9、同・二五六ページ  
10、M S S・一七・一八九一年





第一〇部  
母  
家庭の女王



## 第三十八章

### 母親の地位と責任

夫と同等である

女性には神が最初に彼女のために計画された地位を、すなわち夫と同等の者としての地位を占めなければならない。女性の義務は男性の義務よりも神聖できよいといっても言いすぎではない。女性は自分の仕事の神聖さを認めて、神の力、神を恐れる念をもってその生涯の使命を果たさなければならない。彼女は子供たちを、この世で役に立つ者に、またよりよい世界の家に行けるように教育しなければならない。 1

妻であり母親である人は、体力を犠牲にしたり、自分の能力を眠らせておいて、夫に全的に頼るようなことがあつてはならない。彼女の個性は夫の個性の中に没却することはできない。彼女は自分を夫と同等の者、夫のそばに立ち、自分の義務の立場に忠実であり、夫も彼の義務の立場で忠実であるべきだと感じなければならない。子供を教育するという母親の仕事は、夫がどんな責任の地位に招かれても、たとい一国の総理大臣の地位に選ばれても、彼の職責と同様に、あらゆる面で高貴であり高潔である。 2

## 家庭の女王

王座にすわっている王でも、母親より高貴な仕事は持っていない。母親は家庭の女王である。子供たちをより高い永遠の生活にはいるにふさわしい者となるように彼らの品性を形成する仕事は彼女の手にある。天使ですらそれ以上高貴な仕事を求めることはできなかった。なぜならこの仕事をすることによって、彼女は神に奉仕しているからである。母親は自分の任務の高い性質を認識しなければならない。そうするとき、それは彼女に勇気を与えるであろう。彼女は自分の仕事の価値を認め、世間の標準に妥協するという誘惑に抵抗できるように、神の武具を身につけなければならない。彼女の仕事は現在及び将来のためのものである。 3

母親は家庭の女王であり、子供たちは彼女の臣下である。彼女は母親としての威厳をもって、家庭を賢明に治めなければならない。家庭における彼女の影響は最高のものでなければならない。彼女のことは律法でなければならない。彼女が神の支配下にあるクリスチャンであれば、子供たちの尊敬をかち得ることができる。 4

子供たちは母親を、彼らに仕える奴隷としてではなく、彼らを導き指導し、教訓に教訓、規則に規則を教える女王とみなすように教えられなければならない。 5

## 鮮明な価値の比較

母親は自分の仕事を正しく認識することがほとんどなく、それを家庭の骨折り仕事として低く評価することがたびたびである。彼女は同じ仕事を毎日毎日、毎週毎週くり返すが、特に目立った成果は見られない。一日の終わりに、彼女はどれだけたかさんの小さな仕事を完成したかそれを数えあげることができない。夫のしたことと比較するとき、彼女は自分が値

するだけのことは何もしていないように感じる。

父親は、自己満足を感じている態度で帰ってきて、その日にやりとげたことを自慢げにくわしく話すことがよくある。彼の話は、母親は子供のめんどろを見、食事を調理し、家を整理する以外に大したことはしなかったから、彼女にいろいろと世話をしてもらわなければならないと思っていることを表わしている。母親は商人のように売ったり買ったりしなかった。農夫のように土を耕さなかった。職工のようにも働かなかった。だから疲れるようなことは何もしていない。夫は批判し叱責し、創造主でもあるかのように命令する。妻であり母親である者は、その日一日自分のつとめを果たして疲れていながら、何をしたかはつきり見ることができないでほんとうに落胆しているから、そうされると、いつそうつらく思うのである。

幕が引かれて、父親と母親とが、神がごらんになるようにその日の仕事を見、神の無限のまなこがふたりの仕事をどのように比較しているかを見ることができたなら、彼らは天の啓示に驚かされるであろう。父親はもつとひかえ目に自分の仕事を見るであろう。一方母親は知恵と不屈の努力と忍耐をもって彼女の仕事を遂行するあたらしい勇氣と力を得るであろう。いま彼女はその仕事の価値を知った。父親が減び去らなければならないものを扱っていた間、母親は成長する心と品性を扱い、この世のためだけでなく、永遠のために働いていたのである。6

**神が彼女の仕事を定めになった**

母親ひとりひとりが、自分のつとめと責任がどんなに重要なものであるか、また忠実にそれを行なうときにその報いがどんなに大きいものであるかを認めるこ

とができたら、どんなによいことであろう。7

彼女の道に直接横たわっている仕事を快活に果たす母親は、神が彼女になすべき仕事をお与えになったから人生は自分にとって尊いものである、と感じる。この仕事をするときに、彼女は必ずしも頭脳をい縮させ、知性を弱める必要はない。8

子供を主の薫陶と訓戒とによつて育てる母親の仕事は主がお与えになったものである。子供たちのやわらかい心には神に対する愛と恐れをいつも示さなければならぬ。まちがいを正されたとき、彼らは神にいましめられたと感じ、また、神はうそや不誠実や悪行をお怒りになるとさとするように教えなければならぬ。こうして幼い者たちのなすこと、語ることにすべてが、神の栄光と関連してなされるとき、彼らの心は神に結びつけられる。のちになって彼らは風に吹かれるあしのように、いつも義務と自己の好みの間で迷うことはない。9

子供たちをイエスに導くことが、要求されているすべてではない。……この子供たちがイエスのでしとなるように、「われらのむすこたちはその若い時、よく育った草木のようです。われらの娘たちは宮の建物のために刻まれたすみの柱のように」に教育し、訓練しなければならぬ。この形成し洗練し磨く仕事は、母親の仕事である。子供の品性をのばさなければならぬ。母親は心の板に永遠に残る教訓をえりつけなければならぬ。彼女がこの神聖な仕事をおろそかにしたり、何物かにそれを妨げられていると、かならず神の怒りに会わなければならない。……クリスチャンである母親は、神が指定された仕事を持っている。彼女が神と密接につながり、聖霊に満たされているならば、それをおろそかにすることは決してない。10

# 母親の偉大で高貴な任務

どの母親にも評価できない価値をもった機会、無限に尊い利益がゆだねられている。女性が退屈だとみなしていた毎日の仕事は偉大で高貴な仕事とみなされなければならない。母親の影響によって世の中を祝福することは、彼女の特権である。そしてそうすることによって彼女は自分自身の心をよるこぼせる。彼女は太陽やかげを通して輝かしい頂点にまで子供たちの足のためにまっすぐな道をつくることができる。しかし母親が天来の模範に従って子供たちの品性を形造ることを期待できるのは、彼女が自らの生活においてキリストの教えに従おうと努力するときだけである。 11

生活のすべての活動の中で、母親の最も神聖なつとめは、子供に対するつとめである。だがある利己的な満足感を追求するために、このつとめが等閑に付されていることがなんと多いことである。両親には子供たちの現世及び永遠の利害が委託されている。彼らは家族をしっかりと治め指導して、神の栄えを表わさなければならない。神の律法が彼らの規準でなければならない。またすべてのことにおいて愛が支配していなければならない。 12

## これ以上偉大で神聖な仕事はない

結婚した男性たちが、家庭で子供たちのめんどろを見るように妻たちを残して、外へ仕事に出ていくならば、妻であり母親である彼女たちは、夫であり父親である彼らと同じように偉大で重要な仕事をしているのである。前者は伝道地に働いていても、後者は家庭の伝道者である。彼女の心労や心配や重荷は、夫であり父親である人のそれよりも多い場合がよくある。彼女の働きは厳粛で重要である。……だれにもはつきり見える伝道地で働く夫は、人

人の尊敬をうけるが、家庭で苦勞する者は、その働きに対して地上の名誉を受けないかもしれない。だが彼女が家族の最高の利益のために働き、彼らの品性を天来の模範にならうと形造ろうと努力すれば、記録の天使は、世界で最大の伝道者の一人として彼女の名前を記録する。神は人間の限りのあるまなが見るようには物事をごらんにならない。13

母親は、家族をキリスト教化する神の代理者である。彼女は聖書の宗教の模範を示し、その影響が日常のつとめや娛樂において、どのようにわたしたちを支配すべきであるかを示し、子供たちに神の賜物である信仰を通して、恵みによつてのみ救われ得ることを教えなければならない。キリストがわたしたちや彼らにとつて何であられるか、あがないの計画における彼の愛、彼の慈愛、彼のあわれみについて絶えず教えるとき、それは心にきよい、神聖な印象を与える。14

子供の教育は、キリスト教の力を例示するための神の計画の重要な部分を構成している。子供たちが世の中に出ていったとき、交わる人々に悪をなさずに善をなすように彼らを教育する厳肅な責任が親に負わされている。15

### 牧師の同勞者

牧師には牧師の働きの分野があり、母親には母親の働きの分野がある。彼女は子供たちがイエスから祝福を受けるように、彼らをイエスに導かなければならない。彼女はキリストのことばを尊び、子供たちにそれを教えなければならない。赤ん坊の時から彼らに自己をおさえ、克己し、清潔整頓の習慣をつけるように訓練しなければならない。母親は、子供たちが開いた、やわらかい心をもって神のしもべのことばを聞くために来るように、彼らを育てることができ。主



は、家庭生活のあらゆる分野において神から与えられた才能を向上させ、子供たちを天の家族となるにふさわしい者に育てる母親たちを必要としておられる。

みことばを教える人よりも、忠実な家庭の働きのほうが主に多くの奉仕をしている。父親と母親は、学校の教師たちと同様に、自分も子供たちの教育者であると感じなければならぬ。16

クリスチャンである母親の有用さの範囲は、彼女の家庭生活にとどめてはならない。彼女は家庭の中に及ぼす有益な影響を近所や神の教会に広く感じさせることができるし、またそうするのである。17

### 母親は生涯の仕事を持っている

女性はその彼女の仕事の神聖さを認め、神の力と神に対する恐れをもつて、彼女の生涯の仕事に従事しなければならない。子供たちをこの世で役に立つ者、またよりよい世界にふさわしい者となるように教育しなければならない。わたしはクリスチャンである母親に申しあげる。あなたがたが母親としてのあなたがたの責任を感じ、自分を喜ばせるためではなく、神をあがめるために生活するように訴えたい。キリストはご自分をよるこばせず、しもべの姿をとられた。18

世の中は堕落した影響が充満している。流行や習慣が青年たちに強い力を与えている。母親が教育し、指導し、抑制する義務を怠れば、子供たちは当然悪を受け入れて善から離れる。どの母親も、「子供をどのようにさしずし彼に何をすべきでしょうか」という祈りをもって救い主のもとにたびたび行かなければならない。神が聖書の中に与えておられる指示を心に留めなければならぬ。そ

うすれば必要がある時に知恵が与えられる。 19

### 神のかたちを刻む

天には神がおられ、そのみ座から出る光と栄光は子供が悪の力に抵抗できるようにと教育に努力している忠実な母親の上にくだる。これほど重要な働きはほかにない。母親は画家が画布の上に美しい肖像をえがき、彫刻家が大理石を刻むのと違う。また著述家が力強いことばでりっぱな思想を表現したり、音楽家が美しい感情をメロディーに表現したりするのも異なり、神の助けによって人の心の中に神の姿を育てるのが母親の仕事である。

このことを理解している母親は与えられた好機をこの上もない尊いものと考えよう。そして自分自身の品性と教育法によって、その子供に最高の理想を示そうと熱心に努力する。子供の教育にあたって力を最高度にまた正しく発揮できるように、熱心、忍耐、勇気をもって自分の才能の向上に努力する。ことごとく「神はどう言われたか」を真剣に尋ね、勤勉に神のことばを学び、いやしい仕事や義務を繰り返していく間に、日常の経験が唯一の真の生命であるキリストをほんとうに反映することができるように、キリストを注視していくのである。 20

### 忠実な母親は不朽の名誉のふみに記載される

自己否定と十字架がわたしたちの受けるべき分である。わたしたちはそれを受け入れるであろうか。最後の患難がわたしたちを襲うときに、自己犠牲と愛国的精神は必要だからそのときにただちに生じるとはだれも期待することはできない。いや、それどころか、この精神はわたしたちの日常生活にとけ込んでいなければならない。また教えと模

範の両方を通してわたしたちの子供の精神と心に吹き込まなければならない。イスラエルの母親たちは自分自身兵士でないかもしれないが、武具を身にまとうて主の戦いで雄々しく戦う兵士を育てることができる。<sup>21</sup>

母親がたよ、あなたがたの子供たちの運命の大部分はあなたがたの手中ににぎられている。もしあなたがたが義務を怠れば、あなたがたは子供たちを敵の隊列の中におき、魂を滅ぼす敵の器にすることになる。しかし敬虔な模範と忠実な訓練によって、あなたがたは子供たちをキリストに導き多くの魂を救う、主の手の中の器とすることができる。<sup>22</sup>

クリスチャンである母親の仕事は、神にあつて忠実に行なわれれば、不朽の名誉が与えられる。流行を追い求める人たちは、クリスチャンである母親の仕事の不滅な美を認めたり理解することは決してない。そして彼女の旧式な考えや、平凡で飾りのない衣服を軽蔑する。一方天の主はその忠実な母親の名前を不朽の名誉のふみに書き込まれる。<sup>23</sup>

**時は貴重である** モーセの全後生涯、イスラエルの指導者として彼が遂行した偉大な仕事は、クリスチャンである母親の仕事の重要性をあかししている。母親の仕事に匹敵できる仕事はほかにない。……両親は子供たちがクリスチャンになるように、彼らの教育と訓練をごく幼い時から、その目的に向かってなさなければならぬ。子供たちは、地上国家の王位をつぐ者としてでなく、永遠の時代を通じて支配する神の王者として訓練されるように、わたしたちの保護の下におかれたのである。

母親はひとりひとり、彼女の時が貴重であることを感じなければならぬ。彼女の仕事は厳粛な決算の日に試験される。その時に、男女の失敗や犯罪の多くが、彼らの幼い足を正しい道に導く責任を持った者の無知と怠慢から生じたものであることが知られる。その時に、才能と真理と聖潔の光で世を祝福した多くの者が、彼らの影響と成功の源泉であつた原則を敬虔なクリスチャンの母親に負っていることが見いだされる。

24

1、C T B・七七ページ  
2、P H J・一八九〇年六月  
3、S・一八九一年三月一六日  
4、C T・一八九一年三月一六日  
5、L・二七二・一九〇三年  
6、S・一八七七年九月一三日  
7、同・一九一〇年一月一日  
8、P H J・一八九〇年六月  
9、G H・一八八一年一月  
10、同・一八八一年一月  
11、P P・五七二ページ  
12、S・一八九一年三月一六日

13、5 T・五九四ページ  
14、R H・一八九一年九月一五日  
15、M S S・四九・一九〇一年  
16、同・三二・一八九九年  
17、P H J・一八九〇年六月  
18、3 T・五六五ページ  
19、P P・五七二・五七三ページ  
20、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三四八ページ  
21、5 T・一三五ページ  
22、S・一八八六年三月一日  
23、同・一八七七年九月一三日  
24、P P・二四四ページ

## 第三十九章

# 母親の感化

**母親の感化は永遠に及ぶ**　母親の立場は目立たないものであろう。しかし、父親の感化と結合した彼女の感化は永遠に続く。善のための母親の力は、神について、地上に知られている最も強い力である。 1

母親の感化は間断なく及ぼされる感化であるから、もしそれがいつも正しいものであれば、彼女の子供たちの品性は、彼女の道徳的な熱意と価値を立証するであらう。彼女のほほえみ、彼女の励ましは、勇気を与える力となる。愛のことは、是認のほほえみによって、彼女は子供の心の中に太陽の光を輝かすことができる。…

母親の感化が真理のため、善のためであり彼女が天来の知恵に導かれているとき、その生涯はキリストのためになんという力となることであらう！彼女の感化は現世から永遠にまで達する。母親の表情やことばや行為が永遠において実を結ぶということ、おおぜいの者の救いまたは破滅は彼女の感化の結果であるということとはなんと厳肅なことであらう。 2

母親は、子供を正しく訓練するとき彼女の与える感化が、大きな力をもってこの人生の変動を

通して将来にまで、永遠の生活にまで及ぶことをほとんど認めていない。天の模範にならって品性を形造るには、多くの忠実な、熱心な、忍耐強い努力が必要である。しかしそうするだけの価値がある。なぜなら、神は魂を導くための正しい努力をすべて報いたもうおかたであるからである。3

#### 子供は母親に似る

地上でもっとも愛情のこまやかな関係は、母親と子供の間である。母親と子供の関係は父親と子供の間よりも強くこまやかであるから、子供は父親よりも母親の生活と模範から印象を受けやすい。4

母親の思いや感情は、彼女が子供に与える精神的な遺産に強い影響を与える。もし彼女が自分の感情だけを主張し、利己的な精神におぼれ、気むずかしくて苛酷(かこく)であつたなら、彼女の子供の気質がそれを証明する。多くの者はこうしてほとんど直すことのできない悪の傾向を生まれながら持つのである。魂の敵はこのことを多くの両親たちよりもよく理解している。彼は、もし母親が自分に抵抗しなければ、彼女を通して彼女の子供に影響を及ぼすことを知って、母親に誘惑を与えて苦しめる。母親の唯一の希望は神にある。彼女は力と恵みを受けるために神にのがれて行くことができる。彼女は求めれば必ず与えられる。5

クリスチャンである母親は、子供をとり囲む危険を見わけるために、いつも目をはつきり見開いている。彼女は自己の魂を純潔できよいふんい気の中に保つ。彼女は彼女の気分や主義を神のみことばで律し、たえず彼女をおそうつまらない誘惑を超越して、彼女の義務を忠実に遂行する。6

## 忍耐深い母親の健全な影響

困っているひとりの子供が、それからまた別の子供が一日のうちに、お母さん、お母さん、お母さんと叫ぶ声が幾度となく聞かれる。その叫び声にこたえて、母親はその子供たちの要求に応じるためにあちらこちらと行かなければならない。ひとりの子供は困っている、その悩みを解決するために母親の賢い頭を必要としている。他の子供は彼の考案したものに非常に満足を感じて、母親も自分と同じようによるこぶと思つて、どうしてもそれを母親に見せたいと思つてゐる。一ことのほめことばが子供の心に幾時間も太陽の光を輝かす。母親は彼女のいとしい子供たちの間であちらこちらにたくさん光とよるこぶの尊い光線を輝かすことができる。彼女は、彼女の存在が子供たちにとって世界で一番明るい所となるほどにこのかわいい子供たちを自分の心にしっかりと結びつけることができる。

だが母親の忍耐力が、注目に値しないように見えるこうした数限りない小さな試練で悩まされることが非常に多い。いたずらな手や落ち着きのない足が、たくさん仕事と困難を母親のために造り出す。彼女が自制のたづなをしつかりしめなければ、いらいらしたことが口から飛び出す。彼女は幾度か我を忘れることがあるが、あわれみ深いあがない主へささげる黙祷が彼女の神経を静めるので、彼女は落ち着いた威厳をもって自己を制する力を与えられる。彼女はおだやかな声で話すが、あらあらしいことばを押え、怒った気分を静めるために彼女は努力を払わなければならなかった。もしそのままそういうことばを出したり気分を表わしたなら、彼女の影響は台なしとなり、それを回復するために時間がかかったことであろう。

子供たちの心は敏感であるから、忍耐強い、やさしい口調と、彼らの心の愛と愛情の露を枯渇さ

せてしまう気短な、激しい命令の違いを察知する。真のクリスチャンである母親には、気短なために、また同情深い愛情がないために子供たちが彼女の前から逃げ去るということはない。7

### 心と品性を形造る

責任は特に母親にあるのであって、母親は生命の血液によって子供を養い、その肉体を築くばかりでなく、その子供の精神や品性を形成する知的、霊的感化を与える。イスラエルの救済者モーセを生み、「王の命令をも恐れなかった」のは、強い信仰をもったヘブル人の母ヨケベデであった（ヘブル一ノ二三）。また神から教育された子供であり、高潔なさばき人であり、イスラエルの聖なる学校の創始者であったサムエルを生んだのは、祈りと自己犠牲の人、神の靈感を受けた婦人ハンナであった。救い主の先駆者ヨハネの母となったのは、ナザレのマリヤの親族で彼女と同じ精神をもった婦人エリサベツであった。8

### 世界が母親に負っているもの

神の日は、この世界が、真理と改革を断固として主唱した人々勇敢に、大胆に事をなした人々、誘惑や試練の中にあっても動揺しなかった人々、世的な名誉、あるいは生命そのものよりも、真理の高いきよい利益と神の栄光を選んだ人々に対して、敬虔な母親たちにどれだけのものを負っているかを明らかにする。9

母親がたよ、あなたがたの感化と模範があなたがたの子供たちの品性と運命に影響を与えていることに目ざめなさい。そしてあなたがたの責任を考えて、真実と善と美だけを反映する、均整のとれた心と純潔な品性をつちかいなさい。10



## 第 10 部 母 家庭の女王

6、	5、	4、	3、	2、	1、
L・	S・	2 T・	G H・	S・	G H・
六九・	一九一〇	五三六	一八八	一八九一	一八八〇
一八九六	年九月一	ペー	年七月	年三月一	年三月
年	三日	ジ		六日	

7、S・一八七七年九月一三日  
8、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三四二、三四三  
ページ  
9、S・一九一〇年一〇月一日  
10、同・一八八六年九月九日

## 第四章

## 母親の仕事についての誤った考え

母親は彼女の仕事がつまらないものと考えるように誘惑される

母親にとって自分の奉仕がつま

らないもののように思われることがよくある。それはめったに理解されない仕事である。他人は母親がもっている多くの心配事や重荷をほとんど知らない。彼女の毎日はきまりきった小さな務めで占められているが、そのどれをなすにも忍耐強い努力、自制、こつ、知恵、自己犠牲的愛がなければできない。それにもかかわらず、彼女は何か大きな仕事をなし遂げたと自慢することができないのである。彼女は家庭内のものごとがなめらかに動くようにしただけであつた。彼女は疲労し困惑することが多いながらも、子供たちにやさしく話し、彼らに何かすることを与え、楽しくさせ、彼らの小さい足を正しい道に導こうと努力した。彼女は何も完成しなかったように感じるがそうではない。天の使いたちは悩み疲れた母親を見守り、彼女が毎日負っている重荷を心に留める。彼女の名前は世には知られないであろうが、小羊の命のふみにしるされている。 1

真の妻であり母親である人は……彼女の務めを威厳をもって快活になす。そしてよく整頓された家庭でしなければならないことはどんなことでも自分の手であることをいやしい事と思わない。 2

伝道の働きより劣るとみなされる

なんと重要な仕事であろう！それにもかかわらず、母親たちが海外伝道の働きをしたいとため息をもらすのを聞く！彼らは外国に行けさえすれば、何か価値のあることをしていると感じるのである。しかし家庭生活の毎日のつとめを手がけてするとは、彼らには体の疲れる割の悪い仕事に見えるのである。3

伝道地に行きたいとため息をつく母親たちは、彼女ら自身の家庭の中に、手のとどく所に伝道地を持っている。

彼女らの子供たちの魂は、異教徒たちの魂と同じ価値があるのではないであろうか。彼女は大きな注意と愛情をもって子供たちの成長する心を見守り、彼らのすべての思いを神に結びつけなければならぬ。だれが愛情深い、神を恐れる母親のようにこの仕事をよくすることができるであろうか。4

実際の宗教活動に直接関係しなければ、神のみこころを行なっているのではないと考える人々があるが、これは誤りである。どの人にも主のためになすべき仕事がある。家庭を居心地のよいところにし、家庭をきちんと整えておくことはすばらしいことである。最も少ないタレントでも、それを持っている人の心が神にささげられているならば、それで家庭を神が望んでおられる通りのものにすることができる。神に心のすべてを尽くして奉仕するとき、明るい光が輝く。男子も女子も、彼らの聞いたことを真剣に心にとめ、神を怒らすことを恐れて生活するように子供たちを教育することによって、講壇の上の牧師と同じように確かに神に仕えることができる。5

彼らの手が見いだすことは何でも積極的によるこんでする女性、明るい精神で重荷を負う夫を助

け、子供たちを神のために教育する女性、こういう女性は最高の意味において伝道師である。 6

### 宗教活動が家政にとって代わってはならない

あなたが妻または母親としてのつとめを無視して、

他の種類の仕事を与えてくださるようにと主に手をのばしても、主は決して矛盾したことはされないことは確かである。主はあなたが家庭でしなければならいつとめを示される。もしあなたがこれよりもっと偉大でもっとよい仕事が行なわれていると思うなら、あなたは欺かれているのである。家庭であなただけに最も近い者たちの魂のために忠実に働くことによつて、あなたはもっと広い伝道地でキリストのために働く資格を身につけることができる。家庭における自分のつとめをおるそかにしている人は、他人の魂のために働く準備ができていないことは確かである。 7

主はあなたが家庭や夫や子供たちをおるそかにするように召されたのではない。主は決してこのように働かれないし、将来においてもそういうことはされない。∴あなたがあなたのたいせつな小さな群れから離れなければならないような仕事を神がお与えになったなどとは、一瞬でも考えるべきではない。子供たちを放任した結果、彼らがよくない交際によつて墮落し、母親に対して強情になるようなことのないようにしなければならぬ。これでは、あなたの光を全く誤った方向に照らすことになる。あなたは子供たちが神の望んでおられるような人物となり、最後に天国にはいることを困難にしている。神は彼らを心にかけておられる。もしあなたが神の子であることを主張するならば、あなたもそうしなければならぬ。 8

子供の出生後の数年間は、働き、見守り、祈り、よい傾向を助長すべき時である。この働きは、

途中でやめることなく継続しなければならない。あなたは母親の集いや婦人会の裁縫の集まりに出るように強く勧められるであろうが、子供たちのそばに忠実な、理解のある指導者をおいていくことができないかぎり、あなたは、決しておろそかにすることができない別の仕事を主が自分におまかせになっていると答える義務がある。あなたがほかの方面で働きすぎれば、必ず、子供たちを神が望んでおられるような者に教育する資格を失うようになる。キリストの同労者として、あなたはしつけされ訓練された子供たちをキリストのもとに連れてこなければならぬ。9

正しくしつけられなかった子供の品性の欠陥の大部分は母親のせいである。母親は子供をおろそかにしなければならぬほど教会の仕事をたくさん引き受けてはならない。母親ができる最善の仕事は、子供の教育において手ぬかりがないかどうかを見とけることである。...

指導としつけを母親に仰いでいる子供たちのために時間をささげる以上に、母親が教会を助けることのできる方法はない。10

**もっと広い伝道地を望むことはむだである**

ある母親たちは、彼女たちの道に直接横たわっている最も小さな義務を怠りながら、海外伝道の働きをしたいと切望している。子供たちは放任され、家庭は家族のための楽しい幸福な場所にされていない。叱責やぐちが絶えず聞かれ、若い者たちは、家庭は世界で最もつまらない所だということを感しながら成長する。その結果、彼らは家庭を離れる時をいらしなげ待ち、家庭の影響と炉辺のやさしい忠告に抑制されずに広い世界へ何のちゅうちょもなく出て行く。

若い者の心を自分に結びつけ、彼らを正しく導くことが親の目標であるべきなのに、神のお与えになった機会をむだにする親たちは、彼らの生涯で最もたいせつな義務に対して盲目なのであり、広い伝道地における働きをいたずらに望んでいるだけである。

11

1、C T・一四四ページ  
2、S・一八八六年九月九日  
3、R H・一九〇一年七月九日  
4、M S S・四三・一九〇〇年  
5、M S S・三二・一八九九年  
6、2 T・四六六ページ

7、R H・一八九一年九月十五日  
8、L・二八・一八九〇年  
9、M S S・三二・一八九九年  
10、M S S・七五・一九〇一年  
11、H R・一八七六年一〇月

## 第四章

### 不完全な母親の型

#### 想像上の犠牲者

家庭の主婦が、言っても役に立たないぐちをこぼすために、不幸にされている家庭が多い。彼女は、目立たない家庭生活の平凡な、ありふれた仕事をきらってそれをしない。彼女は、彼女の立場に伴う心労や務めを苦勞とみなすので、ほがらかな気持ちですれば、愉快で興味深いものになることができるだけでなく、有益なものにすることのできる仕事、そのために最もつまらない骨折り仕事となる。彼女は生活の奴隸のような自分の状態を見て自分を犠牲者と考える。

家庭という機械の車がかならずしもなめらかに動かないことは確かである。忍耐力がためされ、つらいことがたくさんある。母親たちは、彼女たちが支配できない環境に対して責任はないながらも、母親の生涯の働きにおいて環境が大いに影響することは、否定できない。しかし彼女たちが環境に支配されて主義をまげたりしてその高貴な責任にうみ疲れて不忠実になったり、自覚している務めを怠ったりするときに、罪に定められる。

他の人々が耐え抜く忍耐力と勇気が足りないためにまける困難に雄々しく勝利する妻であり母親である人は、彼女の義務を履行することによって強くなるだけではない。誘惑や障害に勝利するそ

の経験は、彼女をことばと模範の両方によって他人を助ける有能な助け手とする。よい環境にあるときにりっぱにやる多くの人々が、逆境や試練の中にあるとき、品性が変化するように見える。彼らは彼らの困難に比例して墮落する。神は私たちが環境に左右されるようには決して意図されなかった。<sup>1</sup>

**罪深い不満を育てる** 非常に多くの夫や子供たちが、家庭に何の魅力も見いだせず、いつもどことや不満で迎えられるので、家庭の外で、酒場や禁じられている快樂の場で慰安や楽しみを求める。家庭の心配事でいっぱいになっている妻であり母親である人は、たとえば彼女の特別な心配事やなやみを夫や子供たちの前でよくよと思案することを避けても家庭を楽しくする小さな礼儀に心をくばらなくなることがきわめて多い。彼女が食べ物や着るものを準備することに一生けんめいになっている間に、夫や子供たちは他人のように家を出入りする。

家庭の主婦は、彼女の外部的なつとめをきちんと果たしながらも、彼女が運命づけられている奴隷状態の非を絶えずならし、自分が望んでいるより高い女性の生活と、自分の運命を比較し、彼女の責任と制限を大げさに誇張するかもしれない。∴彼女はこうして違った生活をむだに求め、罪深い不満をいただき、夫と子供にとって家庭を非常に不愉快なところとする。<sup>2</sup>

**世の愚かなことに心をとられる** サタンは子供たちと同様に親のためにも人をひきつける楽しい物を用意している。彼は、もし母親たちに自分のぎまみの力を働かせることができるなら相当の



勝利だということを知っている。世のならわしはぎまんときと悲惨で満ちているが、魅力的に見えるようにされている。だから、もし子供や青年たちが注意深く訓練されていなければ、必ず道からそれるだろう。しっかりした主義を持たない彼らにとって、誘惑に抵抗することはむずかしいことである。3

**不必要な重荷を負う** 多くの母親たちは、全く不必要な事をするために時間を費やしている。彼女たちは世俗的な、感覚的なものに全力を傾注し、立ち止まって永遠の利益に関する事を考えることをしない。なんと多くの母親たちが子供をおろそかにしていることだろう。そしてなんと多くの子供たちが粗野で、乱暴で、しつけされないままに成長していることだろう！4

親が、特に母親たちが、神からまかされた重要な、責任のある仕事に対して正しい観念を持つとき、自分にかかわりのない、隣人の事のために忙しくなることはない。彼女たちは家を戸ごとに訪問して、隣人の欠点や誤ちや矛盾についてくどくど話し、社交界のうわさ話にふけることはない。彼女たちは自分の子供の養育に対して大きな重荷を感じるため、隣人を非難する時間を見つけることができない。5

女性が力と慰めを神に求め、神に対する恐れをもって彼女の日常の務めを行なうならば、夫の尊敬をかし得、子供たちが正しいことを行なう道徳的力を持つりっぱな男女に成長するのを見るであろう。しかし現在の機会をおろそかにし、彼女たちの義務と重荷を他人に負わせる母親たちは、その責任がやはり自分のものであることを見いだす。そして不注意と怠慢の中でまいたものを、後悔

とともに刈り取る。この人生には偶然の結集というものはない。収穫はまいた種の性質によってき  
まる。 6

1、 S・一八七七年一月二九日  
2、 同・一八七七年二月二九日  
3、 R H・一八九九年六月二七日

4、 S・一八八九年七月二二日  
5、 2 T・四六六ページ  
6、 S・一九一一年四月四日

## 第四二章

### 母親の健康と外観

母親の健康をいたわらなければならない

母親の体力はやさしくいたわり、その貴重な体力をひどい労働に費やすことなく、心労や重荷を軽くしなければならない。夫であり父である人は、往々、生理的法則を知らないが、家庭の幸福のためにはそれを理解する必要がある。生計をたてるのに夢中になり、あるいは財産を作るのに必死になって、仕事や思いわずらいに心を奪われた夫は、妻であり母親である者に重荷を負わせ、最も危険なときに体力に無理なことをさせ、虚弱、病気を招くのである。 1

母親が、不必要な重荷をいつさい避け、神が彼女にお与えになった生命、健康、力を維持するために、彼女が自由にできるあらゆる手段を利用することは、彼女自身また彼女の家族の利益にもなる。なぜなら、母親は彼女の重要な仕事を果たすために、全機能の力が必要だからである。母親は屋内の仕事を明朗に、徹底的になし、家庭の光と祝福になれるように、元気をつけるために、彼女の時間の一部を、戸外で体の運動をするためにあてなければならない。 2

母親たちは健康改革の擁護者でなければならぬ。すべての母親たちに、神のみこころが明らかに示されている。神は、母親たちがことばと模範を通して健康改革の擁護者となることを望んでおられる。彼女たちは原則にしっかりと立ち、神が彼らのからだの中に植えられた身体の法則を、どんな場合でも犯してはならない。堅固な誠実さをもって、「目的を固く守る」とき、母親たちは彼ら自身の正しい道と彼らの子供たちの高貴な品性を通して世に光を輝かすための道徳的力と恵みを天から与えられる。 3

**食事において自制する** 母親は最も完全な自制をする必要がある。そうするためには、からだや精神の不調を起こさぬように、あらゆる点で用心しなければならない。彼女の生活は、神の律法と健康の法則に従って統制されなければならない。食事は直接精神や性格に影響を与えるから、この点で特に注意をして、神経が平静で気分が落ち着いているように、刺激を与えない、栄養のあるものをとらなければならない。そうするとき、子供のいろいろの傾向を取り扱ったり、しっかりと、だが愛情をこめて支配したりするのにやさしく忍耐を働かせることができるようになる。 4

**どんな状態の下にあっても太陽を輝かせる** 母親は気分が沈んでいるときは、自分の神経や心を抑制するように努力しなければならない。病気のときでも、自分を訓練すれば、気持ちよく明るくしていることができ、以前にはとうてい耐えられないと思っていた騒音に耐えることができるようになる。子供たちに自分の病気を感じかせたり、自分のゆううつな気分で子供たちの心を暗くし、

家庭を墓地のようなところ、母親のへやは世界で最もいやな所だと感じさせてはならない。精神と神経は意志を働かせるとき調子づく。意志の力が神経を静める有力な力であることが立証される場合がたくさんある。子供たちにあなたの曇ったひたいを見せないようにしなさい。5

夫と子供たちの評価を心にとめなさい

姉妹がたが仕事をしているときに、自分を畑のからすを

おどすかかしくに見せるような衣服を着るべきではない。彼女たちがよく似合う、からだに合った衣服を身につけることは、単なる訪問者や他人よりも、夫や子供たちに満足を感じさせる。妻であり母親である人々は、仕事をしているとき、夫や子供たちしか見ていないときは、どんな様子をしていてもかまわないと思っているようである。それなのに彼らに対してなんの関係もない人々の見ている時には、趣味のよい衣服を身につけることについて非常にやかましい。他人や普通の友人よりも、夫と子供たちの評価と愛情の方がもっと重んじられるべきではないだろうか。妻であり母親である人々すべてにとって、夫や子供たちの幸福が、他のどの人の幸福よりも、もっとたいせつでなければならぬ。6

あなたに似合う衣服を着なさい。それはあなたに対する子供たちの尊敬を増す。子供たちが彼らに合ったものを着ているかどうかも見とどけなければならない。子供たちがだらしない習慣に陥ることをゆるしてはならない。7

世評の奴隷となるべきではない

母親たちが、他人が自分の習慣や衣服や考えをどう思うか、と

いうことに対して、病的な神経質さを示すことが非常に多い。また、相当の程度まで、他人が自分をどう思っているか、という考えの奴隷となっている。さばきを受けなくてはならない人間が、神に対する義務についてよりも、隣人が自分をどう思うかという考えに支配されることは、何と悲しいことであろう。私たちはちよう笑を避けようとして、慣習に一致するために真理を犠牲にすることが多すぎる。……

母親は、この世と来世のために子供たちを訓練しなければならぬから、意見の奴隷になつてゐることはできない。母親たちは、衣服に不必要な飾りをつけて、それを見せびらかしてはならない。8

#### みなりをきちんとして清潔を教える

母親たちが家でだらしない服装をすれば、子供たちと同じようにだらしないやり方をするように教えることになる。多くの母親たちは、家庭着ならどんなに汚れていても、みすばらしくてもかまわないと思つてゐる。だが、彼女たちは家庭での影響力をすぐに失つてしまふ。子供たちは、彼らの母親の服装ときちんとした服装をしている人と比較する。そして母親に対する尊敬の念が薄れる。

母親がたよ、手のこんだ飾りによつてでなく、清潔でよく似合う服装をすることによつて、自分ができるだけ魅力的に見せなさい。そうすれば子供たちに、いつもみだしなみを良くすることと清潔にすることを教えることになる。子供たちの愛と尊敬は、どの母親にとつても、最も尊い、価値のあるものでなければならぬ。母親の身にまといつてゐるものは、すべて子供に清潔とみだしなみのよさを教え、彼らの心に純潔を連想させるものでなければならぬ。ごく幼い子供の考えの中に

でも、調和に対する感覚、物事のふさわしさに対する観念がある。彼らの目が毎日汚れた衣服や乱雑なへやを見ているとき、どうして彼らに清潔と純潔を好む気持ちを印象づけることができるだろうか。その住居が、清らかで聖潔である天の訪問者たちをどうしてそういう家に招待することができるだろうか。9

秩序と清潔は天の法則である。天の制度に一致するために、清潔で上品にすることは、あなたの義務である。10

1、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三四五ページ  
2、P H J・一八九〇年六月  
3、G H・一八八〇年二月  
4、P H J・一八九〇年五月  
5、1 T・三八七ページ

6、1 T・四六四、四六五ページ  
7、L・四七A・一九〇二年  
8、R H・一八九一年三月三日  
9、C T B・一四三、一四四ページ  
10、4 T・一四二、一四三ページ

## 第四三章

# 妊 娠 中 の 影 響

女性 は 母 親 に な る に ふ さ わ し い 者 と な ら な け れ ば な ら な い      女 性 は 強 い 忍 耐 力 が な け れ ば 母 親 に な る 資 格 が な い 。 神 は 、 女 性 が 母 親 の つ と め を す る の に ふ さ わ し い 者 と な る よ う に 定 め ら れ た 。 母 親 の 仕 事 は 、 キ リ ス ト と つ な が る こ と に よ っ て 永 遠 の も の と な る 。 そ れ は 理 解 を 越 え た こ と で あ る 。 女 性 の つ と め は 神 聖 で あ る 。 母 親 の 愛 の 奉 仕 が 家 庭 を ベ テ ル に 形 づ く る こ と が で き る よ う に 、 イ エ ス に 家 庭 の 中 に い て い た だ か な け れ ば な ら な い 。 夫 と 妻 は 協 力 す る 必 要 が あ る 。 す べ て の 母 親 が 神 の 祭 壇 に 自 己 を さ さ げ 、 子 供 た ち を 誕 生 の 前 か ら 、 ま た 誕 生 後 に も 神 に さ さ げ る な ら ば 、 こ の 世 界 は な ん と す ば ら し い 所 と な る こ と で あ ろ う ! 1

大 事 な 妊 娠 中 の 影 響      妊 娠 中 の 影 響 が 及 ぼ す 結 果 に つ い て 小 さ い 問 題 の よ う に 考 え て い る 親 が 多 い が 、 神 は そ う み て は お ら れ な い 。 神 の 使 い に よ っ て そ の 使 命 が 送 ら れ て き て お り 、 し か も 厳 粛 な 態 度 で 二 度 ま で そ れ が 与 え ら れ た こ と は 、 こ れ が 最 も 注 意 深 く 考 え る 価 値 の あ る 問 題 で あ る こ と を 示 し て い る 。



ヘブルの母親に語られたことばを通して、神は各時代のすべての母親に言われているのである。

「あなたは気をつけて……わたしが彼女に命じたことは皆、守らせなければなりません」と天使は言った（士師記一三ノ四、一四）。子供の幸福は母親の習慣に左右される。母親の食欲や情欲は原則によって支配されなければならない。子供を授けられる神の目的を果たそうとするとき、避けなければならないこと、抵抗しなければならないことがある。2

社会には青年のゆくてを誤らせるわながいっぱいある。多くの人々は利己的、肉欲的な快楽の生活に心をひかれ、幸福と見える道に隠されている危険や恐ろしい結果を見抜くことができない。食欲と情欲におぼれて精力を浪費し、幾百万の人がこの世で破滅し、来世の滅びを招いている。両親はその子供がこうした誘惑に遭遇しなければならないことを覚えておくべきである。子供が悪に対する戦いにりっぱに勝てるように、生まれ出る前からその準備を始めなければならない。3

もし妊娠中に婦人が放縱、利己主義、短気、苛酷（かこく）であれば、その性質は子供の性格に反映し、多くの子供がほとんど打ち勝つことのできない悪い性癖を遺伝として受けるに至る。

しかし母親が堅く原則を守り、節制し、克己し、親切でやさしく、無我の精神をもっているなら、子供にもまた同じ尊い性質を与えることができる。4

**親が注意しなければならないこと**

妊娠中の女性の生活が以前と少しも変わらないことは誤りであるが、一般にこの誤りが犯されている。このたいせつな時期には、母親の労働を軽くしなければならない。母親のからだの中で大きな変化が行なわれていて、そのためにより多くの血液が必要で

あるから、血液に変えるための栄養のある食物を余分にとらなければならない。栄養のある食べ物  
が十分になれば、母親は体力を維持することができない。また生まれる子供も力を奪われる。母  
親の衣服にも注意を払わなければならない。寒さを感じることに、必要に力を皮膚に送るようであつて  
心を用いなければならない。あたたかな衣服がないために、不必要に力を皮膚に送るようであつて  
はならない。母親が健康的な、栄養のある食物を十分得られなければ、血液の量も質も低下して、  
血液の循環が悪くなる。子供も母親と同じものが不足する。子供は、からだの組織に栄養を与える  
よい血液に変えることのできる食物を利用する能力を失う。母親と子供の幸福の大部分はあたたか  
い、良い衣服と栄養のある食物にかかっている。5

母親の環境を快的な、幸福なものにするために、万全の注意を払わなければならない。夫であり  
父親である人は、妻であり母親である人の重荷を軽くするために、全力を尽くさなければならない  
特別な責任がある。彼は彼女の状態の重荷をできるだけ負わねばならない。彼はやさしく、礼儀正  
しく、親切で、愛情深く、彼女のすべての必要に対して特に注意深くなければならない。妊娠中の  
女性で、家畜小屋の動物の半分もめんどろを見てもらっていない人々がいる。6

### 食欲だけが安全な指針ではない

特別な状態にあるという理由で、女性は食欲をほしいままにし  
てよいという考えは、健全な理性ではなく習慣を土台とした誤りである。こういう状態にあるとき  
の女性の食欲は変化しやすく、衝動的で、満足させることがむずかしい。習慣は、その食物が彼女  
のからだに子供の成長のための栄養を補給できるかどうかを理性的に考えず、どんなものでも彼女

が食べることを許す。食物は栄養があっても、興奮させるものであってはならない。……食事を單純にし、どんな食物を食べるかについて特別に注意しなければならないときがあるとすれば、それはこのたいせつな時期である。

主義をもち、よく教育された女性は、こういう時期にこそ單純な食事をやめるようなことはしない。彼女たちはもう一つの生命が自分に依存していることを考えて、すべての習慣に注意し、特に食物に心を用いる。おいしいからというだけで、栄養のない、刺激性のものを食べることをしてない。理性がしてはならないと告げることを、するようにと勧める人が多くすぎる。親が食欲を満足させるために、病氣の子供が生まれる。……

食物をたくさん胃に送るために、消化器がそれを消化し、器官から刺激的なものを除くために過重な働きをしなければならないなら、母親は自分自身に害を与え、子供のために病氣の土台を作ることになる。彼女が結果にかかわりなく自分がよいと考えたもの、自分の好きなものを食べるならば、その罰を受けなければならない。しかし彼女ひとりがそれを受けない。罪のない子供までが、彼女の無分別のために苦しまなければならないのである。7

**自制と節制が必要である**      どんな場合でも、母親の肉体の必要を無視してはならない。二つの生命が彼女によってささえられていることを考え、その希望をやさしく考慮し、その必要には十分応じなければならぬが、しかしこの場合こそ食事においても、またその他どんなことにおいても、体力や知能の力を減ずることは何よりも先に避けるべきである。神からの直接の命令によって妊婦

は自制力を働かせる最も厳肅な責任を負わされている。8

未来のおとなの中にある正しい品性の基礎は、子供を生む前の母親の厳格な節制の習慣によってしっかりと造られる。……この教訓に対して無関心であってはならない。9

**明るい、満足する性質を助長せよ**

母親になろうとしている女性はみなひとりひとり、環境がどんなものであっても、幸福な、明るい、満足する性質をたえずのばさなければならない。彼女は、この方面における努力が、健康と道徳的品性をもった子供という形で十倍に報いられることを知らなければならない。それだけではない。彼女は習慣によって物事を明るく考えるように自分を慣らし、そのことによって幸福な心の状態をつちかい、その幸福な精神を家族の者や彼女と交わる人々に明るく反映させることができる。また、彼女自身の肉体の健康がこのことによって非常によくなる。生命の源に力が与えられ、血液は、彼女が不きげんでゆううつなときのようによどみがちに流れることはない。彼女の精神と道徳の健康は、快活な精神によって活気づけられる。意志の力は心の印象を打ち消し、神経の偉大なしめ手であることを示す。親から受けつぐはずであった力を奪われた子供は、最高の配慮を受けなければならない。彼らのからだの法則に綿密な注意を払うことによって、ものごとをよりよい状態にすることができる。10

**平和な、信頼深い態度を保つ**

母親になろうとしている人は、自分の魂を神の愛のうちに保たなければならない。彼女の心は平和でなければならない。彼女はキリストのことばを実践し、イエス

の愛のうちに安んじていなければならない。彼女は、母親は神の同労者であることを覚えていなければならない。 11

- 1、M S S・四三・一九〇〇年
- 2、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三四三、三四四
- 3、同・三四二ページ
- 4、同・三四四ページ
- 5、2 T・三八一、三八二ページ
- 6、同・三八三ページ
- 7、同・三八二、三八三ページ
- 8、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三四四ページ
- 9、G H・一八八一年二月
- 10、S A・一二三、一二四ページ
- 11、S・一八九六年四月九日

## 第四章

# 幼い子供の養育

**幼児を育てる母親の正しい態度** 乳児のための最良の食物は自然が供給するものである。これは理由なく子供から奪うべきものではなく、母親が便宜や社交の楽しみのために、小さい乳児に授乳するやさしい役目からのがれようとするのは無情なことである。 1

乳児が母親から栄養を受ける時期は非常に危険な時期である。多くの母親は、子供に母乳を与えているのに、過重な労働をしたり調理をして血液を熱くさせている。そのために乳児は重大な影響を受けている。それは母親の胸から熟せられた栄養を受けるからだけでなく、母親の全組織を熱くぼくして乳児の食物に影響を与える母親の不健康な食物によって、その血液を毒されているからである。乳児は母親のこころの状態からも影響を受ける。もし母親が不幸で、動揺しいらだちやすく、感情を激発させるならば、乳児が母親から受ける栄養は熟せられて、腹痛やひきつけを起こしたり、ときにはけいれんや発作を起こす。

子供の品性もまた、母親から受ける栄養の性質によって多かれ少なかれ影響される。だから母親が子供に乳を与えているときに、自分の精神を完全に制御して、幸福な心の状態を保つことはどん

なたいせつなことであろう。母親がこうするとき、子供の食物はそこなわれない。子供を扱うときに母親の落ち着いた、冷静な態度は、子供のころの形成に深い関係がある。もし幼児が神経質で動揺しやすいならば、母親の注意深い、落ち着いた態度は、それを静め正す影響を与えるから、幼児の健康は相当の程度まで回復する。2

子供の生活が静かで単純であればあるほど肉体と知能の発育もそれだけ効果的である。母親はつねに静かに落ち着いて冷静であるように努めなければならない。3

**食物は配慮の代わりとはならない** 乳幼児はまちがった取り扱いを受けて悪くされている。彼らがぐずくと、静かにさせるためにたいい食べ物を与えられるが、彼らがぐずついた理由は、実は母親のまちがった習慣のために有害になった食物を余分に受けたためである場合が多いのである。彼らの胃がすでにいっぱいになりすぎているから、それ以上食べ物を与えたことは、事態を悪化させただけである。

一般に子供たちは幼い時から食欲をほしきままにするように育てられ、食べるために生きているのだと教えられている。母親は幼少時代の子供の品性の形成に大きな役割を果たす。彼女は彼らに食欲を抑制するように教えることができるし、食欲におぼれて大食漢になるように教えることもできる。母親はよく、一日のうちにこれだけの仕事を仕上げようと計画する。そして子供たちが彼女をわずらわせると、彼らの小さな悲しみを慰めて楽しくさせてやる代わりに、だまらせるために何か食べるものをあてがう。これは一時的には役立つが、結果的には状態を悪くしている。子供のおな

かは、全然必要でなかった食物で圧迫される。必要だったのはちよつとした母親の時間と注意であつたが、母親は彼女の時間を、子供を楽しませるために使うのはあまりにももつたいたくないと考えた。彼女にとって子供の幸福と健康よりも、訪問者に称賛されるように家の中を趣味よく配置したり、食事を当世風に料理することなどのほうがはるかに重要なのであろう。4

**食事は健康的で魅力的でなければならないが、単純なものでなければならない**　食事は、母親がそれを準備するために全時間をとられることのないような単純なものでなければならない。なるほど、彼女は健康的に、魅力的に準備された健全な食物を食卓にのせるように注意しなければならない。食物として格別注意を払わずに、いっしょにして出せるものならどんなものでも子供には十分だと考えてはならない。だが正常でないしこつを満足させるために、食卓に出す不健康な料理を準備するために時間をかけることを少なくして、子供の教育と訓練にもつと時間をかけなければならない。5

**乳児の衣類の準備**　乳児の衣服を準備するときには流行や他人の賞賛を得ようという希望よりも、便利な、気持ちの良い、健康的なものを求めるべきである。母親は小さい衣服を美しくするためにししゅうや装飾に時を費やし、不必要な仕事で疲労し、自分の健康と子供の健康を犠牲にするようなことをしてはいけない。十分に休息をとり、気持ちのよい運動を必要とするときに、目と神経をひどく使う縫物に背中を曲げて、夢中になっていてはならない。母親は自分に要求されることに応



じうるようにその力を大事にする義務を認識すべきである。6

清潔と暖かさと新鮮な空気を確保せよ 乳児は保温を要するが、新鮮な空気の非常に少ない、暖め過ぎたへやに置くことは大まちがいである。……

乳児には身体を弱め、毒する傾向のあるものはすべて近づけぬように守るべきで、周囲にあるものはすべて清潔にしておくために細心の注意を払わなければならない。温度の急変やあまり大きな変化から乳児を保護することはたいせつであるが、寝ているときも起きているときも、昼夜とも新鮮で爽快な空気を呼吸するように注意すべきである。7

病気の子供のめんどう 多くの場合、子供の病気は取り扱いの誤りから起こる。食事の不規則、寒い夜に衣服が不十分であったこと、活発な運動が不足して血液の循環が悪くなり、あるいは血液を清浄にするための空気が不足したなどの理由で病気になることがある。であるから親は病気の原因を見いだすために心を用い、できるだけ早く誤った状態をなおすべきである。

どんな親でも病気の看護、予防、さらに治療について多くのことを学ぶことができる。特に自分の家族の普通一般の病気の場合にすべきことを母親は知っていなければならない。自分の病気の子供を看護する方法を知るべきで、母親の愛と洞察力があれば、彼女は、他人の手にまかせてはあまりよくないこの働きをするのにふさわしい者となる。8

5、 4、 3、 2、 1、  
C S ミ C ミ  
T A ニ D ニ  
B ・ ス ト ・ ス  
・ ト リ ・ ト リ  
一 二 リ ・ ト リ  
四 五 、 オ ・ オ  
一 二 プ ・ ヒ  
ペ 六 ヒ リ  
ー ジ リ ン  
ジ ジ グ ・  
三  
五  
一  
ペ  
ー  
ジ

6、 ミ  
ペ ニ  
ー ス  
ジ ト  
リ  
・  
オ  
ブ  
・  
ヒ  
ー  
リ  
ン  
グ  
・  
三  
五  
一  
、  
三  
五  
二

7、 同  
・  
三  
五  
五  
ペ  
ー  
ジ

8、 同  
・  
三  
五  
五  
ペ  
ー  
ジ

## 第四五章

### 子供を訓練する母親の第一の義務

正しく訓練された子供の可能性

神は幼い子供の中にあるすべての可能性をみておられる。神は正しく訓練されれば、子供はこの世において善のための力となることを認めておられる。神は親がご自分の計画を実行しているか、あるいは誤った親切から子供を現在および永遠の破滅におとし入れて、ご自分の目的を無効にしないかと深い関心をもって見守っておられる。この無力な、見たところつまらない者を世の祝福、神の誉れに変えることは重要な、偉大な仕事である。親は彼らと彼らが子供に対して負っている義務との間に何もものもはいることを許してはならない。 1

神と国家のための働き

神の律法を守る者は、自分の子供たちが彼らの前にある大争闘においてどんな役割を果たすかを考えて、説明できない希望と恐れのみじった気持ちをもって彼らを見る。

母親は心配して、「子供たちはどの立場をとるであろう。子供たちが永遠の栄光を受ける者となるように彼らの役割をりっぱに果たさせるために彼らを準備するのに何をしてやることができるであろう」と尋ねる。母親がたよ、あなたがたに大きな責任が負わされている。……あなたがたは神と

国家のために偉大な働きをすることが出来る。子供が悪をするように動かされたり感化されたりせずに、他人を善を行なうように動かし感化する品性を育てるのを助けることができる。あなたがたは熱心な信仰の祈りによって、世界を動かしておられるおかたの腕を動かすことができる。2

指導は幼少時代や青年時代に与えるべきである。子供たちを役に立つ人に教育しなければならぬ。彼らに家庭生活に必要な事गराをするように教えなければならない。また親は親切な指導と承認のことばで、できるだけそれらのつとめを楽ししいものとしなければならない。3

**多くの者が家庭教育をおろそかにしている**

教育の方法が進歩したことが誇りにされているにもかかわらず、今日の子供の教育は非常に欠点がある。家庭教育がおろそかにされている。両親、特に母親は彼らの責任を認めていない。彼らは、彼らの保護のもとにおかれている子供たちを指導する忍耐力も、支配する知恵ももっていない。4

母親たちが母親としての身分に忠実でなく、彼らのつとめの立場に立っていないことは非常に明白なことである。神は私たちが神の力によってできないことや、私たちの利益と私たちの子供たちの利益にならないことは要求されない。5

**母親は神の助けを求めなければならない**

母親たちが彼女たちの使命の重要性を認めたなら、密室の祈りを多くして、イエスに子供たちをさし出して彼らに祝福を与えてくださるように嘆願し、自分の神聖なつとめを正しく果たすための知恵を求めているはずである。母親たちは、子供の性質

と習慣を形成するあらゆる機会を利用しなければならない。品性の発達を注意深く見守り、目立ちすぎる点を押え、弱い点を助長しなければならない。彼女は自分の生活を、彼女のたいせつな委託物に対する純潔で高貴な模範としなければならない。

母親は勇気と力をもって彼女の仕事に着手し、あらゆる努力において神の助けに絶えず頼らなければならぬ。子供たちの品性がだんだん向上し、彼ら自身の楽しみだけを求めずに、より高い人生の目的を持つのをみるまで安心して休んではならない。6

祈る母親の影響力を評価することは不可能である。彼女はすべての道に神を認める。彼女は子供たちを恵みの座の前に連れていき、イエスにさし出して、彼らに祝福を与えてくださるようにと主に嘆願する。そうした祈りの影響は子供たちにとって、「生命の泉」のようなものである。信仰をもつてささげられたこれらの祈りは、クリスチャンの母親のささえであり力である。子供たちと共に祈るという私たちの業務をおこたえることは、私たちの手のとどこところにある最大の祝福の一つを、私たちの生涯の働きの困難や心配や重荷の中にあつて、最大の助けの一つを失うことである。7

母親の祈りの力はいくら高く評価してもしすぎることはない。幼少時代の変動を通して、また青年時代の危険を通してむすこと娘のそばにひざまずく母親は、さばきの時まで、子供たちの生活に与えた彼女の祈りの影響を知ることはないであろう。もし母親が信仰によって神のみ子とながっているならば、彼女のやさしい手はむすこを誘惑の力から守り、むすめが罪におぼれるのを押えることができる。欲情が支配しようとしているときに、母親の愛の力、抑制する、熱心な、断固とし

た母親の感化が魂を正しい側に落ち着かせることができる。 8

**訪問者がさまたげるとき** 子供たちと一緒に話したり祈ったりする時間をとらなければならない。

また神と子供たちと交わる時間をどんなものによっても妨げられてはならない。訪問者に対して、「神がわたしになすべき仕事をお与えになっているから、わたしはうわさ話をする時間がありません」と言うことができる。あなたは現在と永遠のためになすべき仕事を持っていると感じなければならない。あなたがたの第一の義務は子供たちに対する義務である。 9

訪問者の前に、その他のあらゆる考慮の前に、まず子供がこななければならない。∴あなたが子供の幼少時代に当然しなければならない働きは、いっさい怠慢を許さない。子供の生涯において、この規定が忘れられてよい時代はない。 10

訪問者をもてなすために子供たちを戸外に出さずに、訪問者の前で静粛に礼儀正しくするように教えなさい。 11

**母親は善と高潔の模範でなければならない** 母親がたよ、あなたがたのたいせつな時間に注意な

さい。子供たちがあなたがもはや教育し訓練することのできないところに進んでいることを覚えなさい。あなたがたは彼らにとって、善であり純潔であり高貴であるところのすべてのものの模範となることができる。 12

たとい他のすべてのことに失敗しても、ここで徹底的で有能であらいたい。あなたがたの子供た

ちが、家庭教育によって純潔で高潔な者となるならば、彼らが世のための神の善の大計画において最も小さい、最もひくい場所でも占めるならば、あなたがたの生涯は決して失敗だということはないし、あわれみをもってふりかえられることもない。13

幼い子供は母親の鏡である。母親は彼らの中に、自分の習慣や行為が反映されるのを見る。これらの小さな学び手たちの前で、母親のことばや行為がどんなに注意深いものでなければならぬことであるう！彼女が子供たちの中に育つのを見たいと思う特質はどんなものでも、まず自分の中にそれを育てなければならぬ。14

世の標準より高いものを目ざせ 母親は世の中の考えに支配されてはならない。また世の中の標準に到達するために努力してはならない。彼女は人生の大いなる目標と目的が何であるかを自分で決定して、その目的に達するために全力を傾注しなければならない。彼女が時間が足りないため家庭の多くの仕事をそろかしても、重大な悪い結果は生じないかもしれないが、子供を正しく訓練することを怠って刑罰を受けないということはない。子供たちの欠点の多い品性は、彼女の不忠実さを公表する。彼女が正さずにおいた悪や、粗暴なあららしい態度や不遜や、怠惰と不注意の習慣は彼女にはじをもたらし、彼女の生涯を苦しいものにする。母親がたよ、あなたがたの子供たちの運命の大部分はあなたがたの手中にある。あなたがたが義務を怠れば、あなたがたは彼らをサタンの隊列の中におき、他人を滅ぼすサタンの代理者にするかもしれない。あるいはあなたの忠実なしつけと敬虔な模範は彼らをキリストに導き、彼らがまた他の人々に感化を与え、こ

うして多くの魂があなたの器を通して救われるかもしれない。 15

**良い点をのばし、悪い点をおさえる**

親は子供たちを神の愛と神に対する恐れの中に育てることによって神と協力すべきである。親が子供たちを正しく訓練することを怠ることほど神を不快にすることはない。……彼らは敵が幼い者たちに影響を与えることのないように、彼らのことばと行為を注意深く見守らなければならない。敵は神の目的を無効にすることができるよう、彼らの影響を及ぼすことを熱望している。親は子供のために親切に、関心をもってやさしく働き、幼い者たちの品性の中に発達するすべてのよい点をのばし、悪い点をおさえなければならない。 16

**りっぱになされた仕事に対する喜び**

子供たちは、神の嗣業であるから、こうした神の財産の取り扱い方の責任を神の前で問われるのである。……子供たちをクリスチャンにするために教育と訓練を与えることは、親たちが神に対して行なうことができる最高の奉仕なのである。忍耐強くはげんで、一生の間たゆまず努力しなければならない。この任務を怠ることによってわたしたちは不忠実な管理人になってしまう。……

愛と信仰と祈りによって、親たちは家族の者のために働き、ついには、喜びつつ神のところへきて、「見よ、わたしと、主のわたしに賜わった子たち」と言うことができるようにしよう。 17

1、S・一九〇一年九月二五日  
2、R H・一八八九年四月二三日

3、M S S・一二・一八九八年  
4、S・一八八六年三月一日



11	10	9	8	7	6	5
、	、	、	、	、	、	、
S	C	同	S	G	同	同
・	T	・	・	H	・	・
一	・	一	一	・	一	一
八	一	八	八	一	八	八
九	二	八	九	八	八	八
九	九	九	一	八	二	二
年	ペ	年	年	年	年	年
八	ー	七	三	七	五	二
月	ジ	月	月	月	月	月
二		二	一	一	二	九
三		日	六	六	五	日
日		日	日	日	日	

17	16	15	14	13	12
、	、	、	、	、	、
キ	M	S	S	5	R
リ	S	・	・	T	H
ス	S	一	一	・	・
ト	・	八	八	四	一
の	四	八	八	四	八
実	九	二	六	ペ	九
物	・	年	年	ー	一
教	一	二	九	ジ	年
訓	九	月	月		九
・	〇	九	九		月
一	一	日	日		一
七	年				五
五					日
ペ					
ー					
ジ					

## 第四六章

継  
母

## 継母への勸告

あなたが子供たちの父親である人と結婚することは、あなたにとって祝福となる。……あなたは自己中心になる危険があった。あなたには覚醒させ活動させる必要のあったりっぱな品性の特質があった。……あなたは、この新しい関係を通して、人の心をどのように扱うかを教えられる経験を得るであろう。子供たちのめんどろをみることによって、愛情とやさしさがつちかわれる。家庭であなたに負わされている責任は、あなたに祝福をもたらす手段となるであろう。子供たちはあなたにとって尊い教訓のふみとなろう。それを正しく読めば、あなたは多くの祝福を得るであろう。彼らを世話することによって目ざめさせられた種々の思いは、やさしさ、愛情、同情の気持ちを働かせる。この子供たちはあなたの血肉の一部ではなくとも、彼らの父親との結婚を通して、彼らはあなたに愛され、いづくしまれ、指導され、めんどろをみられるためにあなたのものとなったのである。彼らとの結びつきは、あなたにとってほんとうの益となる思いや計画をあなたに考えさせる。……あなたが家庭で得る経験によって、あなたはあなたの働きを傷つける恐れのある自己中心的な考えを失い、やわらげられ、おさえられる必要のあった定まった計画を変える

であろう。……

あなたは、やさしい、同情深い、愛情深いことばを必要としている者たちと親しくなることができるように、もっとやさしさと同情をつちかう必要があった。あなたの子供たちはこれらの品性の特質をよびさまし、広い心と判断力をのばす助けとなるであろう。彼らとの愛情深い交わりを通して、あなたは苦しむ人々のために、もっとやさしく同情深く奉仕することを学ぶであろう。1

**愛情の足りない継母に対する譴責（けんせき）**      あなたはご主人を愛して彼と結婚された。彼と結婚したとき、彼の子供たちの母親になることを誓約したことをあなたは知っている。しかしわたしは、この点においてあなたが不十分であることを示された。あなたは非常に不十分である。あなたはご主人の子供たちを愛していない。あなたとあなたの家庭の治め方に完全な変化、徹底的な改革が行なわれなければ、これらの尊い宝石は滅びるであろう。あなたのしつけには愛と愛情の表現がともなっていない。……

あなたはこれらの愛らしい子供たち、特に娘の生活を非常につらいものになっている。愛情とやさしい愛撫としんぼう強い忍耐はどこにあるであろう。あなたの清められていない心には愛よりも憎しみのほうが多い。ほめことばや励ましの言葉よりもとがめのことばのほうがあなたのくちびるから出る。あなたの態度、あなたのきびしいやり方、あなたの同情のない性質は、あの敏感なむすめにとって、せんさいな植物の上に落ちてそれを荒らす雹のようである。そのかわい植物は打たれるたびに命をちぢめ、傷つけられ折られて横たわるのである。

あなたのやり方は子供たちの愛と希望とよろこびの流れを枯渇させている。少女の表情にはいつも悲しみが表われている。しかしそれはあなたの中に同情とやさしさをよびささないで、気短さと決定的な嫌悪(けんお)をひき起こしている。あなたはそうしようと思えば、この表情を活気のある朗らかな表情に変えることができるのである。……

子供たちは母親の表情を読む。彼らは愛が表わされているか、嫌悪が表わされているかを理解する。あなたは自分のしている働きを知っていない。小さな悲しい顔、愛情を切望してしめつけられている心からわき出るため息は同情をよびささないであろうか。2

### 必要以上の厳格さから生じる結果

しばらく前、わたしはJの場合を示された。彼女の過誤や思いつきがい詳細に彼女の前に描かれた。しかしわたしに示された最後のまぼろしで、彼女にまだ悪い点があること、すなわち彼女が夫の子供たちに対して冷たく同情がないことを示された。彼女は大きな過失を正したり譴責したりするだけでなく、大目で見るべき小さな事に対してそうする。しょっちゅうあら探しをすることはよいことではない。キリストのみたまはそうした精神をもった心にとどまることがおできにならない。彼女は子供たちの中にある良いものに対して賞賛のことは一言も言わずに、何か悪いことが見えるとすぐに非難のことは投げかけようとする傾向がある。このことは子供たちをいつも失望させ、不服従の習慣をつける。それは心の悪を刺激して、どろやごみを吐き出させる。しょっちゅうしかられている子供たちには、「かまうもんか」という気持ちが起こり、結果を考慮せずに、悪い感情をたびたび表わす。……

「姉妹は愛と同情の気持ちをつちかうべきである。彼女の保護のもとにおかれた母親のない子供たちにやさしい愛情を示すべきである。これは子供たちにとって神の愛の祝福となり、それが彼女への愛情となつてかえってくる。」<sup>3</sup>

**二倍の配慮が必要とされている時** 母性愛が胸にあふれていた母親を失つた子供たちは、つづなうことのできない損失をこうむつたのである。しかしこの悲嘆にくれている幼い群れの母親の代わりになろうとする人は、できるだけ実の母親以上にやさしくし、こごとやおどかしを言わぬようにがまんをし、こうして幼い群れがこうむつた損失をつぐのう二倍の心労と重荷を負わせられる。<sup>4</sup>

1、L・三二九・一九〇四年  
2、T・五六 五八ページ

3、T・五三一、五三二ページ  
4、T・五八ページ

## 第四十七章

## 母親へのキリストの励まし

イエスは子供たちを祝福された　キリストがこの地上におられたころ、母親たちはキリストに手をおいて祝福していただくために、子供たちを彼のところに連れて行った。母親たちはこの行為を通して、イエスに対する信仰と、彼らに養育するようにまかされた幼い者たちの現在及び将来の幸福に対する真剣な心づかいを表わした。だが、でしたちは、子供に注意を向けさせることだけのために、主をさまたげる必要を認めなかったので、母親たちを帰そうとした。そのとき、イエスはでしたちをしかり、幼い子供たちを連れたこの信仰厚い母親たちのために道をあけるように群衆に命令された。主は「幼な子をそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である」と仰せになった。

母親たちがほこりの立つ道を通して救い主に近づいたとき、主は、子供のために無言の祈りをささげる彼女たちのくちびるがふるえ、涙があふれてくるのを認められた。主はでしたちの非難のこゝとばを耳にされた。そして、すぐにそのことばを打ち消された。主の広い愛の心は子供たちを受け入れるために開かれていた。主は子供たちをつぎつぎ腕に抱いて祝福された。その間じゅう、ひと

りの子供がイエスの胸にもたれて深く眠っていた。イエスは母親たちの仕事に対して励ましのことを語られた。母親たちの心は、そのことばによってどんなに慰められたことであろう。彼女たちがこの記念すべきことを思い返したとき、どんな喜びをもつてイエスの恵みとあわれみを考えたことであろう。イエスのいつくしみ深いことばは、彼女たちの心から重荷を除き、新しい希望と勇気とを吹き込んだ。疲れた気分はすっかり消し去られた。

これはどの時代の母親たちにとつても励ましとなる教訓である。母親は子供たちのために自分の最善を尽くしたのち、イエスのところに彼らを連れて行くことができる。母親の腕に抱かれている赤ん坊すらも、イエスの御目には尊いのである。母親の心が、自分が与えることができないとわかつている助けと恵みを切望し、自分自身と子供とをキリストのあわれみ深いみ腕にまかせるとき、キリストは彼らを受け入れて祝福される。彼は母親と子供に平和と希望と幸福をお与えになる。これはイエスがすべての母親にお与えになった尊い特権である。1

**イエスは今でも母親たちを招いておられる**

天の王であられるキリストは「幼な子をそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である」と仰せになった。イエスは子供たちをラビのところには送られない。パリサイ人のところにも送られない。なぜなら、彼らが子供たちに、彼らの最良の友イエスを拒むことを教えるということを知っておられるからである。イエスのところに子供を連れてきた母親たちはよいことをした。……今日の母親たちも子供をキリストのところに導かねばならない。福音を説く牧師は子供を抱いて祝福

するがよい。この上もなくやさしい愛のことばを幼い者に語るがよい。なぜならイエスも群れの羊をとって腕に抱き、彼らを祝福されたからである。2

母親たちは自分たちの悩みをたずさえてイエスのみもとに行きなさい。彼らは子供たちを扱うのに助けとなる十分な恵みをみいだすであろう。救い主の足もとに重荷を置きたいと願うすべての母親のために門が開かれている。…イエスは、母親たちが子供たちをイエスに祝福してもらうためにつれてくるようにと、いまでもまねいておられる(マルコー〇ノ一四)。母親の腕の中にある赤ん坊でさえ、祈る母親の信仰によって全能者のかげにやどるのである。バプテスマのヨハネは、生まれたときから聖霊に満たされていた。もし私たちが神とまじわる生活をしているならば、私たちもまた、聖霊が私たちの子供たちを生まれ落ちたときから形造ってくださいることを期待できるのである。3

### 幼い者の心は敏感である

キリストはご自分を身分の低い者、貧しい者、困っている者と同一視された。彼は幼い子供をみ腕に抱き、幼い者のレベルにまで降りてこられた。イエスの広い愛の心は彼らの困難と必要を理解することができた。そして彼らが幸福であるとき、彼はよろこびたもうた。混雑した都会の騒音と混乱と、ずるい偽善的な人々との交わりに疲れたイエスの心は、無邪気な子供たちとの交わりの中に休息と平安を見いだした。子供たちはイエスの臨在をいやがることは決してなかった。天の王は少しも尊大ぶらずに彼らの質問に答え、彼らの子供らしい理解力に合うようにたいせつな教訓をわかりやすく説明された。イエスは彼らの若い伸びつつある心に真理の種



をまかれた。その種は生長して、彼らがもっと成熟した年ごろになったときに、ゆたかな収穫をみのらせるのであった。 4

イエスは、世故にたけた、かたくなな心の持ち主がイエスに従い、神の国に住む場所を発見することがあまりなくとも、これらの子供たちが彼の勧告に耳を傾け、彼を救い主として受け入れるということを知っておられた。この幼い者たちはキリストのもとにきて、彼の忠告と祝福を受けることによって、イエスのみかたちとやさしいことばをその感じやすい心に刻みつけられた。そしてそれは決して消えることがなかった。私たちは、幼い者たちの心がキリスト教の教えに非常に敏感であり、敬虔と徳への影響を与えやすく、受けた印象をいつまでも保っているという教訓を、キリストのこの行為から学ばねばならない。 5

「幼な子をそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である。」この尊いことばはすべての母親だけでなく、すべての父親にも尊重されなければならぬことばである。このことばは、キリストの注意のとどくところに子供を押しやり、彼らの家族全体に天の父の祝福を彼の名によって求めなさいという親への奨励のことばである。いちばん愛されている子供だけに特別な注意を払わずに、注意深い訓練とやさしい指導を必要としている落ち着きのない不従順な子供にも注意を払わなければならない。 6

1、G H・一八八〇年一月  
2、R H・一八九六年三月二四日  
3、各時代の希望・第二巻・三二〇ページ

4、4 T・一四一ページ  
5、同・一四二ページ  
6、S・一八九六年八月一三日



第一  
一部

子供  
たち

幼  
い  
協  
同  
者  
た  
ち



## 第四八章

### 子供に対する天の評価

子供たちはキリストの血で買われたものである

キリストはご自分の命をあなたの子供たちにお与えになったほど彼らを高く評価しておられる。彼らを、キリストの血で買われた者として取り扱いなさい。彼らをキリストのために忍耐強く、しっかりと訓練しなさい。愛と忍耐をもつて彼らをつけなさい。あなたがそうするとき、彼らはあなたにとって喜びの冠となり、世の中でもしびのように輝くであろう。 1

どんな幼い子供でも、神を愛しおそれるならば、その子供は、才能や学問がどれほどあっても尊い救いを顧みないような人よりもえらいのである。心と生活を神にささげている青年は、そのことによって自分自身をすべての知恵と美質の源でいます神に結びつけているのである。 2

「神の国はこのような者の国である」

キリストを信じる幼い子供の魂は、神にとって神のみくらの周囲にいる天使と同様に尊い。子供たちをキリストのみもとに連れて行き、キリストのために訓練しなければならない。彼らを服従の道に導き、食欲や虚栄におぼれぬように指導しなければな

らない。 3

私たちが、イエスがでしたちに教えようとしておられた子供たちのすばらしい教訓を学んだなら、どんなに多くの打ち勝ちがたい困難に見えることが消え去ってしまふことであるう！でしたちがイエスのもとにきて、「天国ではだれがいちばん偉いのですか……」と言ったとき、イエスは、幼い子供を呼び寄せて言われた。「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ天国にはいることはできないであろう。この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。」 4

#### 親にまかされた神の財産

子供たちが命とその存在を親から得たとはいえ、彼らが生命を持つているのは神の創造力によるのである。神は生命の賦与者であられるからである。子供たちを自分の所有物であるかのように扱ってはならない。子供たちは主の財産であり、あがないの計画はわれわれと同様に彼らの救いをも含んでいるのである。彼らは現在と永遠における彼らの仕事をなすにふさわしい者となるように主の薫陶と訓戒とによって育てられるために親にまかされたのである。 5

母親がたよ、あなたがたの幼い者たちをやさしく扱いなさい。キリストもかつては幼い子供であられた。キリストのために子供たちを尊びなさい。彼らを甘やかしたり、愛撫したり、偶像視したりするのではなくて、純潔で高貴な生活をするように教えるべき神聖な責任とみなしなさい。彼らは神の財産である。神は彼らを愛しておられる。そして彼らが完全な品性をつくるのを助けることによつて神と協力するように訴えておられる。 6

もし神に安心して会いたいと思うなら、神の群れをいま靈的な食物で養いなさい。なぜなら、どの子供もみな、永遠の命に達する可能性をもっているからである。子供や青年は神の特殊な宝である。 7

青年たちは、彼らの天分が彼ら自身のものではないという事実を心に刻みこまなければならない。能力も時間も知性も、借り物の宝にすぎない。それは神のものであって、どの青年もこれを最高の目的に用いる決意がなければならない。青年は、実を結ぶようにと神に期待されている木の枝、資本を増殖すべき家つかさ、世の暗きを照らす光である。どの青年も、どの子供も、神の栄えと人類の向上のために、それぞれしなければならぬ働きをもっている。 8

**天国への道は子供たちの能力に合わされている** わたしはイエスがわたしたちのすべての弱さを知っておられ、罪を除いて、すべてのことにおいてわたしたちの経験を経験された。彼はわたしたちの力と能力に応じた道を準備された。そしてヤコブのように、子供たちが耐えられる程度に彼らといっしょに静かに公平に歩かれた。それはわたしたちと一緒にいてくださるという慰めによつてわたしたちを慰め、どんな時にもわたしたちの案内者となるためである。彼は群れの子供たちを軽んじたり、おろそかにしたり、後に残しておくということはされない。そんなことは決してされない。それどころか、彼は子供たちのためにさえ命への道を平らにされた。親は彼の名においてせまい道の子供たちによりそつて導くように要求されている。神は子供たちの力と能力に合った道をわたしたちのために定めておられる。 9

アドベンチスト・ホ - ム

5、 S・一八九四年九月一〇日  
4、 M S・一三・一八九一年  
3、 R H・一八九七年三月三〇日  
2、 青年への使命・三二九ページ  
1、 S・一九〇一年四月三日

6、S・一八九九年八月二三日  
7、L・一〇五・一八九三年  
8、教育・六九ページ  
9、1T・三八八、三八九ページ



## 母親の助け手

子供たちは家庭という会社の社員でなければならない。子供も両親と同じく家庭においては重要な義務がある。子供は家庭という会社の社員であることを学ばなければならない。彼らは養育され、衣類を与えられ、愛され、世話されているのであるから、自分の家庭の重荷を分担して、おのが分を尽くし、自分が一員となっていてその家庭にできるだけ幸福をもたらし、こうした数々の恩恵にこたえるべきである。 1

どの母親も自分の子供たちに、彼らが家庭という会社の社員であつて、この会社の責任をひとりひとり分担しなければならぬことを教えなければならない。家族の者はみな、教会員が教会関係の責任を忠実に負うようにこれらの責任を負わなければならない。

走り使いをすることは父親や母親を助けていることだということを子供たちに知らせなさい。あなたのための仕事を幾らか与えて、それをしたあとで遊ぶ時間を与えると彼らにいいなさい。 2

子供たちのあたまは活発に活動しているから、實際生活の重荷を負うことにあたまを働かせる必要がある。……彼らを放っておいて、自分で仕事をみつけさせてはならない。親が自らこの問題を

支配しなければならぬ。 3

**親や子供たちは義務を負っている**

親は子供たちに食物を与え、衣服を着せ、教育をする義務がある。また子供たちはよろこんで、まごころから、誠意をもって親に仕える義務がある。子供たちが親の苦労や重荷を分担する義務はないと感じるようになったとき、もし親が彼らを養う義務がないと感じるようになったら彼らはどう思うであろうか。彼らが、与えられている義務を果たして親の役に立ち、不愉快で苦労が多いかもしれない仕事をして親の重荷を軽くすることをやめるとき、彼らは、彼らを将来役に立つ人間に作り上げるきわめてたいせつな教育を得る機会を失う。 4

神はすべての信徒の子供たちが親が彼らを養育するときに負わねばならない重荷を分担するように小さい時から訓練されることを望んでおられる。子供たちは家の一部をへやとして与えられ、家族の食卓で席を持つ権利と特権を与えられている。神は親が子供たちに食べさせさせることを要求しておられる。しかし親と子供の義務は相互的なものである。子供たちは親をうやまい尊ぶことを要求されている。 5

親だけが子供の奴隷となって犠牲を払い、子供たちはすべての重荷を親に負わせて冷淡、無関心のまま成長するということのようなことがあってはならない。 6

**誤った親切を通して怠惰が教えられる**

子供たちはごく幼いときから自分のことは自分でし、他人を助けて役に立つ者となるように教えられなければならない。この年ごろの娘たちの多くは、母

親が働いたり、料理したり、洗濯したり、アイロンをかけたりしているのを見ながら、何の良心の責めも感じずに居間にすわって小説を読んだり、ふちとりやクロス編みをしたり、ししゅうをしたりすることができ。彼らの心は石のように無感覚である。

だがこの誤りはどこに源があるのだろうか。この問題でいただれが一番非難されるべきであろうか。あわれな、あざむかれた親たちである。彼らは子供の将来の利益を見落として、誤った愛情から、子供たちが何もせずすわっていたり、頭脳や筋肉を活動させる必要のない、また、たといあつても、ごくわずかな価値しか持たないことをするのを許して、からだが弱いからという理由で怠惰な娘たちを大目に見る。何が彼女たちを弱くしたのであるう。たいていの場合、親のまちがったやり方である。家の中での適度の活動は頭脳とからだの両方を向上させる。だが子供たちは誤った考えからこれを奪われるので、ついには働くことをいやがるようになるのである。7

あなたの子供たちは働きつけていなければすぐ疲労する。彼らは脇が痛む、肩が痛む、腕が疲れると不平を言うので、あなたは同情して、彼らを少しばかり苦しませるよりも自分でその仕事をしってしまう危険がある。子供たちは最初ごく軽い仕事を与え、あまり疲れずに適度の量をする事ができるまで、毎日少しずつふやすとよい。8

**何もしないでいることの危険** わたしは何もしないことから多くの罪が生じたことを示された。

活動している手や頭脳は、敵が暗示する誘惑をいちいち心に留めるひまがないが、何もしない手や頭脳はサタンに支配される準備ができてい。正しく活動していない頭脳は、よくない事がらにつ

いていろいろと思いをめぐらす。親は子供たちに何もしないことが罪であることを教えなければならぬ。<sup>9</sup>

子供たちから重荷をとりあげて怠惰な目的のない生活をさせたり、何もせずにおらせたり、自分の好きかってなことをさせることほど彼らを確実に悪に導くものはない。子供たちのあたまは活動的であるから、良い有益なことで占められていなければ必ず悪いほうにいく。彼らが娯楽を楽しむことは正しいことであり必要なことであるが、彼らに働くことを教え、肉体労働と読書と勉強のための定まった時間を持つことを教える必要がある。彼らに年令に応じた仕事と、有益で興味深い書物が与えられているかどうかを確かめなければならない。<sup>10</sup>

# 有益な仕事は確実な安全装置である

青年にとっていちばん確実な安全装置は有用な仕事である。

彼らが全時間を有益に使用するように勤勉の習慣を身につけさせられているなら、自分の運命について不満を言ったり、ぼんやり夢想にふける時間を持つことはないであろう。悪い習慣をつくったり、悪い交際をする危険もほとんどないであろう。<sup>11</sup>

子供たちに有益なことをさせておくことができないほど親が多忙であれば、サタンが子供たちをいそがしく働かせる。<sup>12</sup>

# 子供たちは重荷を負うことを学ばねばならない

親は、子供たちが学ばなければならない最も重要な教訓は、家庭の重荷を負って彼らの役割を果たさなければならないことだという事実に目ざめ

なければならぬ。……親は子供たちに、人生に対して常識的な考えを持つように、世の中で役に立つ人物とならねばならぬことを認めるように教えなければならない。少年少女たちは家庭で、賢明な母親の監督の下で、生活の重荷を負うことについての最初の教訓を教えられねばならない。13

善のためあるいは悪のために子供を教育する仕事は、子供が生まれた時から始まる。子供たちは大きくなるにつれて年下の弟妹たちのめんどろを見るのを助けなければならない。母親は、子供たちががすることができ、またしななければならない仕事を自分でして自己をすり減らしてはならない。14

# 重荷を分担するとき満足が得られる

両親がた、家族の一員として実際に子供たちがしなければならぬ仕事を忠実に果たすことによつて神のみこころを実行するように彼らを助けなさい。これは彼らに非常に貴重な経験を与える。それは彼らに自分だけを考え、自分の欲求だけを満たし、自分だけをたのしませてはならないことを教える。家庭で自己の役割を果たして父母兄弟の重荷を負う彼らの努力が成功するように、彼らを忍耐強く教育しなさい。そうするとき彼らは自分が実際に役立っていることを知つて満足する。15

子供たちを役に立つように教育することができる。彼らは生まれつき活動的でせわしく動く傾向があるが、この活動性は訓練して正しい方向に導き得る可能性をもっている。子供たちがまだ幼いときでも、親や保護者に対してそれを果たす責任のある特定の仕事を与えて、その小さな仕事を毎日やりとげるように教えることができる。こうして彼らは若いときに義務のくびきを負うことを学ぶ。彼らにとつて小さな務めを行なうことがよろこびとなる。それは彼らに、りっぱにやり遂げた

ことによつてのみ得られる幸福を与える。彼らは仕事や責任に慣れ、仕事を好むようになり、人生には自分を楽しませることよりももっとたいせつな仕事があることをさとするようになる。……

仕事は子供に有益である。彼らは役に立つ仕事をして時間の大部分を過ごすほうがうれしいのである。彼らは仕事をりっぱにやり遂げたのち、その無邪気な遊びをもっと強いよろこびをもつて楽しむ。労働は頭脳と筋肉の両方を強める。母親たちは子供たちをよい助け手に仕立てることができ、役に立つ人間となることを彼らに教えるとき、彼女たち自身、人間の性質について、またこれらの生きいきした若い者たちをどのようにに取り扱うかということについての知識を得ることができ、若い者たちと接することによって彼女たちの心をあたたく、若々しく保つことができる。子供たちが信頼と愛情をもつて彼女たちを見るように、彼女たちも助けと指導を、愛する救い主に求めることができる。正しく訓練された子供は、大きくなるに従つて、友人の重荷を軽くする働きを愛することを学ぶ。

16

### 精神の平均を保証する

子供たちが割りあてられた仕事を果たすとき、記憶力、精神の正しい均衡、強固な品性、物事を手早く処理する能力を得る。小さな仕事の連続である一日は、思考し予想し行動の計画をたてる必要がある。子供たちの年令が多くなるにつれて、彼らにもっと多くの仕事を要求することができ、しかし精根が尽き果てるような仕事、彼らを疲労させ失望させるほど長びく仕事であつてはならない。からだの發育と精神と品性の正しい發達を考慮して慎重に選ばなければならぬ。

17

天の働き人たちと結びつける

もし子供たちが日常の目だたない仕事を主が彼らのために定めたもうた課程、忠実な能率的な奉仕をささげるように彼らを訓練する学校とみなすように教えられたなら、彼らの仕事はどんなにもっと楽しいりっぱなものに見えることであろう。すべての務めを主のためにするように果たすとき、それはもっともいやしい仕事にも魅力を与え、地上の働き人を天において神のみこころを行なう天使たちと結びつける。<sup>18</sup>

天では仕事が出来ず行なわれている。天にはなまけ者はいない。キリストは「わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである」と言われた。最後の勝利がきて、私たちのために住家が備えられたとき、私たちは安逸な生活にはいること、何もしない幸福な状態で休息することを期待することはできない。<sup>19</sup>

家庭のきずなを強める

少年少女たちの家庭教育における協力の原則には測り知れない価値がある。……年長の子供たちは親の相談にあずかり、責任と重荷を分担することによって親の助けとなるようにしなければならぬ。父母が時間をかけて子供たちを教え、彼らの信頼を希望し、彼らが片腕となってくれることを喜んでいることを示すなら、子供たちはまもなくこれに答えるようになるであろう。そのとき親の重荷は軽くなり、子供たちは測り知れない価値をもった実際的な教育を受けるばかりでなく、家族の間のきずなが強くなり、品性の基礎が固くなる。<sup>20</sup>

知的、道徳的、靈的にすぐれた成長を遂げる

少年少女たちは、家庭の中にあつて無我の精神を

あらわし、父母の心配を軽くすることによるこびを見いださねばならない。子供たちが自分の負うべき重荷をよるこんでとりあげるとき、彼らは信用と有用の地位に立つのにふさわしい訓練を受ける。彼らは一年一年着々と進歩をとげ、徐々にしかし確実に青少年少女の経験からおとなの経験へ移っていく。家庭の平凡な義務を忠実に果たすことによって、青少年少女たちは知的に道徳的に靈的にすぐれた品性の基礎を築く。

21

### 健康と精神の平安を与える

家庭生活における自己のつとめをよるこんで果たして父母の重荷を分担する子供たちを、神はよるこんで受け入れ、やさしい約束をお与えになる。彼らは健康と心の平安をもって報われる。彼らは両親が社交的な楽しみや健康的な娯楽に参加し、そのことによって彼らの寿命がのびるのを見る楽しみを得る。実生活の仕事をするように仕込まれた子供たちは、精神もからだもその緊張に耐えるだけ強くなっていない幼い年ごろに教室に閉じ込められて得た教育よりもはるかにすぐれた教育を得て家を去り、社会の有能な一員となる。

22

学校での勉強をへらし、家庭のつとめをする訓練をふやしたほうがよい子供たちがある。彼らに何よりもまず、思いやり深い者、役に立つ者となることを教えなければならない。実際のな勤勉と訓練の教訓は、教科書から学ばねばならない多くの事がらよりもはるかにたいせつである。

23

### 快い睡眠を保証する

母親たちは娘らを台所に連れて行って忍耐強く教育しなければならない。そうした労働によって彼女らの体質が向上し、筋肉は調子と力を得、彼女らの考えることは一日の



終わりににはもつと健康的な、高いものとなる。彼女らは疲労するかもしれないが、適宜な労働のちの休息は何と快いものであるう！自然の快い回復剤である睡眠は、疲れたからだを活気づけ、次の日のつとめのためにそれを準備する。子供たちに彼らが働こうが働くまいが問題ではないということを暗々のうちに感じさせてはならない。彼らの助けが必要であること、彼らの時間が貴重であること、あなたがたが彼らの働きを頼りにしていることを教えなければならない。24

子供たちが怠惰なまま成長するのを許すことは罪である。疲労してもよいから、彼らに手足や筋肉を働かせなさい。彼らが働き過ぎていなければ、どうして疲労があなたへよりも多くの害を彼らに与えることができよう。疲労と精魂を使い果たすこととは別なことである。子供たちはおとなよりもたびたび仕事を変えたり休息する必要があるが、ごく幼い時からでも働くことを学び始めることができる。彼らは役に立っているということを考えてうれしく感じるであろう。健康的な労働のあとの睡眠は彼らにとって快いものとなる。それは次の日の仕事のために彼らの元気を回復してくれる。25

「子供がわたしのじゃまをする」と言わぬこと

「子供は手伝おうとしてかえってじゃまをします」とある母親たちは言う。わたしの子供たちもそうだったが、わたしがそのことを子供たちに知らせたとお思になるだろうか。あなたがたの子供たちをほめなさい。教訓に教訓、規則に規則を教えなさい。これは小説を読んだり、訪問したり、世間の流行を追うことよりもよいことである。26

模範であられるイエスについて

天の王、栄光の王はしばらくの間ベツレヘムでただの赤ん坊であられ、母親の腕に抱かれる赤ん坊を代表することしかおできにならなかった。幼少時代には両親の求めに応じ、子供として彼の能力に合った仕事をし、従順な子供の仕事しかおできにならなかった。これが子供のできるすべてである。彼らをキリストの模範に従うことができるように教育し指導しなければならぬ。キリストは彼の家庭を祝福するような態度で行動された。彼は両親に従順に従いそのことによって、家庭生活で伝道の働きをされたからである。「幼な子は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがその上にあった。」「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸びそして神と人から愛された」としてのされている。27

キリストの模範にならうことを学んで、キリストの命を喜びをもって飲むにはどうすればよいかを、協力して子供たちに教えることは教師と親の尊い特権である。救い主は少年時代によく人を助けられた。家庭では母親を手助けされた。彼は家庭内の仕事をしたり、大工のベンチにすわって働いておられたとき、公の伝道に従事しておられたときと同じように彼の使命を果たしておられた。28

地上でのキリストの生活は全人類家族の模範であった。彼は家庭では従順で、よく手助けをされた。彼は大工の仕事を学び、ナザレの小さな仕事場で自らの手で働かれた。……少年時代、青年時代を通じて働かれるにしたがって精神と身体が発達した。彼は、からだの力を乱暴に使用せずに、あらゆる方面で最善の働きをすることができるよう、それを健康的に保つような方法で使用された。29

## 第 11 部 子供たち 幼い協同者たち

1、 ミニストリー・オブ・ヒーリング・三十六ページ  
2、 RH・一九〇三年六月二三日  
3、 MSS・五七・一八九七年  
4、 YI・一八九三年七月二〇日  
5、 MSS・一二八・一九〇一年  
6、 MSS・一二六・一八九七年  
7、 1T・六八六ページ  
8、 同・六八七ページ  
9、 同・三九五ページ  
10、 CTB・一三四、一三五ページ  
11、 RH・一八八一年九月一三日  
12、 S・一九〇一年四月三日  
13、 L・一〇六・一九〇一年  
14、 MSS・一二六・一九〇三年

29、	28、	27、	26、	25、	24、	23、	22、	21、	20、	19、	18、	16、	15、
C T ・ 一 四 七 ペ ー ジ	R H ・ 一 九 〇 九 年 五 月 六 日	S ・ 一 八 九 四 年 九 月 一 七 日	M S S ・ 三 一 ・ 一 九 〇 一 年	C T B ・ 一 三 五 ペ ー ジ	1 T ・ 三 九 五 ペ ー ジ	M S S ・ 一 二 六 ・ 一 九 〇 三 年	C T ・ 一 四 八 ペ ー ジ	青年への使命・二〇八ページ	教育・三五二ページ	M S S ・ 一 二 六 ・ 一 八 九 七 年	P P ・ 五 七 四 ペ ー ジ	17、H R ・ 一 八 七 七 年 一 二 月	M S S ・ 二 七 ・ 一 八 九 六 年

## 第五〇章

### 両親の受けるべき尊敬

親に対して子供が負っている恩　子供たちは、彼らが赤ん坊だったときに保護し病気だったときにみとつてくれた親に対して恩を感じるべきである。彼らは、親が彼らのために多くの心労を味わったことを知らなければならぬ。良心的な敬虔な親は、彼らの子供が正しい道を進むことについて非常に深い関心を抱いている。彼らが子供たちの持つている欠点を見たとき、その心は心配のためどんなに重かったことであろう。親の心を痛めた子供たちが、彼らの行動の影響を認めることができたなら、彼らは必ずすまなく思うであろう。母親の涙を見、彼らのために彼女が神にささげる祈りを聞くことができたなら、おし殺したきれぎれのため息を聞くことができたなら、彼らは心動かされ、すぐにもその誤ちを告白して許しを求めるであろう。 1

成人に達した子供たちは、忠実に努力し彼らが誤った感情を心に抱いたり悪い習慣におぼれることを許さなかった親を称賛する。 2

すべての人に対して拘束力をもつ命令

「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜

わる地で、あなたが長く生きるためである。「これは約束を伴った最初のいましめである。それは幼年時代にも青年時代にも中年にも老年にも拘束力をもつ。子供の生涯で両親を尊ばなくともよいという時代はない。この厳粛な義務はすべてのむすこ娘に義務を負わせている。それは主が忠実な者にお与えになる地で彼らが長く生きるための条件の一つである。これは注目には値しない問題ではなく、非常に重要な事である。服従を条件として約束が与えられている。服従すれば、神がお与えになる地でああなたがたは長く生きることが出来る。服従しなければその地で長らえることは出来ない。 3

両親は他人が受けることのできないような愛と尊敬を受ける資格がある。彼らの監督のもとに魂をおき、その魂に対する責任を負わせたもうた神ご自身が、子供が幼い間は親が彼らに対して神の立場に立たねばならぬことを定めたもうた。親の正当な権威を拒む者は、神の権威を拒んでいるのである。第五のいましめは子供たちに親を尊び、彼らに従順に服従することを要求しているだけでなく、親に愛をささげ、やさしくし、彼らの心配を減じ、彼らの評判を守り、老年にはいったときには彼らに助力と慰めを与えることをも要求している。 4

神はみことばに明記されている最も明白な義務、すなわち両親に対する子供の義務に直接反することをする人々を祝福することはおできにならない。∴彼らは地上の親を尊敬しなければ、彼らの創造主をもうやまい愛することをしないであろう。 5

神を信じない親を持ち、そして親の要求がキリストの要求に反するとき、子供たちは、苦しくとも神に服従し、結果を彼にまかせねばならない。 6

多くの者が第五のいましめを犯している この終末時代に子供たちの不従順と不敬とが非常に目だっているために、神は特にそのことに注目しておられる。それは終わりが近づいたしるしともなっている。この事実はサタンが若い者の心をほとんど完全に支配していることを示している。多くの者は老人をもはや尊ばなくなっている。7

真理を知っていると称しながら、父母にしかるべき尊敬と愛情をささげず、父母に愛を示さず、父母の意向に服従しようとせず、父母の心配を軽くしようとしない子供たちがたくさんいる。クリスチャンたることを自称している人々の多くは「あなたの父と母を敬え」ということがどういふこととか、また「これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである」ということが、どういうことであるかを知っていない(出エジプト記二〇ノ一二)。8

この反逆的な時代に正しい教育としつけを受けなかった子供たちは、両親に対して義務を負っているという意識をほとんど持っていない。両親が彼らに尽くせば尽くすほど、親に対する彼らの感謝の念と尊敬の念が少ないという例が多い。甘やかされ仕えられてきた子供たちはいつもそうされることを期待する。そして彼らの期待が満たされないと失望し落胆する。その性向は彼らの生涯を通じて見られる。彼らは無力で、他人の助けに頼り、他人に好意を示してもらい自分の言う通りにしてもらうことを期待する。成人してからでも、反対を受けると裏切られたと考える。こうして彼らは自分の重荷をほとんど負う力もなく、心配しながら人生を通る。彼らは何もかも思い通りにならないためにしょっちゅう不平をいったり怒ったりする。9

感謝しない子供たちは天国にはいることができない わたしは、サタンが青年たちの頭脳をくも

らせて、彼らが神のことばの真理を理解することができないようにしていることを示された。青年たちの感覚が非常に鈍らされているために、彼らは聖使徒の次の忠告をかえりみることをしない。

「子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。『あなたの父と母とを敬え』。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、『そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう』。」「子たる者よ、何事についても両親に従いなさい。

これが主に喜ばれることである。」「両親を敬わず、彼らに従わない子供たちは、新しくされた世界にはいることはできない。きよめられた新しい世界には、反逆的な、不従順な、感謝の心のないむすこや娘のための場所はない。こういう子供たちは、地上で服従し従順であることを学ばなければ、決してそれを学ぶことがない。あがなわれた者たちの平和は、不従順で粗暴な強情な子供たちによって傷つけられることはない。律法を犯す者はだれも天の王国を継ぐことはできない。10

愛が表わされなければならない わたしは親に示す愛情を少しも持たないように見える子供たち、

当然親が受けるべき、また受けたら感謝するはずの愛情と親愛の情の表われを彼らに示さないで、自分の好む人に愛情と愛撫を浴びせかける子供たちを見た。これは神が望んでおられる状態であるうか。いいえ、決して。ありったけの日の光、愛の光、愛情の光を家庭の中に持ち込みなさい。あなたがたの父母があなたがたの与えるこうした小さな心づかいを感謝するだろう。親の重荷を軽くし、怒りや忘恩のことばを押えることは、あなたがたが思いやりのない子供ではないこと、あなた

がたが無力な幼子の時や子供の時に受けた愛と配慮を感謝していることを示す。 11

子供たちよ、母親たちがあなたがたを愛することは必要なことである。さもなければあなたがたは非常に不幸であろう。子供たちが親を愛し、快活な表情、気持ちのよいことは、ほがらかな心からの協力、屋外で父親を、屋内で母親を手伝うことによってその愛情を示すことも正しいことではないであろうか。 12

したことはイエスにしたものと考えられる もしあなたがたがほんとうに悔い改めていたなら、

あなたがたがイエスの子供であつたなら、あなたがたは両親をうやまうであろう。あなたがたは親が言いつけることだけをせず、彼らを助ける機会を見張るであろう。こういうことをするとき、あなたがたはイエスのために働いているのである。イエスはこうした世話や思いやり深い行為を、自分になされたものとお考へになる。これは非常に重要な伝道の働きである。日常生活の小さな事に忠実な者は、貴重な経験を得ているのである。 13

1、1 T・三九五、三九六ページ  
2、S・一八八八年七月一三日  
3、2 T・八、八ページ  
4、P P・三〇八ページ  
5、3 T・二三二ページ  
6、R H・一八九二年一月一日  
7、1 T・二一七、二一八ページ

8、青年への使命・三三一ページ  
9、1 T・三九二、三九三ページ  
10、1 T・四九七、四九八ページ  
11、Y I・一八八六年四月二日  
12、M S S・一二九・一八九八ページ  
13、Y I・一八八四年一月三〇日



## 第五章

### 子供たちへの勧告

早くから神をたずね求めよ 子供や青年は早くから神をたずね求めるべきである。なぜなら幼い時の習慣や印象はその人の生涯や品性に強力な影響を及ぼすことが多いからである。だから、サムエルやヨハネや、特にキリストのようになりたいと思う青年たちは、最も小さな事にも忠実でなければならぬ。また悪い事を考えたりこの世における自分の生活は快樂と利己的な耽溺(たんでき)の生活であるべきだと思つてゐる友人から離れなければならない。家庭のこまごました仕事の多くが重要視されずにおろそかにされているが、小さな事がらがおろそかにされるなら必ず大きな事からもおろそかにされる。あなたがたは純潔で、健全で、高貴な品性を持つ完全な男女になりたいと望んでおられることと思う。それなら家庭でその仕事を始めなさい。小さな務めを徹底的にきちんとしなさい。あなたがたが小さなことに忠実であるのを主がごらんになれば、もっと大きい責任をあなたがたにまかせてくださるであらう。あなたがたはどのように建物建てるか、どんな材料をそれに使用するかに注意しなければならぬ。あなたがたがいま形造つてゐる品性は永遠と同様に恒久的なものである。

あなたがたの頭脳、あなたがたの心、あなたがたの愛情をイエスに占有してもらいなさい。そして家庭の務めを忠実に果たし、小さな自己犠牲の行為や親切な行ないをなし、時間を忠実に使い、小さな罪に注意深く警戒し、ささやかな祝福に対して感謝の心を持つて、イエスのように働きなさい。そうすればあなたがたはヨハネやサムエルに与えられたようなあかし、特に「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人にと愛された」とイエスに与えられたようなあかしを最後に得るであらう。 1

「あなたの心をわたしに与えよ」 主は若い人たちに「わが子よ、あなたの心をわたしに与えよ」

よと仰せになる（箴言二三ノ二六）。この世の救い主は、若い人々や子供たちが心を主にささげるのをお喜びになる。神に忠実な者として認められる子供の大軍がいる。キリストが光の中におられたように、彼らも光の中を歩んでいるからである。彼らは主イエスを愛するので、主をよるこばせまつることが自分のよろこびとなる。彼らはしかられても腹をたてず、親切と忍耐をつくし、日常生活の重荷を負う助けになるように全力を尽くすことによって、父母の心をよるこばせる。少年時代からすでに彼らは主の忠実な弟子とみとめられる。 2

個人的な選択がなされねばならない 目をさまして祈りなさい。そして神に関する事がらにおいて

個人的な経験を得なさい。あなたがたの両親はあなたがたを教育し、あなたがたの足を安全な道に導くために努力することができが、あなたがたの心を変えることはできない。あなたがたはイ

エスに自分の心をささげ、イエスがあなたがたにお与えになった真理の光の中にあゆまねばならない。家庭生活でのあなたがたの務めを忠実に果たしなさい。そうすれば神の恵みによって、キリストが彼にあつて成長する子供になつてほしいと望んでおられる全き人に成長することが出来る。あなたがたの両親が安息日を守り、真理に従つていても、それはあなたがたの救いを保証しない。なぜなら、そこにノアやヨブやダニエルがいても「彼らはその義によつて、ただ自分の命を救うのみである」と、主なる神は言われる「からである」。

子供の時代や青年時代にも神に奉仕する経験を持つことができる。正しいと思うことをしなさい。両親に服従しなさい。彼らの忠告をききなさい。もし彼らが神を恐れ神を愛しているならば、あなたがたの魂を永遠の命のために教育し、訓練し、しつける責任が彼らに負わされているからである。両親があなたがたに与えようとする助けを感謝して受け、彼らの賢明な判断による命令によることで服従して、彼らの心をよろこばせなさい。こうすることによつてあなたがたは両親をうやまい、神の栄えを表わす者となり、またあなたがたと交わる人々の祝福となるのである。 3

子供たちよ、戦いなさい。勝利することにあなたがたは敵の上位に立つのだということを記憶しなさい。 4

**子供たちは助けを祈り求めねばならない**

子供たちは彼らを襲う誘惑・自分の思い通りにことをなし、自分の利己的な欲求を満足させようとする誘惑に抵抗するための恵みを祈り求めねばならない。彼らが生活の務めを果たすときに誠実、親切、従順であるように、また家庭での自分の責任を

遂行できるようにキリストに助けを求めるとき、キリストは彼らの単純な祈りを聞き入れてくださる。 5

イエスは子供や青年たちに、両親のもとに行くときに持つと同じ信頼感をもってご自身のもとにくることを望んでおられる。子供は空腹のときに母親や父親にパンを求めるが、それと同じように、主はあなたがたが必要なものを彼に求めることを望んでおられる。...

イエスは子供たちの必要を知っておられる。また彼らの祈りを聞くことを好まれる。子供たちに世俗と、神から思いをそらせるあらゆるものをしめ出させよう。彼らが神とひとりであること、神が心の奥底をごろんになり魂の欲求を読まれること、彼らが神と話すことができることを感じさせよう。...

子供たちよ、そのあとで自分でできないことを神にしてもらいなさい。イエスに何もかも話なさい。イエスに心の秘密をすっかり打ち明けなさい。なぜならイエスの目は魂のいちばん奥まったところをもきわめ、あなたがたの思いを開いた本のように読まれるからである。あなたがたが魂の益となる必要なものを求めたなら、それをすでに受けたと信じなさい。そうすればそれを得ることができよう。 6

**家庭の務めをよろこんでしなさい** 子供たちは、家庭でする必要のある、まただれかがしななければならぬ仕事をするることによって家庭の伝道者とならねばならない。...あなたがたは、大して重要でないように見える小さな仕事を忠実に果たすことによって真の伝道精神をもっていることを

あかしすることができ。あなたがたの道に横たわっている務めをよるこんでする気持ち、大きな重荷を負っている母親の荷をよるこんで軽くする気持ちは、あなたがもっと大きい責任をまかせられるのにふさわしい人物であることを証明するものである。あなたがたは皿洗いを楽しい仕事とは思わないが、その皿の上に盛られたごちそうを食べる特権を拒むことを好まない。あなたがたはそうした仕事があなたがたにとってよりも母親たちにとって楽しいものだと思っているのである。あなたがたは不愉快だと思ふ仕事を苦勞にやつれた母親にさせ、その間貴婦人然としていられるであろうか。へやをはき、敷物のほこりをはたき、室内をせいとしなければならぬのに、そうした仕事をおろそかにしながら、もっと大きな責任を希望することは矛盾してはいないであろうか。あなたがたが学校に行ったりたのしんだりすることをゆるされている間、母親が幾度こうした家事に心をくばらなければならぬか考えたことがあるだろうか。7

多くの子供たちは家庭の仕事が不愉快な務めであるかのようにそれをする。彼らは顔にその不快さはつきり表わす。彼らはあらを捜しては不平をいい、よるこんで事をするということはしない。これはキリストに似ないことである。それはサタンの精神である。この精神を心にいだいていと次第にサタンに似てくる。あなたがた自身が不幸になり、周囲の人々をもみじめにする。仕事をどんなにたくさんしなければならぬか、娯樂のための時間がどんなに少ないかということについて不平を言わずに、人に思いやり深くし仕事を心をこめていていぬにいなさい。有益な仕事に時間を使うとき、あなたがたはサタンの誘惑に戸を閉ざしているのである。イエスがご自分をたのしませるために生きられたのではないことを覚えなければならぬ。そして彼のようにならなければ

ならない。この問題を宗教上の原則の一つとして、イエスに助けをいただくように求めなさい。この方面に心を働かせるとき、あなたがたは家庭において世話をする者であつたように、神の事業において責任を負う者となる準備をしているのである。あなたがたは他人によい感化を与え、その人にキリストの奉仕をするように導くことができる。 8

**母親に变化と休息を与えなさい** 子供たちに働く気持ち が 全然なく、彼らが不愉快な仕事を避けるためにありとあらゆる口実を設けるのを見ると、彼らに手伝うことをしていることはやさしい母親にとつてはむずかしいことである。子供や青年たち、キリストはあなたがたをごらんになる。彼はあなたがたの手にまかせた務めをあなたがたが怠っているのをごらんになるであらうか。あなたがたが役に立つ者になりたいと思うなら、機会はあなたがたのものである。あなたがたの第一の務めは、あなたがたに多くのことをしてくださった母親を助けることである。母親の重荷を負つてあげ、たのしい休息の日を与えてあげなさい。母親にはほとんど休日がなく、生活に変化がなかったからである。あなたがたはあらゆる楽しみや娯楽を当然の権利として主張したが、今度はあなたがたが家庭の中に日の光を照らすときがきた。克己的な献身によつて母親に休息と楽しみを与えなさい。 9

**現代のダニエルへの神の報酬** 現在ダニエルのように物事を恐れずにやる人が必要である。今日の社会は、純潔な心と強い恐れを知らない手が要求されている。神は人が絶えず向上し、一日ごと

にさらに高い標準に達するように意図された。私たちが自己を助けるために努力すれば、神は私たちを助けてくださる。二つの世界における幸福の希望は、一つの世界において私たちが向上することにかかっている。……

愛する青年がた、神は神の恵みによってあなたがたができる仕事を遂行するように求めておられる。「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。」神から与えられた男性として女性としての特質をそなえた者となりなさい。ダニエルと比較できるようなきよい嗜好、食欲、習慣を示しなさい。神は報いとしてあなたがたに落ち着いた神経、明晰な頭脳、そこなわれない判断力、鋭い知覚力を与えてくださるであろう。今日、堅固なゆるがない主義を持つ青年たちは、身体と頭脳と魂の健康に恵まれる。 10

**過去のつぐないを今から始めよ** 青年たちはいま彼ら自身の永遠の運命を決定しつつある。わたしはあなたがたに、「主が賜わる地で、あなたがたが長く生きるためである」という約束を添えておられるいましめを考慮するように訴えたい。子供たち、あなたがたは永遠の生命を望んでおられるだろうか。もしそうならば、両親を尊敬しなさい。両親の心を傷つけたり悲しませたり、あなたがたに関する心配や苦勞で眠れぬ夜をすごさせてはならない。親を愛さず彼らに服従しないで罪を犯したことがあるならば、今から過去のつぐないをし始めなさい。あなたがたにはこれ以外とる道はない。なぜなら、これ以外の道は永遠の命を失うことを意味するからである。 11

アドベンチスト・ホ - ム

6	5	4	3	2	1
、	、	、	、	、	、
Y	R	M	Y	青	Y
I	H	S	I	年	I
・	・	S	・	へ	・
一	一	・	一	の	一
八	八	一	八	使	八
九	九	九	九	命	八
二	六	・	三	・	六
年	年	一	年	三	年
一	一	八	八	三	一
一	一	八	月	三	一
月	月	七	一	ペ	月
一	一	年	七	I	三
七	七		日	ジ	日
日	日				

11	10	9	8	7
、	、	、	、	、
同	同	同	同	Y
・	・	・	・	I
一	一	一	一	・
八	九	八	八	一
九	〇	九	八	八
三	三	三	四	九
年	年	年	年	年
六	七	三	一	三
月	月	月	月	月
二	九	二	三	一
二	日	日	〇	日
日				



第一二部

家庭生活の規準



## 家庭管理

**両親のための指針**      世の中の多くの人々は物質に愛着をもっている。そうした物はそれ自体決して悪いものではないが、彼らの心はそれで満足して、キリストが彼らに与えようとしている、より偉大な、より高貴なよいものを求めようとしない。もちろん私たちは、彼らがたいせつにしているものを乱暴に奪いとってはならない。彼らに真理の美しさと尊さを示しなさい。キリストとキリストの美しさを見るように導きなさい。そうすれば彼らは、キリストから彼らの愛情をそらすあらゆるものから離れるであろう。両親はこの原則に従って子供を教育しなければならぬ。幼い者を取り扱うその方法によつて、彼らはキリストの恵みによつて子供たちの品性を永遠の命のために形づくることができる。<sup>1</sup>

父親と母親は、子供たちが神の力と結合した人間の努力によつて形成し得る最も完全な品性をもった者となることができるように、それを彼らの生涯の研究課題としなければならない。彼らはこの世に子供を生んだときに、この重要な責任のある仕事を受け入れたのである。<sup>2</sup>

規則は家庭を治めるのに必要である

どのクリスチャンの家庭にも規則がなければならぬ。また両親はことばやお互いに対する態度によって、彼らが子供たちに将来なつてほしいと望んでいる人物の尊い生きた模範とならなければならぬ。……子供たちに自己を尊重し、神に対して主義に対して忠実であるように教えなさい。神のおきてを尊びそれに従うことを教えなさい。そうすればそれらの原則は彼らの生活を支配し、他人と交わるときにも実践されるであらう。 3

聖書の原則を守らなければならない

家庭管理の基礎となつてゐる原則がおろそかにされることがないように、たえず警戒する必要がある。主は、地上の家族が天の家族の象徴となるように計画された。地上の家族が正しい方針に従つて治められてゐるとき、教会にも同じようにみたまによるきよめが与えられる。 4

両親は、家庭に存在すべきものと神が計画された原則を正しく代表できるように、幼い子供のよくに、悔い改めて神のみこころに従ふということが何であるかを知り、心の思いをとりこにしてイエスのみこころに従わせなければならない。 5

神ご自身が家族関係を造られた。子供を治めるとき唯一の安全な指針は神のみことばである。

人間の学問は、神が知つておられないことを発見したことはない。また、子供を取り扱うのに、私たちの主がお与えになつた計画にまざるものを考案したことはない。だれが子供を創造されたおかた以上に、彼らの必要をよく理解することができるであらう。だれがご自分の血で彼らを買ひとられたおかた以上に、彼らの幸福について深い関心を感じることができであらう。神のことばを注

意深く研究して忠実にそれに従うとき、悪い子供の不行跡を悲しむ人は少なくなるであろう。 6

**子供の権利を尊重せよ** 子供たちには尊重すべき権利があることを記憶しなければならない。 7

子供たちは権利を持っている。両親はそれを認め、それを尊重しなければならない。子供たちは、彼らを有用な、尊敬に値する、愛すべき社会の一員にし、さらに、未来の純潔な、きよい社会にはいる道徳的な資格を与えてくれる教育と訓練を受ける権利がある。若い者たちの、現世及び未来の幸福は、彼らが子供時代や青年時代に形成する習慣に大部分かかっていることを教えなければならない。彼らは早くから、服従と自己犠牲に慣れ、他人の幸福に対して関心を持たなければならない。短気を押え、激しいことばを吐かずにそれをのみ込み、いつも変わらない親切心、礼儀正しさ、自制を表わすように教えられなければならない。 8

**盲目的な愛に欺かれている両親へ** あなたがたは盲目的な愛や浅薄な愛情の表現を真の愛情だと

考え違いしている。抱擁することはやさしいことである。しかし子供が完全な服従をして、その抱擁が価値のあるものであることが証明されないかぎり、それを奨励すべきではない。あなたがたの甘やかしや神の要求に対する無関心は実際は非常な無慈悲なのである。あなたがたは「むすこはわしたちを愛しているから」と言って不従順を助長し許容する。そういう愛情は浅薄な、欺瞞的なものである。それは全然愛情ではない。家庭ではぐくまれるべき愛、真の愛情は価値のあるものである。なぜなら、それは服従によつて証明されるものだからである。……

もしあなたがたが子供たちの魂を愛しているのなら、彼らを正しい状態に導きなさい。しかし多くのせつぷんと愛情のしるしがあなたがたの目を盲目にしている。そしてあなたがたの子供たちはそれを見ぬいている。抱擁やせつぷんといった外面的な表われを少なくともして、物事を根本まで掘り下げ、子としての愛情はどんなものから成り立っているかを示さなければならぬ。あなたの命令が服従され尊重されていないかぎり、こうした愛情の表現をごまかし、欺瞞と考えて、それをこばまなければならぬ。 9

**盲目的な愛も必要以上のきびしさも示すべきではない** わたしたちは盲目的な愛におぼれてはならないが、必要以上のきびしさも示すべきではない。子供たちを力で主のもとに連れていくことはできない。彼らを導くことはできるが、迫りやることはできない。キリストは、「わたしの羊はわたしの声を聞く。わたしはわたしの羊を知り、彼らはわたしに従う」と仰せになっている。キリストは、「わたしの羊はわたしの声を聞いて、強制的に服従の道を歩かされる」とは仰せにならない。子供たちを取り扱うときに、愛を示さなければならぬ。親はきびしすぎたり、不合理な要求をして子供たちに苦痛を与えるようなことは決してしてはならない。かこくなきびしさは魂をサタンのおみの中に追いやる。 10

権威と愛の力が結合していれば、家庭をしつかりと同時にやさしく治めることができる。神の栄えとわたしたちの子供が神に対して負っているものにひたすら心を注ぐとき、わたしたちは手ぬるさや悪を許容することから守られる。 11

服従させるために厳格である必要はない 服従させるために厳格でなければならぬ……とだれ

も考える必要はない。わたしはきびしいことばを語ったり厳格な表情を全然見せずに非常にりっぱに家族を治めている家庭を見たことがある。また、いかめしい口調で絶えず命令を与え、激しい譴責やきびしい罰をたびたび与える家庭にもいったことがある。前者の家庭では子供たちは親のいき方にならって、お互いに対してきびしいことばを語ることはほとんどなかった。後者の家庭では子供たちは親の手下に従い、朝から晩まで、不きげんなことばやあらさがしや言い争いが聞かれた。12 おどしたり、恐怖を起こしたり、魂から愛情をなくさせるようなことばは言わずにひかえなければならぬ。賢明でやさしい、神をおそれる父親は、家庭に奴隷が持つような恐怖でなく、愛の要素をもたらす。わたしたちが命の水を飲むなら、その泉は甘い水をわき出させ、苦い水は出すことはない。13

きびしいことばは子供の気分をそこない、心を傷つける。その傷をいやすことがむずかしいことがある。子供はどんな小さな不公平にも敏感である。ある子供は不公平な扱いを受けて失望し、どんなに大声や、怒り声で命令しても聞かず、罰を与えるとおどしても全く無関心になる。14

小さなことをきびしく批判しすぎる危険がある。批判がきびしすぎたり、規則が厳格すぎると、どの規則も無視されるようになる。こういうふうな育てられた子供たちは、次第にキリストの律法をもうやまわなくなる。15

一貫した堅固さ、冷静な自制が必要

子供たちは敏感な、やさしい性質を持っている。彼らは簡

単によるこんだり悲しんだりする。母親は、やさしいことばや行為で穏やかにしつけをして、彼らを自分の心に結びつけることができる。子供たちにきびしくしたりかこくにすることは大きなまちがいである。どの家庭でもしつけには一貫した堅固さと冷静な自制が必要である。あなたがたが言おうとしていることを落ちついて言い、思慮深く行動し、言ったことは変更せずに実行しなければならぬ。

子供たちと交わるときに愛情を示せば、それだけの報いを得ることができる。子供たちの無邪気な遊びやよろこびや悲しみに対する理解の不足によって彼らに不愉快な気持ちを与えてはならない。まゆをしかめたり、きびしいことばを口から出してはならない。神はそうしたことばを全部記録のふみに記入される。 16

**抑制や注意が不十分** 愛する兄弟がた、一つの教会として、あなたがたは子供や青年たちに対する義務を非常に怠っている。彼らに規則や制限が与えられているが、あなたがたの品性の悪い面ではなく、キリストのような面を示すように大いに注意を払う必要がある。子供たちには絶えず見守ることと、またやさしい愛が必要である。彼らをあなたがたの心に結びつけなさい。そして彼らにいつも愛と神に対する恐れとを示しなさい。父親や母親たちは彼ら自身の精神を抑制しないから、他人を治める資格がない。子供たちを押え、彼らに忠告を与えるだけが要求されているすべてではない。あなたがたは公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたがたの神と共にあゆむことを学ぶ必要がまだある。 17



強情な子供を持つ母親への忠告

あなたの子供はあなたのものではない。あなたの娘は主のものであるから、あなたの思い通りに扱うことはできない。娘をしっかりと、忍耐強く支配しなさい。彼女が神のものであることを教えなさい。こうした教育を受ければ、彼女は成人になってから周囲を祝福する者となるであろう。あなたの娘があなたがたの両方を支配し、自分の意思ややり方を通して、自分の好み通りに事をする傾向を押えることができるようになるためには、明快な、鋭い識別力が必要である。 18

安定した変動のない支配

わたしは、相談と意見の一致によってすべてのことが調和を保ちながらぐあいよく動くはずであるのに、家庭の主人が権力をふるいすぎるために破船した家庭をたくさん見ている。 19

家庭の治め方が不安定で変わりやすければ大きな害を招く。事実、それは家庭を治めないのと同じように悪いことである。宗教的な親の子供は往々にして強情で、ごうまんで、反抗的なのはなぜであろうかという質問をよく耳にする。その理由は家庭教育の中に見いだすことができる。家庭を治める時に両親が一致していないということが非常に多い。 20

衝動的な治め方 あるときにはきびしくし、あるときには禁じていることを許容するようなやり方は、子供を破滅させる。 21

親と子供の共通の律法

神はわたしたちの律法の賦与者、王であられるから、親は、自らを神の

律法のもとに置かねばならない。この律法のもとでは親は圧迫することを禁じられ、子供は不服従を禁じられている。主はいつくしみと、あわれみとまことに満ちておられる。主のおきてはきよく、正しく良いものである。親も子供もそれに服従すべきである。親と子供の生活を治めるべき律法は無限の愛の心から出ている。そして神のゆたかな恵みは、家庭で神の律法を守らせる親とこの律法に従う子供たちの上にそそがれる。あわれみと正義の結合した影響が感じられなければならない。「いづくしみとまことは共に会い、義と平和とは互に口づけ（する）」。「こういう秩序のもとにある家庭は、義と公平を行なうために、主の道をあゆむ。」

22

1、M S S・四・一八九三年  
2、F C・六七ページ  
3、L・七四・一八九六年  
4、M S S・八〇・一八九八年  
5、R H・一八九四年三月一三日  
6、S・一八八一年一月二四日  
7、L・四七A・一九〇二年  
8、F C・六七ページ  
9、L・五二・一八八六年  
10、R H・一九〇一年一月二九日  
11、M S S・二四・一八八七年

12、S・一八八六年三月一日  
13、L・八A・一八九六年  
14、3 T・五三二ページ  
15、M S S・七・一八九九年  
16、3 T・五三二ページ  
17、4 T・六二二ページ  
18、L・六九・一八九六年  
19、4 T・一二七ページ  
20、S・一八八二年二月九日  
21、L・六九・一八九六年  
22、M S S・一三三・一八九八年

## 第五三章

# 一致協力

家庭管理の責任は分担すべきである

父親と母親は、子供を正しく導くという重大な責任を協力

し祈りながら負わねばならない。 1

両親は一体となつて働かねばならない。分裂があつてはならない。だが多くの親は反対の目的のために努力している。そして、子供たちは誤った管理のためにそこなわれている。……母親と父親のうち、どちらかが甘く、どちらかがきびしすぎるといふことがときどきある。この相違は子供の品性の形成に悪い影響を及ぼす。矯正するときに、荒々しい力を行使してはならない。だが、弱い甘やかし方をしてもらならない。母親は子供の欠点を父親にかくしてはならない。また父親が禁じていることを子供たちにさせるような影響を与えてはならない。父親のやり方がよいかどうかということについて、母親は子供の心の中に疑惑の種を一つでもまいてはならない。彼女は行動によって、父親の働きをむだにしてはならない。 2

父親と母親が対立して互いに相手の働きを打ちこわすならば、家庭は混乱した状態に陥り、父親も母親も、よく管理された家庭になくしてはならぬ尊敬と信頼を受けることはない。……子供たちは

家庭のきまりや規則、特に彼らの行動を制限する規則に影響を与えるものは、どんなものでもすばやく認める。3

父親と母親は子供のしつづけに協力しなければならない。どちらも、力の許す限り、健康なからだとよく発達した品性を子供たちに確保するような方法で彼らを訓練する厳粛な責任を神に負っていることを認めて、この責任を分担しなければならない。4

**どのようにして偽りを教えるか** ある甘い母親たちは、一時も許すべきではない悪を子供が持つていても、それを大目に見る。また、それを父親にかくすことがある。父親に言えば、そうしたものに對して小言を言うであらうから、それについては沈黙を守るという了解のもとで、母親は衣服やその他のわがままをかなえてやる。

ここで偽りが効果的に子供に教えられる。そして父親がそのことを発見すると、言いわけをしたり、真実を半分しか語らない。母親はありのままを語らない。父親が自分と同じ関心を子供に對してもっているということ、まだ若いときに除かねばならない悪や誘惑のたねとなるものを子供が持っていることを彼が知らずにいてはならないということを彼女は十分に考えずに、いろいろの事をかくしておく。子供は両親の間に一致がないことを知る。それは彼らに影響を及ぼす。子供は若い時から、父親をも母親をもあざむいたり、かくしたり、違った考え方によって物事を話すようになる。誇張することが習慣となり、罪悪感や良心のかしやくをほとんど感じずに無神経なうそを言うようになる。

こうした悪は、母親が、子供が形成する品性に関して彼女と同じ関心を持つ父親にいろいろの物をかくすことから始まった。彼女は父親に遠慮なく相談すべきであった。どんな事も彼に包みかくさず語るべきであった。だが、子供の持つている悪をかくすためにとられた反対の行動は、人を欺く性質や、不誠実と不正直を助長させる。5

クリスチャンである両親の間に、子供をしつけるとときに協力するという定まった原則がなければならぬ。この点において欠陥のある親、すなわち一致がみられない親がある。父親のほうにあまりがある場合もあるが、母親があやまっているほうが多い。甘い母親は子供をただかわいがったり、甘やかしたりする。父親は仕事の関係で家にいたり、子供と交わる時間が少ない。だから母親の感化がものをいうのである。彼女の手本は、子供の品性の形成に大きな影響を及ぼす。6

### 親の不一致のために困惑する子供

家庭という会社はきちんと組織されていなければならない。

父親と母親は彼らの責任を共に考え、明白な理解をもって彼らの務めを行なわなければならない。彼らの間に不一致があつてはならない。父親も母親も、子供たちの前で決して相手の計画や判断を批判してはならない。

母親が神についての知識に未熟な場合、彼女は原因から結果を推論して、父親が子供の救いのために努力しているときに、自分のしつけ方が彼の困難を増してはいないかをみきわめなければならない。「わたしは主の道に従っているであろうか？」という質問が最も重要な質問とならなければならない。7

どうしても一致できない場合、意見の一致に到達できるまで、親は子供の前にいるべきではない。家庭を治めるときに両親が一致していないということがよくある。子供たちといっしょにいることが少なく、彼らの特徴や気質を知らない父親は厳格できびしい。彼は自分の気分を押えずに、感情でしかる。子供はそのことをよく知っていて、いつけ通りにしない。そして罰を受けると怒りで満たされる。母親は子供が悪い事をするとき、時には大目に見、時にはきびしく罰する。子供は何を予期しているのかわからないので、罰を受けずにどこまで悪いことができるかやってみようという誘惑を受ける。こうして悪の種がまかれ、それが芽を出して実を結ぶ。 9

もし両親がしつけの点で一致しているならば、子供は何を要求されているかを知ることができる。しかし、もし父親がことばや表情で、母親のしつけ方に賛成しないことを示したり、母親がきびしすぎるから、甘やかしたり、かわいがったりすることによってそのきびしさをおぎなわなければならないと考えるならば、子供はそこなわれてしまう。子供は自分のしたいと思う通りに物事をする事ができるということをもまもなく知る。子供に対してこういう罪を犯す親は、彼らの魂を滅ぼした責任を負わされている。 10

天使たちは、子供が親や保護者や友人によって、どのように扱われているかを見るために、あらゆる家庭を深い興味をもって見守っている。彼らは父親と母親が一致していない家庭で、なんという奇妙なあやまちを見ることであろう。父親と母親の声の調子、表情、ことばはすべて彼らが子供のしつけの点で一致していないことを表わしている。父親は母親を非難し、幼い者に対する母親のやさしさや愛情を軽視するように子供を仕向ける。母親は母親で、父親はきびしすぎて気が短いか

ら、父親の影響をもみ消すために、子供たちに愛情をふりまき、彼らを満足させ甘やかさねばならないと考える。 11

多くの祈りと冷静な反省が必要である 神のみこころに意志と気持ちを従わせないかぎり、家庭でも、愛情は長続きしない。すべての能力と感情をイエス・キリストの特性に一致させなければならぬ。父親と母親が家庭で権威をもつために神に対する愛と恐れをもって関心を一つにするならば、彼らは多く祈り、冷静に反省する必要があることを認めるであろう。そして彼らが神を求めるときに、目が開かれて、信仰の祈りに答えて彼らを守るために天の使いがいることを見るであろう。彼らは品性の欠点に打ち勝って、完全へ進むであろう。 12

愛という絹の糸で心が結ばねばならない 父親や母親がた、あなたがたの心は一つに結ばれてびつたりとした、幸福な状態になければならない。だんだん離れていくことのないように、ますます密接に互いに結びつきなさい。そうしたときに、あなたがたは子供の心を愛という絹の糸で自分の心に結びつける準備ができたのである。 13

現世および未来のために種をまき続けなさい。全天が、クリスチャンの両親の努力を見守っている。 14

1、C T・一二七ページ  
2、R H・一八九七年三月三〇日

3、R H・一八九四年三月一三日  
4、P H J・一八九〇年四月

# アドベンチスト・ホ - ム

9 8 7 6 5  
、 、 、 、 、  
S R M 同 1  
・ H S ・ T  
一 ・ S 一 ・  
八 一 ・ 五 一  
八 八 七 六 五  
六 九 九 ペ 六  
年 七 ・ I 、  
三 年 一 ジ 一  
月 三 九 五  
一 月 O 七  
一 三 一 ペ  
日 O 年 I  
日 日 ジ

1413 1110  
、 、 12 、 、  
R R 、 R R  
H H M H H  
・ ・ S ・ ・  
一 一 S 一 一  
八 八 ・ 八 八  
九 九 三 九 九  
一 一 六 四 九  
年 年 ・ 年 年  
九 九 一 三 六  
月 月 八 月 月  
一 一 九 一 二  
五 五 九 三 七  
日 日 年 日 日



## 第五四章

# 家庭の宗教

### 家庭の宗教の定義

家庭の宗教とは、子供を主の薫陶と訓戒とによつて育てることである。家族の者はひとり残らずキリストの教えによつてはぐくまれるべきである。サタンが子供たちをあざむきまどわして、キリストから離れさせることのないように、ひとりひとりの魂の利害を嚴重に見守らなければならない。これはすべての家庭が到達することを望み、到達することに失敗したり、失望したりすることがないように決心しなければならない標準である。親が子供の教育を熱心に怠りなくし、神のみさかえを表わすことにひたすら心を用いて子供を訓練すれば、彼らは神に協力しているのである。そして神もまた、キリストがそのために命を捨てられた子供たちの魂を救うことに協力してくださる。1

宗教教育は、一般教育よりもはるかに多くのことを意味する。それはあなたがたが子供たちといつしよに祈つて、イエスにどのようなように近づいて心の願いを告げるべきかを教えることを意味する。イエスがあなたがたにとつてすべてであられること、イエスの愛があなたがたを忍耐深く、親切で、寛大なものになっていることを、あなたがたの生活によつて示し、同時に、アブラハムのように、子

供たちにあなたがたの命令を厳格に守らせる者であることを示すべきことを意味している。 2

家庭生活におけるあなたがたの行動は、そのまま、天の記録書に記録される。天の聖徒になりた  
いと思う者は、まず自分の家庭で聖徒とならなければならない。父親や母親が家庭で真のクリスチ  
ヤンであれば、教会でも役に立つ教会員であり、教会や社会の問題を、家庭の問題と同じ方法で処  
理することができる。両親がた、あなたがたの信仰が単なることば上のものではなく、実のあるも  
のとなるようにしなければならない。 3

**宗教は家庭教育の一部でなければならない** 家庭の宗教は非常におろそかにされている。人々は

外国伝道に多くの関心を示す。彼らは神のみわざに多額の献金をすれば、家庭で正しい手本を示さ  
なくとも、そのつぐのいになると考えて、惜しみなく献金し、そして良心を満足させようとする。  
だが家庭は彼らの特別の伝道地であるから、この伝道地をおろそかにしては、どんな言いわけも神  
に受け入れられない。 4

家庭で宗教が実践されていれば、大きな善が成し遂げられる。宗教は神が家庭でなされるように意  
図された仕事をするように親を導く。彼らは子供を主に対する恐れと主の薫陶とによって育てる。 5

今日の若い者たちが宗教的な傾向をあまり示さないのは、彼らの教育に欠陥があるからである。  
子供たちに欲望をほしいままにすることを許し、あなたがたの規則を守らなくとも処罰しないとき  
に、あなたがたは真の愛を彼らに示していないのである。木は、小枝のときにまげられた方向への  
びる。 6

もし宗教が社会に影響を及ぼさねばならないのであれば、まず、家庭にその影響を及ぼさなければならぬ。もし子供たちが家庭で神を愛し神を恐れるように訓練されたなら、彼らが社会に出て行ったときに彼ら自身の家族を神のために訓練する準備ができているはずであり、そのことによつて真理の諸原則が社会に植えつけられ、世に強力な影響を及ぼすはずである。家庭教育から宗教を切り離すべきではない。 7

**家庭の宗教は教会に先行する**      教会の繁栄の基礎は家庭でできずかれる。家庭を支配している影響力は教会生活の中に持ち込まれる。だから教会の種々の義務はまず家庭で始められなければならない。 8

家庭の宗教がしっかりしていれば、教会の宗教は非常にすぐれたものとなる。家庭のとりでを守りなさい。あなたがたの家庭を神にささげなさい。それから家庭でクリスチャンにふさわしい言行動作をしなさい。あなたがたが教師であることを覚えて、家庭で親切で寛大で忍耐強くなければならない。母親はみな教師であるから、どの母親も、どのように教え、どのように正しい手本を示し、どのように子供の品性を正しく形成するかを知ることができるように、キリストの学校で学ばなければならぬ。 9

家庭に宗教がなければ、信仰を持っていると公言しても、無意味である。……多くの人々は、キリストの再臨の時に品性が変えられると思つて自らをあざむいているが、キリストが現われたもうときには、心の改変は行なわれない。私たちの品性の欠点は、この地上で悔い改めなければならぬ

い。そしてキリストの恵みによつて恩恵期の間にそれらに勝利しなければならない。この地上は、天の家族の一員となる準備をする所である。 10

家庭における宗教が大いに必要である。家庭内においてわたしたちの語ることばが正しい性質のものでなければ、教会でどんなあかしをたててもなんにもならない。家庭において柔和と親切と礼儀を示さなければ、わたしたちの宗教は無意味である。家庭における宗教がもっと真実なものであれば、教会にはもっと力があるであろう。 11

**宗教教育をおくらせることは恐るべき誤りである**

子供たちが神を知らないままに育つことは実

に悲しむべきことである。 12

子供たちが将来よくなるだろう、年をとれば自分から宗教経験を切望するようになるだろうと考えて、子供たちに宗教教育をほどこす仕事を怠るとき、親は重大な誤りを犯している。心に真理と愛と天にふさわしい特性の種をまかなければ、サタンが心の畑に毒麦の種をまくということがわからないであろうか。 13

親がクリスチャンの義務を負わせるのは早すぎると考えて、子供たちが宗教を持たずに成長することがよくある。……

宗教的な事ごとに關する子供の義務の問題は、彼らが家族の一員である間に、無条件にちゅうちよすることなく決定すべきである。 14

親は神の代わりに、子供に何をすべきであり、何をすべきでないかを、しっかりと、冷静に教え

なければならぬ。子供のために冷静に、親切な心でなされた努力は、彼らの品性の中に堅固さと決断力の要素をはぐくむ。……父親や母親は、子供たちが盗むことなどを考えないと同様に、安息日を犯したり、宗教的な礼拝や家庭礼拝を怠ることを考えることのないように、この問題を早くから解決しておく義務がある。親は自らの手で防壁を築かねばならない。15

キリストの教えられたとおりの賢明な教育をごく幼ない時から始め、これを実行しなければならぬ。子供たちの心がまだ柔らかいうちに、永遠の事柄について教えなければならない。親は、自分は神の前に生活し、語り、行動していることを覚えなければならない。16

両親がた、あなたがたはどんな道をとっているであろうか。宗教的な問題に関しては子供を全然拘束してはならないという考えに基づいて行動しているであろうか。子供や青年時代に勧告や訓戒を全然与えずに放任しているであろうか。彼らに自分の思い通りのことをさせているであろうか。もしそうならば、あなたがたは神が与えたもうた責任を怠っているのである。17

### 子供の年令にあつた教訓を与えよ

子供たちが理解できるようになったら、親はさつそく彼らがベツレヘムの赤ちゃんについての尊い真理を知ることができるように、イエスの物語を話してきかせなければならぬ。子供たちの年令と能力に適した簡単な信仰感情を彼らの心に印象づけなさい。祈りのうちに子供たちをイエスのもとに連れて行きなさい。イエスは彼らがことばを学ぶように宗教をも学ぶことができるようにしてくださっているからである。18

子供たちは、ごく幼いときに、天来の影響に感化されやすい。主はそうした子供たちを特別にか

えりみられる。彼らが主の薫陶と訓戒とによって育てられるとき、彼らは親のじゃまにならずに助けとなる。 19

**両親は協力して家庭の宗教を育てなければならない**  
ある。 20

家庭の宗教を維持する責任は父親と母親に

母親は、家族の霊的必要性のために時間をさくことができないほどたくさんの重荷を負ってはならない。親は彼らの働きに神の導きがあるように祈るべきである。神の前にひざまずくとき、彼らは自己の重大な責任について真に理解することができ、また、そこで誤った忠告や指示を決して与えることのない神に、自分の子供たちをゆだねることができる。...

家庭の父親は、霊的教育をほどこす責任を、全部母親にまかせてはならない。父親と母親によって大きな仕事がなされなければならない。彼らは、子供たちを重大なさばきのために準備するにあたって、おのおのの役割を果たすべきである。 21

両親がた、子供たちをいっしょに宗教的な集まりに連れていきなさい。あなたがたの信仰の腕で彼らを抱いてキリストにささげなさい。彼らを正しく教育するというあなたがたの責任を、どんなことがあってもすててはならない。世俗的な興味にひかれて、彼らを家に残しておくようなことを決してしてはならない。あなたがたのクリスチャン生活が彼らをあなたがたから離れさせることがあってはならない。彼らをいっしょに主の所に連れていきなさい。天来の真理を知ることができるように彼らの心を育てなさい。神を愛する者と交わらせなさい。あなたがたが永遠にふさわしい品性

を形成するのを助けようと努力している子供として、彼らを神の民のところに連れていきなさい。22  
家庭の宗教　その成し遂げ得ないものがあるであろうか。それは神が家庭でなされるよう意図しておられる働きを成し遂げるであろう。子供たちは主の訓戒と薫陶によって育てられるであろう。彼らは世俗に熱心な者とはならず、神の家族の一員となるであろう。23

子供は親に矛盾のない生活を望む　あらゆるものが若い心に印象を残す。子供は顔色を見る。声音から影響を受ける。また態度をまねる。いらいらする、怒りっぽい父親や母親は、やがて後になつてできることならどんなことでもして忘れさせたいと望むことを教えている。親は子供たちに、彼らの信仰に一致した矛盾のない生活を示さなければならぬ。自制をし矛盾のない生活をするこ  
とによつて、親は子供たちの品性を形成することができる。24

神はよく治められている家庭を尊ばれる　家庭で神を第一にし、子供たちに神を恐れることが知恵の始まりであることを教え、よく治められ、よく訓練された家族、神にさからう代わりに神を愛し神に従う家族を示す父母は、天使と世の人々に神の栄えを表わす。彼らの家庭ではキリストは見知らぬお方ではない。キリストの名前は尊敬され、あがめられる家庭の名前である。天使たちは神が支配しておられる家庭をよろこぶ。そしてこういう家庭では、子供たちは宗教と、聖書と、彼らの造り主を尊重するように教えられる。こういう家族は「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊（ぶ）」  
という約束を主に果たしていただくことを要求することができる。25

キリストがどのように家庭に招き入れられるか

キリストが心のうちにおられるとき、彼は家庭の中に招き入れられる。父親と母親は、救いの嗣子である人々に力を与える天使が、教師として家庭で彼らのために働き、子供を教育する仕事のために彼らを教え訓練することができるよう、聖霊に従って生活する重要性を感じるであろう。家庭であがない主を尊びあがめる小さな教会を持つことが出来る。  
26

宗教を魅力的なものにせよ

クリスチャンの生活を魅力のあるものにしなさい。キリストの申し度たちが彼らの家庭を作ることになっている国について語りなさい。あなたがたがこうするとき、神はあなたがたの子供をあらゆる真理に導き、キリストが彼を愛する者たちのために準備しに行かれた住居にはいるにふさわしい者になりたいという望みで満たしてくださる。  
27

親は子供たちに宗教の形式を強制してはならないが、永遠の原則を魅力的な光の中で示すべきである。  
28

親は明朗さ、クリスチャンらしい礼儀正しさ、やさしい、あわれみ深い同情によって、キリストの宗教を魅力的なものとしなければならない。しかし、尊敬と服従はかく要求しなければならない。子供たちの心の中に正しい原則を確立しなければならない。  
29

わたしたちは若い者たちに、良いことをする刺激を与えなければならない。金や銀では不十分である。彼らにキリストの愛と、あわれみと、恵みを、キリストのみことばの尊さを、勝利者のよるこびを示そう。こういう努力を払うとき、あなたがたは、永遠にわたって残る仕事をしているので



ある。  
30

なぜある親たちが失敗するか

信仰的なことを口にしながら、神に仕え神に従うべきであること、便宜、楽しみ、欲望が、彼らに対する神のご要求と抵触してはならないことを子供たちに実際に示さない親がある。「主を恐れることは知識のはじめである。」この事実は生活と品性そのものの中に織り込まれなければならない。わたしたちが救われるために死んでくださったキリストについての知識を通して得られる神についての正しい概念を子供たちの心に印象づけなければならない。31

両親がた、あなたがたはこれを全部する時間がないとお考えになるかもしれないが、家族のためにあなたがたの仕事をする時間をつくらなければ、サタンが足りない分を補足するであろう。この働きをする妨げとなるものをいっさい生活から除いて、神のご命令に従ってあなたがたの子供を教育なさい。世俗的な性質のものはどんなものでもおろそかにしてよい。節約した生活で満足なさい。だが、キリストのためにあなたがたとあなたがたの子供たちの宗教教育をおろそかにしてはならない。  
32

家族の全員を神にささげなければならない

過越の祭りについてモーセが与えた注意は、多くの意味を含んでおり、今日の親や子供にもあてはまる。……

父親は家族の祭司とならなければならない。もし父親が死んでいたら、生きている長子が、入口の柱に血を塗るという厳粛な行為をしなければならなかった。これは各家庭でなされなければ

ならない務めの象徴であった。親は子供たちを家の中に集めて、彼らの過越のいけにえとしてのキリストを子供たちに示さなければならぬ。父親は彼の家庭の中にいる者をみなキリストにささげ、過越の祭りが象徴している務めをなさなければならぬ。この厳粛な務めを他人の手にまかせることは危険である。 33

クリスチャンである両親は神に忠実であることを決心しなければならない。そして子供たちを家の中に集め、滅びの天使が彼らの大切な家族を通り過ぎるように、彼らを保護し救い得る唯一の方としてキリストを象徴する血を、入口の柱に塗らなければならない。世の人々に、人間の力以上の力が家庭の中に働いていることを示しなさい。親は神と生きたつながりを保ち、自分をキリストの側におき、親という器を通してどれだけ大きな善が成し遂げられるかを神の恵みによって示しなさい。 34

1、M S S・三四B・一八九四年  
2、L・八A・一八九六年  
3、M S S・五三・年代不明  
4、S・一八九九年八月二三日  
5、R H・一八九四年三月一三日  
6、2 T・七〇一ページ  
7、S・一八八六年四月八日  
8、S・一八九八年九月一日  
9、M S S・七〇・年代不明

10、S・一八九二年一月四日  
11、青年への使命・三二七ページ  
12、S・一八九四年四月二三日  
13、同・一九一二年八月六日  
14、R H・一八九七年四月一三日  
15、M S S・一九一一年八月九日  
16、R H・一八九四年三月一三日  
17、同・一八九四年三月一三日  
18、S・一九一二年八月二七日

26、 25、 24、 23、 22、 21、 20、 19、  
M S S・一〇二・一九〇一年  
同・四二四ページ  
4 T・六二一ページ  
M S・一九一二年四月三日  
S・一九一二年四月三日  
L・一九一二年四月三日  
M S・一九一二年四月三日  
S・一九一二年四月三日

34、 33、 32、 31、 30、 29、 28、 27、  
R H・一八九五年二月一日  
R H・一八九五年五月一日  
M S・一八九五年八月四日  
R H・一八九五年六月二日  
M S・一八九五年六月二日  
R H・一八九五年六月二日  
S・一八九五年六月二日  
R H・一八九五年六月二日

## 第五章

# 道德の標準

サタンは結婚制度を悪用させようとする

サタンは（洪水前に）結婚制度を悪用させて、結婚制度の義務と神聖さを弱めようと研究し努力した。なぜなら、それは彼が人間の中の神のかたちを汚損し、悲惨と悪徳への道を開く最も確実な方法であったからである。1

サタンは人間の心を扱うときに使用する材料を熟知している。彼は幾千年にもわたって、悪魔的な熱心さで研究してきたから、すべての人の品性の攻撃しやすい点を知っている。そしてバアル・ペオルであのように成功を収めた同じ誘惑で、代々、最も強い人々やイスラエルのつかさたちを敗北させることに成功した。各時代を通じて肉欲への惑溺という岩に座礁して破船した品性が散在している。2

イスラエルにおける悲劇

イスラエルに神の刑罰を招いたのは、放縱の罪であつた。人をおとしいれようとする女の積極性は、バアル・ペオルで終わらなかつた。イスラエルの罪人に刑罰がくだされたにもかかわらず、同じ罪が幾度もくり返された。サタンはイスラエルを完全に打ち負かそう

として大いに活躍した。 3

ヘブル人の放縦は、他の民族との交戦やバラムののろいによってもなし得なかったことを成し遂げた。彼らは神から離れるようになった。彼らから保護が取り除かれた。神は彼らの敵になられた。つかさや民の中で放縦の罪を犯していた者が余りにも多かったために、神は全会衆を激怒された。 4

### 歴史はくり返される

地上歴史の末期近くになると、サタンは、約束の地にはいる直前の古代イスラエルをいざなったと同じ方法と誘惑をもって全力をつくして働く。彼は神のいましめを守る人、天のカナンの国境にほとんどたどりついている人々のためにわなをしかける。彼は魂をおとし、神の民と公言する人々の弱点を利用して彼らを襲おうとして力の限り努力する。低い感情を彼らの人格のより高い力に屈服させていない者、いやしい感情の肉的な耽溺の流れに心をまかせる者を、サタンは誘惑をもつて放縦で彼らの魂を汚そうと決心している。彼は低い、それほど重要でないのを特にねらっているわけではないが、神の律法に禁じられていることをするように人々を誘惑するために、自分の代理者として使うことのできる者を通して、彼のわなを役立たせる。責任の地位にあり、神の律法の要求を教え、サタンが大いに攻撃した神の律法を擁護するために論じている人々、こういう人々に対してサタンは彼の恐るべき権力と力を働かせて、ある一点で罪を犯す者はおきての全体を犯すことになることを知って、彼の品性の弱点を利用して打ち負かし、その人全体を全く支配する。心も魂もからだも良心も、共に滅ぼされる。その人が神の使者であり、大いなる光を受けた人であった場合、あるいは、神が真理の働きにおいて彼を特別の働き人として用い

たもうた人であった場合、サタンの勝利は大きいものである。彼は狂喜し、神の栄えは非常に汚される。 5

### 不道德の慢延する現代

世の状態について恐ろしい光景がわたしの前に示された。不道德が至る所に多く行なわれている。淫蕩（いんとう）は現代独特の罪である。今日ほど悪がかくまで厚かましくその醜い頭をもたげた時代はない。人々は無感覚になっっているようであり、徳と真の善良さを愛する者たちは、悪の厚かましさと力と優勢さにほとんど気をくじかれている。おびたしい罪悪は、未信者や嘲笑者たちにのみ限られているわけではない。そうであればよいのであるが、そうではないのである。キリストを信ずると自称する多くの男女が罪を行なっている。主の再臨を待つと言っている者のある人たちでさえ、サタンと同様その事のために何の準備もしていないのである。彼らはすべてのけがれから自らを清めていない。彼らは長いこと欲望に仕えてきたので、思考がけがれ、想像力が墮落するのは当然である。彼らの心に清純で神聖なものを思わせることは、ナイヤガラ瀑布の水を逆流させるのと同じくらい不可能である。……クリスチャンはみな感情を抑制し、原則によつて支配されることを学ばなくてはならない。彼はこうしない限りクリスチャンと名乗るにふさわしくないのである。 6

恋愛病的な感傷主義が慢延している。既婚の男性が未婚あるいは既婚の女性から愛を示すふるまを受けける。女性もまた魅入られていようにみえ、理性を失い、霊的識別力や良識を失う。彼らは神のみことが罪とすること、神の霊のあかしが罪とすることを行なう。警告や譴責が率直な方

法で示されるにもかかわらず、彼らは人が前に歩いた同じ道をたどって歩く。彼らのしていることは魂を奪うゲームのようなものである。サタンは彼らを自滅の道に導き、彼らに神のみわざを危くさせ、神のみ子をあらためて十字架につけ、人々の面前ではずかしめるようにさせる。7

霊と肉と精神とを腐敗させる無知、快樂への愛、邪悪な習慣はこの世に道徳的墮落を充満させる。命にかかわる道徳的マリヤは幾千幾万という人々を滅ぼしている。わたしたちの子供を救うにはどうしたらよいだろうか。わたしたちにはほとんど何もできないが、神は生き、支配され、多くをすることがおできになる。8

**神の民は世と対照的に立つべきである**

道徳が退廃している現代においてとられる自由はキリストに従う者にとっては何の規準にもならない。当世流になれなれしさを示すことは、永遠のいのちの資格をもつクリスチャンの間では、あつてはならないことである。もし好色、暴行、かんいん、犯罪、殺人などが真理を知らず神のみことばの原則によつて支配されることを拒む人々の間で流行しているなら、神のみ使いたちと緊密に組んでキリストに従う者であると自称する種類の人たちが、彼らによりよい高潔な道を示すことはいかに重大なことであろう。彼らの純潔と徳行によつて、野卑な情熱に支配されている種類の人たちに対し、彼らが著しい対照をなして立つことはいかに重要であろう。9

**増加する危難と危険**

この墮落した時代にあつては罪のあくどさにすっかり盲目になつてしまつ

て、淫蕩的な生活が生来の邪惡な心の傾向にかなっているといつて、それを選ぶ人たちが多く見られる。彼らは神の律法という鏡に照らして、自分の心と品性とを神の標準にまで高めようとしないで、サタンの手下に彼の標準を心に立てることを許す。墮落した人は自分の背徳と罪を捨てて、心や生活を清くするよりも、自らの罪を支持するために、聖書を誤って解釈するほうが容易であると考ええる。

この種の人は多くの人々が想像しているより多くいるもので、終末に近づくに従つて増加していくのである。10

サタンの魅惑的な力が人を支配すると、神は忘れられ、退廃的な意図で満たされた人たちが賞賛される。このようなあざむかれた魂によつてひそかな淫蕩が美德として行なわれる。これは一種の魔術である。……異教と淫蕩の中には常に人を魅惑する力があるものである。心は賢明に思考できないようにあざむかれ、幻想によつてたえず純潔から誘い出されている。靈的視力はかすみ、これまで品行方正だった人が光の使者と自称するサタンの手下のまぎらわしい詭弁（きべん）によつて混乱させられる。これらの手下に力を与えるのはこの惑わしである。万一彼らが厚かましく現われて、公然と言い寄れば、彼らはすぐさま撃退されるのであるが、最初彼らは好意を得るように、そして自分たちが神聖で自己犠牲的な神の人であるとの確信を人々にいだかせるように働く。それから彼らはサタンの特別な使者として、神の律法を無効にするよう努めることによつて、人の心を正直な道からひき離す巧みな仕事にとりかかるのである。



男女共に自らの本分を守って責められることのない生活をしなさい

男性でも女性でも、心とい

うものは、純潔や清浄さから一瞬にして邪悪、墮落、犯罪へと転落していくものではない。人間を神のような者に変えたり、神の像につくられた者を、残忍な者や悪魔的な者に墮落させるには時がかかるのである。わたしたちは見ることによって変わって来る。たとえ創造主の像に造られた人間でも、一度いみきらった罪でさえ楽しいものとなるように自分の心を教育することができるのである。目をさまして祈ることをやめれば、彼は心という城を守ることをやめ、罪と悪事を犯すようになる。心が墮落すると、それが、道徳心や知力をとりこにしてみっと粗野な感情に従うよう教育されている間は、それを墮落状態からひき上げることは不可能である。肉欲的な心との戦いが絶えずなされていなくてはならない。またわたしたちは上なるものにひきつけ、清く聖なるものを思索する習慣をつける神の恵みという洗練する力に助けられなくてはならない。12

若かろうが年とつていようが、人は一步ごとに神に助言を請う必要を感じないならば、少しも安全ではない。神と密接に交わっている人だけが神のみ旨を人の判断より重んじ、純潔な者、善なる者、心の貧しい者、へり下る者を尊ぶことを学ぶ。心はヨセフの心のように守備されなくてはならない。そのとき、正直から離れよとの誘惑に、「わたしはどうしてこの大きな悪を行って、神に罪を犯すことができようか」との決心で応ずることができる。どんな強い誘惑も罪の言いわけにはならない。どんなにきびしい圧力があなたの上に加えられようと罪はあなた自身の行為である。困難の根源は新たにされていない心である。13

現代の危険にかんがみて、わたしたち神の戒めを守る民は、わたしたちの中からあらゆる罪、あ

らゆる悪、あらゆる曲がったことを捨ててしまおうではないか。真理を公言する婦人たちは、不当ななれなれしさを少しでも助長することがないように自らをきびしく警戒しようではないか。もし彼女たちがいつもしっかりとつしみとたしなみある態度を守るならば、多くの誘惑を防ぐことができる。14

**婦人は品行の標準を高く支持しなくてはならない**

今日の女性は既婚と未婚とを問わず必要な慎

みを持つていないことがあまりにしばしばあることをわたしは悲しくもするさなくてはならない。彼女たちはまるで浮気女のようにふるまう。彼女たちは既婚あるいは未婚の男性の注意を刺激する。すると精神力の弱い男性は誘惑されてしまふ。これらのことがもしまかり通るなら、倫理感を弱め、心を盲目にして、犯罪すら悪く思えないようにしてしまふ。もし女性があらゆる慎みと謹厳さをもつて自分の本分を守つていたら考えもしなかったであろう思いが呼び起こされる。彼女は自分では少しも不正な目的や動機を持つていたわけではなかったであろうが、誘惑される男性たち、また交わる人たちから得られるだけの助けを必要とする男性に刺激を与えたのである。用心深く、慎みを持ち、なれなれしくすることも、不当な愛着を受けることもなく、高い道德的気風と適宜に威厳を保つことによつて、多くの悪が避けられるであらう。15

わたしは主が時折わたしに示したもうたことから、姉妹たちに彼女たちの中には大きな誤りがあることを話そうと長い間計画していた。彼女たちはすべての悪の様子を慎むことに注意深くない。彼女たちは敬虔を告白する女性にふさわしいように、その態度に用心深いところが少しもない。彼

女たちは神の恵みを受けた女性たちがなすべきように、よく選択され精選されたことばを使わない。彼女たちは兄弟たちにあまりに心安くしすぎる。そして彼らの周囲にいつまでもいたり、よりそったり、彼らとの交際をしたがるように見受けられる。彼女たちは男たちの愛情を示すふるまいを非常に喜ぶ。

主がわたしに与えられた光によれば、わが姉妹たちは慎み深く、控えめにふるまい、心の中に「はにかみと謹厳さ」を助長すべきである。兄弟たちも姉妹たちも互いに交わるとき、あまりに陽気な話にふけり過ぎる。神を敬うと公言する女性たちが、多くのたわむれごとやじょうだんや笑うことをほしいままにしている。これは見苦しいことであり、神のみたまを悲しませることである。このようなようすを示すことは真のクリスチャン的洗練さの欠けていることを表わすものである。彼女たちは神にあつて魂を強くすることなく、反対に大きな暗黒をもたらす。彼女たちは清い上品な天のみ使いたちを追い払い、これらの非行にふける人たちを低いレベルまでひきさげてしまうのである。 16

女性には誘惑者となることが非常にしばしばある。彼女たちはいろいろな見せかけで、既婚未婚を問わず男性の注目をひき、ついに彼らが神の律法を犯し有用さを失い魂を危険にさらすところまでひきずっていく。……もし女性が自分たちの生活を高め、キリストの共労者となりさえしたなら、彼女たちの影響による危険性はずっと減るであろう。しかし彼女たちが現在のように家庭の責任に対して無関心であり、神が彼女たちに求められるご要求に対してむとんちゃくであつては、彼女たちは悪い方向に強い影響を及ぼすことがしばしばであり、その力は弱まり、その働きには神の印が

おされない。 17

既婚または未婚の若い男性と交わってたくみにその注意をひき、きげんをとり、彼らからふざけられるのに巧みな差し出がましいお嬢さんや、あつかましい出しやばりな婦人があまりに多い。そのためキリストのほうに鋼鉄のように固く顔をむけていないと、あなたはサタンの網にひきこまれてしまうであろう。 18

わたしはキリストの使者として現代の真理を公言するあなたがたに、みだらなことに接近することはすべて即座に憤り、不潔なことを言うような人々との交わりから離れるよう熱心に訴える。これらのけがらわしい罪を最もはげしい憎しみをもつていみきらいなさい。会話においてさえそのような道に心を走らせる人々をのがれなさい。「おおよそ、心からあふれることを、口が語るもの」だからである。...

あなたがたは一瞬たりとも不潔なかくれた暗示に屈してはならない。なぜなら不潔な水が流れていく水路をよごしていくように、これだけでも魂をけがすからである。 19

みだらなことばや暗示を自分の面前で口に出させる婦人は、神の望みたまわない人である。すべて不当ななれしさや不潔な暗示を許す婦人は、敬虔な女性らしさを保つことがない。 20

**純潔という神聖な環によって守られる**

わが姉妹たちは真の柔和を助長すべきで、差し出がましく、おしゃべりで、厚かましくならないようにし、控えめで思いつくことのないように、またしやべることをも遅くしなくてはならない。彼女たちは礼儀正しさを心に持つことができる。親切で

やさしく、あわれみ深く寛大でけんそんであることは似つかわしく、神に喜ばれるものである。もし彼女たちがこの心的態度を持っているなら、教会の中や外の男性から不当に親切な態度でなやまされることはないであろう。これら神をおそれる婦人たちの周囲にはどんな許すことのできない無遠慮からも守ってくれる純潔という神聖な環があることを皆が感じるであろう。

神を敬うと公言するある女性たちには、あやまちと惡にいたるような不用意かつ粗野で自由な態度がある。しかし生活の清さを強め、神と交われるよう魂を高める題目について黙想するのに精神や心を用いる敬虔な婦人たちは、正直と高潔な道から容易に踏みはずすことはしない。そのような婦人たちはサタンの詭弁に対して強くされ、また彼の魅力ある策略に抵抗する備えができるであろう。<sup>21</sup>

わたしは、りっぱなことを口に出しているクリスチャンとしてのあなたがたに訴えたい、どうか慎重み深さというはかり知れない価値のあるとうとい宝を大事にしていたきたい。そうすることによって美德が守られるであろう。<sup>22</sup>

**思考を制御しなさい**      あなたは思考を制御しなくてはならない。これは容易なことではない。これは綿密できびしい努力がなくては成し遂げることができない。しかしながら神はこれをあなたに要求されるのである。それは申し開きの義務のあるすべての人間に負わされた務めである。あなたは自分の思考については神に対して責任がある。もしあなたがむなしい想像にふけり、清くないことを思いめぐらすならば、あなたは多少なりとも神の前に思いを行動に移したのと同じほどに罪を

犯したことになるのである。行動を妨げるものはただ機会がなかっただけである。日夜夢みて空中樓閣を築くことは非常に危険で悪い習慣である。そのような習慣が一度ついてしまうと、今度それを破り、清く神聖で高められたことに思いを導くことは不可能である。 23

**甘言に氣をつけなさい** わたしは男性が賛辞や甘言や寵愛（ちょうあい）を受けるのをみると痛ましい思いがする。これらの愛着を示すふるまいを受けるある人たちは神のみ名をとねえる資格がないことを神はわたしに示された。それなのに彼らは外見だけしか見ることでできない限りある人間の評価に有頂天になる。姉妹がたよ、たとえそれが若い男性にしる年長の男性にしる、また未婚既婚に限らず、あやまちを犯しやすくだまされやすい気の毒な男性に決して愛情を示したり、甘言を言ったりしてはならない。あなたは彼らの弱さを知らないし、これらの愛情を示すふるまいや、その惜しむことのない賛辞が彼らの破滅になるかもしれないことをあなたは知らないのである。この点で多くの人たちが示す近視眼的なものの見方や、賢明さの足りなさにわたしは驚いている。

神のみ働きをしている人々、またキリストを心に内住している人々は倫理の標準を下げることをしないで、むしろ常にそれを高めようと努めるものである。彼らは女性の甘言に満足したり、女性にきげんをとられることを喜んだりしない。未婚既婚を問わず男性はこう言ってほしいものである、「やめてください。わたしは自分の善が悪く言われるような誘因はちよつとでも与えたくないのです。わたしの名声はわたしにとって金や銀よりもはるかに尊い資本です。それを曇らせないで保たせてください。もし人がその名声を攻撃するなら、それはわたしが彼らにそうする機会を与えたか

らではなく、彼らがキリストのことを悪く言ったのと同じ理由からです。つまり彼らは主のご品性の清さと神聖さが自分たちにとって常に譴責となったために、それを憎んだからなのです」と。 24

# 牧師が誘惑する場合

それがいかなることに端を発していようと、あなたに罪を犯させるよう誘惑したり、あなた自身にほんのちよつとでも不当になれなれしいふるまいを許すよう誘うほめかしはどんなに小さなものでも、女性としてのあなたの品位を最も侮辱するものであるとして憤らなくてはならない。不当な時や場所でおにせつぶんを受けたなら、嫌悪（けんお）をもってサタンの密使を撃退するようにしなくてはならない。たといそれが神聖な事にたずさわる高い地位にある人から受けたものであつても、その罪は十倍もの重要性を持つもので、神を畏敬する婦人や若い婦人は、彼があなたに犯させる罪からばかりでなく、人々が神のしもべとして尊敬しあがめる人の偽善と非道から嫌悪をもつて後ずさりしなくてはならない。 25

もし福音の使者が彼のいやしい感情を抑制することをしなければ、また使徒の模範に従わずに罪の放縦を口にするほど彼の仕事と信仰をはずかしめるならば、神を敬うと公言する姉妹たちはちよつとの間でも、牧師でさえそれをするのだから、罪や悪事は少しも悪くないと思つて喜んではない。責任ある地位にある人が罪と親しんでいるように見えることがあつても、その事実は人の心の罪や極悪無道の罪を軽くすることにはならない。罪はこれまでみなされてきたように悪いもの、きらわれるべきものとして見えなくてはならない。そして清く高められた心の持ち主は、致命的な猛毒を持つへびから逃げるように罪にふける者をいとい、それを避けなくてはならない。もし姉妹

がたが高められた清い心を持つなら、どんなけがらわしい申しいても、たとえそれが牧師から言い寄られたことであっても、二度と反復する必要がないまでに断固として拒絶しなくてはならない。26

### 結婚の誓約に忠実でありなさい。

夫であり父である者は結婚の誓約に忠実であるためにいかに注意深くあらねばならないことであろう。彼は神聖で標準の高い神の戒めに調和しない思想を若い女性や既婚の婦人にさえも鼓吹しないように、その品性をいかに慎まねばならないことであろう。キリストはそれらの戒めを心の思い、意向、目的にすら及ぶ非常に広範囲なものとして示しておられる。ここが多くの者が罪を犯す点なのである。彼らの心が空想することは、神の求められる清く聖なる心が考えることではない。そして彼らの召命がいかに高く、また彼らがいかなる才能を持っていようと、神は彼らを罪ありとされ、彼より才能少なく光を与えられていず、感化力も弱い人たちよりも、神の怒りを受くべき、ずっと罪深い者とみなしたものである。27

わたしは結婚した男性に言うよう命じられている。あなたの尊敬と愛情を受くべき人は妻、すなわちあなたの子供たちの母である。あなたの心尽くしは彼女になされるべきであり、あなたの思いは彼女の幸福を計ることに集中されるべきである。28

わたしは夫であり父親である者がキリストに従う者にふさわしい憤み、品位のある敬虔な男らしさを心にとめていない家庭を示された。彼は、彼が神と天使たちの前で二人が生きながらえる間愛し敬い、尊ぶことを約束した妻が、当然受くべき親切でやさしい礼儀正しい行為を行なっていない。仕事をするために雇われた女の子がなれなれしく、幾分出しゃばりで、彼の頭髪をなおしたり、愛



情をこめて世話をするのを、彼は愚かにも喜んでゐる。妻に対する彼の愛と心尽くしは以前のように表示されなくなった。ここにサタンが働いていることは確かである。雇い女の助けを重んじ、彼女たちを親切にあしらい、思いやり深くあらねばならないが、それ以上に出てはいけない。あなたは彼女たちからなれなく言い寄られないような態度でいなければならない。 29

**家庭の秘密を保ちなさい**

各家庭の秘密を守り、その純潔と神聖とを保つために計画された壁を破壊することによつて、どんなに多くの生活が不愉快にされることであろう。第三者が妻の信用を得、彼女の家庭の私生活がこの特別の友人の前に公開される。これこそ夫と妻の心を離すサタンのたくらみである。このようなことはなくなつてほしいものである。そうすればどんなに悩み多い世が救われることであろう。相互の欠点を知ることがはあなた自身の心にしまつておくがよい。あなたの悩みは神にのみ話しなさい。神はあなたに正しい忠言と、何の苦々しさも含まない清らかで確かな慰めを与えることができる。 30

女性が家庭内のなやみごとや主人の不平をよその男性に話すことは、彼女の結婚の誓約を破ることになる。彼女は主人の誉れを傷つけ、結婚関係の神聖さを保つために立てられた壁を破壊することになる。彼女は入口をあけ広げて、陰險な誘惑をもつサタンを迎え入れる。これこそまさにサタンのさせたいと思うところである。もし一人の婦人がクリスチャンである兄弟のところ、彼女のなやみごと、失望、また試練などを持ってきたら、彼は常に、もし彼女がだれかに悩みを打ち明けなくてはならないのなら姉妹たちを心の友として選ぶよう忠告すべきである。そうすれば神のみ働

きが責めを受けるような悪が生じることはないであろう。 31

# 罪に陥ることから守られる方法

わたしは皆さんに申し上げる。もしあなたがイエスに近く引かれ、あなたの告白を秩序立った生活と敬虔な会話をもって飾ろうと努めるなら、あなたの足は禁じられた道に迷い出ることから守られるであろう。あなたがひたすら警戒し、絶えず目をさまして祈るなら、またあなたが神のすぐ御前にいるかのようになすべてを行なうなら、あなたは誘惑に負けることから救われ、最後まで清純でしみなく、けがされないで守られることを望むことができよう。もしあなたが初めの確信を終わりまで固く保つなら、あなたの道は神のうちに立てられるのである。そして恵みによって始められたことには、神のみ国において栄光が報いられる。「み霊の実は愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であつて、これらを否定する律法はない」。もしキリストがわたしたちのうちに内住したもうなら、わたしたちは情欲をもった肉を十字架につけるであろう。 32

- 1、P P・三三八ページ
- 2、同・四五七ページ
- 3、R H・一八八七年五月一七日
- 4、同・一八八七年五月一七日
- 5、同・一八八七年五月一七日
- 6、2 T・三四六、三四七ページ
- 7、M S S・一九A・一八九〇年

- 8、M S S・八・一八九四年
- 9、2 T・四五九ページ
- 10、5 T・一四一ページ
- 11、5 T・一四二、一四三ページ
- 12、2 T・四七八、四七九ページ
- 13、M S S・一九A・一八九〇年
- 14、5 T・六〇一、六〇二ページ

23、 22、 21、 20、 19、 18、 17、 16、 15、  
 2 T・五六一ページ  
 2 T・四五八ページ  
 2 T・四五六ページ  
 M S・四A・一八八五ページ  
 5 T・一四六、一四七ページ  
 M・一四五ページ  
 5 T・五九六、五九七ページ  
 2 T・四五五ページ  
 M S・四A・一八八五ページ

32、 31、 30、 29、 28、 27、 26、 25、 24、  
 5 T・一四八ページ  
 2 T・三〇六ページ  
 2 T・四六二ページ  
 2 T・四六一ページ  
 L・二三一、一九〇三年  
 5 T・九四、九五ページ  
 2 T・五七、五八ページ  
 2 T・五八、五九ページ  
 5 T・九五、九六ページ

## 第五十六章

# 離婚

結婚は一生の契約である。若い人の心では、結婚というものがロマンスでおおわれているので、想像によって結婚をおおっているこのロマンスという特色をとり去って、結婚の誓約に含まれている重い責任感を心に印象づけることは困難である。この誓約はふたりの運命を死の手しか断つことができないきずなで結び合わせる。1

婚約はすべて慎重に考慮されなければならない。なぜなら結婚は一生の歩みだからである。男女共に、彼らが生きながらえる間、人生の浮き沈みを通して互いに離れずついて行けるかどうかを慎重に考慮しなければならない。2

イエスは結婚についての誤った考えを訂正された。ユダヤ人の間では、男はごくささいなことで妻を出すことが許されており、出された妻は再び結婚してもかまわなかった。この習慣から非常な不幸と罪が生じた。イエスは、山上の垂訓で、結婚の誓約に対する不実以外のことでは、結婚のきずなが解消されないことを言明された。「だれでも、不品行以外の理由で自分の妻を出す者は、姦

淫を行わせるのである。また出された女をめとる者も、姦淫を行うのである」とイエスは仰せられた（マタイ五ノ三二）。

また後にパリサイ人が離婚の合法性について質問したとき、イエスは創造において制定されたものとして、結婚の制度に彼らの注意を向けられた。「モーセはあなたがたの心がたくななので、妻を出すことを許したのだが、初めからそうではなかった」とイエスは言われた（マタイ一九ノ八）。

イエスは、すべてのものが「はなはだ良かった」と神が仰せられ、祝福されたエデンの園の時代に彼らを注目させられた。神の栄光と人間の幸福のための二つの制度、すなわち結婚と安息日の起源がここにあった。その時、創造主は、聖なる二人に結婚のちぎりを結ばせて、「人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」と仰せになった（創世記二ノ二四）。創造主は世の終わりに至るまでのすべてのアダムの子らのために、結婚の律法を宣言された。永遠の父なる神ご自身がよしと宣言されたのは、人間にとって最高の祝福と発達の律法であった。3

イエスは誤りを正し、人の中に神の道徳的な像を回復するためにこの世に來られた。結婚に対する誤った意見がイスラエルの教師たちの心にはいつていた。彼らは結婚という神聖な制度を無効にしていた。人は非常に無情になってほんのちよつとした口実で妻と別れたり、望むときは妻を子供から離して追い出したりした。これは大きな恥辱とみなされ、捨てられたほうにこの上なく痛切な苦しみを与えることがよくあった。

キリストはこのような悪を矯正するために來られた。そしてキリストが行なわれた第一の奇跡は婚姻の席でなされた。これによってキリストは結婚が純潔に汚れなく守られるとき、それは神聖な

制度であることを世人に宣言された。 4

### 離婚しようと思っている人への勧告

結婚関係についてのあなたの考えはまちがっていた。不貞以外にはどんなことも、結婚の誓約を破ったり、解消したりすることはできない。わたしたちはイエス・キリストにおけるゆるぐことのない確固たる信仰のほかには何ものをも保証することのできない危険な時代に生きている。目をさまして祈っていなければ、どんな心もサタンの策略によって神から離れてしまうであろう。

もしあなたの心が平安で安らかであったなら、あなたの健康はずっとよい状態にあったであろう。しかしあなたの心は混乱して均衡を失うようになったので、あなたは離婚の問題に関して誤った判断を下した。あなたの見解をあなたの判断の理由に基づいて支持することはできない。人は神の律法を避けて自分の好みにそうように自分で自由に律法の基準をつくることはできない。彼らは神の義という偉大な道德の基準に至らなくてはならない……。

神は妻が夫を離れ、あるいは夫が妻を離れてもよい理由となることをただ一つあげられたが、それは姦淫（かんいん）であつた。この理由を祈りをもって考慮しようではないか。 5

### 離婚した夫婦に対する忠言

兄弟姉妹がたよ、あなたがたはしばらくの間生活を共にしていなかった。もしあなたがたが二人とも夫と妻の間にあるべき忍耐と親切と自制心とを養っていたならば、このような道をたどって来なかったであろうし、このようなことはしなかったであろう。あなたが

たはどちらも自分の意志をたて、結果がどうあろうとそれぞれの考えと、計画を実行しようとしてはならなかった。またどちらも自分の好きなようにすることを決心すべきではなかった。どうか神のみたまのやわらげ、しずめる力が、あなたがたの心に働いて、あなたがたの子供たちを教育する働きにふさわしい者としていただくようになさい。……夫は妻に、妻は夫に互いに短気なとげとげしい、わがままな態度で口をきくような誘惑に負けないよう守ってくださいるように天の父にお願いなさい。あなたがたは二人とも不完全な品性を持っているのである。あなたがたは、神のご支配を仰いでいなかったので、互いに対する行動が無分別だったのである。

わたしは、あなたがたが神のご支配の下に身をゆだねるようお願いする。挑発的なことばが出そうになったときには何も言わないようにしなさい。あなたがたは今までこの不愉快な性癖に打ち勝ったことがなかったから、この点で試みを受けるであろう。しかし悪い習慣の一つ一つに打ち勝たねばならない。神に全き献身をしなさい。キリスト・イエスという岩の上に落ちて碎けなさい。夫とし、妻として、自分を鍛練しなさい。キリストのところにおいて助けを求めなさい。キリストは喜んであなたがたに聖なるあわれみと豊かな恵みとを与えてくださるであろう。……

あなたの過去の行為について神のみ前に悔い改めなさい。互いに理解し合い、夫とし妻としても一度一体となりなさい。過去の生活の不愉快で不幸な経験を忘れてしまいなさい。主にあって勇氣を出しなさい。地に向けた心の窓を閉じて、天に向けた心の窓を開きなさい。あなたがたの声が光を求める祈りとなって天に上っていくなら、光と命、平和と喜びであられる主イエスは、あなたがたの叫びを聞いてくださるであろう。義なる太陽であられるイエスは、あなたがたの心のへやに光

を投射し、魂の宮を照らしてくださるであらう。あなたがたがイエスのご臨在の光を家庭の中に喜び迎えるならば、不幸な気持ちを生じさせるようなことばを口から出すことはなくなるであらう。6

**虐待されて望みを失った妻へ**

わたしはあなたから手紙をいただき、こうお返事したい。Dの中に疑う余地のない変化を見るまではあなたが彼のもとに帰ることを勧めることはできない。主は、妻に対する責任について彼がこれまでいできてきた考えを喜ばれない。…もし彼が前のような考え方を固守するなら、あなたにとって将来は過去よりもよくなることはない。彼はどのように妻を扱うべきかを知らないのである。

わたしはこの問題を非常に悲しく思う。わたしはDに対し心から氣の毒に思うが、やはりあなたが自分の判断に逆らってまで彼のもとに帰るようにと助言することはできない。あなたがもう一度彼の命令下に身をおくことは危険であるということを、わたしは彼に話したと同じように率直にあなたに申し上げる。わたしは彼が変わることを望んでいた。…

神はあなたの経験をすべてわかっておられる。…主にあって元氣を出しなさい。主はあなたを離れることも捨てることもされない。わたしはあなたに対し心からやさしい気持ちををもって同情する。7

捨てられた夫へ 「あなたの十字架を負いなさい」 わたしはこの場合これ以上どうしてよいかわからない。またあなたにできるたった一つのことは妻をあきらめることだと思う。彼女があなた



といつしよに住まないと決心しているならば、そうしようとすることは彼女にとつてもあなたにとつてもこの上なく不幸なことになるであらう。彼女が断固として全然主張をまげないならば、あなたにできることはただあなたの十字架を負つて、あなたが男であることを示すだけである。8

離婚はしても神の御目には結婚している 妻はその国の法律では夫と法的に離婚しているかもしれないが、神の御目から見るとき、またもつと高い律法によつては離婚していない。神の御目から見て、夫や妻を結婚の誓約から解放された立場におくことができるのは、姦淫という罪だけである。たとえ国の法律が離婚させてくれたとしても、聖書の光と神の律法に照らせば、やはり彼らは夫と妻なのである。

わたしは、 姉妹がまだほかの人と結婚する権利がないことを示された。しかし彼女にしても、またほかの女性にしても、もし夫に姦淫の罪があることを理由にして法的に離婚する場合には、自分の選ぶ人と結婚することは自由である。9

信者でない伴侶と別れること 妻が信者でなく反対者である場合、神の律法によれば夫はこの理由だけで妻を出すことはできない。エホバの律法に調和するためには、妻が自ら出て行くと言わない限り、夫は彼女と同居しなくてはならない。彼は反対に会い、いろいろなやりかたで圧迫され苦しめられるかもしれないが、どんな危急の場合にも恵みを与えることのおできになる神から慰めと力と助けをいただくことができる。彼は心清く、真に明確でしっかりした主義を持つ人間でなければ

ばならない。そうすれば神は彼にとらねばならぬ道について知恵を与えてくださるであろう。一時的な感情は彼の理性を支配することなく、理性がそのしっかりした手に支配のたずなをにぎっている。情欲はくつわとたずなで制御される。10

**結婚状態でなく性質を変えるようにしいられた妻** わたしはあなたの夫から手紙をもらった。夫が合法的に妻と別れ、妻が夫と別れてよい理由がただ一つあるがそれは姦淫だけであることを申し上げたい。

もしあなたの性質が先天的なものでないのなら、それらの性質を変えるのはあなたにとって神のみ栄えのためになることではないだろうか。

夫と妻は互いに尊敬と愛情とを養うべきである。彼らは精神やことばや行動に注意して、相手を怒らせたりなやませたりするようなことを言ったりしたりしてはならない。各自が互いの愛情を強めるように全力を尽くしながら相手に対して心を用いるはずである。

わたしはあなたがたふたりに主を求めなさいと申し上げる。愛と親切とをもって互いに義務を尽くしなさい。夫は勤勉な習慣をつちかい、家族を養うために最善を尽くさなくてはならない。そうすれば妻は夫に対して尊敬の念を持つようになるであろう。……

姉妹よ、あなたが現在の態度を持ち続けていては神をお喜ばせることはできない。夫をゆるしであげなさい。彼はあなたの夫である。そしてあなたは忠実で愛情深い妻であるよう努めるときに祝福されるであろう。やさしくあれというおきてをあなたの口びるにおきなさい。あなたはあなた

の態度を変えることができるし、また変えなくてはならない。 11

あなたがたは二人とも互いにどうしたなら意見を異にしないで、同じようになることができるかを研究しなければならない。……おだやかなやさしいやりかたが、あなたがたの生活を驚くほど変えるであろう。 12

### 教員と離婚の問題

被害を受けた A・G・姉妹の件については 質問に対する答として、彼らがその悪い行ないについて真の自覚を持っていないということが、彼女の夫と同様罪に負けてしまったたいの人たちの場合の特徴であるとわたしは言いたい。しかし教会にもどる人もいるにはいるが、それは彼らが徹底的な告白と、心からの悔い改めの期間を経て、神の民の信用に値するようにしてからのことである。この問題にはほかに見られないような困難があるので、わたしは次のことだけをつけ加えておきたい。

一、第七条の戒めが犯され、罪を犯した者がその点で真の悔い改めを表わさない場合。もし被害者が自分の立場や、子供があれば子供の立場をもそのことによって更に悪くしないで離婚できるなら、自由になるべきである。

二、もし彼らが離婚によって自分たちや子供たちがもっと悪い状態になりそうなら、罪のない側がとどまったとしてもそのことを悪いとは聖書に書かれていない。

三、時間と骨折り、祈りと忍耐、信仰と敬虔な生活によって改革が起こるかもしれない。結婚の誓約を破り、やましい愛の不面目と恥辱におおわれていながらそれを悟らない人といっしょに暮らす

ことは、心に食い入る悩みであるが、離婚はさらに一生心を痛ませる傷である。どうか神が罪のない者をあわれみたまうように！結婚は婚約する前に慎重に考慮しなくてはならない。

四、なぜ、ああ、なぜ、善良で、尊敬され、ついには天国にはいれたかもしれない男女が、あんなに安っぽく自らを悪魔に売り渡し、親友たちを傷つけ、家族に恥をかかせ、みわざを恥ずかしめて、ついには地獄に行くのだろう。神よ、あわれみたまえ！なぜ罪惡に負けた人が、そのひどい罪惡に相当した悔い改めを表わし、あわれみを求めてキリストのもとにとんで行き、彼らのつくった傷をできる限りいやしていただこうとしないのであろう。

13

1、4 T・五〇七ページ  
2、L・一七・一八九六年  
3、祝福の山・七八、七九ページ  
4、M S S・一六・一八九九年  
5、L・八・一八八八年  
6、同・四七・一九〇二年  
7、同・一四八・一九〇七年

8、L・四〇・一八八八年  
9、同・四 A・一八六三年  
10、同・八・一八八八年  
11、同・一六八・一九〇一年  
12、同・一五七・一九〇三年  
13、R H・一八六八年三月二十四日

## 第五十七章

### 信仰を持たない伴侶に対する態度

クリスチャンの妻は信仰を持たない夫と別れなければならないか

家庭でのいろいろな試練を述

べ、わたしに助言を請う手紙が母たちから寄せられている。これらの実例の一つが多くの代表するものとなる。夫であり父親である者が信者でないので、母親にとっては子供たちを教育する上にすべてが困難となる。夫は神をばうとくするような男で、妻に話をするときも野卑で侮辱的なことばを用い、子供たちには母親の権威を軽んじるように教える。彼は妻が子供たちと祈ろうとしているとはいってきて、できるだけさわがしくし、突然神をのろい始め、聖書についてひどい形容辞句をまくしたてる。彼女はすっかり落胆し、人生が重荷になっている。彼女はどうしたらよいだろうか。彼女が家庭にとどまっても、はたしてそれが子供たちのためになるであろうか。彼女は主のぶどう園で何かの仕事をしたいと熱心に望み、夫であり父親である者がたえず子供たちに母親を敬わないように、また母親に従わないように教えている限り、家にとどまっているよりは、家族のもとから去ったほうが一番よいのではないかと考えてきた。

このような場合、わたしは次のように忠告したい。母親がたよ、あなたがたが貧しさに、あるい

は魂のいたずきや打ち傷に、あるいはまた夫であり父親である者がかくで、横暴で、いばりちらすのに、耐えぬくようなどんな試練を与えられようと、子供たちを残して去ってはならない。神を知らない父親の影響の下に彼らを捨てていつてはならない。あなたの仕事はサタンの支配下にあるようにみえる父親のやりかたをくじくことである。 1

**自制の生きた模範を示しなさい**      なるほどあなたには試練があるが、しかし引きつけるよりもこき使う精神をあらわすようなことがある。あなたの夫は忍耐と自制の生きた模範を毎日見る必要がある。彼を喜ばせるようにあらゆる努力をし、しかも、真理の原則は一つなりとも放棄してはならない。……

キリストは心も魂も、知能も力も、全人格をご奉仕に要求される。神があなたに望まれるものをささげるとき、あなたは品性によって神を代表する。あなたのうちに聖霊が働いておられることを夫に見せなさい。注意深く、思慮をもって、忍耐しなさい。彼に真理を強要してはならない。妻のなすべき務めをなし、それで彼の心が動くか否かをみなさい。あなたの愛情を夫から引き離してはならない。あらゆる方法で彼を喜ばせなさい。あなたの信仰があなたがたを引き離すことがないようにしなさい。良心的に神に従い、あらゆる点で夫を満足させなさい。……

あなたがイエスを愛し、イエスに信頼していることをみんなにわからせなさい。あなたの夫に、信者未信者の友人たちに、あなたが真理の美しさをわからせたいと思っている証拠をみせなさい。そしてしばしばよい働きをそこなうあの痛ましい心配するような思いわずらいをみせてはならない。……

非難やとがめだてのことばは一言なりとも夫の耳に入れてはならない。あなたは時に狭い所を通らなくてはならないこともあるが、それらの苦しさを口に出してはならない。沈黙は雄弁である。軽率なことばはただあなたの不幸を増すだけである。快活に楽しくしなさい。できるだけ日光を家庭内に持ち込み暗い影を追ひ払いなさい。義の太陽の輝かしい光をあなたの心の宮に入れなさい。そうすればクリスチャン生活のかぐわしさがあなたの家庭の中に持ち込まれるであろう。多くの場合、真実のかけらさえもないいやなことを考えめぐらすこともなくなるであろう。2

**重荷を負う妻に快活であれとの助言**

あなたの夫がイエスから顔をそむけているためにあなたは

いま二重の責任を負っている。……

あなたにとってみことばを行なうことに関する限りひとりぼっちであることは、どんなにか大きな悲しみにちがいないことをわたしは知っている。ああ、しかし、妻たる者よ、あなたの信仰と服従の終始一貫した生活が、あなたの夫を真理につれもどすことがないとどうして言えよう。愛する子供たちをイエスのもとにつれてきなさい。彼らに簡単なことばで真理のことばを話して聞かせなさい。キリストの愛をあらわしている楽しい、心をひかれる賛美歌をうたってやりなさい。イエスは子供を愛される。イエスのもとにあなたの子供をつれてきなさい。

快活でいなさい。あなたはキリストが任命された慰め主なる聖霊がいますことを忘れてはならない。あなたは決して一人ではない。あなたが今あなたに語る声に耳を傾けるなら、そしてあなたの心の戸をたたく音に遅れることなく、「主イエスよ、どうぞおはいり下さい。わたしはあなたと食を

共にし、あなたもまたわたしと食を共にされるでしょう」と答えるなら、天来の客ははいってください。全く天来のものであるこのふんい気があなたのうちに宿るとき、そこに平和と休息がある。3

### クリスチャンの原則を守りなさい

神を礼拝しない家庭は、海のまん中にほうり出された、水先案内もかじもない舟のようなものである。舟はあらしに打たれ、砕かれ、乗っている者は全滅の危険にさらされている。キリストのために自分の命や子供たちの命をたいせつにしない。なぜならあなたは神のみ座の前で夫や子供たちと会わなければならないからである。あなたのしつかりしたクリスチャン原則を弱めることなく、なおいつそう強くしなくてはならない。あなたの夫がどんなにいやがっても、またどんなに反対しても、あなたは一貫して忠実なクリスチャンの不動さを示さなくてはならない。そうしたなら彼がどんなことを言おうとも、彼が肉の心を持つ人であるならば、心と判断ではあなたを尊敬せずにはいられなくなる。4

### 神のご要求が第一である

それからわたしは彼の嫁を示された。彼女は神に愛されているものであるが、奴隷のようなきずなにつながれていて、恐れおののき、落胆して疑いやすく、非常に神経質であった。この姉妹は自分より年下の神を知らない青年に自分の意志を屈服させなくてはならないように思ってはならない。彼女は自分の結婚が自分の個性を失わせるものではないことを記憶すべきである。神は地上のどんな要求よりも高い要求を彼女に持つておられる。キリストはご自身の血をもって彼女を買われた。彼女は自分のものではないのである。彼女は神に全的信頼をしないで、



ふるえてしりごみする魂を脅迫するために悪魔的な王権を効果的に働かすことができるときはいつもサタンにかりたてられている横暴で暴君的な男に、自分の信念も良心も屈服させている。彼女はあまりに幾度も心を乱されてきたので、神経組織がすっかりそこなわれ、全く見る影もないあわれな姿になっている。この姉妹がこのような状態になり、神への奉仕が失われるということは神のみ心であるうか。そうではない。彼女の結婚は悪魔のぎまんであつた。しかし今となつては彼女はそれができるだけ有利にして、やさしく夫をあしらい、自分の良心を犯すことなく、できるだけ彼を幸福にしないでならない。なぜならもし彼が反逆をし続けるなら、彼の極楽はこの世だけになつてしまうからである。しかし彼女が自分から集会の特権を捨て、龍の精神を宿している横暴な主人を満足させることは神のみ旨にそうではない。5

「もうひとりの人は、『わたしは妻をめとりましたので、参ることができません』と言つた」。この男の罪は結婚したことにあるのではなく、彼の心を人生のより高く、より重大な関心事から離れさせるような人と結婚したことにあつた。人は決して妻や家庭に、自分の思いをキリストから離れさせたり、福音の恵み深い招きを拒むようにさせたりしてはならない。6

**すべてを失うよりは幾人かでも救つたほうがよい**

K 兄弟よ、あなたは多くの失意を経験してきた。しかしあなたはまじめにしっかりと立ち、家庭におけるあなたの本分を尽くし、できることなら家族の者をあなたといつしよに連れていく決心をしなくてはならない。あなたは天国への旅にあなたについて来るよう彼らを説き伏せる労を惜しんではならない。しかしもし母親や子供たちがあ

なたについて来たがらないで、反対にあなたをあなたの義務や宗教的特権から引き離そうとする  
 きには、たとえ一人でも前進しなくてはならない。あなたは集会に出席して、できる限りあらゆる  
 霊的力を得る機会を活用しなければならない。なぜならあなたは来たるべき日にそれを必要とする  
 からである。ロトは持っていたものをみな失ってしまった。たとえ失うことがあってもあなたは失  
 望してはならない。もしあなたの家族の幾人かでも救うことができれば、すべてを失うよりずっと  
 よい。 7

1、L・二八・一八九〇年  
 2、L・一四五・一九〇〇年  
 3、L・一二四・一八九七年  
 4、L・七六・一八九六年

5、2 T・九九、一〇〇ページ  
 6、M S S・二四・一八九一年  
 7、4 T・一一二、一一三ページ

## 第五八章

# 牧師の家庭

使命を例証する牧師の家庭生活

神は聖書を教える者がその家庭生活において彼の教える真理の模範となるように計画された。人はその人となりのほうがその言うところよりも影響力が大きいものである。日常生活における敬虔さは人前でのあかしに力を与える。忍耐、堅実さ、愛などは説教が与えることのできない印象を心に印するものである。1

牧師の子供たちの教育がもし正しくなされるなら、それは彼が説教壇で与える教訓を例証するであらう。しかしもし子供に誤った教育を与えることによつて牧師が監督し治める力のないことを示すようなら、彼は神の群れの牧者としての務めをする前に、自分に与えられた子供たちを正しくしつけることを神が要求しておられることを学ぶ必要がある。2

第一の本分は子供たちに対するものである

牧師の務めは彼の周囲の手近なところにも遠いところにもあるが、彼の第一の務めは自分の子供たちに対するものでなければならない。彼は子供たちに必要な教訓をなおざりにしてまで、外の任務に心を奪われてはならない。彼は自分の家庭でなす

べき務めをそれほどたいせつにみなさないかもしれないが、実際はそれが個人や社会の安寧（あんない）の真の基礎にあるのである。男女の幸福と教会の成功は家庭の影響に大いに左右される。…牧師は、より大きな外部のグループのために、内部のグループである家庭をおろそかにする言いのがれは少しもできない。家族の霊的安寧が第一である。最後の決算の日に、神は彼がその出生に責任のある子供たちをキリストにみちびくために何をしたかとお尋ねになる。他人のためになされた偉大な善は、自分の子供を監督するという神に対して彼が負っている負債を帳消しにすることはできない。 3

### 牧師の重大な影響

牧師の子供たちはある場合、世の中で最もなおざりにされた子供たちである。それは父親が彼らと一緒にいる時間がほとんどなく、子供たちは自分の仕事と楽しみを選ぶがままにほっておかれるからである。 4

親の不誠実という罪悪はいかなる場合にも大きいが、それが人々の教師として任命されている者たちの家庭にある場合には、十倍も大きな罪悪となる。自分の家庭を管理することができなければ彼らはその誤った模範によって多くの人々を誤らせているのである。彼らの罪はその地位が人より責任のあるものだけにもっと大きい。 5

### 彼の敬虔さを最もよく評価する妻子

わたしたちの真の品性を表わすのは説教壇の宗教よりも家庭の宗教である。牧師の妻子や家庭内に手伝いとして雇われている人たちは、彼の敬虔さを評価す

るのに最もかなった人たちである。善良な人は家族にとって祝福となる。妻も子も手伝いの人たちも彼の信仰のゆえによりよき者となる。

兄弟がたよ、キリストを家庭の中にお連れしなさい。キリストを説教壇に、またあなたの行く所にはどこにでもお連れしなさい。そうすればあなたは牧師の働きをありがたく思わなければいけないと人にしいる必要はなくなる。なぜなら、あなたはあなたがキリストのしもべであることを万人にあかしする天来の信任状を身につけるからである。6

#### 助け手となるか妨害者となる牧師の妻

人は牧師の責任を引き受けると、神の口からことばを受けてそれを人々に伝える神の代弁者であると公言する。それならなおのこと彼は牧師イエスのそばに近いなければならないし、自己をなくしてキリストを高めながら神の御前につつましく歩まなければならない。また彼の妻の品性は、聖書の模範にならったもので、そして、子供たちもまじめに服従することはいかにたいせつであろう。

福音の使者の妻は夫にとり最も成功する助け手、また大いなる祝福となるか、彼の仕事を妨害する者となるかどうかである。牧師が彼の有用な地位から日々高められるか、普通のレベルまでさがっていくかは、大いに彼の妻にかかっている。7

わたしは牧師の妻たちが夫の骨の折れる仕事を助け、自分たちが及ぼす影響について厳密に注意深くなければならないことを示された。なぜなら牧師の妻たちは衆人監視の中にあり、人よりも多く期待されているからである。彼女たちの服装は模範とならなければならない。彼女たちの生活や

会話は死にいたるかおりではなく、いのちにいたるかおりでなければならぬ。わたしは彼女たちが心を天に向けられないような事について話したりすることなく、けんそんで柔和で、しかも高められた立場をとるべきことを示された。「わたしはどうしたら自分自身の魂を救い、また人の魂を救う媒介となることができるだろう」と深く問うてみるべきである。このことについて中途半端な事は決して神に嘉納されないことをわたしは示された。神は心と関心のすべてを望まれるか、そうでなければ何も望まれないかである。彼女たちの影響は決定的に、まちがうことなく真理に味方するか敵するかのどちらかである。彼女たちはイエスと共に集めるか散らすかのどちらかである。献身していない妻は牧師の持ち得る最大のわざわいである。8

サタンは、真理を説くために神から選ばれた牧師たちの意気をくじいたり迷わせたりしようとたえず働いている。彼が働くことのできる最も効果的な方法は家庭の影響を通し、また献身していない伴侶を通してである。もし彼が彼女らの心を支配することができれば、彼はそれによって、魂を救うためにことばや教理をもって努力している夫に近づく機会をもっとたやすく得ることができ。……サタンはわがままで安樂を愛する伴侶の影響によって牧師の骨折りを大いに支配してきた。9

#### 家庭管理について牧師に与える助言

あなたは家庭で避けることのできない務めを持っているが、神と神からゆだねられた務めに忠実でなくてはならない。……福音伝道の畑は世界である。あなたはまいた種が実を結ぶように、神がそれに水を注いでくださることを期待して、畑に福音の真理をまきたいと思う。あなたは自分に小さな土地を引き受けた。しかしあなたが人の庭の草をとって

る間にあなたの庭は黒いちごやいばらがはえるままにほっておかれる。これはつまらない仕事ではなく、重大な仕事である。あなたは人に福音を説いているが、それを自分で家庭で実行なさい。10 子供を正しくしつける仕事に夫と協力できるようになるまで、妻は子供といっしょに夫の働きの場合から離れているようにしなさい。なぜなら締りのないゆるんだしつけの模範を神の教会に示すようなことが決してあってはならないからである。

わたしは愚かにも不従順な子供をつれて方々を旅行していた牧師をたくさん知っている。説教壇における彼らの苦心はその子供たちの示す愛らしくない性質で妨げられてしまった。11

**よその子供に関心を持ちなさい** あなたは他人を除外して自分の家族にだけ関心を注いではならない。あなたが兄弟たちの親切を受けるなら、彼らがその代わりに何かを期待するのは当然である。その両親や子供たちの関心と一つになり、教え祝福するよう努めなさい。あなたは神のみ働きに献身し、あなたに親切である人々に恵みとなるように、両親と交わり、どんな場合にも子供たちを無視するようなことをしてはならない。自分の子供のほうがよその子供より神の御目に尊いなど思っているのではない。12

**わがままな牧師のむすこに対する訴え** あなたの父は福音の使者である。そしてサタンは牧師の子供たちが両親をはずかしめるよう精魂を傾けて働きかける。彼はできることなら牧師の子供たちを自分の意に従わせ、彼らに自分の悪の傾向を吹きこもうとする。あなたはサタンに、あなたをつ

かってあなたの両親の望みと慰めを破壊させるだろうか。あなたの両親はあなたがサタンの支配下に身をゆだねるために、尽きることのない悲しみをもってあなたをながめていなくてはならないのだろうか。あなたは両親の教えを受けようとせず、どんなことになるうとも自分かつてのことをしようとする子供を育ててしまったという失望を父母に与えてよいだろうか。...

あなたはよいことをしようという気持ちがあつて、両親の心に希望と期待を呼びさます。しかし今まであなたは誘惑を拒む力がなかったために、サタンはあなたがすぐに彼の思いのままになるのを見てよろこぶ。あなたは希望をもつて両親を元気づけるようなことをしばしば言うが、また敵に抵抗しないためにそれと同じくらい何度も失敗する。あなたがサタンの側にいるのを見て、父母がどんなに苦しむかがあなたにはわからない。あなたは、あなたがなすべきことであるのを知っているが、「これはできない」、「あれはできない」と言うことがよくある。あなたはあなた自身の力ではなく、神がいつでもあなたに与えようとしておられる力によって敵に立ち向かうことができる。みことばに信頼するなら、あなたは決して「できない」と言わないであろう。...

わたしはあまり遅すぎないうちに帰るよう主の名によつてあなたに訴える。あなたは神の共労者である両親のむすこであるゆえに、よい気質をもつ少年であるはずだと思われている。しかしあなたはそのわがままな性質によつて父母をはずかしめ、彼らがしようと努力している働きを妨げることがよくある。あなたの母は、あなたのわがママがなくても心をふさぎ、元気をくじくようなことが十分あつたのではないだろうか。それでもなおあなたは父の心を悲しみにて圧迫するような行為を続けるのだろうか。全天が不快な目であなたをながめているのがあなたには楽しいのだろうか。自



分を敵の隊列の中において、彼に命令され支配されるのがあなたには満足なのだろうか。

ああ、どうぞ今日という間にあなたが主に帰ることをわたしは願ってやまない。あなたの行為の一つ一つがあなたをよくするか悪くするかしているのである。あなたの行為がサタンの側にあるなら、それは有害な結果を生じ続ける影響を残す。純潔で清く聖なる者だけが神の都にはいれるのである。「きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、……あなたがたの心を、かたくなにしていけない」、そしてあなたのたどる道のわだちに悲しみが残ることがないように主に帰りなさい。」  
13

**牧師は思いやりと親切をもって子供を扱わねばならない**

牧師が子供を扱うときには、思いやりと親切をもってしなさい。彼は常に彼らがおとなの男女を小さくした人たちであり、主の家族の子供たちであることを心にとめていなければならない。この子供たちは主にとって非常に親しく、また愛すべき者たちであろう。そしてもし正しい訓育としつけを受けるならば、若い時からでも主に仕えるようになるのである。キリストは子供たちにとげとげしく、思いやりのない激しいことが語られるたびに悲しく思われる。子供たちの権利はいつも尊ばれるわけではない。そして彼らは個性があるのだから、それがゆがめられ、彼らの生活における神の御目的が失敗に終わることがないように正しく育てる必要があることなど、どうしてもよいように扱われることがよくある。  
14

教会は群れの子供たちに特別に注意を払い、あらゆる感化力を働かせて子供たちの愛を獲得し、彼らを真理に結びつけるようにしたいものである。牧師や教会の信徒たちは、子供たちを安全な道に導こうとする両親の努力を助けなければならない。主は子供たちを求めておられるが、それは主

が彼らをご自身の旗の下でよい奉仕をする助け手にしたいと思っておられるからである。 15

**敬虔についての有力な説教** 牧師は子供の監督について人々を教えるべきであり、彼自身の子供

たちは正しい服従の模範となるべきである。 16

牧師の家庭には実際的な敬虔について有力な説教をする一致がなくてはならない。牧師とその妻が抑制し、矯正し、助言し、勧告し、指導しながら、彼らの家庭の務めを忠実に果たすとき、彼らは教会で働くのにもっとふさわしいものとなり、家庭の外で神のみ働きを完結する力を増していくのである。家族の者は天の家族の一員となり、また善への一つの力となって広範囲に感化を及ぼす。 17

1、G W・二〇四ページ  
2、L・一・一八七七年  
3、G W・二〇四ページ  
4、同・二〇六ページ  
5、P P・五七九ページ  
6、5 T・一六一ページ  
7、L・一・一八七七年  
8、1 T・一三九ページ  
9、同・四四九、四五一ページ

10、4 T・三八一ページ  
11、L・一・一八七七年  
12、4 T・三八二ページ  
13、L・一五A・一八九六年  
14、4 T・三九七、三九八ページ  
15、R H・一八九二年十月二十五日  
16、L・一・一八七七年  
17、G W・二〇四、二〇五ページ

## 第五九章

### 年老いた両親

「あなたの父と母を敬え」

両親を敬うよう子供たちに負わせられた義務は、一生継続するものである。両親が年老いて弱っているなら、子供たちは父母の必要に準じて愛情と配慮を与えなければならぬ。両親の心から不安と当惑の念をすべて取り去るためには、もしそれが自己犠牲を必要としても、子供たちは雄々しく断固として自分たちの活動の方法をかえなければならない。……

子供たちは父母を愛し、やさしくいたわるよう教育しなければならない。子供たちよ、あなたは自分の手で父と母を世話しなさい。なぜならそうすることができると喜んで、小さな親切の行為をすることができるとはほかにないからである。親切の種をまく貴重な機会を活用しなさい。1

両親に対するわたしたちの義務は決して終わることがない。両親に対するわたしたちの愛、またわたしたちに対する彼らの愛は年数や距離で計られるものではなく、またわたしたちの責任は決して捨ててよいものではない。2

年老いた両親にはいくらくみても喜びや慰めというものがほとんどないことを、子供たちは心しておぼえたいものである。子供たちから無視されるほど彼らの心に大きな悲しみをもたらすもの

がほかにあるだろうか。年老いたかよいい父と母に悲しみを与えるほど子供にとって大きな罪がほかにあるだろうか。3

### 道をなめらかにしなさい

子供たちがおとなになると、そのある者は両親に住居を提供すれば彼らの義務が終わったかのように考える。彼らは両親に三度の食事と住居をあてがっても一方では愛や同情を少しも示さない。両親が年老いて愛情や同情を表明されることを切望するときになると子供たちは無情にも彼らに親切をしなくなる。子供が父や母に尊敬と愛を与えずにおいてよいときはないのである。両親が生きている間に、彼らをあがめ敬うことが、子供にとって喜びとならなければならない。彼らは老いた両親の生活にできるだけ明るさと太陽を持ちこまなければならない。彼らは彼らの墓に至るまでの道をなめらかにしなくてはならない。この世に子供が両親を敬ったというところほどよい推薦状はなく、子供が父と母とを愛し敬ったということほど、天の書にされるすぐれた記録はないのである。4

### 親に対する忘恩

子供が自分から進んでうむことのない配慮と愛情をもって親を見守り、力を尽くしてあらゆる悲しみの原因となるものを取り除こうとしないほど、父や母の要求に対して無感覚になることができるものだろうか。彼らが両親の晩年を最良の年にすることを喜びとしないことがあり得るだろうか。むすこやむすめが自分たちに代わって父や母を世話してもらうために、自分から他人の手にまかせることができるだろうか。たとえば母親が未信者で感じのよい人でなくて

も、それは神が両親の世話をするよう子供に負わせたもうた責任から彼らを解放するものとはならない。<sup>5</sup>

**尊敬されないことに責任のある親** 両親が子供の小さい時に親に対して怒ったり、荒々しいことばまで出すことを許して、親をあなどるようなふるまいをさせておくなら、彼らは後年になって恐るべき収穫をすることになる。父母が完全な服従を即座にするよう子供に要求しないなら、彼らは子供たちの中に正しい品性の基礎を築くことに失敗する。キリストの恵みが子供たちの心を変化させその品性を変えない限り、彼らは年老いてから子供たちが自分たちを尊敬せず、墓に近くなつてから自分たちの心に悲しみを与えるように彼らをつくってしまうのである。<sup>6</sup>

**不当な両親に報復を示してはならない** ある女の子が母親について言った、「わたしはいつもお母さんをきらっていました。またお母さんもわたしがきらいでした。」このことは天の書に記録しておかれ、各自がその行為に従って報いを受ける審判の日に開かれて明らかにされるのである。

かりに子供が少年時代にきびしい扱いを受けたと思つても、親に対し、ことに彼らが年をとつて弱くなつているときに、報復や復しゅうの精神をいだくことは、彼らがキリストの恵みと知恵に成長するのに役立つだろうか。それは彼らに神のみかたちを反映させるだろうか。両親の無力そのものが子供の愛を受けなければならぬことを示していないだろうか。年老いた父や母の窮乏が心の崇高な感情を呼びさまさないだろうか。そしてキリストの恵みによって親は彼らの子孫からやさし

い思いやりと尊敬をもって扱われないのだろうか。ああ、どうか父や母に対して心を鉄のように固くしないでほしい。キリストのみ名を公言するむすめがどうして母親に対し、特に病気で年老いた母親に対して憎しみをいだくことができよう。どうか子供は親に対してクリスチャン生活の最も美しい実であるやさしさと愛とを心に宿してほしい。7

### 虚弱な者に忍耐深くありなさい

特に恐ろしいのは、年老いて弱くなり、第二の子供時代に附随するそれらの弱い性質の出てきた母親に子供が憎しみをいだくことである。子供はそのような母親をどんなにか忍耐深く、どんなにかやさしく許すべきではないだろうか。彼らは心をいら立たせないようにやさしくことばをかけなければならない。真のクリスチャンは決して不親切であつたり、どんな事情のもとにあつても父や母をおろそかにすることなく、「あなたの父と母を敬え」との戒めを心に留めなくてはならない。神は言われた、「あなたは白髪の人の前では、起立しなければならぬ。また老人を敬い……」と。

子供らよ、弱くなって自分の世話もできなくなっている両親の晩年を、満足と平安と愛に満ちたものにしてあげなさい。あなたはキリストのために親切と愛といつくしみと寛大なことばだけをかけて、親を墓に下らせてあげなさい。あなたは主があなたを愛し、あわれみ、許されることを願ひ、病気のときには寢床を備えてもらいたいと思うであろう。それなら人にも自分がしてほしいと思うようにしてあげたらどうだろうか。8

年寄りを世話するのは神のご計画である

家庭のない年老いた兄弟姉妹を世話する問題は、絶えず

勧告されている。彼らをどうしたらよいであろうか。主がわたしに与えられた知識は繰り返し言う、年老いた人たちがいっしょに集まっていられるように彼らのめんどろをみる機関を設けることは最良のことではないと。また世話してもらうために彼らを家から外へ追い出すべきでもない。各家庭の人たちが自分の身内の者に力を貸したいものである。これが不可能な場合には、その仕事は教会がなすべきで、教会はそれを義務または特権として受けなければならぬ。キリストの精神を持つ者は弱くなった年寄りたちを、特別の敬意とやさしさをもってたいせつにするであろう。 9

満足と喜びをもたらす特権

子供たちが親に仕えて慰めとなり得たという思いは、一生を通じて

の満足となり、特に自分たちが同情と愛を必要とするときに喜びを与えるであろう。心が愛で満たされている人々は、親のために墓場までの道をなめらかにすることを量り知れない特権であると考え。彼らは愛する両親の晩年に慰めと平和を与えることに役立ったことを喜ぶ。これとは反対に無力な年寄りたちにむすこやむすめたちがやさしい助力を拒めば、わたしたちの心が石のように冷たく固くなってさえないなければ、それを悔恨の情で満たし、日々、後悔の念で満たすであろう。 10

1、M S S・一八・一八九一年

2、R H・一八九二年一月一日

3、同

4、同

5、同

6、M S S・一八・一八九一年

7、同

8、同

9、6 T・二七二ページ

10、R H・一八九二年一月一日





第一  
三部

金  
銭  
の  
使  
用  
法



## 第六〇章

### 神の家宰

神の所有権を認めなければならない

実業における正直と真の成功の根本は、神の所有権を認め

ることにある。万物の創造者である神 彼こそ本来の所有者にいましたものである。わたしたちは神の家つかさである。わたしたちが持っているものはすべて神から委託されたものであり、神のさしずに従って用いなければならないのである。

このことは人類一人びとりに負わされた義務である。それは、人間の活動の全部の範囲にわたって関係がある。わたしたちが認めようと認めまいと、わたしたちは、神から才能と便宜を与えられて、神から割り当てられた働きをなすべくこの世におかれている家つかさである。 1

金銭はわたしたちのものではない。家や土地、絵画や家具、衣服やぜいたく品もわたしたちのものではない。わたしたちはさすらい人であり他国人である。わたしたちはただ健康と生活に必要なそれらのものをささずかったものとして持っているだけである。：：わたしたちのこの世の祝福は、わたしたちが永遠の富をあずかることができるか否かを試すために保管すべく与えられているのである。もしわたしたちが神の与えられるこの試験にもちこたえるなら、わたしたちは自分のものと

なるために買われた財産である栄光と誉れと永遠の命を受けるのである。 2

**わたしたちは申し開きをしなくてはならない**

もしわたしたちの民が彼らに託された金銭を神のみ働きに注ぎ込むなら、彼らは利己的な満足や偶像崇拜に消費するものを、宝として天に積み、神が彼らにしよう要求なさる仕事そのものをしていことになるのである。しかし彼らはたとえ中の金持ちのようにぜいたくな暮らしをする。神がみ名の栄光のために用いるよう彼らに委託物としてお貸しになった金銭を彼らはむだに消費する。彼らは自分が神に対して責任のあることを考えようとしな。彼らは自分の管理について説明をしなければならぬ決算日が間もなく来ようとしていることを考えない。 3

わたしたちは審判の日にはどのようなに神の金銭を使ったかについて説明しなければならぬことを常におぼえていなければならない。なんら真の益となることなく、反対に明らかな害となる自分の楽しみや満足のために、多くの金銭が使われる。もし神がすべての良き物をお与えになるおかたであること、また金銭は神のものであることをわたしたちが認めるなら、わたしたちは神の聖旨に従い、知恵を働かせてそれを使うであろう。世とその習慣や流行はわたしたちの基準ではなくなる。わたしたちはその慣例にならいたいとの願いを持たなくなり、自分の好みに支配されることがなくなる。 4

わたしたちは金銭を使用するとき、それを高慢、虚栄、食欲あるいは情欲のために用いることなく、神聖な委託物であると考えて、霊的向上のための手段とすることができ。 5

わたしは記録する天使が神にささげられ庫に納められる一つびとつの献金につき、またそのように用いられた富の最後の結果について忠実に記録するのを示された。神の御目は、神のみ働きにささげられる一片の小銅貨でも、またささげる人が心からそれをささげるかどうかということまでも、認めておられる。またささげる動機も記録される。 6

**家族の規則的な献金** 「あなたがたはそれぞれ、いくらでも収入に応じて手もとにたくわえておき……なさい。」家族のものはみな、年老いた者から子供に至るまでこの献金のわざにたずさわることができる。……規則的に献金する計画は、各家庭にとって不必要なものに金銭を費やす誘惑から守る防衛となり、特に金持ちにとっては奢侈（しゃし）にふけることから彼らを守る祝福となるであらう。

その計画を完全に成し遂げる家族の者はみな、神が毎週各家族に対して要求なさることを思い起こす。そして金を庫に納めるためにぜいたくなものに対する欲望を押えたとき、神のみ栄えのために自制する貴重な教訓が心に銘記される。家族の者は週に一回、各自、前の週にしたこと、すなわちもし節約すれば貯えられたかもしれない収入や、気ままにしたために失ってしまった金と対決させられる。彼の良心は神のみにあたかも手綱で引きしめられるように止められて、彼をほめるか責めるかする。もし彼が心の平安と神の恩恵とを保とうと思うなら、食べることも飲むことも、また着ることも神のみ栄えのためにすべきであることを学ぶ。 7

神のご要求を第一にしなさい

神のご要求が第一にされなければならない。わたしたちがも自分分の欲望をみな満たした上で収入の余った分を神にささげるのでは、神のみ旨を行なっていると言うことはできない。わたしたちは収入を少しも消費しないうちに、神が要求なさる分を取り出して神にささげなければならない。昔の宗教制度によると、感謝のささげものは絶え間なく祭壇の上でたかれていたが、神に対する人類の無限の義務はこのようにして表わされた。わたしたちがこの世の事業に繁栄するなら、それは神がわたしたちを祝福されるからである。この収入の一部は貧しい者にささげ、大部分は神のみ働きに当てられるはずである。神が要求なさる分を神にささげたら、残りはわたしたち自身の用途のためにきよめられ祝福される。しかし人が神の要求なさるものを出さないことによって神のものを盗むとき、神の怒りは全体の上に及ぶのである。8

困窮者をおぼえなさい

わたしたちがもしキリストのご品性を表わすなら、すべての自我を心から追放しなければならない。神がわたしたちの手に与えられた働きを推進するためには、わたしたちはどんなにわずかなものでも節約してささげることが必要である。わたしたちは貧しい家や困窮している家族を知るようになれば、その苦しみ悩む人たちを助けなければならない。わたしたちは周囲の至る所にある人間の苦しみについてあまり知らない。しかし機会が与えられれば、わたしたちはきびしい重圧の下にある人々を、直ちに助ける用意がなければならないのである。9

ぜいたくに金銭を浪費することは、貧しい人たちに必要な食物や衣類を与える資力を彼らから奪ってしまう。衣服や家や、家具や装飾の誇りを満足させるために費やされる金銭が、不幸に苦しむ

多くの家族のために用いられるならば、それは彼らの苦痛を和らげるであろう。神の家つかさは困窮者に仕えなくてはならない。一〇

**わがままと貪欲からの神の救治法** 自制の実である与えるということは、与える者にとってはすばらしい益となる。それは善を行ない、苦しむ者を樂にし、貧しい者の必要を満たしながらめぐり歩かれたお方の働きを、もつと深く了解させることのできる教育をわたしたちに授ける。11

絶えず自制する慈悲の心は、わがままと貪欲（どんよく）という心を腐らす罪に対する神の救治法である。神はご自身の働きをささえ、貧しい困窮者の必要を助けるために規則的に献金することを取りきめられたのである。神は与えることが習慣になるように、またそれが貪欲という、人を惑わす危険な罪を防ぐことができるように定められた。絶えず与えることは貪欲を根絶する。金銭が手にはいるやいなや貪欲な者からそれをひき離し、その所有者であられる主に聖別するために規則的な献金が神の制度のうちに計画されているのである。……

規則的な献金についての神のご計画を絶えず実行すれば、貪欲心は弱まり、慈悲の心が強くなる。富が増すと、信心深いと告白する人々でさえ、それに心を向けるようになる。そして富を多く持つようになればなるほど彼らは主の庫には少なくささげるようになる。このように富は人を利己主義にし、貯えることは貪欲を養う。そしてこれらの悪は活発に働かせることによつて強くなる。神はわたしたちの危険を知り、わたしたち自身の破滅を防ぐ方法をわたしたちの周囲にめぐらして、わたしたちを保護しておられる。神は善行の習慣の力が反対の習慣の力を破ることができるように、

慈善心を絶えず働かせることを要求される。

12

1、教育・一六八、一六九ページ  
2、L・八・一八八九年  
3、L・二・一八八九年  
4、L・八・一八八九年  
5、同  
6、2 T・五一八、五一九ページ

7、3 T・四一二ページ  
8、4 T・四七七ページ  
9、M S S・二五・一八九四年  
10、R H・一八八九年一月八日  
11、Y I・一九〇七年九月一日  
12、3 T・五四八ページ



## 第六章

### 一家の経済的原則

金錢は祝福にも災いにもなり得る　　金錢は必ずしも災いではない。もし正しく用いれば高い価値のあるもので、それは救霊に役立ち、わたしたちより貧しい人たちを祝福するのに益となる。先見の明のない愚かな使い方をすれば、……金錢はそれを使う者にとってわなとなる。誇りと野心を満足させるために金錢を使う者はそれを祝福とするよりも災いとする。金錢は絶えず愛情を試みるものである。真の必要を満たす以上のものを得る者はみな仮想の必要品を考えたり、主から託された資力をぜいたくに使う不忠実な家つかさとなることがないように、自分自身の心を知り、自分の心を勤勉に守るために知恵と恵みを求めなければならない。

わたしたちが神をこの上なく愛するとき、この世のものはわたしたちの愛情の中で正しい位置を占める。わたしたちが主の財産を正しく用いるために、知恵と能力とをけんそんに、また熱心に求めるならば、わたしたちは上よりの知恵を受ける。心がそれ自体の選択と傾向に傾き、金錢は神の恵みがなくても幸福を与えることができるという思いをいだくとき、それは人を支配する暴君となる。それは彼の信頼と尊重を受け、神として崇められる。徳義心、誠実、正義、公正などがその祭

壇で犠牲にされる。神のことばの支配力が退けられ、マンモンが定めた世の習慣やしきたりが支配的な力となる。1

### 家の持ち主となることによって安定を求めなさい

もし神の与えられた律法が今なお行なわれていたら、今日の世界の状況は道徳的に靈的に、また現世的にどんなに違っていただであろう。利己主義や尊大さが今のようにはばをきかすことなく、一人びとりが他人の幸福と繁栄とをやさしく顧みる気持ちをいさぐであるう。貧しい階級の人たちが富む人たちによって鉄のかかとに踏みつけられているのではなく、また、靈的なことと同様この世のことでも自分たちのために、他人に考えたり計画したりしてもらうのではなく、彼らは独立して物を考え行動する機会を持つてであろう。

自分の家を持つという意識は、向上したいとの強い願望をもって彼らを励ます。彼らは間もなく自分たちのために計画し工夫する技術を身につけるであろう。彼らの子供たちは勤勉と節約の習慣を養われ、知力もまた大いに強められる。彼らは自分たちが奴隷ではなく人であると感じ、失った自尊心と道徳的独立心とを大に取りもどすことができるようになる。2

わたしたちの民に、町を出ていなかに行き、そこで小さな土地を手に入れて、自分や子供たちのために家を持つように教えなさい。3

### 家を売却することについての注意

家を売ってその売上金をみ働きにささげたいと思うがどうであらうと、手紙で相談してくる貧しい男女がいる。彼らは資金への訴えに心を動かされ、彼らのた

めにあらゆることをしてくださった主のために何かしたいのだと言う。そのような人たちにわたしは言いたい、「今あなたがたの小さい家を売ることはあなたの務めではないかも知れない。それよりもあなた自身のために神のところに行きなさい。主は必ずあなたの熱心な祈りを聞かれて、あなたのしなくてはならないことを了解する知恵を与えてくださるであらう」と。4

神は神の民が住まなくてはならない家を要求するようなことはなさらない。しかしもし豊かに持っている人が神の声を聞き、世から切り離され、神のために犠牲を払うことをしないなら、神は彼らを見すごしにされ、イエスのために何でも喜んでし、み働きの不足のためには家を売ることすら辞さない人々を求められる。5

**ほめる価値のある自立** ある種の自立はりっぱなものである。自分の荷を負い、人からパンをもらって食べることを望まないのは正しいことである。それは自活したいとの願いを起こさせる崇高で度量のある大志である。勤勉な習慣と儉約が必要である。6

**予算を考える** 収入の範囲内で出費をまかなうことができるように自分を訓練していない人が非常に多い。彼らは自分を環境に当てはめることを学んでいないので、次から次へと借金をして、借金に圧倒され、しまいには失望落胆してしまうのである。7

**出費を記帳しておきなさい** 妻であり母である者の側における放縦の習慣と、気転や巧妙さの欠

乏のために、絶え間なく金銭が流出することがある。しかしその母親は自分の必要や子供たちの必要を制限することを教えられていないし、また家事を切りまわす巧妙さや気転を習得してもしないので、自分では最善を尽くしていると考えられるかもしれない。ゆえにある家族はその扶養に、同じくらしいの家族に十分な額の倍も必要とすることがある。

わたしたちはみな簿記の方法を知っておかなくてはならない。ある者はこのような仕事は必要でないと考えておろそかにするが、それはまちがっている。出費はみな正確に記帳しておかなければならない。8

### 浪費癖の害悪

主はわたしが子供たちに厳格な節約法を教えるよう両親たちに勧告するために、浪費の習慣から生じる害悪をわたしに示された。必要でないものに費やされた金銭は、金銭のむだづかいであることをわれらに教えなさい。9

もしあなたがぜいたくな習慣を持っているなら、それを直ちにあなたの生活から切り取ってしまいなさい。あなたはこうしない限り永久に破産してしまうであろう。節約と勤勉と謹厳な習慣はあなたの子供たちにとって大きな持参金よりもすぐれた宝である。

わたしたちはこの地上ではさすらい人であり他国人である。神がわたしたちに抑制させたいと思われるような欲望を満たすために富を費やすことをやめようではないか。わたしたちは欲望を制することによってわたしたちの信仰をふさわしく表わそうではないか。10

**濫費する両親への戒め**

あなたは金銭の経済的な使用法を知らず、自分の収入内で必要を満たすことを学んでいない。……あなたは自分の気のむくままに自由に金銭を使えるよう、それを得ることを切に望んでいるために、あなたの教育や模範は子供たちに災いとなった。彼らはなんと原則を無視していることであろう。彼らはますます神を忘れ、神を怒らせることを恐れなくなり、抑制に耐えられなくなっている。金銭が容易に得られれば得られるほど、感謝することが少なくなる。 11

**資力以上の生活をしている家族へ**

あなたは支出が収入を越えないように注意すべきである。あなたの欲求を締めなさい。

金銭の使用法に関してあなたの妻はあなたに非常によく似ていて、大きな漏れを防ぐために小さな出費を警戒する面で少しも助けにならないことは、非常に気の毒なことである。あなたの家庭管理では不必要な出費が絶えず生じている。あなたの妻は子供たちが彼らの資力以上の装いをするのを見るのが好きなので、そのために子供たちを虚栄心の強い高慢な人間にするような趣味や習慣を彼らの心に養っている。もしあなたが経済的な教訓を学び、自由に金銭を浪費することにより自己や子供たち、また神のみ働きに危険を及ぼすことがわかれば、あなたはあなたのクリスチャン品性を完成させるのに必要な経験を獲得するであろう。あなたがそのような経験を自分のものとしないうちに、あなたの子供たちは生涯欠点のある教育の型を身につけてしまうのである。……

わたしは宝をたくわえなさいとは言わない。あなたにとってそれは困難であろう。しかしわたしはあなたがた二人に、注意して金銭を用い、あなたの日々の模範によって、節約と自制と経済の教訓

を子供たちに教えるよう勧める。あなたは彼らを教訓と模範をもって教育しなければならない。 12

### 克己を要する家族

兄弟姉妹がたよ、わたしはあなたがたが学ばなければならない多くのことがあることを示された。あなたがたは身分相応な生活をしていない。あなたがたは節約することを知っていない。たとえあなたがたが高い給料をとっているとしても、あなたがたはそれができるだけ役立つように使うことを知らない。あなたがたは分別を持たずに、嗜好や食欲を考慮する。あなたがたは時々兄弟たちが奮発して買うことができないような食物に金銭をかける。金はあなたがたのポケットからどんどん出て行く。……自制は、あなたがた二人がまだこれから学ばなければならない教訓である。 13

親は身分相応に生活することを学ばなければならない。彼らは教訓や模範をもって子供たちに自制を教え、それを育ててやらねばならない。彼らは欲求を少なく、また質素にして、知的向上と霊的修養のために時間をとるべきである。 14

### 甘やかすことは愛の表現ではない

子供たちに対するあなたの愛が、彼らの自尊心、奢侈虚飾への執着心をいだかせることで表わされると彼らに思わせるような教育をしてはならない。今は金銭を使い果たす方法を考える時間はない。節約しようと努めることにあなたの創意力を用いなさい。 15

### おしみなく与えることと両立する節約

現代の青年たちは、節約を無視あるいは軽視し、それを

けちや度量のせまいことと混同する傾向を持っている。しかし節約は最も広くて自由な見解や気持ちと両立するものである。節約が実行されていないところに真の寛大さはあり得ない。節約を研究し、小さなことに気をつける最善の方法を研究することは恥ずかしいことだと考えてはならない。16

### もう一つの極端

#### へたな経済

身体をおろそかにし、これを濫用し、そのために神のみ事業に不適当な者となることは、神の栄光とはならない。おいしい、体力をつける食物を準備し、身体に注意を払うことは家長の主要な義務の一つである。食物を節約するよりも衣服や家具の方で高価でないものを用いるのがずっとよいのである。

ある主婦はお客に高価なごちそうをするため、家族の食物を節約するが、これは愚かなことである。お客をもてなす時はもっと単純なものを出し、家族の必要をまず満たすべきである。

接待の必要が生じ、またそれが祝福となるような場合にも、経済がへたなために、あるいは不自然な習慣のためにそれができないことがよくある。日常の食卓にのせる食物は主婦がわざわざ余分な準備をしなくても、不意の客を歓迎できる程度のものでなくてはならない。17

わたしたちの節約は決して貧弱な食事を供するようなものであってはならない。学生は健全な食物を十分にとるべきである。しかし調理の責任を持つ者はむだになるものがないよう、残り物を集めて調理したいものである。18

節約とはけちけちすることではなく、しなくてはならないせつな働きがあるゆえに、金銭を慎重に使うということである。19

妻の労力を軽くするために便利な設備をしなさい

E 兄弟の家庭はこの上なくきびしい経済的原則に従って生活している。……E 兄弟は、神のみ事業を進めていく資金を必要とするときに、私的な便宜のために金銭を投じることはもつたいたないと考えて、良心的にも自分の大家族に便利な薪小屋や台所を建てないことに決めたのであった。わたしは彼が家庭を楽しくし、妻の労力を軽くするために便利な設備をすることは健康にも、また子供たちの教訓のためにも必要であることを何とかして彼に示そうとした。 20

私的使用のための妻のこづかい

あなたがたは互いに助け合わねばならない。さいふのひもを固く締めて妻に金銭を与えないことを、よいことであるとみなしてはならない。 21

妻には週ごとに一定の金額を与え、そのお金で彼女の好きなようにさせるべきである。あなたは妻が占めるはずの地位について正しい認識を持っていなかったために、彼女に気転や趣味を働かせる機会を与えなかった。あなたの妻はよく均整のとれたすばらしい精神を持っている。 22

あなたのもらう金銭を妻に分け与えなさい。それを彼女のものとして与え、彼女の望むままに用いさせなさい。彼女は彼女が手に入れたものを彼女自身の判断で最善と思うことに用いるようにさせてもらうべきであった。もし彼女が何も言われないで自分自身のものとして使う一定の額をもつていられたら彼女の心から大きな重荷が取り去られるであろう。 23

慰安と健康を求めなさい

P 兄弟は富を賢明に用いていなかった。彼は子供たちの意見や要求に



動かされなかったように、賢明な判断にも左右されることがなかった。彼は自分の手にある財産に対して当然なすべき評価をせず、最も必要なもの、すなわち慰安と健康のためにはどうしてもなくてはならないものに、それを用心深く使わない。家族全体がこの点を改良する必要がある。家庭を便利に楽しくするためには多くのものが必要である。家庭の事物を秩序正しく整然と整理することの真価を認めないことは、破壊を来たし大きな不利を生じさせるものである。 24

わたしたちは麻布の衣をからだにまとったり、家庭からあらゆる慰安と趣味と便宜を追い出してしまふことによつて、いつそう心を清く神聖にすることはできないのである。 25

神は民が健康と慰安に真に必要なものを取り上げてしまふようにとは要求なさらないが、気まぐれや浪費、虚飾はお喜びにならない。 26

**節約すべき時、消費すべき時をわきまえなさい** あなたはどんな場合に節約し、どんな場合に消費すべきかを学ばなければならない。わたしたちは自分を制し十字架を負わなければ、キリストの弟子となることはできない。わたしたちはいつもきちょうめんに支払い、落ちた縫目を拾い集め、ほつれた端をかがるように、まだ支払っていないものをちゃんと支払つて、自分のものと言えるものを知っていなくてはならない。あなたは自分を満足させるために費やされたわずかなものを総計算しなければならぬ。あなたはただ嗜好を満足させ、墮落した食道楽の食欲を満たすためだけにどれだけのものが使われるかに注意すべきである。無益な珍味のために消費された金銭は、あなたの家庭になくしてはならない慰安と便宜とを加えるために使用できたかもしれない。けちけちしては

ならない。あなたは自分自身と兄弟たちに正直でなくてはならないのである。物惜しみをすることは神の恵みを悪用することである。浪費をすることもまた悪用することである。とるに足らないと思われる小さな出費も終わりににはかなりの額となるものである。 27

**服従した心は導かれる** あらゆる点でいかに節約することができるかということをご詳しく述べる必要はない。心を神に全く服従させた人々、みことばを手引きとする人々は生活のすべての務めにおいてどのようなようにふるまうべきかを知るものである。彼らは心低く、けんそんであられたイエスについて学ぶ。そしてキリストのけんそんを養い育てるうちに、彼らは多くの誘惑に対して扉を閉ざすのである。 28

1、L・八・一八八九年  
2、H S・一六五、一六六ページ  
3、G C B・一九〇三年四月六日  
4、5 T・七三四ページ  
5、R H・一八八四年九月一日  
6、2 T・三〇八ページ  
7、R H・一八九三年二月一九日  
8、G W・四六〇ページ  
9、C T B・六三ページ  
10、R H・一九〇三年二月二四日  
11、L・八・一八八九年

12、L・二三・一八八八年  
13、2 T・四三一、四三二ページ  
14、R H・一八九〇年六月二四日  
15、6 T・四五一ページ  
16、5 T・四〇〇ページ  
17、ミニストリー・オブ・ヒーリング・二九六ページ  
18、6 T・二〇九ページ  
19、L・一五一・一八九九年  
20、L・九・一八八八年  
21、L・六五・一九〇四年  
22、L・四七・一九〇四年

## 第 13 部 金銭の使用法

252423  
、 、 、  
R 2 L  
H T ・  
・ ・ 一  
一 六 五  
八 九 七  
八 九 ・  
二 ペ 一  
年 ー 九  
五 ジ 〇  
月 三  
一 年  
六 日

282726  
、 、 、  
C L R  
T ・ H  
B ー ・  
・ ー 一  
六 ・ 八  
三 一 九  
ペ 八 三  
ー 八 年  
ジ 八 一  
年 二  
月  
一  
九  
日

## 第六二章

## 実行すべき経済

「パンくず……を集めなさい」      キリストはかつて節約についての教訓をでしに与えられたが、それは細心の注意に値するものである。彼は彼の教えに耳を傾けていた数千人の空腹な群衆を養うために奇跡を行なわれた。それなのにみんなが食べて満腹したあと、キリストはそのパンくずをむだになさらなかった。必要とあらばその聖なるみ力によって大群衆を養うことがおできになった。キリストは、何もむだにしないようにそのくずを集めなさいとでしに命じられた。この教訓はキリストの時代に生きた人々と同様今日のわたしたちの益のために与えられたものである。神の目はこの世の生活に必要なものに対し配慮される。彼は望むがままにいつでもこのようなごちそうをすることがおできになったにもかかわらず、ごちそうの後のパンくずをむだになさらなかった。1

わたしたちはイエス・キリストの教訓を実生活のあらゆる面に実行しなければならぬ。節約はすべてのことに実行されなければならない。何もむだにならないようにパンくずを集めなさい。心に触れるものがなく、そのために形式的なことばとなってしまう宗教がある。そのような宗教は実生活に持ちこまれない。わたしたちは宗教的本分と実業の面における人間の最高の思慮分

別さとを混合しなければならない。2

キリストの克己の精神にならないさい      キリストは人間が遭遇する失意や試練や悲しみを知らず

めに、苦悩と屈辱のどん底までくだられた。彼は彼に従う者に歩んでほしいと願われる道を歩まれた。彼は「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と彼らに言われる。しかしクリスチャンと自称する者が必ずしも救い主の求めたもう克己の精神を自発的に働かせているとは言い得ない。彼らは主にもっと多くをささげるために喜んで自分の願望や欲求を抑制しようとしなない。ある人は言う、「わたしの家族は口がごつていて養うのに費用がかかる」と。これは彼と家族の者たちがキリストのご生活によつて教えられている節約を学ぶ必要があることを示すものである。……

わたしたちはみな自分本位のぜいたくな欲求を満足させたいとの誘惑にかられるものであるが、命と栄光の主は人類に克己の精神を教えるためにこの世に來られたことを覚えようではないか。3  
自己のために生きない人々は、彼らの仮定の欲求をかなえ、便宜を満たすために金銭を使い果たしてしまうようなことはしないで、自分たちがキリストに従う者であることを覚え、食物や衣類に困っている人々がいることを心に留めるのである。4

神のみ事業を助けるために節約する      青年たちが経済と克己の教えを学ぶことによつて神のみ事

業を助ける特権については多くのことが言われる。青年たちはあれこれと楽しみ事に専心しなくて

はならないし、またそうするためには収入一ぱいの生活をすることに慣れていると多くの者は考える。神はこの点でもっと改善することをわたしたちに望まれる。わたしたちは十分に食し、飲み、着ることで満足するときは、自分に対して罪を犯しているのである。神はわたしたちの前にこれよりもっと高いものを持っておられる。わたしたちが自分本位な欲求を喜んで捨てて、氣力も知力も神のみ事業のためにささげるとき、天来の力はわたしたちに協力してわたしたちを人類の祝福としてくださるのである。

たとえ貧しくとも勤勉で経済的な青年は、神のみ事業のためにわずかでもたくわえることができる。 5

**不必要な浪費に誘惑されるとき**      あなたは装飾品に浪費するような誘惑にかられたとき、キリストが墮落した人類を救うために耐えられた克己と自己犠牲の精神を思い出すべきである。わたしたちは自分を捨てることと、自制心を働かせることを子供に教えなければならない。多くの牧師が経済的な困難を感じる理由は、彼らが嗜好や食欲や好みを制しないからである。多くの人が破産して不正直な方法で富を手に入れるようになるのは、妻や子供のぜいたくな趣味嗜好を満足させようと努めるからである。父や母たちは、教えと模範とをもって子供たちに経済を教えることに、いかに注意深くあるべきであろう。 6

わたしはすべての人の心に、仮想の欲求のために主の金銭を浪費することがいかに重大な罪であるかを印象づけることができたらしいと思う。わずかに思える金額の支出が永遠に達する連続的な

できごとの発端となることもある。審判が始まり書が開かれるとき、失敗の面があなたに見せられる。そのとき蓄積した金銭でああなたができたはずの善行や、全く自分本位的な目的のために用いられたそれよりも多額な金銭が、みな示されるのである。7

**小額の金銭に心しなさい** 不必要な物を買うためにつまらない金銭を浪費してはならない。あなたはこれらの小額な金銭を大したものだと思わないかもしれないが、これら小さなものでも、集まれば大きな額となるのである。わたしたちができることなら必要なもの、すなわち衣裳や自分本位の気ままのために浪費される金銭に対して注意したいものである。至る所にあらゆる形の貧困が見られる。そして神はあらゆる手を尽くして困窮している人類を救済することをわたしたちの務めとされた。

主はその民が思慮深く、よい管理人であることを望まれる。主は彼らがあらゆることに経済を学び、物をむだにしないことを望まれる。8

「たった五十円だもの」「わずか百円じゃないか」と思って、日々 unnecessary のものに浪費する額はわずかに思えるが、それは日々増加していった、何年かたつうちにその数字は信じられないほど大きくなってしまふものである。9

**流行を追う隣人と張り合ってはならない**

金持ちらしく見せかけたり、低くへり下られた救い主に従うとるに足らない者であるはずの自分以上に見せかけたりすることはよくない。わたしたちは隣人が自分にまねできないような家を建てたり飾ったりしても、心を騒がせてはならないのである。

イエスはわたしたちが食欲を満足させ、自分たちの客を喜ばせ、自分たちの好みを満足させたりする自分本位なたくわえをどのようににあらにするであろう。わたしたちが誇示することを目ざしたり、自分の監督下にある子供たちにそうすることを許したりすることは、わたしたちにとって一つのわなである。<sup>10</sup>

#### ホワイト夫人の少女時代における個人的経験

わたしがまだ十二才だったとき、わたしは節約することとはどういうことであるかを知った。わたしは妹といっしょに手の職を学び、一日にわずかに二十五セントしかかせぐことができなかったが、その中から伝道にささげるためにわずかをたくわえることができた。わたしたちが少しずつたくわえたものはついに三十ドルになった。そして主がまもなく来られるとの使命にわたしたちが接し、人と財力の必要が叫ばれたとき、わたしたちはその三十ドルを暗黒にある人々に使命を伝えるトラクトやパンフレットに投ずるよう父に手渡すのを特権に感じた。……わたしと妹は手職で手に入れたそのお金で自分たちの着物を買った。わたしたちはお金を母に手渡すときに、「わたしたちが着物に支払ったあと、伝道の働きに献金する分が少し残るように買ってください」と言った。母は言われたようにし、それによってわたしたちの中に伝道精神を鼓舞してくれた。<sup>11</sup>

#### 原則的に節約を実行しなさい

神のみ事業をささえる資金の要求を快く受け入れ、苦しむ者や困窮者を快く助ける人たちは事務的なことを処理するのにだらしなく、ぐずぐずと手ぬるくする人た



ちではない。彼らは常に収入内で注意深く出費をまかなう。彼らは原則的に経済的である。彼らは  
 幾らかでも与えるために節約することは、自分たちの義務であると考える。

12

1、4 T・五七二、五七三ページ  
 2、M S・三一・一八九七年  
 3、L・四 A・一九〇二年  
 4、R H・一八九四年八月二日  
 5、Y I・一九〇七年九月一日  
 6、L・一・一八八八年

7、R H・一八九一年八月一日  
 8、L・二一・一八九八年  
 9、C T B・六三ページ  
 10、L・八・一八八九年  
 11、Y I・一九〇七年九月一日  
 12、4 T・五七三ページ

## 第六章

## 金銭の入手法と使用法を子供に教える

日常生活で簡素な習慣を訓練しなさい 親は、自制と克己の習慣を身につけさせるように子供を育て、教え、訓練すべきである。彼らは神のみことばに従い、イエスに仕える目的をもって生活すべき義務を、常に念頭においていなければならない。彼らは日常生活においては簡素な習慣に従って生活する必要があること、また高価な衣服や高価な食事、ぜいたくな家や家具は避けなくてはならないことを子供に教えなければならない。1

子供には幼い時から読み書きや算数を理解することや、自分のこづかい帳をつけることを教えなければならぬ。彼らはこの知識に一步步進歩して前進して行けるだろう。しかし何にも増して彼らに、主をおそれることは知恵の始まりであることを教えなければならない。2

青少年は家の経済に対して思慮深くあるべきである

金銭の使用法について誤った考えを持つているために青少年は多くの危険にさらされている。自分の想像上のあらゆる欲求を満足させるために引き出すことのできる無尽蔵な貯えがあるかのごとく、彼らに金銭をあてがって育ててはならぬ

い。金銭は神のみ働きをなすために、み国の建設のために、神からわたしたちにゆだねられた賜物とみなすべきであり、青少年は彼らの欲望を制することを学ばなければならない。3

家の出費に対して収入が限られているときにはことに、欲望を多くしないようにしなさい。あなたの欲望を親の資力以内にとどめなさい。主はあなたの無私の努力を認め、それをほめてくださるであらう。……最小のものに忠実でありなさい。そうするときあなたにはより大きな責任をおろすかにする危険をまぬかれることができよう。神のみことばに「小事に忠実な人は、大事にも忠実である」とある。4

**金銭の価値について教えなさい** 子供の側でなんら労することなく与えられる金銭はたいせつにされない。ある人ははげしい労働と労苦によって金銭を得なければならないが、自分の消費する金銭がどこからはいるかを正しく知り、自分の衣服や食物にかかる費用がどのくらいであるか、家を買うにはどのくらいかかるかを知っていることは、子供にとってどんなに安全なことであらう。

子供が自分で金銭を手に入れ、彼らのためにご自身の命を捨てられたイエスのもとに感謝のささげ物をたずさえて来て自分の責任を果たすことができるような方法はたくさんある。……彼らは彼らのかせぐ金銭は未経験な心の選ぶままに使ってよいものでなく、思慮分別をもって用い、伝道の目的にささぐべきものであることを学ばなければならない。彼らは父や母から金銭をもらい、それを献金として金庫に入れることで満足してはならない。それは自分のものではないからである。彼らは、「わたしは自分で何の犠牲も払っていないものをささげてよいのか」と自問すべきである。5

親が子供に賢明でない援助を与えるようなことがある。自分で学費をかせいで大学の課程をとる人たちは、だれかに学費を出してもらっている人たちより大学教育のありがたさがわかるものであるが、それは彼らが自分の犠牲を知っているからである。わたしたちは子供をふがいない重荷となるようにしてしまつてはならない。6

どんな青少年でも牧師や医師になる勉強課程をとる体力を持っているならば、彼が有用でつらい労作を経験する前に親がいくらかでも金銭を与えるのは、親の義務を誤っているのである。7

**自分で働いて金銭を得ることを子供に奨励しなさい** 郊外に住む多くの子供たちは、すこしの土地を与えられてそれを耕すことを習得できる。親はこれを神のみ働きにささげる資金を確保する手段にするよう子供に教えることができる。男の子も女の子もこの仕事にたずさわることができる。彼らを正しく指導すれば金銭の価値とそれを節約する方法を教えることができるであろう。子供たちは伝道の目的のために資金をつくるほかに、自分の衣服を買う助けをすることもできるであろうし、また彼らにこうするよう奨励しなくてはならない。8

**金銭の向こうみずな使い方をやめさせなさい** わたしたちは家の中の不必要なものに、ひだ飾りや意匠をこらした服に、菓子や必要でもない品々に、なんと多くの金銭を浪費することであろう。両親たちよ、自己を満足させるために神の金銭を用いることは罪悪であることを子供に教えなさい。少額の金銭は伝道の働きに用いるために、できるだけたくわえるよう子供たちを奨励しなさい。彼

らは克己心を働かせることにより、豊かな経験を身につけるであろうし、そのような戒めはしばしば不節制な習慣をつけることから彼らを守るものである。9

子供は必要なくだらないものをがまんすることによってキリストに対する愛を表わすことを学ぶことができる。なぜならそのようなものを買えば金銭は指の間からどんどん逃げていつてしまうからである。これはどこの家庭でもしなければならぬ。それには技巧と方法とを考えねばならないが、これは子供の受け得る最高の教育であろう。もし幼い子供たちがこぞってささげ物を主にたずさえるなら、彼らのささげ物は一つになって流れ出し、小さな流れからついには水かさを増して、大河となるであろう。10

暖炉だなの上か、どこか人目につく安全な場所に小さな貯金箱を置いて、主にささげる献金を入れるようにしてやりなさい。……このようにして子供は神のために訓練されるのである。11

**十分の一及び諸献金を納めることを子供に教えなさい** 主は十分の一をご自身のものであると主

張されるばかりでなく、それを主のためにいかによりわけるかをはたしたちに教えられる。主は、「あなたの財産とすべての産物の初なりをもって主をあがめよ」と言っておられる。これはたとえそれが他の点で正直な十分の一であっても、自分のために使ってから後その残りを主にささげなさいと教えるのではない。まずはじめに神の分をとって置くのである。ささげ物についてパウロを通して聖霊が指示されたことは、十分の一にもあてはまる一つの原則を示すものである。「一週の初めの日ごとに、あなたがたはそれぞれ、いくらかでも収入に応じて手もとにたくわえておき。」これに

は親も子供も含まれている。 12

**富んだ父たちが時々するあやまち**

子供の周囲の環境は、しばしば親の模範以上に大きな影響を子供に与えることがある。若い時の自分と同じようにふるまうことを子供に期待する富んだ人がいるが、彼らは子供がそうしないと時代の悪いことを責める。しかし彼らは自分たちが生活したような環境に子供を置かない限り、彼らにこれを期待する権利はない。その生活環境が現在ある父を作ってしまったのである。彼は子供のとき貧困に苦しめられ、懸命にがまん強く働かなければならなかった。彼の品性は貧困というきびしい学校において形成されたのである。彼は欲望を押え、活発に働き、嗜好をつましくしなければならなかった。彼は食物や衣服を得るために自分の能力を働かせなければならなかった。彼は節約を実行しなければならなかったのである。

父親は自分の最初のころよりむしろ豊かな身分に子供を置くように骨折る。これはよくあるあやまちである。もし今日の子供が父親と同じ学校で学ばなければならなかったら、彼らは父親と同じくらい役に立つ者となるであろう。父親は子供の境遇を変えてしまった。貧困は父親の主人であった。豊富な富はむすこを取り巻いている。彼の願望はみなかなえられる。彼の父の性格は貧困という厳しい訓練を受けて形成された。どんなささいな利得でもありがたく思われた。彼のむすこの習慣や性格は、かつての環境によってではなく、安楽でぜいたくな現在の境遇によって形成されるであらう。……どちらをみてもぜいたくなものに多く囲まれているとき、彼はどうしてそれを拒絶することができるでしょう。 13

子供に対する親の最良の遺産 親が子供に残すことのできる最良の遺産は、役に立つ仕事の知識と私欲のない慈悲心によって特徴づけられた生活の模範である。このような生活によってこそ彼らは金銭というものは自分の欠乏や他人の必要を助けたり、神のみわざを進展させることなどにそれが仕遂げる益に対してのみ評価さるべきものであるというその真価を示すのである。

14

- |    |                  |     |                   |
|----|------------------|-----|-------------------|
| 1、 | R H ・ 一八九四年一月一日  | 8、  | L ・ 三五六・一九〇七年     |
| 2、 | C T ・ 一六八、一六九ページ | 9、  | Y I ・ 一九〇四年一月一日   |
| 3、 | 6 T ・ 二一四、二一五ページ | 10、 | R H ・ 一九〇〇年二月二十五日 |
| 4、 | M S S ・ 二・一九〇三年  | 11、 | M S S ・ 一二八・一九〇一年 |
| 5、 | L ・ 一・一八八八年      | 12、 | R H ・ 一八九六年一月一日   |
| 6、 | L ・ 五〇・一八九五年     | 13、 | M S S ・ 五八・一八九九年  |
| 7、 | L ・ 一〇三・一九〇〇年    | 14、 | 3 T ・ 三九九ページ      |

## 第六四章

### 実業における誠実さ

聖書は実業の原則を教える原典である

聖書には正当な実業についてたいせつな準備の与えられ

ていない部門はない。勤勉、正直、倏約、節制、潔白という原則は、真の成功の秘決である。箴言の書に示されているこのような原則は、実際の知恵の宝庫である。商人も職人も、どんな実業部門の指導者たちも、自分自身のために、また雇い人のために、箴言の書にある賢人の言葉ほど適切な格言を他のどこにも見いだすことはできない。

「あなたはそのわざに巧みな人を見るか、そのような人は王の前に立つが、卑しい人々の前には立たない。」

「すべての勤労には利益がある、しかし口先だけの言葉は貧乏をきたらせるだけだ。」

「なまけ者の心は、願い求めても、何も得ない。」

「酒にふける者と、肉をたしなむ者とは貧しくなり、眠りをむさぼる者は、ぼろを身にまとうようになる。」……

聖書の中に幾度もくりかえし強調されている警告に注意するならば、どれほど多くの人々が、経



済上の失敗や破滅をまぬかれることであろう。

「急いで富を得ようとする者は罰を免れない。」

「急いで得た富は減る、少しずつたくわえる者はそれを増すことができる。」

「偽りの舌をもつて宝を得るのは、吹きはらわれる煙、死のわなである。」

「借りる者は貸す人の奴隷となる。」

「他人のために保証をする者は苦しみを受け、保証をきらう者は安全である。」 1

第八条の戒めは盗みや強奪は罪であるとしている。それは生活の最もささいな事に至るまできびしい廉潔を要求する。それは取り引きでだますことを禁じ、負債や給料の正当な支払いを命じるものである。 2

**不正直によつて墮落する心と品性**

偽りを語り、欺瞞を行なう人は自尊心をも失う。彼は神が彼を見ておられることや、神が事業のあらゆる取り引きを知っておられること、また聖なるみ使いたちが彼の動機を計り、彼のことはを聞いていること、彼の報いは彼のわざに従うことなどに気づかないかもしれない。しかしたとえ彼が自分の悪行を人や神の調査からかくすことができたとしても、彼自身がそれを知っているという事実は彼の心や品性を墮落させるのである。一つの行動で彼の品性が決せられるものではないが、それが防壁を破壊してしまうので、次の誘惑がもつとたやすく受けられるようになり、ついには仕事にごまかしや不正直の習慣がつくられ、その人は信用されなくなる。 3

わたしたちが同僚とささいな不正やもつと大胆な詐欺行為をもつて取り引きするとき、わたしたちは神とも同じようにするのである。不正直な道を改めようとしない人は自分の主義を實行し、ついに自分の魂を欺き、天国と永遠の命を失う。彼らは小さな世間的便宜のために、名誉と信仰を犠牲にするであろう。 4

**借金することを避けなさい**      多くの貧しい家庭は、金銭を手にするや否や使ってしまうために貧しいのである。 5

人は借金をこしらえるような方法で仕事を処理すべきではないことをあなたは理解しなければならぬ。……人は借金にまきこまれると、サタンが魂のために仕掛けた網に捕えられてしまう。……金銭をもうける前にそれを出して使うことは誘惑のわなである。 6

**収入以上の生活をしている人への忠言**      あなたは自分を経済的に困難にしないようにしなければならない。なぜならあなたが借金をしているという事実はあなたの信仰を弱め、あなたの気をくじく傾向があるからである。またそれを考えただけでもほとんどあなたを無謀にしてみうからである。あなたは出費を減らし、あなたの品性の欠陥を補うよう努めなくてはならない。あなたは金銭を収入以上に使おうとする自分の傾向を制するために断固とした努力をすべきであり、またすることができるのである。 7

神のみわざが非難されることである

世は聖書的クリスチャンであると公言する人たちに厳格な廉潔を期待する権利をもっている。正当な賃金を払うことに一人がむとんちゃくであると、わたしたちの民全体が頼りにならないとみなされる危険がある。 8

敬神を自負している人たちは自分の信じる教えを引き立たせるべきであり、自分の無分別な行為によつて真理がのしられる機会を与えないようにすべきである。「何人にも借りがあつてはならない」と使徒は言っている。 9

借金をしている人への勧告

二度と借金をしない決心をなさい。借金をするくらいなら多くのものをがまんしたほうがよい。借金をするということがあなたの生活にわざわざいとなっている。あなたは天然痘を避けるようにそれを避けなさい。神の恵みによつて借金を払うこと、それ以後はたとえおかゆをすすり、パンだけを食べてもだれにも借りないことをおごそかに神に誓いなさい。余分なもののために二五セントをさいふからはたき出して食卓を整えることはやりやすいことである。小さな金銭に心しなさい。そうすれば大きな金銭はおのずから用心されるであろう。すぐに大きな消費額になってしまうのは、あれやこれやにちよいちよい使われる少額の金銭である。少なくとも借金に囲まれている間だけは自分を制しなさい。：：よろめいたり、落胆したり、うしろをふり返ったりしてはならない。あなたの趣味、あなたの気ままな嗜好を押えて、少額の金銭を節約して借金を返しなさい。できるだけ早くそれを返済しなさい。あなたがだれにも借りのない自由な人としてふたたび人の前に立つとき、あなたは大きな勝利を獲得するであろう。 10

不幸な債務者に思いやりを示しなさい　もしだれかが借金をして、その負債に応じることがほんとうにできないでいるのを見たら、その人たちは力以上のことをするよう強要されるべきではない。彼らはその負債を返済する機会を好意的に与えられるべきで、借金から全然のがれられない状態におかれてはならない。そうなるのは正当なことであるとも考えられるが、しかしそれは神のあわれみでも愛でもない。 11

両極端にあることの危険　ある人は思慮がなく、しないですんだかもしれない借金をする。またある人は不信と思われるほど用心深い。わたしたちは、それぞれの境遇を利用して、時には神のみ働きが強められ、高揚されるために有利な投資をすることができる。しかもなおわたしたちは正しい原則をしっかりと守ることができるのである。 12

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1、教育・一六六、一六七ページ | 7、同・四八・一八八八年      |
| 2、P P・二五三ページ    | 8、5 T・一七九ページ      |
| 3、5 T・三九六ページ    | 9、同・一八一、一八二ページ    |
| 4、R H・一八八八年九月一日 | 10、C S・二五七ページ     |
| 5、C S・二六九ページ    | 11、M S S・四六・一九〇〇年 |
| 6、L・六三・一八九七年    | 12、同・二〇・一八九一年     |

## 第六五章

### 将来に備える

浪費の習慣に対し自分の家を持つことと貯蓄をすること

B 兄弟 B 姉妹は節約するという教訓を

学ばなかった。……彼らはどんなに多くても持っているだけ使ってしまうだろう。彼らは普通には楽しめるが、一度不幸にあうと、全然用意ができていない。もし B 兄弟 B 姉妹が克己心の強い経済的な管理者であつたら、彼らはこうなる前に自分の家を持つことができ、その上逆境にあるとき頼れる財産を持っていたであろう。しかし彼らは、彼らがときどきやつかいになつていた人たちがしてきたようには節約しないであろう。もし彼らがこれらの教訓を学ぶことをおろそかにするなら、彼らの品性は、神の日に完全なものとしてみとめられないであろう。2

あなたに役立つ勧告

あなたは時々一度に多額の利益を得られるような事業をしてきた。あなたは

は収入を得たにもかかわらず、それほど容易に収入を得られない時のために節約することを学んでおかないで、仮空の必要物のために多くを費やしてしまった。あなたとあなたの妻が自分の嗜好（しこう）や欲望を制して、単に現在だけのために生活するのでなく将来のために準備することは、神

があなたたちに課せられた務めであることを理解していたなら、あなたは今かなりの財産を持っていたであろうし、あなたの家族は楽な生活をしていたであろう。あなたには学ばなければならない教訓がある。……それはわずかなものをできるだけ長く続かせることである。 2

### 計画的に貯蓄しなければならない家族へ

もしあなたたちが当然しなければならないように節約していたら、今日あなたたちは危急の場合に使ったり神のみ事業を援助したりするために一財産つくっていたであろう。毎週給料の一部をとっておいて、真の必要に迫られた場合や、神へのささげ物として万物の与え主なる神にお返しする場合以外は手をつけないようにすべきである。……

あなたは、万一自分が病気になって、家族をささえるために収入を家族の者に与えられない場合のために余裕を残すよう、手に入れた収入を賢明にまた経済的に使ったことがなかった。もしあなたが困窮した場合に、家族の者は何か頼りにする物を持っていなければならない。 3

### 預金に関する助言を与えられたもう一つの家族

あなたは毎週五ドルか十ドルのお金をどこか安全な場所にしまっておき、病気以外の場合には使ってしまうことがないようにしなければならない。あなたは節約すれば幾らかを利子をつけて据え置くことができるだろう。あなたは借金を払った後も賢明なやりくりによって幾らかをたくわえることができる。 4

わたしは週二十ドルをとっていた家族を知っているが、その家族がそれを一ペニーも残さず使ってしまうのに比して、週に十二ドルしかもらわないのに必要なようにみえて、なくともすませられ

るようなものを買わないことによって、一週一ドルか二ドルをとっておいた同じ人数の別の家族を知っている。5

### 正しい遺言によって財産を確保する

主の財産を忠実につかさどる家つかさは、自分の仕事がつういふ状態にあるかを知り、危急の場合には賢者たちのように備えられるであろう。彼らは万一突然死ぬようなことがあっても、彼らの財産を整理しなくてはならない人々にあまり大きな迷惑をかけるまいであろう。

多くの者は自分が健康のようにみえるときは遺言状を作る問題を心にかけない。しかし兄弟たちはこの用心をしなければならぬ。彼らは自分の経済的な立場を知って、仕事を紛糾させないようすべきである。彼らは財産を残していつ死んでもよいようにそれを整理しておかなければならぬ。

遺言書は法律の審査にも有効であるように作るべきである。それが作られたあとでも、神のみわざの必要に応じて時々につと寄付がなされ続けても大丈夫なのである。あなたが遺言書を作ってしまったからといって、死がすぐにやって来るわけではない。遺言書によってあなたの親族に財産を処分する場合、神のみ事業のことを忘れないように気をつけなさい。あなたは神の財産を保管している神の支配人である。であるからあなたはまず神のご要求を第一に考慮しなければならない。あなたの妻や子供たちはもちろん貧困のままにしておいてはならないし、彼らが困っている場合には彼らのために用意しなければならない。しかしそれが単にしきたりだからといって、遺言書の中

に困っていない親族の名を書きつらねてはならない。6

**生きているうちに神のみ事業のことを覚えなさい** 一生の間財産を蓄積し、死ぬ時になって何か

慈善の働きのために一部を遺贈することがキリストのみ心になうと思つてはならない。7

ある者は利己的にも生涯の間自分の財産をとつておいて、遺言書の中にみ事業のことを覚えることによつて自分の怠慢を補おうと思つてゐる。しかし、そのようにして遺産のうちにたくわえられた財産の半分もその特定の目的に役立つたためしはないのである。兄弟姉妹がたよ、あなた自身で天の銀行に投資し、あなたの家つかさの務めを人に任せてはならない。8

**家つかさの務めを子供に移すことは賢明でないことがよくある** 親は子供らが神のみ事業に対し

て自分たちよりも大きな興味と愛と情熱とを持ち、神のみ事業を進展させることにもつと熱心で情熱を傾けていること、また神のみ事業に関連した、資金を要する種々の事業を実施していくことに自分たちよりも慈善心に富んでいることがほんとうに確かでない限り、神が彼らの手に置かれた経済能力を子供たちに任せることに大きな恐れを持たなくてはならない。しかし多くの者は、彼らの財産を子供たちの手に渡し、こうしてサタンにそののかされて家つかさであることの責任を子供らにまかせる。彼らはそうすることによつて実際にその財産を敵の側に置くのである。サタンはその物を自分の目的になうように働かせ、神のみ事業が十分にささえられるのに要する資金をそのほうにいかせないようにする。9



**私蔵された富の害悪**      たくわえるために富を得る者は、子供に富の害悪を残す。父親や母親がこ  
うすることは魂を滅ぼす恐ろしい罪で、この罪は魂を危険におとし入れる。子供たちはしばしば彼  
らの財産をつまらない浪費や奔放な生活に使い果たし、そのためにこじきになる。彼らは自分たち  
が浪費してしまった遺産の価値を知らない。彼らの父母たちが、たくわえることにではなく、富を  
分け与えることに正しい模範をしめておいたなら、彼らは自分たちのために天に宝をたくわえ、  
この世においてさえ平安と幸福の報いを、そして来世においては朽ちることのない富という報いを  
受けたことであろう。<sup>10</sup>

1、3 T・三〇、三一ページ  
2、2 T・四三二、四三三ページ  
3、L・五・一八七七年  
4、U L・四九・一八八四年  
5、L・一五六・一九〇一年

6、4 T・四八二ページ  
7、R H・一八九四年二月二七日  
8、R H・一八八六年一月一二日  
9、2 T・六五五ページ  
10、L・二〇・一八九七年



第一四部

心の道を守る



## 第六六章

### 見張らねばならない門

神はなぜわたしたちに目や耳や言語を与えられたか　神は人が神の律法の驚くべきことを見ることができるように彼らに目を与えられた。神は人が生ける説教者によって語られる神の使命に耳を傾けることができるように聞く耳を与えられた。神は人が罪をゆるす救い主としてのキリストを示すことができるように語る才能を与えられた。人は義を信じる心と、口の告白とをもって救いに至るのである。 1

サタンはどのようにして心にはいるか　人はみなサタンに勝利させないように感覚を守らなければならぬ。なぜなら感覚は魂に通じる道だからである。 2

あなたはもし自分の心を制し、むなく退廃的な思いで心をけがしたくないと思うなら、自分の目や耳やすべての感覚を守る忠実な門番とならなければならぬ。恵みの力だけがこの最も願わしい仕事を成しとげることができるのである。 3

サタンと彼の悪天使たちは、警告や注意や譴責が聞こえないように、またたとえ聞こえてもそれが

心を動かして生活を作り変えることがないように、感覚をまひさせる状態にしておくのに忙しい。4  
兄弟がたよ、神はあなたを、光の中を歩むでしとして求めておられる。あなたは警戒していなければならぬ。罪がわたしたちの中にはいつている。そしてそれは非常に悪いものとして考えられていない。多くの人の感覚は、食欲をほしいままにすることや、罪と親しむことによってまひしているのである。わたしたちは天国にもっと近く前進しなくてはならない。5

**サタンの戦術は感覚を混乱させることである**      サタンの働きは人に神を軽んじさせ、神が彼らの思いの中にはいられないほどその心を独占し夢中にさせてしまうことである。彼らが受けた教育は心を混乱させ、真の光をかげらせてしまうようなものであった。サタンは人々が神について知ることを望まない。そしてサタンは、競技をさせたり、演劇を催させたりして、青少年の心を混乱させ、人々のまわりに光が輝いているのに彼らを暗黒の中で滅びさせることができれば満足するのである。6

**サタンはわたしたちの承諾なしに心にはいることはできない**      わたしたちは、神がわたしたちを耐え得ないような試練に会わせないように備えておられること、またそればかりでなく、どんな試練にものがれる道を備えてくださることを人々の前に示さなければならぬ。もしわたしたちが全的に神のために生きるなら、自己本位な考えをほしいままにすることはしない。

サタンは心にはいりこむすきさえあればそこに毒麦をまき、それが豊かな収穫を生じるまで生長させる。サタンは、わたしたちが自発的に戸を開いて彼を招き入れない限り、思いやことばや行動

を支配することはできない。わたしたちが彼を許せば彼ははいってきて、心にまかれたよい種を取り去って真理を無効にする。7

誘惑者に対してどの道も閉ざしなさい      キリストの名を称するすべての者は、目をさまして祈り魂の道を守る必要がある。なぜなら、サタンはちょっとしたでもすぎがあれば、墮落させ滅ぼしてしまおうと働いているからである。8

サタンのささやきに従うことによって得られる利益をいつまでも考えていることは安全ではない。罪は、それにふけるすべての者に不名誉と災いをもたらす。しかし、その性質は人の目をくらす欺瞞的なものであつて、甘言をもつて人を誘うのである、もしわたしたちがあえてサタンの領域に踏み込むならば、彼の力から守られるという保証はない。できるかぎりわたしたちは、誘惑者が自分に近づくすべての道を閉ざさなければならぬ。9

誘惑される瞬間には、誤った軽率な一步がどんな恐ろしい結果を招くかをだれが知り得よう。わたしたちの唯一の安全は、一瞬一瞬を神の恵みに守られ、自分自身の霊的視力を失わないで、悪を善と言い、善を悪と言うようなことがないようにすることである。わたしたちはためらったり論じたりすることなく、悪に対して魂の道を閉ざし、これを守らなければならない。10

クリスチャンはみな絶えず警戒して、サタンが接近しそうなあらゆる魂の道を守らなければならない。彼は神のみ助けを祈ると同時に、罪へのあらゆる傾向を断固として拒絶すべきである。彼は勇

氣と信仰としんぼう強い努力とによって勝利することができる。しかし勝利を獲得するにはキリストが彼の中に内住し、彼がキリストの中に内住しなければならぬことを覚えなければならない。11

**悪いことを読んだり見たり聞いたりすることを避けなさい**

使徒ペテロは禁じられた話題にふみ

迷ったり、つまらない問題にその精力を費やしたりすることから心を守ることがどんなに大切であるかを、信徒たちに教えることに努めた。サタンの惑わしの餌じきとなりたくないと思う人たちは、魂の道をよく守らなければならない。彼らは不純な考えを暗示するようなものを読んだり見たり聞いたりしないようにしなければならない。心の敵が暗示するようなことは、どんなことにも手当たり次第に心を留めてはならない。わたしたちは忠実に心を警戒しなければならない。そうしないと外からの悪が心の中の悪を呼び起こし、魂はやみの中をさまようであろう。12

自分と子供を世の中で行なわれている罪悪を見ないような所に置くためには、できるだけのことしななければならない。わたしたちはこれらの恐ろしいものが心にはいらぬように、目にするものや耳にするものを注意深く警戒すべきである。毎日の新聞が家に配達されると、わたしはばかりしい刺激的なものが目にはいらぬようにそれをかくしたくなる。敵はまるで新聞に出る多くの記事の根拠にいるように思える。知られる限りの罪深いものが、みな世人の前におおわれることな  
くむき出しにされている。13

神からの知恵を持ちたいと思う人たちが賢くなるためには、現代の罪深い知識には愚かにならなければならない。彼らは悪いことを見たり知ったりしないために目を閉じなければならない。彼ら



は悪いことを聞いて彼らの清い思いや行動を汚すようなことを知らないように、耳を閉じなければならぬ。また彼らは悪いことばを出したり、いつわりを口に出したりしないように舌を守らねばならぬのである。

14

**戸を開くことによって抵抗が弱まる**

あなたはがけのふちにどのくらい接近して安全に歩けるかなど試みてみる必要はない。危険に接近する第一歩を避けなさい。心の興味というものは、ばかにすることができない。あなたの資本はあなたの品性である。黄金の宝をたいせつにするように品性をたいせつにしなさい。道徳的廉潔と自尊心と強い抵抗力は、絶やすことなくしっかりとたいせつに持つていなければならない。ちょっとした慎みを捨ててはならない。一つ無遠慮な行為をしても、また無分別な行為をしても、それは誘惑に対し戸を開くことによって心を危くするかもしれない。そして抵抗する力は弱くなる。

15

**サタンは未来の栄光をかげらす**

サタンは来世の栄光をかげらせ、注意を全部この世のことにひきつけようとして絶えず働いてきた。彼はわたしたちが思いも煩いも骨折りもすっかりこの世のことに使い果たしてしまつて、永遠の現実の価値を悟つたり認めたりできないように諸事万端を取りはかろうと努力してきた。わたしたちの思いや感情には、この世のことと思ひ煩いがあまりに大きい場所を占めていて、イエスと天の事物はほんのわずかな部分しか占めていない。わたしたちは日常生活の務めをみな良心的に果たさなければならぬが、何にもまして主イエス・キリストに対す

る聖なる愛情をつちかうこともまた必要である。 16

天のみ使いたちがわたしを助ける わたしたちは、心を支配しようとして目に見えない善と悪の力が働いていることを、常に心に留めていなくてはならない。それらの力は目には見えないが有効な力をもつて作用する。善天使たちは仕える霊であつて、心と精神に天来の力を働かせている。ところが一方、心の大敵である悪魔とその悪天使たちは、わたしたちを滅ぼそうとしてたえず働いている。...

わたしたちは目に見えない敵の攻撃に身をさらしていることに鋭敏でなければならぬが、彼らはわたしたちの承諾を得ないではわたしたちをそこなうことができないということを確信しなければならぬ。 17

1、L・二一・一八九九年  
2、3 T・五〇七ページ  
3、2 T・五六一ページ  
4、5 T・四九三ページ  
5、3 T・四七六ページ  
6、R H・一九〇〇年三月一日  
7、R H・一八九三年七月一日  
8、3 T・四七六ページ  
9、祝福の山・一四七、一四八ページ

10、3 T・三二四ページ  
11、5 T・四七ページ  
12、A A・五一八、五一九ページ  
13、N L E・第一号  
14、S A・七六ページ  
15、M M・一四三ページ  
16、R H・一八九〇年一月七日  
17、R H・一八八七年七月一九日

## 第六七章

### 心を誘惑する光景や音

悪い光景や音はわたしたちの周囲の至る所にある。一歩踏み出すごとに誘惑に遭遇する子供たちについて、あなたが深く憂慮するには理由がある。彼らが悪い仲間と接触するのを避けることは不可能である。……彼らはいろいろな光景を目にし、いろいろな音を聞き、また道徳を退廃させ、彼らが十分に用心しなければ、知らず知らず、しかし確実に心を墮落させ、品性をそこなう影響力を受けやすい。1

誘惑に対する防壁はだれにも必要である。クリスチャンの家庭では誘惑に対して防壁を築かなければならない。サタンは罪や退廃的な悪事を流行させようとあらゆる手段を用いている。わたしたちは小説にのったり、どこかの劇場で上演される犯罪のはでな掲示を見ないで通りを歩くことはできない。心は罪と親しむように教育される。卑劣で悪い人の歩む道が現代の刊行物によって人々の前におかれているし、情欲をかきたてることのできるものはみな、刺激的な物語となって彼らの前に持ち出される。2

ある父親や母親は非常に無関心であつたり不注意であつて、自分の子供たちが教会小学校に行こうが公立の学校に行こうが大した違いはあるまいと考える。「世の中に住んでいるのだもの、そこから抜け出すわけにはいかないよ」と彼らは言う。しかし両親がたよ、わたしたちはその気さえあれば、世の中から抜け出るよい道を得ることができる。わたしたちは、この終末の時代にすみやかにふえていく多くの悪から目をそらすことができる。わたしたちは実在する多くの悪や犯罪について聞くのを避けることができる。3

**不法をまき罪の実を刈る** 今日、人気のある出版物は多く、扇情的な話を満載しており、青年に罪惡を教え、破滅の道へと彼らを導いている。まだ若い子供も犯罪に関する知識に長じている。彼らは読みものから惡に導かれる。本に書いてある行為を頭の中で実演しているうちに、ついに罪惡を犯し、罰をのがれてみようという野心が起こるのである。

子供や青年たちの活発な頭脳にとって、未来の空想物語にえがかれている場面は現実的なものである。革命が予告され、法律や自制心の防御などを破る各種の行動が描写されると、多くの者はその内容に心を捕われる。彼らはこうしたセンセーショナルな作家の描写するところよりも、できればもっとひどい犯罪を犯すようになる。こういうような感化によって社会は乱れてきている。不法の種が広くまかれている。その結果、犯罪が発生しても驚くにあたらない。4

## 流行音楽の魅惑

わたしは真理を信じると公言する青年男女の浮薄さを至る所に目撃して、驚い

ている。神は彼らの思いの中にはおられそうもない。彼らの心は軽薄なことではばいになっている。彼らの語るとは意味のないむなしき事だけである。彼らは音楽に対して敏感な耳を持っている。そしてサタンはキリストを望まないように心を活発にし、夢中にし、魅惑するには、どの器官を刺激したらよいかを知っている。聖なる知識を求め、恵みに成長することを求める心の霊的渴望は欠けている。

わたしは青少年がもつと高い立場に立つて、神のことばを彼らの助言者また指導者としなければならぬことを示された。厳粛な責任が青少年に負わせられているが、彼らはそれを軽視する。家庭に持ちこまれる音楽は聖なるものの霊的なものを刺激しないで、心を真理からそらせる方便となっている。軽薄な歌や現代の流行音楽は彼らの好みに合っているらしい。楽器は祈りに専心されるはずの時間を取っている。悪用されていない音楽は大きな祝福であるが、それが悪用されると恐るべき災いとなる。それは興奮させるが、クリスチャンがけんそんに自分の求めを告げ、また強い哀訴と涙をもって、悪い者の強い誘惑を防ぐ天来の力を嘆願する時に恵みの座においてしか見られないあの力と勇気を与えることはしない。サタンは若い捕虜をひきつれている。ああ、彼の魅力をきりはなすように彼らを導くのに、わたしは何を言ったらよいだろう。彼は彼らを破滅におびきよせる巧みな魅惑者である。 5

不純な思想は汚れた行動を起こさせる 現代はあらゆるところに墮落した風習の満ちている時代である。見たり読んだりすることによって、目の欲望や汚れた情欲がかき立てられる。心はいろい

ろな妄想（もうそう）で汚される。精神は低級で下劣な情欲を呼びさますような光景を思い浮かべることに喜びを感じようになる。これらの不潔な想像によつて描かれた汚れた考えは、私たちの品行を墮落させ、惑わされ夢中になった人間がみだらな欲望をほしいままにする。そして罪惡を犯すようになり、神のみかたちにかたどつてつくられた人間を、獸と同じ水準に引きおろし、遂に破滅に至らせるのである。 6

**私は邪惡なものを見ない** 両親は自分の子供たちが神を見失わないように絶えず見張ることを怠つてはいけない。詩篇一〇一篇にしろされてあるダビデの誓いは、家庭の感化を注視する責任を負わされている人々のすべてが誓いとすべきことばである。詩篇記者は言っている。「わたしは目の前に卑しい事を置きません。わたしはそむく者の行いを憎みます。それはわたしに付きまといません。ひがんだ心はわたしを離れるでしょう。わたしは悪い事を知りません。ひそかにその隣り人をそしる者を、わたしは滅ぼします。高ぶる目と高慢な心の人を耐え忍ぶ事はできません。わたしは国のうちの忠信な者に好意を寄せ、わたしと共に住まわせます。全き道を歩む者はわたしに仕えるでしょう。欺くことをする者は、わが家のうちに住むことができません。偽りを言う者は、わが目の前に立つことができません。」 7

毅然（きぜん）として次のように言いましょう。「私はなんら役に立たない読み物や、他人に対して私を役立たせなくするだけの読み物に貴重な時間を費やしません。私は自分の時間と思考を、神への奉仕に役立つようなことにささげます。くだらない、罪となるような物事に対しては目を閉

じます。私の耳は主のものであり、私は敵の巧妙な議論は聞かないことにします。私の声は、神のみ霊の感化の下にない意志にはどんなことがあっても従いません。私の体は聖霊の宮であり、そして私の身体のある能力は価値のある仕事にささげます。 8

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| 1、P H J・一八九〇年七月          | 5、1 T・四九六、四九七ページ |
| 2、B E・一八九四年一〇月一五日        | 6、2 T・四一〇ページ     |
| 3、N L E・一号               | 7、C T・一一九ページ     |
| 4、ミニストリー・オブ・ヒーリング・四二五ページ | 8、7 T・六四ページ      |

## 第六八章

## 読書とその影響

子供の精神に適当な糧（かて）を与えよ

子供の多感で発達してゆく心は知識を求める。両親は自分の子供に適当な精神の糧を与えることができるように、自分がよく知っていなければならぬ。精神も肉体と同じく、摂取する食物から活力を得るのである。それは純粹で強力にしてくれる思想によつて、広められ、向上してゆく。しかし俗悪な思想によつては、偏狭となり、低下してゆくのである。

両親がたよ、あなたがたは自分の子供たちの精神が高尚な思想にふくらんだものになるか、悪徳の考えに満たされるかを決定するのである。あなたがたは、彼らの活発な精神をからにしておくことはできない。また悪をおしのけることもできない。ただ正当な原則を教えこむことによつて、よこしமான思想を排除できるのである。両親が子供たちの心の中に真理の種を植えつけなければ、敵は毒草をまく。りっぱで健全な教育は、良い行儀作法を乱すような悪い思想の伝達を予防する唯一の方法である。真理は人の魂が果てしない誘惑に出会うのを守ってくれるのである。 1



両親は読書の習慣を監督する

多くの若い人たちは読書に熱心である。彼らは何でも手当たり次第に読む。そのような子供たちの両親がたに、読書欲をよく監督するようにお勧めしたい。恋愛物語がのっているような雑誌や新聞はあなたの机上においてはならない。若者たちの品性を形成するのに最良の材料となるような 神を愛しおそれることや、キリストに関する知識のような 書物をおいておきなさい。子供たちが有益な知識をその精神に貯え、善なるものが魂に内住し、その能力を支配させて、低級で下劣な思想のはいりこむ余地をなくすように励ましなさい。精神のために役立つ糧とならないようなものを読もうとする欲望をおさえなさい。2

両親は善なるものを生み出さないあらゆる感化を家庭から閉め出すように努力すべきである。この点に関して、両親がたは多くのことを学ぶべきである。物語の雑誌や小説を自由に読んでよいと感じている人たちに対して私は次のように言いたい。あなたがたは種をまいていて、それから実る収穫を貯えることに関心をもたない人たちである。そのような読書からは霊的な力を得ることはできない。むしろそれは、みことばの純粋な真理を愛するのを破壊するものである。小説や物語の雑誌を媒介にして、サタンは神のみことばを勤勉に研究しなければならない人の精神に、架空でつまらない思想を満たそうと働いている。こうしてサタンは多数の人々から、厳粛な問題に対して用うべき多くの時間と精力と自己訓練の努力とを奪い去っているのである。3

子供たちは興味と休養を与えてくれて、しかも精神を乱したり肉体を疲れさせない、適当な読書が必要である。もし彼らが架空小説や新聞の作り話を愛読するように教育されるならば、教育的な本や論文をきらうようになるだろう。大多数の子供や青年たちは読書の材料を持っているだろう。

もしそれらをよく選択してやらねば、自分で選ぶようになる。彼らはどこにでも破滅的な性質をもった読書を見いだすことができる。そして間もなく、それを愛するようになる。しかし純粹で善い読み物を供給してやれば、彼らはそれに対する嗜好を身につけて行くのである。 4

#### 知的な嗜好を訓練し教育する

知的な嗜好は最大の注意を払って訓練され教育されねばならない。両親は子供たちの発達してゆく精神に対して思想の適切な習慣が形づくられるように、早くから聖書を開かねばならない。

正しい勉強の習慣を確立するためには、いかなる努力も惜しんではならない。もし精神に迷いが生じたら引きもどしなさい。もし知的また道徳的な嗜好が、手のこんだ刺激的な作り話によって惑わされ、心を用いるのがいやになるならば、このような習慣を克服するために戦わねばならない。作り話を読むのを好む気持ちは即刻打ち負かしてしまわなければならない。適切な道筋に精神を向けておくために厳格な規則を実行すべきである。 5

#### 作り話に対する趣味を助長させないように

子供たちに何を読ませたらよいだろうか。これは重大な質問であり、厳格な解答を要する問題である。安息日を遵守する家庭の中に、子供や青年の心になんら善に対する好印象を残さないような連続物語を掲載している定期刊行雑誌や新聞が見られるのは、心を痛める問題である。私はこのようにして、作り話に対する趣味が育てられた人々を見てきた。彼らは真理に耳を傾け、私たちの信仰の道理を知る特権をもっていたのであるが、真の敬

虔な心と実際に神を敬う心とを欠いたままでおとなになった。6

作り話の愛読者たちは、靈性を破壊し、神聖な書物のページの美しさをおおいかくしているような悪にふけっているのである。7

**有害な書物の流行** この世界には流布させずに焼き捨ててしまったほうがよいような本がはらんしている。金もつけのために出版され流布されている扇情的な話題についての本は、青年に決して読ませないほうがよい。そのような本にはサタンの魅力がひそんでいる。...

物語の本を読むことは、サタンが人間の魂を破壊するために用いている手段の一つである。それは誤った不健康な刺激であり、想像をたくましくし、精神を役立たないものにし、どんな靈的な活動をする資格をも失わせる。それは祈りと靈的な問題を愛することから引き離すのである。8

恋愛小説や、つまらない刺激的な小説もまた、読者には同様な災いとなる。著者は作品の中に宗教的な思想を織り込み、道德的な教訓を与えようとするかもしれないが、そういうことはその背後に隠されている愚かさや無価値を隠すに役だっただけである。9

**無信仰な著者** 私たちが絶えず監視を続けねばならぬ危険のもう一つの源泉は、無信仰な著者の読み物である。そのような著作は真理の敵によって鼓吹されたものであり、これを読む人はだれでも自己の魂を危険にさらす。そのような著作の影響を受けた人々は、遂に回復できなくなるのは事実である。しかしそれらの邪悪な感化にふれる人は、すべてサタンの側に立っているものであって、

サタンを最も利することになる。彼らがサタンの誘惑を招くとき、彼らはその誘惑を見わけ、知恵もそれに抵抗する力も持っていない。不信と無信仰が、魅力的で魔力のような力で彼らの精神をとらえる。 10

### 神話とおとぎ話

子供と青年の教育におとぎ話や神話や作り話が現在は重大な地位を占めている。この種の本は学校でも用いられ、多くの家庭にも見られる。クリスチャンである両親は、どうしてもこんなまちがいだらけの本を子供たちに用いさせてよいだろうか。子供たちが両親の教えと全く反対な物語の意味を問うときに、その物語は真実でないのだというのが答えである。しかしこの答えは、それを用いた悪い結果を取り消してはくれない。これらの本に示されている考え方は子供たちを誤った方向に導く。彼らは人生についての誤った見解を与えられ、架空のものに対する欲望をつかみ、それを助長してゆくのである。 ……

真理を曲解させるような内容をもつ本は、子供や青年の手中においてはならない。私たちの子供が教育をうける過程において、罪の種となることのわかっていような観念を取り入れさせてはならない。 11

### 頭腦の力がどのようにして破壊されるか

常識豊かな精神の人は少ない。それは両親が弱い特性を強くし、よこしまな性質を押えるという彼らの義務を不正にも怠ったからである。彼らは自分が、一人一人の子供の性質を見守るべき最も神聖な義務を負っていること、また子供たちが正しい習慣、正しい思考の方法を身につけるように訓練してやるのが自分たちの義務であるということをおぼえ

ていない。 12

道徳的知的能力を育成しなさい。たくさんの物語の本を読むというような事によって、これらの高尚な能力を弱めたり悪用したりしてはならない。私は、読書におぼれて強い精神がつり合いを失い、部分的に無感覚になり、あるいはまひした人々を知っている。 13

刺激的な読み物は落ち着きのない、幻想にふける子供をつくる くだらぬ刺激的な物語の読者は、

実際の生活に対する義務に不向きな人間となる。彼らは架空の世界に生きているのである。私はそのような物語を読むことを常習にできた子供たちに注目してきた。彼らは家庭においても外でも、落ち着かず幻想にふけり、最も平凡な問題以外には人と話し合うことができない。彼らの心には宗教的な思想や会話は全く相いれないものである。扇情的な物語を読みたいという欲望をやしなつたことによって、知的な嗜好（しこう）は貧困になり、精神はこのような有害な食物を食べなければ満足しない。私はこのような読書にふける人々に対して、知的大酒家という名を呈するのが最適であると考えてる。不節制な読書の習慣は、不節制な飲食の習慣が肉体に与えると同じ悪い効果を頭脳に与える。 14

現代の真理を受けいれる前に、ある人々は小説を読む習慣がついていた。教会に加わる場合には、彼らはこの習慣を克服する努力をした。この階層の人々の前に、彼らの捨てたものと同じ種類の読書をおくことは、大酒家に酒を与えるのと同様である。彼らは絶えず目の前にある誘惑に負け、間もなく固苦しい読み物に対する嗜好を失ってしまう。彼らは聖書の研究に関心をもたない。その道

徳的な力は弱まってしまふ。罪は次第にいとわしくなくなってくる。不誠実な気持ちが増し、人生の実際的な義務に対して嫌悪の気持ちが増大してくることは明白である。精神がよこしまになってくるにつれて、刺激的な性質をもった読み物を何でも手にとりやすくなる。こうしてサタンがその人の魂を完全に支配するような道が開けてくる。 15

**せっかちで、うわすべりな読書は集中力を弱める** 出版社からたえまなく送り出される印刷物の大洪水のために、老人も若い者も、大いそぎでうわすべりな読書をする習慣がつき、一貫した健全な思考力が失われる。その上エジプトのかえるのように、全地にひろがりつつある書籍雑誌の大部分は、平凡で、人の心を怠惰に弱々しくするばかりでなく、また不潔で愚劣なものが多い。それは人の思考をまひさせて無力にするばかりでなく、また魂を墮落させ滅ぼす力をもっている。 16

**「私は教会の読み物を買う余裕はない」** 兄弟姉妹であると自称して、「レビュー」「サインズ」「インストラクター」あるいは「良い健康」等の教会誌をとらないが、世俗的な新聞は一つか二つ以上も購読している人々がある。彼らの子供たちはこれらの新聞にのっている作り話や恋愛物語をたいへん興味深く読んでいる。そして彼らの父たちはこれらの新聞にお金を払っているが、現代の真理に関する私たちの教会の雑誌や書籍に代金を払う余裕はないと言っている。...

両親がたは子供たちを常に監視し、彼らに純粋な想像力を養わせ、ライ病人を隔離するように、新聞にあらわれる恋愛病的描写を遠ざけるように教育しなければならない。道徳的な、そして宗教

的な問題に関する出版物をあなたの机上や書棚において、子供たちが高尚な読書を好むように育成  
なさい。 17

読書の目的に関する青年への勧告

私は青年が不適当な読書によって危険にさらされるのを見て  
いるので、この大きな悪に関して私に与えられた警告を重ねて発せずにはいられない。

不都合な性格をもった材料を取り扱うことが、働き人たちにどんな害悪を及ぼすかはほとんど認識  
されていない。彼らはその扱っている材料に注意を奪われ、興味を呼びおこされる。文章が記憶  
の中に刻みこまれ、いろいろの思想が暗示される。ほとんど無意識のうちに読者は、作者の精神に  
よって感化をうけ、精神も品性も悪い印象を受ける。ほとんど信仰も、また自制心もない人々が  
いる。それらの人にとって、このような文学作品によって暗示された思想を払いのけることはむずか  
しい。 18

刺激的な物語が青年の精神にどれほど悪影響を及ぼすことだろう。あなたはそのような読書のあ  
とで、神のみことばを開き、興味をもって生命のみことばを読むことができるだろうか。神の書が  
つまらないと感じないだろうか。その恋愛物語があなたの精神を魅了し、健全な精神状態を破壊し  
て、あなたの永遠の関心事についての重要で厳粛な真理に精神を打ち込むことを不可能にする。あ  
なたはそのようなつまらぬ目的のために、両親に属する時間を費やすことにより両親に対して罪を  
犯すのであり、神への献身に費やすべき時間をそのような用いることによって、神に向かって罪を  
犯すのである。 19

子供たちよ、私はあなたがたに勧告したいことがある。あなたがたは今将来の運命を決定している。そして今のあなたがたの品性の形成は、あなたがたを神のパラダイスからしめ出すような種類のものである。……この世の救い主でいますイエスにとつて、その子供たちが神を愛する心が全くなく、神のみことばを敬う気持ちをもっておらず、ただ恋愛物語を夢中で読んでいるような家族を眺めては、どんなにお悲しみになることだろう。このような方法によつて費やされた時間は、家庭の務めを有効に果たそうとする気持ちをあなたから奪いとっている。それはあなたが家族のかしらとして立たせる資格を失わせてしまう。そしてそのようなことを続けてゆけば、あなたはますますサタンのわなに巻きこまれてゆくであろう。……あなたの読む書物のあるものはすぐれた原則をその中に含んでいる。しかしあなたはただ、物語の筋を知るために読むのである。もしあなたが自分の読む書物から自分の品性をつくりあげる助けとなるものを取り出そうとするならば、あなたの読書はある程度役に立つだろう。しかしあなたが自分の書物を取り上げて一ページ一ページ熟読しながら、私の読書の目的は何か、また私は何か価値のある知識を得ようと求めているかと、自問するだろうか。あなたがたは基礎に木や干し草や刈株をおいて、その上に正しい品性をつくることはできない。

20

### 心の中に聖書の真理の種をまけ

未開墾の畑と訓練されない精神には著しい類似点がある。子供や青年の心の中に敵は毒草をまく。そして両親が注意深く監視しなければ、これらの毒草は芽ばえて悪い果実を実らせる。心の土を耕し、それに聖書の真理の貴重な種をまくには、絶え間のない注



意が必要である。子供は、つまらぬ刺激的な作り話を排斥し、思慮ある読書に転向し、それによつて精神を聖書の物語、歴史、論説に関心をもちように教育すべきである。聖書に光を投げかけ、それを研究しようとする欲望を刺激するような読書は、危険でないばかりでなく有益である。21

青年たちにとつては神のみことばを熟読することを楽しむのでなければ、健全な精神と正しい宗教的な原則を所有することは不可能である。この書物（すなわち聖書）は、最も興味深い歴史をもつており、キリストによる救いの道を示しており、もつと高尚でりっぱな生活をおくる手引きである。22

1、	C T・一	二	ページ
2、	同・一	三	ページ
3、	同・一	二〇、一	二
4、	R H・一	八七九	年一二月一日
5、	C T・一	三六	ページ
6、	同・一	三二	ページ
7、	Y I・一	九〇二	年一〇月九日
8、	C T・一	三三、一	三四
9、	ミ	ニ	ストリー・オブ・ヒーリング・四四五
10、	C T・一	三五、一	三六
11、	同・三	八四、三	八五
			ページ
12、	R H・一	九〇八	年一月一日
13、	2 T・一	四〇	ページ
14、	C T・一	三四、一	三五
15、	7 T・一	二〇三	ページ
16、	教育・一	二四二	ページ
17、	R H・一	八七九	年一二月一日
18、	7 T・一	二〇三	ページ
19、	2 T・一	二三六	ページ
20、	L・一	三二、一	八九
21、	C T・一	三六、一	三七
22、	2 T・一	四一〇、四	一一
			ページ



第一五部

家族の生活を明るくする美德



## 第六九章

### 礼儀と親切

礼儀は人生の不幸の半分を追放する 「お互いにやさしい愛情を持ち合いなさい。」という命令の教える原則は、家庭の幸福の基本をなすものである。クリスチャンの礼儀は、あらゆる家庭にゆきわたるべきである。それは安価であるが、これが無ければ無情で荒々しくなりがちの人間の本性をやわらげる力をもっている。いつも変わらない礼儀、私たちに対して他人がしてほしいと思うようなことを他人に対して喜んでしてあげる気持ちを育成することは、人生の不幸の半ばを追放してくれる。 1

礼儀は家庭の中で始まる もし私たちが自分の子供に親切、礼儀、愛をしつけようとするならば、私たち自身がまず手本を示さねばならない。 2

小さな事に対しても両親は互いに礼儀正しさを示すべきである。だれにでも親切にすることは家の法則でなければならない。どんな乱暴なことばも用いてはならない。はげしいことばは口にしてはならない。 3

明るい顔とやさしい声と礼節のある態度は、だれにでもできることで、それはまた能力の要素で

もある。子供たちは明るい快活な態度にひきつけられる。わたしたちが子供たちに親切と礼儀を示すとき、彼らもまた、わたしたちに対し、またお互いに対して、同じ精神を表わすのである。4

あなたの礼儀と自制心とは、子供たちの品性に単なることばだけの与える感化よりもずっと大きな影響を与えるであろう。5

#### お互いの親切は家庭を楽園にする

子供たちが正しい行為をしようと努力したときは、両親がたは彼らにやさしく話しかけ、ほめてやることによって彼らの努力を励まし、彼らを非常に喜ばせ、あらゆる暗影を追いつけ、よろこばしい日光を家族全体の中に取り入れるような楽しさを与えることができる。お互いの親切と忍耐とは家庭を楽園にし、家族全体の中に天使をひき寄せるであろう。

しかし不愉快なことばがかかわされ、不満や争いのある家からは天使は逃げ出す。不親切、不平、怒りは主イエスを住居からしめ出すのである。6

一家族の各人になればならぬ毎日の生活の礼儀と愛情とは外面的な環境によるのではない。7  
すべての行動の中に表現される楽しい声、やさしい態度、深い愛情は、勤勉、趣味のよさ、節約等と相ならんで、あばら家をも最も幸福な家庭とするものである。創造主なる神はそのような家庭を是認したものである。8

外面的な世界のための生活をもっと少なくし、自分の家族のための生活をもっと多くすべき人々がおおぜいいる。見知らない人やお客さまに対する、うわべだけの礼儀正しさと愛情との見せびらかしを少なくし、私たちの家庭の炉辺にいる愛する家族の人たちに対して、心からの愛と同情から

わき出る礼儀正しさをもっと豊かに持つべきである。9

# 真の礼儀正しさの定義

家庭の中でほんとうの上品さを養成する需要が大いにある。これは真理を支持する有力な証拠である。ことばと態度の無作法さは、だれのうちにあらわれても汚れた心を示すものである。天国に起源をもつ真理は、それを受けいれる人を決して汚したりまた粗野にしたり乱暴にしたりはしない。真理が与える感化は人の心をやわらげ上品にすることである。それを心の中に取り入れれば、それは青年をていねいで礼儀正しい人にする。クリスチャンの礼儀正しさは聖霊のお働きによってのみ受けることができる。それは見せかけやうわべだけの洗練さから成るのではなく、またおじぎをしたり、へつらったりすることでもない。このような態度は世俗的な人々の礼儀正しさに属するもので、真のクリスチャンの礼儀正しさを欠いている。真の洗練さ、真の礼儀正しさは、クリストの福音を実際に知ることからのみ得られる。真の礼儀正しさは、高貴な人にも身分の卑しい人にも金持ちにも貧しい人にも、すべてに対して示される親切なのである。10

真の礼節の真髄は他人のことを思いやることにある。本質的で永続的な教育とは、同情心を広くし、博愛心を助長する教育である。少年少女たちが親を尊敬しなかったり、その美德を認めることができなかったり、その欠点を忍ぶことができなかったり、その必要に役立つことができなかったり、あるいはまた幼い者や老人や不幸な人々に対して思いやり深く、やさしく、寛大で、助けになることができなかったり、すべての人に対して礼儀正しくなれないようなら、彼らのいわゆる教養は失敗である。11

クリスチャンの礼儀は家族の各人を愛のきずなで結びつけ、毎日、より親密に、より強力にする金のしめがねである。<sup>12</sup>

### 黄金律を家族の律法としなさい

社交及び家族の間の交わりについての最も貴重な法則は、聖書の中に見いだされる。そこには最高で最も純粋な道德の標準があるだけでなく、礼儀について最も価値のある法則がある。救い主の「山上の垂訓」は老若いずれの人にとっても無限の価値ある教訓を含んでいる。それは時折、家族の集まりの際に読まれ、日常生活の中にその貴重な教えが、実行されねばならない。黄金律「何事でも人々からして欲しいと望むことは、人々にもそのとおりによよ」(マタイ七ノ一二)は、使徒の命令である「互に尊敬し合いなさい」(ローマ一ノ一〇)と同じく、家族の律法とならねばならない。キリストの精神を守る人々は、家庭で礼儀正しさをあらわし、わずかな事にさえも慈悲の精神を示すのである。彼らはたえず自分の周囲のすべての人を幸福にしようと努め、自己を忘れて他人に親切な心づかいをしようとする。<sup>13</sup>

黄金律は真の礼儀の原則であつて、それが最も真実にあらわされたのは、イエスの生涯と品性のうちにおいてである。ああ、なんと柔らかな美しい光がわたしたちの救い主の日々の生活のうちに輝き出したことであらう。なんとというかぐわしさがそのみ前にただよっていたことであらう。この同じ精神がその子らのうちにあらわされるであらう。キリストがともにお住みになる者は、聖なるふんい氣に包まれるであらう。純潔という彼らの白い衣は、主の園のかぐわしいかおりを放つであらう。彼らの顔は主の光を反映し、つまり疲れ切った足の進む道を照らすであらう。<sup>14</sup>



作法についての最上の論文

礼儀作法についてこれまでに書かれた論文の中で最も尊いものは、救い主がお与えになったとうとい教え、すなわち使徒パウロを通してお語りになった聖霊のことばである。それは老若を問わず人類の一人びとりの記憶にきざみこまれ、消し去ることのできないことばとなるべきである。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」(ヨハネ一三ノ三四)。

「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。愛はいつまでも絶えることがない」(コリント第一・一三ノ四八)。 15

聖書には礼節を命じられている。そこには真の礼節の特性である無我の精神と柔和な態度と人をひきつける性質について、多くの実例が与えられている。それらはしかしキリストのご品性の反映にすぎない。すべてこの世における真の柔和と礼節は、キリストのみ名をみとめない人々の間においてさえ、それはキリストから与えられるものである。キリストはそうした特性がご自分の子どもたちに完全に反映するようにお望みになっている。世の人々が、わたしたちを通してキリストの美しさを認めるようにというのがキリストのみこころである。 16

キリスト教は人間を紳士にする。キリストは迫害者に対してさえ、礼儀正しくされた。そして彼の真の弟子たちもそれと同じ精神を表わすのである。統治者の前につれ出されたときのパウロを見るがよい。アグリッパの前で語った彼の言葉は、人を納得させる雄弁のよい例であると同時に、真

の礼儀の模範である。福音は、世にならう形式的な礼儀をすすめはしないが、真に親切な、心からわきあふれる礼儀を奨励する。 17

私たちはこの世が礼儀と称しているものをあらわすようにと説き勧めない。だれもが祝福された天国の住居にもって行くような種類の正しい礼儀を身につけるようにと訴えるのである。 18

**真の礼儀正しさは愛に根ざしたものでなければならない** 外見的な礼儀作法をどんなに用意周到

に習得しても、それらは、焦燥、荒々しい批評、聞き苦しいことばなどをすべてなくすのに十分ではない。自我が最高の地位を占めている間は真の礼儀は決してあらわれない。真の愛が心に宿らなければならぬ。純粋なクリスチャンは主に対する深い愛に基づいて行動する。キリストに対する愛の根源から、兄弟に対する無我の関心が芽ばえる。 19

人が求め、心に抱き、身につけてゆくすべての事の中で、純な心、感謝と平和につつまれた気質ほどに神の御目に価値あるものと見られるものはない。

もし真理と愛の神聖な調和が心の中にあるならば、それはことばや行動の中に輝き出るであろう。

…ほんとうの慈悲の精神は心の中に宿っていないなければならない。愛はそれをもっている人に、上品さや礼儀正しさや優雅な態度を与える。愛は顔を明るくし、声を和らげる。またその人全体を優雅にし高尚にする。愛はまた彼を神と調和させてくれる。なぜなら愛は天国に所属する特質だからである。 20

真の礼儀は単に作法の規則を実行するだけでは修得できない。いつでも慎み深い態度がみられな

ければならない。主義を犠牲にする必要がない限り、郷に入っては郷に従うべきである。しかし主義を犠牲にしてまで世間の慣習に従うことが真の礼儀であるとはいえない。真の礼儀は社会的な身分や階級を問題にしない。それは自尊心、すなわち人としての真の威厳に対する尊敬また人類という大家族の一人びとりに対する関心を教える。 21

**愛は顔つき、ことば、行ないの中にあられるものである**

両親は何にも増して子供たちを、き

げんの良い、礼儀正しいそして愛に満ちたふんいきで包むべきである。愛が宿り、愛の気持ちが顔つきやことばや行ないの中にあられているのが見いだされる家庭は、天使の喜んで住む場所である。両親がたよ、愛ときげんの良さと幸福な満足感という日光をあなたがた自身の心の中に入れ、そのかんばしい影響を家庭の中へしみこませなさい。親切で忍耐強い精神を示してください。そしてこの同じ精神を子供たちの中へも助長させ、家庭生活を明るくするようなすべての美質を育成するようになさい。このようにしてつくられたふんいきは子供たちにちょうど空気と日光が植物の世界をいきいきさせると同じように、健康を促進し精神と肉体の活力を助長するであろう。 22

ていねいな物腰、きげんのよい会話、及び愛情に満ちた行動は、子供たちの心を愛情という絹のひもで両親に結びつける。そして金で買えるどんな稀少価値のある装飾品よりも家庭をもっと魅力的なものにする。 23

**種々の気性の人が融和しなければならない**

いろいろな気性の人が仲間になることが神の定めた

もうたこの世の秩序である。このようなわけであるから、家庭内の各人は皆の感情を顧慮しその権利を尊重すべきである。このようにしてお互いに他の人々を顧慮し、耐え忍ぶ気持ちを育成し、偏見が和らげられ、品性の粗雑な点が円滑になるであろう。調和ということが保証され、それによっていろいろの気性の人が融和するようになって、各人に利益を与えるであろう。 24

礼儀正しさの欠けているのを償うものはない キリストの御あとに従う者であると称していながら、ことばや態度が乱暴で不親切で無作法な人たちは、イエスを学んでいない人である。どなり散らしたりおうへいであつたり、あげ足とりをしたりする人はクリスチャンではない。なぜなら、クリスチャンであることはキリストに似ることである。ある自称クリスチャンの行動が親切と礼儀を欠いているので、それらの人々の善行が悪く言われてしまう。彼らが誠実であることは疑いない。また彼らが正直であることも異議がない。しかし誠実で正直であることは、親切と礼儀の欠けていることの償いにならない。クリスチャンは真実であると同様に同情心が深くなければならず、誠実で正直であると同じく、あわれみ深く礼儀正しくなければならぬ。 25

兄弟に対していいない行動をとり、やさしく顧慮する同胞としての役割を無視すること、家族の間でのすなわち両親が子供に対し、また子供が両親に対して親切な励ましのことばをかけることを無視することは、品性をキリストに似ないものにしてしまう習慣をつくることになる。しかしもしこれらの小さいことが実行されれば、それは大きなこととなる。それは生活の大きな部分を占めるようになってゆく。それらの小さな行為の実行は、生涯の中に芳しい香りとなってただよい、そ

れは神聖な香りとして神のみ許へのぼってゆく。 26

多くの人は思慮深さを熱望している 多くの人々は友人としての同情心を強く期待している。：私たちは自己を忘れ、どんな小さなことについても他人から与えられた好意に感謝の気持ちを表わす機会を絶えず求め、他人を喜ばせ、やさしい親切な行為と小さくても愛を示す行ないをすることによって、他人の悲しみと重荷を軽くし、救いの機会をうかがうようにしなければならぬ。このような思慮深い礼儀正しさは、まず家族の中から始めて家族以外の人へひろげてゆけば、生活の全体を幸福なものにする。そしてこれらの小さなことを無視することは生活の全体をにがく悲しいものにするのである。 27

社交関係を通して、この世と接触が保たれる キリスト教がこの世と接触するのは社交関係を通してである。キリストの愛を味わい、心の中に神の輝きを受けた男女はだれでも、より良い道を知らない人々の暗黒の道へ光を照らすように神から要求されているのである。 28

私たちは友情深いことばと愉快な顔つきによって、小さな数々のことに注意を払っていることを人に見せることができる。そしてそれは私たち自身にまた返ってくるのである。思慮のないクリスチャンは、他人を無視して自分がキリストと一致していかないことをあらわす。キリストと一致して、しかも他人に対して不親切であり、他人の権利を顧慮しないということとは有り得ない。 29

私たちはみなイエスの証人となるべきである。社交的な能力は、キリストの恵みにきよめられて、

魂を救い主にみちびくのに活用されなければならぬ。わたしは自分自身の利害問題に利己的に没頭しているのではなく、わたしたちの祝福と特権とを他人にわけ与えようと願っているのだということを、世の人々に見せよう。わたしたちの宗教はわたしたちを非情にしたり、かこくにしたりしないということを経世の人々にわからせよう。キリストをみいだしたと言っている者はみな、キリストが人々を益するために働かれたように奉仕しよう。私たちは、クリスチャンは暗い不幸な人たちだというまちがった印象を世の人々に与えるべきではない。 30

私たちが家庭で礼儀正しくやさしければ、家庭を離れて外にいるときにも、気持ちのよい性質であるという評判を得るようになる。もし私たちが家庭で寛容、忍耐、けんそん、不屈の態度を示すならば、この世の光となることができる。 31

1、S・一八八六年九月九日  
2、同・一八八二年五月二五日  
3、G H・一八八〇年一月  
4、教育・三〇〇ページ  
5、R H・一八八二年六月一三日  
6、S・一八八四年四月一七日  
7、同・一八八七年四月二三日  
8、同・一八八四年一〇月二日  
9、同・一八八四年一〇月二日  
10、MSS・七四・一九〇〇年

11、教育・三〇一ページ  
12、S・一八八七年一月二七日  
13、同・一八八六年七月一日  
14、祝福の山・一六八ページ  
15、教育・三〇二、三〇三ページ  
16、同・三〇二ページ  
17、ミニストリー・オブ・ヒーリング・四七四ページ  
18、S・一九一二年八月一三日  
19、ミニストリー・オブ・ヒーリング・四七五ページ  
20、4 T・五五九、五六〇ページ

## 第 15 部 家族の生活を明るくする美德

26、	25、	24、	23、	22、	21、
M	Y	同	S	C	教
S	I	・	・	T	育
S	・	一	一	・	・
・	一	九	八	一	二
一	九	一	八	一	四
〇	〇	一	四	五	〇
七	八	年	年	ペ	ペ
・	年	四	一	ー	ー
一	三	月	〇	ジ	ジ
八	月	四	月		
九	三	日	二		
八	一		日		
年	日				

3130292827、  
S・一八九二年一月一日  
各時代の希望・第一巻・一七八ページ  
3T・五三九ページ  
4T・五五五ページ  
3T・五三九、五四〇ページ

## 第七〇章

## 快活さ

真のクリスチャンは快活である

日常生活の当惑や気苦労のために心をいらだたせたり、まゆをくもらせたりしてはならない。もしそのようなことをするならば、あなたは常に何か悲しませ悩ますものをもつことになる。生活というものは私たちのなすがままのものになる。そして私たちは自分の捜し求めるものを見いだすことになるであろう。もし悲しみや困惑を捜し求め、また小さな困難を大きくしようとする気持ちがあるならば、たくさんの問題を見つけ出し、考え、また話し合うようになるであろう。しかし物事の明るい面をながめるならば、私たちを愉快にし幸福にするものを十分見いだすようになる。微笑を人に与えるならばそれはまた自分にもどってくる。愉快で自分のよいことを口にすれば、他人からもまた同じようなことを話しかけられる。

クリスチャンが自分の友人をもっていないと思ひこんでいるかのように、陰うつで不きげんに見えるときには、キリスト教そのものに対して悪い印象を他に与えることになる。ある場合には快活さはクリスチャン品性の尊厳さと相いれないものであるという考え方が受けいれられてきた。しかしこれは誤りである。天国はすべて喜びに満ちている。そしてもし私たちが自分の魂に天国の喜び



をあつめ、できる限りことばや態度にその喜びをあらわすならば、陰うつで悲しむ場合よりも天にいます父なる神はずっとお喜びになる。

悲しみや苦勞について考えこむ代わりに、快活な氣質をやしなうことはあらゆる人の義務である。多くの人はこの点で自らをみじめにしているだけでなく、病的な妄想のために健康と幸福を犠牲にしている。そのような人々の周囲には、気持ちのよくないようなものがあり、彼らの顔は絶えず表面をつくっており、ことば以上にはつきりと不満の気持ちをあらわしている。これらの重苦しい感情は彼らに対して健康的にも大きな害を与えるのである。というのは消化の働きを妨げることによって栄養をそこなうからである。悲しみや心配ごとがたった一つの悪をも除くことができないと同時に、それは大きな害をなすのである。しかし快活さと希望をもつことは他人の行く手を明るくすると同時に「これを得る者の命であり、またその全身を健やかにする」（箴言四ノ二二）のである。1

ホワイト夫人は逆境にあつて快活であつただろうか

あなたは私が陰うつで落胆し、不平を言っているのを見たことがあるだろうか。私はこのようなことを禁じている信仰をもっている。このような結論に導くのは、クリスチャンの品性と奉仕についての真の理想を誤解していることによるのである。陰うつ、落胆、悲嘆を生ずるのは、ほんとうの宗教を欠いているからである。熱心なクリスチャンはイエスに似ることを求めている。なぜならクリスチャンになることはクリストのようになることだからである。クリストのご生活、クリストの習慣に関して正しい概念をつかみ、クリストに似ようと願っている私たちのうちにクリストの原則が再生されることはほんとうに重要なことで

ある。

この世を愛し自己を愛し、つまらぬ娯楽を愛しながら、中途半端な奉仕をすることは、おく病でひきようなしもべをつくることになる。そのような人はキリストから遠く離れた道を歩んでいるのである。イエスに心から喜んで奉仕することは、太陽のように明るい宗教を生み出す。キリストに最も近くつき従う人々は陰うつになることはない。キリストのうちに絶えず光と平和と喜びがある。私たちはもっと多くキリストを必要とし、世俗的なことはもっと減らす必要がある。もっとキリストを多くし自己を少なくする必要がある。 2

**光の子として歩みなさい** 私たちが陰うつであつたり短気であつたり、または軽率で愚かであつたりすることは神のご意志ではない。人間を極端から極端へ追いやることはサタンの研究した計画である。神は私たちが光の子として快活で幸福な精神を養い、それによって私たちを暗黒から呼び出して神の不思議な光の中へ入れてくださつた神を賛美することをお望みになっているのである。 3

**子供の愛情をかち得なさい** 両視がたよ、ほほえみなさい。教師がたよ、微笑しなさい。もしあなたの心が悲しんでいてもその事実を顔にあらわしてはならない。愛情深い、喜ばしい心から照り出る日光で顔を輝かしなさい。あなたの鉄のような威厳をやわらげ、子供たちの必要にあなた自身を適合させて、子供たちがあなたを愛するようになさい。もしあなたが子供たちの心に宗教的な真理を印象づけたいならば、子供たちの愛情をかち得なさい。 4

楽しい顔つきをし、美しい声を出しなさい

両親がたよ、快活でありなさい。凡俗で安っぽくならず、あなたの天にいます御父に感謝し、従順でありなさい。いらいらさせるようなことが生じた場合にも自分の感情をむき出しにして、かつてにふるまってはならない。心をひきつける愛は深い泉のようにあなたの子供たちを取り扱うのに常にわき出てくるものである。彼らは神の群れに属する小羊である。あなたの子供たちをキリストのみ許に連れてきなさい。もし両親が子供たちを快活なものにしようと教育するならば、決して子供たちに向かって口やかましくしてはならない。あなた自身がいつも楽しい顔つきをし、あなたの声にできるだけの柔和と美しい調子とをもたせるように自らを教育なさい。神のみ使いたちは、いつもあなたの子供のそば近くにいる。そしてあなたの荒々しい気むずかしい大声は、天使たちの耳に愉快にひびかないのである。5

母は快活な、満足した愉快的な性質を養うべきである。そのために払う努力は、すべて子供の肉体の健康と道徳的な性質の上に豊かに報いられる。快活な精神はその家族の幸福を増進し、自分自身の健康をも増大する。6

暗い影を取りはらい、仕事を軽減しなさい

物事を快活な光で照らしてながめなさい。そしてもし暗い影が魂につきまといっているのなら、それを取り払うように努めなさい。他人に対する同情心を養いなさい。快活さ、親切、愛を家庭の中にひろげなさい。これは宗教上の勤めに対する愛をも増してくれる。そして大小の義務を心軽やかに行なうようになる。7

軽率でない快活さはクリスチャンの美德である

私たちはクリスチャンのほんとうの威厳をもち、

同時に自分の態度が快活で楽しくあることができる。軽率でない快活さはクリスチャンの美德の一つである。 8

1、S・一八八五年一月一日  
2、M S S・一八八七年  
3、A C R・一九〇四年一月  
4、F E・六八ページ  
5、M S S・一二六・一八九七年

6、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三四五、三四六  
7、S・一八九八年九月一日  
8、4 T・六二ページ

## 第七章

# 話し方

**声は一つの才能である**——声は人に託された一つの才能である。したがってそれは私たちの同胞を助け、励まし、力づけるために用いられねばならぬ。もし両親が神を愛し、正義を行ない、判断を下すために主の道を守ろうとするならば、その両親のことばは幾分でも病的な感情主義の趣をもたないであろう。それは健全で純粋で教訓的な性格のものとなるであろう。両親が家庭にしようが、外にしようが、彼らのことばは良く選択されたものであろう。安っぽいものに低下しないであろう。 1

**あらゆることばはすべて他に影響を与える**——父や母の話すすべてのことばは、良きにつけ悪きにつけ、子供たちに影響を及ぼすものである。もし両親が気短に話すならば、またこの世の子らの示すような精神をあらわすならば、神はそのような人々をこの世の子らと見なし、神のむすこや娘とはお考えにならないのである。 2

時になつたことばは青年の心の中にいい種となり、その結果子供の小さな足を正しい道に導いてゆく。しかし誤つたことばは彼らの足を破滅の道へ引きこむ。 3

親は子供たちに、耳を傾けて聞く人々が話されたことばをすべて理解できるようにはつきりと話すことを教育してゆくべきである。彼らは子供に聖書をはつきりと明確な口調で、神をあがめるように読むことを教えなければならぬ。そして家庭の祭壇の回りにひざまずく人々が、神のみ名を口にするとき、顔を手やいすの中にかくすようにしてはならない。頭をあげて、畏敬（いけい）の念ときよい大胆さをもって、恵みのみ座にくるようにしなさい。8

純粋な話し方をしなさい。荒々しく尊大な調子ではなく、おだやかで説得じょうずな声の調子に身につけなさい。子供たちが洗練された声になるように訓練しなさい。子供たちがどんな試練に出会っても、その口から自然にあらあらしい乱暴な声が出るこのないように、話し方の習慣を練習させなさい。9

声の訓練は学生たちの健康にも大いに関係のある問題である。適切な呼吸をし、のどや肺に自然な緊張作用がおこらず、腹の筋肉に負担がかかるように読書する方法を青少年たちに教えねばならない。のどから声を出し、音声を発声器官の上部からだけ出すことは、これらの器官の健康を害し、その効果を減じる。腹の筋肉は働きの最も激しい部分を負担し、のどは通路として用いられるべきである。多くの人々は、声を正しく用いることを教わっていたらもっと長く生きたくらうに、知らないために死んだ。読んだり話したりするのに腹部の筋肉を正しく用いることは、多くの人の声や胸の病気をなおし、長寿を保つ手段となる。10

荒々しく口やかましいことばの効果

あらあらしく、いらだった口やかましいことばが話されて

天使は家庭で、話されていることばを聞いている。それゆえ決して口やかましく言ってはならない。あなたのことばの感化をかぐわしいかおりとして天へ立ち昇ってゆくものとしなさい。4

両親は家庭のふんい気を純粋なものに保ち、親切なことば、やさしい同情心と愛によって芳しいものにしなければならぬ。しかし同時にまた原則はしっかりと守り、屈してはならない。もしあなたが子供たちに対してき然としているならば、子供たちはあなたが自分たちを愛していないと考えるかもしれない。このようなことは当然あると思って、決して荒々しくふるまってはならない。正義とあわれみは手をたずさえてゆかねばならぬ。ぐらついたり、衝動的な行ないをしてはならない。5

**言語は内部の美德が外部に表現されたものである**——ことばについて最大の必要は、それが純粋で親切で真実でなければならぬことである。ことばはすなわち「心の美德が外部に表現されたもの」でなければならぬ。……言語学習の最上の学校は家庭である。6

親切なことばは人の魂に朝露やおだやかなにわか雨のようなものである。聖書には、キリストのことに關して、「疲れた者を言葉をもって助ける」ことができるように、恵みがイエスのくちびるにそそがれたと言われている（イザヤ五〇ノ四）。また神は私たちに命じておいでになる。「聞いている者の益になるように」「いつもやさしい言葉を使いなさい」（エペソ四ノ二九）（コロサイ四ノ六）と。7

**声を洗練することは家庭でせねばならぬ**——声を洗練する教育は家庭で行なわれるべきである。両親

いる家庭では、子供が叫び声を出す。そしておだやかな感受性の強い子供には、それは不幸と不和の印象を与える。それだから母親は顔をいつも日光のように明るくしているべきである。できたらほほえんでいなさい。そうすれば、ちょうど写真家の乾板に人の姿がうつし出されるように、子供の心はあなたの顔の光を反映する。母親がたよ、心に内住するキリストをしつかりともち、あなたの子供の柔軟な心に神のみかたちを強く印象づけるようになさい。 11

**耳ざわりな音色を出すな** 言い争いとか意見の衝突とかいうようなことは、どんなことも家庭に入りこませてはならない。おだやかに話さない。あなたの声をあらあらしくしてはならない。いつも落ちついていなさい。あらさがしや、不誠実を捨て去りなさい。あなたは子供たちが神聖な天国へはいる準備をするのを助けているのであり、天国ではすべてが平和であり、耳ざわりな音色は聞かれないということを、子供たちに教えなさい。子供たちが試練をうけたときは、忍耐しなさい。

その試練はあなたには小さなことであっても、彼らには重大なのである。 12

父や母が改心するならば、彼らは家庭管理の原則を完全に改めるようになる。彼らの考え方が改変され、彼らの舌が改変されるのである。...

家庭の中には大声のおこりっぱい話し方はなくなる。ことばは聞き手の感情を和らげ、祝福する性格をもつものになるだろう。...声からすべてのみにくさを取り去りなさい。 13

私たちはせっかちな気質を抑制し、ことばをおさえなければならぬ。これによって大きな勝利を得るようになる。私たちのことばや気質を制御しなければサタンの奴隷になってしまう。私たちはサタンの支配下にある。彼は私たちをとりこにする。すべてのけんか口論や、不快な短気でいら



だつことばは、サタンの主権に供えられるささげ物である。そしてそれはきわめて高価な供え物であり、私たちが神にささげるどんな犠牲よりも、もつと高価なものである。なぜなら、それは全家族の平和と幸福を破壊し、健康を破壊し、永遠の幸福な生活を失ってしまう原因となるからである。  
14

ことばは日光となるか、それとも暗い影となるか 子供や青年が自分のことばや行為を警戒するように訓練をうけることはたいせつである。なぜなら彼らの行動は日光ともなり暗影ともなる。ただ家庭の中ばかりでなく、彼らと接するすべての人に対してもそうである。  
15

不幸はしばしば話し方の才能を賢く用いないことからおこる。だれでもあらあしく話すことは、その際、家族の中に不快な感情と不幸をつくり出すのであつて、神のみことばはそのようなことを正当だと認めていない。家族の人たちはそのような話し方をする者に対しては尊敬心を失う。もし自己の感情を抑制するならば、家族すべての信頼と愛情をかち得るであらうに。  
16

子供に対しては楽しいことばを、両親に対しては尊敬の気持ちをあらわすことばを 両親は子供たちに楽しいことばだけを、子供たちは両親に向かって尊敬の気持ちをもったことばを話しかけようではないか。家庭生活ではこれらのことに注意を向けねばならない。というのは、もし子供たちが自分の品性をつくりあげる場合に正しい習慣を身につけるならば、神の教えをうけ、神のご要求に服従することが、ずっと容易になるからである。  
17

卑俗なことは、どんな形であっても避けなさい

父母、夫婦、兄弟姉妹がたよ、行動、ことば、

思考の面で卑俗になるように自己を教育してはならない。粗雑な物の言い方、下品な冗談、家庭生活でいていねいさと真の礼儀正しさを欠いていることなどは、あなたにとつて第二の本性となり、真理によつてきよめられる人々の集団に加わることでできない人間にしまう。家庭は俗悪さ、好色、罪のなすり合い、醜聞等によつて汚されてはならないきわめて聖潔な場所である。よこしまなことばをだまらせなさい。きよくない考えは追い払いなさい。なぜなら真の証人でいます主はあらゆることばを評価し、あらゆる行動を評価づけ、そして「私はあなたのわざを知っている」(黙示録三ノ八)と宣言しておられるからである。18

家族の間で低俗で安っぽく、ありふれた話をしてはならない。心が純粹であれば、知恵の豊かな宝がわき出てくるであろう。19

家の中で、ばかげた話にふけてはならない。どんなに幼い子供でも「健全なことば」によつて利益を得るのである。しかし、父母の間でかわされるむだでばかげた会話は、子供たちの間でも同じような種類のことばとなつてあらわれるだろう。一方正しく率直で真実のこもった、そして真剣なことは、家族すべての中に同じことばをつかうようにするものであり、また正しい行動をさせるようにもなるのである。20

怒りっぽく性急なことばの罪悪

あなたが子供たちに怒りに満ちたことばを話しかけると、あなたはずべての正義の敵の働きを助けていることになる。子供にはだれでも赤ん坊のときから、公

平な機会をもたせようではないか。教育は子供のときから始めるべきであり、荒々しさやいら立たしさを伴わず、親切と忍耐の気持ちで行なわねばならない。そしてこの教育は、おとなになるまでずっと続けてゆかねばならない。<sup>21</sup>

どの家族も熱心に祈って、神のみわざを行なうための助けを主に求めよう。彼らがせっかちに話す習慣や、他人を非難しようとする欲望を克服するようにさせよう。彼らが家庭の中では親切で礼儀正しくなり、思慮深く注意する習慣をつくるように、勉強させよう。<sup>22</sup>

性急なことばを口にするによつて、家族の間にどれほど害悪が生ずることだろう。なぜなら一人が性急なことばをしゃべると、他の者が同じような気持ちとやり方で言い返すようになるからである。そこで報復的なことばや自己弁護のことばが口に出てくる。そしてあなたの首に、重苦しくいらだちを起こすくびきがはめられるのは、そのようなことばのためである。というのは、すべてこのような苦々しいことばは、あなたの魂に有害な収穫となってもどつてくるからである。<sup>23</sup>

激しいことばは耳を通して人の心に打撃を与え、魂の最悪の激情をよび起こし、神の戒めをやぶるように誘惑の気持ちをおこさせる。……ことばはまかれる種のようなものである。<sup>24</sup>

**短気なことばは一種ののろいである** 多くの家族の間では、だらしない不注意なことをしゃべる習慣がある。そして人をじらし、荒々しいことばを話す習慣は、そのまま放っておくと次第にひどくなり、このため神ではなくサタンのやり方になった、不都合なことばの多くが話されるようになる。……激しく怒ったことばを決して口にしてはならない。なぜなら神の御目や天使たちの目

には、そのようなことばは一種ののろいであるから。 25

いかにして父は子供の信頼を失ったか 兄弟よ、あなたの尊大なことばはあなたの子供を害した。

彼らが年をとるにつれて、批判する性質が次第に成長してくる。あげ足とりをすることがあなたの生活を墮落させており、あなたの妻や子供たちにもひろがっている。あなたの子供たちはあなたを信頼し、自己の欠点を認めるように助長されていない。なぜなら彼らは、あなたのきびしい非難があとにあることを知っているからである。あなたのことばはしばしば未熟な植物をそこなつてしまふ、ひどいひょうのような働きをする。このようにして生じた害悪は評価できないほど大きい。あなたの子供たちは、あなたがかくくなことばを言うのを避けるために、ごまかしを言うようになる。彼らは非難と罰をうけるために事実を回避するようになる。荒々しく冷酷な命令は、彼らになんの益も与えない。 26

暗示的な誓約 家庭の中でおだやかに話し、愛の法則に従つて話をしてゆくことを誓約すること

は、だれにとつてもよいことである。両親がたよ、決して性急に話してはならない。もし子供たちが悪いことをしたら、なおしてやりなさい。しかしあなたのことばはやさしさと愛に満ちていなければならぬ。あなたがごごとを言うたびに、忍耐の教訓を与えることのできる貴重な機会を失うことになる。あなたが悪を矯正するのに、愛を最大の眼目となさい。 27

食卓での会話

どれほど多くの家族が、彼らの日常の食事を疑惑と疑問とで味つけしていることだろう。彼らは友人の品性を細かに批判し、かれらをおいしいデザートに用いている。中傷というごちそうが、おとなだけでなく子供たちによっても、食卓に出されて話題になる。このようにして神の栄えは汚される。 28

批判とあらさがしの精神を家庭の中に入りこませてはならない。家庭の平和はあまりにも神聖であつて、このような精神で傷つけてはならないのである。しかし家族の一人一人は食卓に座しているとき、批判やあらさがしや醜聞という皿を、どれほどひんばんにまわしていることだろう。キリストが今日おいでになるとしたら、クリスチャンと称している多くの家族の中にこのような批判と不親切の精神をいだいているのを見いだされるのではないだろうか。そのような家族の各人は、天国の家族と一致する用意ができていないのである。 29

家族の食卓では、子供たちの心によい感化を及ぼすと思われるような話題を選ぼうではないか。 30

うわさ話と、うわさの言いふらし

人食い人種が、まだ生暖かいびくびく動くえものの肉を食べている光景は思っただけでもぞっとするが、しかしこういう行為よりももっと恐ろしい結果は、真意を誤り伝えられたり、評判を傷つけられたり、品性を批判されたりすることなどによって生ずる苦悩と破滅である。こうしたことについて神が「死と生とは舌に支配される」(箴言一八ノ二一)と仰せになっているみことばを、子供たちも青年たちも学ばなければならぬ。 31

うわさ話と、うわさを言いふらす精神は、サタンが不和と争いの種をまき、友を引きはなし、私

たちの立場の真実性に対する多くの人の信念をぐらつかせるための特別な働きである。 32

**邪推の種をまくことは、敵を助けることになる**

激しいことはを口にすることは、人間が生まれ

ながらにもっているものである。このような性癖に負けてしまう人々は、サタンが心の中にはいり、他人のまちがいやあやまちにすぐ気づかせるようにさせるために戸を開いているのである。彼らの短所が強調され、彼らの欠陥が注目され、神と共に働く人としての自分の義務を果たそうと最善の努力をしている人に対する信頼を失わせるようなことが口にされる。しばしば邪推という種がまかれる。なぜなら、人は自分が好意を示されるべきであるのに、そうでなかったと考えるからである。 33

神は信者たちに、人のあやまちを見つけ出すのをやめ、せっかちで不親切な言い方をやめようと呼びかけておられる。両親がたよ、子供たちに話すことは親切で、快活なことばを出しなさい。そして天使たちが子供たちをキリストに引きよせるのに、あなたがたが助けとなるようにしよう。家庭の教会において完全な改革が必要である。直ちにそれを始めなさい。不平を言ったり、きげんをそこね、しかるのをやめよう。きげんをそこね、しかる人々は、天使をしめ出し、悪天使のために扉を開くのである。 34

**親としての忍耐と抑制に対する訴え**

両親がたよ、あなたがきげんをそこねた時には、この危険

な短気によって家族全部を毒するような大きな罪をおかさぬようにしなければならぬ。そのような時には、あなた自身をいつもの二倍も監視なさい。そしてただ楽しい快活なことばだけを話すこ

とのできるように、自己のくちびるをつまずかせないことを決心なさい。自分の心に次のように言い聞かせなさい。「私はいらだたしいことばで子供たちの幸福を傷つけないでおこう」と。このように自己を抑制することによって、あなたはいつそう強くなる。あなたの神経はそれほど過敏でなくなる。あなたは正義の原則によって強くなる。あなたが強い信念をもって自分の義務をつくしているという意識は、あなたを強くする。神の天使たちは、あなたの努力をながめて微笑し、あなたを助けてくれる。

35

父母がたよ、あなたの子供たちに親切に話しなさい。自分がどれほど神経過敏であり、人からとがめられるとがまんができないことを思い浮かべなさい。よく思案して、あなたの子供たちもあなたと同様であることを知りなさい。自分のがまんできないことを、子供たちに負わせてはいけない。もしあなたが非難やとがめられることをがまんできないとしたら、あなたよりも弱々しくて、同じ程度に耐えることのできない子供たちも、同じようにがまんできないのである。あなたの家族の中へ、楽しい快活なことばを、いつも日光のさしこむように与えようではないか。あなた自身の自己抑制、思慮深さ、骨折りなどのむすぶ実は百倍にもなるであろう。

36

**沈黙するか、または歌をうたうとき**

なるほど試練はまったく献身した人々にものぞむであろう。

最もがまん強い人の忍耐が激しく試みられるであろう。夫や妻は性急な答えをよび起こし勝ちなことばを口にすることであろう。話しかけられるほうは沈黙を守ろう。黙っていれば安全である。しばしば沈黙はくちびるで罪をおかした人に与えることのできる最も激しい非難となる。

37

子供たちや青年たちが自己抑制の気持ちを失って、激しいことばをしゃべるときに、しばしば叱責や討論や非難といったことをせずに、沈黙の態度をとることが最もよい方法である。間もなく後悔するようになる。金のような沈黙が、人の口にするすべてのことばよりも、もっと役立つことがある。<sup>38</sup>

他人が自己をおさえることができずに、短気でいらいらして不平を言っているときには、何かシオンの歌を歌い始めなさい。キリストが大工の仕事場でお働きになっていた間に、他の人間は時折主を取り囲んで、いらいらさせようと試みた。しかし主はある美しい詩篇の歌をうたい始められたので、彼らは知らず知らずいっしょに唱和した。それは、いわば、そこに臨在する聖霊の力に感化されたのであった。<sup>39</sup>

#### 話し方における自己抑制の戦い

神は、両親たちが自己抑制をし、自分のしつかりした品性を身につける手本を示すことによって、自分たちの身近にいる幼い群れ（子供や青年）に光を与えるように求めておられる。つまらない凡俗な会話にふけてはならない。神は、生活のあらゆる隠れた物事を見抜かれる。ある人々は自己抑制のための不断の戦いを続けている。日ごとに彼らは静かに祈りをささげながら、話し方と気質の荒々しさと戦っている。このような戦いは人間によって価値を認められないかもしれない。彼らはしゃべろうと待ちかまえている荒々しいことばをぐつとのみこむことについて、人の口からはほめられないかもしれない。世人は決してこれらの征服に気づかないだろう。もし気づいたとしても勝利者を軽べつするだけだろう。しかし天国の記録の中には、



## 第 15 部 家族の生活を明るくする美德

13、	L・七五・一八九八年
12、	M S S・一九〇四年九月八日
11、	R H・一九〇四年九月八日
10、	C T・二九七ページ
9、	M S S・六〇・一九〇三年
8、	M S S・四・一九〇一年
7、	Y I・一九〇八年三月三十一日
6、	教育・二九四ページ
5、	R H・一九〇七年三月三〇日
4、	L・一〇・一九一二年
3、	R H・一九〇〇年六月二四日
2、	M S S・一〇〇・一九〇二年
1、	M S S・三六・一八九九年

彼らは勝利者として書きとどめられる。あらゆる秘密の戦いやあらゆる静かな勝利を証明するおかたがおいでになる。そのおかたは「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる」(箴言一六ノ三二)と仰せになっている。 40

もしあなたがとなり散らしたり、いらいらしたり、がみがみ言ったりすることを拒むならば、主はあなたの通るべき道をお示しになる。主はあなたが話し方の才能をキリストに似た方法、すなわち忍耐と慰めと愛という貴重な特質が家庭の中にもたらされるような方法で用いることを助けてくださる。 41

26、	L・八A・一八九六年
25、	Y I・一八九四年九月二〇日
24、	L・一〇五・一八九三年
23、	R H・一九一三年二月二七日
22、	M S S・三一・一九〇七年
21、	M S S・五三・一九一二年
20、	同・一八八五年四月一四日
19、	R H・一八九八年五月一七日
18、	S・一八九二年一月一四日
17、	R H・一八九六年一月一七日
16、	M S S・六・一九〇三年
15、	Y I・一八九六年一月五日
14、	1 T・三一〇ページ

# アドベンチスト・ホ - ム

3433323130292827  
、、、、、、、、  
L L 4 教 M S 4 L  
・ ・ T 育 S ・ T ・  
一 一 ・ ・ S 一 ・ 二  
三 六 一 二 ・ 九 一 九  
三 九 九 九 四 〇 九 ・  
・ ・ 五 五 九 四 五 一  
一 一 ペ ペ ・ 年 ペ 九  
九 九 ー ー 八 月 ー 〇  
〇 〇 ジ ジ 八 一 七 年  
四 年 年 年 日

41403938373635  
、、、、、、、、  
M S M M M 同 1  
S ・ S S S ・ T  
S 一 S S S 四 ・  
・ 八 ・ ・ ・ 〇 三  
六 九 一 五 七 一 八  
七 九 〇 九 〇 ペ 六  
・ 年 二 ・ ・ ー ー  
一 八 ・ 一 一 ジ 三  
九 月 一 九 九 八  
〇 二 九 〇 〇 七  
一 三 〇 〇 三 ペ  
年 日 一 年 年 ー  
年 年 年 年 ジ

## 第七二章

# 親切なもてなし

今日でも天使をもてなすことができる 聖書は親切なもてなしをすることに、非常な重点をおいている。それはもてなしを義務として命令しているだけでなく、この好意を実行した多くの美しい場面と、それがもたらした祝福の数々を示している。これらの例の中で一番めだっているのは、アブラハムの経験である。……

これらの礼儀正しい行為を、神はみことばの中に記録するだけの十分な重要性があるとお考えになった。そして千年以上も後になって、靈感をうけた使徒がこのことについて、「旅人をもてなすことを忘れてはならない。このようにして、ある人々は気づかないで御使たちをもてなした」と言った（ヘブル一三ノ二）。

アブラハムとロトに与えられた特権は私たちにもこぼまれてはいない。私たちもまた神の子たちを厚くもてなすことによって、天使を私たちの住居に迎え得るのである。今日においても、天使は人間の形をとって人々の家庭にはいり、歓待される。そして神の笑顔の輝きの中に住むクリスチャンは、いつも目に見えない天使につき添われており、これらの天使たちは私たちの家庭に祝福をの

こしてゆくのである。 1

### 無視された機会と特権

「もてなしを好む人」(テトス一ノ八)は聖霊によつて列挙されているうちで、教会に対する責任を負うべき特別な人として数えられている。「不平を言わずに互にもてなし合いなさい。あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである」(ペテロ第一・四ノ九、一〇)。

これらの訓戒は不思議にも軽視されてきた。クリスチャンと称する人々の間においてさえ、真のもてなしはほとんど実行されていない。私たち自身の民の間においても、もてなしの気持ちをあらわす機会、特権と祝福とみなされるべきなのに、そう考えられていない。社交性もほとんど見られず、また困惑や見せびらかしの気持ちをもち、家族の食卓に二、三人の余分の席をつくらうとする態度もまるで見られないのである。 2

**不適当な言いわけ** 私は多くの人たちが自分の家庭や心の中に、神の聖徒たちを招くのを免れたいと言っているのを聞いた。「まあ、私は何も用意しておりません。私は何もごちそうの準備をしておりません。だから、どこかよそへ行ってほしいのですが」と。そして、よその場所ではまた、もてなしを必要とする人々を受け入れないでおこうと、別の何かの言いわけを見つけているかもしれない。そして訪問者の気持ちはひどい失望を感じて、これらの自称兄弟姉妹のもてなしに関して、不愉快な印象をうけて去る。姉妹がたよ、もしあなたがパンを持っていないのなら、聖書に示された例にならってください。あなたの隣人のところへ行って言いなさい。「友よ、私に三個のパンを

貸して下さい。私の友人が旅行して、私のところへやって来ましたが、私は彼にもてなすべき物が何もないのです」と。

私たちはこのような客がはいってくるのをこばむ弁解の理由として、パンがないからということばを口にした例を知らない。エリヤがザレパテの寡婦（列王紀上一七ノ一〇）のところへ行ったとき、彼女は神の預言者エリヤにわずかの自分のパンをわけた。そして彼は奇跡を行なった。そして神のしもべのために宿を貸し、自分のもっていた一片のパンをわけ与える行為によって、彼女はさえられ、自分とむすこの生命が維持された。このように多くの人も、もし彼らが神の栄光のために喜んでもてなすならば、同じ結果をみるのが証明されるのである。

ある人々は自分の健康の不十分なことを理由にする。もし元氣だったらよるこんでそうしたいのだがと言う。彼らは自分自身をあまりにも長期間閉じこめ、自分の貧弱な感情だけを思い、自らの苦しみ、試練、不幸をあまりにも話し過ぎるので、それが彼らにとって現代の真理となっているのである。どれほど他人が多く同情と助力を必要としても、彼らは自己以外の人のことは考えないのである。健康の不十分なことに悩んでいるあなたにとって、その治療法がある。もしあなたが裸の人に着物を着せ、あなたの家にとびこんできた貧しい人を招き入れて、空腹の人にパンを与えてやるならば、「あなたの光が暁のようにあらわれ出で、あなたはすみやかにいやされる」（イザヤ五八ノ八）。善行をなすことは病氣に対するすぐれた治療法である。働いている人々は、神によりたのむように招きをうけている。そして神は彼らにお答えになることを保証しておいでになる。彼らの魂は、干ばつのときにも満足させられ、潤った園のように、水の絶えない泉のようになる。 3

排他的な利己主義のために失われた祝福

人が「私と私の家族」のために、たびたび見せる自己

本位の気持ちを神はお喜びにならない。このような精神を宿している家族はどれも、キリストのご生涯の中に手本を示された純粋な原則を見て改心する必要がある。自己の殻の中に閉じこもってしまふ人、訪問者をもてなすことに気のすすまぬ人は、多くの祝福を失うのである。4

天使は、私たちが自分の手の届くところにある善行をなす機会をよくつかむかどうかを、見守っている。もし私たちが他人を祝福するならば、その代償に私たちを祝福しようと待っているのである。神は私たちをいろいろな異なった境遇においてある者は貧しく、ある者は金持ちに、またある者は悩みにあつてとすべての人が品性を啓発する機会をもち得るようにされた。貧しい人たちは、わざと神が貧乏であることをお許しになっているのであり、それによって私たちがためされ、証明され、自分の心の中にもっている気持ちを向上させるようにと望んでおられるのである。5

人をもてなす精神が死滅するとき、心は利己主義のためにまひしてしまふのである。6

どの範囲まで、もてなしの手をひろげるべきか

わたしたちの社交、接待は社会の習慣に左右さ

れることなく、かえってキリストの精神とその教えに従ってすべきである。イスラエル人はいつも祭日に貧しい人、旅人、レビ人、すなわち聖所において祭司の助けであり、また宗教教師、伝道師であつた者を家に迎え入れた。これらの人は客とみなされ、社交的および宗教的なすべての祝いに、いつもその接待を受け、病気のとき、困ったときにはやさしくいたわられた。わたしたちが自己の家庭に歓迎すべき人もこういう人でなければならぬ。こうした歓迎がどれほど伝道にたずさわっ

ている看護婦や教師、あるいは苦勞をなめ、働き疲れた母親、または家もなく、貧困と多くの失望にあつて戦っている弱い年寄りたちを喜ばせ、励ますことであらう。

「午餐または晚餐の席を設ける場合には、友人、兄弟、親族、金持の隣り人などは呼ばぬがよい。恐らく彼らもあなたを招きかえし、それであなたは返礼を受けることになるから。むしろ宴会を催す場合には、貧乏人、不具者、足なえ、盲人などを招くがよい。そうすれば、彼らは返礼ができないから、あなたはさいわいになるであらう。正しい人々の復活の際には、あなたは報いられるであらう」(ルカ一四ノ一二―一四)。

こういう客を接待するには少しも苦勞がいらず、念のいった、高価なごちそうを備える必要がない。見えをはる必要もなく、親切なあたたかい歓迎をし、時に炉辺にすわり、また家族の食卓に招いて祈りの祝福をとにすることが、こうした人々にとっては天国のように感じられるのである。わたしたちの同情は自分や家庭のわくからあふれ出なければならぬ。自分の家庭を開いて他人の祝福とする人には尊い機会がある。社交によつて及ぼす力は驚くばかり力強いものであつて、周囲の人を助ける手段としようとするとき、これを用いることができる。7

#### 誘惑をうけている青年のための避け所

わたしたちの家は誘惑にあつた青年の避難所でなければならぬ。道の分かれ目に立っている人が多い。一つ一つの感化、印象が、現在および今後の運命をどういつうに形成していくかを決定する。悪が彼らを招いており、悪の場所は光に輝いていて魅力的で、はいつてくる者はだれでも歓迎する。わたしたちの周囲には家庭のない青年、また家庭

があつても、それがなんの助けにもならず、向上させる力となっていない家庭の青年が多く、悪のほうへ押し流されてしまうのである。彼らはわたしたちの家庭のすぐ近くで墮落におちいるのである。

こうした青年に同情の手がさしのべられなければならない。簡単に口から出た親切なことばや、ちよつとした小さい心づくしが、こうした魂の上に集まっている誘惑の雲を一掃するのである。神から出た同情の真の表現は、キリストのような、かおり高いことばとキリストの愛の精神から発する清純なやさしい接触が必要である人々の心の戸を打ち開く力をもっている。もし青年に対する興味を示したいと思うなら、自分の家庭に招き、喜びにあふれた有益な感化で囲みなさい。そうすれば、喜んで天国への道を踏み出す者がおおぜいある。 8

**家族の質朴さを保存してゆくこと**      お客がきたときには、時おりそうしたことが行なわれるのだ

が、母親の時間と心づくしの全部を客に与えてはならない。彼女の子供たちの物質的そして霊的な幸福を第一とすべきである。りっぱなケーキやパイや、健康に害のある食物を食卓に用意するためには時間を用いてはならない。これらのものは余分の費用を要し、多くの人はそんなものをつくる余裕はない。しかし、もつと悪いことは、そんなことの手本を示すことにある。家族の質朴さを保存しなさい。あなたが実際に、自分の資力以上の生活方法をすることができるといふ印象を与えようとしてはならない。あなたの食卓の料理にも、またあなたの物腰についても、自分本来のものでないものを見せようとしてはならない。

あなたを訪ねてきた客を親切にもてなし、くつろいだ気持ちをもたせようと努めるとき、あなた



は常に神がお与えになった子供たちに対する教師であることを覚えていなければならない。子供たちはあなたを見つめている。そしてあなたのどんな行動も、彼らの足をあやまった道へ向けさせるようなことになってはならない。客に対しても、毎日自分の家族に対すると同じ態度をとりなさい。すなわち愉快で思慮深く、そして礼儀正しくなければならぬ。このような方法によって、だれでも皆教育者となりよい働きの手本を示すことができるのである。彼らは、何を食べ、何を飲み、また何を着ようかと思うよりも、もっと重大な何ものかがあるということを、立証しているのである。 9

**平安で安らかなふんいきを持ち続けなさい**

もし私たちの家庭生活と社交が、キリストの柔和と質朴さによって支配されるならば、もっと幸福で役立つものになるだろう。私たちは訪ねてくる人の称賛や羨望（せんぼう）を得ようとして見えを張ることをつとめるかわりに、自分たちのまわりにいるすべての人を、私たちの快活さ、同情心、愛によって幸福にしようと努めるべきである。私たちがキリストのみこころに従おうとつとめていることをお客にわからせよう。私たちの身分がたとえいやしくても、満足と感謝の精神をもっていることを彼らにわからせよう。真のクリスチャンの家庭のふんい気は平和と安らかさである。そのような模範には必ず効果がある。 10

**支出計算書は天国に保管されている**

キリストはご自分のためにもてなすことをした支出計算書のすべてを保管しておられる。主はこの働きのために必要なすべてのものを満たしてくださる。キリストのために彼らの兄弟をもてなす人々、その訪問をお客さまにも自分たちにとっても有益なも

のにしようと、自己の最善をつくす人々は、天国において特別な祝福をうけるに値する者として記録される。...

キリストはご自身の一生を通して、もてなしの教訓をお与えになった。海辺でおおぜいの空腹の群衆にかこまれておいでになったとき、主は彼らを元気づけずにそれぞれの家庭におくり帰すことはなさらなかった。主は弟子たちに「あなたがたの手で食物をやりなさい」（マタイ一四ノ一六）と仰せになった。そして主はご自身の創造力によって、彼らの必要を満たすのに十分な食物をお与えになった。しかしながら、そのときに用意された食物はなんと簡単なものであつたことだろう。それはぜいたくな品ではなかった。天国の資源をすべて意のままに用いられる立場におられる主は、人々のためにぜいたくな食物を並べることがおできになったのである。しかし主は、彼らの必要を満足させるだけのもの、海辺にいる漁師たちが日常の食事としていたものだけを用意された。

もし今日の人々が単純な習慣をもち、自然の法則にかなつた生活をするならば、人類家族の必要をすべて豊かに供給することができはすである。人間が想像しているような不足はすつと少なくなり、神の道のために働く機会はずつと多くなるはずである。...

貧乏だからといって私たちがもてなしの気持ちを示すことを閉ざしてしまうことにはならない。私たちは自己の持っているものをわけ与えるべきである。生活のために戦い、自分の収入と生活費と合わせるのに非常に苦労している人々がいる。しかし彼はイエスを愛するゆえにイエスの聖徒を愛する。そして、いつでも信者や未信者をもてなそうとしており、その交わりを有益なものにしようと努力している。客は家族の食卓や礼拝に喜んで迎えられる。祈りの時間はもてなしを受ける人

人に深い感銘を与え、たった一回の交わりが一人の魂を死から救う手段となり得るのである。このような働きを、主は数えて「わたしはそれに対して報いる」と仰せになっている。 11

**目をさまして機会をつかみなさい** 兄弟姉妹がたよ、目をさましなさい。よい働きをすることを

恐れてはならない。「わたしたちは善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる」(ガラテヤ六ノ九)。あなたの義務を人から言われるまで待つてはならない。目をあけて自分のまわりにだれがいるかをよく見なさい。どうすることもできない人、悩んでいる人、困っている人と知り合いになりなさい。彼らから、かくれてはならない。また彼らの困窮をしりぞけてはならない。ヤコブの手紙の中にしるされている証明、すなわち純粋な宗教をもち、利己主義や墮落に汚されていないという証明をだれがしてくれるだろうか。偉大な救済の計画を助けるために、自己の全力をそそぐことをだれが切望しているだろうか。 12

ページ

- |                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| 1、6 T・三四一、三四二ページ          | 8、同・三二七、三二八ページ        |
| 2、同・三四二、三四三ページ            | 9、C T B・一四三ページ        |
| 3、2 T・二八、二九ページ            | 10、R H・一八八七年一月二九日     |
| 4、6 T・三四四ページ              | 11、6 T・三四四、三四五、三四七ページ |
| 5、2 T・二八ページ               | 12、2 T・二九ページ          |
| 6、M S S・四一・一九〇三年          |                       |
| 7、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三二六、三二七 |                       |



第一六部

家庭とその社会的関係



第七三章

## 私たちの社会的必要

神は私たちの社会的必要に対して準備された。選民の教育のために備えられた道には、神を中心とする生活が完全な生活であることが明らかに示されている。神の感じさせたもう必要は、神が自ら与えてこれを満ち足らわせ、神の与えたもうあらゆる才能は、神が自らこれを發達させたもう。あらゆる美の創造者であり、また美しいものを愛される神は、神の子どもたちに、美を愛する心を満足させる道を備えたもうた。神はまた彼らの社交上の必要のために、すなわち同情心を養い、生活を明るく楽しくするのに大いに役立つところの親切で人助けとなる交際のために方法を講じたもうた。 1

**まじわりの影響** 人はだれでも友だちを見つけ、また友人をつくる。そして友だちが互いに良きにつけ悪しきにつけて、及ぼしあう感化の程度は友情の強さに比例する。すべての人は友だちをもっており、お互いの性質にそれぞれ影響を及ぼしあうのである。 2

神のみことばには、成人の男女に対してさえ交際の影響が大いに強調されている。子供や青年の

心と品性の発達に及ぼすその力は、もつとどんなにか大きいものであろう。彼らの交際する友人、彼らの信奉する原則、彼らの形成する習慣は、彼らがこの地上で役立つ人物となるかどうか、また未来の運命がどうなるかということをも決定するのである。……

青年が友人をもつこと、また彼らが必然的にその友人たちの影響をうけることは避け得ないことである。お互いの魂を結びつける不思議な環があつて、それによつて一人の心が他の人の心に応答するのである。一人の人が他の人の考え方、感情、精神に感化される。このような交際は祝福ともなり、のろいともなる。青年は起居ふるまいや態度や知識を改善し向上させることで、互いに助けあい強めあう。さもなければ互いに不注意で不信仰になつて、墮落させるような感化を及ぼしあうことになる。3

「あなたの友だちを見せてください。そうすればあなたがどんな品性の人であるかを言いあてましょう」と言われるのはほんとうである。青年は自分の友人の選択によつて、自分の品性と評判の両方がどれほど大きな影響をうけるかということを認識することが十分できていない。人は趣味や習慣やしつけ等が一致しているような人々を自分の仲間を選ぶように求めるものである。賢明で善良な人とのまじわりよりも無知で悪徳な人間とのまじわりを好む人は、自己の品性に欠陥があることを示している。彼の趣味と習慣は、最初は自分が仲間にはいるうとしてゐる人々の趣味や習慣と全く似ていないかも知れない。しかし彼がこのような仲間に加わるときに、その思想と感情は変わつてゆく。彼は正しい原則を犠牲にし、目に見えないほどにゆつくりと、しかも不可避免的に自分の友だちの水準に墮落してゆくのである。川がいつも流れてゆく土地の土の影響をうけるように、青年



の原則と習慣は自分の加わっている友人たちの品性に染まってゆくのである。 4

**生まれつきの性癖は下へ向いている** もし青年が純粹で考え深くやさしい人と交際するならば、

その効果は最も有益なものとなるであろう。神をおそれる人々の仲間になることを選択するならば、その感化によって真理と義務と神聖さに導かれるであろう。真のクリスチャンの生活は善をなすための力である。しかし反対に疑惑的な道德心もち、まちがった原則を奉じ、あやまった習慣を身につけた男女と交際する人々は、間もなくそれらの人と同じ道をあゆむようになる。生まれつきのままの心をもった性癖は常に下を向いている。懷疑論者と交際する人は間もなく懷疑的となる。下劣な人との交友を選ぶ人は、まちがいなく下劣な人間となる。不信心な人の忠告に従って歩くことは罪人の道へ向かって歩み、軽べつすべき人間の座にすわる第一歩をふみ出すのである。 5

世俗的な青年は、社交と快樂を愛することに夢中になる。着物を着たり、人を訪問したり、食欲と情欲にふけり、社交的な浪費のうずの中にはいりこむことは、生存の大きな目的であるように見える。彼らは孤独でいると不幸である。彼らの主要な欲望は人から称賛され、へつらわれ、社会の中で大評判になることである。そしてこの欲望の満足がないと生活は耐えがたいものに見えるようになる。 6

社交を愛する人々はしばしば、このようなことに夢中になり、そのため遂にはそれが支配的な欲望となってしまう。……彼らは聖書を読み、天国のことをめい想することに耐えられなくなる。何か興奮させるものがなければみじめになる。彼らは自分の中に幸福になる力をもっており、自分

と同じように無分別で向こう見ずな他の青年の仲間に、自らの幸福をもとめるのである。高尚な目的に向けることのできる能力を愚行につかい、知的な浪費のためにすりへらすのである。 7

### クリスチャンの社交性は祝福である

クリスチャンの社交性を育成することを神の民らはあまりにも軽視している。……自分の殻に閉じこもっている人々、友情の交際によつて他人を祝福することを好まない人々は、多くの祝福を失うのである。なぜなら人の心はお互いの接触によつて磨かれ洗練されるからである。社交によつて知人ができ、親交を結ぶことができ、それによつて天国から喜びの目でながめられる心の一致と愛のふんい気がつくられる。

特にキリストの愛を味わった人々は、彼らの社交的な能力を発展させなければならない。なぜなら、このようにして人々の魂を救い主に引きよせることができるからである。キリストは彼らの心にかくされてしまつたり、自分だけが楽しむ神聖で芳しい宝として閉じこめられたりしてはならない。またキリストの愛を自分の氣にいった人々だけに示してはならない。最も必要としている者に対しては、自分の選んだ友人でなくても、親切な関心を示し、社交的な態度を示すように、学生に教えねばならない。あらゆる時に、そしてどこにおいても、イエスは人類家族に愛情ある関心を示しになり、ご自分のまわりに快活な敬虔の光をお与えになつたのである。 8

1、教育・四九、五〇ページ  
2、4 T・五八七ページ  
3、C T・二二〇ページ  
4、同・二二一ページ

5、4 T・五八七ページ  
6、5 T・一〇二ページ  
7、4 T・六二四ページ  
8、6 T・一七二、一七三ページ

## 第七四章

### 安全な交際と危険な交際

私たち及び私たちの子供に影響を与える事から

私たちの交際はどんなに限られたものであつて

も、私たちになんらかの影響を与えるものである。私たちがその影響を受ける程度は、親密の度合、交際の長さ及び私たちが交際する人に対してもつ愛と尊敬の程度によつて決定される。<sup>1</sup>

もし私たちが、主が私たちに期待しておいになる高尚な目的を忘れさせてしまうような傾向をもつ感化を与えるような友人の間に自己をおくならば、誘惑を招き、その誘惑に抵抗する道德的な力をあまりに弱くしてしまう。私たちは友だちと同じ精神をもち、同じ考えを抱くようになり、神聖で永遠なる事がらを友人の考え以下におくようになるのである。要するに、私たちはすべての正義の敵の思いどおりになつたのである。

青年がこのような影響下におかれるならば、年とつた人々よりもずっと容易に感化される。あらゆるものが青年の心に印象を残す。すなわち彼らのながめる顔、聞く声、訪問した場所、交際する仲間、彼らの読む本など、すべてが印象を与える。私たちが自己と特に子供のために選ぶ友人が現世と来世にわたつてどんなに重要であるかは、どんなに強調してもしすぎることはない。<sup>2</sup>

## 神を恐れない者と交際する危険

世間は私たちの標準とはならない。私たちは神を恐れない者と交わって、彼らと同じ精神を抱いてはならない。なぜなら、彼らは私たちの心を神から引き離して、いつわりの神々の礼拝に向けるからである。しっかりした信仰をもつ確固たる魂は多くの善を行なうことができる。そのような人は彼の交わる友人たちに対して最大の祝福を与えることができる。なぜなら神の律法が彼の心の中にあるからである。しかし私ちは、神の律法を踏みつける人々と好んで交際しながら、一方で自らの信仰を純粹で曇りのないものに保っておくことはできない。私たちは彼らの汚れた精神に感化され、彼らと離れてしまうのでなければ遂には結びつけられてしまつて、彼らと運命を共にするのである。 3

ヘブル人が神の律法をおかし、民族に神の審判がくだるようになったのは、偶像礼拝者と交際し彼らの祝祭に参加するようになったからである。これと同じく今日も、サタンがキリストのみあとに従う者を罪に誘いこむのに最も成功している方法は、彼らを神を恐れない人と交わらせ、かれらの娯樂に加わらせることによるのである。「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよと主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない」(コリント第二・六ノ一七)。神はご自分の民に対して今日も、古代のイスラエル人に要求されたと同じように、この世の人たちと習慣や原則において大きな差異があるようにと求めておいでになるのである。 4

## サムソンのわがままな選択

神は、サムソンが召された働きをりっぱになしとげるための準備をするようにと、彼にみ摂理の保護をお与えになった。彼は生まれたときから、肉体的な強さ、知的

能力、そして道德上の純粹さというきわめて恵まれた条件に取りまかれていた。しかし彼は悪い友人たちの感化によって、人間を保護してくださる唯一のおかたである神を手ばなし、悪の潮流に押し流されてしまった。義務の道で試験に会う人々は、必ず神の保護をうける。しかし人がすすんで誘惑の力の下に自己をおくならば、遅かれ早かれ彼らは誘惑に陥るであろう。 5

**陰險な悪のパン種** 親愛なる学生がたよ、あなたがたの両親は日夜あなたがたのことを祈っているのである。両親の嘆願と警告に耳を傾けなさい。そして無謀な友人を選んではならない。あなたがたは悪のパン種がどのようにに狡猾（こうかつ）にあなたがたの心を毒し、あなたがたの習慣を害し、悪い習慣をくり返すことによって不健全な品性を発展させるのかということを見わけることができない。あなたがたはほんとうの危険を知っていない。そして悪い行ないをするような誘惑に負ける以前と同じように容易に、正しい行為をすることができると考えている。しかしこれはまちがいである。神を愛し、また恐れる両親や教師は警告し、嘆願し、忠告を与えるであろう。しかしあなたが神に自己をゆだね、神がご自身の栄光のためにあなたがたにお与えになった才能を進歩向上させようとしなければ、すべてはむだである。 6

**宗教に無関心な者に油断するな** もし子供たちが、重要でない現世的な事からのことを話し合っている人々といっしょにいるならば、彼らの心はその人々と同じ水準に達するだけである。宗教の原則が中傷され、私たちの信仰がけなされるのを彼らが見るならば、また真理に対する陰險な反対

の聲が彼らの耳にはいるならば、これらの事がらは彼らの心の中に残り、その品性に影響を及ぼすことになるであらう。 7

うぬぼれが強く、不注意で心の汚れた人と交際することほどに、まじめな印象やりっぱな願望を阻害し、払いのけるのに役立つものはない。そのような人々が、その機知や皮肉や冗談等によって、どんなに人をひきつける魅力があろうとも、彼らが宗教を軽率に扱い、無関心を示すという事實は、彼らと交際してはならない十分な理由である。彼らが他の点で魅力があればあるほど、友だちとしての感化はいつそう危険である。なぜなら彼らは無宗教的な生活の周囲に、非常に多くの危険な魅力を投稿かけるからである。 8

現世的な交友は人々をひきつけ、思慮分別をまどわすので、敬虔の念や神を恐れる気持ちや、信仰あつい心や誠実などは、人をしっかりとさせる力をもたないのである。けんそんでめだたないキリストのご生涯は、全く魅力がないように見える。神のむすこや娘になりたいと望んでいる多くの人々に対して、天国の王であられるイエスは、「かわいた土から出る根のようであり、彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もない」(イザヤ五三ノ二)のである。 9

### この世の血縁者に愛情を集中するな

私たちは神とこの世界に同時に奉仕することはできない。

真理を学ぼうという気持ちのない、この世の血縁者に私たちの愛情を集中してはならない。私たちは彼らと交際している間にあらゆる方法で私たちの光を輝かせるように努力することができるかもしれない。しかし私たちのことばや態度、習慣、日常の行為等はどんな意味においても、彼らの考

え方や習慣に従って形づくってはならない。私たちは彼らとの交際のすべてにおいて、真理を示すべきである。もし私たちがこのことをできないならば、彼らと交際する程度が少ないほど、私たちの靈性にとっては有益となる。<sup>10</sup>

自己の標準が低く、品行のだらしない人々を避けなさい

クリスチャンが品行のよくない人々と

交際することはまちがっている。なんら知能や道徳心が強くなることに寄与しないような交際を親密にし、毎日続けることに時間を費やすことは危険である。もし人々の周囲を取りまく道徳的なふんい気が純粹でなく、またきよめられたものでなくて、墮落したものであるならば、このようなふんい気を呼吸する人々は、それが知能や心の上にほとんど無意識な作用を及ぼして、毒し破滅に至らせるものであることを見いだすであろう。その心情がきわめて低級であるような人々と話し合うことは危険である。本来は、良心的で純粹さを愛した人々が、次第にそして気づかぬほど徐々に、同じ低級な水準にさがってゆき、彼らが絶えず接触している人々の愚鈍さと道徳の欠如とに仲間入りし、同情するようになるのである。<sup>11</sup>

よい評判は金よりも貴重である。青年は心や品行が自分よりも劣っている人々と交際する傾向がある。若い人が思想や感情や態度の標準が低い人たちと自ら好んで接触する場合に、真の幸福を期待することができるだろうか。ある人々は趣味が低劣であり、墮落した習慣をもっている。そしてそのような友人を選ぶ人はすべて、彼らの例にならうだろう。私たちはすべての人の心を恐れさせるような危険な時代に生きているのである。<sup>12</sup>

多くの人は嘲笑（ちようしょう）されることを恐れて、誘惑に負ける

子供たちは……純粹で価値のある事がらを嘲笑せず、むしろ正しいことを弁護するような友人をもつべきである。人から嘲笑されることを恐れることが、多くの青年を誘惑にひきこみ、不信心の道に歩ませるのである。母親は、嘲笑や軽べつをうけている中でどのように正しくあるべきかという事を、模範を示すことと同じく教訓を与えることによって有効に教えることができるのである。13

他人を禁ぜられた道へすぐ引きこむような人々は容易に誘惑に負け、またサタンの働き人となつて無秩序な習慣を押し進め、良心的で自分の品性のりっぱさを保持してゆこうとする人々をあざ笑うということ、なぜわが青年たちは考えないだろうか。14

見知らぬ人の前でも、神のみ前にいるときのように生活しなさい

年若い友人たちよ、神の純粹で清い働きをするのにあなたにふさわしくない人々にまじわって時間をすごしてはならない。あなたの父や母の前でしたくないようなこと、あるいはキリストや聖天使たちの前では恥ずかしいようなことは、見知らない人々の前でもしてはならない。

ある人々は、このような警告は安息日遵守者には必要がないと考えるかもしれない。しかしそれらの警告を与えられている人々は、私の意味している内容をよく知らないのである。私は若い人々に用心するようと言いたい。なぜならどんなことをしてもそれは天使の目や神の御目にわかるのである。あなたがたが悪い行ないをして、それが他人に影響を与えないですむことはない。あなたの一連の行動によつて、どんな種類の材料があなたの品性の形成に用いられているかが示される一



方で、その行動はまた他人に強い感化を与えるのである。あなたが神に所属しており、神はあなたを価をもって買われたのであって、従って神がゆだねられた才能に対して、清算しなければならぬという事実を見失ってはならない。

15

**必要なときには、特別な助けが与えられることが約束されている** 私たちは自分の子供たちを墮

落した下劣な人々と交際しなければならぬような場所においてはならない。ときには神がみ摂理によつて、私たちの青年を不純で不節制な人々と交際するようになさることがある。神は彼らが神と協力するならば、ちょうどダニエルとその友人にバビロンでなさったと同じように、目的の強さと誘惑に抵抗する力とをとお与えになるのである。彼らは絶えず神と親しく交わらなければならない。自らを潔く保ち、神の尊厳を害するようなことはどんなことを行なうのも拒絶し、絶えず神の栄光を正しい眼で見つめながら、生活してゆかなければならない。人々の魂を見張り、神のみかたちが心の中からぬぐい去られている人々のために熱心に働き、彼らを改心させ、向上させ、高尚な人間とするように努力すべきである。

16

**思慮深く、まじめな友人を選びなさい** キリストと調和している青年は、正しい行ないをするの

を援助してくれるような友人を選び、正しい原則や高尚な目的の発展に役立たないような交際を避けるであろう。その心情が下劣な状態にあるような青年がいたる所に見られる。このような程度の人々と交際するときには無条件にキリストの側に自己をおいている人々は、理性と良心とが彼らに

正しいと語ってくれる事をしっかりとつかんで、確固たる態度をとるであろう。 17

正しい品性をつくりたいと考える人には、すべてまじめで思慮深い気だてをもった友人、宗教心のある友人を選ぶようにしよう。価格を計算し、永遠のために家を建てようと望んでいる人々は、自分の建物の中に入りっぱなしな材料を用いなければならない。もし彼らが腐った材木を用い、品性に欠陥をもったままで満足するならば、その建物はやがて破滅の運命をたどるであろう。だれもみな、どのようにして建てるかを注意しなければならぬ。誘惑のあらしが建物を吹き払ってしまうであろう。だからしっかりと、誠実な気持ちで建築するのでなければ、試練に耐えられないのである。 18

原則に従って歩む人々と交際することによって、不注意な人でさえも正義を愛することを学ぶのである。そして正しい行ないをすることによって、心の中には安価で、平凡なものや、神のみことばの原則と矛盾したことをきらう気持ちが生まれるのである。 19

1、	5 T・二二二、二二三ページ	11、	3 T・一二五ページ
2、	同・五四三ページ	12、	4 T・五八八ページ
3、	M S S・六・一八九二年	13、	R H・一八九一年三月一日
4、	P P・四五八ページ	14、	Y I・一八九四年一月一日
5、	同・五六八ページ	15、	5 T・三九八、三九九ページ
6、	Y I・一八九四年一月一日	16、	M S S・一八・一八九二ページ
7、	5 T・五四五ページ	17、	C T・二二六ページ
8、	3 T・一二六ページ	18、	4 T・五八八ページ
9、	M S S・六・一八九二年	19、	C T・二二二ページ
10、	5 T・五四三ページ		

## 第七五章

### 社交的な問題における親の指導

邪惡な感化はほとんど圧倒的なほどに強い

私たちの子供の周囲にある邪惡な感化はほとんど圧

倒的なものである。それは彼らの心を墮落させ、彼らを破滅に至らせるものである。青年の心は本来、不品行になつてゆくものである。そして年少でまだ彼らの品性が形成されず、判断力が完全に發達する以前には、しばしば自分たちの上に有害な影響を与えるような交友を好むものである。1

私の声が国じゅうの両親に届くならば、私は両親がたに子供たちがそのような友だちや仲間を選ぶとうとする欲望に負けないようにしなさいと警告したい。青年は神聖な印象よりも有害な印象のほうをずっと容易に受けとるものであることを両親はほとんど考慮に入れていない。従つて青年たちの交友は、心の中にしっかりとえつけられねばならない神のみことばの中に示されている恵みと真理に成長するために最も好都合なものでなければならぬ。2

青年はできるだけ最も好ましい環境においてやらなければならぬ。というのは、彼らの交わる友だち、彼らの採用する原則、彼らの形成する習慣などが、現世で彼らが有用な人間となり得るかどうか、また将来の永遠の関心事についての問題をまちがいのないほど確実に決定するのである。3

無制限な自由は危険である

両親がたよ、あなたがたのむすこや娘は適切な保護をうけていない。あなたに知らせず、また同意を得ずに、すき勝手に外出や帰宅することを、彼らに許してはならない。この年ごろの子供に無制限の自由が与えられているので、多くの子供たちが破滅してきた。なんと多くの子供たちが夜の町に放置され、しかも、両親は彼らの交友に無知で、平気であることだろう。ほとんどの場合、彼らは墮落に導く影響を与える仲間を選んでいる。

少年たちはグループでうす暗いところに集まって、トランプ類の遊びや、賭博（とばく）、喫煙、そして、酒やビールを飲んで墮落の初歩を学ぶのである。宗教心を持った両親の子供でも、低級な飲み屋に行ったり、あるいは食欲をほしきままにするような場所に行くのである。そして、さらに誘惑の道へ自分を置くのである。このような盛り場のふんい気は、冒瀆と墮落のにおいが強いのである。だれも、そのような中にいて墮落せずにとどまり得ないのである。将来有望な青年が、酔ったり犯罪をおかしたりするようになるのは、このような交友のためである。悪に入り始めるのを阻止するように見張っていない。両親がたよ、子供たちの環境が非の打ちどころがないことがわかつているのでなければ、子供たちが日が暮れた後に街路に出て、戸外のスポーツをやったり、他の少年たちと娯楽のために出会ったりするのを許可してはならない。もしこの規則が厳密に守られるならば、それに服従することが習慣となり、罪をおかそうとする欲望は間もなくやむであらう。 4

両親は子供の友人をよく選ばなければならぬ

道徳的にだらしない人や品性の粗野な人と交わ

ることは、青年に有害な影響を与えることを両親は銘記すべきである。もし両親が子供たちのために適当な仲間を選ばないならば、また疑問のあるような道徳をもった青年と交際することを許しておくならば、腐敗墮落の教訓が教えられたり実行されたりする学校に自分の子供をおいたり、おくことを放任することになるわけである。彼らは自分の子供が誘惑に十分耐える強さをもっていると感じずかもしれない。しかしこのことをどうして確かめ得るだろうか。まちがった悪徳の感化に抵抗するよりは、それに負けるほうがはるかに容易である。両親がそれに気づかないうちに、子供たちは彼らの友人の精神に染まってしまい、墮落したり破滅したりしてしまうのである。5

青年は自分たちと同じ年令で、いろいろの品性と生活の習慣をもったおおぜいの社会に入れられると、その危険はきわめて大きくなる。このような環境の下では、多くの両親は自分の子供を見張り、統御してゆこうとする努力を二倍に増加するよりは、ゆるめる傾向がある。6

父と母は祈りをささげながら、協力一致して子供たちを正しく導く重大な責任を負ってゆかねばならない。彼らが他のどんなことをおろそかにしても、子供を罪の道にさまよわせることを放任してはならない。多くの両親は、子供が自分の欲するままに出て行き、行動し、自らを楽しませ、悪い友人を選ぶことを許している。審判の日に、そのような両親は自分の家庭を自制しなかったために、子供たちが天国にはいり得なかったことを知るであろう。7

**どこで夜をすごしているのか**      むすこや娘はだれも、夜分家庭にいないならば、その報告をもとめられるべきである。両親は子供たちが夜分どんな仲間と一緒にいて、だれの家ですごしているか

を知っていなければならない。そのような子供は自分の悪い行動をあからさまに知られるのをかくすために、両親をあざむくのである。8

### 未耕作の畑では雑草がはびこる

両親は子供たちが自分かつてに娯楽や友人や職業を選ぶがままにしておくことが多い。その結果は当然予期されるようなことがおこってくる。畑を耕さずにおけば、そこにはとげやいばらがはびこってくる。不体裁で有毒な雑草の上に、愛らしい花や精選された灌木があらわれ出るような光景は決して見られない。価値のないいばらはなんら世話をしやらずに繁つてくるものであるが、利用価値のある美しい植物は十分栽培をしないと育たないのである。青年たちについても同じことが言える。もし正しい習慣を育成し、正しい原則をしつかり身につけさせようとするならば、熱心な働きが必要である。またまちがった習慣を矯正しようとするならば、その仕事をなしとげるためには勤勉と忍耐とが必要である。9

### 子供が両親の判断を信頼する習慣をつけなさい

両親がたよ、あなたがたの子供の原則と習慣を、自分の目の玉を守るように見守りなさい。あなたがたの品性をよく知っていないような人と子供たちが交際するのを許してはならない。ある人との交際が子供たちに害を与えないことをあなたが確かめるまでは、親交を結ばせてはならない。あなたの判断と経験を子供が信頼する習慣をつけなさい。彼らが自分の浅い経験で他人の品性を認識するよりは、あなたのほうがずっと明確に判断し得るのであることを、そしてあなたの決定が無視されてはならないことを子供たちに教えなさい。10

制止することは嚴重でなければならぬが、しかし親切に行ないなさい

両親は子供たちの性癖

に譲歩しないで、神が示された義務のはつきりした道を歩ませねばならない。そしてその際には、親切に制止し、明確で断固とした態度でしかも愛の心をもって彼らの悪習慣を拒否し、熱心で信仰あつい心をもち、そして忍耐強い努力を傾けながら、子供たちの足をこの世から天国の方へ向けねばならない。子供たちが自分の好むままにどの道へでも押し流されて行き、正しい道からはずれて、どちらの側へも明けひろげられているような通りへ入りこんでゆくのを放任しておいてはならない。危険なことを理解せず、注意や勧告を聞きいれない人ほど大きな危険にさらされているものはない。<sup>11</sup>

予想し得る不都合な感化のあらゆるものから、子供たちを守りなさい。なぜなら、子供は道徳的な威厳、純粹さ、好ましい品性、あるいはこれらと反対の利己主義、不純、不従順といった性質のどれにも、たやすく感銘をうけるからである。そして一たび不平をいう精神や高慢、虚栄、不純といった性質に感化されてしまうと、その汚点は生涯ぬぐうことができないのである。<sup>12</sup>

青年が正当な権威に服従したがないのは、家庭における訓練に欠陥があるからである。私は母親である。だから私が、子供たちを自らの好みにまかせて生活させるよりは健全な制限を加えることが、より安全であるばかりでなく、いっそう幸福であると言っているのは、十分理由があつたことである。<sup>13</sup>

同伴者のない訪問はすすめられない

ある両親がたは子供たちに自由を与えずぎて、あやまちを

おかしている。彼らは子供たちに対して過度の自信をもっているために、彼の欠点が見えない。子供たちが両親や保護者に同伴されずに、お金をかけて遠方へ訪問に出かけることを許すのは、まちがいである。それは子供たちに悪い影響を与える。彼らは自分が相当な人間であると感じ、ある程度の特権が自分たちにもたされていると感ずるようになる。そしてもしこれらの特権が許されない、自分が虐待されたと考える。彼らは、ほかの子供たちは、行ったり来たりして、たくさんの特典を与えられているのに、自分たちはそういう機会がほとんどないと言う。

そこで母親は自分の子供たちに不当な親だと考えられることをおそれて、彼らの欲望を満足させてやるのであるが、これは結局子供たちに非常な害を与えることになる。若い訪問者たちは両親の用心深い目によって、その欠点を見つめ、なおしてもらわないと、しばしば取り除くのに数か月を要するような印象を心に刻みつけられるのである。

14

#### 無分別な忠告とそれにどう対処すべきか

子供たちは家庭におらせなさい。そして人々があなたに「あなたの子供さんは、世間でどのように行動したらよいかを知らないですね」と言ったら、そのような友人たちに次のように話しなさい。私はそのような世間のことにあまり関心をもっていない、ちょうど昔の母親たちが自分の子供をイエスのみ許に連れて行ったように、私の子供たちが主の御祝福をうけるようにしてやりたいのだと。またあなたに忠告してくれる人に言いなさい。「子供たちは神から委託された財産ですから、私は預かり物を忠実に守っていることを証明したいのです。……私の子供たちを、この世の悪い感化に左右されないような方向に導いてゆくばかりでなく、



悪の誘惑をうけたときには正々堂々と心から『否』と言えるように導いてゆきたいのです。』……自分の家族に美しい都の門の中で会いたいのであると友人や隣人たちに話さない。』<sup>15</sup>

# 強烈な試練がわが青年たちの前におかれています

子供たちが困難に出会うことを予期し、また誘惑や危険を予期するように訓練し、教育しなければならぬ。自己を抑制し、困難を堂々と克服することを教えねばならない。もし彼らが故意に危険の中にとびこんだり、不必要に自己を誘惑の道においたりしなければ、また自ら邪悪な感化や悪い交際を避け、従って危険な仲間へ引きこまれるのはやむを得ない場合に限られるのであるならば、彼らは正義の側に立ち、原則を守る品性をもつようになり、汚れない品性をもって神の御力のうちに現われるであろう。正しい教育をうけてきた青年の道徳的な力は、彼らが神を信頼するならば、最も強烈な試練にも耐えうるものになるのである。<sup>16</sup>

1、1 T・四〇〇、四〇一ページ  
2、5 T・五四四、五四五ページ  
3、5 T・五四五ページ  
4、F E・六三ページ  
5、C T・一二〇ページ  
6、同・三三二ページ  
7、R H・一九〇四年九月八日  
8、C T・三三二、三三三ページ

9、R H・一八八一年九月一三日  
10、C T・一二〇ページ  
11、5 T・五四五、五四六ページ  
12、S・一八九六年四月一六日  
13、F E・六二、六三ページ  
14、1 T・四〇一、四〇二ページ  
15、S・一八九四年四月二三日  
16、H R・一八七二年一月

## 第七十六章

# 休日と記念日

休日の守り方に指導を与える必要がある

私たちに与えられた休日は世間の人のやり方にならうて過ごしてはならないが、しかし看過されてもいけない。なぜなら、そうなると子供たちに不満の気持ちを抱かせるからであるということをわたしは示された。休日は、子供たちが邪悪な感化をうけたり、世の中の遊びごとやばか騒ぎによつて墮落させられる危険があるのだから、両親は危険な遊びに代わり得るような何かを研究すべきである。あなたが子供たちの利益と幸福とを常に念頭においていることを彼らに理解させなさい。 1

世間の人も教会の人も共に、休日を守ることによつてこのような仕事をせずに過ごす日が健康と幸福とのために必要であることを信ずるように教育されてきた。しかし実際の結果は、それらの休日が悪に満ちていることを示している。 2

私たちは、こうした考え方を変える一方では、青年や子供にとって休日ができるだけ興味のあるものにしようとする熱心な努力を傾けてきた。私たちの目的は、休日を不信者の間で行なわれる遊びの情景から引き離すことであつた。 3

天使が「一日がむだに失われた」と記録することになるだろうか

快樂を求める一日が終わった

あとで、その人はどこに満足を見いだしただろうか。クリスチャンの働き人として彼らは、いったいをより幸福で高尚で純潔な生活をおくるようにと援助しただろうか。もし彼らが天使の書いた記録を見たとしたら、どんなことがしるされてあるのを見ることだろうか。一日がむだに失われた。彼ら自身の魂にとって一日が失われたのである。キリストへの奉仕についても、一日が無為に過ごされたのだ。なぜなら、なんらの善行もなされなかったからである。彼らにはまだ別の日がのこされているのだが、少年と少女の間にかわされたくだらない話で過ごされてしまったその一日は、もう二度とかえってはこないのである。

このような同一の機会を決して二度と与えられないのである。彼らはその休日に最も骨の折れる種類の仕事をしていたほうがよかったかもしれない。彼らは自分の休日を正しく利用しなかった。そして永久に過ぎ去ってしまったその日は、まちがった使い方をした一日であるとして、審判のときに彼らの眼前に示されるのである。4

誕生日 それは神を賛美すべきときである

ユダヤ人の社会では、子供の誕生日には神ご自身

の定められたささげ物が神にささげられた。今では両親が、子供たちの誕生日に子供に贈り物をするのに苦労しているのを見る。両親はこの日が子供を尊敬する機会であるとし、あたかも人間に敬意を表すべきものであるかのように考えている。サタンはこの事について独特のやり方をやってきた。彼は心と贈り物とを神にではなくて、人間にささげるように転換させた。かくて子供たちの考

えは自分自身に向けられ、自分が特別にかわいがられるものであるかのように考える。……

誕生日には、神がもう一年子供たちの生命をささえてくださったご慈愛に対して感謝すべき理由があることを教えねばならない。こうして貴重な教訓を与えることができるのである。生命、健康、食物、衣服、そしてそれらにもまして永遠の生命を得られる希望は、これらをお与えくださった神のすべての御恵みに負うているのである。そして神の贈り物を認識し、私たちの感謝のささげ物を最も偉大な保護者でいます神にささげるのは当然である。このような誕生日のささげ物は天国に認められるのであります。 5

#### 一年の記録を回顧すべき時

彼らに、自分たちの生涯の過ぎ去った年月を回顧し、天の書に記されてあるままの記録を見たとき、喜ぶことができるかどうかを考えてみるように教えなさい。彼らの態度、ことは、働きが神の満足されるような性格のものであるかどうかを真剣に考えるように激励しなさい。彼らは自分の生涯をイエスのご生涯にもっと似るように、そして神の御目に美しく愛すべきものであるとうつるように努めてきただろうか。彼らに、主を知ることと、主の道と主の戒めを教えなさい。 6

#### 神のみ事業を第一とせよ

私は自分の家族や友人たちにこう言ってきた。それが神の金庫に入れられることを許され、伝道事業の確立に充当されるものでないならば、だれも私に誕生日やクリスマスへの贈り物をしないように希望していると。 7

私たちはどのようにして感謝祭を守るべきか

私たちの感謝祭の日が近づいている。多くの例に

みられるように、それは私たち自身に対する感謝の日であろうか。あるいはそれが神に対する感謝の表示であるだろうか。私たちの感謝祭の日は、もしこれを貧しい人々を覚える機会として有意義に用いるならば、他人の魂に対してと同じく私たち自身の魂にも大きな利益をもたらす時期とすることができるのである。……

貧しい人々が私たちの与える贈り物や好意をうけとってくれるならば私たち自身のためになるのであると、彼ら貧しい人々に感じさせるように仕向けることのできる思いやりの深いやり方がいくらかでもある。私たちは人からもらうよりも与えることがいっそう幸福であることを覚えていなければならぬ。わが兄弟たちは、自分が敬意を表したいと思っている人々、その人から尊敬してほしいと思うような人々、自分たちの援助を全く必要としないような人々に対して最もおしみなく与える。世間のしきたりや習慣では、あなたに与えてくれる人に与えなさいと言っている。しかしこれは人に与える行為に対する聖書の法則ではない。神のみことばには、このように贈り物をするることによつて自己を満足させるやり方と反対のことが言われている。すなわち「富める者に与える者はついに必ず貧しくなる」(箴言二二ノ一六)とされる。……

今や私たちの原則をためすべき時が来ている。神の貧しい人たちのために私たちに何ができるかを考えようではないか。私たちは自分を通して彼らを神の祝福を受けける者とすることができる。どんな未亡人、どんな孤児、どんな貧しい家族をあなたが救済してあげられるか、それが人にひどく見せびらかすようなやり方でなくて、神の財産を神の貧しい民に対する祝福として流してあげる水

路のような役割を果たすことができることを考えなさい。……

しかしこの事はあなたの義務のすべてを包含するわけではない。あなたの最良の友すなわち神にささげ物をしなさい。神の御恵みの深さを認識しなさい。その恩顧に対して感謝の気持ちをあらわしなさい。神に感謝のささげ物をしなさい。……兄弟姉妹がたよ、感謝祭の日には簡素な食事をしなさい。そして食欲を満足させるために使用しようと考えた余分のお金を、神への感謝のささげ物としなさい。8

今後、感謝祭の日を食欲を満足させたり、自己を喜ばせるようなやり方で過ごしてはならない。私たちはこの一年間、神が私たちの生命を保持してくださったことに対する感謝のささげ物をもって、神の庭に集まってくる理由をもっている。……もしごちそうをつくらねばならぬのならば、困っている人々のためにつくりなさい。9

**感謝をささげるべき日** (註)一八八四年一月二七日、バトル・クリーク教会でなされた感謝祭の説教の一部。

私たちは感謝の気持ちをあらわさなければならぬと思う。神に感謝し、喜びの気持ちをあらわすべきである。それは神が私たちに多くの御恵みを与えてくださるからである。……私たちはこの感謝の日が、その示す通りの日であることを望む。価値のないかすを混ぜて、まがったものにしてはならない。その名が示す通りのもの、すなわち感謝をささげる日にしなさい。私たちの声を賛美のうちに天へのぼらせよう。10

休日  
を神のために

休日を神のために守り、神が私たちをどのように扱ってくださったかを心の中に思いおこすことは、私たちにとってよいことではないだろうか。神の過去における御祝福を考え、私たちが神を忘れることがないようにと、私たちの魂をよび起こしてくださった感銘深い警告を思い浮かべることはよいことではないだろうか。

この世の中にはたくさんの休日がある。そして人々はその日を競技や競馬や賭博、喫煙、飲酒等に夢中になって過ごすのである。...

神の民は神の豊かな御祝福を感謝する神聖な集会を、もっと数多くもつべきではなからうか。 11

休日は伝道事業の機会として与えられているのである

人の窮乏を救い、大人や青年子供たちの魂を救うために働く方面で、青年男女を組織化し、実際の仕事を与えることにおいてみがくべき能力をもった人が教会の中にほしいのである。すべての人がこのような働きのために自分の時間全部を提供するわけにはいかない。それは各自が働いて、日常の生活費をかさがなければならぬからである。しかしこれらの人たちも、たとえ多額の資金を提供できなくとも、クリスチャンの仕事に献身し、このような方法で役に立つことのできる休日や時間をもっているのである。 12

あなたが休日をもつときには、子供たちのために楽しく幸福な日にしてあげなさい。そしてそれをまた、貧しい人、悩んでいる人のためにも楽しい日としなさい。イエスに感謝をささげること、感謝のささげ物をささげることもしないでその日を過ごしてはならない。 13

アドベンチスト・ホ - ム

7、	6、	5、	4、	3、	2、	1、
同	同	R	L	R	F	1
・	・	H	・	H	E	T
一	一	・	一	・	・	・
九	八	一	二	一	三	五
〇	八	八	・	八	一	一
六	四	九	一	八	七	四
年	年	〇	八	四	ペ	、
一	一	年	九	年	一	五
二	二	一	二	一	ジ	一
月	月	二	年	月		五
二	二	月		二		ペ
七	三	九		九		ー
日	日	日		日		ジ

13、	12、	11、	10、	9、	8、
R	L	C	同	同	同
H	・	T	・	・	・
・	一	・	一	一	一
一	二	三	八	八	八
八	・	四	八	八	八
九	一	三	四	四	四
四	八	ペ	年	年	年
年	九	ー	一	一	一
一	二	ジ	二	二	一
一	年		月	月	月
月			二	二	一
一			三	三	八
三			日	日	日
日					



## 第七七章

# クリスマス

休日としてのクリスマス 「クリスマスがやってきます。」というのは、世界じゅう東から西へ、北から南へとひびきわたることばである。青年にとつても、またおとなにも老人にさえも、クリスマスは一般的な祝賀のとき、大きな喜びの日である。しかしそれほど人の注意をひかせるようなクリスマスとはいったいどんなものであろうか。……

十二月二十五日はイエス・キリストの誕生日であると考えられており、その日を守ることは習慣となり、広く世間に行なわれている。しかしながら救い主のほんとうの誕生日を私たちが守っているのだという確実性はどこにもないのである。歴史にはこのことが確かであるという保証は与えられていない。聖書にも正確な時日を示してない。神が私たちの救済のために、このことが重要な知識であるとお考えになったのであるならば、神は預言者や使徒たちを通して語り、私たちがこの問題に関してすべてを知ることができたであろう。しかし聖書がこの点に関して沈黙していることは、最も賢明な意図によって私たちにかくされているという証拠である。

神はご自分の知恵によって、モーセを埋葬した場所をかくされた。神が彼を埋葬し、神が彼を復

活させ、天にとりあげられた。この秘密は偶像礼拝を防ぐためであつた。モーセがこの世に生きていて活動的な奉仕をしていたとき、イスラエルの民は反抗し、またほとんど人間として耐えられぬほどに怒らせたのに、彼が死んで彼らから引き離された後は、神をおがむのと同じようにモーセを拝した。これと同じ目的から、神はキリストの誕生の正確な日を秘して、この世の救い主としてのキリストに与えられるべき栄光、すなわちみもとに来る者をすべて極限まで救うことのおできになる主として信愛され、信頼されるべきお方であるキリストの栄光を、その誕生日が受けることのないようにされたのである。私たちの魂が崇拜する対象は、無限のお方でいます神の子としてのイエスであるべきである。 1

その日は無視されてはならない 十二月二十五日がキリストの誕生をお祝いするために守られており、また子供たちが教えと模範によつてこの日がほんとうに喜び楽しむべき日であると教えられてきたのであるから、あなたがたはこの日をなんら注目せずにごしてしまふことはむずかしいことを知る。それは非常によい目的を達成するのに役立たせることができるのである。

青年を取り扱うのは細心の注意を要する。彼らがクリスマスに無益な遊びにふけつたり、娯楽を求めたり、彼らの靈性に害となるような楽しみに夢中になるのを放任してはいけない。両親は子供たちの心とささげ物を神と神のみ事業と人間の魂を扱うこととに向けさせることによってこの問題を統御することができる。

遊びにふけろうとする欲望に対しては押えつけたり独断的にさしずしたりせず、両親の方で忍耐

強い努力を続けることによって監督し指導してやらねばならない。彼らが贈り物をしようとする望みを純粹で神聖な方向に向けてゆき、キリストがこの世においでになった御目的である偉大な事業の中へ宝を積んでゆくことによって、私たちの同胞に益となるようなふうにすることができるのである。克己と自己犠牲はキリストの行動を特徴づけた。イエスの中に、永遠の生命を得ようとする私たちの希望が集中させられているのであるから、イエスを愛していると自称する私たちの行動も同じ特徴をそなえるようにしようではないか。2

### 愛情のしるしとしての贈り物の交換

クリスマス休日の時期は贈り物の交換によって始まるのが普通であり、老人も若い人も愛情をもち続けていることのしるしとして、自分の友人に何を贈ることができるかを一心に研究する。贈り物はどんなささやかな物でも私たちの愛する人たちからもらうのはうれしい。それは私たちが忘れられていないという事の確証であり、彼らに自分を少しでも緊密につないでくれるように思われるものである。：

お互いに愛情をいただき、覚えておくことのしるしとして贈り物をおくることは、これによって私たちの最良の友である神を忘れるのでなければ正しいことである。私たちは贈り物をするのには、受け取る相手にとってほんとうに役立つものとなるようにしなければならぬ。私は、神のみことばを理解するのに助けとなるような本や、神のみ教えを愛する私たちの愛を増進するような本を贈り物とすることを勧めたい。冬の夜の長い季節に読むことのできる何かを用意しなさい。3

## 子供たちに推奨する本

現代の真理に対する書物や出版物をもっていない人がおおぜいいる。ここに、おかねを安全に投資できる広い分野がある。適当な読み物を与えてやらねばならない子供たちがたくさんいる。「太陽の光シリーズ」「黄金の麦粒シリーズ」「詩集」「安息日の読み物」等（注 この記事の中には、現在発行されていない出版物のことが言及されている。しかしこの点に關して述べられている原則は、今日も適用できるのであるから、これらの特定の引照もこの記事の中にそのまま残してある。）は、すべて貴重な書物であり、どんな家族が読んでもだいじょうぶである。ふだんにキャンデーや無益なおもちゃに消費された少額のおかねも、これを積んでおけばこれらの本を買うことができるのである。…

子供や孫や甥（おい）や姪（めい）たちに有益な贈り物を与えたいと望んでいる人々は、上にあげた子供のための本を手に入れるようにしよう。青年のためには「ジョセフ・ベーツの生涯」が珍重すべき本であり、また「預言のみたま」三巻（註 E・G・ホワイト夫人の現在ある「各時代の争闘シリーズ」に先だって出版された本）もよい。これらの書物は、国じゅうのあらゆる家族がもつべきものである。神は天国から光をお与えになった。そしてどんな家族もその光をうけずにおいてはならないのである。あなたがたが人におくる贈り物は、天国へ行く道に光を照らしてくれるような種類のものにしなさい。4

## イエスを忘れてはならない

兄弟姉妹がたよ、あなたがお互いに贈り物をおくろうと考える一方では、天にいます友人すなわちイエスのことを覚え、あなたがそのみ事業を忘れることのないよう

にと言いたい。私たちが主を忘れてしまったとしたら、主はお喜びにならないのではなからうか。生命の君でいますイエスは、私たちの手の届くところへ救いをもたらすためにご自分のすべてをお与えになった。……主は死にいたるまで苦しまれたが、それは私たちに永遠の生命を与えるためであつた。

私たちがあらゆる祝福をうけるのは、キリストを通してうけるのである。……天国にいます私たちの大恩人キリストは、私たちの喜びと愛のしるしのわけ前をお受けとりになるのが当然ではないだろうか。兄弟姉妹がたよ、子供たちといっしょに來なさい。あなたのだいている赤ん坊もいっしょに連れて、自分の能力に応じて神にささげ物をもってきなさい。心の中で神に賛美の歌をうたいほめたたえることばを口にしなさい。 5

**クリスマスは神をほめたたえる時である** この世の中ではそうぞうしさと浪費と暴飲暴食と見せびらかしとで休日が過ごされる。……数千ドルの大金がきたるべきクリスマスと正月に、無益な欲望の満足のために浪費される。しかしこの墮落した時代の慣習やしきたりから離れることが私たちの特権である。そして単に食欲を満足させることや、必要もない飾りや衣類のために金銭をつかう代わりに、きたるべき休日を神をほめたたえる機会とすることができるのである。 6

キリストが最高の対象でなければならぬ。しかしキリストが私たちの世界においてならねばならなかったのは、この人間の罪深い欠点の多い品性によるのであつたのに、クリスマスを過ごすときには、栄光はキリストから転ぜられて、この死滅すべき人間に向けられるのである。

天国の主権者、天国の王であるイエスは、ご自分の王位を離れ、栄光の王座と高貴な支配権をお捨てになってこの世においでになった。それは墮落した人類、道徳的な力が弱くなり、罪によって汚れた人類に神聖な助けを与えるためであった。……

両親はこれらの事実を自分の子供たちに示し、教訓に教訓を加えて神に対する彼らの義務を教え、てゆかねばならない。それはお互いに対する義務ではなく、贈り物やささげ物によって他人をほめたたえるものであってはならない。7

**子供たちの考えを新しい道筋の方へ向けさせなさい**

たびたび子供たちや親類縁者におくられている unnecessary 贈り物よりもずっと費用がかからなくて、趣味のよい品物をいろいろ用意することができる。そしてこれによって家庭の中に礼儀正しさを示し、幸福をもたらすことができる。

あなたは子供たちに、与える贈り物の価値を変えた理由を説明する際に、これまでは神の栄光よりは子供たちの快楽をより重要なことであると考えていたことを話して、一つの教訓を教えることができる。あなたは贈り物を必要としない人々に贈り物をおくることによって、神のみ事業をすすめてゆくよりは、自分自身の楽しみと彼らの満足と世の中の慣例や言い伝えに従ってゆくことが、より重大であると考えていたことを子供たちに話しなさい。古代の賢人たちと同じように、あなたは神に自己のもつ最上の贈り物をささげ、あなたがこの罪深い世界に神が与えてくださった贈り物（すなわちイエス）を十分評価していることを自分のささげ物によってあらわしなさい。神がそのひとり子イエスをお与えくださったことに対して、神に子供たちがささげ物をするように激励して

やることによって、子供たちの考えを新しい利己的でない道へ向けてやるようにしなさい。8

「私たちはクリスマス・ツリーをたてるべきか」 もしクリスマスに各教会がクリスマス・ツリー

をたてて、それにこれらの礼拝の家のために大きいのや小さいのや種々のささげ物をつるすならば、神はお喜びになるだろう。(註 この記事は教会建築の計画に關して言及しているのである。この点においては今日もその原則は適用し得るのであるから、この特定の引照は本文の中にそのまのこした。) 私たちのところへ次のような質問の手紙がたくさんきた。

「私たちもクリスマス・ツリーをたてるべきか。それでは世の中と同じではないか。」 私たちはこう答えている。すなわちあなたがたは世の中の人々と同じ態度をとるならば、それはこの世と同じようになる。あるいは世の中のやり方とできるだけちがったものにもできる。よい香りのするときわ木を選んでそれを教会の中へおくことは別に罪ではない。しかし、罪があるとすれば、そうする動機と、木のところにおく贈り物のもちい方にあるのである。

木はその場合に最も似つかわしいように、なるべくたけが高く枝がひろがったものでもよい。しかしその大きな枝には、あなたの慈善のための金や銀の実をのせ、これをあなたのクリスマスの贈り物として神にささげなさい。あなたの寄贈品は祈りによってきよめなさい。9

クリスマスと正月のお祝いは、困っている人々を助けるために行ないなさい。扶養しなければならぬ大家族をもっている人々を助けるために私たちが与えるならば、それによって神が栄光をうけられるのである。10

ささげ物をつるした木は罪に汚れたものではない 安息日学校の生徒を楽しませるために、教会にときわ木がおいてあるのは罪であるという立場を両親はとらないようにしなさい。なぜなら、それは大きな祝福となるからである。彼らの心の前に慈善的な目的を示すようにしよう。どんな場合にもこれらの集会の目的が単なる遊びであってはならない。これらの機会を不注意で軽薄な気持ちで過ごし、神聖な感銘を心に刻みつけられない人もいるかもしれないが、他の人々の心や品性にとっては、このような時期はきわめて有益となるのである。多くの墮落させるような集会の代わりに、汚れない集会が工夫されているのを見て、私は大いに満足している。 11

その日のために汚れない楽しみを用意しなさい クリスチャンである兄弟姉妹がたよ、立ちあがって神を恐れる人としての本分のために帯をしめ、この問題を無味乾燥で興味の無いものではなく天国の印をおすような汚れない楽しみに満ちたものにするように努めようではないか。私は、貧しい階級の人のほうがこのような提案にこたえてくれることを知っている。最も富んでいる人々もまた関心を示し、神が彼らに委託された財産に応じた贈り物とささげ物を提供するようにすべきである。神の御働きをささえ、神の王国を建設するために寄贈品が与えられたという理由で、天の書にこれまで見られなかったようなクリスマスの記録をしるしてもらおうようにしよう。 12

1、 R H・一八八四年一月二十九日  
2、同・一八八四年一月二十九日  
3、同・一八八二年一月二十六日

4、同・一八七九年一月一日  
5、同・一八八二年一月二十六日  
6、同・一八七九年一月一日



9 8 7  
、 、 、  
同 同 同  
・ ・ ・  
一 一 一  
八 八 八  
七 九 八  
九 四 四  
年 年 年  
一 一 一  
二 一 二  
月 月 月  
一 一 九  
一 三 日  
日 日

12 11 10  
、 、 、  
同 R M  
・ H S  
一 ・ S  
八 一 ・  
八 八 一  
四 八 三  
年 四 ・  
一 年 一  
二 一 八  
月 二 九  
九 月 六  
日 九 年  
日 日

## 第七八章

# 家族は伝道の核心である

両親は子供たちに正しい方針を与えなければならない

わたしたちは親として、またクリスチャ

ンとして、子供に正しい指導を与える義務がある。注意深く、賢明に、そしてやさしく、キリストのような奉仕の道へ子供を導かなければならない。わたしたちは自分の子供を神のみ働きのために育てるといふ神聖な契約を神と結んでいる。子供が奉仕の生涯を選ぶにいたるような感化の力で彼らをかこみ、必要な教育を与えることはわたしたちの第一の義務である。 1

子供たちは現代におけるダニエルであり、エステルであり得る

神は、わたしたちの家庭に育つ

子供たちに対して、わたしたちの限られた視野では見通すことのできないほど深くかつ高い目的をお持ちになっている。神は昔身分の卑しい者の中から神に忠実な者をえらんで、これを神の証人として世の最高の地位に召された。ユダヤの家庭のダニエルのように、神のみことばとみわざを学び、忠実な奉仕について教訓を学んで成長する今日の少年少女たちも、また立法会議や法廷や宮廷に諸王の王なる神の証人として立つであろう。多くの人たちがもっと広い働きに召されるである

う。全世界は福音のために開かれつつある。……世界の各地から、罪に悩み、愛の神の知識をもとめる人々の叫びがよせられている。……彼らの叫びに答えるのは、この知識を授けられているわたしたちの責任であり、またわたしたちからこの知識をわけ与えられる子供たちの責任である。イスラエルの歴史の重大な危機に王妃エステルに向かって「あなたがこの国に迎えられたのは、このよ  
うな時のためであつたのだれが知りましょう」と言われたことばが、今日の重大な時にあつて、福音の光に照らされたすべての家庭、すべての学校、すべての親、すべての教師に向かって発せられているのである。2

**キリストのためにあかしをするのに成功する方法**

すべての人が外国へ伝道者として行くことはできないが、自分の家族や隣人たちの中で信徒伝道者となることはできる。教会員が自分の周囲の人々に使命を伝える方法はたくさんある。最もうまくゆく方法の一つは人を助け、利己的でないクリスチャンとしての生活をおくることである。生活の戦いで大いに苦闘している人々には、なんらの費用もかけずにわずかの世話をするだけで、元気づけ強くしてあげることができる。ただ親切なことばを話しかけただけで、またわずかの心づかいをしてやっただけで、心の上にかぶさっている誘惑と疑いの雲をはらいのけることができる。純な気持ちで与えられたキリストのような同情心の吐露は、誠意のこもった微妙なキリストの精神に触れることを望んでいる人の心の扉をひらく力をもっているのである。3

男にも女にも奉仕のできる分野はきわめて広く開いている。有能な料理人、婦人仕立屋、看護婦

など、あらゆる人の助力が必要とされている。貧しい家庭の人たちに対しては料理のしかた、衣服をつくったり修理したりする方法、病人の看護法、家庭を守る適当な方法等を教えるようにしよう。子供に対してさえも、自分たちよりも不幸な人々に対して愛とあわれみのなんらかの小さな使命を果たすように教育してやるべきである。 4

子供と青年はいっしょになって他人に奉仕すべきである

ある人々は自分自身のことを弁解しよ

うと努めて、「私は家庭での仕事と子供たちの世話で、時間と収入をつかいはたしてしまいます」と言う。両親がたよ、子供たちはあなたがたを助ける手となり、主のために働くあなたの能力と手腕を増してくれるものでなければならぬ。子供は神の家族の若者たちである。彼らは創造し、あがなってくださった神に自らをささげるように指導されるべきである。彼らの肉体、精神、魂のすべての力は神のものであることを教えてやらねばならない。種々の方面で利己的でない奉仕をするように訓練されなければならない。あなたの子供たちをじゃま物とならせてはいけぬ。子供たちが霊的重荷及び肉体的な重荷をあなたがたとわかち合うようにすべきである。他人を助けることによって、彼らは自己の幸福と有用性を増進するのである。 5

もしこの教会でも青年男女がまじめに自らを神にささげるならば、また家庭で自制克己の生活を実践し、疲れ苦しんでいる母親を慰めてあげるならば、私たちの教会の中にどんな変化がおこることだろうか。ごく幼い子供でも、機会の与えられるたびに他人を祝福するためのあわれみと愛に満ちたお使いをわずかでもすることによって手助けをすることができる。こうして貧しく困っていて、

まだ私たちの信仰をもっていない多くの家庭へはいつてゆくことができるのである。健康や節制に關して説明している本を多くの家庭に配布することができる。これらの本を配布することはきわめて重要である。なぜなら、これらの本には病気の処置についての貴重な知識がしるされており、その知識は医師の診療をうける費用を工面できない多くの人々に大きな祝福となるからである。6

**神は子供たちが少年伝道者であることを望んでおいでになる** 神は幼い子供たちのだれもが神の

子となり、神の家族の一員に加えられることを望んでおいでになる。年少であっても、少年少女は信仰の家族の一人となり、最も尊い経験をもつ者となり得るのである。7

子供たちは早くから神のみ事業に役立つことができる。∴神は彼らに御恵みと聖靈をお与えになつて、彼らが短氣といらしらする気持ちとすべての罪とを克服できるようにしてくださる。イエスは子供を愛される。子供たちのために祝福の数々をもつておいでになり、その両親に従順であるのをご覧になるのがお好きである。イエスは、子供たちが主に奉仕するために自分の好きな事をする性癖をこばみ、利己的な快樂の欲望をおさえて、主の小さな伝道者となるように望んでおられる。そしてこのような幼い者の奉仕は、成熟した子供たちの奉仕と同じく、神に受けいれられるのである。8

両親は訓戒し模範を示すことによつて、子供たちが改心しない人のために働くように教えてやらねばならない。子供たちが老人や悩んでいる人に同情し、貧しい人や苦しんでいる人の苦痛を軽減しようと努力するような教育を施してやるべきである。また伝道の働きに勤勉であるように教育し

てやるべきである。そして年少のころから、他人の幸福とキリストのみ事業の進展のために克己と犠牲の精神を植えつけ、それによって彼らが神との協力者となるように仕向けねばならない。9

両親は子供たちにイエスがお教えになった真理を教えよう。子供たちはその純真な性質によって、自分の習った真理を友人たちにくり返して話すであろう。10

### 教会には青年のなすべき仕事がある

教会の監督は、青年男女が彼らに託された才能を役立てることでできるような訓練を施すべき計画をつくりなさい。教会員の年長者は子供や青年のために熱心で情け深い働きをするように努力しよう。牧師たちは教会の年少会員が伝道事業について自分たちと協力できるように仕向けるための計画をつくるのに、あらゆる創意工夫をこらそう。しかしあなたがたは伝道集会で長い説教をすることだけで年少者たちの関心をよび起こし得ると考えてはならない。活動的な関心がよびおこされるような方法を計画しなさい。すべての人がそれぞれの役割をもつようにしよう。青年たちが自分に定められた仕事をするように訓練しなさい。そして、自分たちがどんな体験をしたかということ、またキリストの御恵みによってどんな成功をおさめたかということについての報告を、毎週の伝道集会に出席した際話させるようにしなさい。もしそのような報告がきよめられた働き人たちによってもたらされるならば、伝道集会はだれた退屈なものとはならないであろう。それらのものは興味深いものになり、出席者が少なくなることもないであろう。11

### 隣人のために働く機会を求めなさい

好機はあらゆる人々の手の届くところにある。隣人のため

になすべき働きで、あなたが責任を負うのが当然である仕事を始めなさい。

（註）隣人のための親切な奉仕についての方法や有効性に関するくわしい勧告に関しては「福祉の奉仕」を参照されたい。…編集者

あなたが前進するように他人がせきたててくれるまで待つてはいけない。あなたのために生命をお与えになった主に対する個人的な責任をたえず心に留めながら、遅滞なく活動しなさい。あなたに対してキリストが個人的に、眠りからさめて神がお与えになったあなたの能力を神への奉仕のために最高度に発揮するように努力するように呼びかけておいでになるのを聞いているもののように、活動しなさい。生きた神のみことばからだれかほかの人が靈感をつかもうとしているのを見ようとしてはならない。もしあなたが完全に献身しているなら、神はあなたを通して、暗黒の中にいる多くの人の魂に光を伝えるチャンネルとして神がお用いになることのできる人々を、真理にみちびかれるであろう。

12

クリスチャン家族は暗黒の地方へは行って行きなさい

神はクリスチャンの家族が暗やみとまちがいだらけの社会へは行って、主のために賢明に忍耐強く働くように求めておいでになる。この召命にこたえることは自己犠牲を要する。多くの人はあらゆる障害を取り除いてくれるように期待しているが、一方ではこの世には希望も神もなくして、死にかかっている魂の人がたくさんいる。非常に多くの人がこの世の利益のためにまた科学的な知識を得るために、悪疫のはびこっている地方へは行ってゆく冒険を試み、苦難と不自由に耐える。救い主のことを他の人たちに話すため

に喜んでこれと同じような努力をしようとする人々がどこにいるであろうか。暗黒の世界に住む人に救い主のことを話すことのできるように、福音を必要とする地方へ進んでゆく男女がどこにいるであろうか。<sup>13</sup>

もしクリスチャンの家族が地球上の暗黒の地方すなわち霊的な暗やみに取り囲まれている地方に移り住んで、キリストのご生涯の光を自らを通して輝かせるならば、偉大な働きが成しとげられるであろう。彼らにその働きを冷静で慎み深いやり方でやらせよう。そしてその働きが非常な関心をよんでひろがってゆき、牧師の援助がなくては世話ができなくなるまでは、教団の財政的負担をかけるないようにしよう。<sup>14</sup>

**子供たちは他の人たちができないときにも活動する**

真理を示すことがもはやおとなの力だけにまかされないと天で判断をした場合には、神のみたまが子供たちにやどる。そして彼らは、年長の働き人が進む道をふさがれているためにできなくなってしまった真理の宣伝の働きをするようになる。<sup>15</sup>

この世の歴史の終末の場面では、このようなおおぜいの子供や青年が真理に対するあかしをしておとなたちを驚かせるであろう。そのあかしは単純で、しかも霊と力に満ちている。彼らは神をおそれることを教えられてきた。そして彼らの心は聖書を注意深く祈りながら研究することによってやわらげられた。近い将来多くの子供たちが神のみたまを授けられ、その時には教会の年長会員ではよくできないような真理の宣伝を世界に向かって行なう働きをするであろう。への



私たちの教会学校は、この偉大な働きのために子供たちを準備するために神によって定められているのである。この学校では子供たちに現代のための特別な真理を教えねばならない。彼らは病人や悩んでいる人々を助けるための働き人の軍勢にはいるのである。子供たちは医療伝道事業に加わることができ、各自の少しずつの働きによって、この事業を進展させることができる。…彼らによって神のメッセージは世に知られ、救いの力がもろもろの国民のうちに知られる。だから教会は群れの小羊たちのために重荷を負いなさい。神への奉仕をするために子供たちを教育し訓練しなさい。17

# 自ら働くことによって実践することを学びなさい

キリストに対する愛と忠誠はすべての奉仕の源泉である。キリストの愛に触れた人の心の中には、キリストのために働きたいという希望がうまれる。この希望を力づけ、正しく導かなければならない。家庭に、近所に、学校に、貧しい人や、苦しんでいる人や、無知な人がいるなら、それは不運としてではなく、尊い奉仕の機会としてみなすべきである。

他のすべての場合と同じように、この働きにおいては、働きそのものの中から技量が得られる。人生の平凡な義務や、困っている人や悩んでいる人々への奉仕に訓練されることによって実力が養われる。これがなければどんなに最善の努力をつくしたつもりでも、無益であるばかりでなく、有害でさえある。人が泳ぎを習うのは陸の上においてではなく、水の中においてである。18

1、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三六五、三六六  
ページ

2、教育・三二七、三二八ページ  
3、3 T・三〇ページ

# アドベンチスト・ホ - ム

1110 9 8 7 6 5 4  
、 、 、 、 、 、  
6 M 6 R L M 7 3  
T S T H ・ S T T  
・ S ・ 一 O ・ 六 ・ 三  
四 三 一 四 一 八 四 一 一 六  
五 九 二 九 八 九 一 一 三  
、 一 九 六 一 一 九 一 七  
四 三 九 ペ 年 一 九 一  
六 〇 ジ 月 七 〇 ペ  
ペ 年 一 七 一 ジ  
ー ジ 日

18171615141312  
、 、 、 、 、 、  
教育 6 C 同 6 9 M  
・ T ・ T ・ T ・ T S  
・ 三 二 一 二 四 三 ・  
三 〇 〇 三 四 三 一  
三 三 ペ 一 二 ペ 二 八  
、 ペ 一 ジ ペ 一 ・  
三 三 ジ 一 六 七 一 九  
四 ペ 七 ペ 〇 一  
ペ ー ジ ー 年

第一七部

休養とレクリエー  
ション



## レクリエーションは大切なものである

レクリエーションに関する極端な考え方

宗教は人間を鉄の棒で強権的に支配する暴君と同じも

のだという病的な想像をしている人々がいる。そのような人はたえず自分たちの腐敗墮落を悲しみ嘆き、仮想的な罪悪について苦しみ悩む。彼らの心の中には愛がない。いつも顔をしかめている。

青年や他のだれかから無邪気に笑いかけられても打ち解けない。彼らはすべてのレクリエーションや娯楽は罪であると考え、人間の心はたえずきびしくひきしまった調子で活動していなければならぬと思ひこんでいる。これは一つの極端な見解である。また別の人々は、人間の精神は健康を得るための新しい娯楽と気ばらしを考案するために、いつも気を配っていなければならないと考えている。それらの人はいつも刺激を求めており、それがないと不安である。そのような人はクリスチャンではない。彼らはまた一方の極端にはしっているのである。クリスチャン信仰の真の原則は、すべての人に幸福の源泉を開いており、その高さ、深さ、長さ、広がりには測ることのできないほど大きいものである。

**精神を新たにし、身体を強壮にすること**

自己の肉体的知的な能力を神の栄光のために用いる目的で、無邪気なレクリエーションをして精神を新たにし、身体を強壮にすることは、クリスチャンの特権であり義務である。私たちのレクリエーションは、ばかげた形をとった無意味な浮かれさわぎであってはならない。私たちはレクリエーションをやるのに、交わる人たちに利益を与え、その人格を高めてクリスチャンとして私たちにゆだねられている義務を果たすのに私たちも友人たちも、もつとふさわしくなるようなやり方を実行することができるのである。2

安息日を守る人々が、気分転換とか休息時間をもたずにひどく働き過ぎているということを私は示された。レクリエーションは肉体労働に従事している人々に必要であり、主として頭をつかう仕事をしている人々のためにはいっそう必要である。たとえ宗教的な課題についてさえも、私たちが自分の心をたえず、そして過度に働かせることは、私たちの救いのためにも、また神の栄光のためにもたいせつではないのである。3

家庭や学校の環境はレクリエーションの問題と大いに関係がある。家庭や学校の所在地を選ぶときには、この点を考慮に入れなければならない。社会の要求や慣習やあるいは金銭よりも、精神と肉体の健康を重んずる人は、自然の教えから受ける恩恵と、自然の環境に囲まれたレクリエーションを子供のために求めなければならない。4

**最上の働きをするためにはレクリエーションは重要である**

肉体的な働きのために費やされた時間は失われた時間ではない。……肉体のすべての器官や能力をつりあいを保って働かせることは、

各々の最上の働きにとって必要である。頭脳がたえず酷使されていて、身体その他の器官が不活動な状態にあるならば、肉体的及び知的な力が失われることになる。身体の組織がその健康的な調子を失い、心は清新さと活力とをなくし、病的な刺激がその結果から生ずることになる。5

睡眠と労働のための時間の調整に関しては、十分注意を払わなくてはならない。私たちは休憩の時間、レクリエーションの時間及びめい想の時間をもつべきである。∴ 節制の原則は多くの人が考えているよりもずっと広範囲にわたっている。6

**学生は休養が必要である** 勉強をしている人々は休養が必要である。頭脳はいつも考えごとばかりしてはいけけない。微妙な頭脳という機械はすり減らされてしまうからである。肉体も精神も同じように運動しなければならぬ。7

レクリエーションや体育のために時間をさくことが、学校の正規の課業にさしかえる場合があることは確かである。しかし、そのさしかえはほんとうの妨げとはならない。そのために費やされた時間と労力とは、心身の力が強壮になり、無我の精神が養われ、教師と生徒たちが共通の関心と親しい交際というきずなによってむすばれることの中に百倍にもなつて報いられるのである。若い人たちのとかく危険な源である不安定なエネルギーに安全なはけ口があたえられるのである。善に専念することは、悪への防壁としてたくさんな法律や訓戒の壁よりも価値がある。8

レクリエーションのための日を必要とする事務職員

事務所で仕事の責任者となっている人々は、

いつも骨の折れる働きをしているのであるということに認識している人はきわめて少ないことを私は知っている。彼らは毎日、毎週ドアの中に閉じこめられていて、たえず知的な活動力に緊張を与えられ、知らず知らずのうちに自分の肉体を害し、生命力を減じているのである。これらの兄弟たちは突然倒れる危険がある。彼らは不死ではないのであり、気分転換をしないと疲れ果て、仕事の犠牲となるにちがいない。

A、B、C兄弟たちは貴重な天賦の才能をもっている。私たちは彼らを一室に閉じこめてたえず苦勞の多い仕事をさせて、その健康を失わせるわけにはゆかない……。

彼らは発熱やその他の病気によって休むほかは、ほとんど気分転換をする機会がない。時折りは気分転換をし、ほとんど社交生活をうばわれている彼らの家族たちと一日全部をレクリエーションに過ごすべきである。全部の人が同時に仕事を離れることはできないかもしれない。しかし彼らはそのうちの一人か二人は出ていっても、ほかの人が残ってその仕事の空所を埋め、交代でまた残った人が同じように仕事を休む機会をもつようにだん取りをすべきである。

これらのA、B、C兄弟たちが、神から与えられた健康と力とに留意することを宗教的な義務と考えるべきであることを私は知った。神は彼らがいま神のみ事業のための殉教者となることを要求しておられない。彼らはこのような殉教者となる犠牲を払ってもなんらそれによって報いは得られない。なぜなら神は彼らに生きることを望んでおいでになるからである。 9

無邪気であるになるレクリエーションの方法を捜し求めなさい

精神にも身体にも両方に非常な



利益となるようなレクリエーションの方法がある。知識と識別力のある人は、無邪気だけでなく教訓となるような源泉から、娯楽や気ばらしの方法をたくさん見つけ出すであろう。戸外でレクリエーションをすること、神のみわざを自然の中でめい想すること等は、最も有益である。<sup>10</sup>

私たちは自己の心持ちを新たにし、肉体を元気づけることを求める一方では、常に私たちの全能力を最上の目的のために用いることを神から要求されていると私は信じる。私たちは今日このところでまじわっているように、いつもお互いに交わり、そして神の栄光のためにすべてのことを行なうべきである。

（注・これは一八七〇年五月に、ミシガン州のバトルクリークに近いゴグアク湖畔で、レクリエーションの時を楽しんでいる約二〇〇人の仲間にあてたあいさつのことばの一部である。）

私たちは自己に課せられた義務をいつそうりっぱに果たすことのできるような方法で、また私たちの感化が私たちの交わっている人々に対していつそう有益となるような方法でレクリエーションを行なうことができるし、またそうすべきである。特にこのような機会を与えられたときはそうあるべきで、それは私たち皆にとってよきはげましの時であるべきである。私たちは気分が改まり、身体も清新な状態になって家へ帰り、いつそう希望にあふれ、勇気づけられ、新しい仕事に励む準備ができて、帰ってゆくことができるのである。<sup>11</sup>

**青年に対する神の招き**      神は青年の一人一人に対して、「『わが子よ、あなたの心をわたしに与えよ。』わたしはそれを清らかに保ち、あなたの心の願いを真の幸福によって満足させるだろう」

と招いておいでになる（箴言二三ノ二六）。神は青年を幸福にすることを好まれる。だから神は、神から与えられたすべての能力が力強く健康的な状態に保たれるように、青年の心をご自分の支配下におくようにと望んでおいでになる。彼らは神の生命の賜物をもっているのである。神は彼らの心臓を鼓動させておいでになる。またあらゆる能力に力をお与えになる。純潔な楽しみは、神の賜物のどの一つをも低下させることはない。

12

1、1 T・五六五ページ  
2、H R・一八七一年五月  
3、1 T・五一四ページ  
4、教育・二六六ページ  
5、F E・四一八ページ  
6、M S S・六〇・一八九四年

7、C T・三三三ページ  
8、教育・二一三ページ  
9、1 T・五一五、五一六ページ  
10、1 T・六五三ページ  
11、2 T・五八六ページ  
12、Y I・一八八七年一月五日

第八〇章

私たちは何をして遊んだらよいか

**罪となる遊びの代わりに無邪気なものを選べ——**青少年は年とつた人のように落ち着いて静かにしていることはできない。子供も父のようにまじめにしていることはできない。罪深い娯楽は当然非難されるべきであるが、その反面、両親や教師や青年の保護者は、そのような娯楽の代わりに道徳心を弱めたり、墮落させたりしないような無邪気な楽しみを用意しなければならない。青年を厳格な規律にしばりつけたり抑圧したりして、彼らが圧迫されているように感じ、そのために規律を犯し、放蕩と破滅の道へ突進することのないようになさい。しっかりと親切に注意深く制御の手綱を手にもって、彼らの心と目的とを見張り、指導しなさい。しかもおだやかに賢明に愛情をもって行ない、あなたが彼らの最上の利益となることをいつも心掛けていることを、彼らに知らせなさい。1

ダンス、トランプ遊び、西洋将棋、西洋碁等のような遊びがいろいろある。しかしそれらは神が非難されているものであるから、私たちは賛成できない。これらの遊びは大きな罪惡への門戸を開いている。それらはその傾向が有益でなく、人を興奮させる影響力をもち、人々の心にとばく、放蕩にいたる遊びへの欲望をおこさせる。このような遊戯はすべてクリスチャンの非難すべきもので

ある。そしてそれらの代わりに、完全に害のない何かととり代えるべきである。2

私たちは墮落させ欺くような傾向をもつ現世的な娯楽を子供たちにさせないようにする一方、彼らを危険のない楽しい道に導いてくれるような無邪気なレクリエーションを用意すべきである。神の子は悲しいあるいは痛ましい体験をする必要はない。神のご命令、御約束にはそのことが示されている。知恵の道は「楽しい道であり、その道筋はみな平安である」（箴言三ノ一七）。3

私たちはまちがった不自然なもの、すなわちわたしたちのしてはならない競馬やトランプ、富くじ、拳闘、飲酒、喫煙等を避ける一方では、清潔で上品で高尚な遊びの源泉を供給しなければならぬ。4

**体育館の有用な地位** たいていの学校では、体操が有用な位置を占めているが、しかし注意深い監督がないと、これは過度に流れる恐れがある。体育館で、離れわざを試みようとして、一生不具になった青年が少なくない。

体育館の運動は、どんなによく指導されても、外気の中で行なわれるレクリエーションの代わりとなることはできない。この点について、わが学校ではもっとよい機会を与えなくてはならない。5

**ボールを用いるゲーム** **基本的な指導原則** 私は単純なボール競技を非難していない。しかし

これは単純なやり方でも、やり過ぎることが多い。

私はいつも、これらの遊戯のすぐあとにおこるほとんど確実な結果を考えて、しりごみする。そ

れはキリストなくして破滅しようとしている人の魂に、真理の光をもたらすのに用いるべき金銭を消費することになりがちであるからである。一步一步自慢する気持ちを増長させてゆくような娯楽と自己満足のための金銭の消費、及び快樂のためにこれらのゲームを教えることは、クリスチャンとしての品性を完成するのには好ましくないようなことに対して、愛と熱情を抱かせることになるのである。

彼らが大学で指導されてきた方法は天国での特徴をそなえていない。それは知性を強化しない。また品性を磨き清めることもしない。習慣と現世的な行動によって筋道が作られる。そしてそれを実行する人々は、それに没頭し夢中になるので、彼らは天国において神を愛するよりは、快樂を愛する人であると宣告される。これらのゲームをすることは、学生としていつそうよく活動でき、クリスチャンとしてその義務を遂行するのにいつそう適した人となるために知性を強化しないで、彼らの勉強から心を奪い去るような思いを頭に満たしている。……

このようなゲームを行ないながら、ひたすら神に栄光を帰することができであろうか。そのようないことはできない事をわたしは知っている。彼らは神の道と神の目的を見失っている。恵みの時に、人間がこうしたことに没頭する事は、神の啓示されたみ心を捨てて、人間の考案したものをその代わりにしている事である。これは彼のそばにいるサタンのそそのかしによるものである。……天にいます神は、そのように夢中にさせるゲームに勝とうとする激しい熱情に対して抗議される。6

## 多くの運動競技の問題

生徒たちは活発な運動をしなければならない。目的もなく、ただぶらぶ

らしていることぐらい恐るべき悪はあまりない。しかしたいいていの運動競技の傾向は、真に青少年の幸福を心に願う者にとつては憂慮すべき問題である。教師たちはこれらのスポーツが生徒の在学中の成績と社会に出てからの成功に与える影響を考えると、心配させられるのである。生徒は大部分の時間を運動競技にとられてしまつて、心は、勉強から離れてしまう。それらの運動競技は、青年たちが、人生の実際的なまじめな働きのために準備する助けにはならない。その影響は、上品さや寛大な心や、真の男らしさというものには役立たない。

フットボールやボクシングのような最も人気のある種類の娯楽は、野蛮行為の学校となっている。それは古代ローマの競技によつてつちかわれたのと同じ特性を發達させている。権力への愛着、単なる蛮力の誇り、生命の輕視などは、青少年たちに驚くべき墮落の影響を与えている。

その他の運動競技はそれほど野蛮ではなくても、過度に流れるという点でやはり好ましくない。それは歡樂と興奮を好む心を刺激し、そのために有用な働きをきらう気持ちや、實際的な義務や責任を避けたがる傾向を助長する。それはまた、人生のまじめな現実と、その落ち着いた喜びを味わう気持ちをほろぼす傾向をもっている。こうして道樂と放縱に向かつて扉が開かれるとき、そこには恐るべき結果が伴うのである。 7

### 生活があまり複雑でなかつた時代

昔、民が神の直接の導きのもとにあつたころは、生活が單純であつた。彼らは自然のふところに住んでいた。子供たちは親たちといっしょに働き、また自然の宝庫の美しさと神秘を学んだ。静かな野原や森の中で、彼らは、聖なる委託物として代々伝えられ

てきた大いなる真理について、深く思いをめぐらせた。こうした訓練によって、強い人間ができたのであった。

今日、生活は不自然になり、人間は退化している。私たちはそうした古代の単純な習慣にすつかりもどるといふわけにはいかないが、しかしそこから教訓を学び、レクリエーションを本来の意味通りに肉体と精神と靈魂の真の建設の時間としなければならない。 8

**家族の遠足** 都会や村に住む家族たちは数組合同して、肉体的にまた精神的に重い負担となつている自分たちの仕事を離れ、いなかへ、すなわち自然の景色が美しいきれいな湖のほとりや、すがすがしい森へ遠足をするようにしよう。彼らはあつさりした衛生的な食物、最上の果物や穀類を用意し、木陰や大空の下で食事をひろげて食べるべきである。乗馬や運動や景色をながめることが食欲を増進し、王様もうらやましがするような食事を楽しむことができる。

そのような機会には、両親も子供も心づかいや骨折り仕事や煩わしさから解放されるべきである。両親も子供たちといっしょに童心にかえり、すべてのものを子供たちのためにできるだけ楽しまなければならぬ。一日の全部をレクリエーションにあてよう。室内に閉じこもってすわって仕事をしている人々にとっては、戸外での運動は健康の増進に役立つ。このようなことを実行できる人は皆、このようなレクリエーションをすることを義務と感ずべきである。何ものも失われず、多くの利益を得るのである。彼らは熱心に仕事をやれる新しい生命力と新しい勇気を得て自分の仕事にもどることができる。そして病気に抵抗する力がいっそう強くなるのである。 9

大自然の魅力の中に幸福を見いだしなさい

この世で保有することが私たちの幸福になるようなすべてのものを、私たちが投げ出すことを神が望みになっていると考えてはならない。神が私たちに放棄せよとご要求になっているものは、すべて保持することが私たちの利益と幸福にならないようなものである。

りっぱな木を植え、それらに豊かな葉をしげらせてくださった神、たくさん種類のすばらしいきれいな花を私たちに与えてくださった神、自然の至るところに愛のみの手のわざを見せてくださっている神は、私たちを不幸にさせようとは意図しておられない。またこれらのものを私たちが鑑賞したり楽しんだりしないようにと計画してはおられない。私たちがそれらを楽しむようにというのが神の御意図である。ご自身が創造されたものである大自然の魅力の中に幸福を見いだすようにというのが、神のご計画である。

10

### 有益な社交上の集まり

社交のための集会は、集まる人々が心の中に神に対する愛が燃えているとき、また神のみことばに関して互いの考えを交換し、神のみ事業を進展させ友人に利益となる行為をする方法を考えるために会合するときに、それは最高度に有益な、そして教育的な効果を生ずるのである。聖霊がこれらの集会に対する歓迎すべき賓客と考えられるとき、聖霊を悲しませるようなことは何も言われなかったり行なわれなかったりするときに、神はほめたたえられ、いっしょに集まった人々は心を新たにせられ、力づけられるのである。

11

私たちは集会が終わって家庭に帰るとき、神に対しまして人に対して不法はなんらしなかったとい



う良心をもつことができ、私たちが交際した人々をどんな方法によっても傷つけることはしなかったという意識、あるいは彼らに有害な影響を与えなかったという意識をもち得るように、私たちの集会は管理され、また私たちは自ら行動すべきである。

12

イエスは無邪気な幸福の光景の中に楽しみを見いだされた

イエスは、あらゆる種類の放縦を責

められたが、しかしその性質は社交的であられた。彼はあらゆる階級の人々のもてなしに応じて、金持ちの家でも貧乏人の家でも、学者の家でも無知な者の家でも訪問し、彼らの思いを日常一般の問題から霊的な永遠の問題へ高めようとされた。彼は酒色をみとめられず、その行為は世俗的な軽薄の影によつてくもられることがなかった。しかし主は、無邪気なたのしみの光景によるこびを感じ、自ら出席なさることによつて親睦（しんぼく）の集まりを是認された。ユダヤ人の結婚式は印象的な光景で、そのよろこびは人の子イエスにとって不快なものではなかった。……婚宴のよろこびは、キリストがご自分の花嫁を天父の家につれてゆかれ、あがなわれた者とあがない主とが、小羊の婚宴の席にすわるその日のよろこびをキリストの心に思わせた。

13

主の会話やふるまいについての模範

主は働きを始められてから、パリサイ人や取税人から食事

や祝宴に招きをうけたとき、その招待に応じられた。……そのような時には、キリストは食卓での会話を巧みに指導し、多くの貴重な教訓をお与えになった。そこに出席した人々は主のお話を傾聴した。なぜなら、主は彼らの中の病人をいやし、彼らの悲しみを慰め、子供たちを腕に抱いて祝福

されたからではなかっただろうか。取税人や罪人たちは主のみ許にひき寄せられ、主がお話をしようとかちびるをお開きになると、彼らは主に注意力を集中した。

キリストは宗教心をもっていない人々の集まりや、信仰の心をもっている人たちの前で、どのようにふるまったらよいかを弟子たちにお教えになった。また何か公衆の集まりに出席したときには、何か言うことに事欠く必要のないことをご自分の模範によってお教えになった。しかし主の会話は、これまで祝宴の際に聞かれた内容とは全くちがっていた。主の話されたみことばはどれも、聞く人にとって生命に至る香気であった。そして彼らはその意図するところを聞きとろうと望んでいるもののように、心をしずめて傾聴した。

14

エレン・ジー・ホワイト夫人と楽しい社交的な集まり

私は東部へ長い旅行をしたあとで、ヒールズバークで新年の夕べをすごすのに間にあうように、家に帰りついた。大学の講堂は安息日学校の親睦会を催すのに準備されていた。イトスギの環、秋の紅葉、ときわ木、花などがきれいに配置されてあった。そしてときわ木の大きなベルが会場にはいるアーチ型の戸口からぶら下がっていた。木には寄贈された品々が一ぱいぶら下がっていた。それらは貧しい人々におくるためのものであり、ベルを買うのに役立てるためのものであった。……この時にはだれの良心をも苦しめるようなことは言われたり、なされたりしなかった。

ある人は私に、「ホワイト姉妹、あなたはこれをどうお考えですか。それは私たちの信仰に一致していますか」と言った。私は彼らに「それは私の信仰と一致します」と答える。

15

引きつける力を発揮して青年をひきよせなさい 神は、あらゆる家庭や教会が、人をひきつける力を発揮して、世の誘惑的な快楽や、その感化が墮落に導くような傾向をもった人々との交際から子供たちをひき離すように望んでおられる。青年をイエスのみもとにひきよせることを研究しなさい。

16

1、C T・三三五ページ  
2、1 T・五一四ページ  
3、R H・一八八四年一月二九日  
4、S T・一八八四年・一九、二〇ページ  
5、教育・二六五ページ  
6、N L・第一巻・三〇号  
7、教育・二六五ページ  
8、同・二六六ページ

9、1 T・五一四、五一五ページ  
10、R H・一八八六年五月二五日  
11、Y I・一八九七年二月四日  
12、C T・三三七ページ  
13、各時代の希望・第一巻・一七五、一七六ページ  
14、W M・二八七ページ  
15、R H・一八八四年一月二九日  
16、同・一八八四年一月二九日

## 第八章

## 永続的な満足を与えるレクリエーション

手と頭と人格を発達させる運動

遊びとして行なった運動や、単なる運動のための運動からは最

上の利益は得られない。新鮮な空気の中にいることや、筋肉を働かせることも、ある程度の役には立つ。しかしこれらと同じ程度のエネルギーを、ためになる仕事をするために用いなさい。そうすれば効果はいっそう大きくなり、満足感が得られる。なぜならそのような運動は、役に立ったという感じと仕事をりっぱに果たしたという良心の是認がそれに伴うからである。1

子供や青年には、運動をするときにも自分自身の役に立ち、他人にも益となるような何かを行なおうという野心を目ざめさせねばならない。知力や品性を発達させる運動や、手を有効に用いるように教え、青年に人生の重荷のわけ前を負わせるように訓練する運動は、体力を与え、あらゆる能力を活発にする。そして高潔な勤勉さと、善行をしようとする生活習慣を養うことの中には、必ずよい報いがある。2

青少年たちにとって、自分のためだけのレクリエーションよりは、他人のためになるレクリエーションのほうが、はるかに大きな祝福となる。子供というものは生まれつき熱心で、感じやすいの

で、人のことばをすぐに受け入れる。 3

### イエスの青年としての模範

イエスの生涯は勤勉の連続であった。そしてご自分の体力の発達に応じた種々の仕事を行なうことによって運動をされた。主は特にご自分に定められた御働きをすることによって、刺激的で無益な娯楽にふける時間をおもちにならなかった。道徳的な気品を害したり、体力の強健さを低下させるようなことには加わることをなさらず役に立つ労働をし、困難に耐える訓練をされた。 4

キリストは地上のご生涯において、すべての人類家族の模範であった。そして家庭では従順であり役に立つおかたであった。大工の仕事を習い、ナザレの小さな仕事場で手ずから働かれた。：：聖書には、イエスのことについて、「幼な子はますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがその上にあった」としてある（ルカノ四〇）。主は少年の時代にお働きになったので、精神も肉体も発達したのである。主は体力をむとんじやくに用いずに、体力が健全に保たれるように運動され、それによってあらゆる方面に最上の働きができるようにされた。たとえ工具をおつかいになるにも、不完全であることを望みにならなかった。ご品性が完全であったと同じく、職人としても完全であった。キリストは教訓と模範によって、有益な労働を尊重された。 5

### 仕事を変えることによって元気を回復すること

青年たちは自分の受けた特権のすべてに対して、また自分に与えられた時間を有効に利用し、自己の能力を正しく用いることに対して、責任を負わ

されているのである。彼らは「私たちは娯楽やレクリエーションをしてはいけないのだろうか。な  
んの変化も求めずに、ただ働くことだけをしなければならないのか」と問うかもしれない。6

体力をひどく強要する肉体労働を離れて変化を求めることは、時にはきわめて必要である。それは再び労働に従事し、大いに努力していつその成功をかち得るために必要であろう。しかし全く休んでしまうことは必要ではない。あるいは体力に関する限りでは、全く休息することは最良の結果を伴うものではない。若い人には、一つの仕事に全く疲れ果てた時でも、高貴な時間を浪費してしまうことは不必要である。そのような時には、それほど心身を疲れさせなくて、母親や姉妹たちに祝福となるような何かをしようと、捜し求めることができる。彼女たちの負わなければならない最もつらい仕事を引き受けて、その心労を軽減してやることによって、彼らは原則から生じる楽しみと真の幸福を与えてくれる楽しみを見いだし、従って、つまらないもしくは利己的な放縦に自らの時間を浪費することがないであろう。彼らの時間はいつも有益なことに使用せられ、たえずいろいろの変化によって清新な気持ちになり、しかもその時々がすべて他のだれかに有益なことをするように、時間を利用しているのである。7

多くの人たちは身体の健康を保つには、利己的娯楽にふけることが必要であると主張する。肉体を最高に発達させるには、変化が必要であることは事実である。なぜなら、精神や身体は変化を与えることによって爽快になり、元気づけられるのである。しかしこの目的はばかげた娯楽にふけて達し得られるものではない。また青年がしなければならぬ日常の勤めを無視することによって達し得られるものではないのである。8

神が祝福された学生に対するプログラム

私たちは、青少年が知力と体力とを同等に運動させるように教育しなければならない。全身を健康的に活動させることは、広範な教育を与えるであろう。私たちはオーストラリアで、これらの方面について両親や青年を教育するのにしなければならぬきびしい働きがあった。しかし私たちは、完全な教育を受けるためには、学習の時間を書物の上の知識を得ることと、実際の働きの知識を得ることとに、わけなければならないという教訓を体得するまで、しんぼう強く努力を続けた。

毎日の一部分は有益な作業に用いられた。これによつて学生たちは、さもなければゲームをしたり娯楽を求めたりしてむだに過ごしてしまうような時間に、どうしたら土地をきれいにし得るか、どうして土を耕して家を建てるかというようなことを学んだ。そして神はこのような役立つことについて教訓を学ぶために時間を用いた学生を祝福された。9

神は健康の増進のために有益な仕事を用意された。そしてこれらの有益な仕事はまた学生が自らを助け、他人を助けるのにふさわしい者とするのである、10

単なる気晴らしのために娯楽を用意しないで、善を生み出すような種々の活動方法を準備すべきである。11

伝道活動は理想的な運動である

世の中には、娯楽活動をほとんど必要とするくらい、なすべき必要で有益なことがたくさんある。頭脳、骨格、筋肉は、それらを訓練して、知力と肉体の諸器官の力を発達させ、神から与えられ、神をあがめるためのタレントを実際に働かせるような計画を

たて、善をなし、深く考え、一つの目的のためにそれらを用いることによって、しっかりとした力を獲得するのである。<sup>12</sup>

神が青年にお与えになった筋肉と頭脳を有効に用いて、彼らが他人の労苦を軽くし、悲しむ者を慰め、失望している者を励まし、望みを失った者に慰めのことばを語り、人間としての尊厳を失わせて、しばしば恥と不名誉をもたらす快樂から学生たちの心を転じさせ、他の人々のために役立つようにさせて、たえず善をなそうと求めることは私たちの義務である。主は更に高く尊いことに役立つとうとする気高い心を望んでおいでになる。<sup>13</sup>

精神と筋肉を運動させるのと同じ力によって、彼らはもつと高級な活動の方法と手段とを見いだすことができる。それは、彼らを神との協同者となし、現在の生活にいつそう役立ったための教育をしてくれるような伝道の働きをなし、また教育の重要な一面である有益な仕事をするものである。そしてこのような伝道活動や有益な作業は、教育における最も重要な一つの部門である。……

この仕事は、すなわちキリストの道に従って働くこと、あるゆる青年のしようと求めてゆくべき働きではないだろうか。あなたにはキリストの助けがある。学生たちの考え方は広くなる。彼らは遠大な考え方をもった人になり、そして役に立つ能力は、あなたの学生生活においてさえたえず発達する。神から与えられた腕や手は、天国の印をおされる善行を行なうのに用いられるべきであり、それによってあなたは最後に、「良い忠実な僕よ、よくやった」という主のみ声を聞くことができるようになるのである（マタイ二五ノ二一）。<sup>14</sup>



病弱者に対する処方箋

病人が励ましをうけて、自分の病室を出て外気の中ですごし、花を世話したり何かほかの軽度の楽しい仕事をするときには、彼らの心は自己というものからもっと健康を増進する何ものかへ向けられるのであるということを私は教えられた。戸外での活動は、有益で生命力を与えてくれるのに必要なものとして指示すべきである。 15

私たちはたのしい小鳥のさえずる音楽に聞きいり、目を花の咲きみだれている野原や庭に向けるとき、ただ愉快になるものである。私たちは神が惜しみなく私たちのためにそなえてくださったすべてのすばらしいものに興味を抱くように、自分の心に向けるべきである。そして神の愛と配慮についてのこれらの豊かなしるしを考えると、自分の病弱を忘れて楽しくなり、心の中で主に対して賛美の歌を口ずさむことができるのである。 16

長年にわたって私は、病人が健康を回復するために肉体労働をすべてやめてしまうのはまちがっているものであるということを、たびたび啓示された。このように働かなくなると、意志のはたらきがねむり、血液が身体組織の中を流れるのがのろくなり、次第にいつそう汚ないものになる。病人が自分の症状を実際以上に悪化していると想像する危険がある場合には、怠惰は必ず最も不幸な結果を招くのである。じょうずに調節して仕事をすることは、病人に自分もこの世の中で全く無益な人間でなく、少なくとも何かの役に立っているのであるという考えを抱かせる。このことは彼に満足を与え、勇気を出させ、活気を与えてくれる。そしてこれは無益な娯楽が決してあたえることのできない効果である。 17

真の楽しみを見いだすために神がそなえられたこと  
 神はすべての人に、金持ちも貧しい人も同じように楽しむことのできる楽しみを用意しておられる。すなわち思想の純粹さと行動の寛大さを身につけることの中に見いだし得る楽しみや、人を慰めることばを話し、親切な行為をすることから生ずる楽しみである。そのような奉仕をする人々からは、キリストの光が輝き出て、多くの悲しみによって暗くされた人々の人生を明るくするのである。 18

1、F E・四一八ページ  
 2、同・四一八、四一九ページ  
 3、教育・二六七ページ  
 4、Y I・一八九三年七月二十七日  
 5、F E・四一七、四一八ページ  
 6、C T・三三七ページ  
 7、3 T・二二三ページ  
 8、Y I・一八九三年七月二十七日  
 9、L・八四・一九〇九年

10、R H・一八九八年一月二十五日  
 11、P R・四七ページ  
 12、N L E・教育第六号・一ページ  
 13、同・二ページ  
 14、同・一、二ページ  
 15、M M・二三四ページ  
 16、H R・一八七一年  
 17、1 T・五五五ページ  
 18、9 T・五七七ページ

## 第八二章

# クリスチャンは自己のレクリエーションを どのように選ぶか

クリスチャンのレクリエーション対世俗的な娯楽    レクリエーションと娯楽はちがったものである。レクリエーションは、recreation（注・再び造るの意）というその名の示す通り、力を養い築くのに役立つ。レクリエーションによって、わたしたちは日常の心配や仕事から離れて、心身に生気を回復し、新しい力をもって人生のまじめな働きにもどることができる。

一方娯楽は、歓楽のためであり、とかく度を過ぎしやすく、有用な働きのために必要なエネルギーを奪われ、そのため人生の真の成功の妨げとなる。<sup>1</sup>

キリストに従う者たちが、クリスチャン的なレクリエーションのために集まる会合と、楽しみや娯楽のために行なわれる世俗的な集会の間には、目だつた対照的なちがいがある。祈りと、キリスト及び神聖な事柄を話しあうことをしないで、世俗の人々の口からは、不謹慎な笑い声やくだらぬ会話が聞かれる。彼らの考えは、ありふれた上きげんの時間を持つということである。彼らの娯

楽は愚行ではじまり、むなしさのうちに終わるのである。 2

娯楽についても、他のあらゆる仕事をするときと同様に、節度を守る必要が大いにある。そしてこれらの娯楽の性格は注意深く、また、十分に考慮を払うべきものである。青年はだれも次のように自問すべきである。これらの娯楽は肉体、精神及び道徳の健康に対して、どのような影響を与えるだろうか。私の心は神を忘れるほどに正気を失っているだろうか。私は自分の前に神の栄光を見ることをやめようとしているのだろうか。 3

### 正当な楽しみを認め得る規則

イエスがあらゆる喜びの源泉であるという事実を決して見失ってはならない。主は人類の不幸をお喜びになるのではなくて、彼らが幸福であるのをご覧になろうとしておられるのである。

クリスチャンは幸福の源をたくさん手もとにもっている。そしてまちがいに正確にどんな楽しみが正当であり正しいものかを言いあてることができるのである。彼らは、頭脳を浪費することのないような、また魂を墮落させないようなレクリエーション、落胆させず、自尊心を破壊するような悲しむべき余波をのこさない、また有用性を妨げることのないようなレクリエーションを楽しむことができるのである。もし彼らがイエスをとめない、祈りによって過ごすような精神をもち続けることができるならば、完全に安全である。 4

あなたの楽しむどんな娯楽にも、その上に信仰によって神の祝福を求めるならば、それは危険とはならないであろう。しかしあなたが密室の祈り、家庭の祈り、または祈りの集会に参加すること

をさせなくする娯楽はいずれも安全でなく、危険である。 5

**普通の務めにとって不適当な娯楽** 私たちは、この地上で神をほめたたえることが私たちの生涯

の毎日における特権であることを信ずる人々の仲間であり、単に自分自身の娯楽のためや、自己を満足させるためにだけこの世に生きているのではない人たちの仲間である。この点で私たちは人類を益し、社会にとって祝福とならなければならない。そして、自分の心を打ちこむことを許しているような空虚さとはかげたことをもとめることだけをやっている多くの人たちの低級な道筋へ、私たちが自分の心を注ぐならば、どうして人類や同じ世代の人々にとって利益となることができだろうか。私たちは周囲の社会に対して祝福となることができるだろうか。私たちは、日常の務めをいつそう忠実に行なうことに対して不適当であるような娯楽は、どんなものであっても、潔白な気持ちでそれを楽しむことはできないのである。 6

魂の幸福は、どんな利己的な欲望の満足によっても危険にさらされてはならないのである。そして私たちは、自己の心を奪って日常生活の義務を無気力な、興味の無いものに見せるようにする娯楽はどれも避けなければならない。そのような楽しみにふけることによって、私たちの心はまちがった方向に向けられてゆき、サタンはまちがいを正しいものに見せるような考えを抱かせるように誘惑してゆくのである。そこで、キリストがご自分の両親に対してもたれたような憤みと服従は、堪えがたいもののように見るのである。 7

不都合な会合の情景 世の中には、それ自体は正しいが、サタンに悪用されると、軽率な人には  
わなになるような事がたくさんある。 8

世間で一般に行なわれているような歡樂のパーティーもまた心や品性の眞の發達にとって妨げとなる。浮わ氣な交際や、浪費、享樂、ひいては道樂といったやうなくせがつき、そのために一生が  
台なしになる。こういう娛樂の代わりに、健康的で活氣に富む遊戲をあたえるやうに、親も教師も  
力を尽くさなければならぬ。 9

私たちの団体や教会にとって不名譽となるやうな、娛樂のための集まりをする社交階級の人があ  
つた。彼らは着物や容貌を自慢し、自己満足や浮かれ騒ぎやばかげたことを進んでやっている。サ  
タンは賓客として招かれており、これらの集會を後援する人々をとりこにするのである。

そのような仲間の集まりの一光景が私の前に示された。そこでは、眞理を信ずると稱している人  
人が集まっていた。ひとりの人が樂器のそばにすわっており、見守っている天使たちを悲しんで泣  
かせるやうな歌が聞こえていた。そこには陽氣な氣分や粗野な笑い声が満ちており、熱狂的で一種  
のインスピレーションがみなぎっていた。しかしそれはサタンだけがつくり出すことのできるやう  
な喜びであつた。これは神を愛する人のすべてが恥じるやうな、熱狂的で夢中になっているふんい  
氣だつた。それは汚れた思想と行動に対する協同者をつくり出すものである。そのような光景の仲  
間にはいつていた人のある者は、心からこの恥ずべき行動を後悔していたにちがいないと考えられ  
る十分な理由がある。

そのような多くの集會の光景が私に示された。私はお祭り騒ぎ、着物の見せびらかしや着飾つた

様子などを見た。すべての人はりっぱであると他人から思われたいと望んでいる。そして浮かれ騒ぎや、くだらぬ冗談や、安っぽく粗野なへつらいや、やかましい笑い等に夢中になっている。彼らの目はぎらぎらし、ほほは上気し、良心はねむっている。飲み食いとお祭り騒ぎに夢中になって、神を全く忘れてしまっているのである。楽しみの光景は彼らにとってパラダイスである。そして天はその光景のすべてをながめ、また聞いているのである。<sup>10</sup>

娯楽のための集会は信仰を混乱させ、動機を混同させ不確実なものにする。主はふた心はお受けいれにならない。主はその人の全体をささげるように望んでおいでになる。<sup>11</sup>

一般の娯楽に安全なものはほとんどない

今日世間で俗受けしている娯楽の多くは、クリスチャンであることを主張する人々にとってさえも、異教徒に対すると同じような結果を生じがちである。サタンが人間の魂を破壊するのに利用しようとし、娯楽はきわめてまれである。サタンは演劇を用いて、長い間人間の欲情を刺激し、悪徳をほめたたえるように働いてきた。人を魅惑するような芝居とびつくりさせるような音楽をみせる。オペラ、仮装、ダンス、トラップ等を、サタンは原則の壁を打ち破り、肉欲にふける門戸を開くために利用している。自負心を助長し、食欲にふけらせるような、また神を忘れ、永遠の関心事を見失わせるような楽しみのための会合において、つねにサタンが人々の魂のまわりに、彼の鎖をまきつけているのである。<sup>12</sup>

真のクリスチャンは、娯楽の場所へはどこへもはいらず、また神の祝福をお願いできないような気晴らしをしようとはしない。そのような人は、劇場や玉突き場やボーリング場にははいらない。

彼は陽気なワルツの踊り子と仲間になったり、キリストを自分の心から消してしまうような魅惑的な娯楽にふけったりはしない。

これらの気晴らしを弁護する人々に対しては、私たちは次のように答える。私たちはナザレのイエスのみ名において、そのようなものにふけることはできない。劇場の中でも、またダンスを踊って過ごすような時間に対しては、神の御祝福を与えて下さるようお願いできない。クリスチャンはだれもそのような場所で死につくことは望まない。キリストがこの世においでになるとき、そのような場所にいることを見られることをだれも欲しないであろう。 13

### 劇場は不道德の温床である

娯楽のための盛り場で、最も危険なものの一つは劇場である。それはしばしば道徳と善行の学校であると主張されているが、それどころではなくて、不道德の温床である。これらの演芸によって、悪徳の習慣と罪深い性癖が強められ身にしっかりとつくようになる。

低級な歌、みだらな身ぶりや表現及び態度は、人の想像力を墮落させ、道徳心を低下させる。そのような催し物に常時出席している青年はだれでも原則が墮落してくる。私たちの国では、劇場の娯楽ほどに人間の想像力を毒し、宗教的な感銘を破壊し、おだやかな楽しみやまじめな人生の現実に対する好みを鈍くするのに強い影響力をもつものはない。これらの光景を愛することは、アルコールを飲むにつれて嗜好性を強めると同じように、それにふけると共に強烈になってゆく。唯一の安全な方法は、劇場やサーカスやあらゆる疑問のある娯楽の場所を避けることである。 14



ダンスは墮落の学校である

信仰をもっている多くの家族の中に、ダンスやカルタ遊びが居間の娯楽にされている。これらはおだやかな家庭での娯楽であり、両親の目の届くところで安全に楽しむことができるものであると主張されている。しかしこのような刺激的な楽しみを愛する気持ちは育成されてゆき、家庭では無害であると考えられたものが、まもなく外でも危険だとはみなされなくなる。このような娯楽からは、なんら善いことが生まれてくるとはまだ確かめられていない。それらは肉体に活力を与えるものでもなく、心に平安を与えるものでもない。また私たちの魂に貞潔な、あるいは神聖な感情を植えつけてもくれない。それどころか反対に、まじめな考え方や宗教的な奉仕を好む気持ちのすべてを破壊してしまう。選ばれた仲間の上品な人々と、低級なダンスホールの乱雑で墮落した集まりの間には、広範な対照が見られることは事実である。しかしすべては放蕩への一步一步である。15

ダビデのダンスは先例にはならない

ダビデが神の前で慎み深い喜びの気持ちから踊ったことが現代の流行しているダンスを正当化している愛好者によって引用される。しかしそのような議論は根拠がない。今日のダンスは不品行や夜なかの底抜け騒ぎと結びついている。健康と道徳は楽しみのために犠牲にされている。舞踏室の常客は神を思考と尊敬の対象としてはいない。祈りや賛美の歌は彼らの集まりでは不適切であると感じられる。このテストは決定的なものである。神聖な事に対しての愛の心を弱め、神への奉仕に対する私たちの喜びを減ずる傾向をもつ娯楽は、クリスチヤンの求めるべきものではない。神の契約の箱を動かしたときに、神を喜んで賛美する心から行な

った音楽やダンスは、現代のダンスのような気晴らしの気持ちとは全く似ないものであった。前者は神を覚え、神の聖なるみ名をほめたたえることを意図するものであった。後者はこれとちがつて人間に神を忘れさせ、神をはずかしめようとするサタンの手くだである。<sup>16</sup>

**トランプは罪惡の前奏曲である** トランプは禁止されるべきである。そのような会合と意向は危険である。暗黒勢力の君サタンは、ゲームをしている室内及びトランプの行なわれているところはどこでもすべて、これを支配している。悪天使たちはこれらの場所の常客である。そのような娯楽の中には魂や肉体を益する何ものもない。また知力を発達させるものもなく、将来利用するために価値のある考え方を貯えるべき何ものもない。そこで行なわれる会話は、くだらぬ墮落的な問題についてだけである。……トランプを扱うことに上達すると、それは間もなくこの知識や腕前を何か個人的な利益のために用いようとするようになる。少額のおかねがかけられ、それからもつと多くの金銭がかけられて遂にゲームをしたいと熱望する気持ちにかられて、破滅するようになる。この有害な娯楽がどんなに多くの人たちをあらゆる罪深い行為に引きずりこみ、貧乏、刑務所、殺人、絞首台へと連れていったことだろう。しかもなお、多くの両親は、私たちの青年のために口を開いて待っている破滅のおそるべき深淵をよく知っていないのである。<sup>17</sup>

**人並はずれることに対する不安** クリスチャンであると称していて、その品性や宗教上の体験が浅薄である人々は、誘惑者におとりとして利用される。この階級の人はいつも、楽しみやスポーツ

の集会に出席する用意をしており、彼らの感化は他の人々をひきつける。聖書にもとづくクリスチャンになろうとして努力してきた青年男女が、そのパーティーに参加するように説得され、仲間ひき入れられる。彼らは、クリストがクリスチャンの木にはどんな果実がなるかという事について言われたことを学ぶために、祈りによって神聖な標準を調べて、それにのっとってゆこうとはしない。青年たちは、これらの宴会が実はサタンのごちそうであって、彼らの魂が小羊の婚宴のごちそうに對するお招きを受けることを避け、クリストの義である品性の白い衣をいただくことを妨害するために、準備されたものであることを見ぬくことができない。彼らはクリスチャンとしてどんな行ないをするのが正しいのかということについて、当惑してわからなくなっている。彼らは人並はずれていると考えられることを欲しないのであり、そして生来、他人の例にならおうとする傾向をもっている。かくして彼らは、心や精神に天来の接触をうけた経験のない人々の感化をうけるのである。

18

### 放縱に至る第一歩を避けなさい

あなたがたは、くだらぬことや楽しみを捜し求めることに第一歩をふみ入れることの真の危険を見ることができない。そしてあなたの進路を変えようと望む時はいつでも、あなたが屈服してまちがった行為をするようになる以前と同じようにたやすく、正しい行動をすることができると考えている。しかしこれはあやまりである。多くの人たちは悪い友人を選ぶことによって、一步一步美德の道から、かつてはそのような道におちこむことは不可能であると考えていた不服従と放蕩という深淵にひきずりこまれていったのである。

19

## クリスチャンの原則についての明確な宣言

もしあなたがほんとうにキリストに属するならば、

あなたは主のためにあかしをする機会をもつであろう。あなたは娯楽の場所へ出席するように招かれるであろう。そのとき主のためにあかしする機会をもつことは事実である。もしあなたがそのときに、キリストに対して真に忠誠であるならば、あなたは出席しない言いわけをしようとせず、はっきりと、そして慎み深く、自分は神の子であり、自分の主義がそのような場所に出席することを許さないものであり、主のご臨在をお願いできないような場所へは、好機であつても出席できないのであると明言するであろう。<sup>20</sup>

神の王国の原則をご自分の民を通して明らかに示すことが神の御目的である。生活と品性の中に、神の民がこれらの原則をあらわすことができるように、彼らをこの世の風俗、習慣、慣例から引き離そうと神はお望みになっている。……

驚くべき光景が私たちの前に展開している。そしてこのときにこそ、生きたあかしが神の民と称する人々の生活の中に示されるべきであり、それによつてあらゆる方面に悪が君臨しているこの時代にもなお、自己の意志をさしおいて神のご意志に従つて行動しようと求めている人々がいるのである。すなわちその心と生涯の中に神の律法が書きしるされている人々がいるのであるということ、この世の人たちが見得るのである。

神は、キリストのみ名をもっている人々が神を代表するであろうと期待しておられる。彼らの思想は純粹であり、彼らのことばは高尚ですぐれたものであるべきである。キリストの宗教は、彼らの言動のすべての中に織りこまれていくべきである。……神はご自分の民が彼らの生活によつて、

キリスト教が世俗的なものよりもすぐれていることを示し、彼らが高尚で神聖な場面で活動していることを示すように望んでおいでになる。

21

1、教育・二六二ページ  
2、R H・一八八六年五月二五日  
3、C T・三三三、三三四ページ  
4、R H・一八八四年八月一九日  
5、C T・三三七ページ  
6、同・三三六ページ  
7、Y I・一八九三年七月二七日  
8、L・一四四・一九〇六年  
9、教育・二六六ページ  
10、C T・三三九、三四〇ページ  
11、同・三四五ページ

12、P P・四五九、四六〇ページ  
13、R H・一八八二年二月二八日  
14、C T・三三四、三三五ページ  
15、R H・一八八二年二月二八日  
16、P P・七〇七ページ  
17、C T・六五二ページ  
18、同・二二四ページ  
19、Y I・一八九三年五月四日  
20、C T・三二一、三二四ページ  
21、同・三二四ページ

## 第八三章

# 快樂の魅力

生來の心は快樂を求めている　私たちの本來の心は樂しみと自己満足を好むものである。このよ  
うなものをたくさんつくり出すのがサタンのたくらみである。サタンは人間の心にこの世の娛樂に  
對する欲望を満たし、「私の魂はどうなっているだろうか」と自問してみる時間をもたないように  
仕向けようと努力している。樂しみを愛することは伝染性をもっている。従つてこのことに心を打  
ちこむと、それからそれへと心は移つていつて絶えず何かの娛樂を追求するようになるのである。1  
世的な快樂は人を夢中にさせる。そして多くの人は一時的な樂しみのために、天を友とすること、  
すなわち天国が与えてくれる平和、愛、喜びを犠牲にするのである。しかしこれらの快樂のために  
選んだ対象は、やがて愛想が付き、不満足なものとなるのである。2

数百万の人が娛樂の場所に群がっている　現代の世界には前例のないほど、快樂を求める熱狂的  
な気分がはびこっている。遊興と無謀なぜいたくがあらゆるところに流行している。多数の人たち  
は娛樂を求めるのに熱中している。人々の心は習慣的にめい想したり研究する訓練がされていない

ので、くだらない浅薄なものになっている。無知な感傷主義がはびこっている。神はすべての人の魂が育成され洗練され、高尚で品のよいものになることを要求しておいになる。しかし流行的な見せびらかしや、うわべだけの快樂のために、あらゆる貴重な進歩があまりにもしばしば無視される。 3

私たちの時代の刺激的な娛樂は、男女の心を、とりわけ青年の心を熱病的な興奮状態におく。それは彼らのすべての学問や肉体労働よりもずっと大きな程度に、その蓄積された活力に影響を与え、知能をいしゆくさせ、品行を墮落させる傾向をもっている。 4

青年がその時に流行している風潮に押し流される娛樂のためだけに娛樂を愛することを学ぶ人々は、誘惑の洪水に門戸をあけているのである。彼らは社交上のお祭り騒ぎと軽率な歡樂にふけっている。遊興をそれからそれへと続けていって、遂に有益な生涯をおくろうとする欲望と能力を失うにいたるのである。彼らの宗教的な熱望はくじかれており、靈的な生活は暗黒にされているのである。すべての魂のより高尚な才能、靈的な世界と人を結びつけてくれるすべてのものは低下させられている。 5

**快樂を愛する人々の中に、たくさんの教会員がいる**

多くの人々は、神のみことばが禁止している世的で墮落させるような娛樂を熱心に行なっている。かくて彼らは神とのつながりを断ち切り、この世の快樂愛好者たちと同列に自己をおいているのである。ノアの洪水以前の人々や平地の諸都市を破壊したような罪が今日も存在している。それが単に異教徒の国や、キリスト教の普通の信仰

告白者の中にだけでなく、人の子イエスのご再臨を待ち望んでいると言っている人々のある者にさえも見られるのである。もし神がその御目にうつったままのこれらの罪を、あなたがたの前にお示しになったら、あなたがたは恥と驚きに満たされるにちがいない。6

興奮を求め、愉快的娯楽を期待する欲望は、神の民、特に若い人たちにとって誘惑であり、わなである。サタンは、将来まちがいなく起こる光景のために準備しようとする神聖な働きから、人々の心を奪い去ろうとする誘惑をいつも用意しているのである。彼は世俗の人間を使って、軽率な人々をこの世の娯楽に引きずりこもうとして、絶えず刺激を与え続けているのである。この世界を愛するように仕向けるための見せ物や講話や、数え切れないほどたくさんの娯楽がある。そしてこのような現世との結びつきによって、信仰は弱められるのである。7

### サタンは巧妙な魔術師である

青年は一般に、重大な恵みの時期が御恵みによって猶予されているのに、それが一つの大祭日であって、この世界にただ自分の娯楽を楽しみ、絶え間ない興奮の連続に満足するために住んでいるかのように行動している。サタンは、青年が世の娯楽の中に幸福を見いだし、これらの娯楽が無邪気なものであり、健康のためにも重要であるとさえ見せかけ、自らを正当化するように仕向けるための特別な努力をしてきた。8

サタンは潔めの道が困難なものであり、これに対して世俗の娯楽の道が花をしいた道であると思わせている。彼は青年たちの前にいろいろの娯楽をそなえているこの世界を偽りのはなやかな色で飾っている。しかしこの地上の娯楽は間もなく終わり、まいたものはまた刈り取らねばならない。9



サタンはあらゆる意味で欺瞞者であり、巧妙な魔術師である。彼は多くのみごとに織った網をもっており、それは潔白なもののように見えるが、青年たちや軽率な人々をおとし入れるために巧妙に準備されたものである。<sup>10</sup>

教育は快樂の愛好によって弱められる

両親は子供たちがパーティーに出席して、世の快樂愛好者たちの仲間入りをしないと、何もわからなくなると心配して、いそいで年少のころから社交的な生活をさせたりして大きなあやまちをおかしている。子供たちがまだ学校に在学している間にさえも、両親は彼らをパーティーに出席させ、社交に加わることを許している。これは最大のあやまりである。このようにして子供たちは、科学を学ぶよりもずっと早く罪惡を学び、その心は不必要な事ごとに満たされる。一方で彼らの娛樂を愛する心は非常に激しくなつて、教育のごく普通の程度のことさえ身につけることができなくなる。彼らの關心は教育と快樂を愛することに二分され、快樂を愛好するほうが優勢になるから、知能の進歩はのろくなるのである。<sup>11</sup>

古代のイスラエル人と同じく、快樂の愛好者は飲み食いにふけり、たちあがつて遊ぶ。そこでは歡樂や大酒盛り、浮かれ騒ぎ等が行なわれる。このような事について、青年は学ぶために与えられた書物の著者の例をまねるのである。これらすべての事の中で最も大きな害惡は、これらのことが品性に永久的な影響を与えることである。<sup>12</sup>

神の最後のメッセージに対して人は無関心である

ノアの洪水以前の人々は、恩恵の時期が終わ

りに近づいた時にも刺激的な娯楽やお祭り騒ぎに夢中になっていた。他人に対して影響力をもっていた人々も、人々の心がばか騒ぎや快楽に夢中になって、最後の厳粛な神のご警告を心に銘記しないようにするのに熱中していた。今日も同じようなことがくり返されているのではないか。神のしもべたちが万物の終末が目前であるというメッセージを伝えているのに、この世界は娯楽の追求に心を奪われている。神に対して無関心にさせ、来たるべき滅亡から諸国民を救うことのできる唯一の真理に感動することを妨げるような刺激が、つぎつぎと絶え間なく与えられている。」

#### 安息日遵守者は試験され、ためされるのである

この世の感化に負けてしまった若い安息日遵守者は試験され、ためされねばならない。最後の日の危険が私たちの上におしかぶさっており、多くの人々が予想もしなかったような試験が青年の前におかれている。彼らは悲惨な混乱の中に引き込まれ、彼らの信仰が真正であるか否かを試みられるのである。彼らは人の子イエスを待ち望んでいると称しているが、そのある者は不信者にとってまことに悲しむべき手本となっている。彼らはこの世をすてる意志はもっていないで、ピクニック（注参照）や楽しみのための他の会合に出席し、罪のない娯楽をたのしんでいるのであると得意に考えていて、この世と結びついているのである。しかし彼らを神から引き離してこの世の子供にしているのは、そのようなことをすることなのである。……

（注）ここに言うピクニックは、家庭や教会員がただ戸外で集まるだけというような集会をさしているのではなくて、教会員が当時よく行なわれたカーニバル形式の合同集会に加わって、「世

俗の人と結びつく」ようなものを言っているのである。

神は快樂を追求する者を、ご自分に従う者とされない。克己をし、まじめでけんそんで、きよい生活をする人々だけが、真にイエスのあとに従う人である。そしてそのような人々は、世を愛する人々との軽々しい空虚な会話を楽しむことはできないのである。」 14

# 最も重要な考慮すべきこと

娛樂は重要なものであり、利己的な快樂を楽しんでいる時間中は、聖靈を不注意に無視することかもしれないと、だれも考えないように努めよう。神をあげむいてはならない。あらゆる青年男女は次のように熟慮しなさい。「私は今日、自分の生涯を閉じる準備があるだろうか。主が私にせよとお与えになった仕事をするのにふさわしい人間となる心の準備をしているだろうか。」 15

1、	CT・三三七ページ	9、	YI・一九〇七年一月一日
2、	RH・一八八四年一月二九日	10、	CT・三二五ページ
3、	同・一八八一年一月二六日	11、	YI・一八九三年七月二七日
4、	HR・一八七二年	12、	8T・六六ページ
5、	9T・九〇ページ	13、	PP・一〇三ページ
6、	5T・二一八ページ	14、	CT・三二七、三二八ページ
7、	CT・三二五ページ	15、	YI・一九〇六年八月一四日
8、	1T・五〇一ページ		

## 第八章

## レクリエーションに関する少年の考え方の指導

標準が低下されている クリスチャンである両親たちは、自分の子供らの世を愛する気持ちに譲歩している。彼らは一度は禁止したような娯楽に対して門戸を開いている。<sup>1</sup>

クリスチャンである両親の間にさえも、娯楽を愛好することを是認する気持ちがあまりにも強すぎる。両親はこの世の格言を受け入れて、子供や青年は、年少のころに軽々しい事や利己的の娯楽やばかげた放縦に時間をむだに費やすことが必要であるという、一般に行なわれている考え方に賛成している。このようにして刺激的な快楽を好む性癖がつくり出され、子供や青年は興奮するようなみせものを喜ぶようになり、そのため、人生のまじめで有益な義務を全くきらうようになる。彼らはむしろ動物的な生活をおくるようになる。神や永遠の真実に関する考えはもたず、季節の蝶のように飛びまわるのである。彼らは神の生命にくらべられるような生命をもち、自分のすべての時間について神に責任を負わねばならない分別のある人間として行動しない。2

母親は娯楽を考え出し、指導しなければならない

母親は、子供たちの騒がしさに悩まされたり、

子供たちの世話にわずらわされたりしたくないために子供たちを目の前から追い払うようなことをしないで、子供たちの落ち着かない活発な心をなだめて、何かの娯楽か、あるいは軽い楽しい仕事に向けることが、母親にとって自分の時間を最も有効に用いているのであると感ずるようになる。母親が子供たちのために娯楽を考え出すのに払った努力と、費やした時間とは十分に報いられる。

小さな子供たちは仲間を求める。一般に子供たちは自分一人では楽しまない。そしてたいていの場合は、子供たちが家にいるときには母親のいるへやが子供たちにとって最もよい場所であることを、母親は感じなければならない。そうすると母親は子供たちを監督することができ、子供たちが訴えてきたときにはちよつとした不和でも正す用意ができており、またまちがった習慣や、利己主義や激情のあらわれを矯正することができ、彼らの心を正しい方向に向けかえることができるのである。子供たちは自分の楽しむことを、母親もいっしょになつて楽しむことができると思ひ、彼らの小さな困つたことを母親に相談することは全く自然である。そして母親は敏感な子供たちに対して、彼らの問題を無関心に扱つたり、そのような小さなことにわずらわされるのを拒んで、子供たちの心を傷つけてはならない。母親にはさ細なことと思われることも、子供たちにとっては大問題である。そして時期になつて、適切な指示あるいは注意することばを与えることは、しばしば非常な価値のあることがわかる。 3

**無邪気な快楽を拒んではならない** 時間もなく考えも足りないため、多くの母親が子供に無邪気な楽しみを与えるのを拒みながら、忙しく指を動かし、疲れた目でただ子供のからだを飾るための

仕事に営々とたずさわり、いくら考えても、子供の心に虚栄心と浪費の精神を助長する助けにしかないことのために働いている。子供は成人するにつれて、こうしたことから学んだことが実を結び、高慢な、道徳的に価値のない者となってしまうのである。母親は子供の欠陥を嘆くが、自分が刈り取ったものは自分がまいたところの実であることがわからない。

ある母親は子供の取り扱い方がいつもきまっておらず、ときには子供の害になることでも思うままにさせているかと思うと、ときには子供の心を非常に喜ばせる無邪気な楽しみでも許さない。これではキリストに似たやり方ではない。キリストは子供を愛し、その感情を理解し、子供が楽しい時も、悩んでいる時も子供に同情を示された。4

#### ホワイト夫人はどのように彼女の子女を制止されたか

子供たちがこの友だちのところへ行きたいとか、あの娯楽のパーティーに加わりたいたとかと頼んだときには、次のように言ってやりなさい。

「子供たちよ、私はあなたがたを行かせてあげられません。ここへちよつとすわりなさい。その理由を話してあげましょう。私は永遠と神のための働きをしているのです。神はあなたがたを私にお与えになり、私の監督下におくようにおゆだねになりました。子供たちよ、私はあなたがたに対して神の代理の役目をさせられているのです。したがって神の日に報告しなければならぬ者として、私はあなたがたを見張っていなければなりません。あなたがたは、自分の母親が子供たちに対する義務を果たすことに失敗した人間となり、敵を入りこませて、母親である私が占めるべき位置を敵に先取させるようなことをした人間として、天の書に名前を記入されるようになることを望みます」

か。私はあなたがたにどれが正しい道であるか話してあげましょう。そしてもしあなたがたが母親に背を向けて悪の道にはいることを選ぶならば、あなたがたの母親は潔白ですが、あなたがたは自分の罪の報いを受けねばなりません。」

これが私の子供たちに対して取った道であった。そして私が自分の話を終わらないうちに、子供たちは泣いて、「私たちのために祈ってください」と言った。私は子供たちといっしょに祈ることをこぼんだことはなかった。私は彼らのそばにひざまずいていっしょに祈った。それから私は子供のそばを離れて、太陽が空に上ってくるまで夜通し、神に、敵の魔力が打ち破られるようにお願いし、勝利を得た。私は徹夜の苦勞をしたが、子供たちが私の首にだきついて「お母さん、私たちは自分の行きたいところへお母さんが行かせてくださらなかったことをたいへん喜んでおります。今それはまちがいであったことがわかりました」と言ってくれた時に、私の努力は豊かに報いられたことを感じた。

両親がたよ、これがあなたがたが本気で働かねばならない方法である。もしあなたがたの子供たちを神の王国へ救ってやりたいと期待するならば、このような働きをしなければならない。5

# めんどろな十代の子供の問題

現在の社会状態では、自分の子供たちを制止し、聖書の正義の法則にしたがって教育することは、両親にとって容易な業ではない。子供たちは抑制されると、しばしばしんぼうでなくなり、自分かつてな道を選び、自分の欲するままに行動しようと望むようになる。ことに十才から十八才までは、若い仲間の世俗的な会合に加わることによって、何ら害は

生じないのだと感じがちである。しかし経験を積んだクリスチャンの両親は、その危険をよく知ることが出来る。彼らは子供たちの特別な氣質をよく理解しており、これらのことが子供たちの心にどんな影響を与えるかを知っている。そして彼らを救ってやりたいという願いから、これらの刺激的な娯楽を避けさせるようにすべきである。6

**改心の後にも警戒を怠らないことが特に必要である**

子供たちがこの世の快樂を離れて、キリストの弟子となることを決心するとき、注意深く、信仰心のあつい両親の心からどれほど重荷が取り除かれることであろう。しかしそのときでさえも、両親はほねおることをやめてはならない。これらの青年たちは、ちょうどこの時、罪と生来の心の悪に対して熱心な戦いを始めたのである。そして特別な意味で、両親の勧告と監視とを必要とするのである。7

**子供たちを世俗的な魅惑から守る秘訣**

どれほど多くの両親たちが自分の子供たちを家庭にとめておくことができず、子供たちが家庭を愛してくれないという事を嘆き悲しんでいることであろう。子供たちは年少のころには見知らぬ仲間に加わりたいたいという熱望を抱き、かなりに成長すると直ちに、自分たちにとって行動の束縛となり不合理な抑制であると思われるようなことを打ち破って、それから抜け出す。そして母親の祈りにも父親の忠告にも耳を傾けない。いろいろしらべてゆくとたいいてい罪が両親にあることがわかる。彼らは家庭を本来の姿、すなわち家庭を親切なことばや楽しい顔や真の愛といったもので魅力あるもの、また楽しく光り輝くものにしなかつたのである。



あなたの子供たちを救う秘決は、あなたの家庭を楽しく魅力的にすることにある。両親の放縦が子供たちを神へも家庭へも結びつけなくしている。精神を適切に訓練し教育するための確固としたきよい感化が、多くの子供たちを破滅から救うのである。8

子供たちの出入りを見張ることは両親の務めである。両親は子供たちを激励し、家庭に彼らをひきつけ、両親が彼らに関心を十分抱いていることを知らせるような方法を講じなければならない。両親は家庭を楽しく快活なものにしなければならない。9

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1、M S S・一九・一八九九年          | 5、M S S・七〇・日付不明  |
| 2、Y I・一八九三年七月二〇日          | 6、C T・三二七ページ     |
| 3、S A・一三六、一三七ページ          | 7、同・三二七ページ       |
| 4、ミニストリー・オブ・ヒーリング・三五九、三六〇 | 8、R H・一八八四年一月九日  |
| ページ                       | 9、1 T・四〇〇、四〇一ページ |



第一  
八部

あ  
な  
た  
は  
報  
い  
ら  
れ  
る  
で  
あ  
ろ  
う



## 第八章

### 現世及び来世における報い

信仰あつゝい両親には、豊かな報いが待ちうけている

もし両親が自分の子供に適切な教育を施す

ならば、子供たちの品性をキリストに似たものにしようとする実を見ることがよつて、彼ら自身が幸福にされる。彼らはよく秩序の保たれた、そして訓練の行き届いた家族を世の中に示すことによつて、神に最上の奉仕をしているのである。それらの家族は神をおそれるばかりでなく、他の家族に自分たちの感化を及ぼして、神をほめまつり、栄光をたたえるのである。そして彼らはその報いを受けるであらう。 1

信仰あつゝい両親がたよ、あなたがたは自分の子供たちの足取りを、その宗教的な経験についてさえも指導してやらねばならない責任重大な務めをもっている。子供たちがほんとうに神を愛するとき、彼らはあなたがたが示してくれた心づかいと、あなたがたが彼らの欲望を制止し、彼らの意志を心服させた誠実さとに對して、あなたがたを祝福し、敬意を示すであらう。 2

真理の種が心の中に早くまきつけられて注意深く世話されるときに、必ず報いが得られるのである。 3

両親は将来の収穫を望んで働かねばなりません。多くの失望落胆の間に涙を流して種をまく一方で、熱心な祈りをささげなければならない。両親たちは非常に遅れた、そして乏しい収穫しか得られないような見込みしかないかもしれないが、種まきをやめてはならない。両親は、水のある場所へはどこへでも種をまき、自らを向上させまた子供たちを益するあらゆる機会を捕えるべきである。そのような種まきは決してむだではない。収穫の時期になれば、多くの信仰あつい両親は、自分たちの刈り取った束をもって、喜びに包まれて帰ってくるであろう。 4

あなたがたの子供たちに知的な教養と道徳的な訓練を与えなさい。彼らの若い精神を確固としたしかも純粋な原則で防備しなさい。機会の与えられている間に、りっぱな男女となる基礎をかためなさい。あなたがたの働きは千倍にもなって報いられるであろう。 5

**両親は天国にはいるのにふさわしい子供たちから尊敬される**

神のみことばの中に、幸福な家庭とその家庭を主宰する婦人についてのうるわしい描写がみいだされる。「その子らは立ち上がって彼女を祝し、その夫もまた彼女をほめたたえて言う」（箴言三一ノ二八）。家庭の主婦は、ここに表現されている以上の称賛の言葉を望むことができるであろうか。 6

もし真の妻であり母である彼女が、神に向かって自分の力と慰めとを求め、神の知恵と神に対するおそれの中に日常の務めを果たして行こうと求めてゆくならば、彼女は夫を自分の心に結びつけ、また子供たちは母親の模範にならう道徳的な精力をもって、りっぱなおとなになってゆくのである。 7

ほねおって働く、重荷を背負った母親にとって大きなげましは、正しく訓練されて、内面的な飾りすなわち謙そんでおだやかな精神という飾りをもった子供たちが、天国にはいるのにふさわしい人となり、主の宮に輝くことでなければならぬ。8

天国の喜びは家庭の中に始まる

今日、天と地は、羊飼いたちが天使たちの歌をきいた時よりも広いへだたりがあるのではない。人類はいまなお、普通の職業についている普通の人たちが、昼間天使たちと会い、ぶどう園と畑で天の使者たちと語った時と同じに、天の関心のまどである。人生の平凡な世渡りをしているわれわれにとって、天は非常に近いことがある。天の宮廷からの天使たちは、神が命じられるままに動きまわる人たちの歩みにつきそうであろう。9

地上の生活は天上の生活の始まりである。地上の教育は天の原則の初歩である。この世の人生の働きは来世の人生の働きのための訓練である。品性においても、聖なる奉仕においても、現在のわたしたちの姿は、来世におけるわたしたちの姿をうつした確かな影である。10

誠実な心からなされる奉仕には、大きな報いがある。「隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう」(マタイ六ノ四)。キリストの恵みによって生きる生活を通して、品性が形成される。魂には本来の美しさが回復しはじめる。キリストの品性の特徴がわけ与えられ、神のみかたちが光を放ち始める。神と共に歩み、働く男女の顔には、天の平安があらわれる。彼らは天のふんいきでかこまれる。このような魂には、神のみ国がじまつたのである。彼らには、キリストのよろこび、すなわち人類の祝福となつていふというよろこびがある。彼らには、主のご用に

受け入れられるという光栄がある。彼らは、主のみ名によって、主の働きをするように信任されている。<sup>11</sup>

すべての人は天国の社会に加わるのにふさわしい者とならねばならない

神は天のご計画が実行

され、天の神聖な秩序と調和があらゆる家族、あらゆる教会、あらゆる団体の中に普及してゆくようにと望んでおられる。この愛が社会に感化を与えるならば、私たちはクリスチャンの上品さと礼儀正しさ、そしてクリスチャンの慈悲がキリストの血にあがなわれた者に対してあらわされて、高貴な原則の完成を見るであろう。霊的な変化は、すべての私たちの家族や、私たちの団体や教会の中に見られるのである。このような変化がおこるとき、これらの機関は、神が天国の光をこの世にお与えになり、かくして神の規律と訓練を通じて男女が天国の社会に加わるのに適した人間となるような媒介役をつとめるようになるのである。<sup>12</sup>

最後の審判の日における報い

子供たちに対するあなたの働きのうちに、神の強いみ力をしつか

りとかみなさい。祈りのうちにあなたがたの子供を神にゆだねなさい。彼らのために熱心に、そしてたゆまず働きなさい。神はあなたの祈りを聞き入れて、彼らをご自身のもとへ引きよせてくださる。それから最後の審判の日に、あなたは彼らを神のみもとに連れて行って、「見よ、わたしと、神がわたしに賜わった子らとは」と言うことができる（ヘブル二ノ一三）。<sup>13</sup>

サムエルが栄光の冠をうけると、彼はそれをみ座の前でうやうやしく振り、彼の母親の信仰あ



つい教訓がキリストのいさおしを通して、彼に不死の栄光をかぶらせてくれたことを喜んで認めるであろう。<sup>14</sup>

賢明な両親の働きはこの世では決して評価されないことであろう。しかし審判の座において、天の書が開かれるときに、彼らの働きを神がどのようにご覧になっ  
ているかがわかり、人々と天使たちの前で報いが与えられるのである。信仰の道に育てられた一人の子供は、この世界で光となっていたことがわかるであろう。この子供の品性を育成するための監督には、涙と心配とねむられぬ幾夜とが必要であつたか、その働きは賢明に行なわれて、両親は主イエスの「よくやった」というみことばを聞くのである（マタイ二五ノ二一）。<sup>15</sup>

#### 王の宮殿に入ることとめられる権利書

青少年や幼い子供たちに、天の織機で織られた高貴な衣、すなわち地上のすべての聖者たちに着ることを許される「光り輝く、汚れない麻布の衣」を自分のためにえらぶことを教えるべきである。キリストの汚れなきご品性をあらわすこの衣は、すべての人に価なくして与えられる。しかしこの衣を与えられる人はみな、この世においてこれを受けて身につけるのである。

子供たちが心を開いて、純真な愛の思いを持ち、人の助けとなる愛の行為をなすとき、彼らは自らキリストの品性という美しい衣を身につけるのであるということを、教えなければならない。この衣服は、この世において彼らを美しく愛せられる者とし、来世においては、彼らが王なるキリストの宮殿に入るための資格となるのである。キリストの約束は、「彼らは白い衣を着て、わたしと

共に歩みを続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である」(黙示録三ノ四)。 16

### 救われた者に対する聖なる歓迎

私はおおぜいの天使たちが天の都から栄光に輝く冠をもつてくるのを見た。それは、その上に各人の名がしるされている聖徒のための冠であった。イエスが冠をお求めになると、天使たちはそれをみ前に差し出した。そして愛に満ちたイエスはご自分の右手でそれらの冠を聖徒たちの頭上にのせられた。同じようにして天使たちは立琴をもってきた。そしてイエスはそれらをまた聖徒にお与えになった。指揮者である天使が最初の調べを演奏した。そうすると皆が感謝と満足に満ちた賛美の声をあげた。そして皆の者の手がたくみに立琴の絃をかき鳴らし、豊かで完全な歌の調べをおくり出した。

それから私はイエスが救われた仲間を天の都の門に連れておいでになるのを見た。主は門に手をかけ、その光っているちようつがいの戸をあけ放ち、真理を守った諸国民に、中へはいるようにとお命じになった。都の中には目を楽しませるすべてのものがあつた。どこにもすばらしい栄光が見られた。それからイエスが救われた聖徒たちをご覧になった。彼らの顔は栄光に輝いていた。そしてイエスが慈愛に満ちた御目を彼らに向けられたとき、次のように言われた。「私は自分の魂の苦しみを見て満足する。この豊かな栄光はあなたがたが永遠に楽しむものである。あなたがたの悲しみは終わった。もはや死もなく、悲しみも叫びもないであろう。また痛みもないであろう。」私はおおぜいの救われた人々がひざまずいて、彼らの光る冠をイエスの御足もとに投げ出すのを見た。そのとき主の慈愛に満ちたみ手が彼らをおこされた。彼らは自分のもっている金の立琴をとり

上げて、小羊をたたえる豊かな音楽と歌声で全天を満たした。……

ことはあまりに無力なため、天国の描写を試みることができない。その光景が私の前に示されたとき、私は驚きのあまりわれを忘れた。比類のない壮麗さとすばらしい栄光に圧倒されて、私はペンをおいて叫んだ、「ああなんとという愛、なんとすばらしい神の愛だろう。」いかに高尚なことばをもつてしても、天国の栄光や救い主の愛のはかりがたい深さを言いあらわすことはできない。17

- |    |                     |     |                  |
|----|---------------------|-----|------------------|
| 1、 | R H・一八九六年一月一七日      | 10、 | 教育・三七八ページ        |
| 2、 | 1 T・四〇三ページ          | 11、 | 各時代の希望・第二卷・二二ページ |
| 3、 | C T・一四四ページ          | 12、 | 8 T・一四〇ページ       |
| 4、 | R H・一八八一年八月三〇日      | 13、 | M S S・一四・一九〇三年   |
| 5、 | C T・一三一ページ          | 14、 | G H・一八八〇年三月      |
| 6、 | H R・一八七七年二月         | 15、 | S・一八八八年七月一三日     |
| 7、 | S・一八七七年一月二九日        | 16、 | 教育・三一、三一二ページ     |
| 8、 | 3 T・五六六ページ          | 17、 | E W・二八八、二八九ページ   |
| 9、 | 各時代の希望・第一卷・三四、三五ページ |     |                  |

## 第八十六章

## エデンの園における生活

**エデンの園の復活** エデンの園は、人間がその楽しい道から追放された後にも、この地上に長く残されていた。監視する天使たちによって入口が閉ざされてはいたが、墮落した人類は、その純潔な園を長らくながめることを許されていた。ケルビムが見張りをしている楽園の門では神の栄光が示されていた。ここへ、アダムと彼のむすこたちは神を礼拝するためにやって来た。彼らは神の律法を犯してエデンから追放されたのであるが、ここでこの律法に服従する誓いを新たにした。不法の風潮が世界に充満し、人間の不道徳が大洪水による彼らの滅亡を決定したとき、エデンをおつくりになった神のみ手がこれを地上から取り去られた。しかし、「新しい天と新しい地」（黙示録二一ノ一）があらわれる最後の万物の改新の際には、当初のものよりも、もっと栄光輝く装いをもった楽園が復活されるのである。

そのとき、神の戒めを守った人々は生命の木の下で不死の活力を呼吸することであろう。そして罪のない諸世界の住民は、終わりのない永遠の年月の間、その喜びの楽園の中で、神の創造された完全な作品の実例、罪ののろいを受けていない見本を見るであろう。すなわち人間が創造主の栄光

に輝くご計画を実行しさえしたならば、全地がそうになったと思われるきよい姿を見るであろう。1  
救いの偉大なご計画は、完全にこの世界を神に喜ばれるものにするものである。罪によって失われたものはすべて取り返されるのである。服従する者の永遠の住居となるために、人間だけでなく、この地が救われるのである。六千年の間、サタンはこの地上を所有し続けようと戦ってきた。今こそ神の御創造についての本来の目的が成就するのである。「いと高き者の聖徒が国を受け、永遠にその国を保って、世々がぎりなく続く」(ダニエル七ノ一八)。2

### 神につける者のあがない

神がこの地上を創造された本来の御目的は、それが救われた者の永遠の住居となるとき達成される。「正しい者は国を継ぎ、とこしえにその中に住むことができる」(詩篇三七ノ二九)。アダムとエバが炎のつるぎによってエデンの園からしめ出されて以来、聖徒たちが待ちこがれていた時がやってきた。すなわち「神につける者のあがない」の時がきた(エペソ一ノ一四)。もともと人間の王国として与えられたこの地上が、彼によってサタンの手に売り渡され、長い間にわたってこの有力な敵に支配されていたが、偉大な救いの計画によって取りもどされたのである。3

最初の人アダムによって失われたすべてのものは、第二のアダムによって取り返されるのである。預言者はこう言っている。「羊の群れのやぐら、シオンの娘の山よ、以前の主権はあなたに帰ってくる」と(ミカ四ノ八)。そしてパウロは「神につける者のあがない」を指摘している(エペソ一ノ一四)。

神はこの地上をきよく、幸福な人間の住居となるように創造された。その御目的は、この地上が神の御力によって更新せられ、罪と悲しみから解放されて、救われた者の永遠の住居となるときに達成されるのである。4

**アダムはエデンの園に回復される** エデンから追放された後、アダムの地上における生活は、悲

しみにつつまれたものであった。枯れて散ってゆく木々の葉、犠牲の動物、自然のおもてを傷つけるもの、人の子の純潔を汚すもの等はすべて、彼の罪を新しく思い出させた。彼は不法がはびこっているのを見た時、良心の苛責による苦悶におそれおののいた。そしてこれに対して彼が警告を与えると、かえって罪をひき起こした本人として人々から非難を浴びせられた。彼は約千年の間忍耐強いけんその気持ちを抱いて、罪の刑罰に耐えた。彼は誠実に自分の罪を後悔し、約束の救い主のいさおしに信頼し、復活の希望を抱いて死んだ。神の子イエスは人間の失敗と墮落をあがなわれた。そして今はあがないのお働きを通して、アダムは彼が失った最初の領土を取りもどしたのである。

彼は喜びに満たされて、かつて自分にとって喜びであった木々、すなわち彼が罪の汚れをもたない喜びの日に自分でその実を集めていたあの木々をながめる。彼は自分で手入れをしたぶどうの木や、かつて喜んで世話をしていた花を見る。彼はそれがまちがいなく以前の光景であったことを意識し、これがほんとうに復活したエデンの園であり、そこから追放された時よりもいっそう美しいものであることに気づく。救い主は彼を生命の木のところへ連れてゆき、光り輝く実をもちで彼に食べるように命じられる。彼は周囲を見回して自分のおおぜいの家族が救われて、神の楽園の中

に立っているのを見る。そこで彼はイエスの御足許にきらめく冠を投げ出し、そのみ胸によりかかって救い主を抱擁する。彼は黄金の立琴をかき鳴らし、天空の円屋根は「一たび殺されて再び生きたもうた小羊こそ、賛美を受くべきものである」という勝利の歌をこだまする。アダムの家族はその調べに和し、救い主の御足許に自分たちの冠を投げ出し、主をあがめてみ前にひれ伏す。

アダムの墮落を見て泣き、イエスが復活の後に天国にのぼっておいでになったとき、み名を信ずるすべての人々の墓を開かれたときに、喜んだ天使たちがこの再会を目撃する。今や彼らは救いのみ事業が完成したのをながめて、声をあわせて賛美の歌を歌うのである。5

#### この世の旅人のために備えられた住居

私たちの未来の嗣業があまりにも物質的であるように思われることの懸念から、多くの人たちはそれを私たちの家郷としてながめさせる真理そのものを精神的なものにしている。キリストは弟子たちに、ご自分が父なる神の家に彼らのために住居を準備すると保証された。神のみことばの教えを信受する人々は、天国の住居に関して全く無知ではないのである。……人間のことは義人の受ける報いを書きあらわすには不適當である。それは自分の目で見る人々にだけわかるので、限りある人間の心は神の樂園の栄光を理解できない。

聖書の中では、救われた者の嗣業を国とよんでいる。そこでは天の羊飼いであられるイエスがご自分の群れを生命の泉にみちびかれる。生命の木は毎月その実をならせ、いろいろの木の葉は万民の用に供される。水晶のようにすきとおった、尽きない川の流れがあり、その岸辺には風にそよぐ木々が、主にあがなわれた人たちのために備えられた道の上に、その影を投げかけている。広大な

平野のすそは美しい丘の起伏となり、神の山々がその高い頂上をそびえ立たせている。長い間巡礼者であり放浪者であった神の民らはそれらの平和な平野に、生き生きした流れのほとりに、自分の家を見いだすのである。6

地上の巡礼者のためには家がある。義人のための衣があり、栄光の冠と勝利のしゅろの葉がある。神のみ摂理のうちに私たちを悩ませたすべてのものは、来たるべき新しい世界で明白にされる。理解するのに苦しんだことが、その時になると意味をわからせてもらえる。御恵みの神秘が私たちの前に明らかにされる。私たちの限りある心がただ困惑と約束の破棄だけを見いだしたところに、わたしたちは最も完全で美しい調和を見るのである。無限の愛の神が、最も苦しい試練のように思われた体験をお与えになったということを知るようになる。すべてのものが働きあつてわたしたちの利益となるようにしてくださった主イエスのやさしい御心づかいを認めるとき、ことばに言いあらわせない、栄光に満ちた喜びにつつまれるであろう。…

私たちは家路へ向かつているのである。わたしたちのために死んでくださったほどに愛してくださった主は、私たちのために都をおつくりになった。新しいエルサレムはわたしたちのいこいの場所である。神の都には悲しみはない。悲しみの泣き叫ぶ声や、希望を打ち砕かれ、愛情を裏切られて悲しむ挽歌（ばんか）も、そこにはもはや永久に聞かれることはない。間もなく悲しみの衣服は、婚姻の服にとつてかえられる。間もなくわたしたちは王でいますイエスの即位式を見るのである。自分の生命をキリストと共に埋められた人々、この地上で信仰の良き戦いをたたかった人々は、神の王国の中で救い主の栄光によって輝くであろう。7



救われた者の特権

天国はよい場所である。私はそこにいて、私のためにご自分の生命を与えてくださった愛するイエスをながめ、その栄光あるみかたちに変えていただきたくと熱望している。ああ、来たるべき輝かしい世界の栄光を言いあらわすことばがほしい。私は神の都を喜ばしいものにして、生命の水の流れを渴望している。

主は私に他世界の光景を示された。私は翼が与えられ、その都から輝かしい栄光の場所へと、一人の天使が私に付き添ってくれた。その草は生き生きとした緑色で、小鳥はかわいらしい歌をさえずっていた。その住民は、大きい人も小さい人もいた。彼らは高貴で気高く、愛らしい人たちであつた。彼らはイエスのみかたちを反映し、その顔はきよい喜びに輝き、その場所の自由と幸福を表わしていた。私は彼らの一人に、どうして地上に住む人々よりもずっと美しいのですかと問いかけた。その答えは次のようであつた。「私たちは神の戒めに厳格に服従して生きてきました。そして地上に住む人々のように不従順によつて墮落しなかつたのです。……私は付き添っている天使に、この場所に私をとどめておいてくれるようにたのんだ。この暗い世界に再びもどつてくる気になれなかつた。そのとき天使は言った。「あなたはもどつてゆかねばなりません。もしあなたが忠実であるならば、十四万四千人と共に（黙示録一四ノ四）、すべての他世界中を訪ね、神のみ手のわざをながめる特権をもつことでしょう」と。<sup>8</sup>

天と地の一つに結びついた家族

あがなわれた者は、そこでは「完全に知られているように完全を知る」に至るのである（コリント第一・一三ノ一二）。神が彼らの魂の中に植えつけられた愛と

同情とは、そこでは最も美しく、最も真実に發揮されるのである。聖徒たちとのきよらかな交わり、祝福された天使たちや、その衣を小羊の血で洗って白くなった各時代の忠実な人々との調和した生活、「天と地にある全家」を共に結んでいるきよいきずな（エペソ三ノ一五）　これらはあがなわれた者の幸福のみなもととなっているのである。9

救われた諸国民は、天国の律法以外の法律は知らない。すべての民は賛美と感謝の衣を身につけた幸福な一致した家族である。その光景をみて、「明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばれる」（ヨブ三八ノ七）。一方では、神とキリストがいつしよになって次のように言明されるであろう。「もはや罪もなく、死もない。」<sup>10</sup>

この天のよろこびの光景から「わたしは、わたしの父またあなたがたの父であつて、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上つて行く」とのキリストご自身のすばらしいみことばの反響が、地上のわたしたちのもとに返ってくる（ヨハネ二ノ一七）。天の家族と地の家族は一つである。わたしたちのために主はのぼり、わたしたちのために主は生きておられる。「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によつて神に来る人々を、いつも救うことができるのである」（ヘブル七ノ二五）。<sup>11</sup>

**主の御約束は遅れていても、確かである**

長い間、私たちは救い主の再臨を待つてきた。それでもなお、御約束は確かである。まもなく私たちは約束された家郷にはいるであろう。そこではイエスがわたしたちを、神のみ座から流れてくる生ける流れのほとりに連れていってください、この地上

で主が私たちの品性を完成するためにお与えになった暗い摂理を説明してくださるであろう。またそこでは、回復されたエデンの園の美しさをはつきりとながめるであろう。私たちは、あがない主が私たちの頭にかぶせてくださった冠を御足もとに投げ出し、黄金の立琴をかき鳴らして、み座に坐しておいになる主を賛美する歌声を全天に満ちあふれさせるであろう。 12

地上の家におけるすべての美しいものによって、天国の家における水晶のような川、緑の野原、風にそよぐ木々、生ける水の泉、輝かしい都、白い衣を着て歌う人たちなどを思い起こそう。この天国の世界の美しさは、どんな画家もえがくことができず、また人間の口では言いあらわすことができない。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」(コリント第一・二ノ九)。 13

1、P P・六二ページ  
2、同・三四二ページ  
3、S・一九〇九年一月二十九日  
4、R H・一九〇八年一月二十二日  
5、G C・六四七、六四八ページ  
6、R H・一九〇八年一月二十二日  
7、T・二八六、二八七ページ

8、E W・三九、四〇ページ  
9、G C・六七七ページ  
10、P K・七三二、七三三ページ  
11、各時代の希望・第三巻・三八七ページ  
12、R H・二五四ページ  
13、R H・一八八二年七月一日

## 第八十七章

## 新天新地の描写

未来の栄光についてのまぼろし イエスをかしらとして、わたしたちは皆、天の都からこの地上の大きな山へくだった。山はイエスのご臨在に耐えられず、引き裂かれてそこには巨大な平原が生じた。それからわたしたちは、十二の基礎と十二の門をもった大きな都を見あげた。十二の門は四方におのおの三つずつあり各門には天使が立っていた。私たちはみな叫んだ。「都だ、大いなる都だ。天から神のみもとから都がくだってくる」と。都はくだってきて、私たちの立っているところにおちついた。そこで私たちは都の外側にある輝かしいものをながめ始めた。そこに私は最もすばらしい家を見た。それは銀色をしており、見たこともないようなすばらしい真珠をちりばめた四本の柱でささえられていた。これらの家は聖徒が住むためのものであった。おのおのの家には黄金の棚があつた。私はたくさんの聖徒が自分の家へはいってゆき、きらめく冠をぬいで、それを棚の上にのせ、それから家のそばの野原に出て、何か土いじりをしているのを見た。それは現在私たちがこの地上でやっているような土いじりとは全くちがっていた。彼らの頭のまわりには栄光が輝いていた。そして彼らはたえず神を賛美していた。

私はあらゆる種類の花が咲き乱れている別の野原を見た。私はそれをつみながら「これらの花は決してしまないだろう」と叫んだ。次に私は背丈の高い草の野原を見た。それは最もすばらしいながめであった。生き生きした緑色をし、王なるイエスの栄光を誇らしげに輝かしながら、銀色や金色に反射していた。つぎに私たちはあらゆる種類の獣たちのいる野原へはいつて行った。そこではライオン、小羊、ひょう、おおかみがみんな仲よくしていた。私たちはそれらの獣の中を通ったが、彼らはおとなしく後について来た。

それから森の中へはいつて行った。それはこの地上にあるような暗い森ではなく、それどころか明るく栄光に満ちていた。木々の枝はあちこちにゆらぎ、私たちはみなで、「われらは心を安んじて荒野に住み、森の中に眠る」と叫んだ。 1

**来世において学ぶ事から**      あなたは来世では何も学ばないと考えるだろうか。私たちはそのとき目の前にあらわれることがらについてすこしも考えない。私たちはキリストといっしょに生きた川の流れのほたりを歩くのである。主は私たちに自然の美しさと栄光とを見せてくださる。私たちに對する主の關係と、主に對する私たちの關係を、主は啓示される。今は限りある能力のために知ることのできない真理を、来世では知るに至るのである。 2

クリスチャンの家庭は、子供たちが神の宮にある上級学校へと卒業して行く訓練学校である。 3  
天は学校である。その研究の分野は宇宙であり、その教師は限りなきお方にいます神である。この学校の分校がエデンに設けられたのであった。救済の計画が成就されると、教育は再びエデンの

学校にもどるのである。……

創世の時にエデンに設けられた学校と来世のエデンの学校との間には、人類の墮落と苦難、神の犠牲、死と罪に対する勝利など、この世の歴史の全範囲が横たわっている。……神のみに立ち帰った人類は、創世の時と同じようにふたたび神から教えられる。「わが民はわが名を知るにいたる。その日には彼らはこの言葉を語る者がわたしであることを知る。わたしはここにおる」(イザヤ五二ノ六)。……

新天新地においては、私たちの目をくもらせていたベールが取り除かれる。顕微鏡でちらつとぞいた美しい世界がまのあたりにながめられ、望遠鏡を通してはるか遠くに見えた天の栄光が、まのあたりに仰がれる。全地は罪の傷あとを取り除かれて主なる神工ホバの美しさにつつまれて現われる。その時、なんというすばらしい研究の分野が、私たちの眼前に開かれることであろう。4

#### 天国についての知識がすこしずつ与えられる

宇宙のあらゆる宝庫は、神によつてあがなわれた者の研究資料として開放される。なんら死すべき者としての拘束なくして、彼らは疲れることのない翼で遠くまで飛び、他世界 かつては人間の世界の悲惨を見ては嘆き悲しみ、一人の魂が救われたというおとずれを聞いては喜びの歌をかなでた他世界を訪れる。地上の子らは言いあらわし得ないほどの喜びに満たされて、墮落しなかった他世界の喜びと知恵にあずかることができる。彼らは、神の手のわざを見つめることによって、各時代をかさねて得られた知識と悟りの宝にあずかる。くもりのない目でもって彼らは創造の栄光 もろもろの太陽、星、諸系統がおのおの指定せ

られた秩序を保って、神のみ座をめぐる有様をながめる。そしてすべてのものの上に、大より小にいたるまで、創造主のみ名がしるされ、すべてのものの中に神のみ力の富があらわされている。

永遠の年月が経過するにつれて、神とキリストについてますます豊かな輝かしい啓示が与えられる。このように知識が進歩するのと同じように、愛も尊敬も幸福もますます増してゆく。人が神のことについて学べば学ぶほど、神のご品性に対する賛美の気持ちは強くなる。 5

**社交生活**   そこでは私たちが知られているように私たちも知るであろう。そこでは、神が人の魂にうえつけられた愛と同情心が、最も真実に最も美しく発揮されるであろう。聖徒たちとの清い交際、聖なる天使たちや各時代の忠誠な人々との円満な社交生活、「天と地にある全家」を一つに結びつける交際 こうしたことのすべてが来世の生活の中にあるのである。 6

**新天地における仕事**   新しくなった地では、あがなわれた者は創世の時にアダムとエバに幸福をもたらしてくれた仕事と楽しみをそれぞれ持つのである。エデンの園での生活、すなわち畑と野原の生活が送られる。「彼らは家を建てて、それに住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。彼らが建てる所には、ほかの人は住まず、彼らが植えるものは、ほかの人が食べない。わが民の命は木の命のようになり、わが選んだ者はその手のわざをながく楽しむからである」(イザヤ六五ノ二一、二二)。 7

そこではあらゆる能力が発達し、あらゆる才能が増し加わるであろう。どんな大事業も遂行され、どんなに高遠な抱負も達成され、どんなに遠大な目的も実現されるであろう。それでもなお、更に

越えるべき新しい高さ、感嘆すべき新しい驚異、理解しなければならぬ新しい真理、知・徳・体の能力を要する新しい目的があらわれるであろう。8

### 成就のせとぎわにきて

私たちは、この世の歴史の最も厳粛な時代に生きている。罪をおかしている時間はない。罪をおかし続けることはいつも危険であるが、しかし現在は、それが特別な意味において危険である。私たちは今、永遠の世界へのふちにいたのであり、これまでにないほどに時と永遠というものに対して厳粛な関係に立たされているのである。今こそ、ひとりびとりが自分の心を調べて、あらゆる霊的な暗黒を追い払い、汚れからきよめてもらうために、義の太陽、イエスの輝かしい光をお願いしようではないか。9

成就のまぎわに生きている私たちにとって、来たるべき事件のこれらの描写は、なんと重大な問題であり、また、強い関心をもつべきことであろう。すなわちこれらの事件は、父祖アダムとエバがエデンの園を去って以来、神の子たちが見守り、待望し、待ちこがれて祈ってきた問題である。

この世の旅人である同胞たちよ、私たちは今なおこの地上の活動の暗い影と混乱の中にいる。しかしまもなく、救い主が救いと休息をもたらすためにおいでになるのである。神のみ手によってえがかれた未来の祝福された姿を信仰によって見ようではないか。10

### 各自の準備に対する訴え

天の雲に乗って来られるキリストを迎える準備をするように、あなたにお勧めする。日ごとに、世を愛する心をあなたの心の中から捨てなさい。キリストと交わること



が何であるかを経験によって理解しなさい。審判の準備をしなさい。そしてキリストがおいでになって、すべて信じる者の称賛をお受けになるとき、心安らかに、キリストを迎える者の中に自分もはいつているようにしなさい。その日、あがなわれた人々は、父とみ子の栄光の中に輝く。天使たちは、黄金の立琴をかきならして、王と王の勝利の記念物すなわち、小羊の血によって洗われ、白くされた人々を歓迎する。勝利の歌はなりひびいて、全天に満ちる。キリストは勝利された。キリストは、彼の苦難と犠牲の使命がむだに終わらなかったことの証人として、あがなわれた人々を従えて、天の宮廷にはいられるのである。

11

1、E W・一七、一八ページ  
 2、C T・一六二ページ  
 3、R H・一八九七年三月三〇日  
 4、教育・三七一・三七三ページ  
 5、G C・六七七、六七八ページ  
 6、教育・三七六ページ

7、P K・七三〇、七三一ページ  
 8、教育・三七七ページ  
 9、T M・一四七ページ  
 10、P K・七三一、七三二ページ  
 11、9 T・二八五、二八六ページ

原著	本書	原著	本書	原著	本書
475	544, 545	501	576, 577	525	604, 605
476	545	502	577, 578	526	606, 607
477	547, 548	503	578, 579	527	607, 608
478	548, 549	504	580, 581	528	608, 609
479	549, 550	505	581	529	609, 610
480	550, 551	506	582, 583	530	610, 611
481	552, 553	507	583, 584	533	615, 616
482	553, 554	508	584, 585	534	616, 617
483	554	509	585, 586	535	617, 618
484	556, 557	510	586, 587	536	618, 619
485	557, 558	511	587, 588	537	619-621
486	558, 559	512	589, 590	538	621
487	559, 560	513	590, 591	539	622, 623
488	560-562	514	591, 592	540	623, 624
489	562, 563	515	592-594	541	624, 625
490	563	516	594, 595	542	625, 626
493	567, 568	517	595, 596	543	626, 627
494	568, 569	518	596, 597	544	627-629
495	569, 570	519	598, 599	545	629
496	570, 571	520	599	546	630, 631
497	571, 572	521	600, 601	547	631, 632
498	573, 574	522	601, 602	548	632, 633
499	574, 575	523	602, 603	549	633, 634
500	575, 576	524	603, 604	550	634, 635

原著	本書	原著	本書	原著	本書
352	395, 396	392	443, 444	434	495, 496
353	397, 398	393	444, 445	435	496, 497
354	398, 399	394	445, 446	436	497, 498
355	399, 400	395	447, 448	437	498-500
356	400, 401	396	448, 449	438	500, 501
357	401, 402	397	449, 450	439	501, 502
358	402, 403	398	450, 451	440	502, 503
359	403, 404	401	455, 456	441	503, 504
360	405, 406	402	456, 457	442	505, 506
361	406, 407	403	457, 458	443	506, 507
362	407, 408	404	458, 459	445	509, 510
363	408, 409	405	459, 460	446	510, 511
364	409	406	461, 462	447	511, 512
367	413, 414	407	462, 463	448	512, 513
368	414, 415	408	463, 464	449	513, 514
369	415, 416	409	464, 465	450	514-516
370	416, 417	410	466, 467	451	516, 517
371	417, 418	411	467, 468	452	517
372	419, 420	412	468, 469	455	521, 522
373	420, 421	413	469, 470	456	522, 523
374	421, 422	414	470, 471	457	523, 524
375	422, 423	415	471, 472	458	524
376	423, 424	416	473, 474	459	525, 526
377	424, 425	417	474, 475	460	526, 527
378	425, 426	418	475	461	527, 528
379	426-428	421	479, 480	462	528, 529
380	428	422	480, 481	463	529-531
381	430, 431	423	481, 482	464	531, 532
382	431, 432	424	482, 483	465	532
383	432, 433	425	483, 484	466	533, 534
384	433, 434	426	484, 485	467	534, 535
385	434, 435	427	485-487	468	535, 536
386	436, 437	428	487, 488	469	536, 537
387	437, 438	429	488	470	537, 538
388	438, 439	430	490, 491	471	538, 539
389	439, 440	431	491, 492	472	540, 541
390	440, 441	432	492, 493	473	541, 542
391	442, 443	433	493, 494	474	542, 543



原著	本書	原著	本書	原著	本書
233	255, 256	271	301, 302	314	351, 352
234	256, 257	272	302, 303	315	352, 353
235	257, 258	273	304, 305	316	353
236	258, 259	274	305, 306	317	355, 356
237	259, 260	275	306, 307	318	356, 357
238	260, 261	276	307	319	357, 358
239	262	279	311, 312	320	358, 359
240	263, 264	280	312, 313	321	359, 360
241	264, 265	281	313	322	361
242	265, 266	282	315, 316	323	362, 363
243	266	283	316, 317	324	363, 364
244	268, 269	284	317, 318	325	364
245	269, 270	285	318, 319	326	366, 367
246	270, 271	286	319, 320	327	367, 368
247	271, 272	287	320, 321	328	368, 369
248	273, 274	288	321, 322	329	369, 370
249	274, 275	289	322, 323	330	370, 371
250	275, 276	290	324	331	371, 372
251	277, 278	292	326, 327	332	372, 373
252	278, 279	293	327, 328	333	373, 374
253	279, 280	294	328, 329	334	374-376
254	280, 281	295	329, 330	335	376, 377
255	282, 283	296	330	336	377, 378
256	283, 284	297	331, 332	337	378, 379
257	284, 285	298	332, 333	338	379, 380
258	285, 286	299	333, 334	339	380
259	286, 287	300	334, 335	340	382, 383
260	288, 289	301	336, 337	341	383, 384
261	289, 290	302	337	342	384, 385
262	290, 291	305	341, 342	343	385, 386
263	291	306	342, 343	344	386, 387
264	293, 294	307	343, 344	345	387-389
265	294, 295	308	344, 345	346	389, 390
266	295, 296	309	345, 347	347	390
267	296, 297	310	347, 348	348	391, 392
268	297, 298	311	348	349	392, 393
269	298	312	349, 350	350	393, 394
270	300, 301	313	350, 351	351	394, 395

原著	本書	原著	本書	原著	本書
109	110, 111	149	156, 157	191	206, 207
110	111, 112	150	157, 158	192	207, 208
111	112, 113	151	158, 159	193	208, 209
112	113, 114	152	159, 160	194	209
113	114	153	160, 161	195	210, 211
114	116, 117	154	161, 162	196	211, 212
115	117, 118	155	162, 163	197	212, 213
116	118, 119	156	163, 164	198	213, 214
117	119, 120	159	167, 168	199	214, 215
118	120, 121	160	168, 169	200	216, 217
119	121, 122	161	169	201	217, 218
120	122, 123	162	170, 171	202	218, 219
121	124, 125	163	171, 172	203	219
122	125, 126	164	172, 173	204	220, 221
123	126, 127	165	173, 174	205	221, 222
124	127, 128	166	174, 175	206	222, 223
125	128, 129	167	176, 177	207	223, 224
126	129, 130	168	177, 178	208	224, 225
127	130, 131	169	178, 179	211	229, 230
128	131, 132	170	179, 180	212	230, 231
131	135, 136	171	180	213	231, 232
132	136, 137	172	182, 183	214	232, 233
133	137, 138	173	183, 184	215	233, 234
134	138, 139	174	184	216	235, 236
135	140, 141	177	189, 190	217	236, 237
136	141, 142	178	190, 191	218	237, 238
137	142, 143	179	191, 192	219	238
138	143, 144	180	192	220	239, 240
139	144, 145	181	194, 195	221	240, 241
140	145	182	195, 196	222	241, 242
141	147, 148	183	196, 197	223	242
142	148, 149	184	197, 198	224	244, 245
143	149, 150	185	198, 199	225	245, 246
144	150, 151	186	199, 200	226	246, 247
145	151, 152	187	201, 202	227	247, 248
146	152, 153	188	202, 203	228	248, 249
147	153, 154	189	203, 204	231	253, 254
148	155, 156	190	205, 206	232	254, 255

英和頁对照表—2

# 英和頁対照表

E・G・ホワイトの全著書に対して、英文のインデックスが発行されていますので、そのインデックスを使用して本書から引用された  
いかた、および、英文原著を対照、または引用なさりたいかたのた  
めに、原著ページとの対照表を作成しました。

原著	本 書	原著	本 書	原著	本 書
15	3, 4	48	42, 43	79	77, 78
16	4, 5	49	43, 44	80	78, 79
17	5, 6	50	45, 46	81	79, 80
18	6, 7	51	46, 47	82	80
19	7, 8	52	47, 48	83	81, 82
20	8	53	48, 49	84	82, 83
21	10, 11	54	49	85	83, 84
22	11, 12	55	51, 52	86	84
23	12, 13	56	52, 53	87	85, 86
24	13	57	53, 54	88	86, 87
25	15, 16	58	54, 55	89	87, 88
26	16, 17	59	55, 56	90	88, 89
27	17, 18	60	56	91	89, 90
28	18	61	57, 58	92	90, 91
31	23, 24	62	58, 59	93	91
32	24, 25	63	59, 60	94	92, 93
33	25, 26	64	60, 61	95	93, 94
34	26	65	61, 62	96	94, 95
35	28, 29	66	62, 63	99	99, 100
36	29, 30	67	63, 64	100	100, 101
37	30, 31	68	64, 65	101	101, 102
38	31, 32	69	66	102	102, 103
39	32	70	67, 68	103	103, 104
43	37, 38	71	68, 69	104	104
44	38, 39	72	69, 70	105	106, 107
45	39, 40	73	70, 71	106	107, 108
46	40, 41	74	71, 72	107	108, 109
47	41, 42	75	72	108	109, 110

# アドベンチスト・ホーム

転載  
複製を禁ず

---

1968年1月23日発行

●著 者 イー・ジー・ホワイト

●発 行 者 横浜市保土ヶ谷区上川井町1966番地 斎 藤 孝

●印刷・制本 横浜市保土ヶ谷区上川井町1966番地 福 音 社 工 場

代表者 前 畑 忠

●発行所 横浜市保土ヶ谷区上川井町1966番地 福 音 社

電 話 (951) 1385番・振替横浜599番

●発売所 横浜市保土ヶ谷区上川井町846健康と品性向上協会本部

代表者P・L・ジェンセン

---

(落丁、乱丁がありましたら、お取り替えいたします)

PRINTED IN JAPAN